

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第164集

NI NO MIYA MIYA HIGASHI
二之宮宮東遺跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

〈本文編〉

1994

建設省
群馬県教育委員会
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

寄贈

群馬県
様

8. 10. -9

2/

二之宮宮東遺跡 正誤表

下記の誤りがありましたので、ご訂正の上お使い下さい。

箇 所	誤	正
P. 12 番号説明	なし	1 無量寿寺
同上	なし	2 江竜沼
同上	なし	3 二之宮赤城神社
同上	なし	4 あづま道
同上	なし	5 女堀
同上	なし	6 伊勢崎大胡道
P. 227 9行目	33点	35点
同上	依存度	遺存度
P. 230 15行目	7. 加工痕のある	6-1. 加工痕のある
19行目	8. 使用痕のある	6-2. 使用痕のある
22行目	9. 磨石類	7. 磨石類
28行目	凹凸み	凹み
P. 240 5号釈文	□?塔	□寔塔
同上	三?三	三統三
P. 241 9号釈文	施主?言	施主歟言
P. 244 6行目	「?」(23=2042)	「○」(23=2042)
同上	「?」(28=2153)	「ㄣ」(28=2153)
7行目	「?」(18=1858)	「凧」(18=1858)
同上	「?」(25=2085)	「凧」(25=2085)
11行目	「?」(27=2105)	「凧」(27=2105)
註(5)2行目	七福即生	削除
註(5)3行目	蘇民将来子孫家門」七難即滅	蘇民 ^{七福即生} 将来子孫家門」 _{七難即滅}
註(12)3行目	「?」	「凧」
註(12)4行目	「?」	「凧」
P. 245 18釈文	「?」	「凧」
23釈文	「?カ」	「○カ」
25釈文	「?」	「凧」
27釈文	「?」	「凧」
28釈文	「?」	「ㄣ」
30釈文	「?」	「凧」
P. 284 1867～69	(時代欄) 里笹	(時代欄) 黒笹

<div style="font-size: 2em; font-weight: bold; color: red;">料</div>	(財)群馬県埋蔵文化財	01-330
	調査事業団保管	23
98-4470	平成10年5月13日	1(7)

NI NO MIYA MIYA HIGASHI
二之宮宮東遺跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

〈本文編〉

1994

建設省
群馬県教育委員会
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

埼玉県深谷市と本県の前橋市を結ぶ一般国道17号線のバイパスである上武道路は、前橋市今井町の国道50号線までの区間が開通・供用されており、通過市町村の産業経済の発展に大きく貢献しています。

上武道路の通過する地域は、本県でも有数の埋蔵文化財が分布しています。このため、道路建設工事に先立って埋蔵文化財の記録を後世に残すための発掘調査が昭和48年度より群馬県教育委員会及び当事業団により行われています。

本書は、昭和60年11月より61年10月にかけて発掘調査をしました前橋市二之宮町所在の古代から近世にかけての複合遺跡である二之宮宮東遺跡の報告書です。近世の富士塚、蘇民将来符、庚申塔等近世民間信仰を知る上での貴重な資料が報告されています。

発掘調査から報告書作成に至るまで、建設省関東地方建設局、同高崎工事事務所、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、地元関係者等から種々、ご指導ご協力を賜りました。今回、報告書を上梓するに際し、これら関係者の皆様に衷心より感謝の意を表し、併せて、本報告書が群馬県の歴史を解明する上で、広く活用されることを願い序とします。

平成6年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 小寺 弘之

例言

1 本報告書は、一般国道17号（上武道路）改築工事に伴い事前調査した事業名称「JK32・33二之宮宮東遺跡」の発掘調査報告書である。

- 2 遺跡所在地 群馬県前橋市二之宮町川東地区
3 事業主体 建設省関東地方建設局高崎工事事務所
4 調査主体 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
5 調査期間 昭和60(1985)年11月1日～61(1986)年10月31日
6 調査組織 調査 昭和60年度 桜場一寿・坂井 隆・山口逸弘
昭和61年度 藤巻幸男・大西雅広・中山純一（A調査）
大木紳一郎・飯塚 誠・坂井 隆・山口逸弘・金井 武
（B調査）

事務 白石保三郎・梅沢重昭・井上唯雄・大沢秋良・松本浩一・上原啓巳
秋池 武・定方隆史・国定 均・笠原秀樹・須田朋子・吉田有光
柳岡良宏・水口九思

調査作業員 青木秀邦・青木芳子・秋間キヨ子・阿部利一・荒牧 章・石川典子・磯部ヤス・板垣てる子・
板垣利平治・井上とも江・井上ふく代・卯野やす子・遠藤キヌ江・大島 博・大山貞一・
岡田やす・岡野きみ子・織間芳雄・川井美代・川田佳子・川端いくの・川端キヨ子・川和久子・
神沢梅子・神沢シモ・神沢芳子・神沢利江・菊池ミキ・木暮吾一・北爪ヒデア子・木村公子・
木村唯雄・木村とよ・喜楽トヨ・国定 勇・久保田ひろみ・栗原増雄・小坂橋きみよ・
高坂ちまの・小暮巻太・木暮近雄・小沼あき・小沼里子・小林栄輔・小鮎きみ江・近藤きよし・
近藤 貴・斉藤秋子・斉藤たけ・桜井健作・重田夏子・清水亨子・下境すえ・須賀サイ子・
鈴木しげ子・鈴木まき江・鈴木ヨシエ・須藤あ喜子・須藤よしの・高橋友子・滝川律子・
田中すみ子・田中高志・田中幹子・田部井ケイ・田部井正子・塚田より・富田祐登・長岡 武・
奈良芳子・新野見茂雄・羽鳥愛子・羽鳥かつ江・羽鳥ふみ子・羽鳥正代・羽鳥八重子・浜岡仁一・
早川フサ子・原田房子・平野智子・広瀬正子・福田たみ子・福田春江・古郡恒信・細谷友江・
堀越ふみ江・松井きくの・松井千代枝・松井りょう・馬見新基・黛 幹江・水科瀬太郎・
宮本サトノ・森村伊勢雄・八木原きぬ子・吉沢美枝子・吉田さだ子・吉田ツヤ子・吉原君子

- 7 整理主体 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
8 整理期間 平成4(1992)年4月1日～5(1993)年3月31日
9 整理組織 整理 坂井 隆
鈴木幹子
宇佐美征子・下境マサ江・高田栄子・高橋順子・田村栄子・細井敏子
(五十音順)

事務 邊見長雄・近藤 功・佐藤 勉・神保侑史・能登 健・斎藤俊一
国定 均・笠原秀樹・須田朋子・柳岡良宏・船津 茂・高橋定義
松下 登・吉田恵子・角田みづほ・松井美智代・塩浦ひろみ
遺物写真 佐藤元彦 保存処理 関 邦一・小材浩一・土橋まり子

10 本書の編集及び非署名分の執筆は、坂井 隆が行った。

11 発掘調査に際しては、前橋市教育委員会と地元二之宮町の方々より多大なご援助を頂いた。また整理作業を含めご協力頂いた方々を下記に記し、感謝の意としたい。(敬称略)

山崎 一 大橋康二 仲野泰裕 飯島静男 角田佳一 無量寿寺
嶋谷和彦 倉沢正幸 嶋村英之 小久保啓一 宮田進一 (順不同)

報告書抄録

フリガナ	ニノミヤミヤヒガシイセキ
書名	二之宮宮東遺跡
副書名	一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘報告
シリーズ番号	第164集
編著者名	坂井 隆・山口逸弘・山崎 一・高島英之他
編集機関	〒377（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
編集機関所在地	群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784-2
発行年	1994年3月27日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ニノミヤミヤヒガシイセキ 二之宮宮東	マエハシニノミヤマチ 前橋市二之宮町	10201		362145	1391020	19851101- 19861031	30,000	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
二之宮宮東	居住	近世・近代	掘立柱建物	26	初期伊万里片	寺院に伴う屋敷地	
			井戸	54	呉須手染付片 蘇民将来符		
	生産 寺院	中世	畠	36	人名連記祭礼札		山岳信仰地 庭園・灌漑池
			富士塚	1	庚申塔・五輪塔		
			池	1	杭型塔婆		
	墓	中世	墓	1			
			居住	中世	堀	4	
	居住 生産	古代	礎石建物	1		池	
			庭園	2	竜泉窯青磁・白磁片		
			井戸	4	五輪塔		
			堅穴住居	23	緑釉陶器		
			小鍛冶	2			
	水路	古代	水路	33		灌漑水路	
水田			2	二彩陶器			

目次

序 P.3

例言 P.4

I 遺跡と調査の概要	P.7
1 調査経過と成果概要	P.8
2 遺跡の立地環境	P.9
3 調査方法	P.10
4 凡例	P.10
II 調査成果	P.15
1 西側部分	P.16
西側部分全体図	P.17
中央部分全体図	P.111
2 中央部分	P.113
東側部分全体図	P.165
3 東側部分	P.167
4 歴史時代遺構外出土遺物	P.220
5 縄文時代遺物	P.227
III まとめ	P.233
1 二之宮環濠遺構群 (故)山崎 一	P.234
2 二之宮宮東遺跡出土の文字資料 高島英之	P.238
3 陶磁器胎土・鉄滓分析 井上 巖他	P.246
4 土坑D124号遺構出土馬歯について 宮崎重雄	P.254
5 プラント・オパール分析報告 古環境研究所	P.255
6 古代から近世への土地利用	P.256
7 庚申信仰を中心とする信仰資料	P.262
IV 資料	P.267
1 遺構一覧表	P.268
2 遺物一覧表	P.274
3 遺物検索表	P.299
写真 (別冊)	
原色図版	PL.1
単色図版	PL.17

I 遺跡と調査の概要

I 遺跡と調査の概要

1 調査経過と成果概要

A 調査に至る経過

一般国道17号の混雑緩和のための大規模バイパスとして計画された上武道路は、埼玉県深谷市を起点として利根川を渡河して群馬県に入り、伊勢崎市東方・前橋市北東方を迂回して前橋市北部に至る全長41.4kmの道路である。

群馬県教育委員会は、昭和45年度に計画路線を中心に幅2kmの区域の埋蔵文化財の分布調査を実施した。その結果、昭和48年度には事業主体の建設省と県教育委員会は、埋蔵文化財の事前調査についての協定書を締結し、以後国道50号との交差点点までの発掘調査が昭和63年度まで行われた。

発掘調査は、昭和53年度以後は（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団が県教育委員会より引き継ぎ、整理事業と共に実施してきている。

B 調査経過

本遺跡は、上記協定書による32及び33番の遺跡であり、発掘調査は昭和60(1985)年11月1日より翌年10月31日まで1年間行われた。

調査は、2年度にまたがったが、面積が3万平米と広域であったため、次のように異なった体制で行った。

昭和60年度

湧水処理を主な理由として、県道伊勢崎・大胡線から筑波山前まで区域（本報告の中央部分と東側部分西半）の調査を1個調査班で実施した。そのうち、東側部分西半では近世の畠跡と古代水路の2面の調査となった。

湧水期の調査ではあったが、検出遺構の大部分は筑波山前の大池を初めとして、いずれも湧水が激しく、常に排水の工夫が調査の最優先項目となった。人名連記板あるいは庚申塔などの石塔類を中心とする大量の遺物を検出したこの大池の調査は、近世の低湿地の調査としては群馬県地域で初めての本格的なものであった。

厳寒期に氷を割りながらの調査は決して楽なものではなかったが、多彩な遺物と並んで長さ80m以上幅20m深さ32m近くの巨大な池の検出過程は、少なからず驚きの連続であった。

その過程で従来、終末期の方形墳と考えられていた筑波山が、そのままの形では古墳たりえないことが判明し、その成果を現地説明会で地元住民に報告した。説明会は61年3月15・16日に行ったが、約900人の見学者があった。

昭和61年度

調査期間の短縮のため、筑波山以西（本報告の西側部分）と県道伊勢崎・大胡線以東（同東側部分の東半）の2個調査班体制で併行した。また前年度の調査区域の中の既存道路下について一部確認調査を行った。

西側の調査では、複雑に走る中世の堀そしてその間に展開する近世の屋敷跡が主な検出遺構となった。特に50本以上の大量の井戸の検出と堀底の調査は、引き続き水との戦いであった。重複のため屋敷地遺構群として理解しにくいこともあって、少なからず遺構と出土遺物の関係が混乱したこともあった。

東側の調査は、東端の江竜川の古代の旧流路がいくつも検出され、またそれに伴う水路が複雑に見られた。ここでは同じ古代の中で最大3面の調査となり、調査事務所用地を調査範囲内にしか確保できなかったため、面的な遺構の整合関係が必ずしもはっきりとは捉えにくかった。西側と異なって、検出遺構の大部分は古代であり、同一遺跡の中での差が明瞭となった。

なお、本調査範囲に隣接する筑波山の平面実測を、前橋市教育委員会からの委託を受けて実施した。

2 遺跡の立地環境 (P.11~14図参照)

A 地理的環境

本遺跡は、赤城山南麓を南流する荒砥川と神沢川にはさまれた扇状地地形の末端付近に位置する。海拔高度は約90mで、この扇状地地形の中位の荒子沼から流れる小河川の江竜川と無名川に東西を限られる。

現状は微高地地形を呈するが、最新世の土層は不安定な状態を示しており、ローム層の堆積は認められず、現地表の4m下の硬質粘土層の上に堆積した砂層そして黄褐色シルト質土層が基盤となっている。この砂層とシルト質土層が、豊富な扇状地伏流水の流路となっており、比較的容易に汲み上げることができる。

周辺は調査直前には、広大な水田地帯になっていたが、そのような景観は基本的には戦後のほ場整備により形成されたもので、それ以前は畠地が多かった。

B 歴史的環境

近世・近代・中世

明治初年の地図によれば、二之宮は伊勢崎と大胡の間を結ぶ南北方向の道路とあづま道と呼ばれる東西方向の道路の交点近くに位置している。あづま道の西の前橋そして伊勢崎は城下町であった。また大胡も近世初期には城下町であった。近世には基本的に前橋藩領であったが、大胡・伊勢崎両藩また幕府領としての支配も複雑に経験している。

明治11年の『上野国郡村誌』の記載によれば、木綿・桑の栽培に適し、水の豊富な田が少ないため、白綿布を最大の産物としている。また、天明2(1782)年の井田文書によれば、二之宮村の人口は家数271戸、男556人、女498人、馬50匹である。

無名川の西側で本調査地から300m北西に、村名の由来である二之宮赤城神社が鎮座する。もともと裾野の広い赤城山の麓の各地には同名の神社が多数存在するが、最も参詣者の多い三夜沢の赤城神社(勢多郡宮城村)の里宮としての関係が、いくつかの神事として二之宮に残っている。赤城山最高峰の黒松山と三夜沢そして二之宮は一直線上に並んでいる。

二之宮の呼称は中世初期に登場する。13世紀末には成立していた『上野国神名帳』には、二之宮との表現が見られ、また14世紀の説話集である『神道集』にも、赤城信仰の中で名が現れている。境内地にある多宝塔の一種である赤城塔など、中世の繁栄を示す遺物も見られる。しかし、神官として存在していた二之宮氏の活動も含めて、その他の文書類の残存が極めて少なく、状況は明瞭ではない。

しかし、神社の北隣には、中世の最大の東西交通路であった前述のあづま道が走っている。また村の北には12世紀初頭の掘削である大規模な水路女堀が見られる。さらに本遺跡と無名川をはさんだ対岸の二之宮宮下東遺跡また二之宮宮下西遺跡さらに北東の江竜沼など、中世居館の跡はかなり多く検出されている。特に宮下東では11,12世紀を中心として関東北部ではかなりまとまった規模での中国陶磁片が発見されていることは、重要である。

また本調査範囲の北に接する真言宗豊山派の無量寿寺は、元禄年間に幕府権力との近い関係の中で再建されたと言われており、今回の調査と直接に関係している。

古代以前

二之宮赤城神社の成立が古代まで遡る可能性は極めて高いが、資料として確実なものは、これまで考古・文献共に知られていない。しかし、本遺跡から西に約1km離れた、二之宮村の西端で宮川右岸に位置する二之宮洗橋遺跡では、「芳郷」を記した9世紀の墨書土器が数点発見されている。勢多郡の郷については和名抄に「芳賀郷」が見られるため、当時の二之宮が芳賀郷であったことは、ほぼ間違いないだろう。

二之宮宮下東遺跡とその約500m西の二之宮千束遺跡では、古墳時代の木製品がまとまって出土しており、古墳時代から集落が広く展開していた。ただ確実な古墳は、二之宮ではまだ未検出である。

3 調査方法

調査範囲は次のように区分し、それぞれ調査方法を異にした。

西側部分（字十二天及び六反）	1面調査
中央部分（字宮東及び六反）	1面調査
東側部分（字六反及び江竜）	2～3面調査

近世畠跡面と浅間B軽石上下面

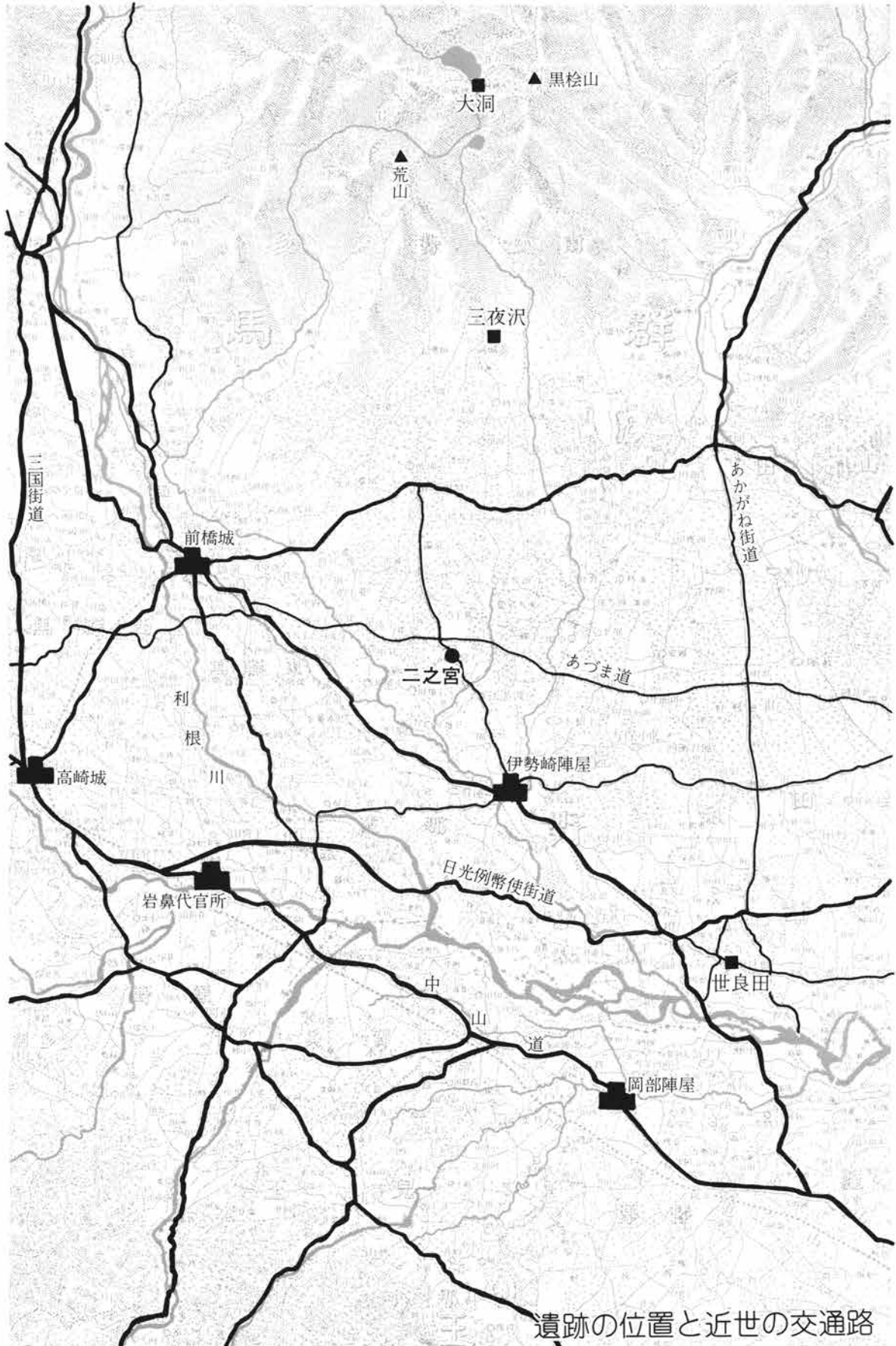
基本層序と概略的な深さは、次のとおりである。

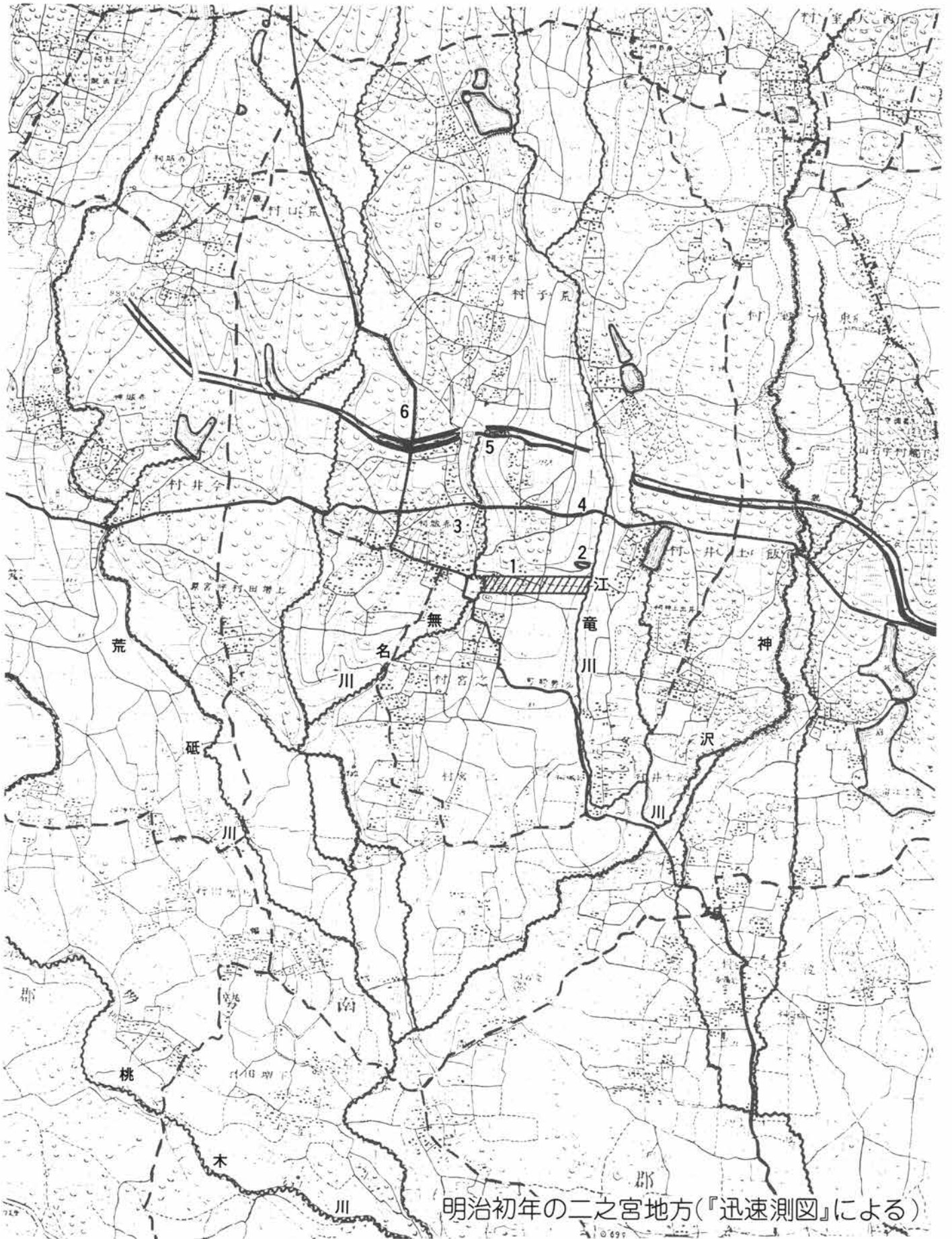
1 現水田・畠耕作土	-0～0.2m
2 褐色砂質土	-0.2～0.4m
3 浅間B軽石・灰	-0.5～0.6m
4 黒褐色粘質土 浅間C軽石混入	-0.6～0.8m
5 黄褐色シルト質土	-0.9～3.5m
6 砂	-3.5～4.0m
7 硬質粘土	-4.0m

以上のうち、3・4層は東側部分のみにしか見られなかった。1層の掘削には土木機械を用いて、調査可能単位ごとに廃土した。

4 凡例

- I 遺跡
- 名称は中央部分の字名によった。地元二之宮町では、本遺跡地を含む無名川の東側全体を川東（かわひがし）地区と呼んでいる。
 - グリッドは、国土座標に併せた10m方眼で、図中の方位は座標北である。
- II 遺構
- 調査時に認定した遺構は全て掲載したが、性格認定や番号付与に混乱があったため次のような種類別略号を付与した番号に変更した。旧番号との対照は遺構一覧表を参照されたい。
D：井戸土坑類(332基) M：堀水路類(102条) J：居住跡類(59基)
N：耕地跡類(41面) X：その他(12基)
 - 以上の他に、表面調査と実測のみを行った筑波山がある。
 - 原則として全て図と写真を掲載した。
- III 遺物
- 取り上げた遺物全体の種類と報告率は次のとおりである。
陶磁器土器類（1000,2000台） 約20%
木器（3000台） 100%
石製品・石器（4000台） 100%
金属器（5000台） 60%
 - 報告遺物は原則として全て図と写真を掲載した。
 - 報告遺物の詳細な記録は、遺物一覧表に記した。また索引として器種別に全ての報告遺物を並べた遺物検索表を掲載した。
 - 報告遺物の中で釉薬のかかった陶磁器については、色調表現に不可欠のため全点原色写真とした。
 - 陶磁器土器の断面図の表現は、次の意味である。
白ヌキ：磁器 斜線：陶器 スミ：土器
 - 鑑定はそれぞれ、陶磁器は大橋康二氏・仲野泰裕氏、石材は飯島静男氏、木器は藤根久氏による。





明治初年の二之宮地方(『迅速測図』による)



峯下

宮後

上ノ坊

東山畑

中里

宮本

宮東

江竜

宮下

二之宮宮下東遺跡

二之宮宮東遺跡

二之宮宮下西遺跡

十天

六反

五分

東中島

新井村

飛地

十四枚

200m

調査範囲と周辺の遺跡

Ⅱ 調査成果

II 調査成果

1 西側部分

《 概要 》 (PL.18)

この部分は、調査範囲西端の無名川際から無量寿寺参道までで、東西220mほど南北は50～60mである。大部分は字十二天（じゅうにてん）に含まれるが、東端の30mほどは一部字六反（ろくたん）にかかる。（次頁の全体図の東側の字六反部分は、P.111の中央部分全体図に参照。）

東端は、無量寿寺旧参道の道路遺構X004が南北に走り、調査範囲にほぼ平行して東西走向の2条の大溝M065、M050が貫くローム質の台地である。北西端の一部は無名川の低地の延長で、水田跡N203になっている。2条の大溝を結ぶ南北溝M064の西側では、古代以前の無名川旧河道と思われる砂質土部分が南北走向で見られたが、それは調査していない。

全体としては、古代から近代までほぼ絶え間なく継続した居住域で、僅かに耕作利用された部分が見られる。検出遺構は次のように多様だが、特に井戸が多いことは注目に値する。

溝類(M)	堀跡	4条
	区画溝	19条
	水路跡	4条
居住(J)	掘立柱建物跡	26箇所
	竪穴住居	9棟
土坑類(D)	方形竪穴	1基
	井戸	38基
	桶埋設土坑	19基
	短冊形土坑	94基
	箱形土坑	23基
	その他	40基
耕作地(N)	畠跡	10箇所
	水田跡	1箇所
その他(X)	道路跡	3条
	墓地	1箇所

なお、以上の中で最も古い遺構である古代の竪穴住居群は、それ以後の遺構にかなり壊されて、残存状態は極めて悪かった。また縄文時代と古墳時代の遺物が少し見られたが、遺構は確認されていない。

報告は、中央部分まで延びる東西堀に関するものを最初に述べ、以後堀M050以南部分、同以北の西側、同東側の順で行う。

堀・水路跡M048, M050, M057, M064～M066, M074, M075遺構

道路跡X001～X004遺構 水田跡N203遺構 (P.19図 PL.5, 6, 19～24)

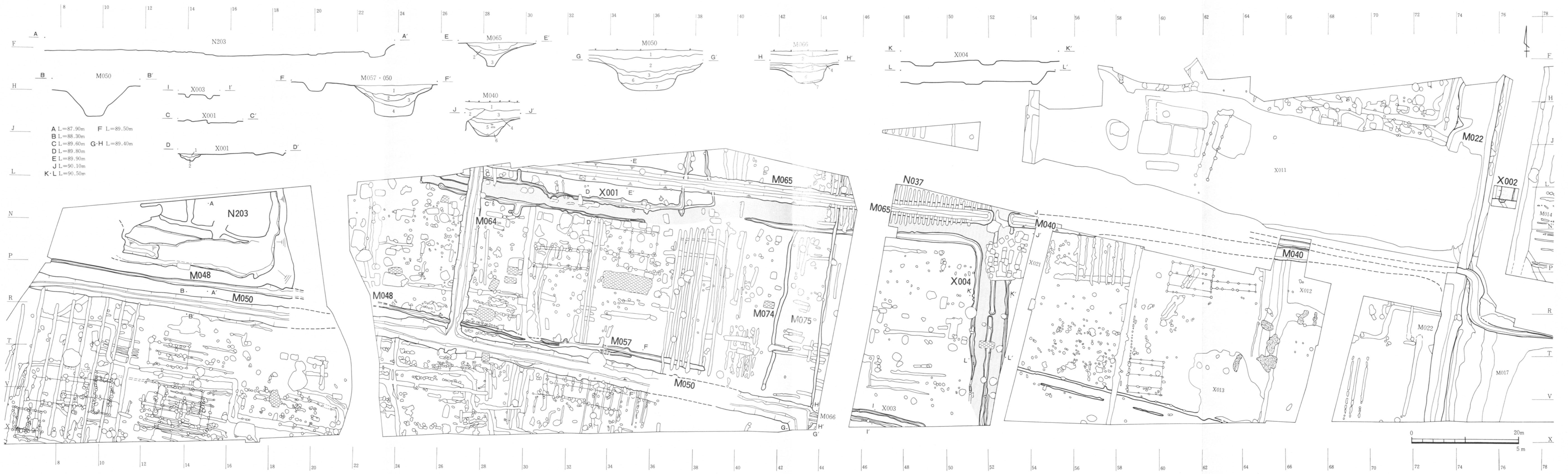
北側の堀跡M065は、東西方向に直線状に延び、上幅は4mで確認された長さは95m深1.3mである。東端で幅3mの土橋を越えてさらに同一走向で東に延びる部分がM040で、これは85m先で南北溝のM022とT字形に交差している。西端は、調査範囲を僅かはずれた位置で南北堀跡M064と交差する。その先の西にさらに延びるかは不明だが、少なくとも195mの直線で走っている。

断面形はV字形と逆八字形で、水流痕がある。また畠跡N037及び中央部分の池跡X011より古い。
E断面 1.暗褐色砂質土 2.砂質土塊含む暗褐色粘質土 3.互層堆積の灰褐色砂泥 J断面 1.耕作土 2.しまりない黒褐色粘質土 (X011埋土) 3.黒褐色砂質土 4.暗褐色砂 5.黒褐色粘質土 6.黒褐色砂

字 天 二 十

西側部分全体図





A L=87.90m
 B L=88.30m
 C L=89.60m
 D L=89.80m
 E L=89.90m
 J L=90.10m
 K L=90.50m
 F L=89.50m
 G-H L=89.40m

堀水路・道路水田跡群

南側の堀跡M050は、東西方向に150m直線状に延びるが、北側の堀との関係は完全な平行ではなく、東側がやや広がっている。そして東端は同一方向に浅い溝M066を分岐しながら、直角に南方向に曲がっている。西端は、そのまま無名川低地に入っている。中央で北直交方向に溝M064を分岐している。最大上幅は5m底幅2m深1.5mを測る。

断面形は東側はU字形、西側は逆八字形で、水流痕がある。D123などの井戸と重複している。F断面 1.暗褐色砂質土 2.淡褐色砂 3.互層堆積の砂と黒色土 4.灰白色粘質土 GH断面 1.耕作土 2.暗褐色砂質土 3.砂含む黒褐色粘質土 4.砂含む暗褐色粘質土 5.黄色軽石含む黒褐色粘質土 6.互層堆積の砂と黒褐色土 7.砂

分岐した溝M066は、上幅2m深1mを測るが、確認範囲が短いため、走向は不明。非調査部分の反対側で検出されなかったため、M050と同様に南へ曲がる可能性もある。断面U字形で水流痕がある。

南北の堀とをつなぐ堀跡M064は、長さ32m上幅3m底幅1mで、断面形は、逆八字形である。東西方向の溝M048や道路跡X001など、この堀より新しい遺構が多い。

水路跡M048とM057は、堀跡M050の北側2mをほぼ平行して走っている。上幅1m底幅0.6m深0.5mほどで、前者は130m後者は50mほどの長さで、その内30mは重なっている。M050との間は傾斜がある場合が多く、積極的に道路跡とは考えにくい。両者はM050に規制された同一の区画溝だろう。

東西方向の道路跡X001は、北堀の南側に沿って110m確認された。西半分は両側に側溝があり、側溝間は1~1.5mほどである。中央で北側溝は北に曲がり、東側では南側溝のみが堀に平行する。この東側は1~2mほどの幅となり、土橋からの南北道路跡X004と交差する。以上のように形状の異なる東西両半分の中央では、北にさらに道路が分岐することは間違いないが、不明瞭である。

西側の側溝での遺物出土が多い。堀跡M064より新しく、畝跡N037より古い。なお北堀跡に平行して土橋よりさらに東に延びる痕跡はない。北側溝断面 1.暗褐色砂質土 2.ローム塊含む黒褐色砂質土

南北方向の道路跡X004は、北堀跡の土橋よりまっすぐ南下している。同一走向で上幅0.6~1mの側溝が3本見られる。そのため路面は東西両側になるが、幅は共に2m前後である。ただし最も西側の側溝は調査範囲の南側では、不明瞭になる。

土橋よりそのまま南下しているのは、東側の路面である。しかし土橋のすぐ南で墓地跡X021に壊されている。また東側溝は北大溝に少し切られた状態である。一方、西側の路面は、西側溝が東西方向の道路跡X001の南側溝の続きである。

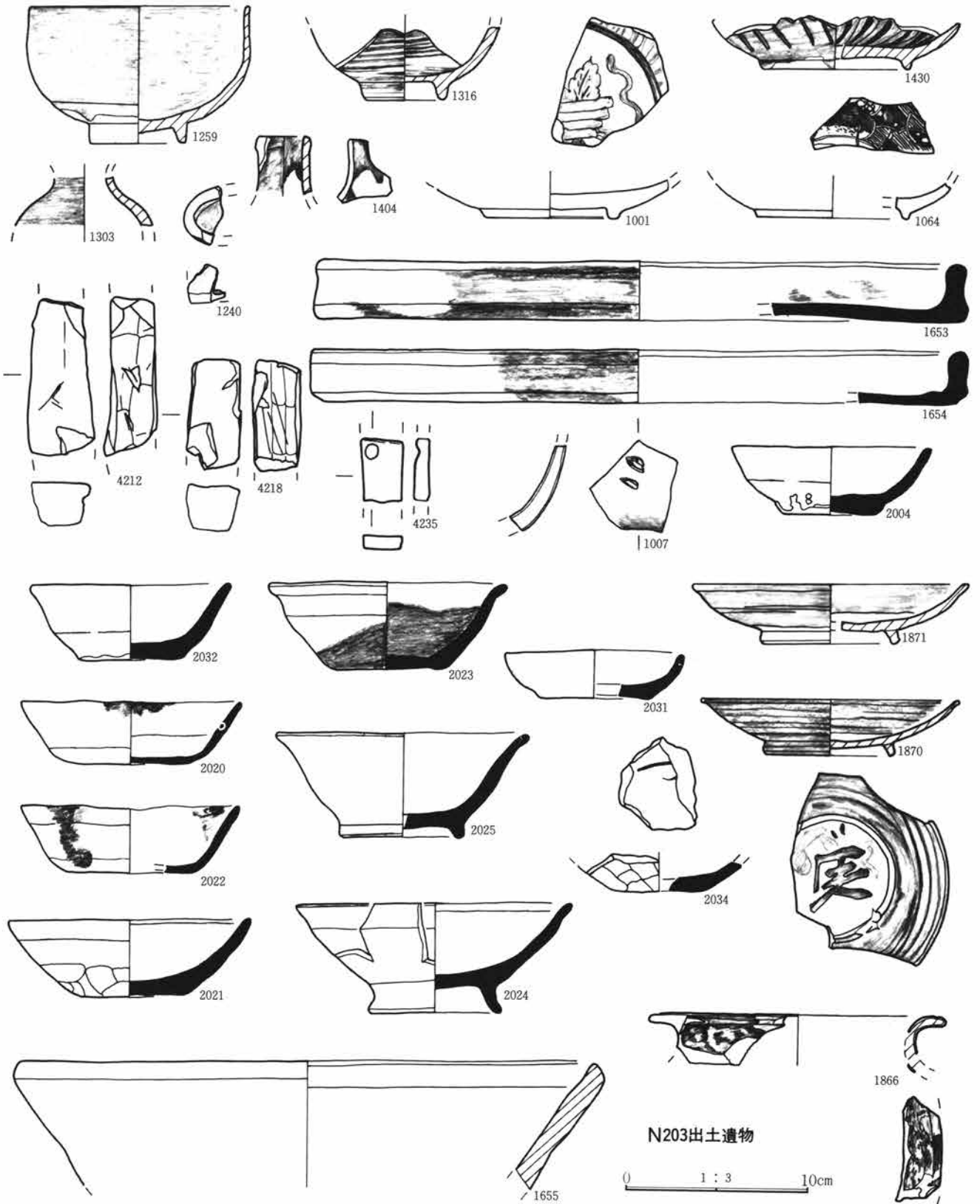
以上をまとめれば、東路面が最も古くからあり、それに規制されて北堀の土橋が掘り残される。その後、土橋を少し避ける状態で墓地が形成されたため、西路面に移動した。またそれは東西道路の造成と同一のできごとでもあった、となる。なお東路面を北にそのまま向かえば、120mほどで無量寿寺の山門に至る。

南側の道路跡X003は、幅1.0m以下の小道だが、両側に側溝がある。僅かに15mほどの検出であるため不明瞭だが、そのまま延びれば西側は南堀跡の屈曲部に東側は南北道路X004と交差する。

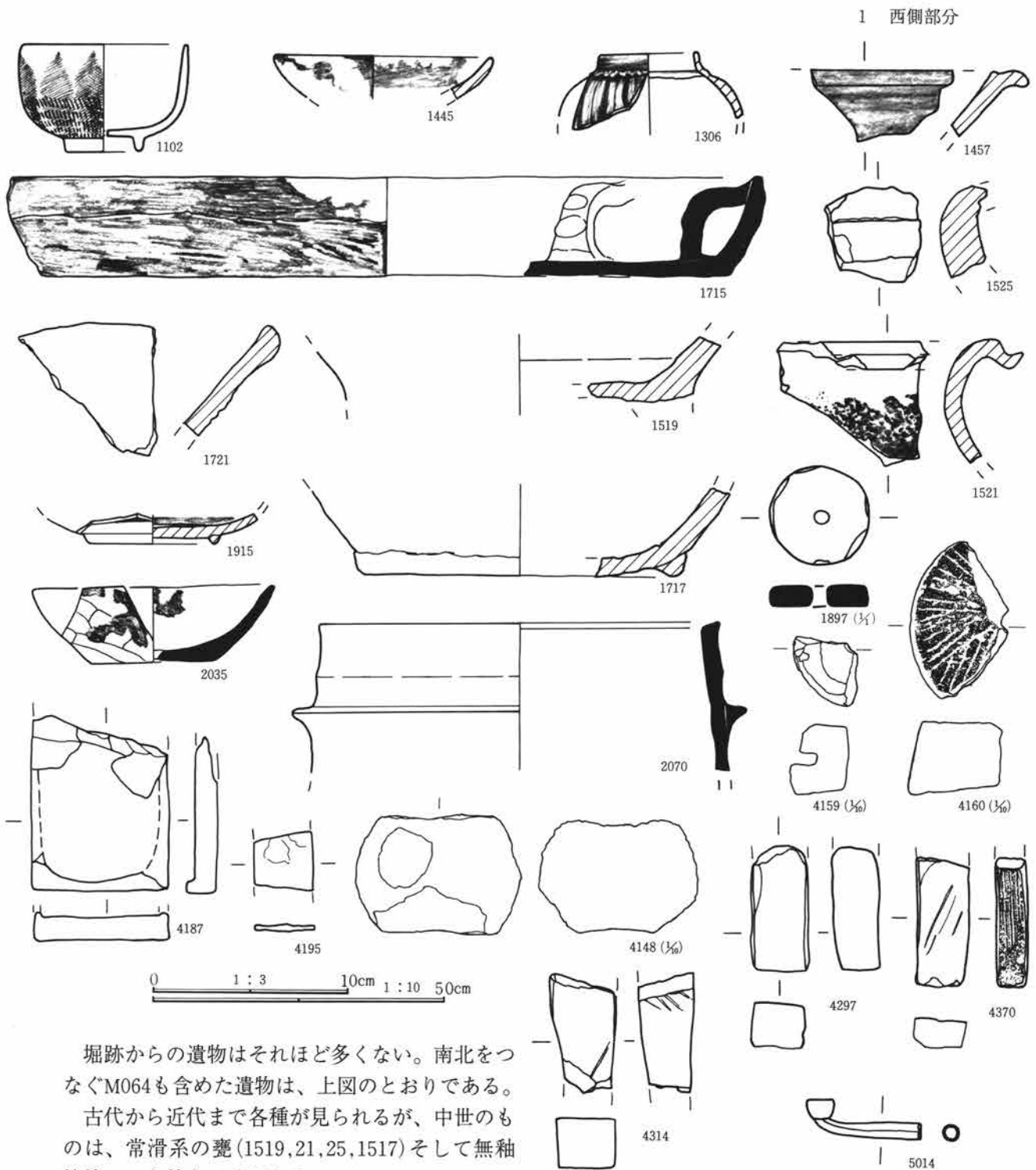
南堀跡屈曲部より北に区画溝M075が延び、さらにその西8mほどでやや蛇行して溝M071が同様に走っている。前者は道路跡X001と重なっているが、関係は不明。

南堀跡の西端側で水路跡M048のさらに北側が、無名川低地の延長である水田跡N203である。浅間山B軽石を塊状に含む砂層下に東西1条南北2条の畦畔状の高まりが確認された。しかし性格不明の掘り込みがいくつもあり、水田面としての検出状態は、非常に悪く、まとまった1枚の単位区画は不明。むしろ上記層の直上の褐色粘質土中に大量の遺物が見られた。

II 調査成果



水田跡N203からの出土遺物は上図のとおりである。古代から近代まで多様であるが、注目されるのは近世では初期伊万里輪花皿(1001)、中世では竜泉窯系青磁碗(1007)、古代では「庚」字墨書灰釉皿(1870)そして二彩瓶(1866)である。特に1870の墨書がいつなされたかは、興味深い。1866は、緑と白の薄い釉で8世紀代と考えられるが、同時期の遺物は他には当遺跡全体でも見られない。



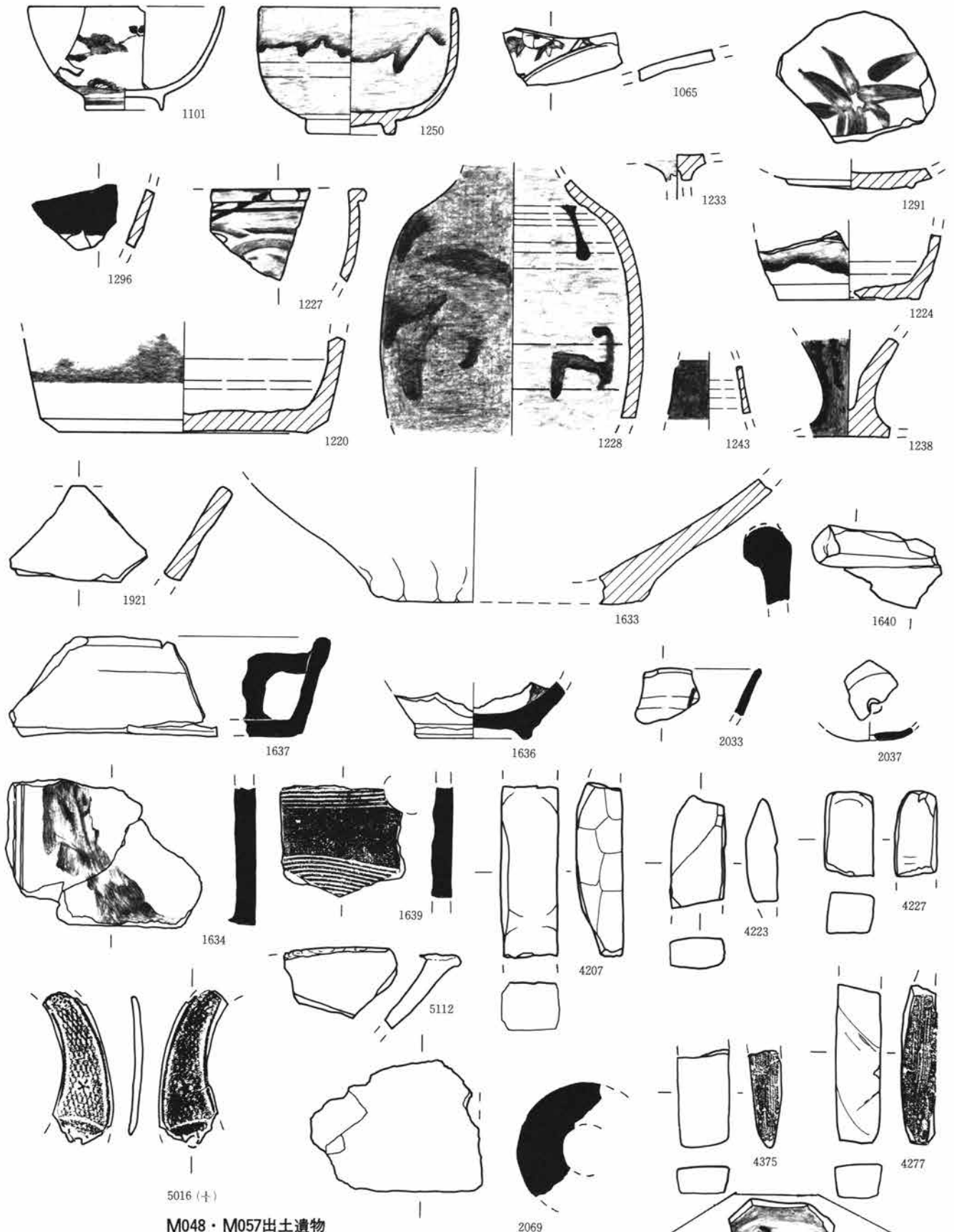
M040・M050・M064・M065出土遺物

堀跡からの遺物はそれほど多くない。南北をつなぐM064も含めた遺物は、上図のとおりである。古代から近代まで各種が見られるが、中世のものは、常滑系の甕(1519,21,25,1517)そして無釉焼締のコネ鉢(1721)がある。

このうちM064から出土した甕の口縁部は、13世紀の特徴を持っており、とりあえず堀跡の造成時期を示していると考えたい。

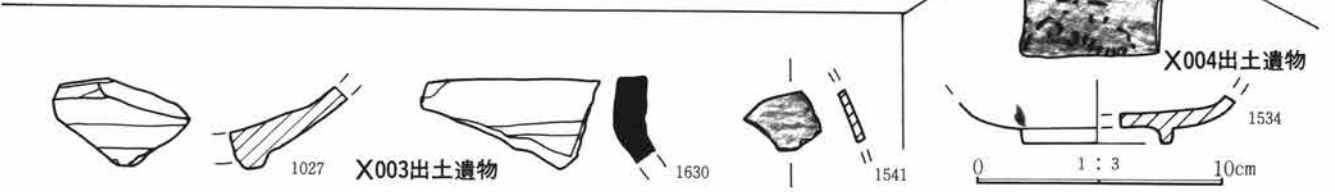
なお近世の遺物では、大小の硯(4187,95)が興味深い。後者はM065から出土。M064が中世の遺物しかないに対し、南北の堀跡は共に近世の遺物を多く含んでいる。両者がかなり遅くまで水路として機能していたことを示しているのだろう。

南大堀に平行する区画溝M048とM057からやや多くの遺物が見られた。(P.24)陶磁器類は、近世が中心で18世紀中頃のものが多く、遺構使用年代と思われる。それより古いものでは、福建広東系の呉須手青花皿片(1065)が特筆に値する。1580年代～17世紀前半のもので、出土位置はM064(続P.25)

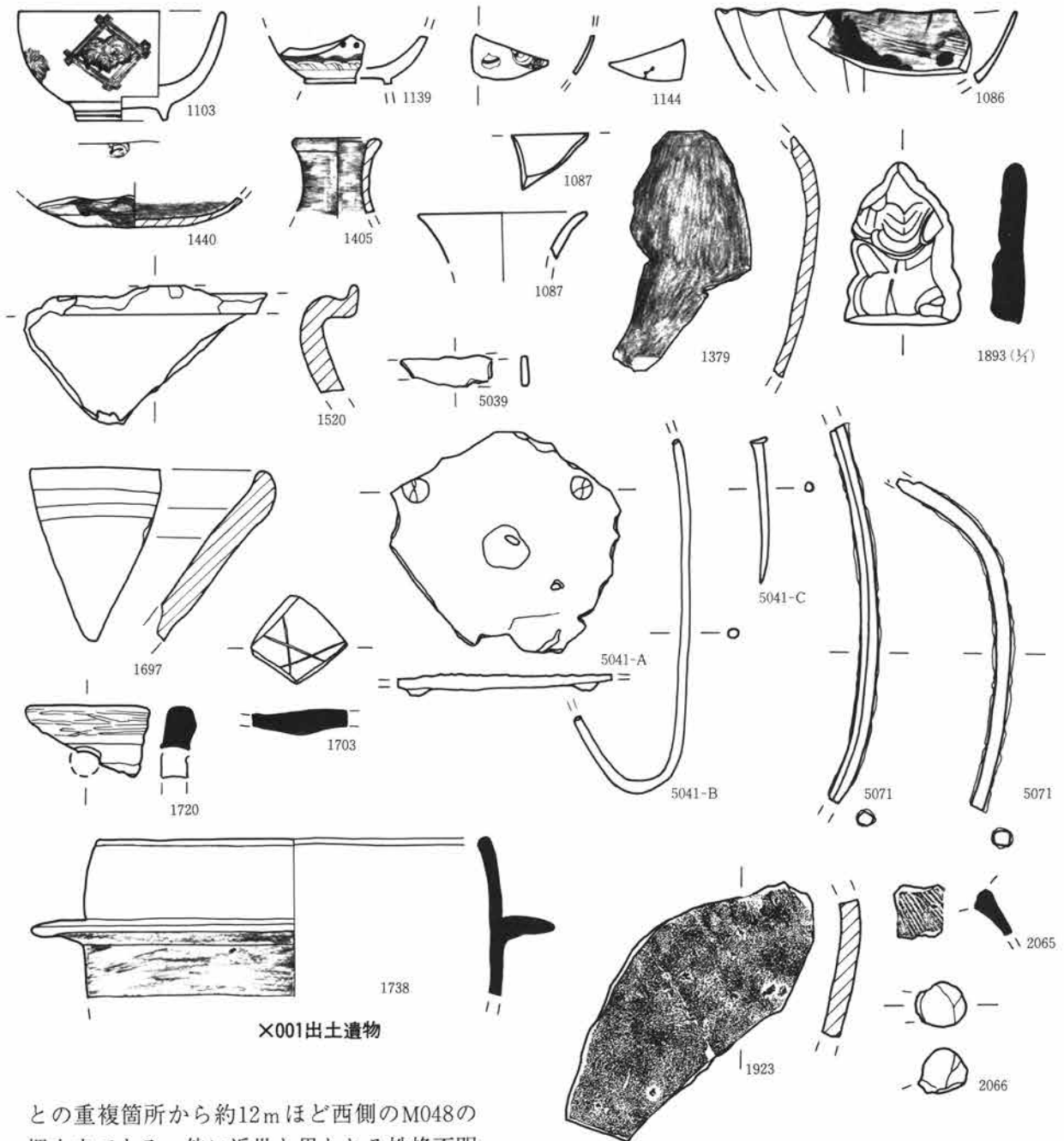


M048 · M057出土遺物

X004出土遺物



1 西側部分



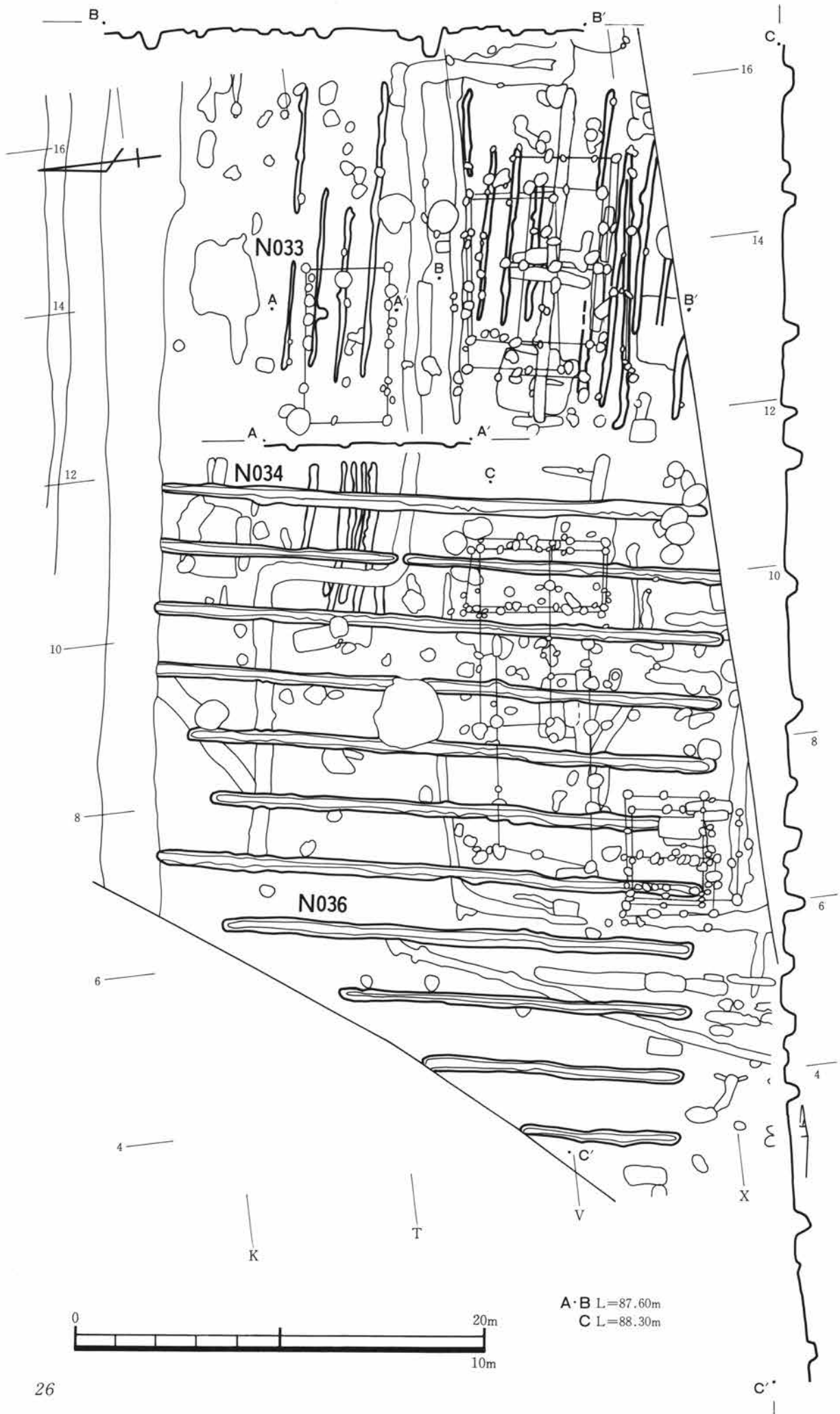
との重複箇所から約12mほど西側のM048の埋土中である。他に近世と思われる性格不明の銅製品片(5016)は、湾曲した偏平なもので両面に網目と星形が鑄造されている。中世の焼締陶器類(1633,1921)と古代土器が混在していたが、土師器碗片(2033)には不明墨書が見られた。

道路跡X003の側溝からは、近世後半の瀬戸美濃系灰釉鉢(P.21-1027)と京焼系灰釉碗(1541)が出土した。道路跡X004の側溝からは、18世紀前半から中頃の瀬戸美濃摺絵皿(P.24-1534)が出ている。

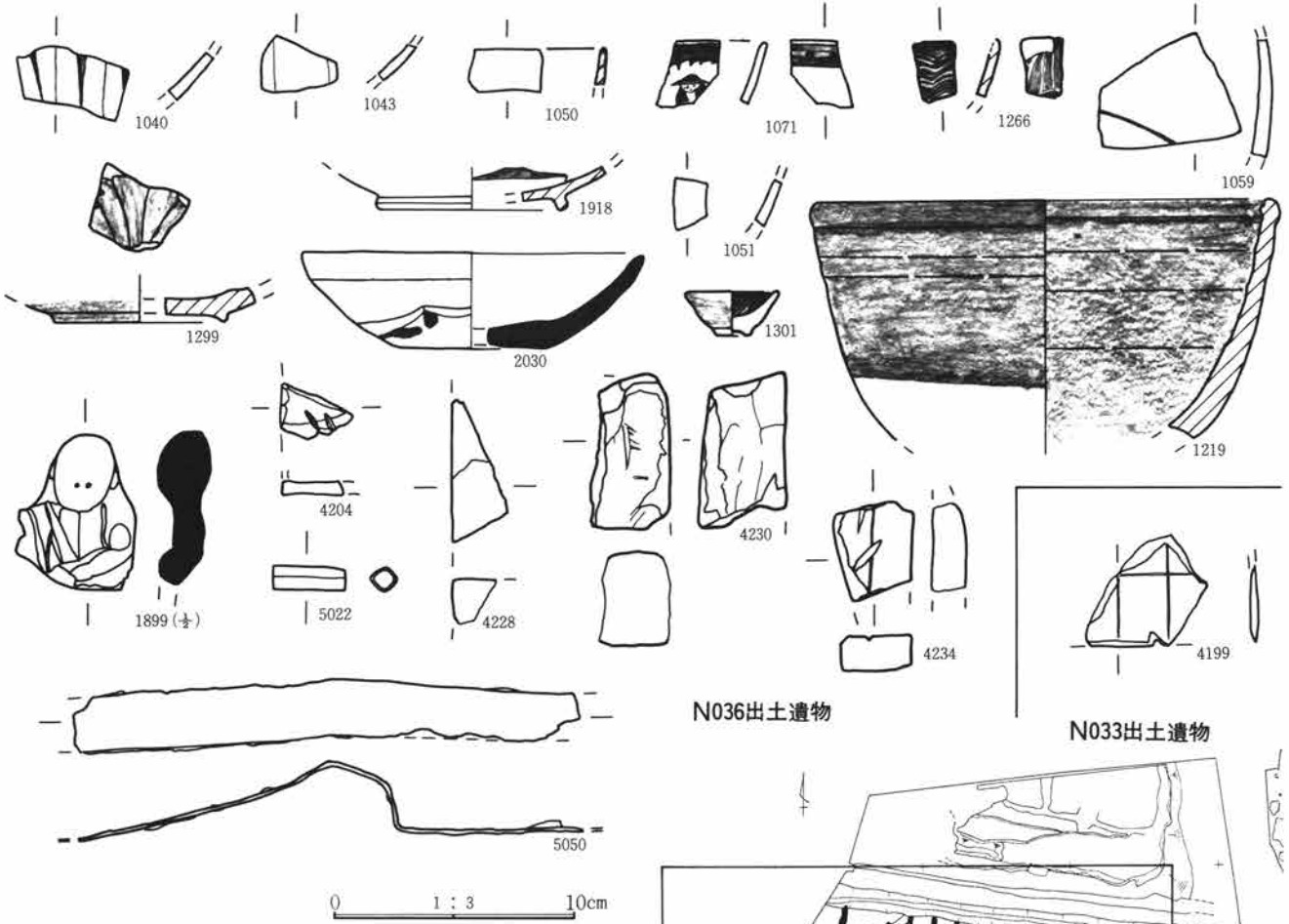
道路跡X001の側溝出土遺物は、上図のように多彩である。陶磁器は、18,19世紀のものが多い。三河高浜土器釜(1738)は、鐙の上面から内面にかけて赤色の光沢塗彩が施されている。泥人形(1893)は、仏像のようなものである。主とした使用時期は、この18,19世紀の頃であろう。

中世の焼締陶器も13世紀の常滑の甕口縁片(1520)など計3点が見られる。古代の土師器片(1703)には線刻がある。また古墳時代前期の土師器片(2065)も混じっていた。

この遺構は道路跡としては遺物が多いが、南側に居住域が接していたためと思われる。



1 西側部分



畠跡N033, N034, N036遺構(PL.18)

最西端の無名川低地に接する台地部で、南堀跡X050の南側で、共に接して検出された。両者は重複遺構のいずれよりも新しい。

西側のN036は、南北走向でサクは整然としており、上幅0.5~7m間隔2.1~2.3mで、掘り込みは0.3m以上と深い。耕作地単位は、東西31m南北28mで、長方形とすれば面積868㎡以上である。ただし北西側は低地に接しているため、五角形の可能性もある。

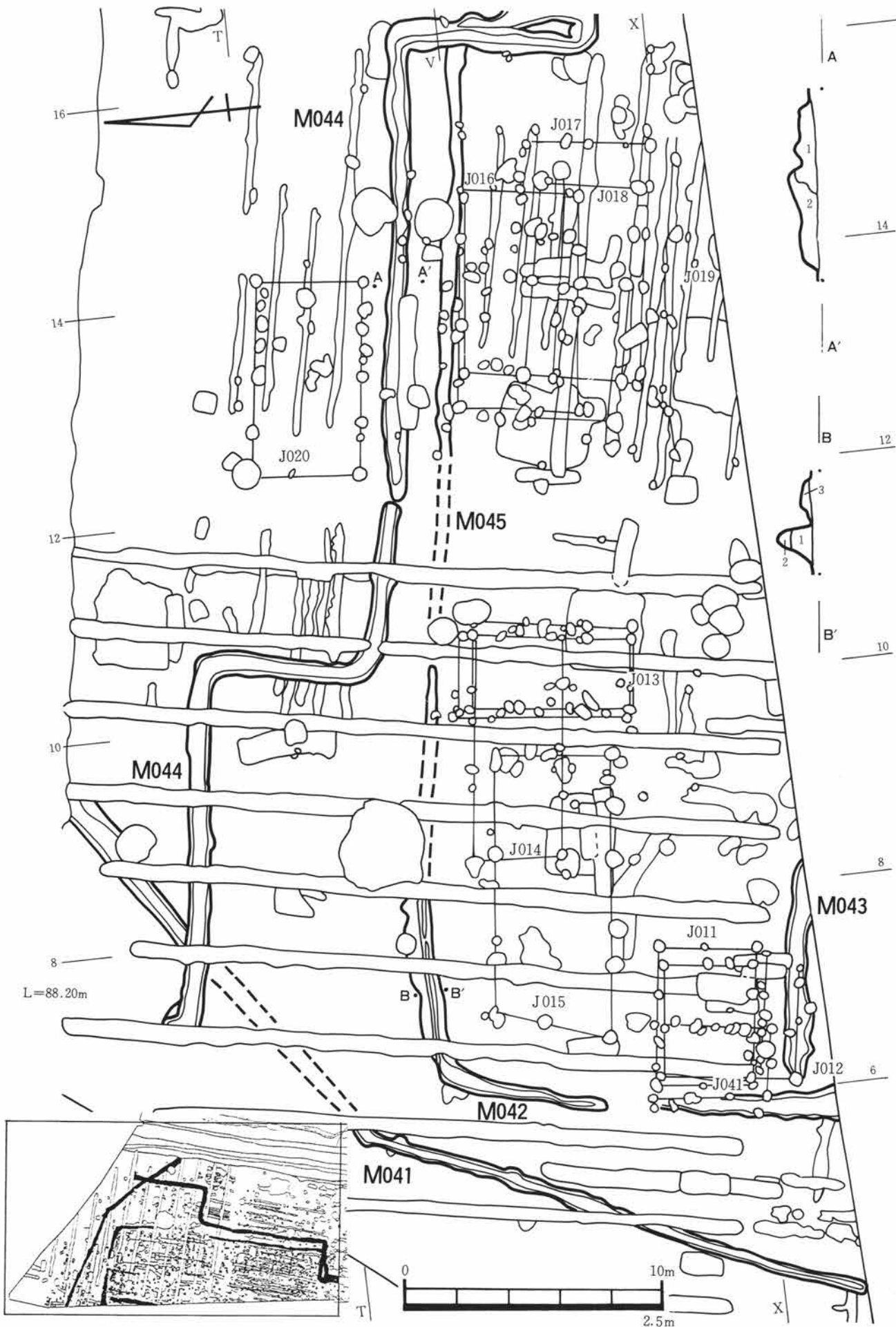
東側のN033は、東西走向でサクはやや煩雑な状態で、上幅0.4m間隔1.1mを測る。掘り込みは0.2~3m、耕作単位は東西14m南北19m以上、面積は266㎡以上となる。南北に分かれる可能性もある。

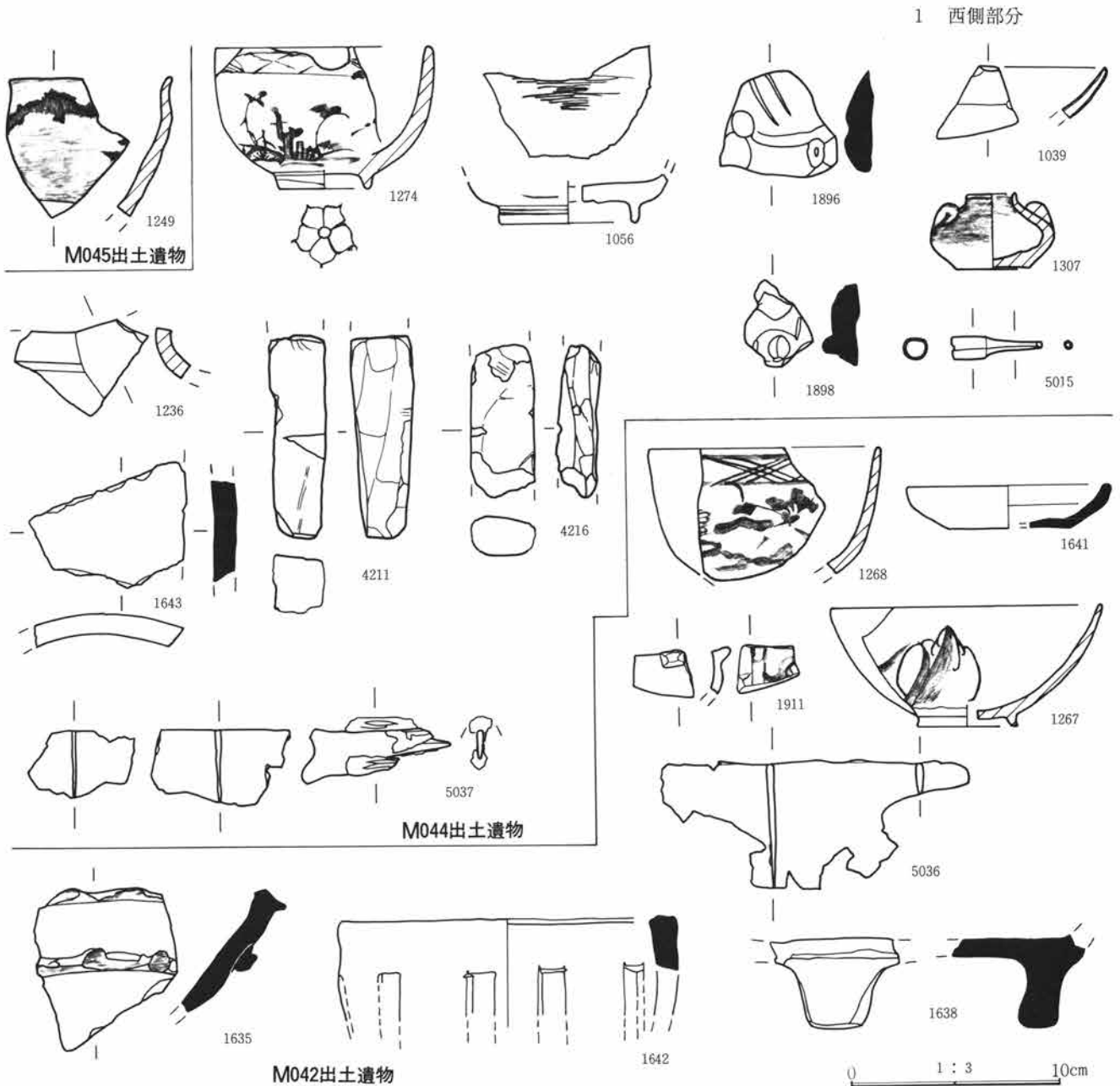
両者の間は5mほどの空白地帯となっている。

N036と重なるN034は、極めて狭い範囲で検出され、残存状況は良くない。東西走向でサクの状態はN034と同様と思われるが、重複しているため不明瞭。耕作単位は東西7m南北3.5mほどで、面積は24.5㎡となる。N036との関係は不明。

N036の出土遺物は、古代から近代まで多様だが、陶磁器は18世紀から19世紀までのものがやや多い。仏像状の泥人形(1899)や締具状の鉄板(5050)そして硯片(4204)・砥石類(4228,30,34)・キセル(5022)は、その時期のものだろう。

中世では、竜泉窯系青磁碗片(1040,43)が注目される。重複する南堀跡遺物の混入か。また古代の灰釉碗(1918)と土師器杯(2030)は、同じく重複の竪穴住居からのものと思われる。



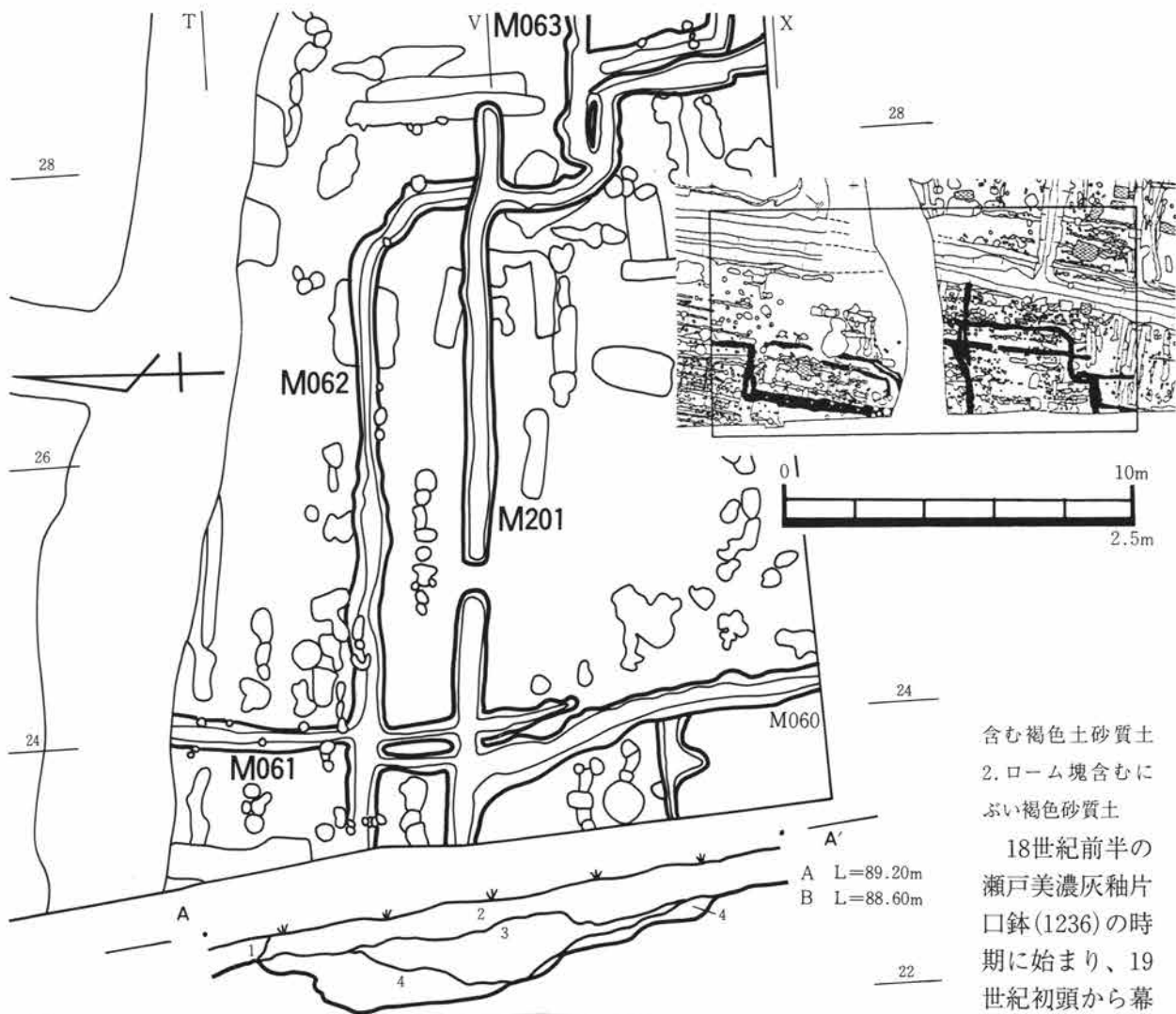


区画溝M041～M045遺構 (PL.6,25,26)

西端のM041は、斜め走向で途中で角を付けて曲がる。無名川低地を意識したのだろう。検出全長は38mで、浅く途中は消える。18世紀後半の瀬戸美濃腰鍔碗(1247)が出土。

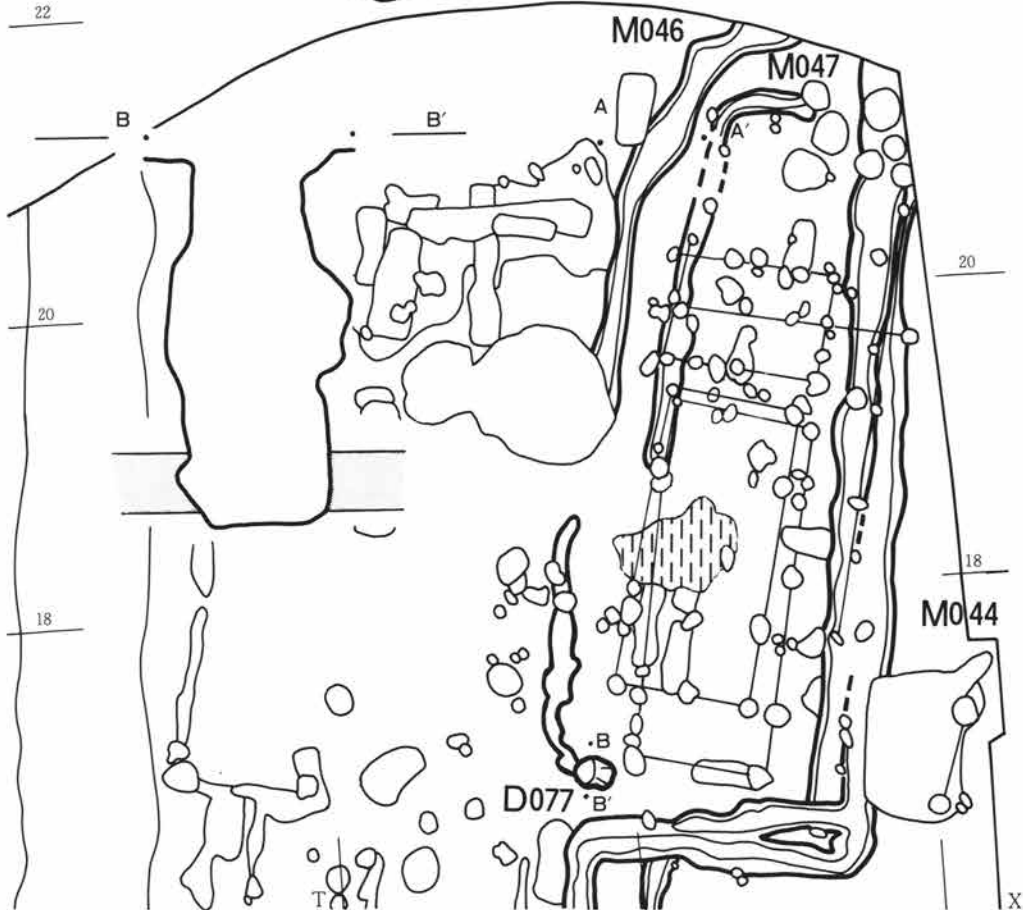
東のM042は、掘立J011～J015を囲う区画の北西側だろう。上幅0.6m深さ0.4mほどで、断面はV字形。B断面 1.暗褐色砂質土 2.ローム塊含む褐色砂質土 3.不均一な暗褐色砂質土 西側は一部2mほど切れる。出土陶磁器は17世紀から19世紀まで幅がある。肥前染付皿片(1911)は17世紀中頃。東に離れたM045も同じ遺構と考えられ、北辺全長は41mに達する。17世紀前中頃の瀬戸美濃天目碗(1249)が出土。18世紀前半までが掘削時期だろう。東西走向のM043も、掘立柱建物群に関する区画溝。ただしJ012とは重複。

北側のM044は、無名川低地際から2回直角屈曲を繰り返して、南東に走る(東端はP.30図)。各辺長は、西から15m7m25m8m22m以上。途中で途切れがちでもあり、一時期の掘削ではない。水流痕はなく、掘立群J016～J019を囲ったものと思われる。東側でM045に完全に重なる。断面 1.炭化物・ローム塊



含む褐色土砂質土
2. ローム塊含むに
ぶい褐色砂質土

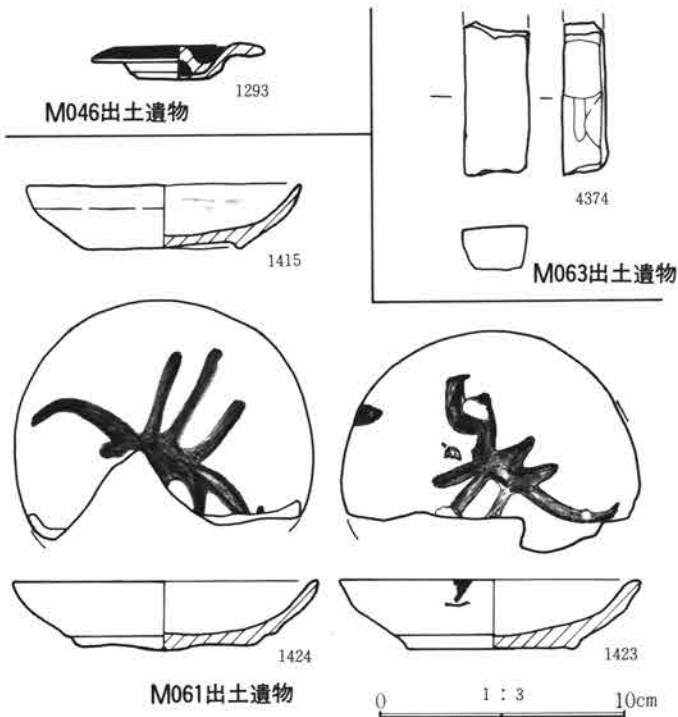
18世紀前半の
瀬戸美濃灰釉片
口鉢(1236)の時
期に始まり、19
世紀初頭から幕
末の肥前染付鉢
(1056)までの長
期間の使用が考
えられる。後者
は二次焼成を受
け、土層からも
後の時期の火災
が伺われる。



区画溝M046,
M047, M061,
M062, M201
遺構, 井戸跡
D077遺構
(PL.27)

西側のM046,
M047はM044と
併せて、掘立群
J021~J024など
を囲っている。

1 西側部分



A断面 1.攪乱 2.表土 3.暗褐色砂質土 4.ローム塊
含む黄褐色砂質土

掘立の重複に合わせるような数回の掘り返しが考えられる。水流痕はない。瀬戸美濃の飴釉蓋(1293)は18世紀以前のもの。

東側のM062とM063は、M044とほぼ同様に南に向かう二重の屈曲が見られる(東端はP.61図)。調査範囲内では北東側に掘立群J027が見られる。同一走向で重なるM201は、途中で途切れるが同じ目的であろう。

直交するM061は、一部二重になり、小道の側溝かも知れない。鉄絵皿(1423,24)より17世紀後半と考えられる。

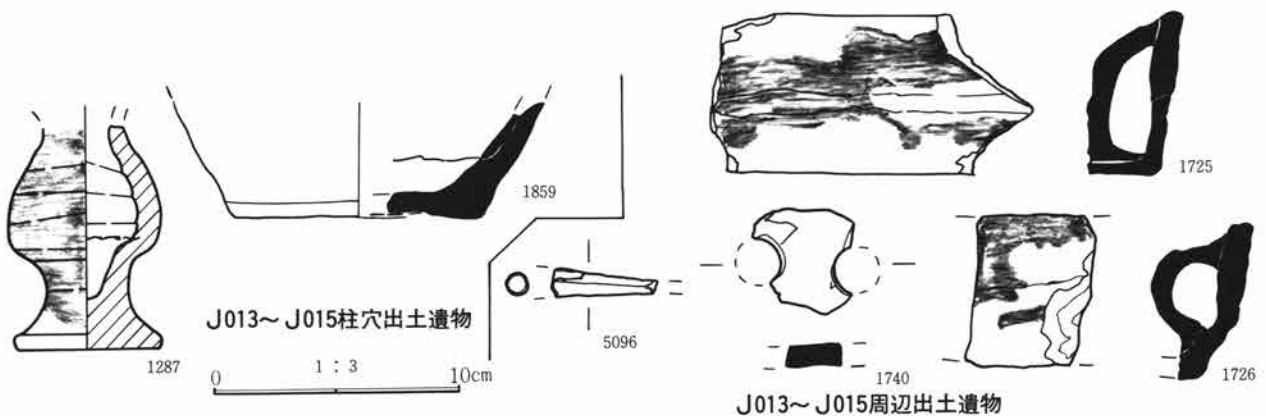
井戸跡D077は、M046西端に重なっている。深さ2.4mで、海拔86.5m以下より湧水。底は方形に掘り、掘り直しの痕跡が見られる。僅かにタガ状木製品片20片ほど出土した(非掲載)。近世か。

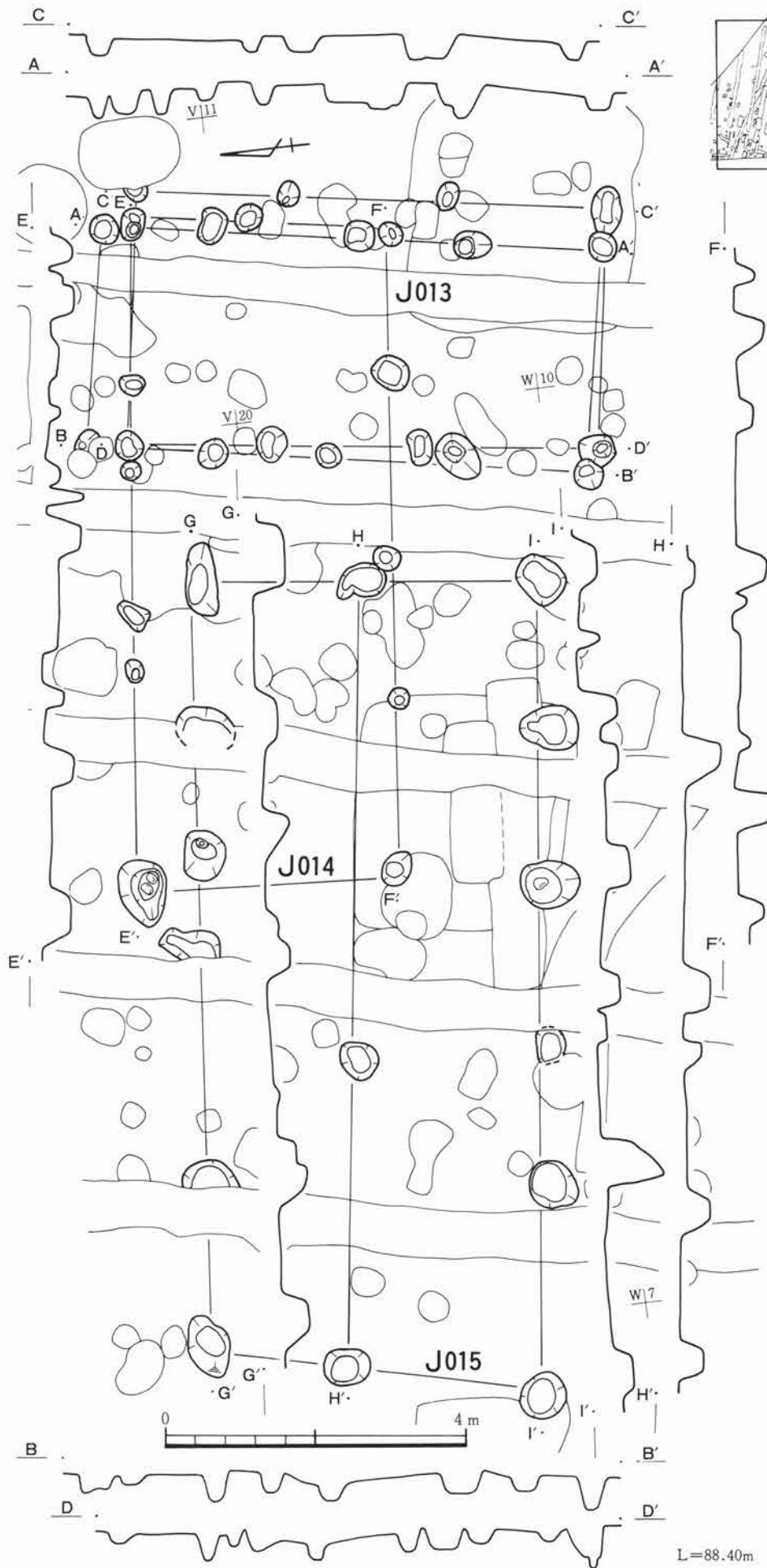
掘立柱建物跡 J 0 1 3 ~ J 0 1 5 遺構 (P.32図 PL.6,27)

溝M042に北西側を囲われている。東側のJ013は、1×3間の南北棟で、建替えは1回。南北6.3m、東西3.2mで、面積は20.2㎡。柱穴は、確認面から20~40cmの深さである。

これに重なる中央のJ014は、1×4間の東西棟で、建替えはない。東西8.4~8.6m、南北3.4mで、面積は28.9㎡。柱穴の深さは40cm前後で、径の大きい北西端のものには柱止めの礫が2個見られた。

西側のJ015は、2×4間の東西棟で、建替えはない。東西10.0~10.6m、南北4.5mほどを測り、面積は46.4㎡と大形である。基本的に東西方向の3部分で構成されており、方形の中央と東部分の幅は、3.8mの規格が見られる。南辺の中央と東の境の柱穴には、柱止め礫があり、東部分は中間にさらに柱穴を持つ。梁方向には、棟持柱穴がそれぞれあり、中央部分の中間に棟木受けと思われる柱穴もある。西部分は、やや台形状の平面形である。

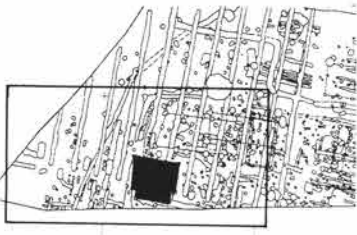




確認面からの柱穴の深さは、30～60cmと差があるが、この遺構は調査時には認識されていなかったため、掘り足りない可能性もある。

これらの掘立のうちの柱穴から15世紀の瀬戸灰釉花瓶(1287)、そしてJ013の柱穴から壺状の酸化土器(1859)が出土している。しかし、柱穴以外の遺物は焙烙(1725,26)やキセル(5096)など18世紀前後と思われるものが多い。花瓶は伝世の可能性もあるため、後者を使用年代と考えたい。そうであれば、区画溝M042, M045の年代とも整合してくる。

なお、北側の区画溝M044でも中世の水滴(P.29-1307)が出土している。J015は、この地区での最も主要な建物と考えられる。



掘立柱建物跡 J011,
J012, J041, J045 遺構
(PL.28)

区画溝M042の西側に接する掘立柱群。

J011は、2×3間の東西棟で、東西5.2～5.3m、南北3.7～3.8mを測り、面積は20.1㎡となる。柱穴は、確認面から20～40cmの深さで、四隅が深い。

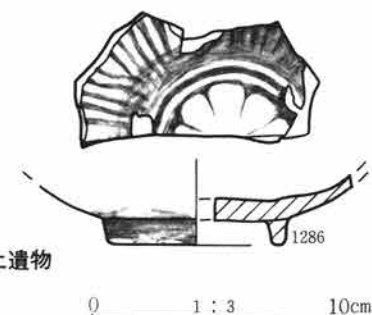
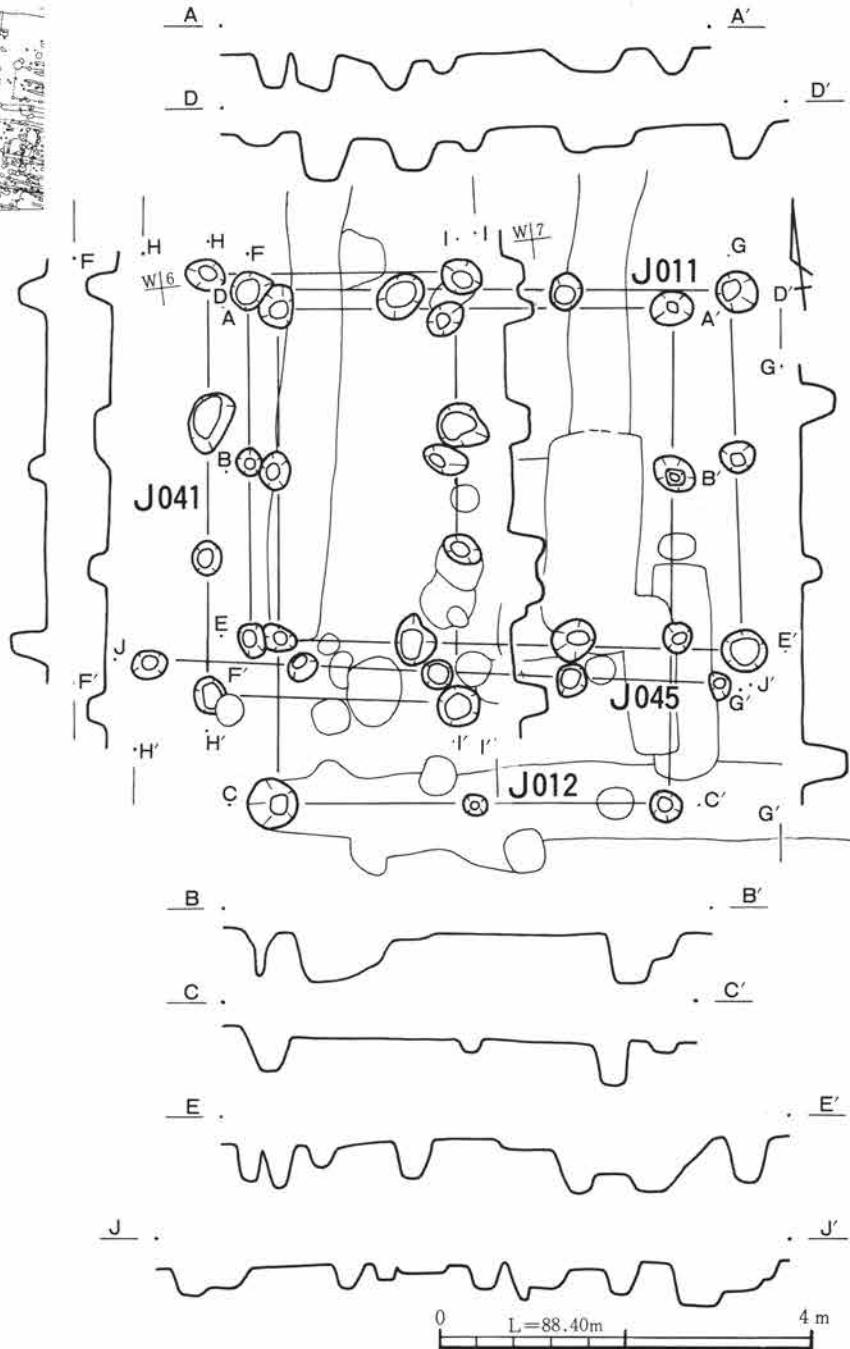
J012は、2×4間の南北棟で、東西4.2m、南北5.2mを測り、面積は21.8㎡。柱穴の深さはJ011と同様。

J041は、1×4間の南北棟で、南北4.5m、東西2.7mを測り、面積は12.2㎡。深さは上記と同じ。

また建物にならないJ045は、長さ6.1mで5個の柱穴が東西に等間隔で並ぶ。深さは同様である。

これらの建物の内部の柱穴外で、瀬戸美濃飴釉菊皿(1286)が出ており、17世紀後半の年代がこれらの建物の時期と考えられる。

なお、各建物の相互の重複関係は不明。またJ012と区画溝M043の重複関係も分からない。



周辺出土遺物

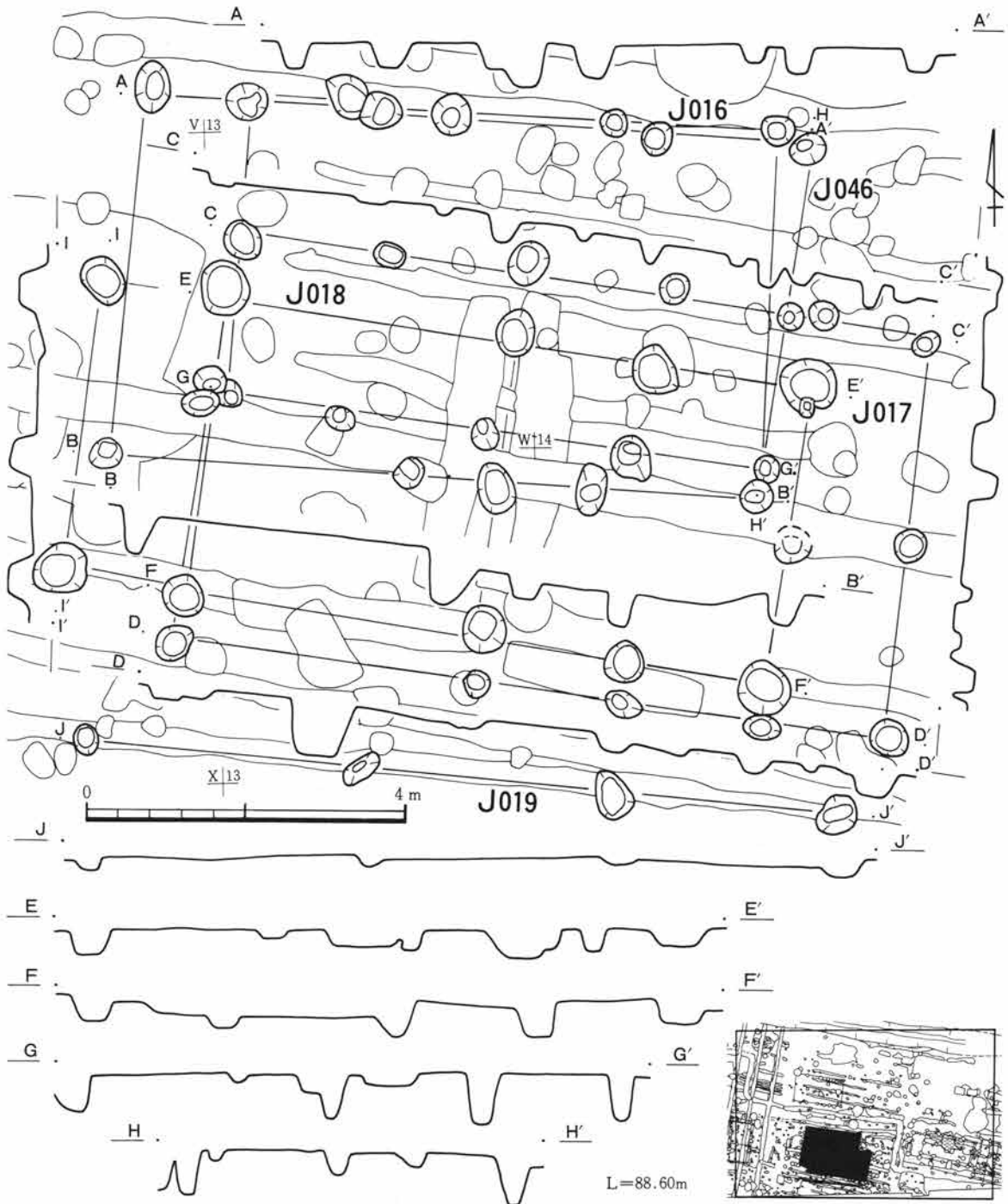
II 調査成果

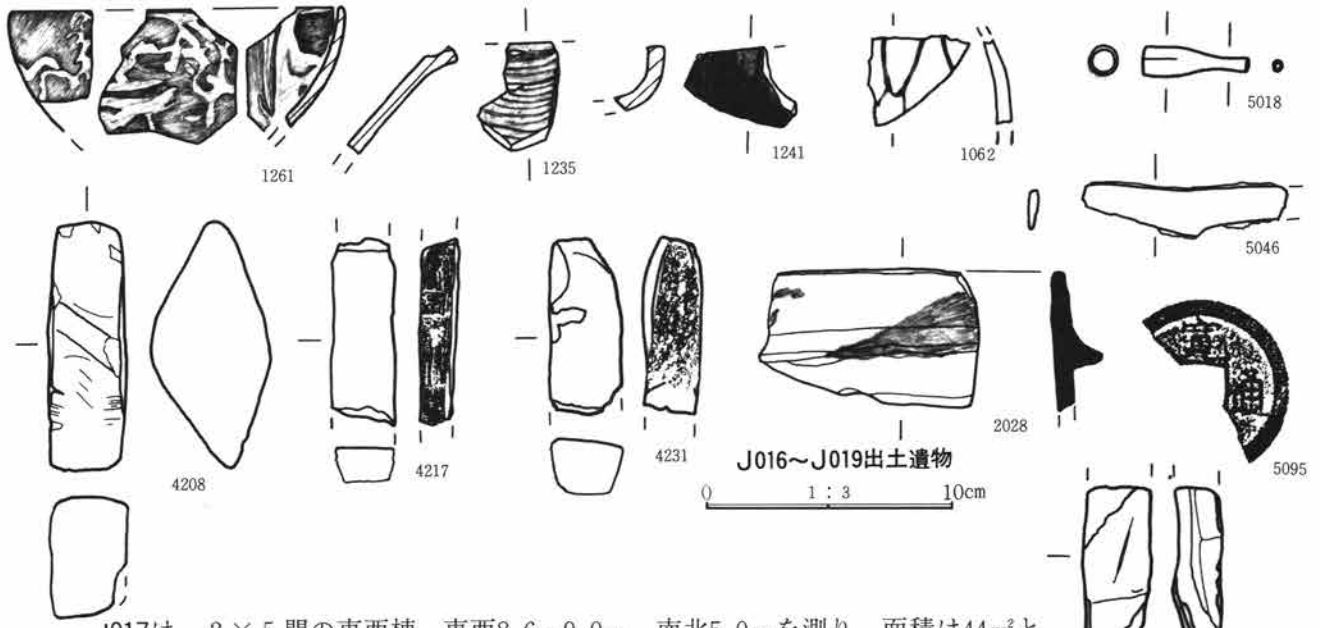
掘立柱建物跡 J016～J019, J046 遺構 (PL.6,28)

区画溝M044及びM045の南側の掘立柱群。

J016は、1×3間の東西棟で、東西7.7～8.0m、南北4.5mを測る。面積は35.3m²で、柱穴の確認面からの深さは北辺が30cm前後、南辺が40～60cmと少し差がある。中央で東西に大きく分かれ、西半分は桁方向の柱穴間隔は3.8mに対し東半分は2.2mである。区画溝M045と重なる。

J046は、1×4間の東西棟。東西6.7～6.9m、南北3.9～4.0mで、面積は26.9m²となる。柱穴の深さは60cm前後である。南辺はほぼ均等に1.7～1.8mの間隔で柱穴が並ぶが、北辺は中央のものが抜けている。同様に区画溝M045と重なる。





J017は、2×5間の東西棟。東西8.6~9.0m、南北5.0mを測り、面積は44㎡と大形である。柱穴の深さは、20~30cmと浅い。南北の長辺には、土坑D069と重なった南辺の一部を除いて、1.6~1.8mのほぼ等間隔で柱穴が並ぶ。

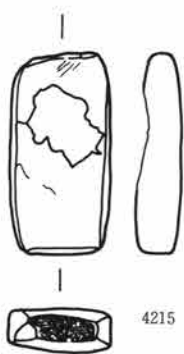
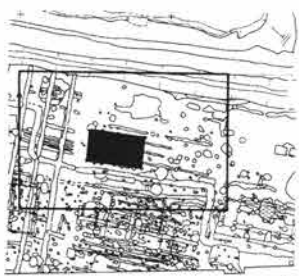
J018は、2×4間の東西棟。東西8.9m、南北3.7mを測り、面積は32.9㎡となる。柱穴の深さは、40~60cmである。全体は3部分に分かれ、桁方向の間隔は西より、1.6m3.7m3.6mとなり、東部分には中間に一つ柱穴が入る。底的な西部分以外はJ016に構造が近似している。

J019は建物にならず、東西方向9.4mに4個の柱穴が並んでいる。深さは20cm以下と浅い。

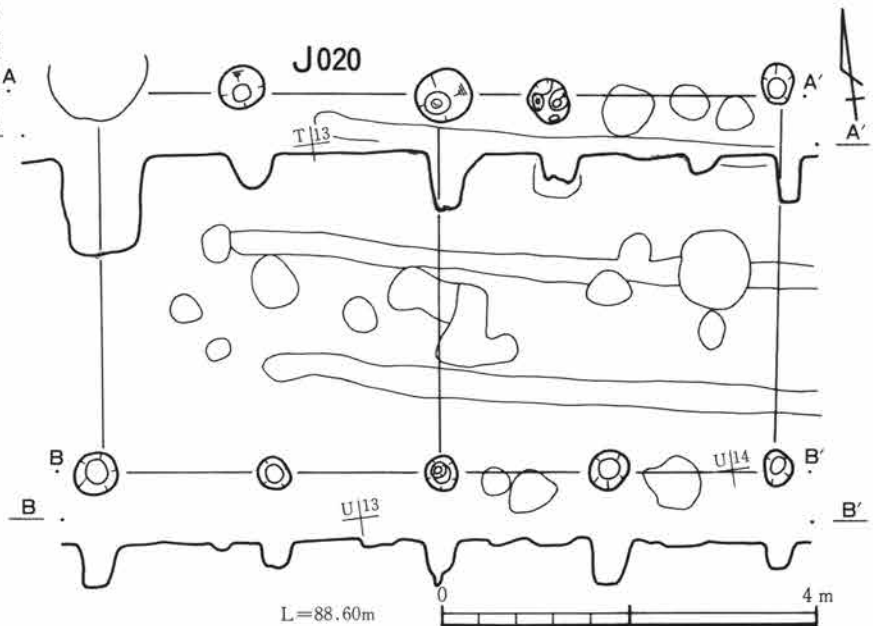
柱穴及び建物内での遺物で17世紀後半から18世紀前半のものは、肥前染付瓶(1062)・同二彩皿(1235)・瀬戸美濃飴釉片口(1241)・キセル吸口(5018)がある。19世紀の瀬戸美濃二彩碗(1261)は、畠跡N036出土片と接合した。そのため、主な使用時期は17世紀後半から18世紀前半で、J016とJ046は18世紀前半が妥当だろう。

掘立柱建物跡J020遺構 (PL.28)

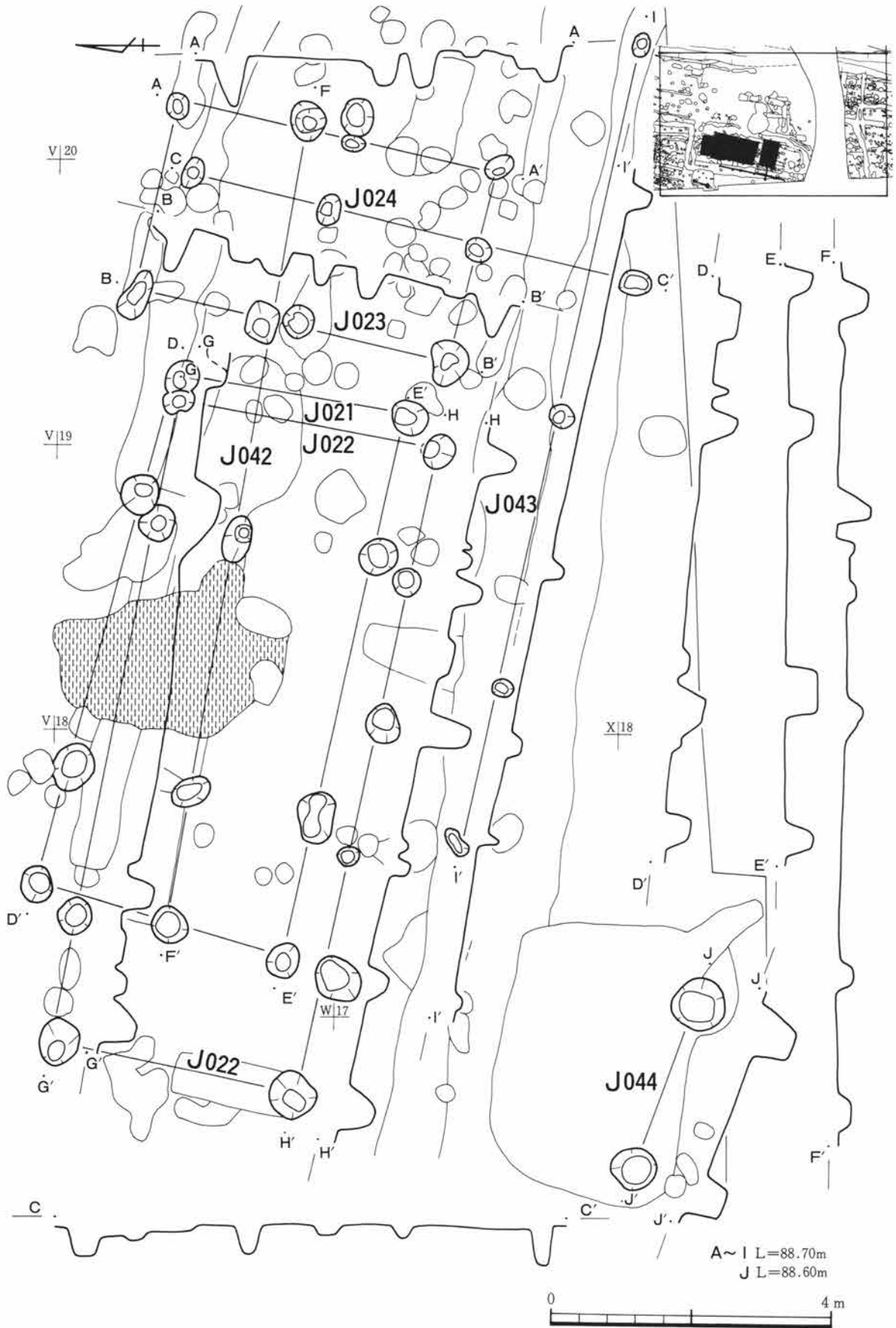
区画溝M044北側の1×4間の東西棟。東西7.3m南北4.0mを測り、面積29.2㎡。南辺は等間隔の1.8m深さ20~60cmの柱穴が並ぶ。近世か。

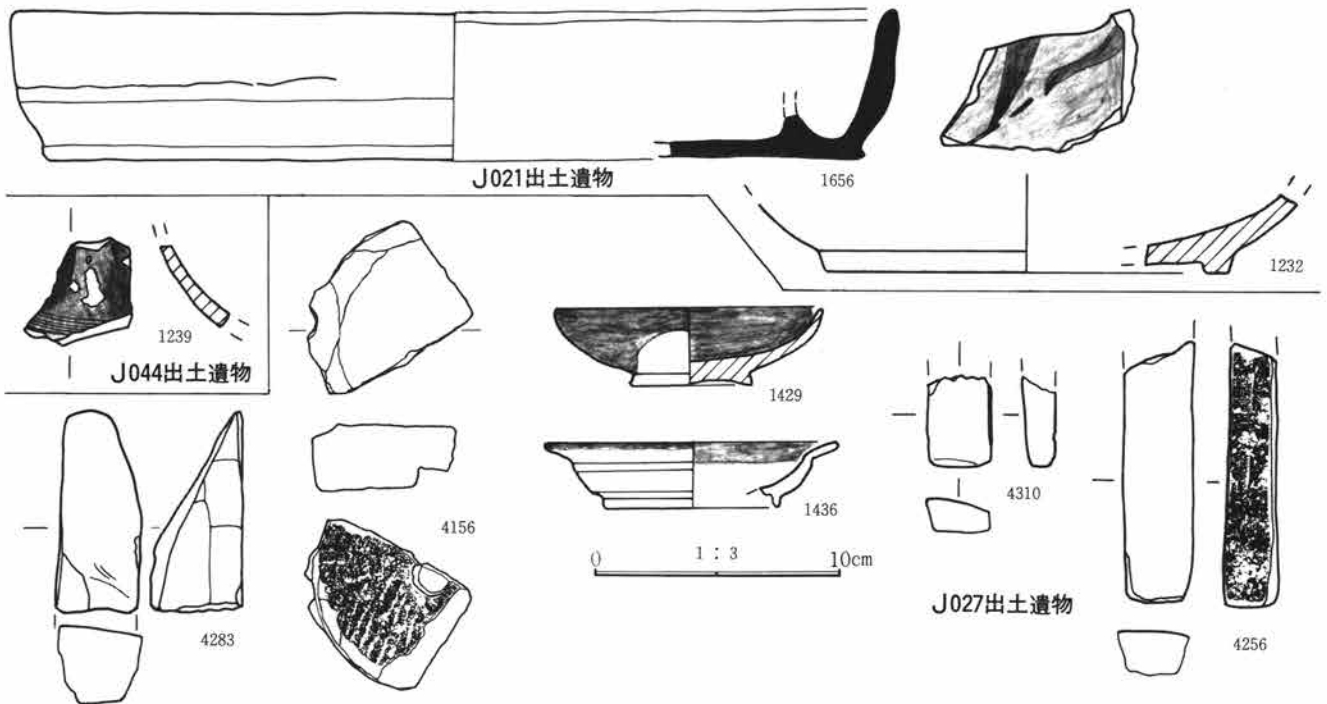


J020出土遺物



II 調査成果





掘立柱建物跡 J 0 2 1 ~ J 0 2 4, J 0 4 2 ~ J 0 4 4 遺構 (PL.29)

区画溝M044の北東側の掘立柱群。J021は、1×3間の東西棟。東西7.6~7.9m、南北3.3~3.6mで面積は27.3m²。柱穴は深さ40cm前後で、長辺の中央が約4mの間隔があく。柱穴と建物内からは17世紀の瀬戸美濃笠原鉢(1232)と18世紀と思われる土器焙烙(1656)が出土したため、後者の年代とする。

J022は、1×5間の東西棟。東西3.5~3.7m南北9.4~9.5mで、面積は34.2m²。柱穴は40~60cmの深さで、南辺は1.9mのほぼ等間隔で並ぶ。J023は、1×2間の南北棟。東西2.7m南北4.5~4.6mで、面積は12.4m²。柱穴は深さ40~80cmで特に四隅が深い。

J024は建物にならず、南北6.5mの間に深さ20~60cmの柱穴が4個並ぶ。J042も建物にならず、東西11.4mの間に深さ20~50cmの柱穴が5個ややまばらに並ぶ。J043も建物にならず、東西11.5mの間に深さ20~30cmの柱穴が4個まばらに並ぶ。J044も建物にならず、東西2.5mの間隔で底径40cm深さ60cmの柱穴が2個並ぶ。周辺から18世紀の瀬戸美濃飴釉脚部(1239)・石臼・砥石が出土。

以上のように、建物にならないものが多いが、全体としては区画溝M044に規制される18世紀の建物群と考えられる。なおJ024とJ043は、M044と重なる。

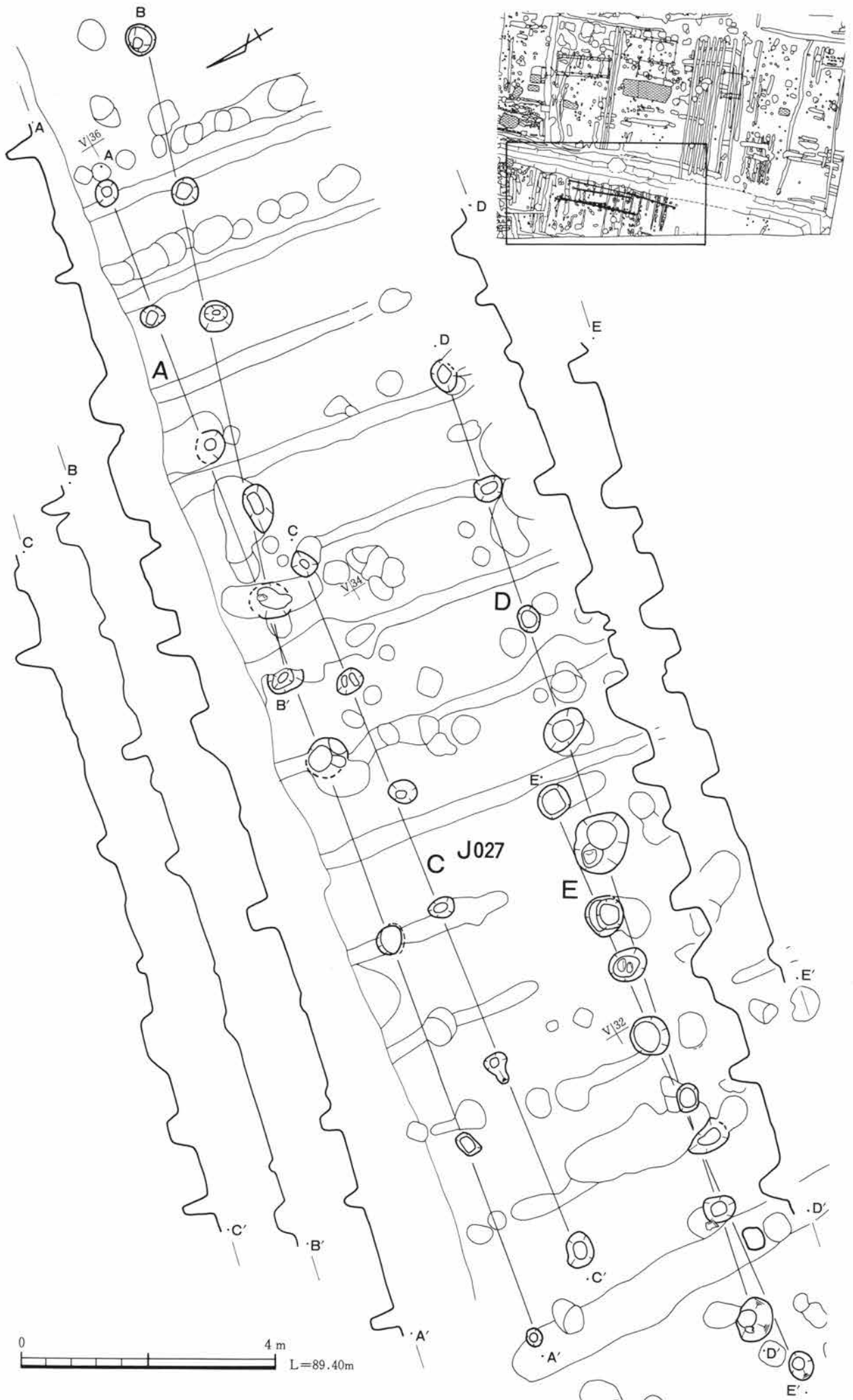
掘立柱建物跡 J 0 2 7 遺構 (P.38図 PL.2,16)

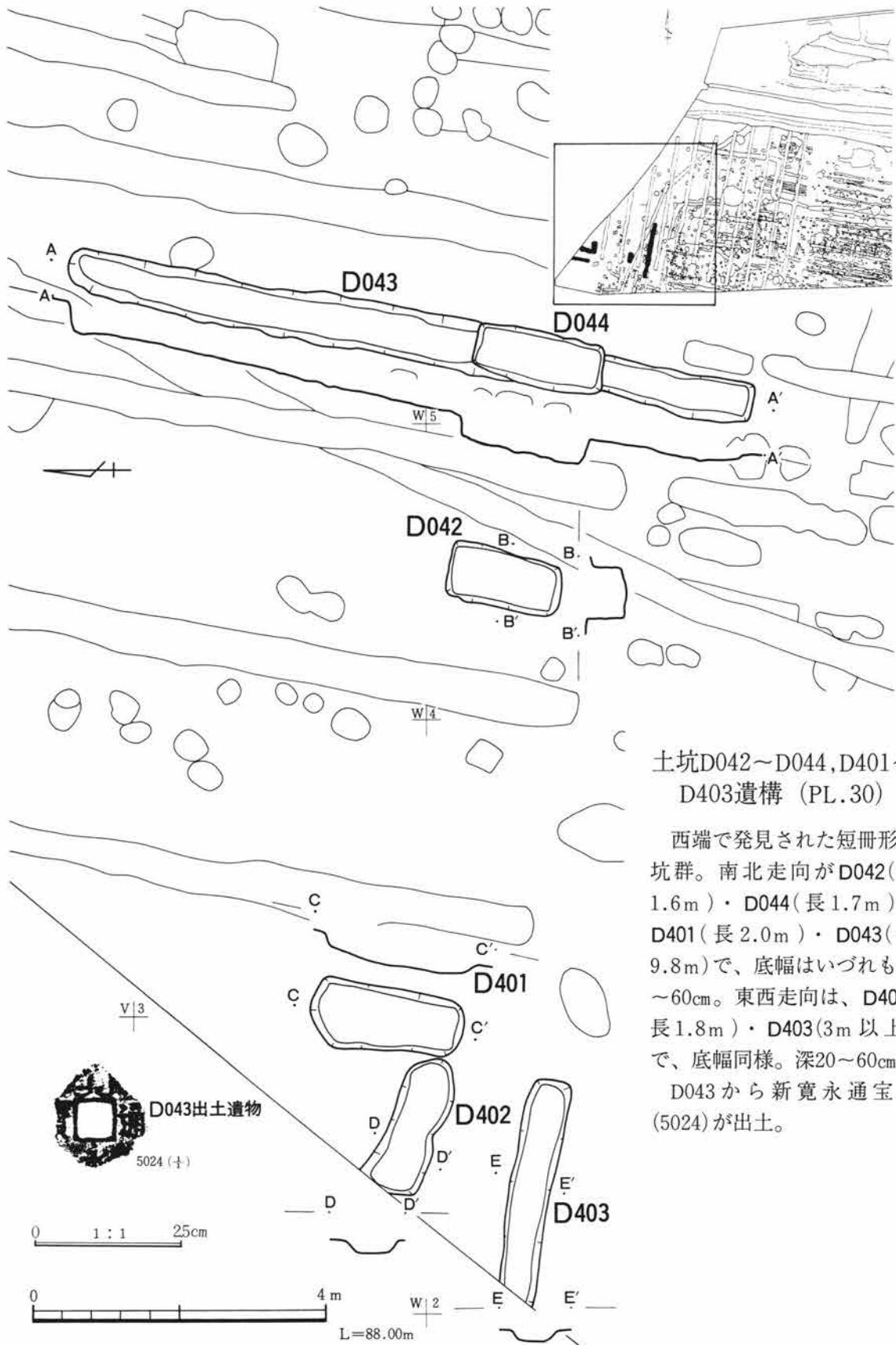
区画溝M063の北東側で南堀跡にそって検出された。

次頁の図のように東西方向に並ぶ柱穴列5本が調査終了後確認されたが、建物にはならない。

規模はそれぞれ、A列長さ19m間隔2.0~3.5m柱穴数8個、B列長さ10.7m間隔2.0~3.0m柱穴数5個、C列長さ11.5m間隔2.0~3.2m柱穴数6個、D列長さ15.5m間隔1.8~2.0m柱穴数9個、E列長さ9.5m間隔2.0~2.5m柱穴数5個である。D列が最も間隔のばらつきが少なく、深さも40cm前後とそろっており、柱止め礫の入った柱穴も見られた。いずれも畠跡N031と重なっている。この周辺で、1580年代~1610年代の肥前陶器皿(1429)と17世紀中頃の瀬戸美濃灰釉端反皿(1436)及び砥石が出土している。

この遺構群は、調査時には認識されなかったため、判明したことは少ないが、D列は建物の一部である可能性は高く、またA列は南堀跡に伴う木柵かもしれない。一応17世紀中頃と考えられる。

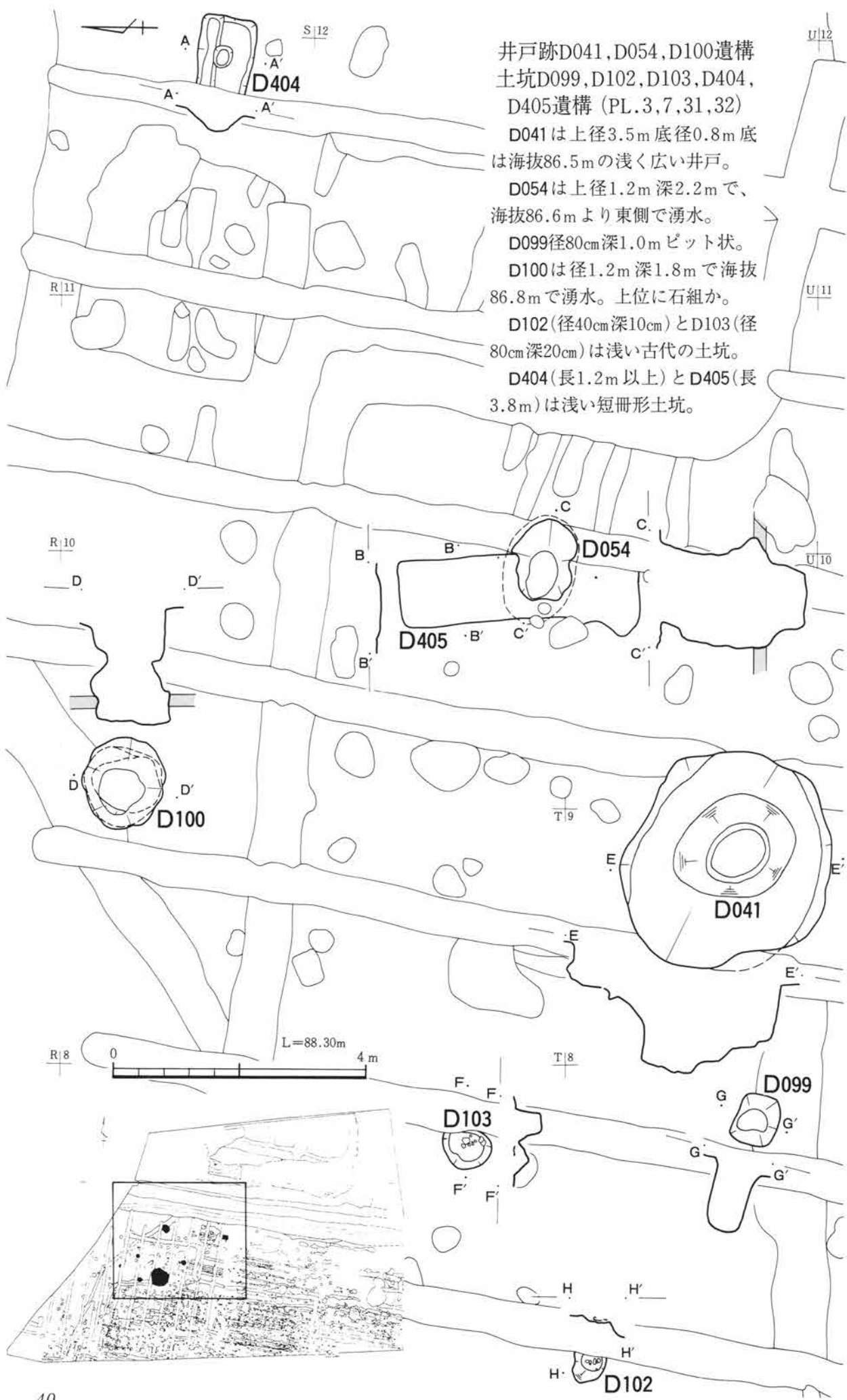




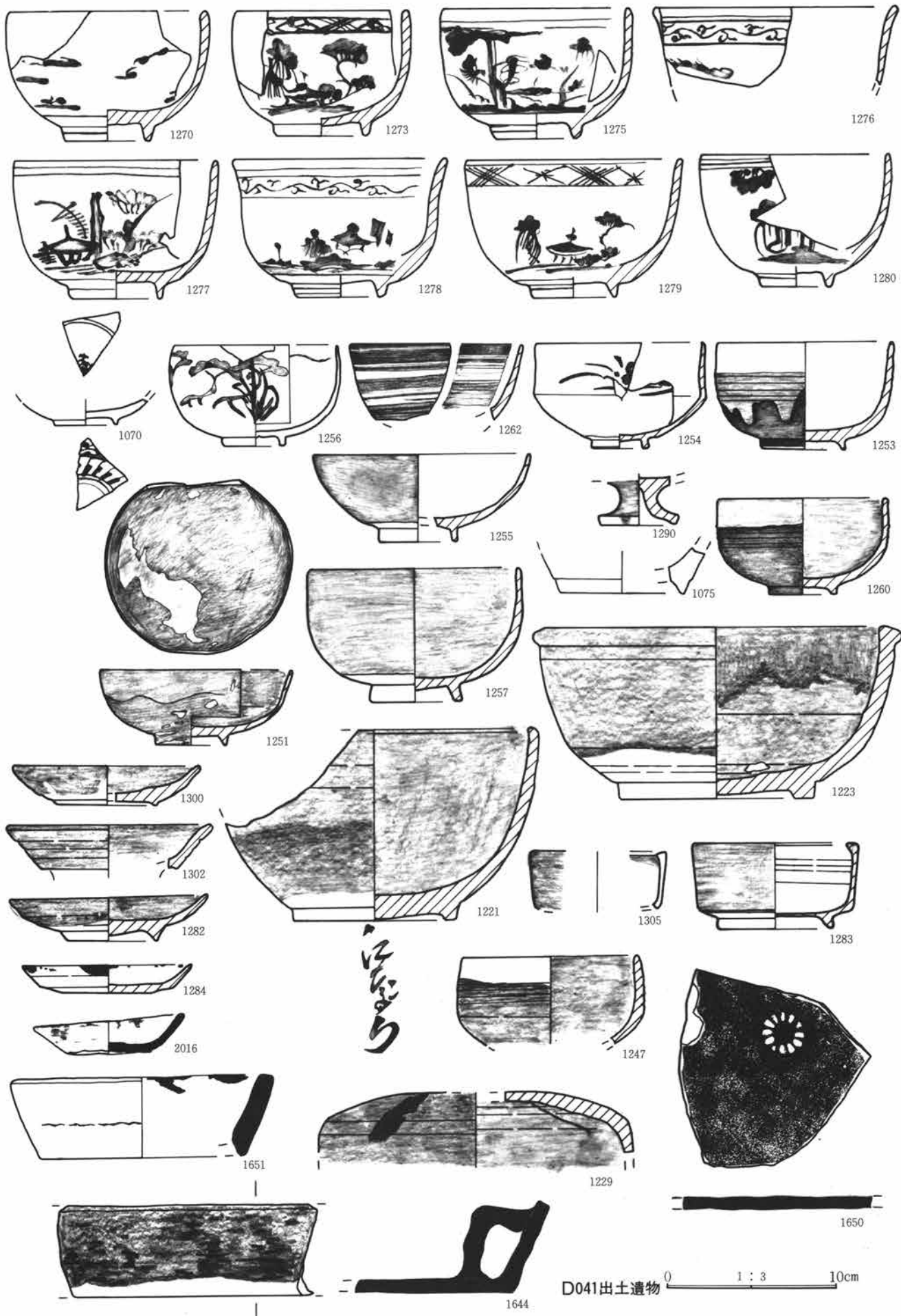
土坑D042～D044, D401～D403遺構 (PL.30)

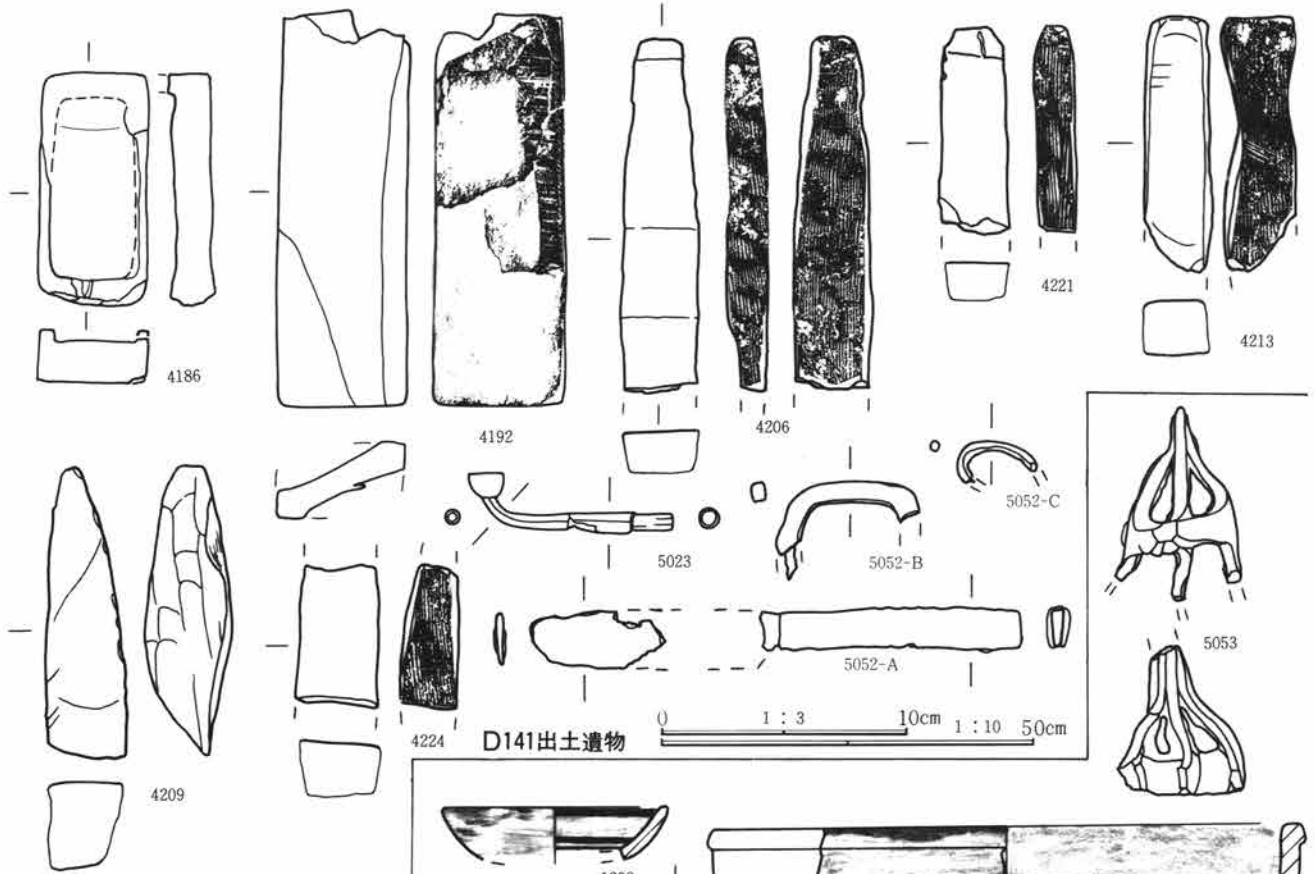
西端で発見された短冊形土坑群。南北走向がD042(長1.6m)・D044(長1.7m)・D401(長2.0m)・D043(長9.8m)で、底幅はいずれも40～60cm。東西走向は、D402(長1.8m)・D403(3m以上)で、底幅同様。深20～60cm。

D043から新寛永通宝片(5024)が出土。

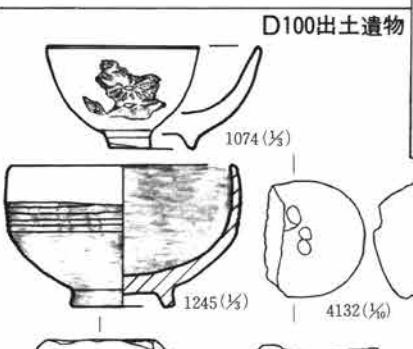


井戸跡D041, D054, D100遺構
 土坑D099, D102, D103, D404,
 D405遺構 (PL.3, 7, 31, 32)
 D041は上径3.5m底径0.8m底
 は海拔86.5mの浅く広い井戸。
 D054は上径1.2m深2.2mで、
 海拔86.6mより東側で湧水。
 D099径80cm深1.0mピット状。
 D100は径1.2m深1.8mで海拔
 86.8mで湧水。上位に石組か。
 D102(径40cm深10cm)とD103(径
 80cm深20cm)は浅い古代の土坑。
 D404(長1.2m以上)とD405(長
 3.8m)は浅い短冊形土坑。

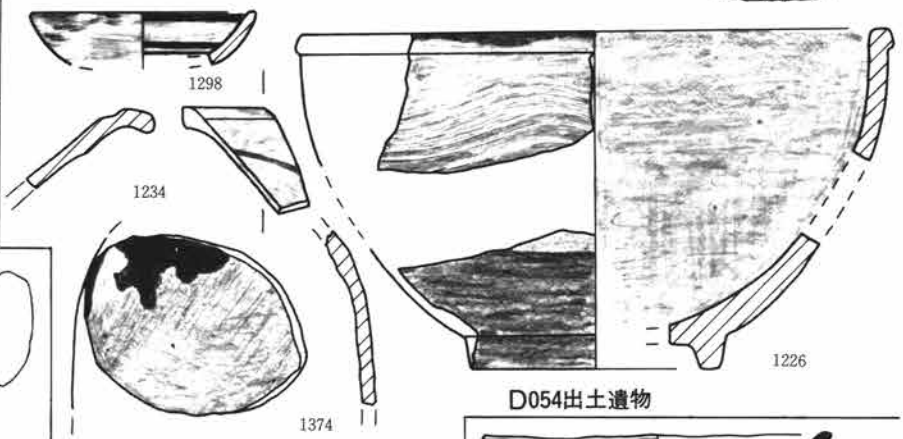




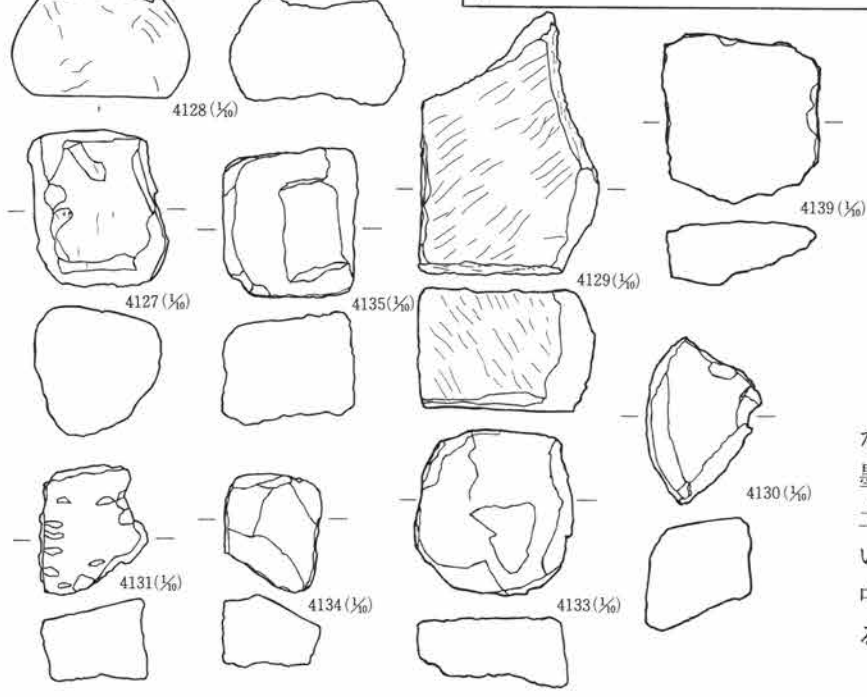
D141出土遺物



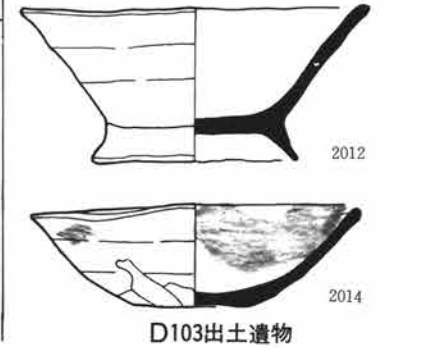
D100出土遺物



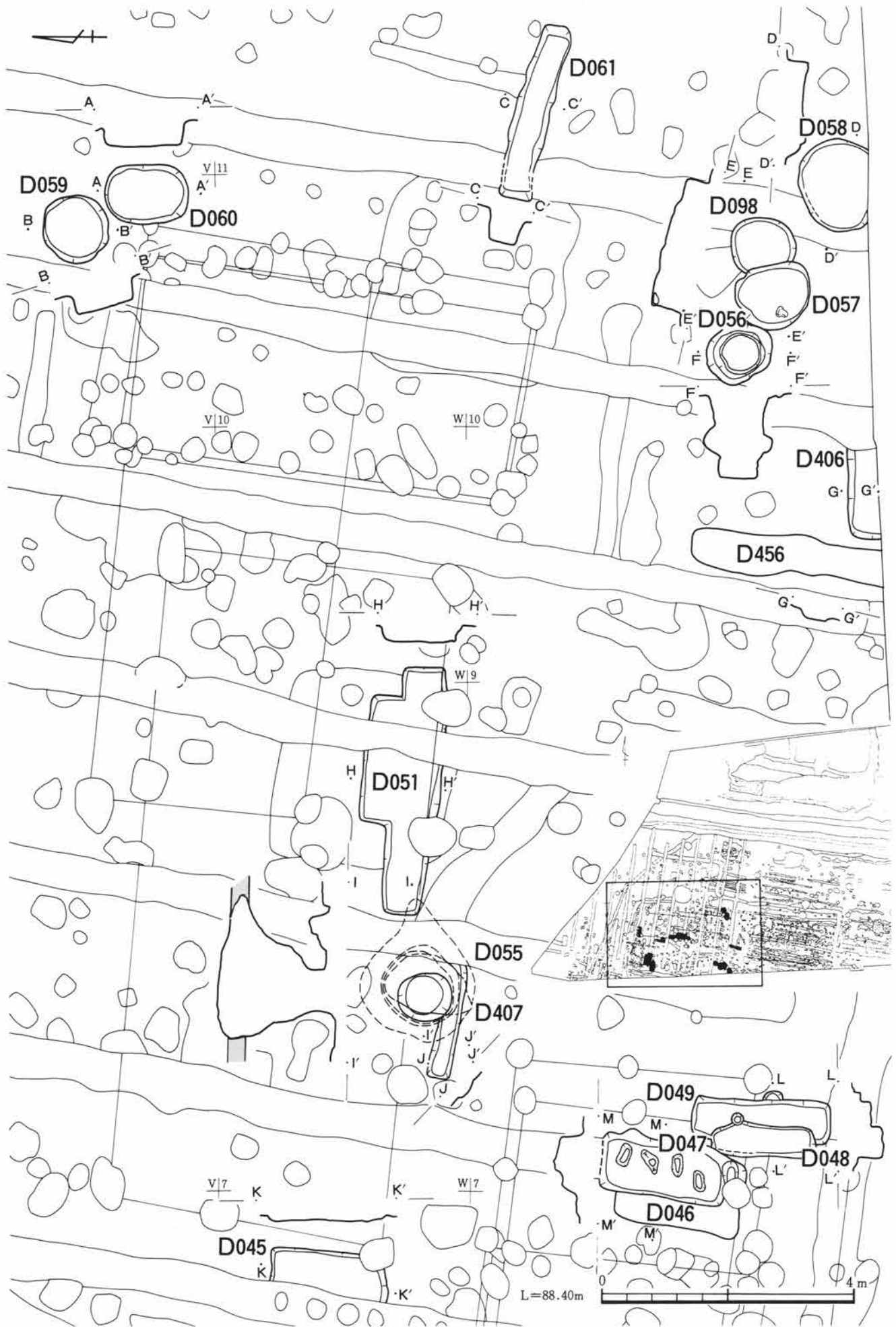
D054出土遺物



D103出土遺物



D041からは大量の陶磁器などが出土。特に肥前陶胎染付碗群・墨書瀬戸美濃灰釉片口(1221)・志土呂錆釉灯明皿(1284)が興味深い。全体では18世紀中頃の遺物が中心だが、19世紀初頭も少し混じる。また16世紀前半(1300)も含む。



II 調査成果



D054は、肥前二彩鉢(1226)など18世紀後半の陶磁器が中心。3本の細板を一つに溶接した不明鉄製品(5053)が見られた。D100は、石組みに転用されていた石塔・石臼類が多く出ている。瀬戸美濃腰鑄碗(1245)の19世紀初頭が廃棄年代と考えられる。D103からは土師器高足碗(2012)と杯(2014)が出土し、前者はD102出土片と接合した。11世紀代。

井戸跡D055, D056遺構

土坑D045～D049, D051, D057～D061, D098, D406, D407, D456遺構(P.43図 PL.7.33,34)

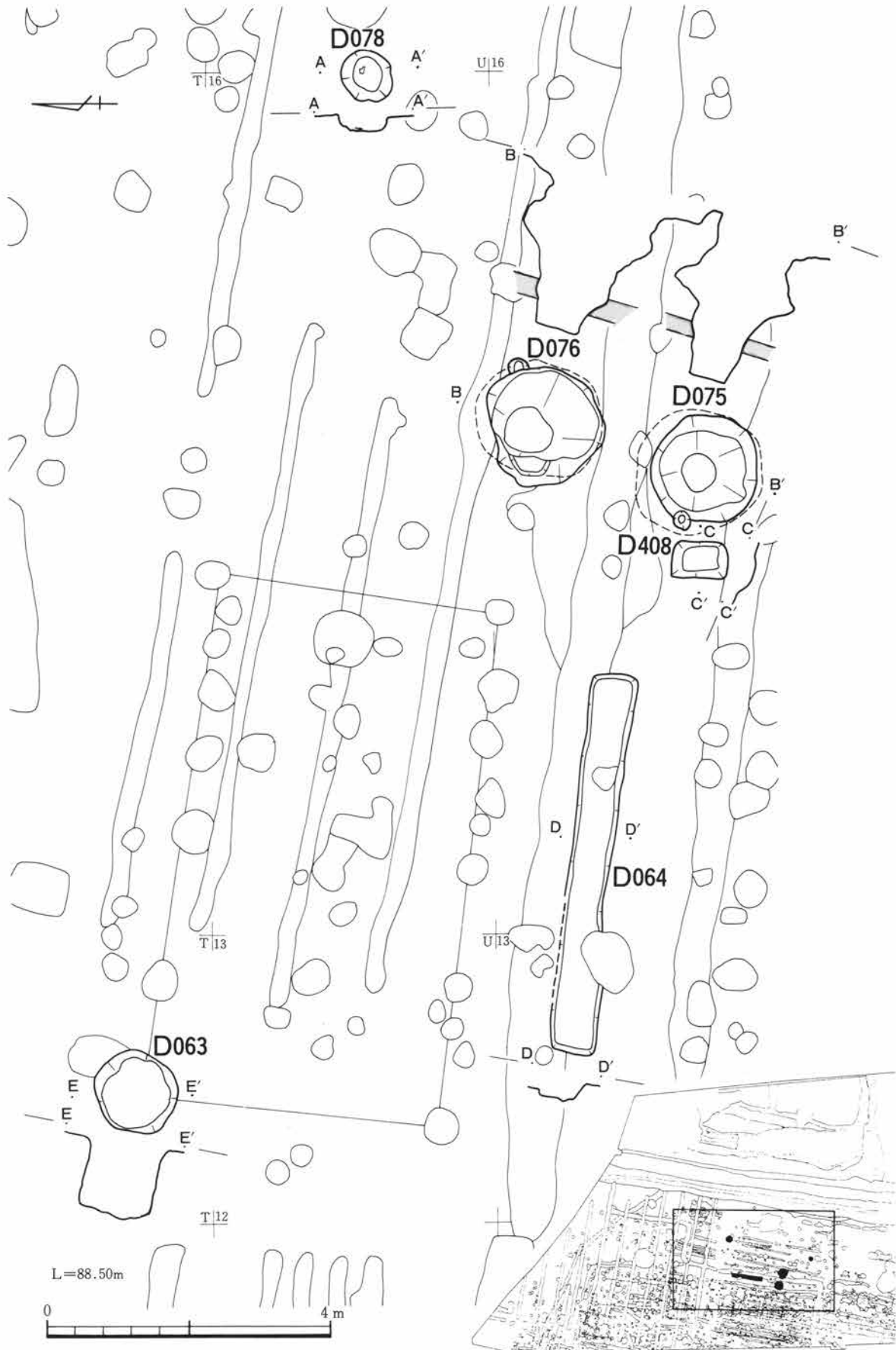
井戸跡D055は、直径0.7m深2.0mのフラスコ状で海拔86.8mより湧水。特に東側が水が多く、壁崩壊。土師器高足碗(2015)以外に近世陶磁器小片がかなり出土しているため、近世。掘立J015と重なる。また長1.8m幅30cmの短冊形土坑D407とも重複。

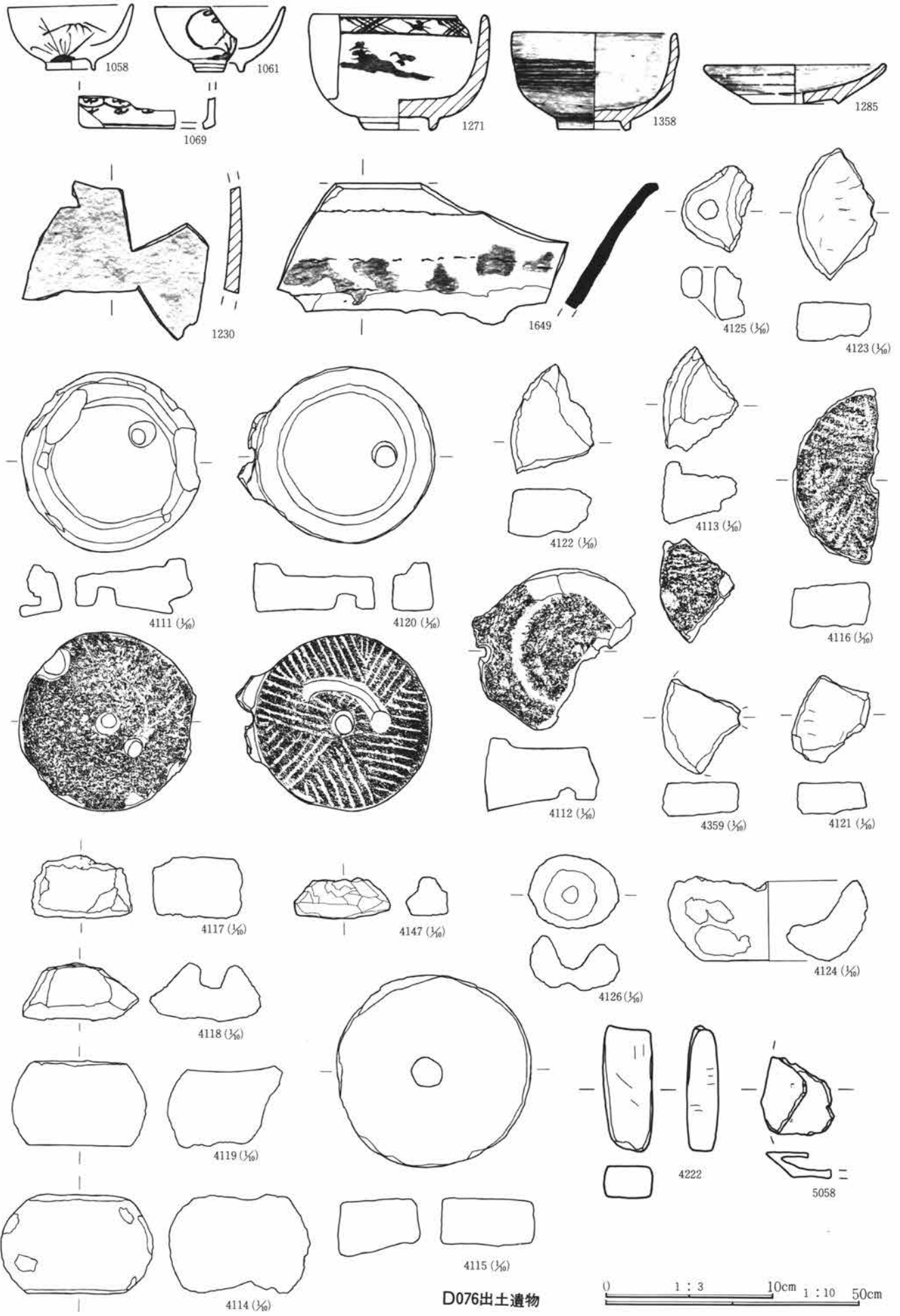
井戸跡D056は、直径1.0m深1.3mと浅いが下位に壁崩壊痕が見られるため、井戸跡と思われる。須恵器碗(2013)・壺(2017)が出土しており、10世紀頃と考えられる。

D045～D049は南北走向の短冊形土坑群で、長1.6～2.2m幅0.3～0.7m深20～40cmである。掘立J011,012と重なる。同じ南北走向の短冊形土坑には、東にやや離れてD456がある。東西走向では2基重複したD051(長4.2mと1.9m)、そしてD061(長2.6m)とD406(長1.2m以上)が離れて見られる。そのうちD046からは瓦質土器瓦灯(1864)・唐草形鉛飾り具(5026)など多様な遺物が見られるが、近代と考えられる。D061はやや深く50cmある。D051より瀬戸美濃灰釉小皿(1297)が出土。近世。

D057, D098, D059は桶埋設土坑の可能性はある。いずれも径0.9～1.0m深0.4～0.5mで、底が平坦かつ壁は垂直に近い。調査時には認識がなかったため、D057はややゆがんだ円形になったが、基本的には円形であったと思われる。D057からは、ガラス薬瓶(6002)が出ており、明治大正期と思われる。

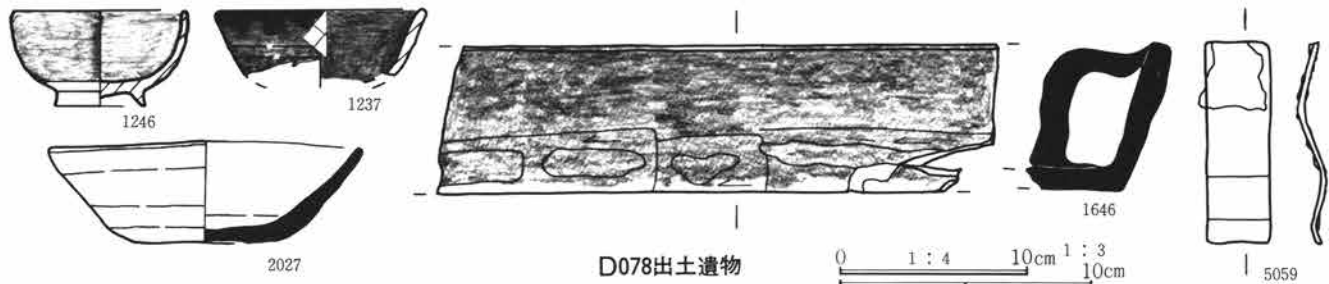
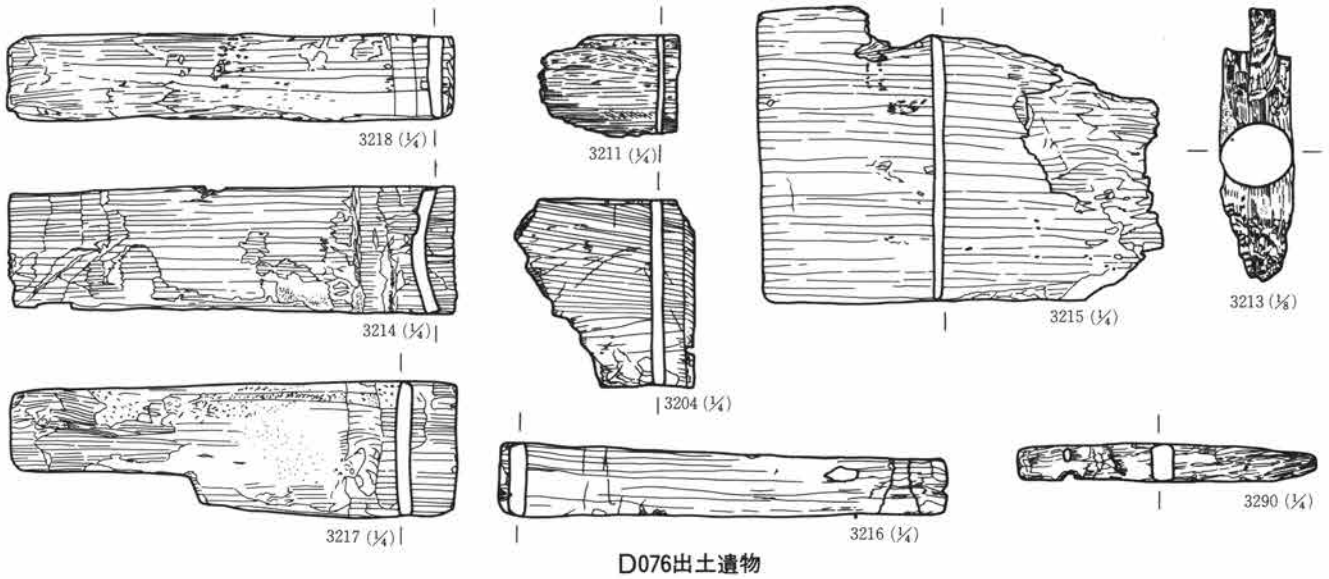
それらに近接する楕円形のD058(長径1.4m深30cm)とD060(長形1.2m深30cm)も平坦な底と垂直な壁により、桶埋設土坑であったかもしれない。後者は初期伊万里染付瓶(1047)など多様な遺物が出ているが、常滑大甕(1309)による近代の遺構とするのが妥当である。





D076出土遺物

1 西側部分



井戸跡D075, D076遺構

土坑D063, D064, D078, D408遺構 (P.45図 PL.7,35,36)

D075は井戸跡で、径1.2m深2.2m。区画溝M044,045と重なるが、関係不明。南側に掘立J016/019近接。海拔86.8mより湧水。西側に小ピット付く。遺物は、陶器・瓦質土器小片が少量。近世。

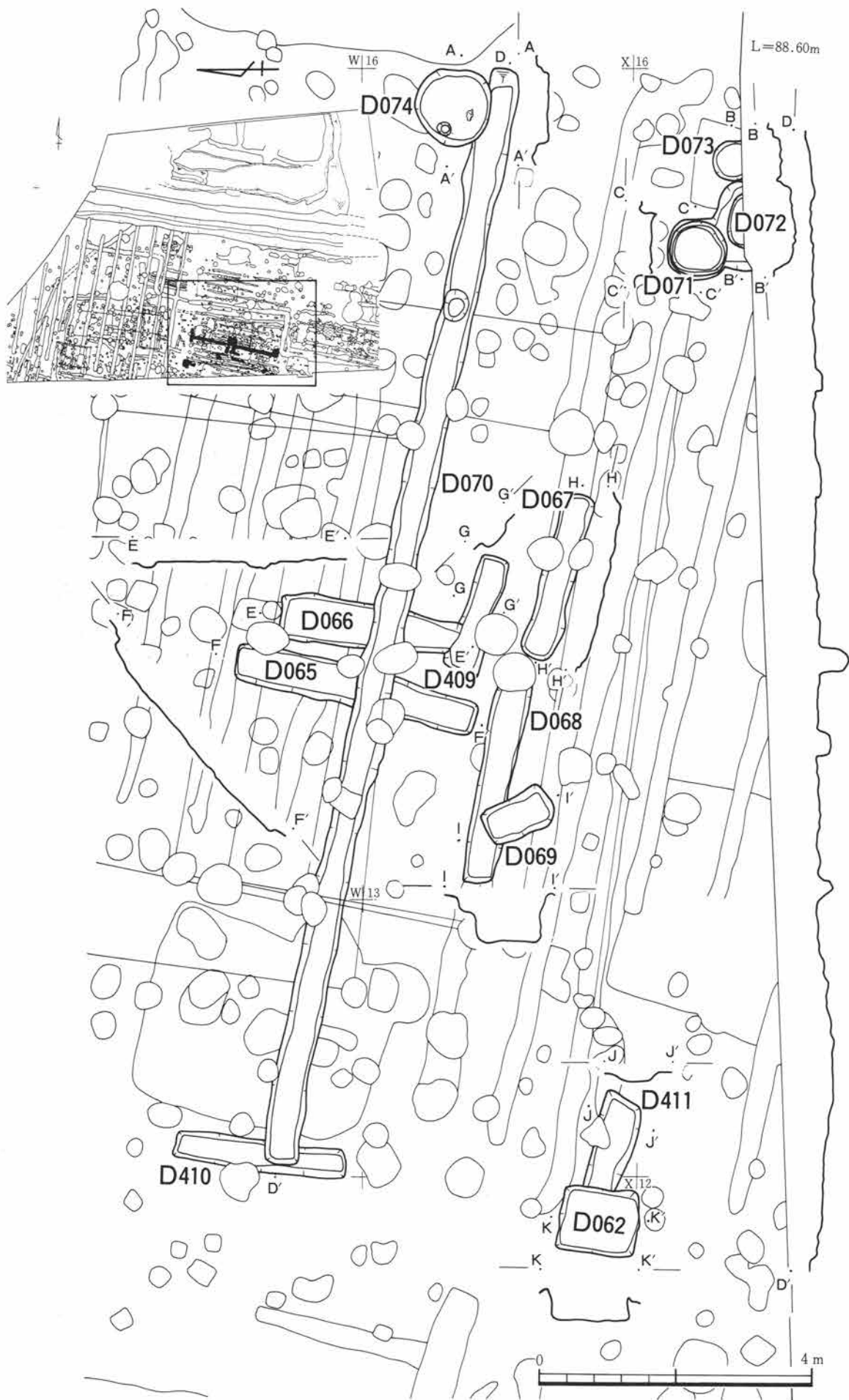
D076も井戸跡。径1.8m深2.2m。M045との新旧関係不明、畠跡N033より古い。海拔86.8mより湧水。壁の崩壊が強い。東西に小ピットが付く。埋め戻し時に投げ込まれた遺物は、石臼・五輪塔などの大型石造物が中心。石臼上玉は、把手棒が垂直に付くもの(4120)と水平に付くもの(4111)の両者が見られる。陶磁器類は多くないが、鉄釉の徳利の内面には鉄分が付着。木製品はスギの釣瓶部材などがある。18世紀後半。

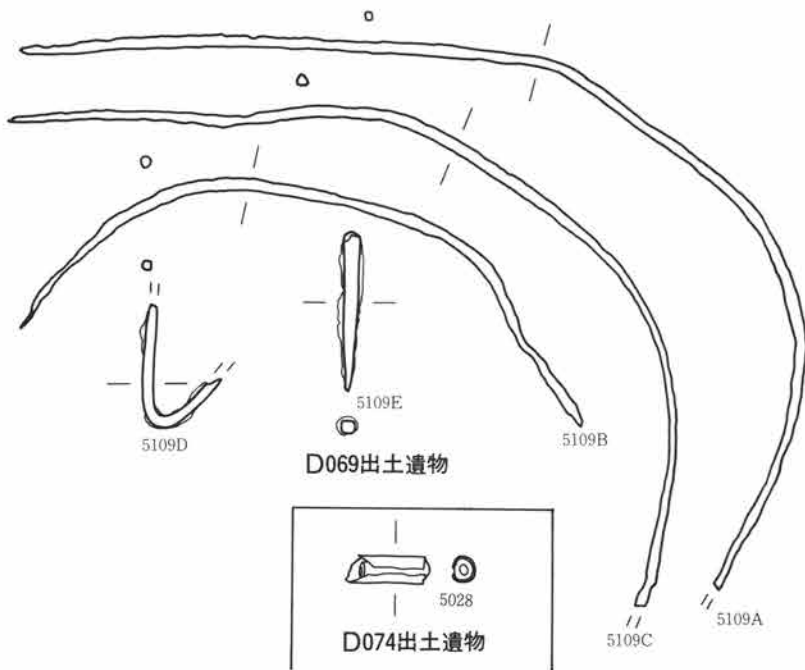
D063は円筒形。径約1m深1m。掘立J020と重なるが、新旧関係不明。近世か。

D064は短冊形土坑。長5.2m幅0.6m深0.3m。M044と重なるが、新旧関係不明。J020の長辺と平行。西端がやや幅広く、複数の掘り方の重複の可能性もある。形状より近世。

D078は小円形。径0.8m深0.2m。陶器猪口類と瓦質土器焙烙、そして長方形鉄板(5059)が見られた。土師器杯(2027)は混入。18世紀。

D408は小長方形。長0.8m幅0.5m深0.1m。M045との新旧関係不明。時期不明。





土坑D062, 065~074,
D409~411遺構
(PL.37,38)

D065・D067・D068(長2.4~3.8m以上幅0.4~0.6m深0.1~0.2m)は、掘立J016/019及び畠跡N033と重複し、走向が平行もしくは直交する短冊形土坑群。いずれも重複遺構との関係不明で遺物ないが形状より近世と考えられる。

重なる箱形土坑には、D062(長1.1m幅0.9m深0.4m)とD069(長1.0m幅0.5m深0.7m)があるが、後者から鉄製の吊り手(5109ABC)出土。D070(長16.1m幅0.5m深

0.2m)は長大だが、底の状態より長3.4mのものの重複延長と思われる。近世。

南東隅に桶埋設土坑群D071(径0.8m深0.2m)とD072(径0.7m以上深0.4m)は併存と思われ、方円形のD073より古い。楕円形のD074(長径1.2m短径1.0m深0.2m)はD070と重なるが関係不明。また西側内部に小ピットがあるが、重複かは不明。銅製キセル吸い口出土。近世。D073は方円形。長1.2mの方形の中央に円形で径0.5m深0.2m。短冊形土坑D409は長1.7m幅0.4m深0.1m、D410は長2.5m幅0.4m、D411は長1.4m以上幅0.5m深0.1m。

井戸跡D081, D082遺構 土坑D079, 080, 083~097, 412~416遺構 (P.50図 PL.7,8,39~43)

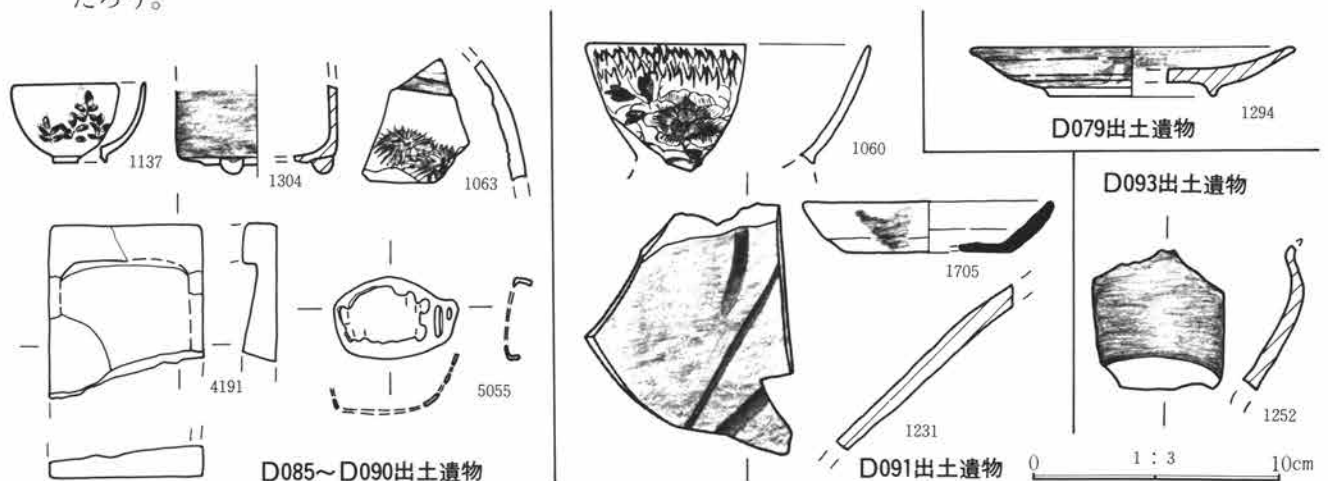
井戸跡D081は上幅2.0m深2.4mで、接する井戸跡D082は上幅3.8m深2.5m。共に海拔85.4mより湧水。後者では中位に井戸枠木製品3本(長約40cm径7cm非報告)が垂直状態で見られ、2本は倒れかけていた。この補修後上面が大崩壊し、その後前者を掘り直したと考えられる。D081からは、肥前くらかわんか手碗(1055)が見られ18世紀後半で、D082の遺物は肥前二彩鉢(1244)などいずれも18世紀前半。

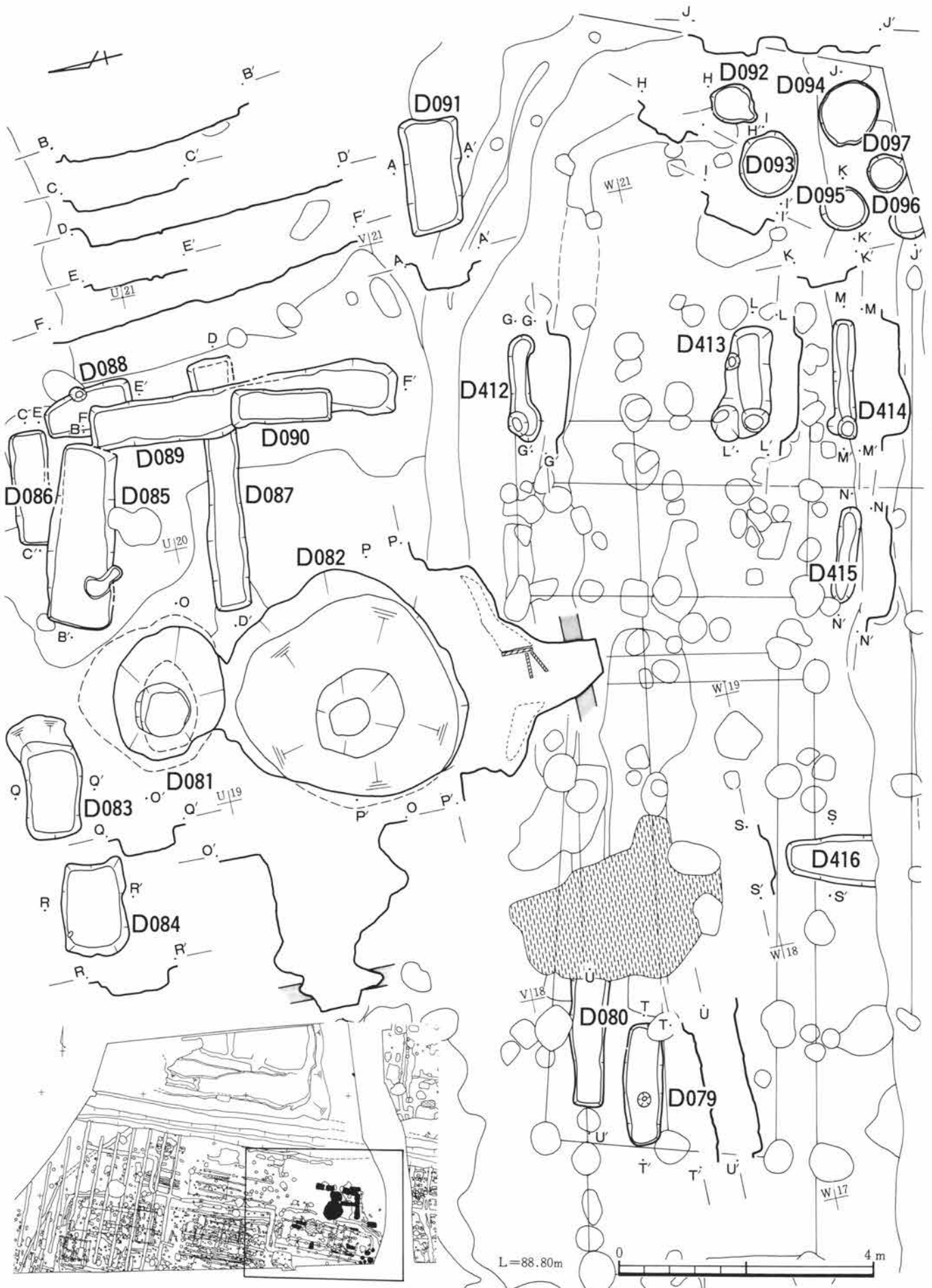
北東側の桶埋設土坑群D094, D095, D097は径60~80cm深30cmほどで、円形・平坦な底・垂直な壁。周辺のD092, D093, D096もほぼ同様の状態であるため、調査時には認識されなかったが、同じ性格の可能性はある。

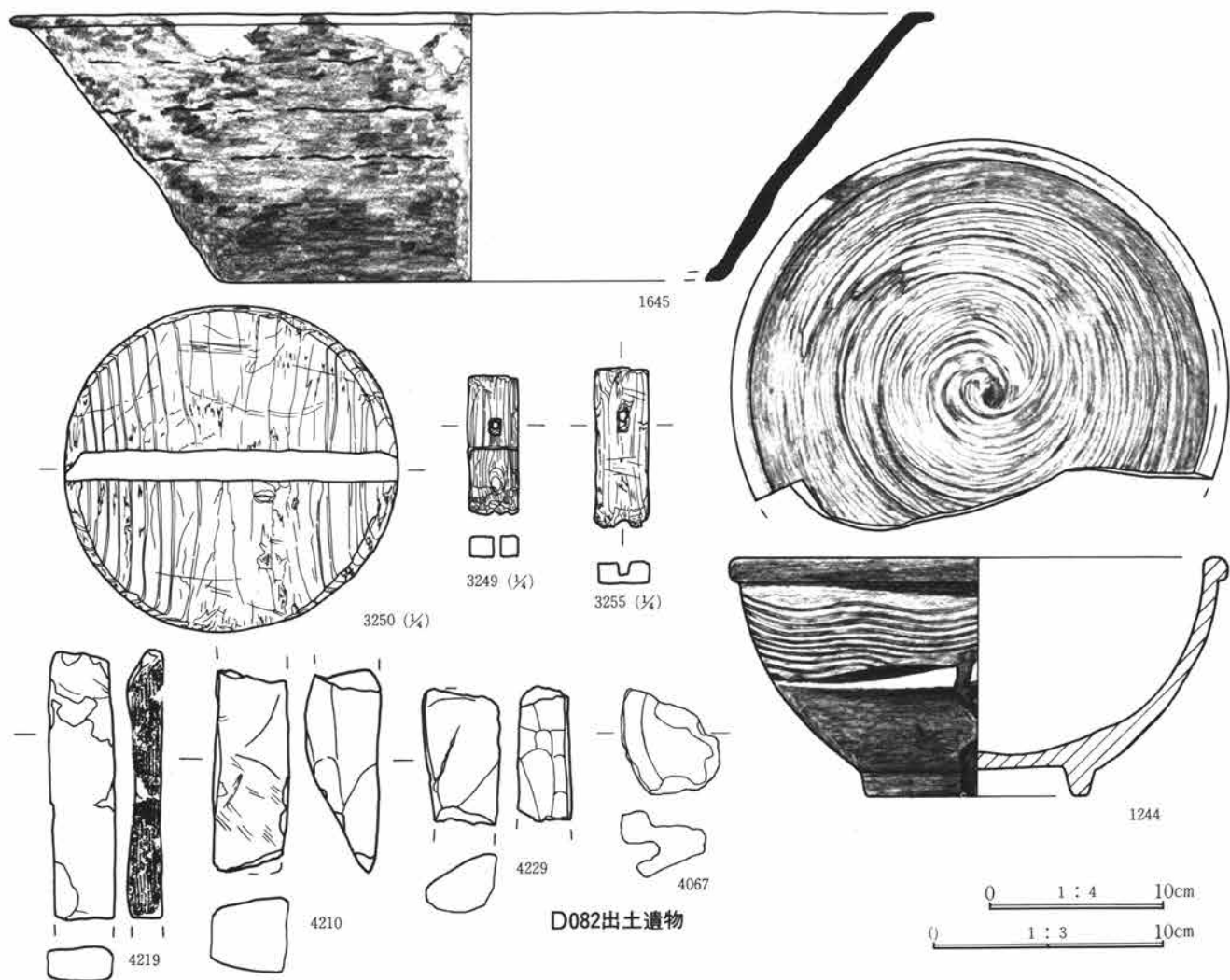
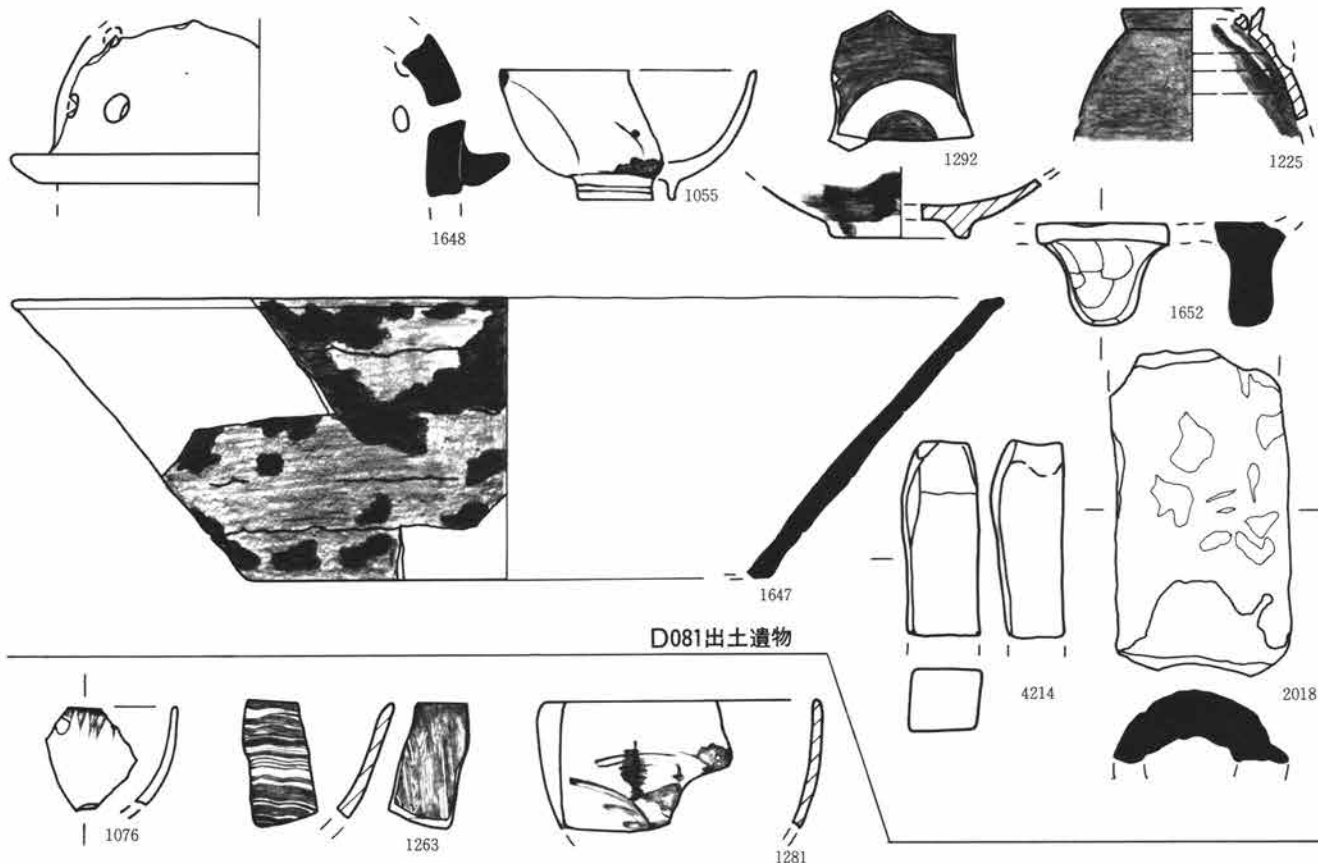
D079, D080, D085~D090, D412~D415は短冊形土坑。長1.4~4.8m幅0.3~1.0m深20~40cm。東西走向が多い。

D083, D084, D091は箱形土坑。長1.3~1.7m幅0.7~0.9m深0.3~0.4m。いずれも東西走向。

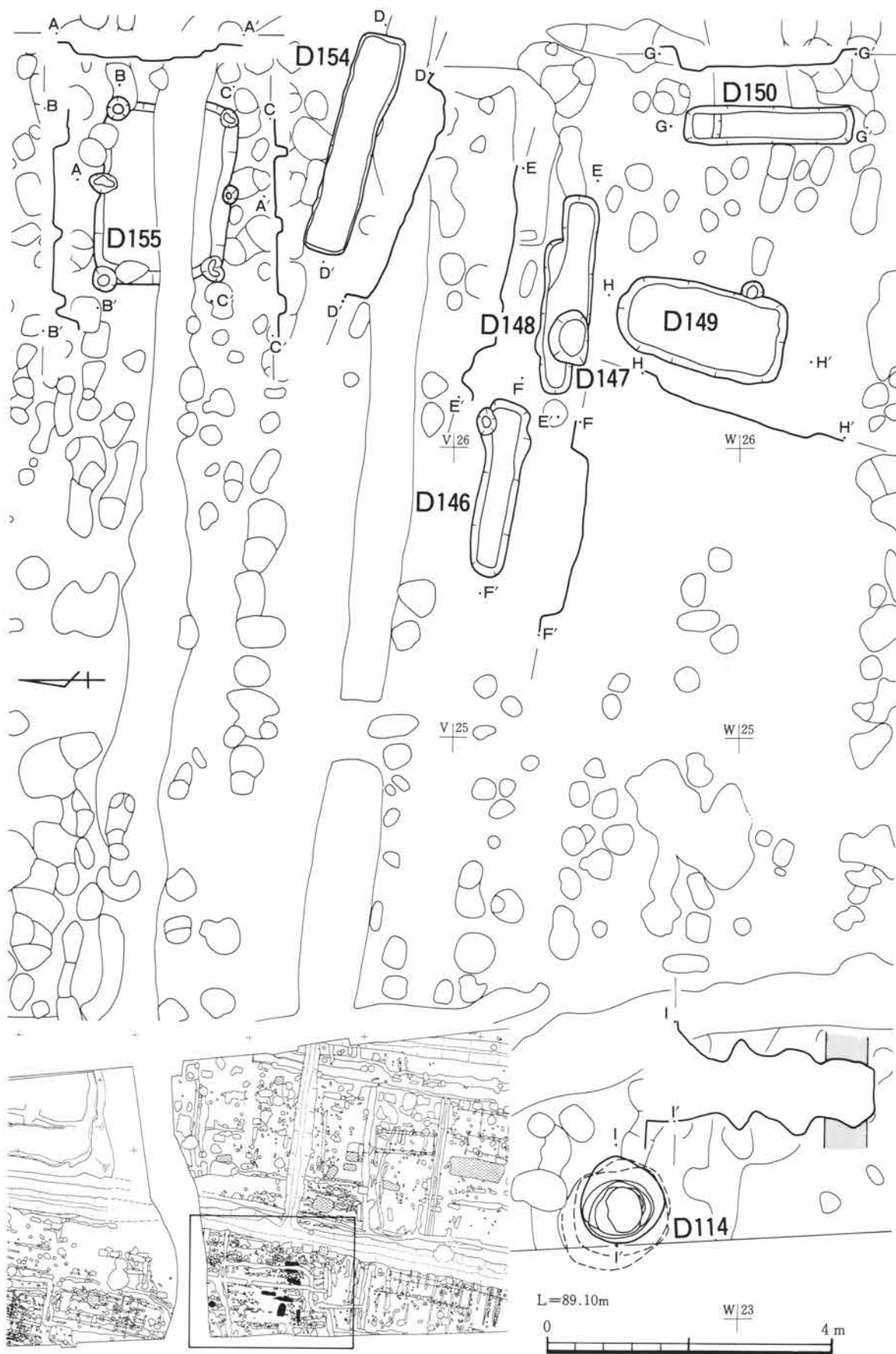
短冊形土坑の一部を除いて掘立群と重なるものが少なく、特に井戸跡はJ021~J023に対応するものだろう。

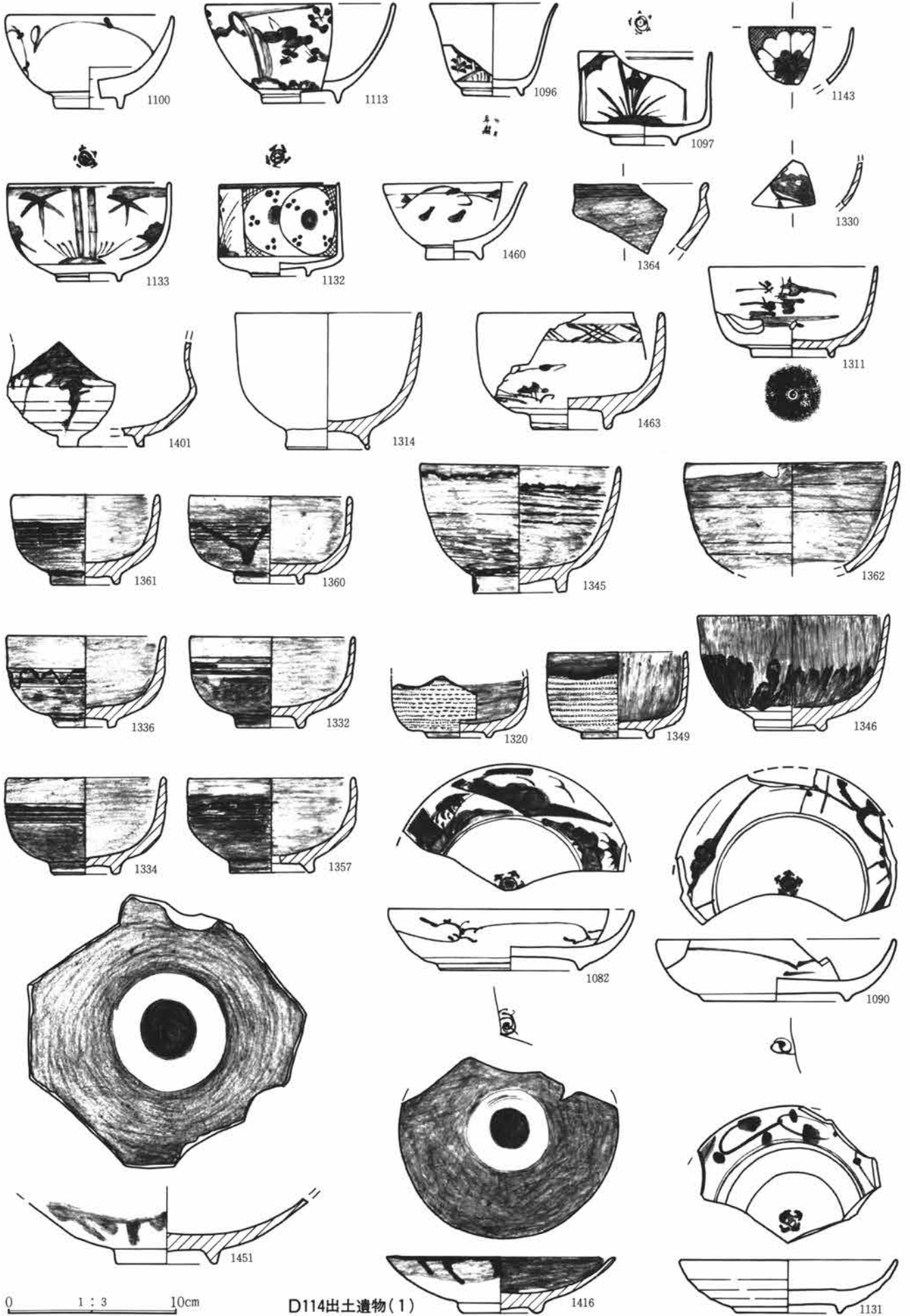


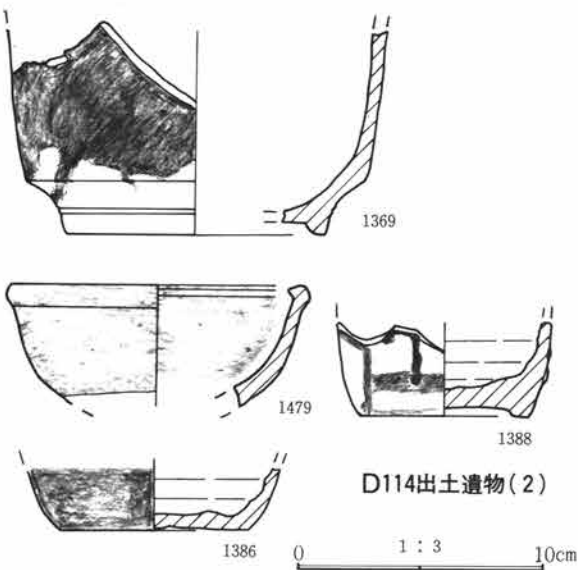
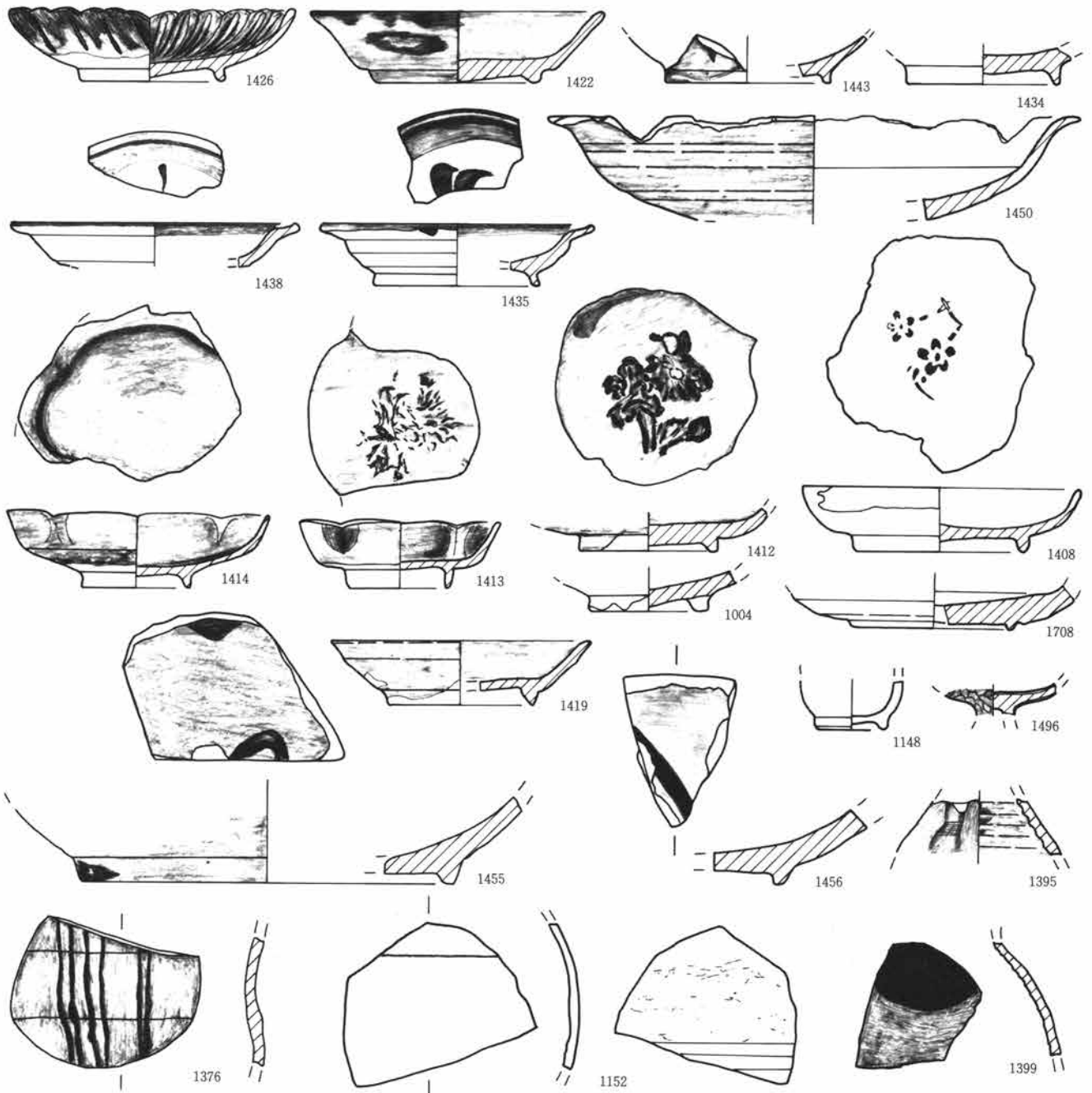




II 調査成果





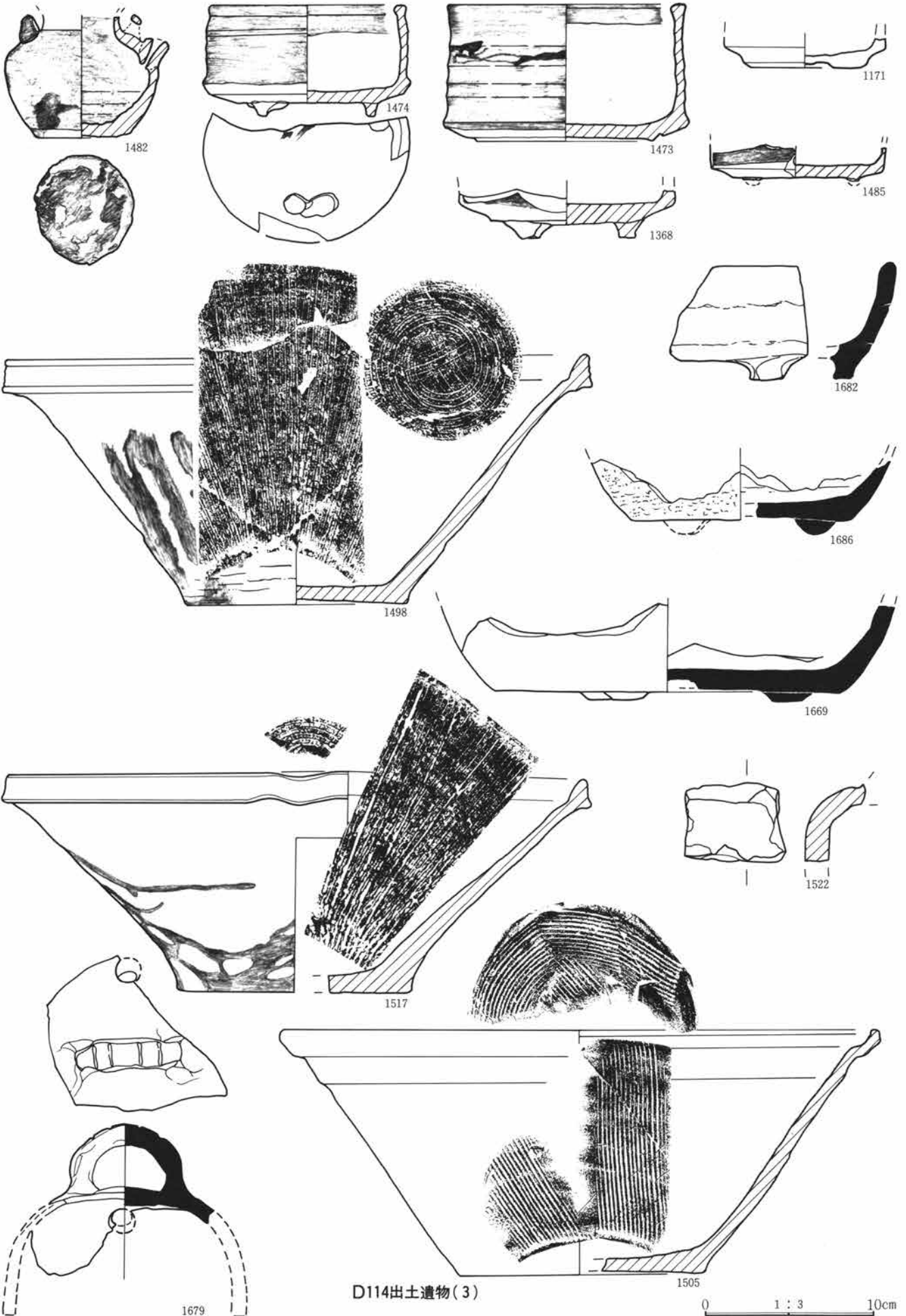


D114出土遺物(2)

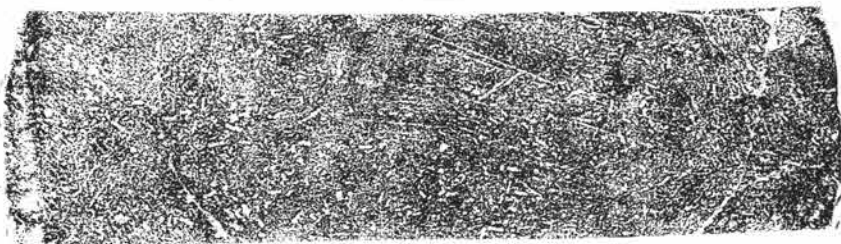
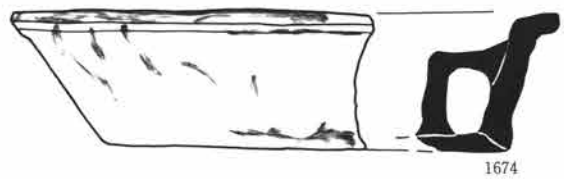
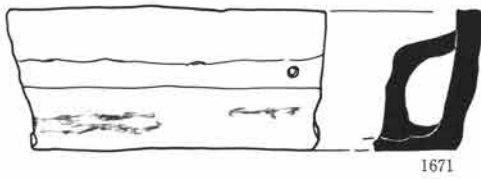
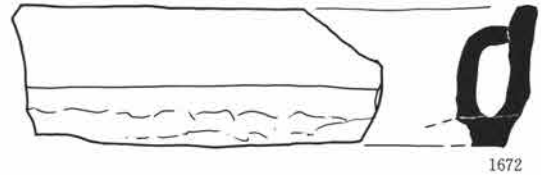
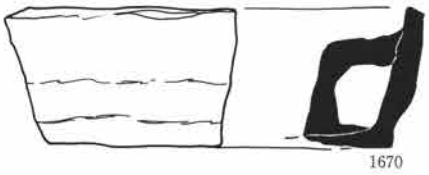
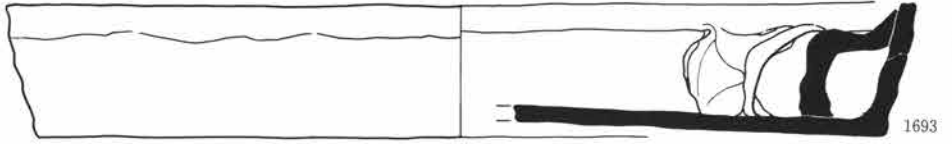
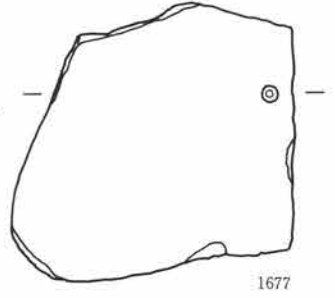
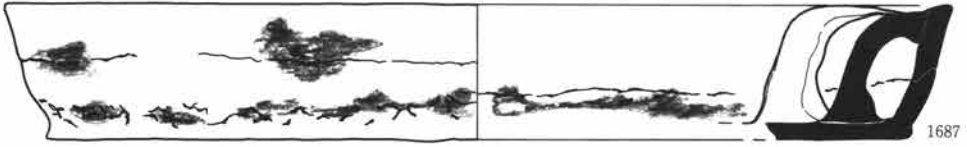
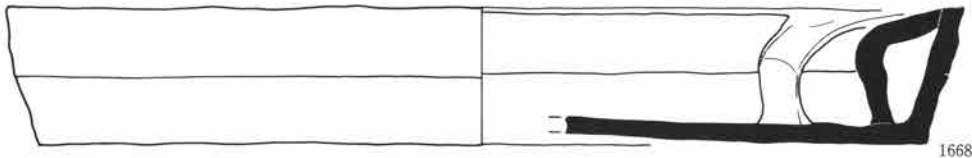
井戸跡D114、方形竪穴D155、土坑D146～D150、
D154遺構 (P.52図 PL.3,8,9,43～47)

井戸跡D114は上径1.2m深2.8mで海拔87.1mより湧水。長期間使用しており、上層(~0.6m)自然埋土・中層(~1.4m)人為的埋土・下層(~2.8m)自然堆積土に分かれる。大量の遺物が出土。(P.53～59)

方形竪穴D155は、平面2.4×1.8m深0.2mの規模で、四隅と長辺中央に深20cmほどの柱穴計6個が見られる。中央を区画溝M062に切れられ周辺も未命名の畝跡があり、調査時には認識がなかった。中世か。(続P.57)

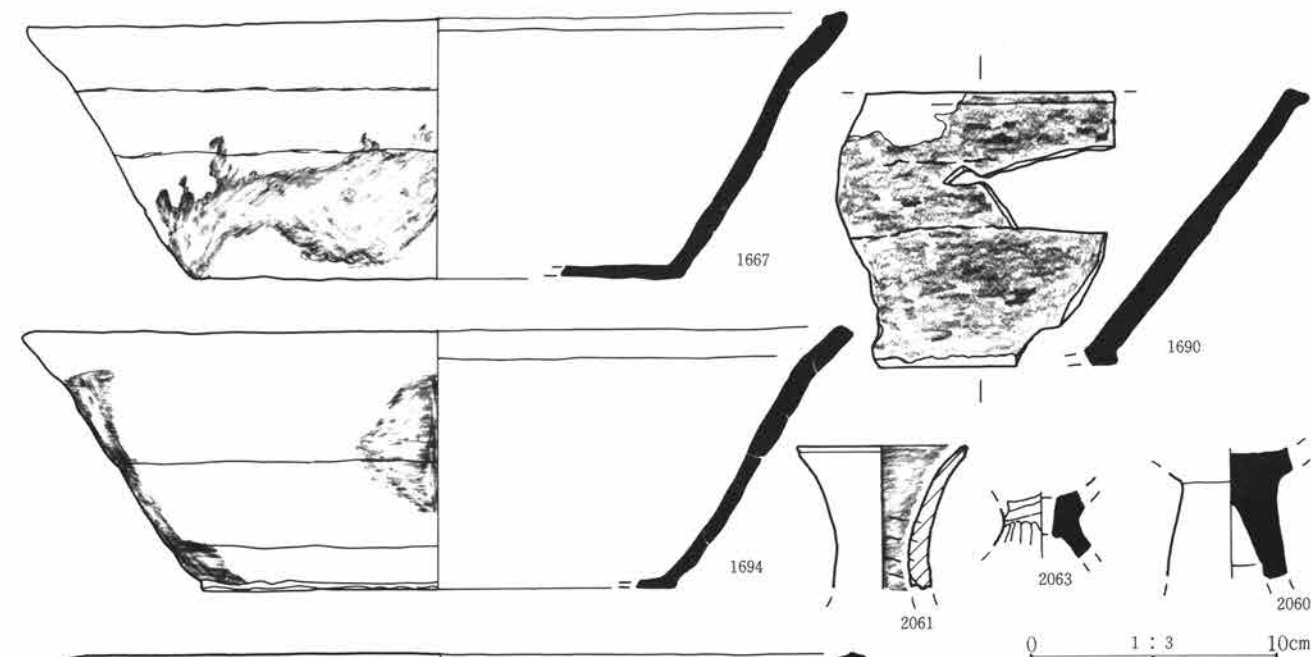


D114出土遺物(3)



D114出土遺物(4)

0 1 : 3 10cm



D114出土遺物(5)

D146～D150, D154は短冊形土坑。長2.1～3.1m幅0.4～0.6m深0.2～0.4mで東西走向が多い。D149は2基重複か。近世。

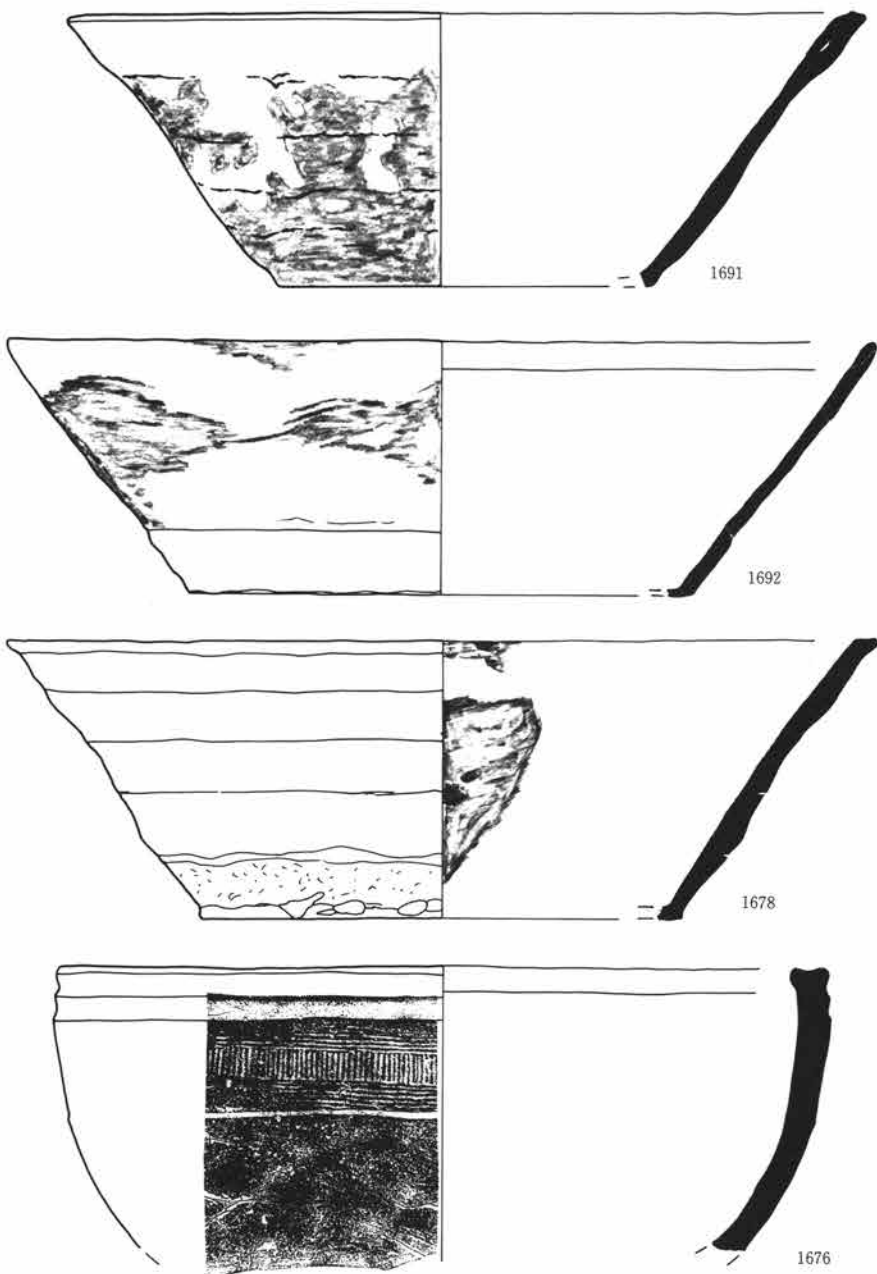
D114の遺物は、本来各層に分かれていたが、個々の遺物について出土状態の記録は取れなかった。

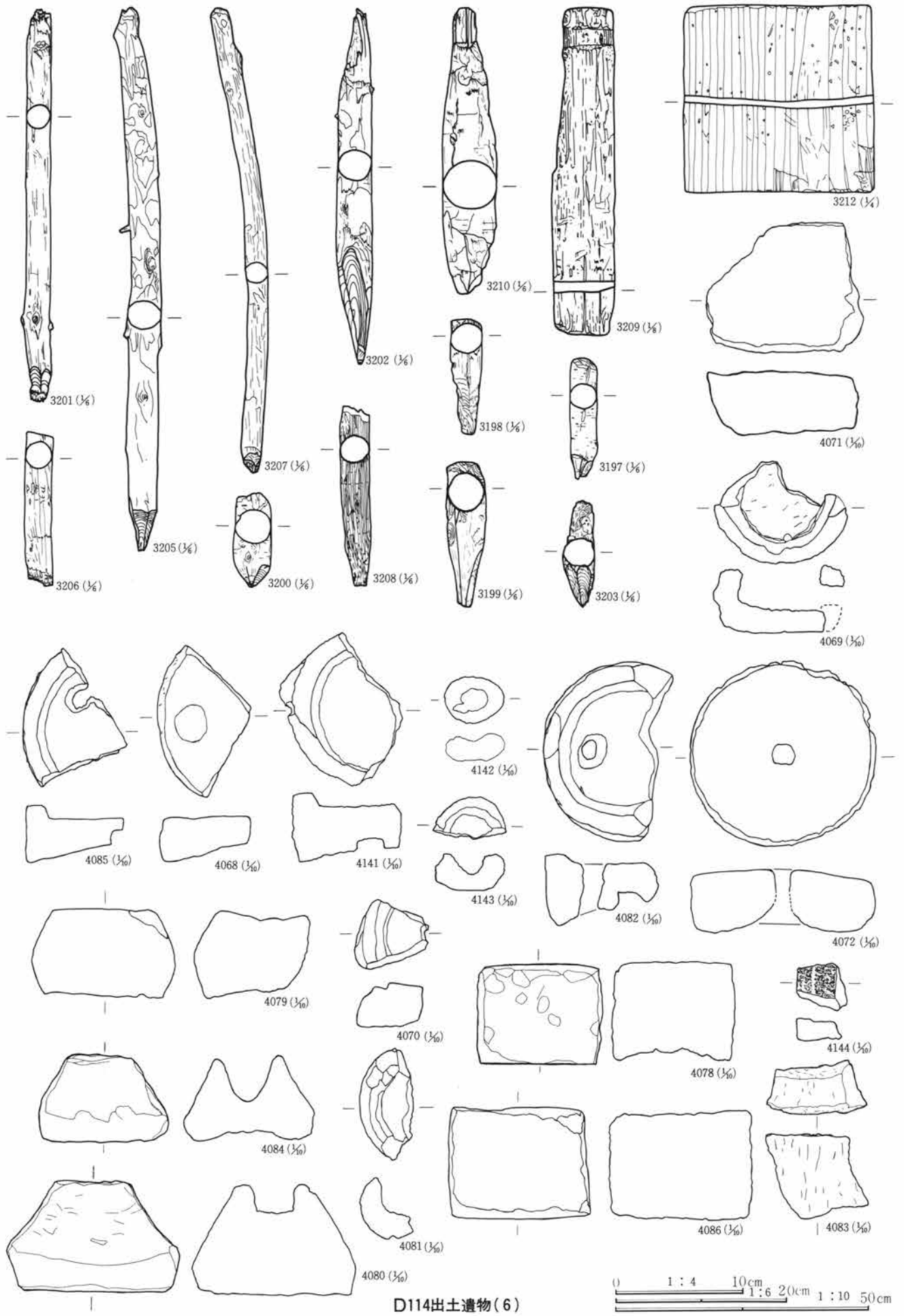
食器の碗・皿・鉢・瓶類(P.53,54図)は、瀬戸美濃系陶器が中心である。これに肥前系陶磁器が加わる。

碗類では1690年代～18世紀前半の肥前染付遠山・松文碗(1113)・17世紀末～18世紀初頭の肥前京焼風色絵碗(1330)・関西系錆釉碗(1401)、皿類では18世紀前半の瀬戸美濃摺絵型打皿(1413)が目立つ。

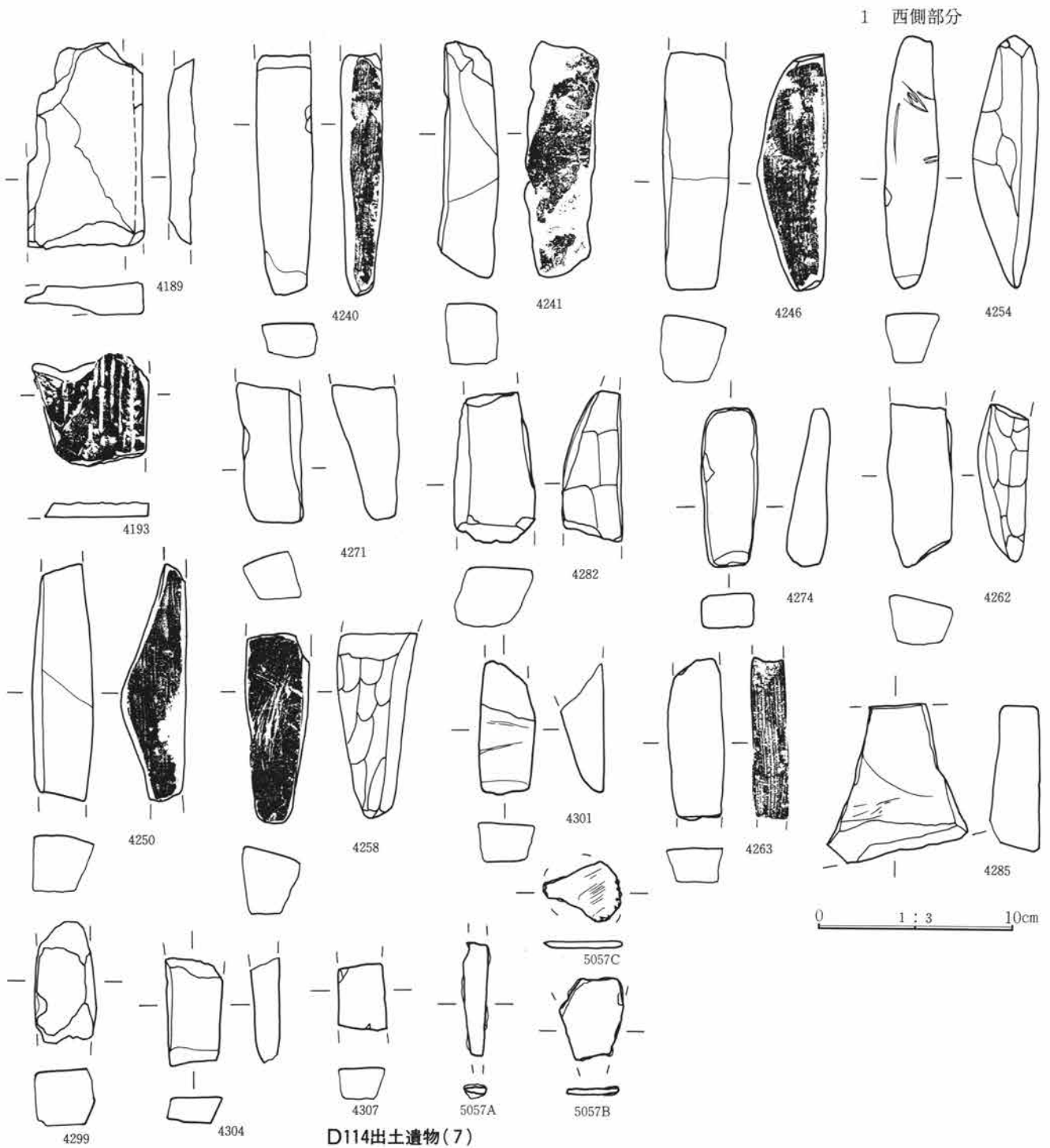
傾向として17世紀後半から18世紀初頭頃のものが多く、次に18世紀末から19世紀初頭のものとなっており、18世紀中頃から後半のものが少ない。また後の時期ではすでに一般的であるはずの磁器が多くない点は、注意を要する。

(続P.59)





D114出土遺物(6)



調度具(P.55,59図)では、16世紀代の瀬戸美濃錆釉水注(1482)や不明墨書のある17世紀後半の同銘釉香炉(1474)が古く、他は18世紀の香炉類が多い。硯(4189,93)もあった。

調理具(P.55~58図)は、搗鉢・焙烙・埴・石臼の出土量が多い。特に搗鉢以外は、同一器種の投棄数が少なくない。瓦質土器の埴と焙烙が、消耗品的な基本の調理具であったことを物語っている。焙烙の底に麦殻状圧痕が見られたもの(1739)があった。焙烙では内面に菊花押印が2例見られた。産地不明の錆釉搗鉢(1498)は16世紀の可能性が有る。(続P.60)

II 調査成果

(P.59より)

暖房具は、瓦質土器の大小の火鉢類(P.55,57図)である。灯火具は、瓦質土器の手持ち火入れ(P.55-1679)が出土した。

古墳時代の土師器・須恵器(P.57-2060,61,63)の混入も少しあった。

木器(P.58図)の杭が何故か多く、また他の石造物では五輪塔各部分(P.58図)、そして砥石(P.59図)がややまとまって出土した。

以上の中で、石造物については中層の出土である。杭類は、中層以下に見られた。これらの石造物と杭類がこの井戸の構造に関係する可能性については不明。

年代の判明する陶磁器の傾向は、16世紀2点、17世紀10点、18世紀33点、19世紀12点である。それより、上層は19世紀初頭、中層は18世紀前半、下層は17世紀中頃と考えられ、中層と下層の間が使用時期であろう。前述のように、特に一般に大量に存在するはずの18世紀後半の肥前磁器くらかんか手碗類が全体の量に比べ少ないことは、上層での投棄が中層での投棄と不連続であったことを示していると思われる。

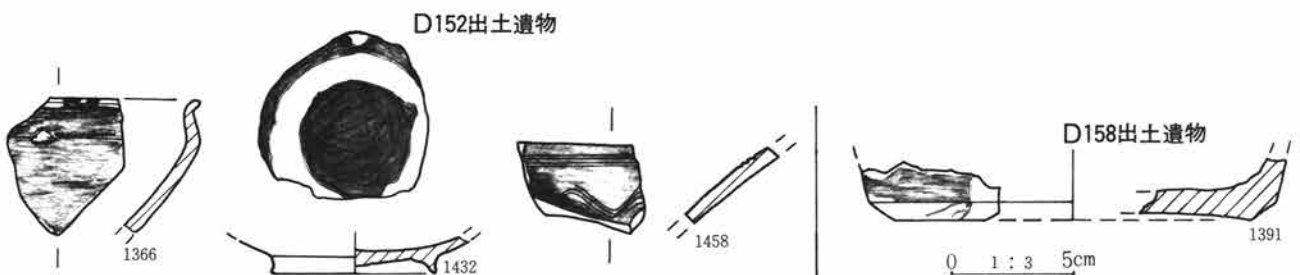
ただし、この井戸跡の遺物と後述の井戸跡D123(P.86)の遺物は、調査時の不手際で一部分別できないものがあり、それについては検討の結果全てD123の遺物として扱ったことを付記しておく。

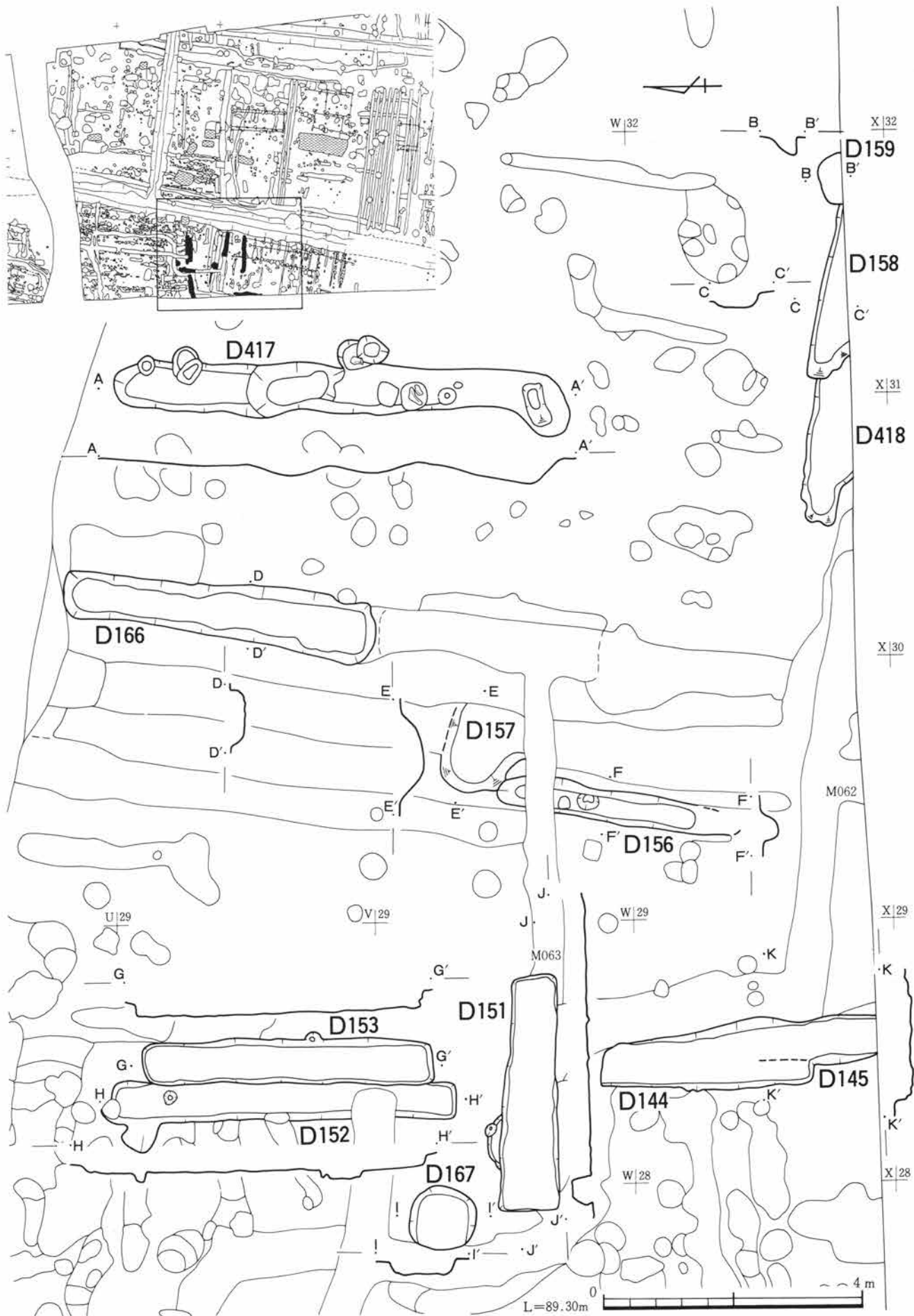
土坑D144, D145, D151~D153, D156~D159, D166, D167, D417, D418 遺構 (PL.8,47,48)

南堀跡南側の短冊形土坑群。南北走向がD144, D145, D152, D153, D156, D166, D417で、長3.2~5.2m 幅0.4~0.6m 深20~40cmと、やや長めのものが多い。東西走向はD151, D158, D418で、D151の場合長3.6m 幅0.8m 深30cmを測る。これらの中には、区画溝M062, M063、畠跡N032の走向にほぼ重なるか、厳密には区別しにくいものが多い。

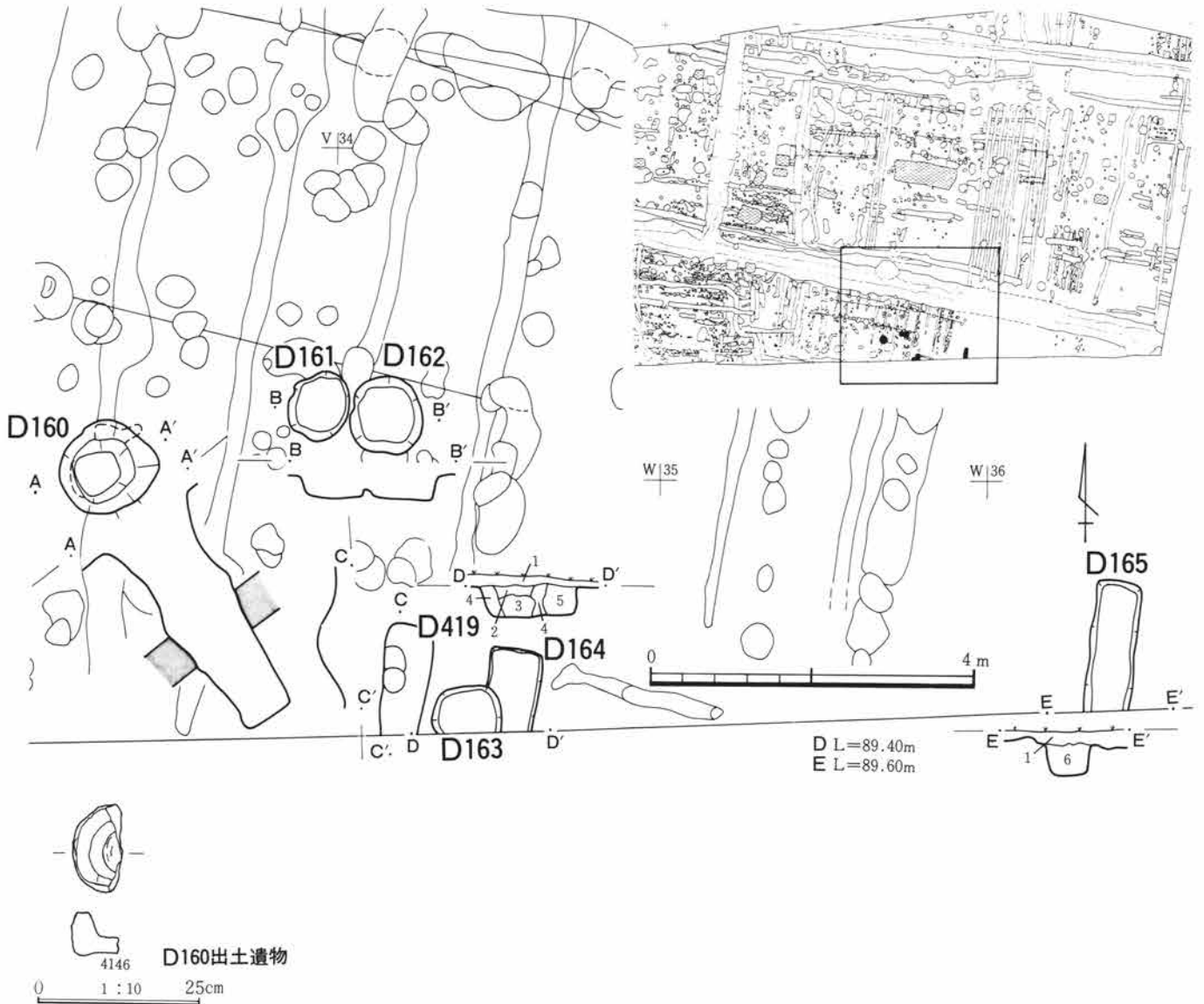
D152より17世紀の瀬戸美濃黄瀬戸釉鉢(1458)・17世紀後半~18世紀前半のうのふ釉天目碗(1366)などが出土している。またD158からは、18世紀の瀬戸美濃柿釉徳利(1391)が出土している。一般に短冊形土坑から遺物が出ることは少なく、特に17世紀の遺物は極めて珍しいため、これらの土坑群の年代は18世紀とするのが妥当である。

D157(深40cm)とD167(幅0.9m 深20cm)は、箱形土坑にやや近い形態だが、重複遺構のため形状不明。近世か。





II 調査成果



井戸跡D160遺構 土坑D161～D165, D419遺構 (PL.49)

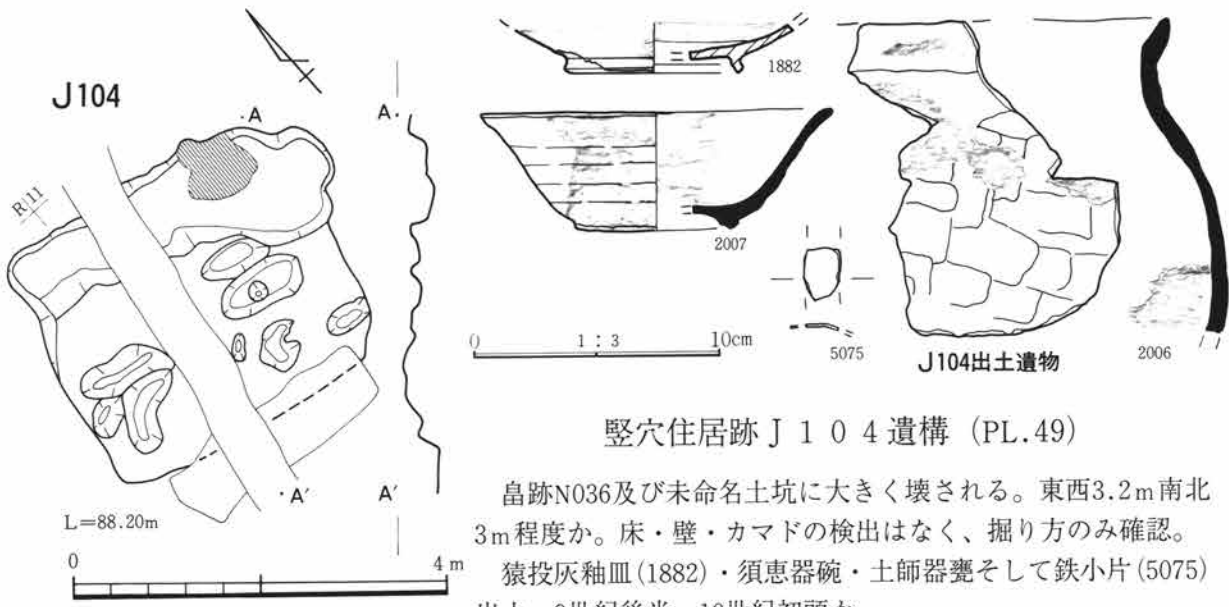
掘立柱建物跡J027の南側に位置する井戸跡D160は、径1.2m深2.8mで海拔87.9mより湧水。それほど長く使わないで埋め戻した状態が、壁などから見られた。小型の石鉢片(4146)が出土。近世か。

D161, D162, D163は、それぞれ径0.8m深30cmを測り、平坦な底とまっすぐ立ち上がる壁より桶埋設土坑と考えられる。D断面 1.耕作土 2.固い暗褐色砂質土 3.灰を含む黒褐色砂質土 4.ローム・粘土塊含むにぶい黄褐色粘質土 固い 5.しまり弱い暗褐色砂質土

なお調査時には、桶埋設土坑との認識はなかった。

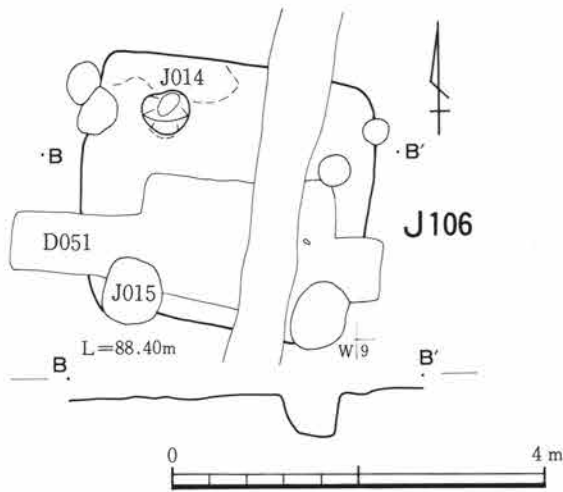
D164, D165, D419は、南北走向の短冊形土坑。幅0.5～0.6m深50～60cm。E断面 6.しまりなくローム塊含む暗褐色砂質土

D断面に見られるように短冊形土坑D164が桶埋設土坑D163より新しい。いずれも近世か。



竪穴住居跡 J 1 0 4 遺構 (PL.49)

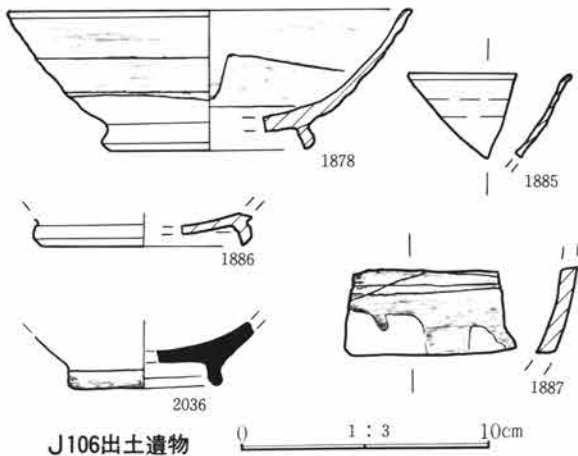
畠跡N036及び未命名土坑に大きく壊される。東西3.2m南北3m程度か。床・壁・カマドの検出はなく、掘り方のみ確認。
 猿投灰釉皿(1882)・須恵器碗・土師器甕そして鉄小片(5075)出土。9世紀後半～10世紀初頭か。

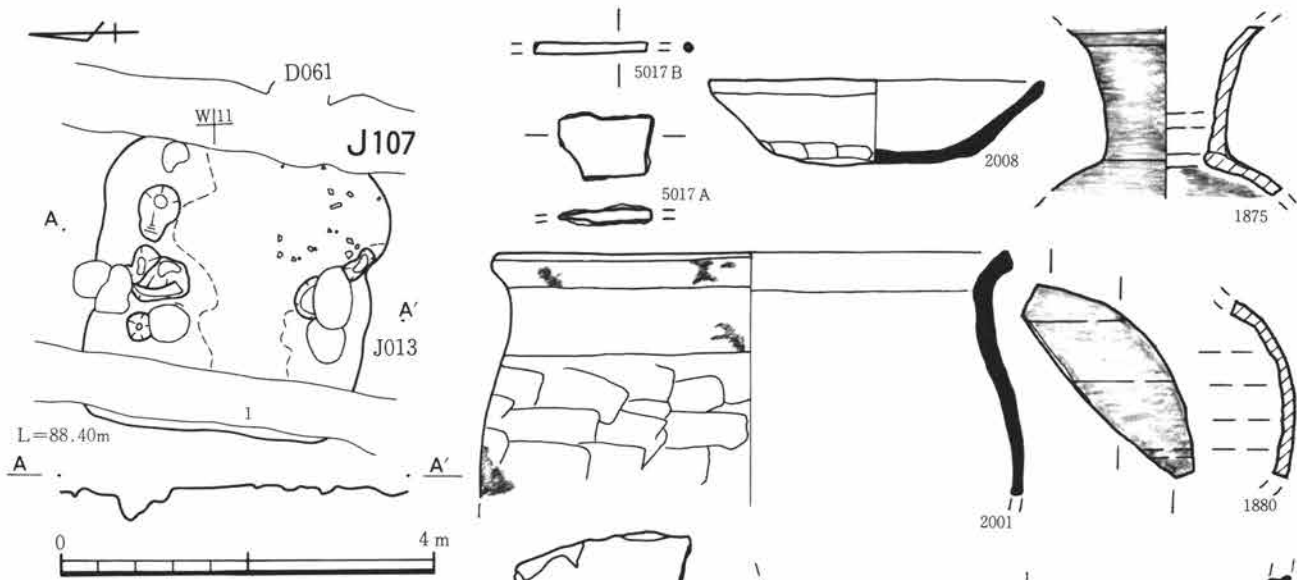


竪穴住居跡 J 1 0 6 遺構 (PL.50)

畠跡N036・掘立J014,J015・土坑D051それぞれに壊される。東西3.2m南北2.8m。北西側隅のみ床確認。その近くに柱穴が1基あるが、掘立のもの可能性もある。壁・カマド不明。大部分は掘り方のみ確認。

美濃灰釉碗(1878,85)・猿投同碗(1886)そして猿投同壺小片(1887)と土師器碗(2036)が出土。10世紀中頃か。





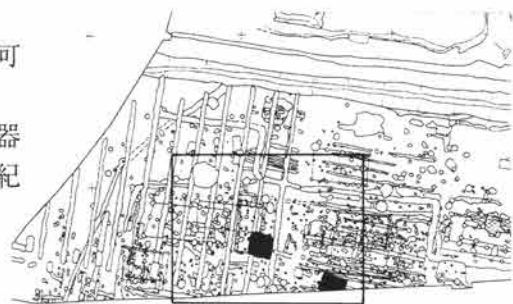
竪穴住居跡J107遺構 (PL.50)

畠跡N036・掘立J013・土坑D061それぞれに壊される。東西3.0m以上南北3.1m。南東隅側が少し張り出す。床面は中央部から南東側のみ確認。北側に柱穴状のピットがいくつかあるが、掘立のものの可能性もある。壁・カマド不明。大部分は掘り方のみ確認。

猿投灰釉長頸瓶(1875.80)・同瓶類底部(2011)そして土師器甕・同坏・須恵器壺(2002)また鉄小片(5017A,B)が出土。10世紀後半頃か。

南2.2mにやや古い井戸跡D056(P.43)がある。

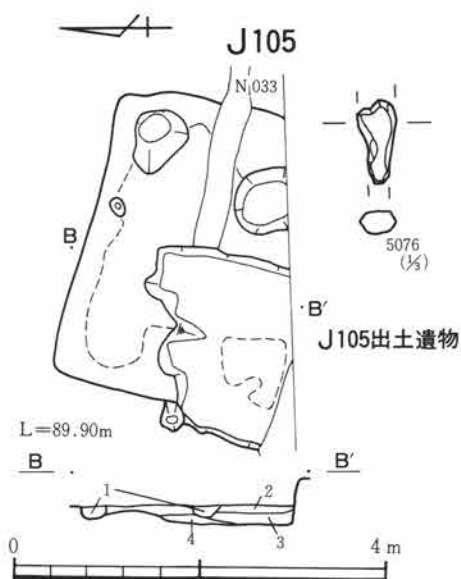
J107出土遺物 0 1:3 10cm

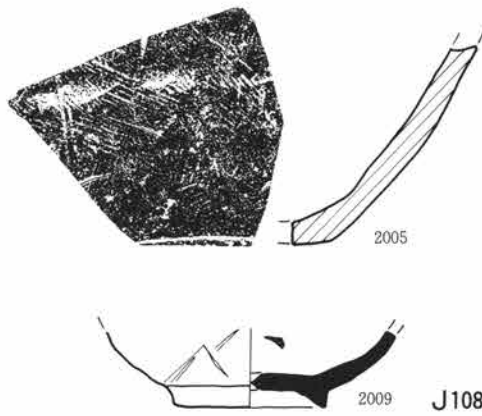
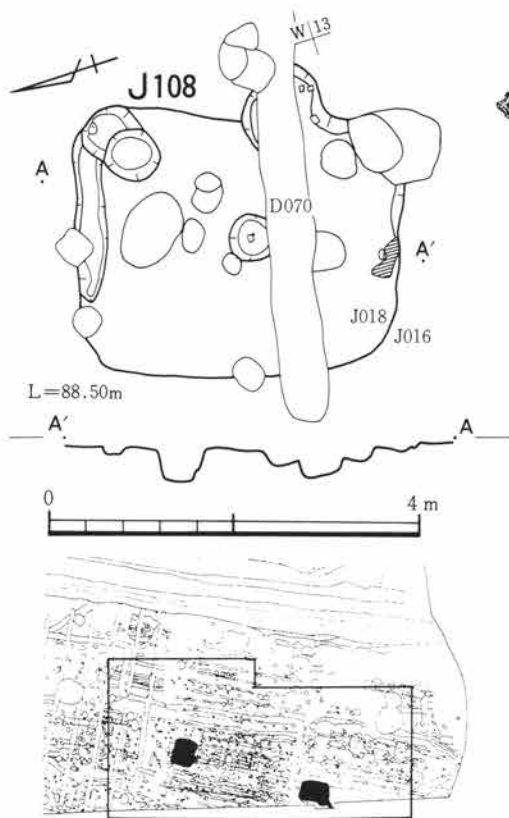


竪穴住居跡J105遺構 (PL.51)

畠跡N033に壊される。東西3.6m南北2.1m以上。しかし北辺は畠跡と重なっている可能性もあり、厳密には形状規模不明。南西側には土坑状の落ち込みがあるが、土層的には同じ遺構になる。中央部で検出した床状の部分も平坦ではない。1.しまりない褐色砂質土 2.暗褐色粘質土 3.ローム塊含む黒褐色粘質土 4.ローム粒含む褐色粘質土 不明鉄製品小片(5076)のみ出土。

竪穴住居でない可能性もある。古代か。





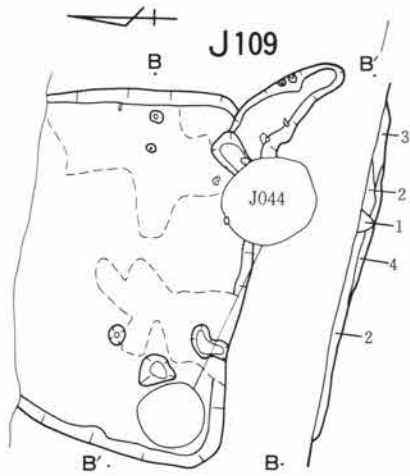
J108出土遺物

竪穴住居跡 J 1 0 8 遺構 (PL.51)

掘立柱建物跡J016, J018・土坑D070に壊される。南北3.4m東西2.7mで、南北線よりやや時計回り方向にずれる。東辺やや南よりにカマドがあるが、中心部分は土坑に壊される。中央に径40cm深20cmほどの柱穴がある。また北辺には周溝状の浅い掘り込みがある。

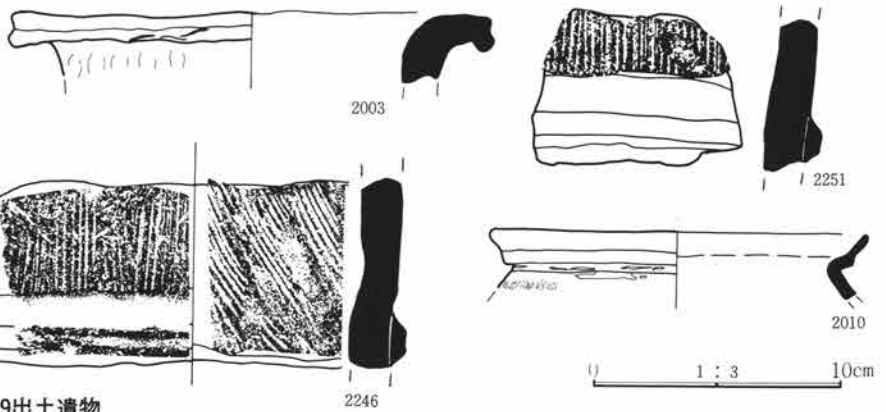
カマドより陶器質須恵器壺片(2005)が、また他に土師器碗(2009)が出土。9,10世紀頃。

周辺では最も残りの良い竪穴住居。



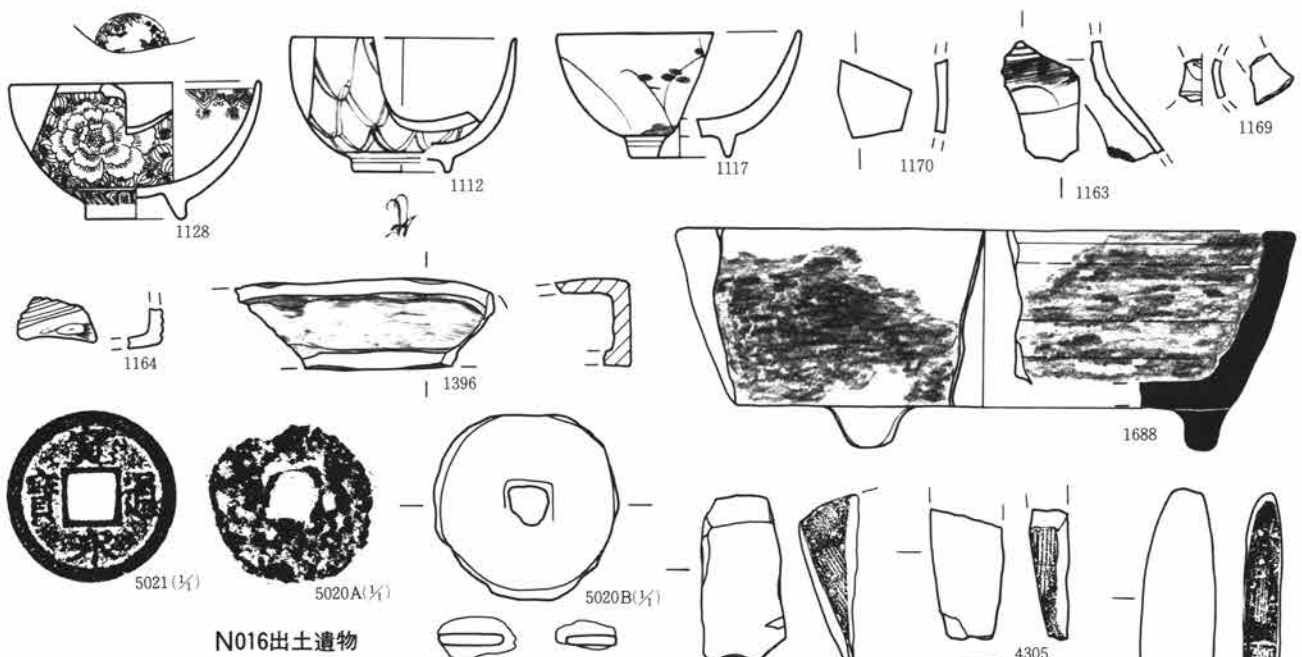
竪穴住居跡 J 1 0 9 遺構 (PL.51)

掘立柱建物跡J044・区画溝M044に壊される。南北2.2m以上東西4.0m。南東隅に細長く伸びたカマドがある。10cmほどの掘り込みで、東壁際と南壁中央でやや状態の良い床面検出。1.褐色砂質土 未命名畠跡埋土 2.暗褐色粘質土 しまりない 3.黒褐色砂質土 ローム粒含む 4.黒褐色粘質土 カマド内より粗製土師器釜(2003)と円筒埴輪片(2250)が出土し、他にも埴輪片があった。埴輪片を転用してカマドを築いていたと思われる。また古墳時代前期の土師器甕片(2010)も見られた。11,12世紀頃か。



J109出土遺物





N016出土遺物

N031出土遺物

畠跡N016, N019, N031, N032遺構 (PL.18)

N016は、南堀跡と道路跡X001の間の南北方向にサクが走る。南北27m東西10mで、耕作単位は270m²。サクは上幅30cm深20cmほどで8条見られる。

掘立柱建物跡J031・区画溝M051, M052, M057と重なる。

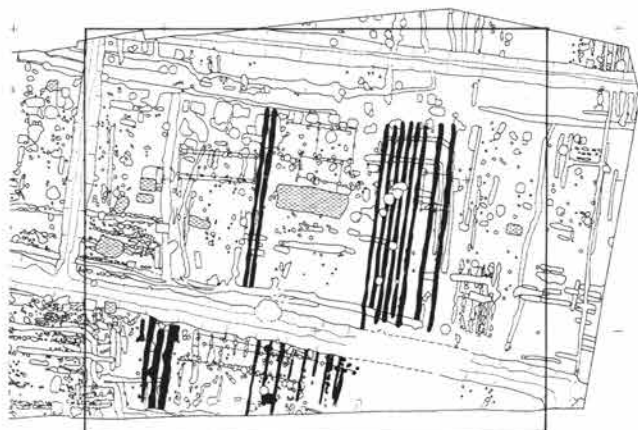
出土遺物は比較的多く、多彩である。陶磁器は、17世紀後半～18世紀前半の肥前白磁瓶片(1169, 70)が最も古い、それ以降の18世紀後半から19世紀のものが中心で、肥前染付雨竜文湯飲み碗(1164)・瀬戸美濃灰釉びん水入れ(1396)・鉄銭(5020B)などが代表的なものである。また瓦質土器小型火鉢(1688)や軒棧瓦(2272)も見られた。

18世紀中頃の区画溝M057との重複関係は不明だが、上記の遺物より、この畠跡が新しく、主体的な時期は18世紀後半から19世紀と考えられる。

N019は、同様に南堀跡と道路跡X001の間の南北走向のサクだが、2条しか検出されない。南北24m以上東西1.5mで、耕作単位は36m²以上である。走向は全くN016と同じだが、2本しかサクがないことは不自然であり、掘立と重複しないことも考えれば道路跡の可能性も考えられる。区画溝M057との重複も含めてN016と同様の年代が想定できる。

N031は、南堀跡の南側で検出され、掘立J027と重なる。東西20m南北10m以上で、耕作単位は200m²以上。間隔1.2mほどで浅い10cmほどのサクが14条確認された。遺物は、1630～40年代の肥前白磁小杯(1165)が見られた。掘立J027からは17世紀前半の陶器が出た(P.37)ため、この畠跡の年代は17世紀後半以降と考えられる。

N032は、N031の西に接しており、東西4m南北12m以上で、耕作単位は48m²以上である。サクは70cmほどと広いが、深さは20cm以下である。遺物はないが、時期はN031と同じだろう。



区画溝M054, M202~M204遺構 (PL.6,52)

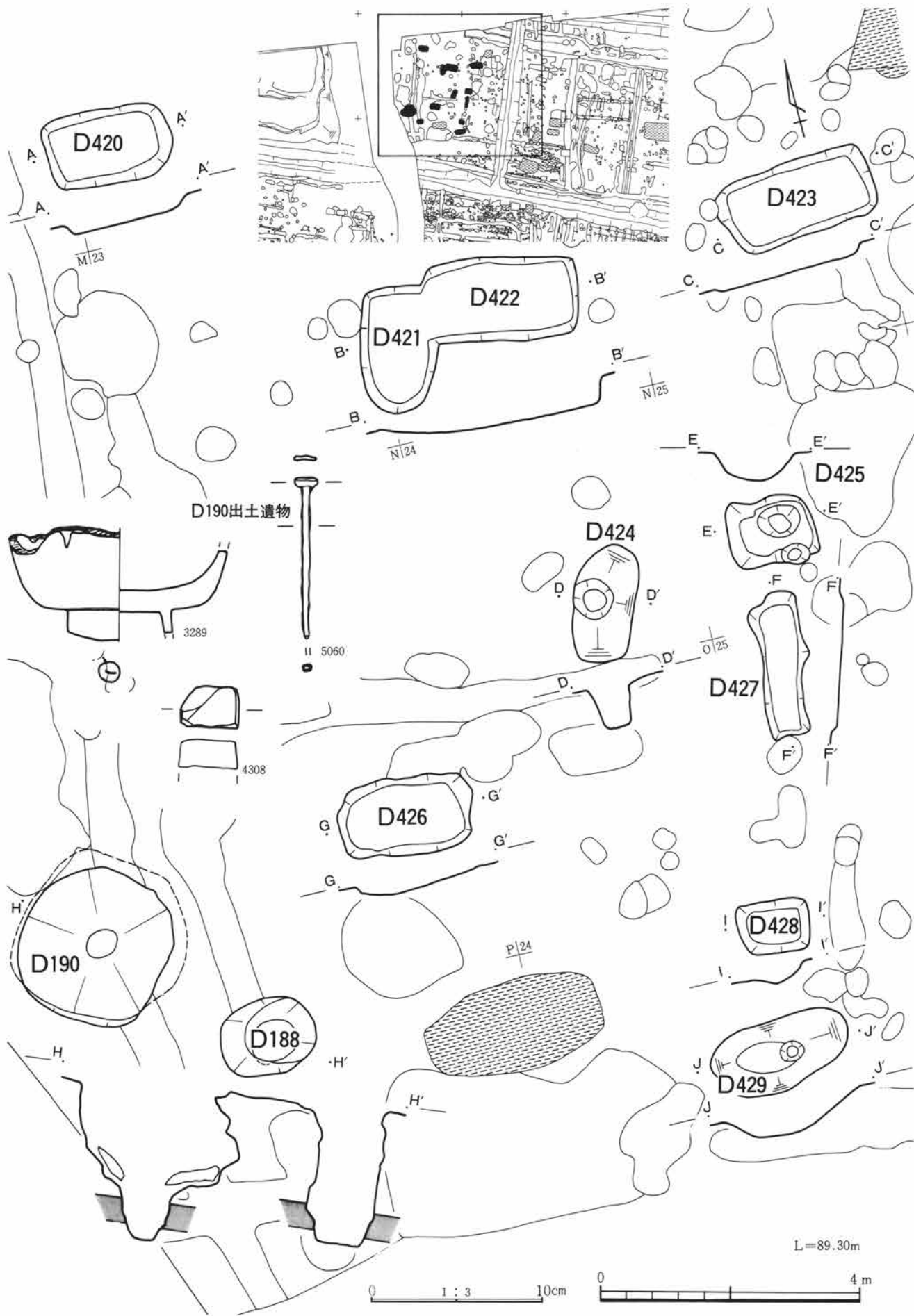
南北走向堀跡M064をはさんだ両側の区画溝。南北走向では西端にM202とM203の2条があり、30m離れた東側ではM054が走っている。その間を東西走向でM204が西に向かっている。上幅はM202が0.5m、M204が0.9mで他は1.2mほどあり、断面形はM204のみV字形である。M204はM064より新しい。M202~M204は遺物がないが、近世と考えられる。





M054出土遺物

M054からはかなり多くの遺物が見られた。陶磁器は17世紀から19世紀まで幅広い。17世紀では1650～80年代の肥前染付瓶(1154)、18世紀では肥前陶器二彩刷毛目鉢(1447)・同白磁壺(1157)が目立つ。白磁壺の内面には鉄分が付着していた。また瓦質土器火鉢類と土師器小皿が見られた。17世紀中頃から19世紀までの長期使用が考えられる。



井戸跡D188, D190遺構 土坑D420～D429遺構 (P.72 PL.53)

井戸跡D188は、区画溝M203と重なる。上径1.1m深2.1mで海拔87.5mより湧水。全て自然埋土で、長期間の使用が考えられる。北西1mほどに接する井戸跡D190は、上径2.2m底径0.4m深2.4mで海拔87.4mより湧水。中位で壁の崩壊が見られた。○内に一字が書かれた漆椀(3289)及び鉄釘・砥石が出土。いずれも近世か。

D420～D423, D426は箱形土坑。長2.0～2.2m幅1.2mで深20～40cmほど。東西走向が中心で規格的な配置。近世。D427(長2.1m幅0.6m深20cm)は南北走向の短冊形土坑。D424, D425, D429は中央に深40～60cmのピットがあり、掘立があった可能性も考えられるが不明。D428は平面1.1×0.8mの方形。性格不明。いずれも近世か。

井戸跡D189, D192遺構 土坑D133遺構 (P.72図 PL.53)

井戸跡D189は、南堀跡と南北堀跡M064の交点近くの西側に位置。底径0.5m深1.7mで北西側に3段の石敷階段が1.2mほど延びる。海拔87.9mより湧水。径は小さく直接段を降りての水くみ。近世か。

井戸跡D192は、同交点の東側で南堀跡の北側傾斜面で検出。径0.7m深1.8mで、南堀跡の底より50cmほど深く、海拔88.3mより湧水。南大溝M050より新しい。五輪塔水輪(4171)出土。近世。

土坑D133は、短冊形土坑。長2.6m幅0.6m深40cm。南北走向。近世。

井戸跡D186, D187, D191遺構 土坑D128～D132, D134, D185, D431遺構
(P.73図 PL.8, 10, 54～56)

井戸跡D186は、南北堀跡M064の西2.5mにあり、上径2.0m底径0.4m深2.8mで、海拔87.7mより湧水。底は深2.3mより半分掘り増した後、火山灰層で中断した状態。その後一気に埋める。北に現代の井戸がある。

遺物は多く、陶磁器は肥前京焼風碗(1312)・瀬戸美濃摺絵皿(1409)が18世紀前半で古く、肥前系染付菊花文碗(1119)が1780～1810年代、瀬戸美濃腰鍔碗(1337)が19世紀初頭で最も新しい。全体としては18世紀後半のものが中心。肥前染付濃鯉滝登り文水滴(1151)・瀬戸美濃飴釉根来型德利(1492)は注目される。文房具では硯(4185)も見られた。他に調度具では、瓦質土器で焜炉(1731)・火鉢(1732)・瓦灯(1737)などがある。

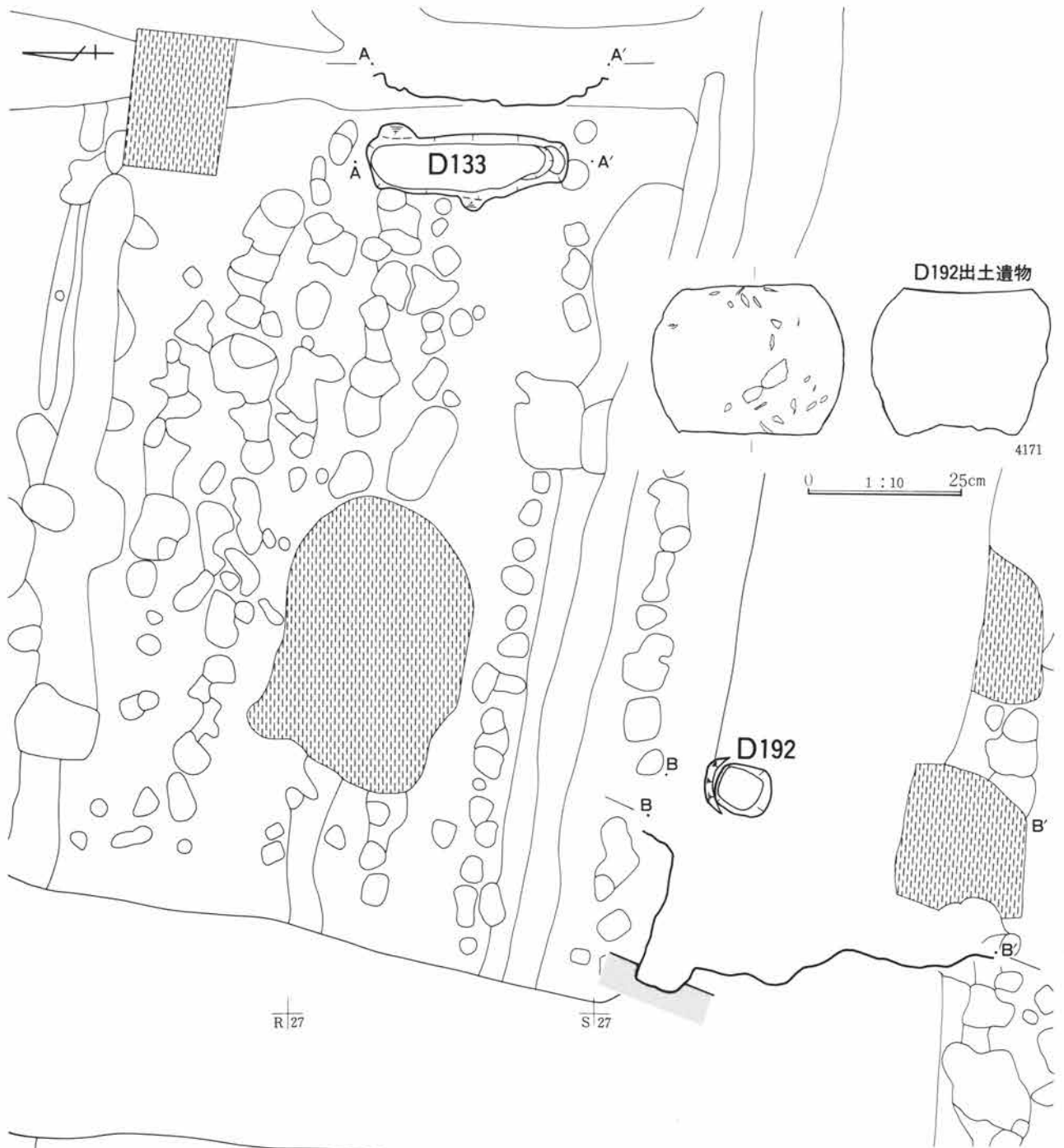
木製品は、脚付きまな板(3276)・杵状製品(3285)あるいは建具状のものなど多様である。また「喜」字を書いた漆器片(3300)も見られた。他に石臼類もある。なお1731, 32は井戸跡D114(45m南P.52)と、1312は井戸跡D171(72m東P.94)出土片と接合した。

井戸跡D187, 191は南北堀跡の西面に2基接している。D187は径1.7m深1.9mで海拔88.2mより湧水。D191は径1.8m深2.5mで海拔87.1mより湧水。D187の湧水面は南北堀跡の水面に一致している。そのことより、D191の方が新しく、また南北堀跡の埋没後の掘削と考えられる。共に近世か。

D185は径1.2m深1.1mの円形土坑。道路跡X001及び南北堀跡と重なる。時期不明。D134は桶埋設土坑。径1.2m深20cm。近世。

D128～D131は短冊形土坑。南北走向のD130は長10.3m幅0.5m深20cmと長大。東西走向のD128からは、瀬戸美濃腰鍔碗(1337)が出土。19世紀初頭の年代が当てられる。他も近い時期か。

D431(長1.3m幅0.5m深20cm)とD132(幅0.7m深20cm)は長方形の土坑。性格・時期不明。



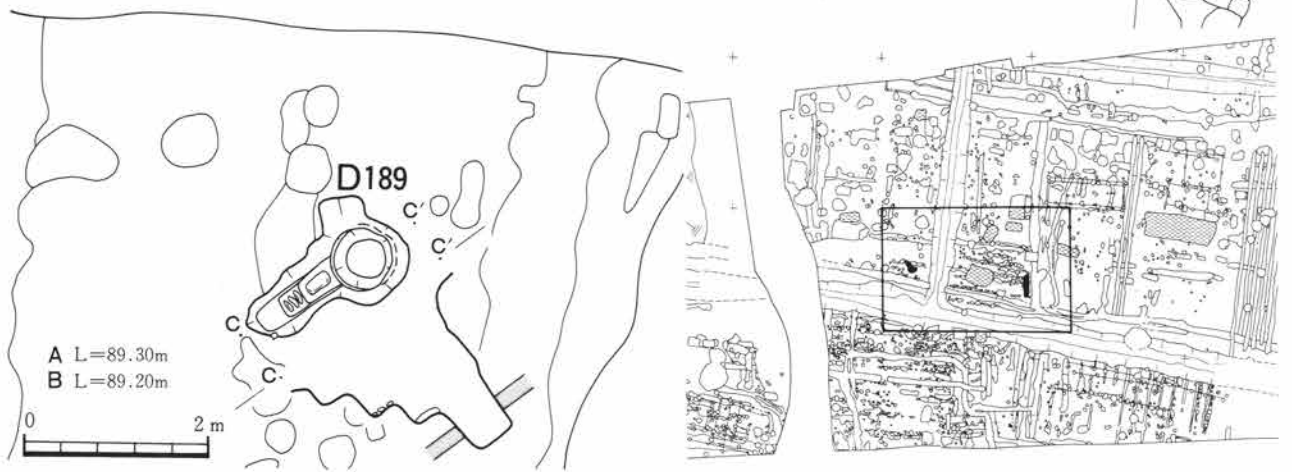
D192出土遺物

4171

1 : 10 25cm

R 27

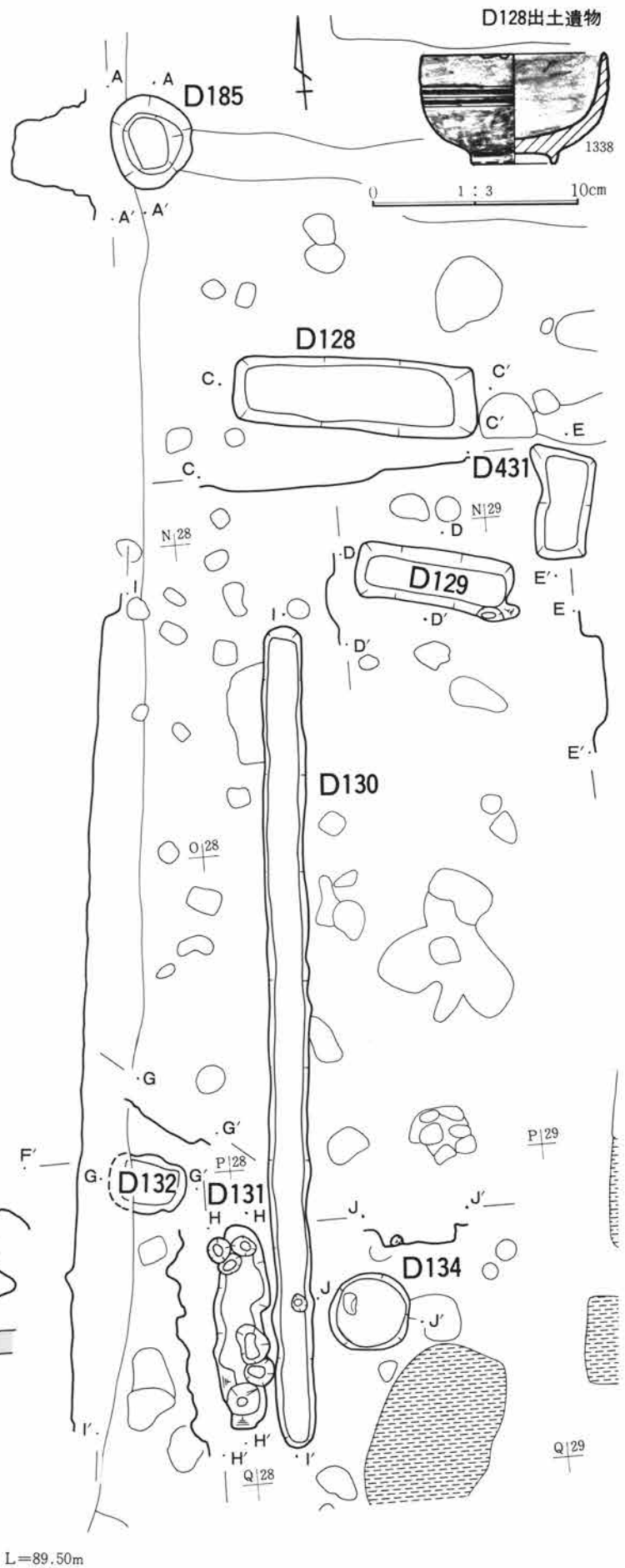
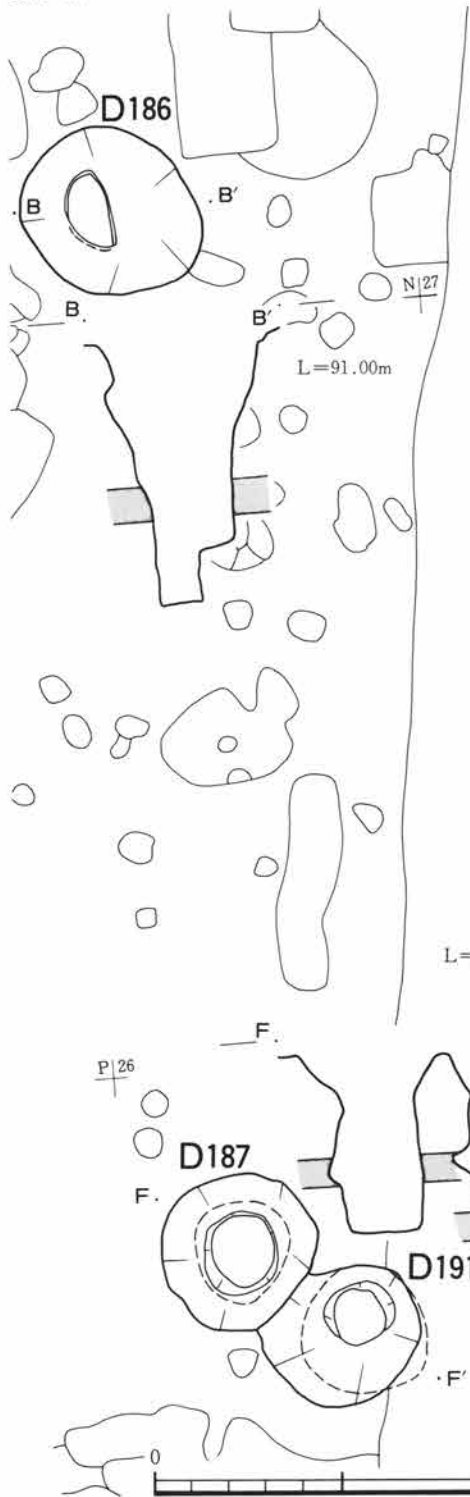
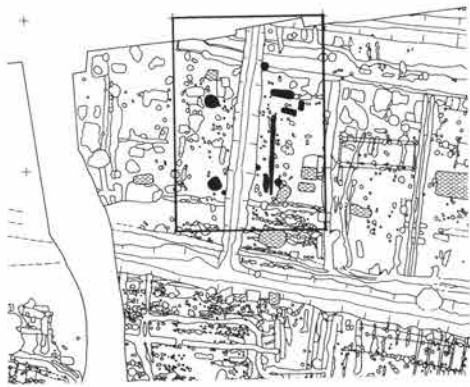
S 27

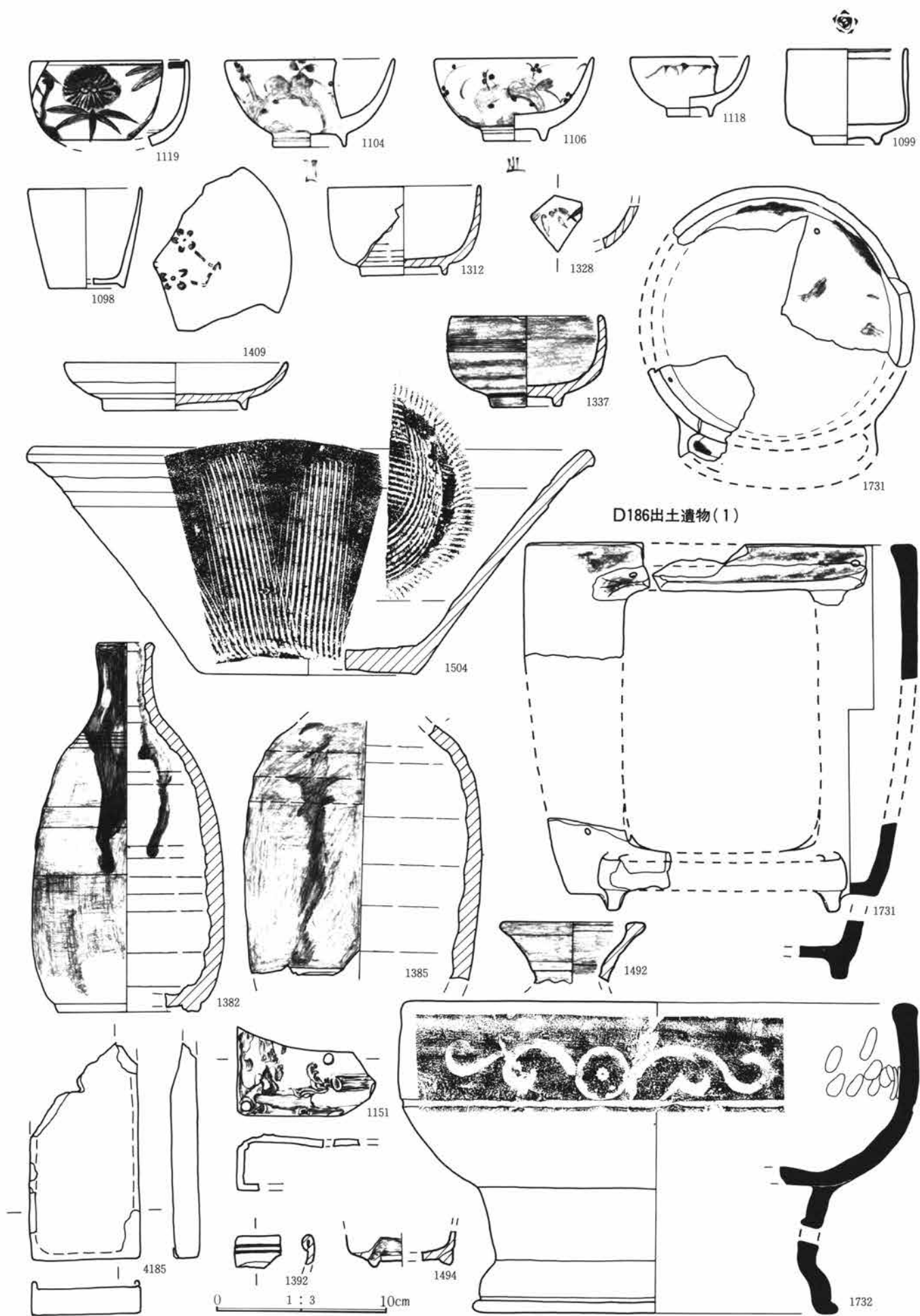


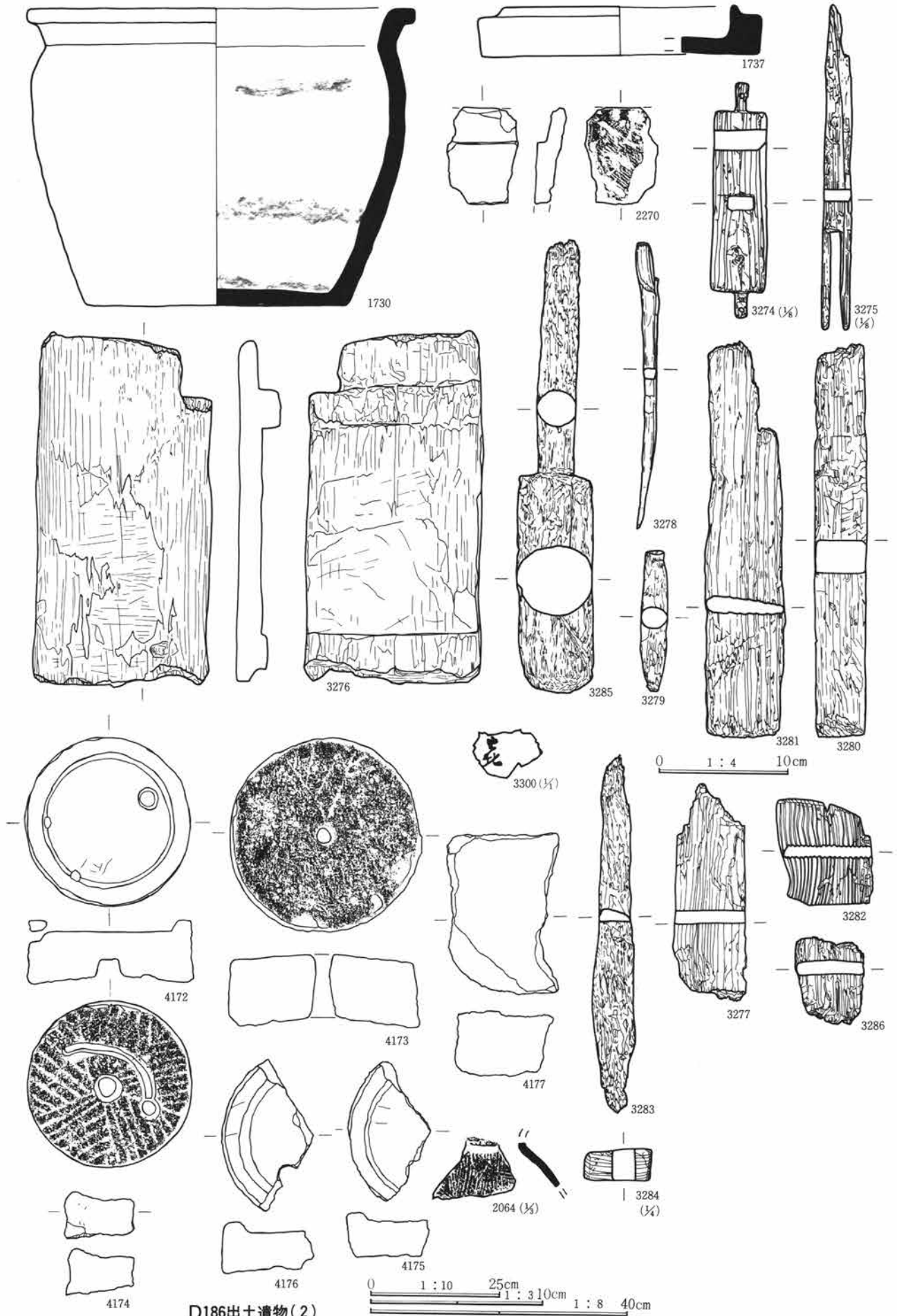
D189

A L=89.30m
B L=89.20m

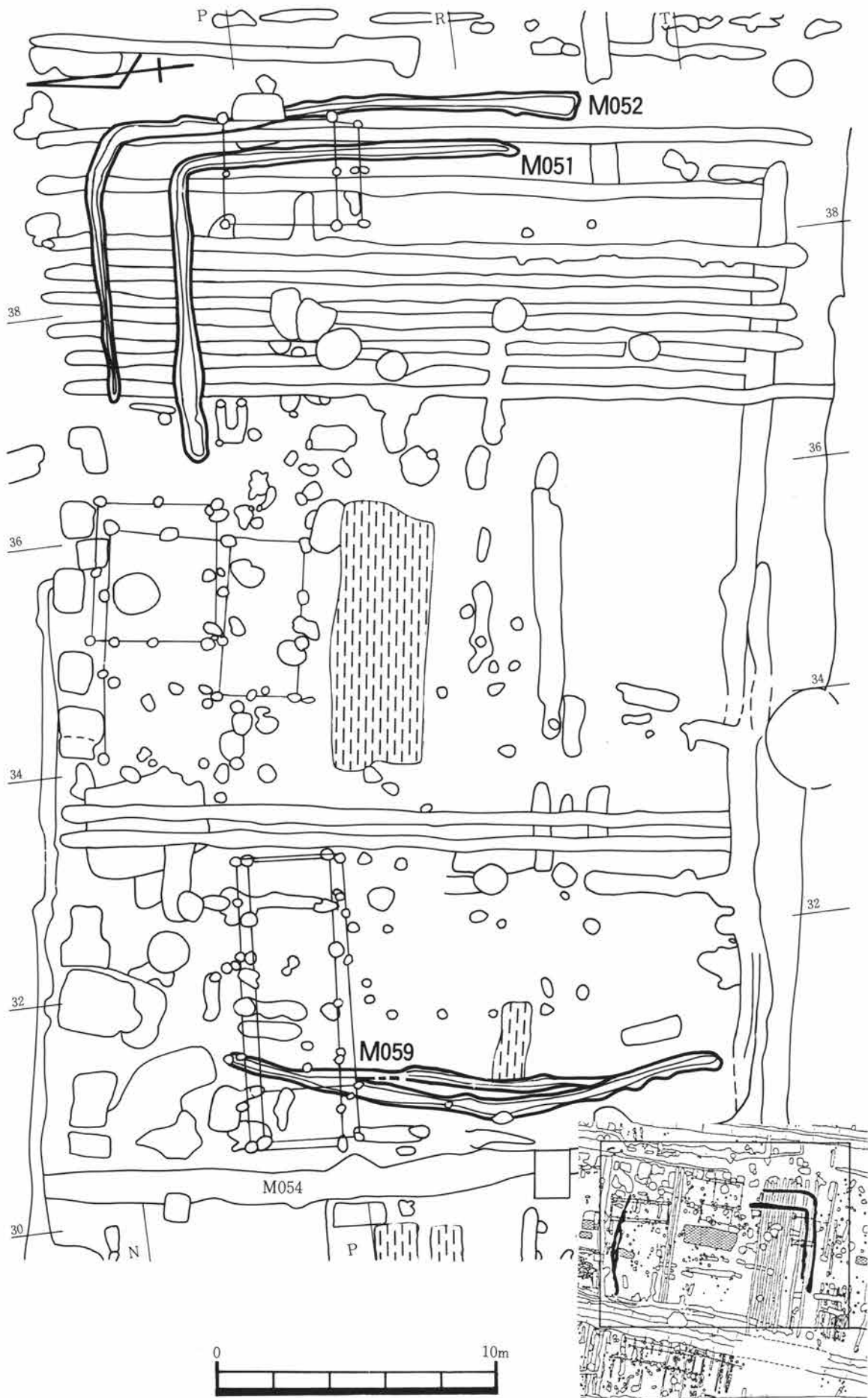
0 2m

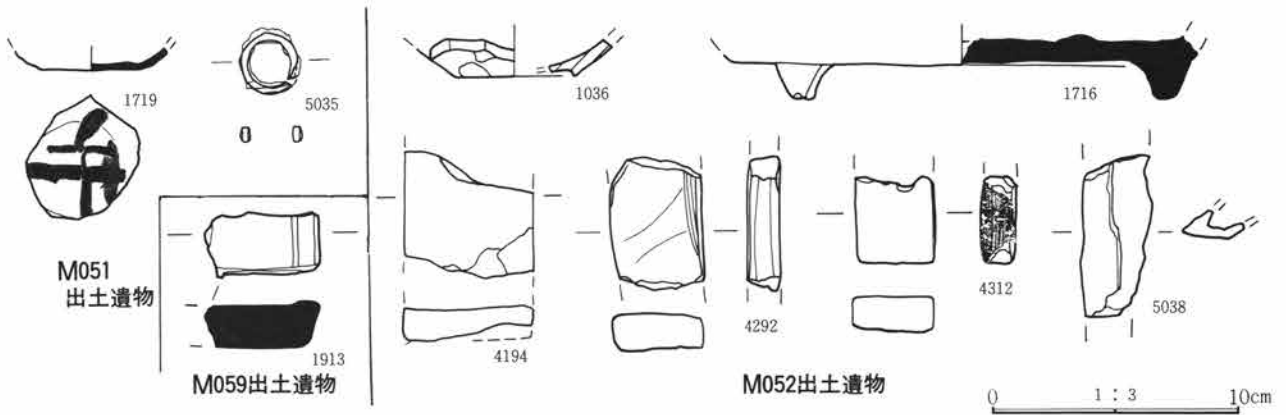






D186出土遺物(2)



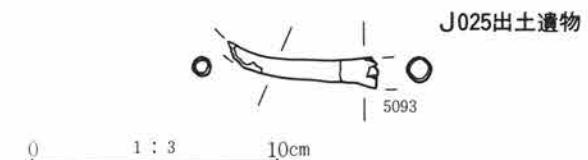
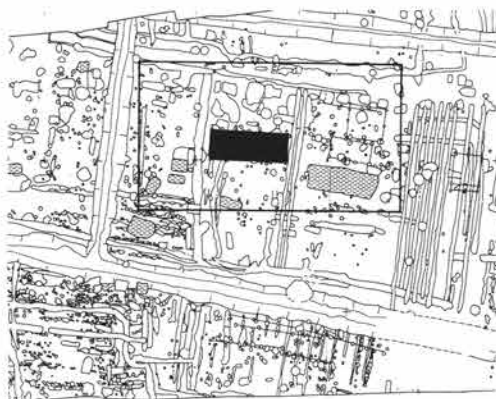
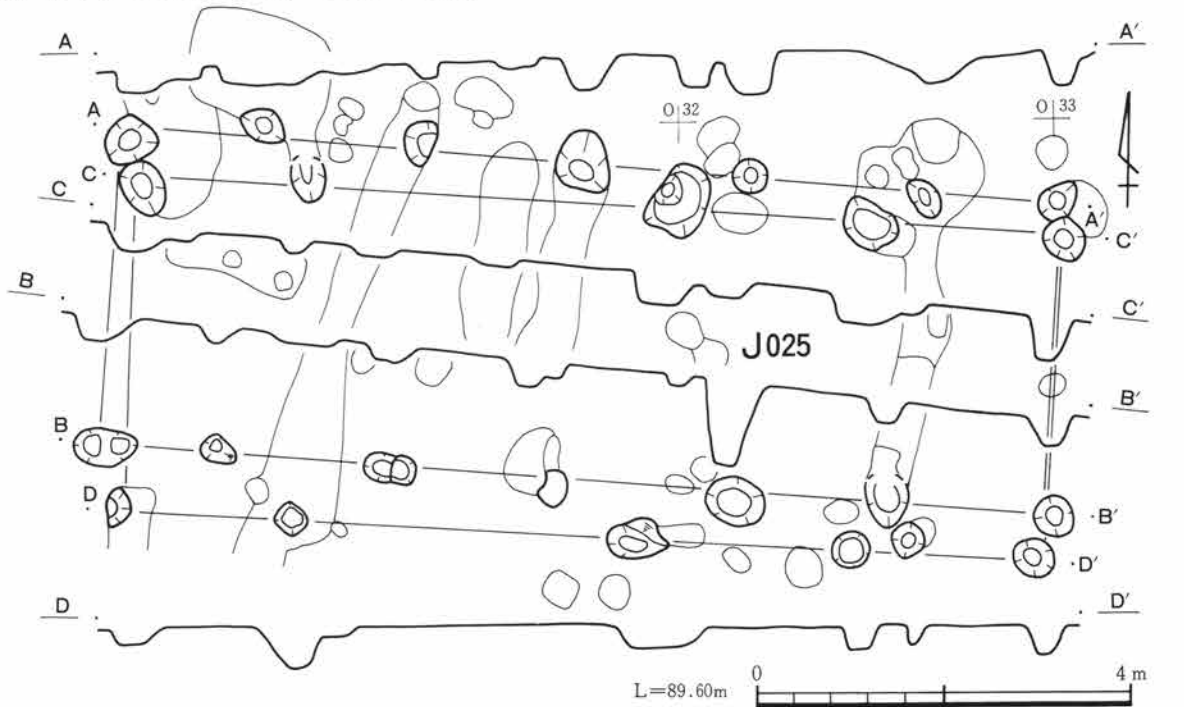


区画溝M051, M052, M059遺構 (PL.57)

区画溝M051とM052は、平行して西から東に10m走った後、直角に南へ12m延びる。間隔は、東西走向部分約2.5m弱、南北部分0.8~1.2mほど。掘立柱建物J031と重複。西に36m離れた区画溝M054と組んで、掘立柱建物群を囲む屋敷構えの北東角を形成する。道路側溝の可能性もある。

区画溝M059は、やや西側に膨れた弧状の南北走向で18mほど延びる。途中は付け替えて2条に別れている。掘立柱建物J025と重なる。

遺物はいずれも少なく、砥石類が主体。美濃飴釉小皿片(1036)は、18世紀頃か。土師器小皿(1719)底には不明の墨書がある。これは中世か。



掘立柱建物跡J025遺構 (PL.57)

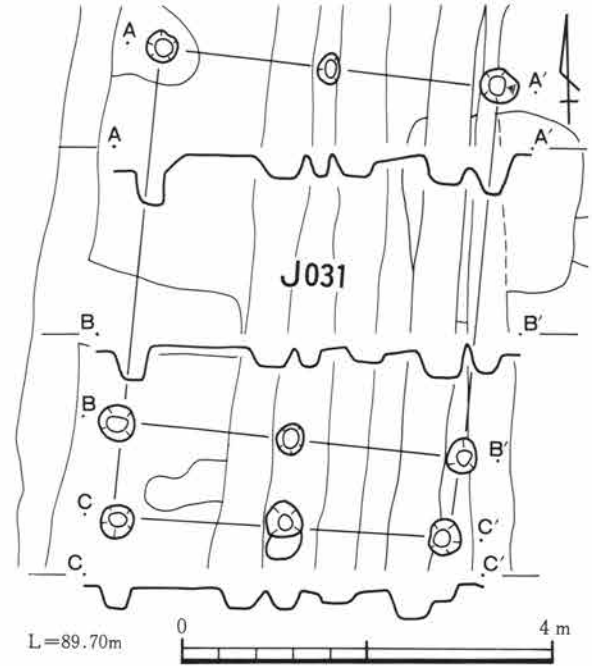
東西8.9m南北3.5mの東西棟。南北1間、北側が6間南側が4間。柱間は北側が約1.8mの等間隔で、南側は東西で差。区画溝M059と重複。北側で井戸跡D183とD184が近接。建物内で18世紀頃の煙管雁首(5093)出土。

II 調査成果

掘立柱建物跡 J 0 3 1 遺構 (PL.58)

東西3.6m南北4.0mの規模の南北棟。南に0.9m離れて庇がある。東西2間、南北1間。

区画溝M051, M052及び土坑D104と重複。畠跡N016より古い。遺物ないが、そのため18世紀頃と推定。



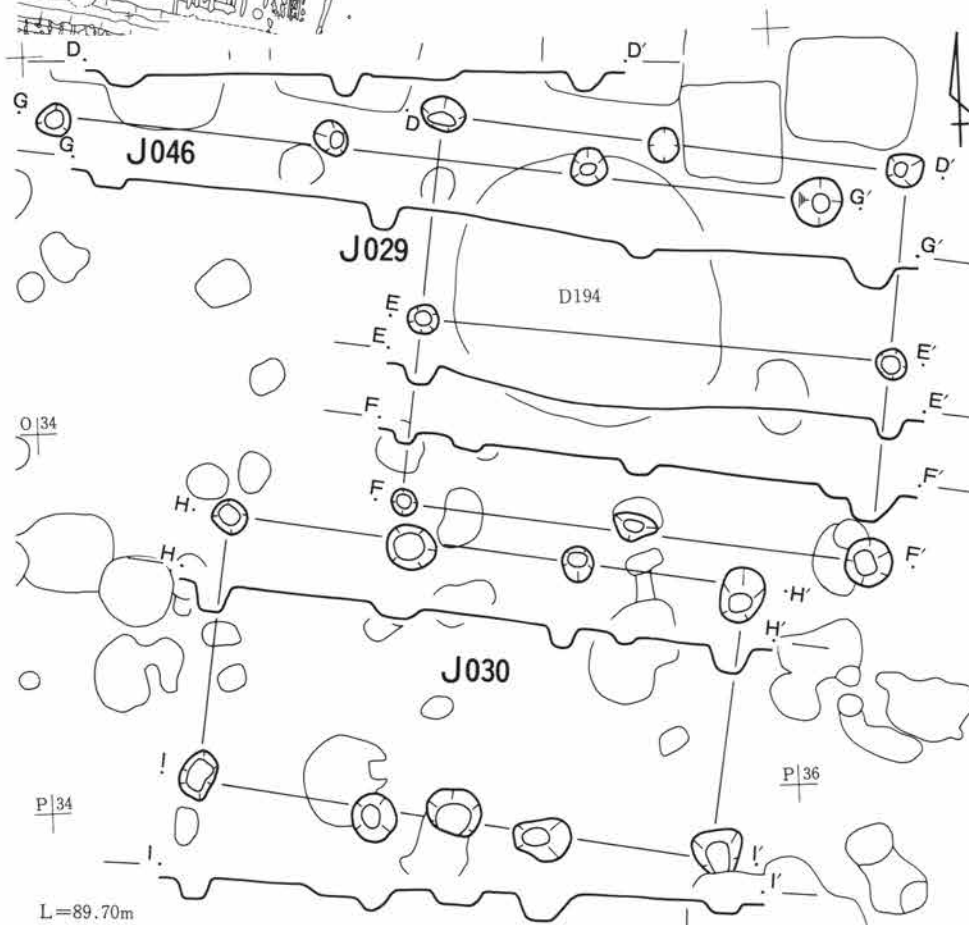
掘立柱建物跡J029, J030, J046遺構 (PL.58)

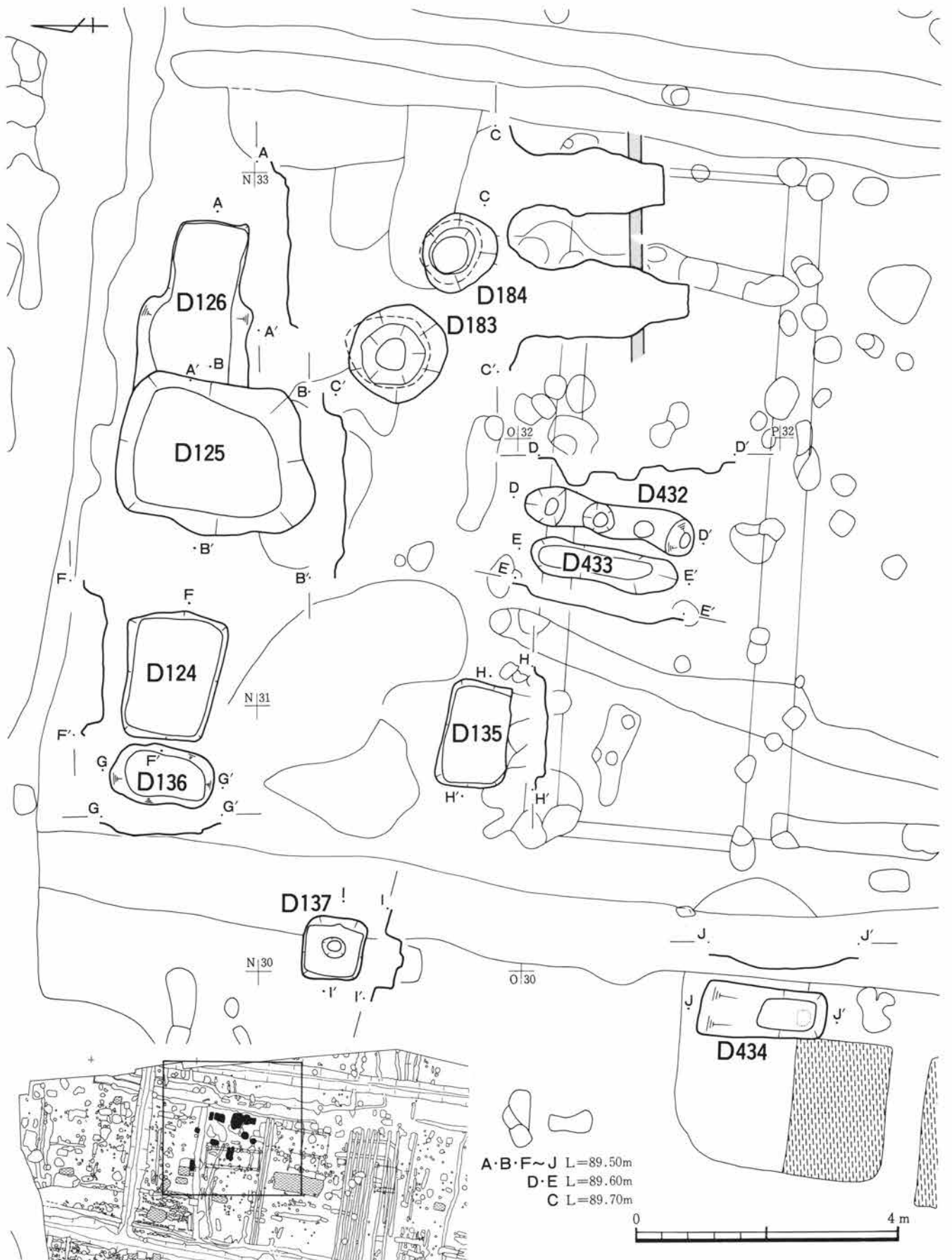
J029は、東西5.0m南北4.2mの規模の東西棟。東西2間、南北2間。内部にはやや北西に偏って井戸跡D194がある。

南に接するJ030は、東西5.6m南北2.8mの規模の東西棟。東西3間、南北1間。柱間はほぼ1.8m前後に揃う。

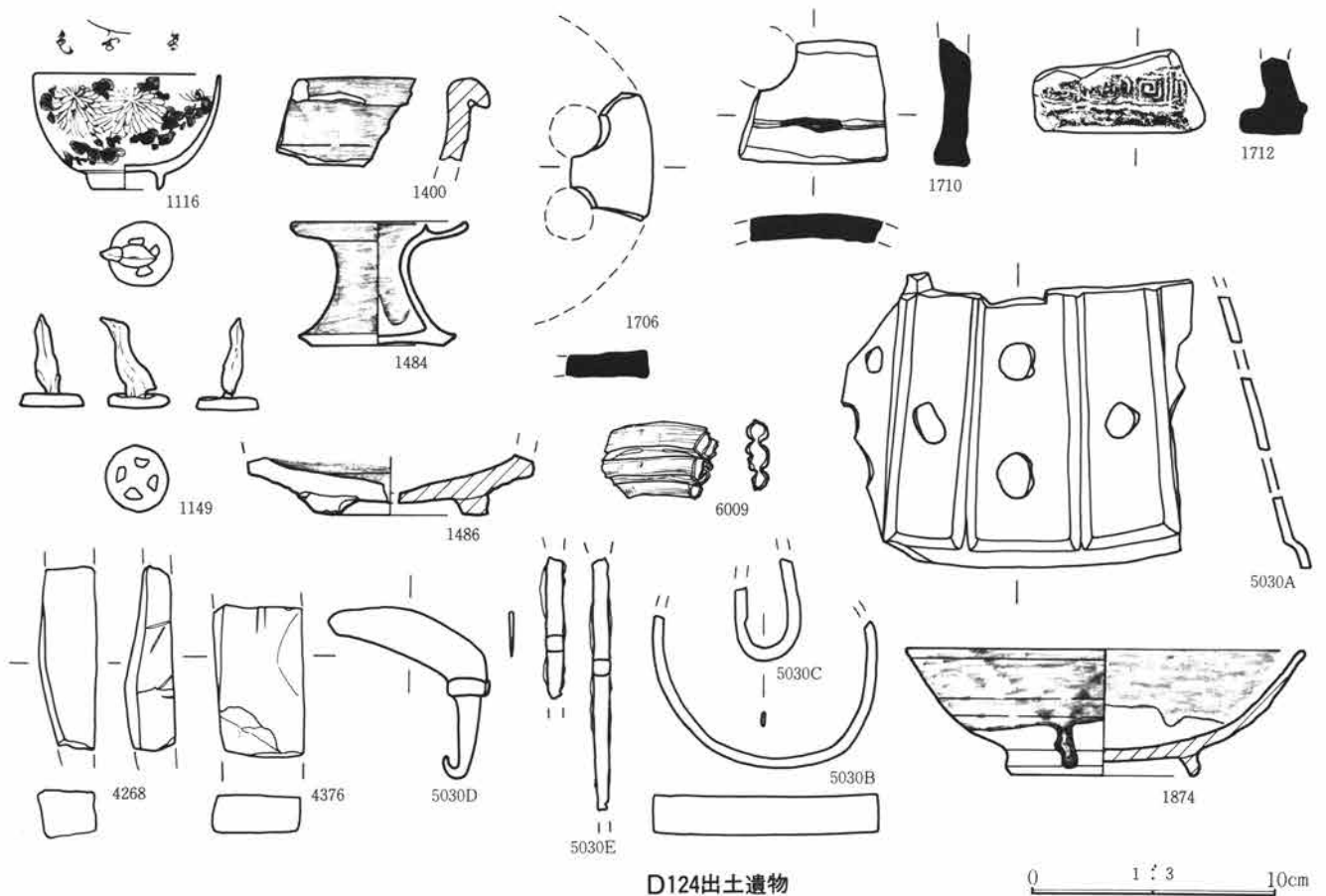
J046は建物にならず、東西方向8.3mに4個のピットが並ぶ。間隔は2.5~3.0m。J029及びD194と重なる。

J029は、井戸跡D194の覆屋の可能性があり、J030は时期的にそれに近いだろう。





II 調査成果



井戸跡D183, D184遺構 土坑D124~D126, D135~D137, D432~D434遺構
(P.79図 PL.8, 58~61)

掘立柱建物跡J025と道路跡X001の間の井戸と箱形土坑群。

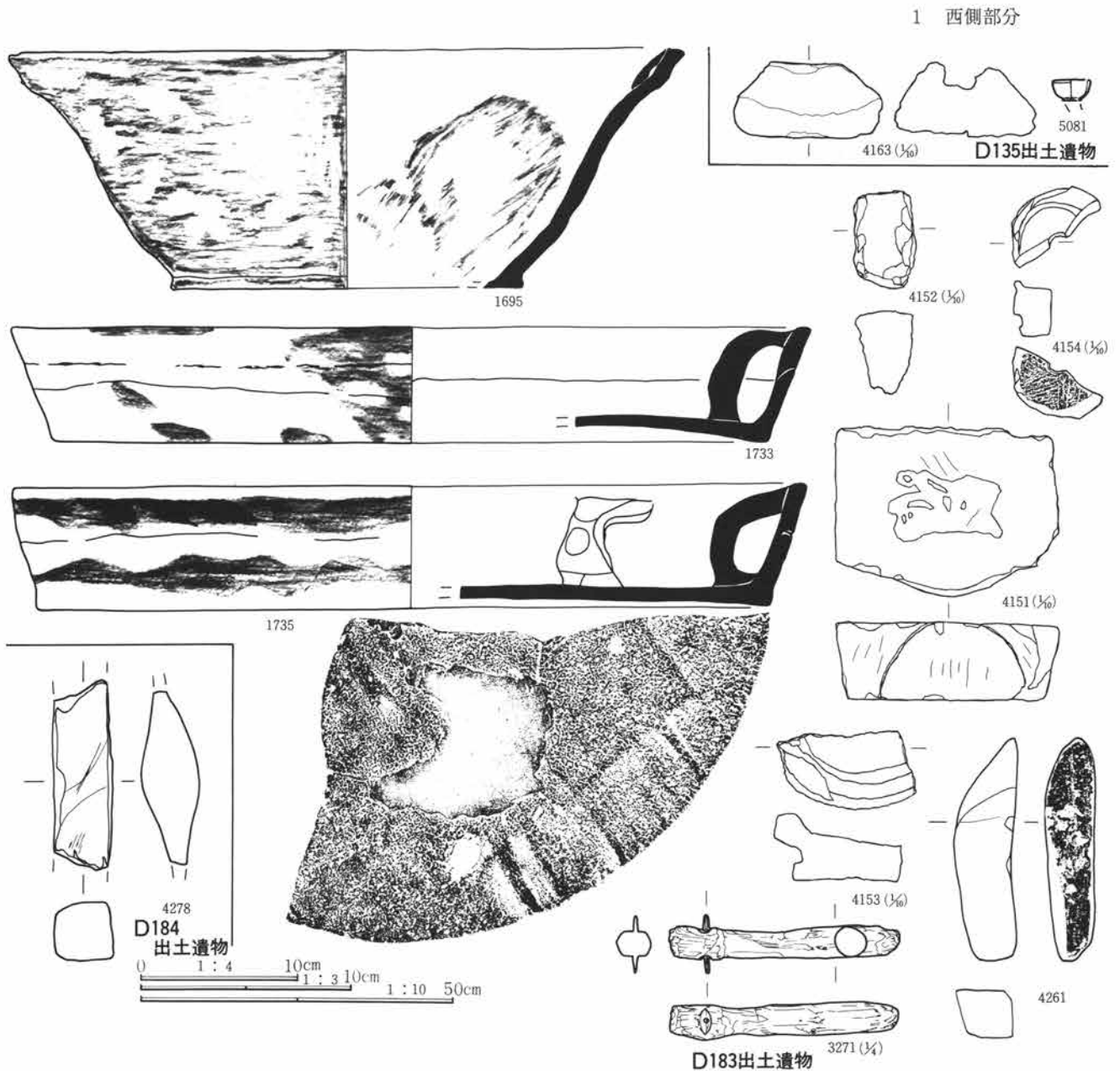
井戸跡D183は径1.6m深2.8mで、D184は径1.5m深2.3m。近接して並んでおり、両者の間隔は僅かに0.4m。共に海拔87.7mより湧水。埋土はD183がかなり人為的な状況であるのに対し、D184は自然的な埋没を示している。後者は、上層で砥石(4278)が見られた程度なのに比べ、前者は投棄遺物が多い。

D183からは、瓦質土器埵と焙烙があり、後者の1735は底部裏側に型の痕が残っていた。石造物は、石塔基礎(4151)や石臼類があり、またモモの木釘の残る細い棒(3271)も見られた。なお図示していないが、竹片も出ている。近世。焙烙と埵は18世紀の陶磁器に共伴するものである。

D184は、山形の砥石(4278)がある。両者は、掘立J025に近接しており、この建物と近い時期と想定できる。

箱形土坑群は、一連の道路跡X001の南側に並ぶものの西側の部分にあたる。D124は長1.9m幅1.5m深0.3mで、最も形状がはっきりしている。D125は、長3.0m幅2.2m深0.3m。D126は長2.4m以上幅1.2m深0.2mで、2基重複。D136は、長1.6m幅0.9m深0.2m。南に離れ掘立J025と重なるD135は、長1.6m幅1.1m以上深0.2mで同様の箱形土坑である。D137は、長0.9m幅0.9m深0.4mを測り、小形で中央にピットをもっており性格が異なるだろう。

掘立J025に重なって、南北走向の短冊形土坑状のD432とD433が並ぶ。D432は長2.6m幅0.4m深0.1m、D433は長2.3m幅0.5m深0.1mを測る。ただ前者は、内部にいくつかピットがある。また



D137の南のD434は、長1.9m幅0.8m深0.2mで、短冊形土坑に似るが底は不均一。

D124からは、雑多に遺物が出土している。陶磁器は、合成コバルトを使用した染付碗(1116)と同鳥形灯芯押さえ(1149)が最も新しく、灰釉碗(1874)が最も古い。灯火具は他に乗燭(1484)があり、香炉片(1486)も見られる。火処としては、瓦質土器の焜炉(1706,10)と火鉢(1712)が小片で、また鉄製の5030Aも焜炉の一部と思われる。細い鉄棒(5039E)は火箸か。他に小鎌・砥石などがあつた。全体としては調度具が中心である。

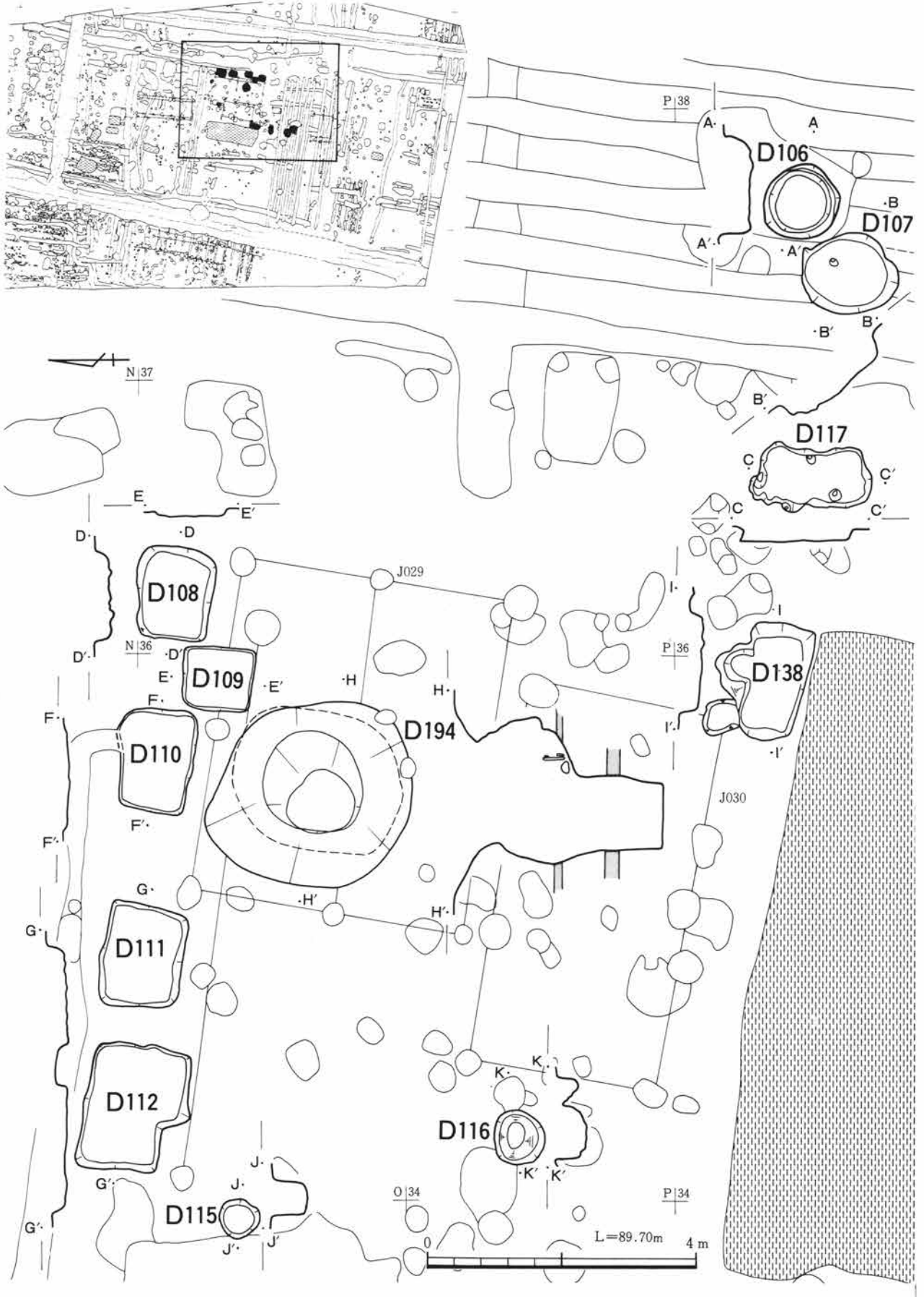
興味深いのは、人為的に切断した馬歯(6009)が含まれていたことである。(考察参照)

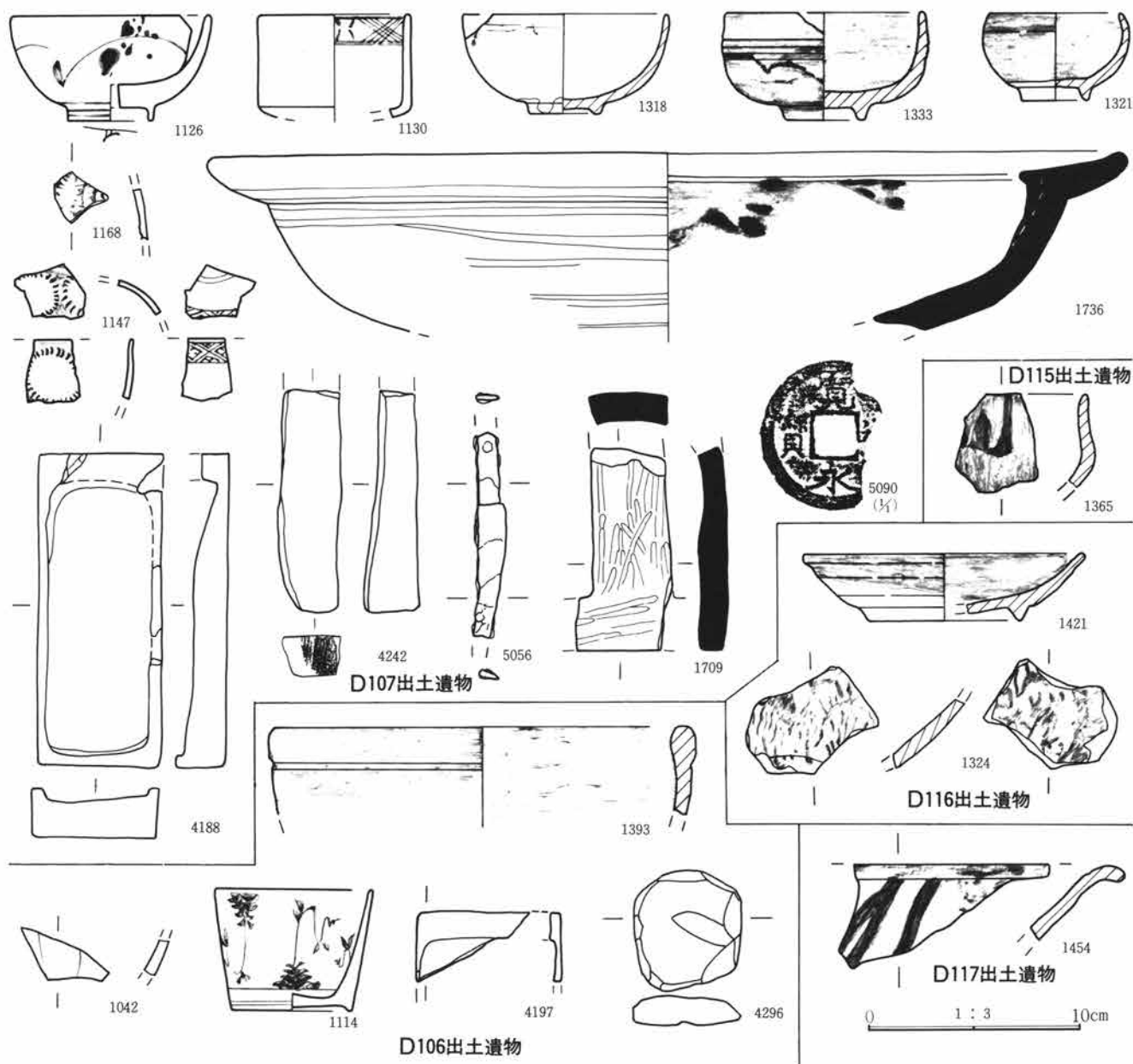
そのため、19世紀後半の廃棄物坑と考えられる。また道路跡に連なる一連の箱形土坑群の時期を考える目安になるだろう。

D135からは、銅キセル雁首片(4163)と五輪塔火輪(5081)出土。近世。

以上の他に、D126は磁器と瓦質土器小片、D184からは焙烙小片が出ており、いずれも近世である。

II 調査成果



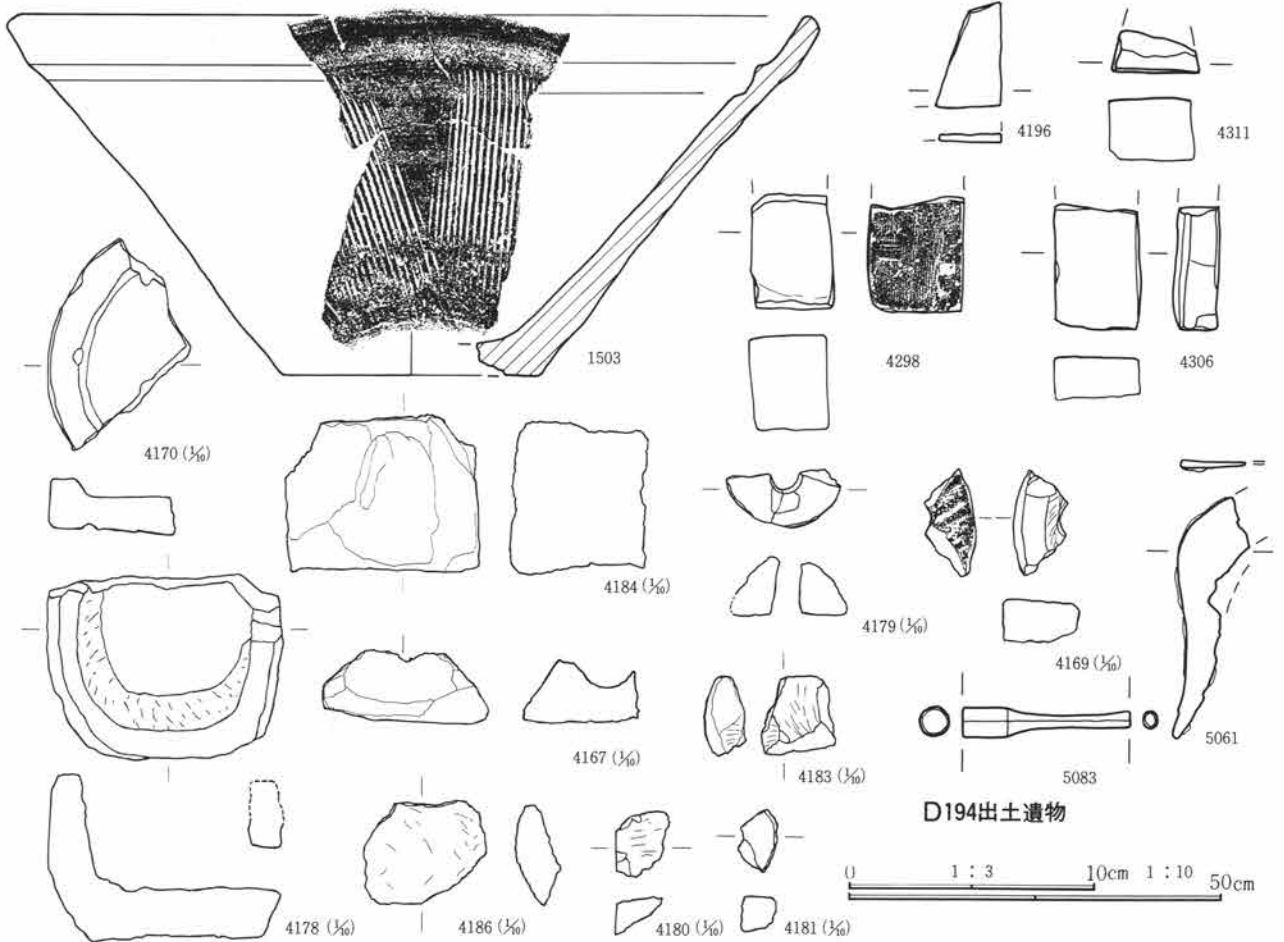
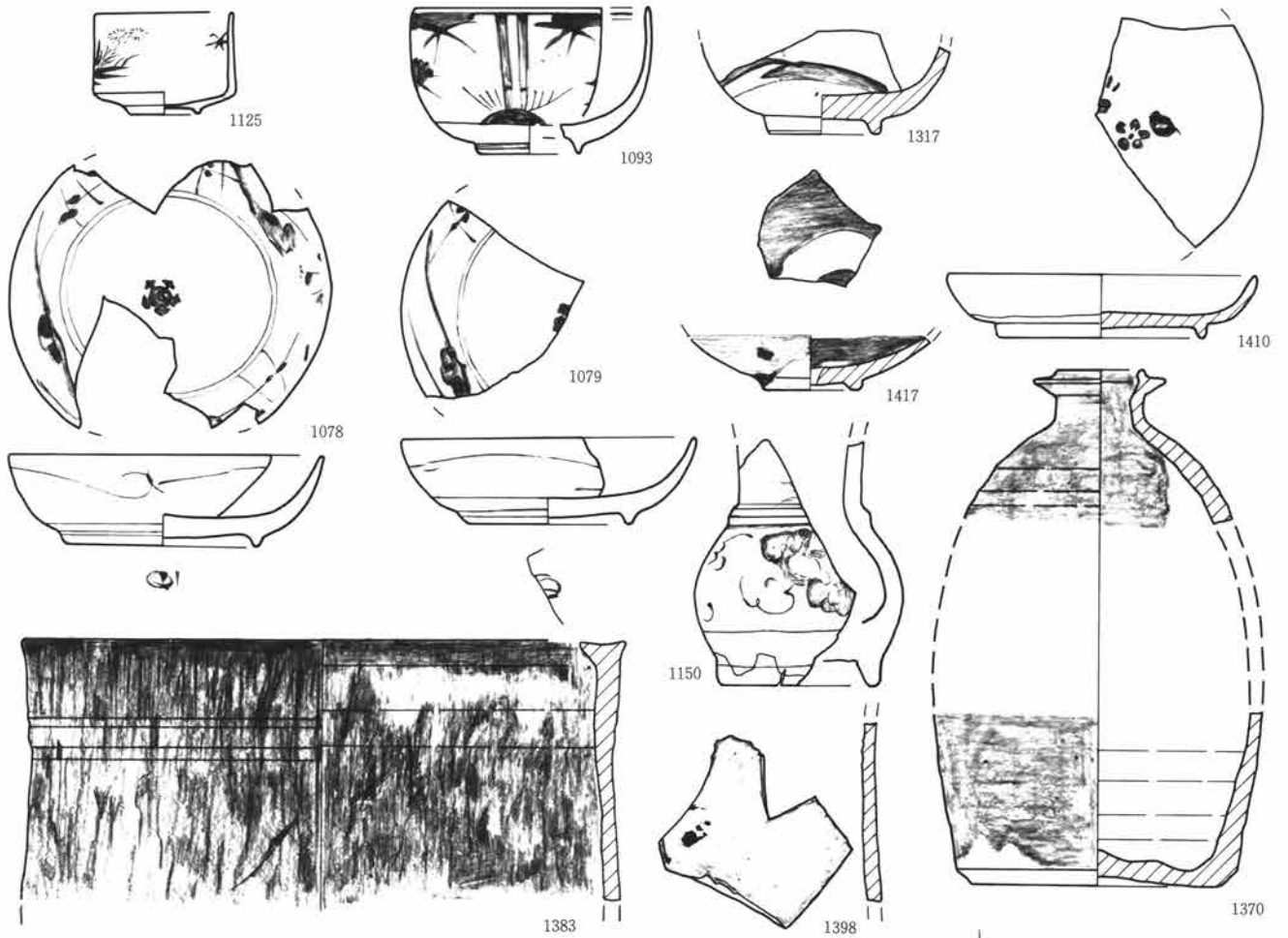


井戸跡D194遺構 土坑D106～112,115～117,138遺構 (PL.10,58,62～64)

井戸跡D194は、口径2.8m深3.2mで、海拔87.4mと88.1mの二つの湧水層がある。底が南西側に偏っていることから北東側で汲み上げた可能性がある。1.5mの深さの地点の崩落部分には、自然石を多く並べ竹片(非報告)で組まれた防止施設があった。長期間の使用が考えられる。周辺の掘立J029は覆屋とも思われるが、柱穴列J046はこの井戸跡と重複している。

遺物(P.84)は、陶磁器では肥前系と瀬戸美濃系の食器と調理器が18世紀代全体のものが一通り見られる。しかし、くらわんか碗が見られない。また17世紀中葉の肥前染付瓶(1150)は、少し離れて古い。なお、それを含んで報告陶磁器の半数の肥前染付皿(1078)・瀬戸美濃二彩水注(1398)・同錆釉播鉢(1503)・産地不明錆釉徳利(1370)・同柿釉半胴甕(1383)は、南西に56m離れた井戸跡D114出土(P.53～55)の破片と接合した。また、その他に肥前染付湯飲み(1093)と瀬戸美濃擦絵小皿(1410)は、D114でもほぼ同じものが見られる。

それらは年代幅があるが最も新しい19世紀初頭に、これらが一括してすでに機能を終えていたD114と本井戸跡に投棄されたと考えられる。それらを除いて考えれば、井戸としての主な使用時期は18世紀前半とすることができる。これは、煙管吸い口(5083)の年代観とも一致する。



D108～D112は、道路跡X001の南側に連なる箱形土坑群の東側で、いずれも長1.5m幅1.0m深0.3mほどでそろっている。D109以外は東西走向、またD112は東西走向のものに南北走向のものが重なった状態である。D109は、掘立J029と重複している。

井戸跡の南東10mほどのところに2基の桶埋設土坑D106とD107が並んでいる。前者は径1.0mほど、後者はやや楕円形で1.2×1.0mだが、深は共に0.4mほどで底は平坦。調査時には桶埋設土坑との認識がなかったが、特徴的な2基並列状況からも、後者も本来円形だったと思われる。

D106からは西に45m離れた井戸跡D186出土破片と接合した肥前染付蕎麦猪口(1114)などの18世紀後半の陶磁器と共に、砥石のような円盤状の軽石(4296)そして13,14世紀頃の竜泉窯鎬蓮弁文青磁(1042)などが出土。D107からは、肥前と瀬戸美濃の18～19世紀の食器類と共に、瓦質土器塙(1736)と瓦灯(1709)が出土。また新寛永通宝(5009)などが見られた。瀬戸美濃灰釉碗(1318)は箱形土坑D124出土片と接合。1736もD186出土片と接合している。両者共に硯が出土したのも興味深い。18世紀後半から19世紀初頭までの年代が考えられる。

D107の西側のD117とD138は、短冊形土坑である。前者は南北走向で長1.6m幅0.8m、後者は東西走向で長1.8m幅0.8mを測り、掘立J030と重なる。D117からは、17世紀前半～中葉の瀬戸美濃の笠原鉢(1454)が出土。

他に掘立の西側でピット状の土坑D115とD116がある。前者は径0.5m深0.5m、後者は径0.7m深0.5mである。D115からは17世紀中葉～後半の瀬戸美濃黒釉碗(1365)が出土。D116からは唐津写しの瀬戸美濃二彩碗(1324)と18世紀前半の同灰釉小皿(1421)が見られた。1412は南に18m離れた井戸跡D123出土片と接合しているが、この遺構の年代は1324の19世紀初頭を考えたい。

井戸跡D122, D123遺構

土坑D119～D121, D435～D440遺構 (P.86図 PL.11,65,66)

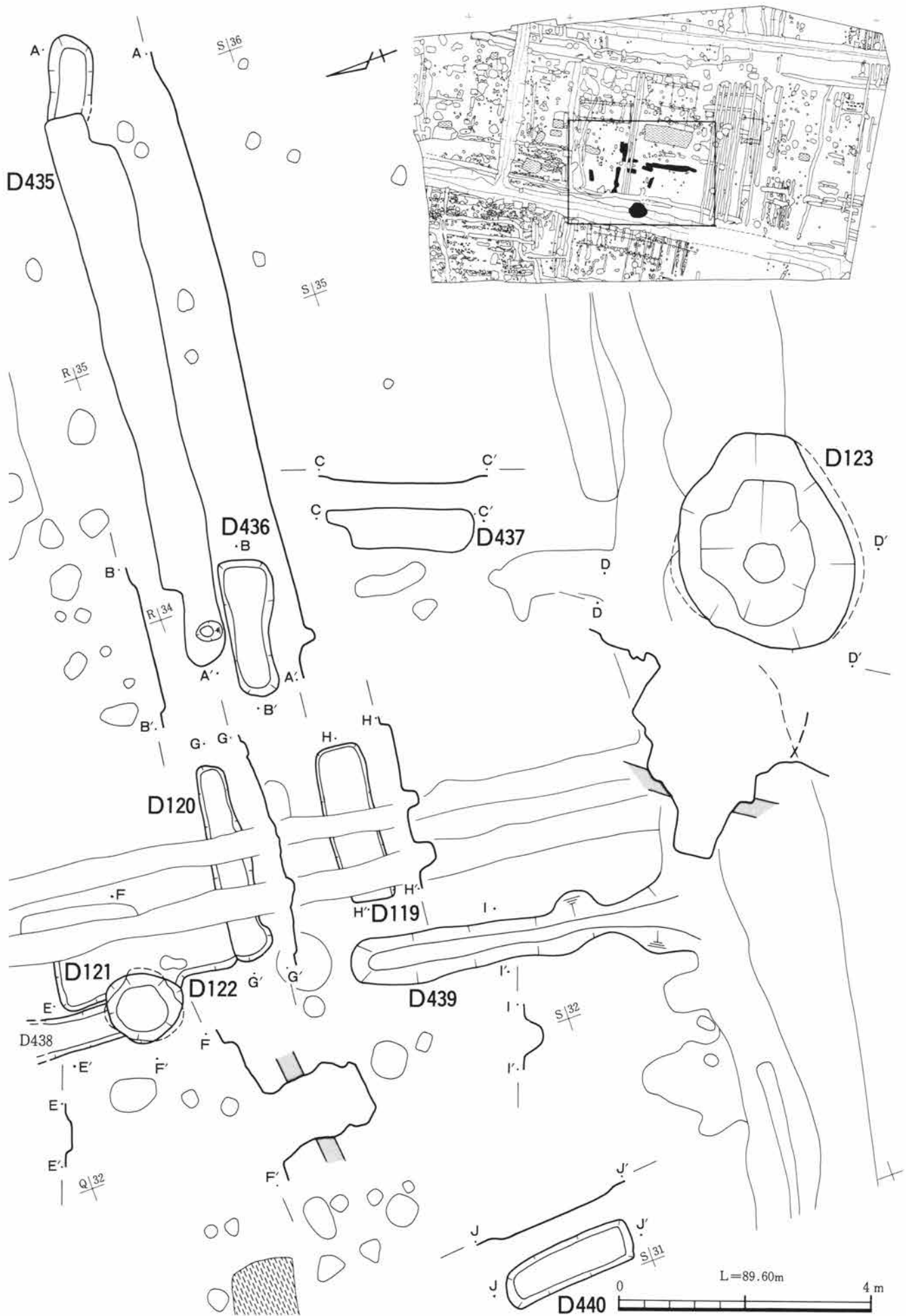
井戸跡D123は南堀跡M050の北岸に重なり、上径3.2m底径0.6mと大きく、深さは3.1mでM050の底より1.8mほど深い。湧水層は海拔87.3m。上径が大きいのは崩落によるものである。大量の遺物が出土しており(P.87～90)、中心をなす陶磁器はⅠ期 17世紀前半～後半、Ⅱ期 18世紀初頭～中葉、Ⅲ期 18世紀後半～19世紀初頭に大きく分けられる。

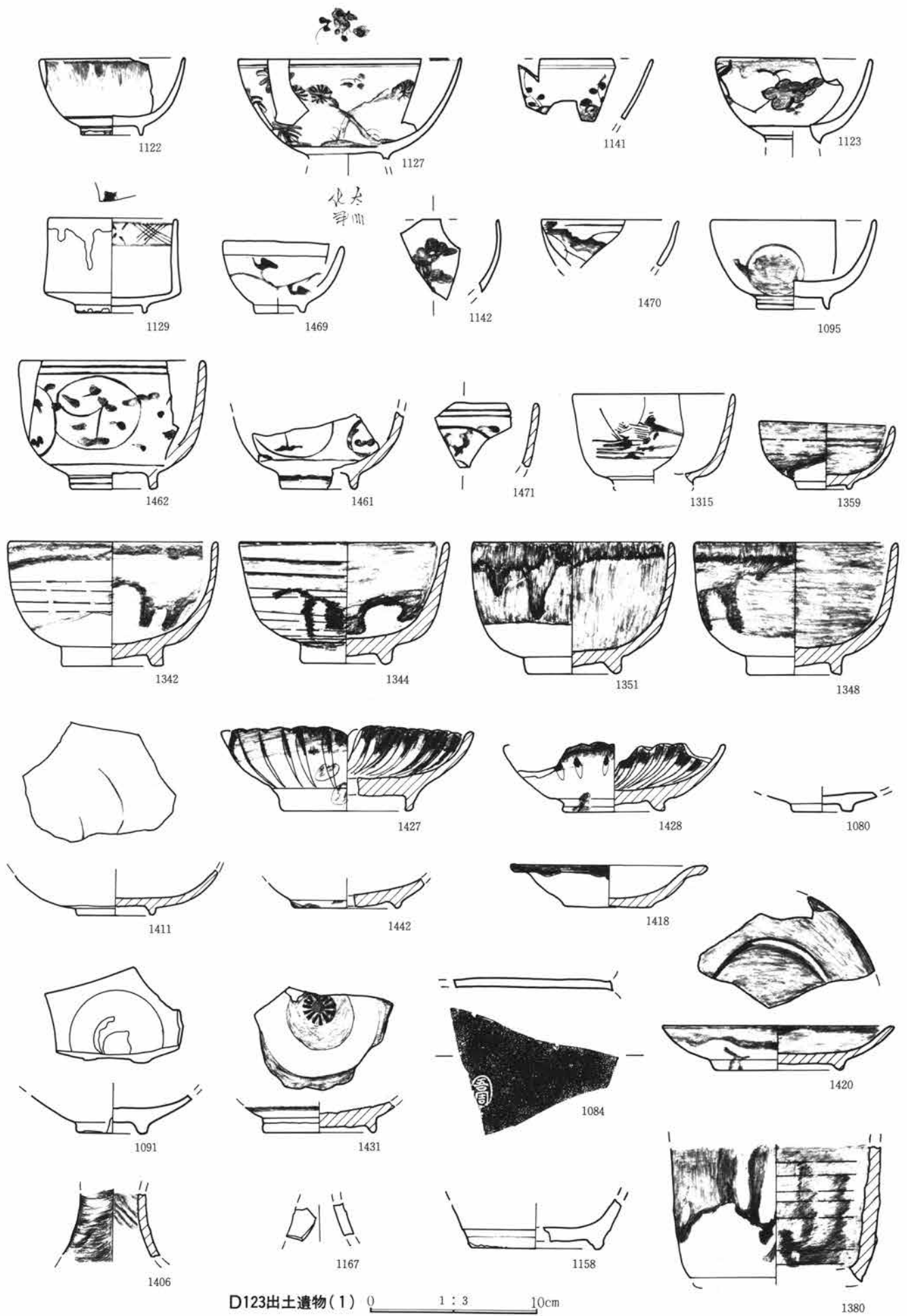
Ⅰ期は、見込折枝文の1660～70年代の肥前染付碗(1127)・17世紀前半の肥前無釉陶器播鉢(1514)・17世紀中葉瀬戸美濃菊皿(1427,28)そして他に肥前と瀬戸美濃の碗(1315)・皿(1442,1431)・瓶(1158)・鉢(1446,1452)など比較的種類と数が多い。Ⅱ期は、肥前磁器碗(1141,1123,1142,1470,1095)・同陶胎染付碗(1462,61,71)・瀬戸美濃碗(1359,42,44,51,48)・同皿(1080,1418,1420)・肥前磁器瓶(1167)・瀬戸美濃香炉(1472,76,93)があり、泉州堺播鉢(1510)もここに含まれるだろう。基本的な食器と調理器が揃っている。Ⅲ期は、肥前磁器碗(1122,1129,1469)・瀬戸美濃徳利(1380)・同壺(1372,1497)・同鉢(1448)・同播鉢(1499～1502)であり、播鉢の固体数が目立つ。

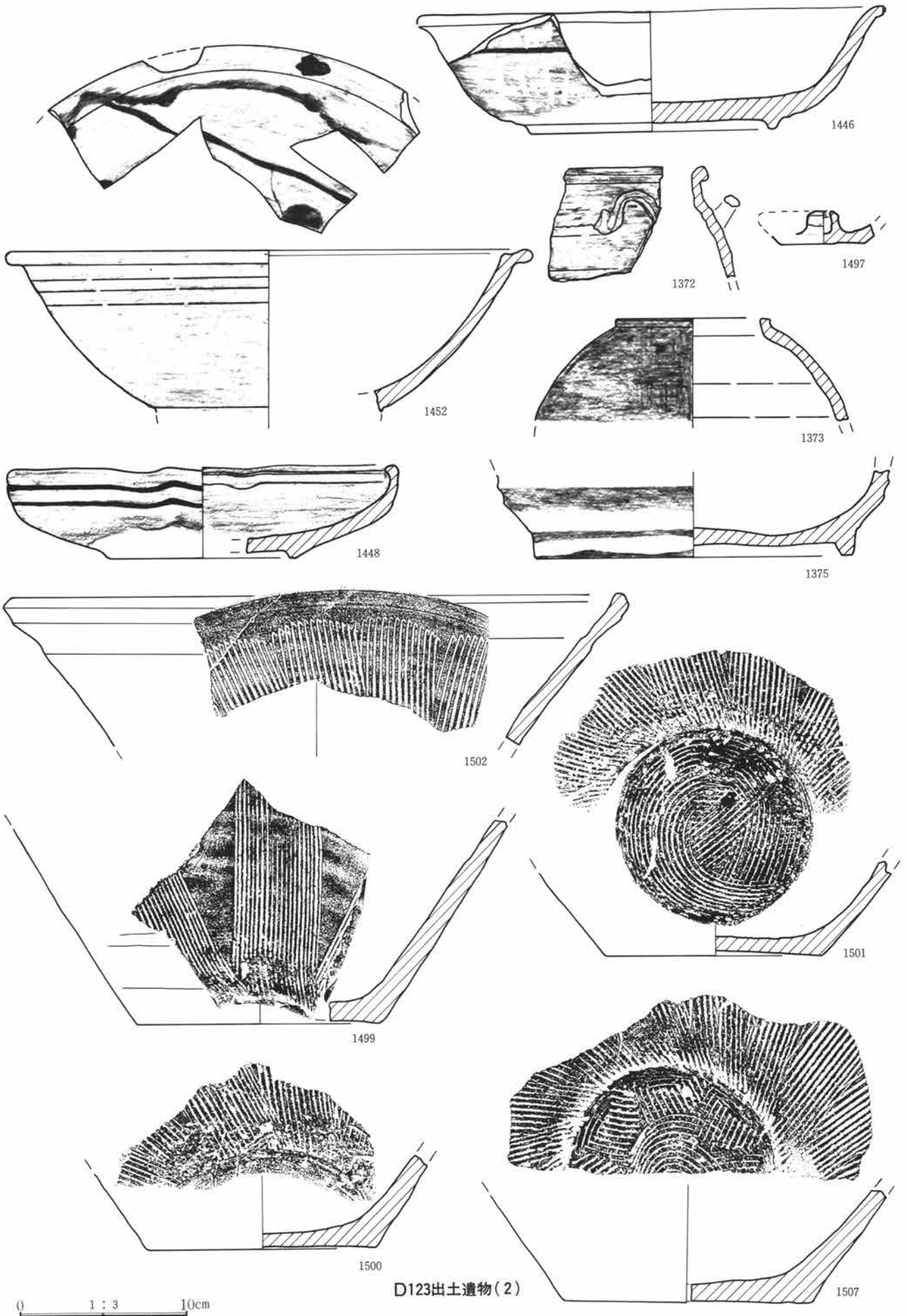
土器類はあまり多くなく、瓦質土器の手持ち灯火器(1680)があった。木器では、3個の蘇民将来護符(3251～53)が特筆される。高2～3cm径2cm弱の截頭角錐八角柱に星印・梵字・「蘇民将来子孫」を墨書したもの。(P.238考察参照)また漆碗片(3288)もあった。

石製品は、櫛歯タガネ加工痕を残す山形と短冊形の砥石が多く見られた。円盤状に加工したもの(4202)も砥石か。また石塔片(4073,74)も出ている。金属器では包丁状の刃物(5074A)があった。

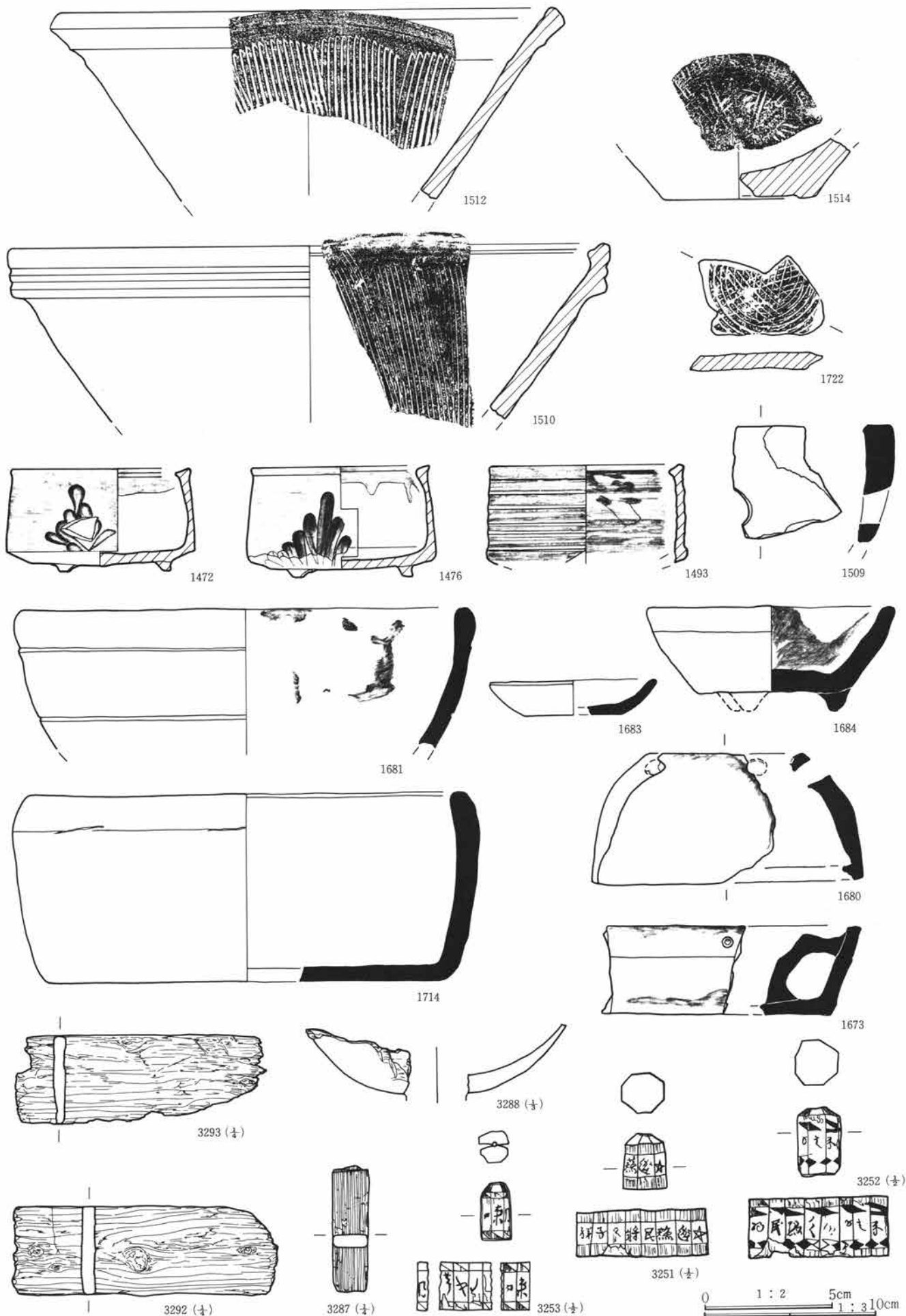
以上の出土状態は、漆碗を含む陶磁器が深1.5mまでより出ており、続いて深さ1.8mまでに蘇民将来護符と他の木器類、そしてそれより下から石製品などが見られた。個々の陶磁器についての出土層位の記録は取れなかったが、深1.5mより上がⅢ期で下がⅠ,Ⅱ期と推定できる。そのため、この井戸の主な使用時期は17世紀中葉頃に始まり、18世紀中葉頃に廃棄されて、19世紀初頭に廃棄(続P.90)





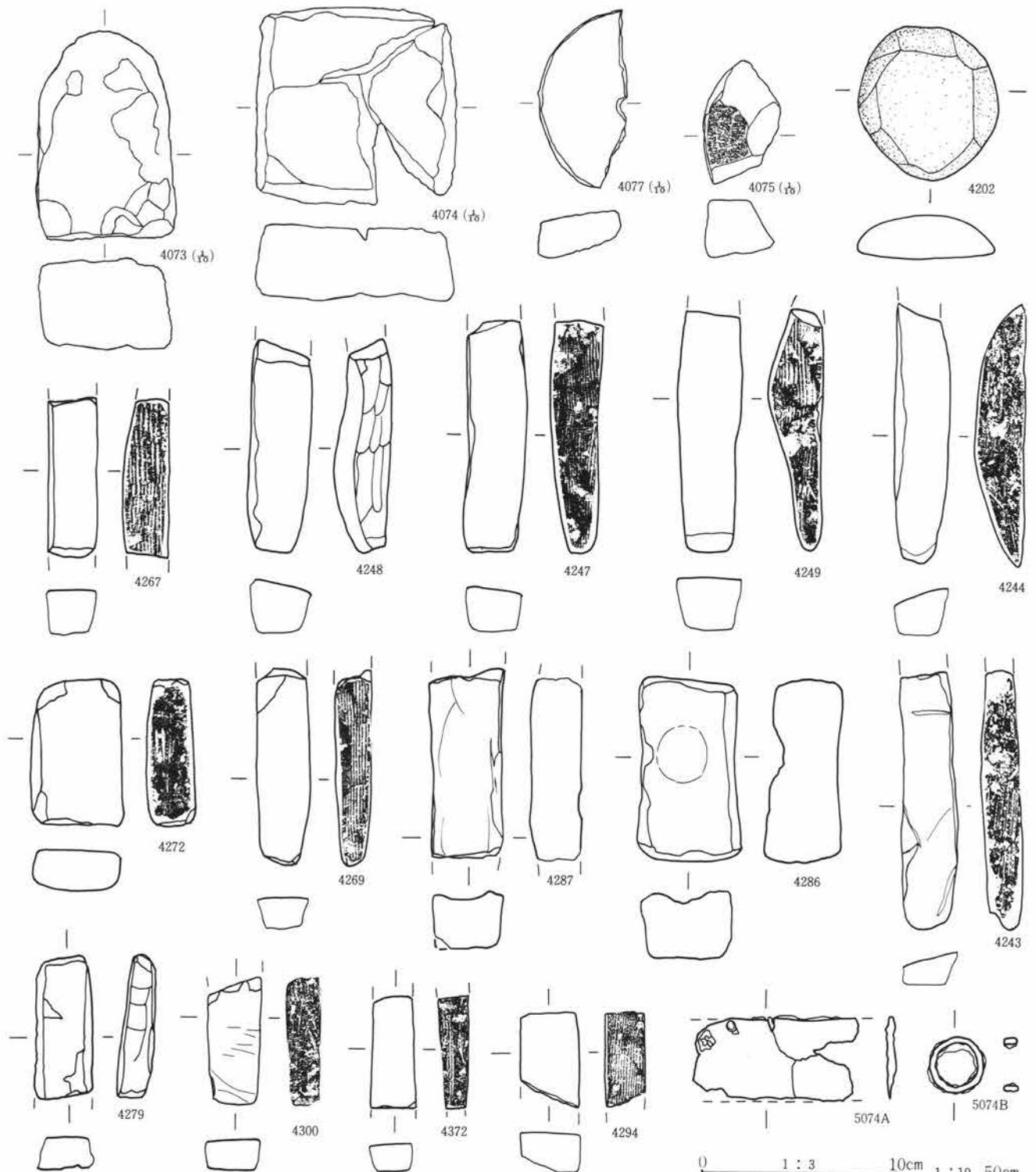


D123出土遺物(2)



D123出土遺物(3)

0 1:2 5cm 1:3 10cm

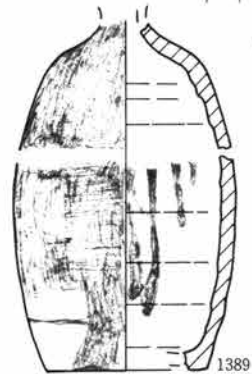
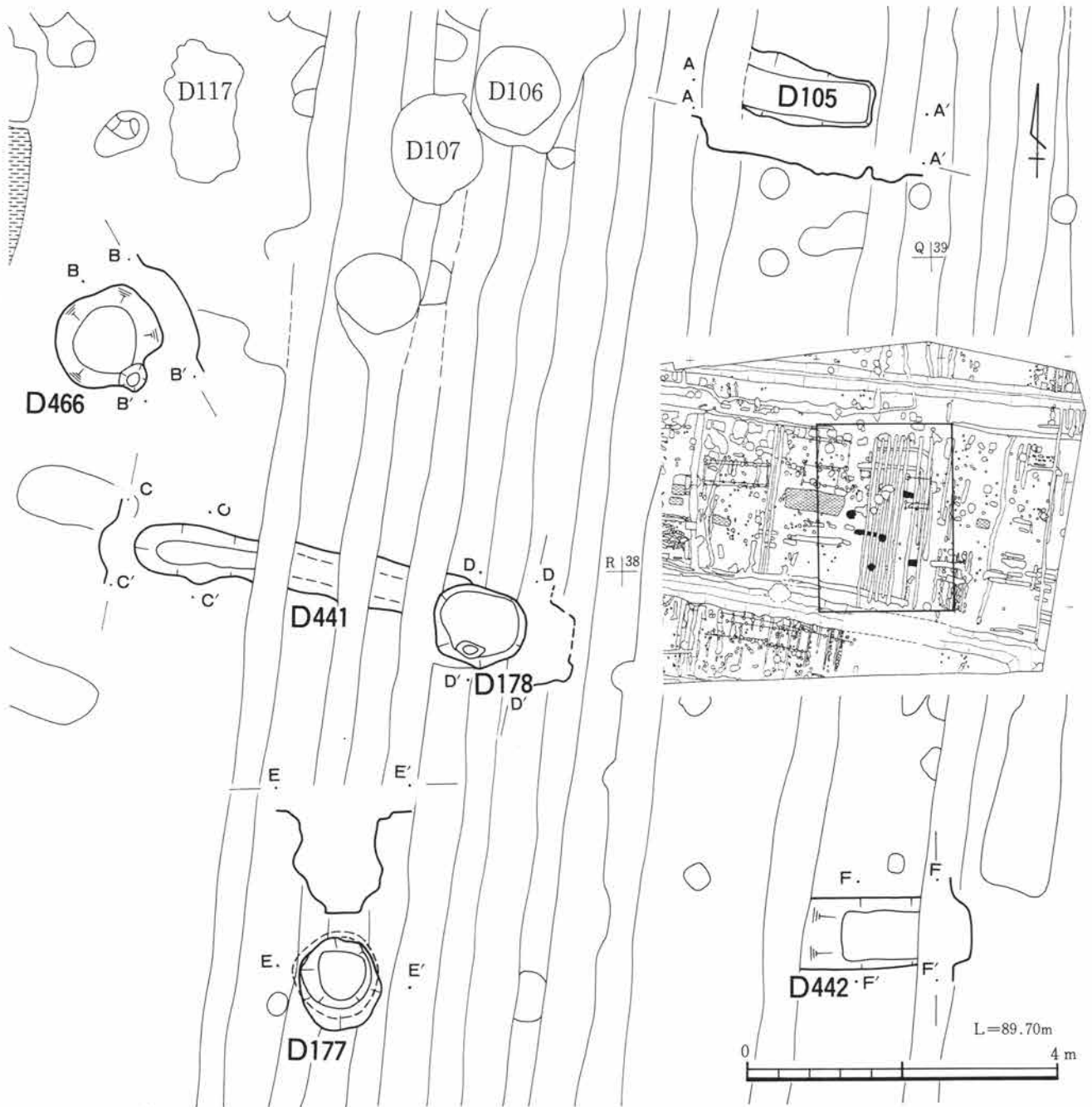


D123出土遺物(4)

(P.85より) 物処理場に使われた。南堀跡は、この井戸の使用前に廃棄されていただろう。

井戸跡D121は、D123の北約10mほどに位置し、径1.2m深1.8mで海拔88.6mに湧水層がある。鉄釉の碗小片が出土したのみ。

他にここには短冊形土坑が見られた。東西走向は、D119,D120,D435,D436で、南北走向がD121,D437~D440である。その中で、D435は長8mほどのものが2基以上重なった長大なものであり、またD439は長5mで区画溝の可能性もある。畠跡N019と重なるD119から近世陶磁器小片が、D120から近世土器小片が出土。



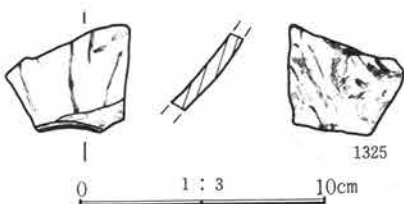
D105出土遺物

井戸跡D177遺構

土坑D105, D178, D441, D442, D466遺構 (PL.8, 67)

井戸跡D177は、径1.2m深1.3mで、湧水層は確認できなかったが海拔89.0mにえぐれ部分がある。

同じく畠跡N016に重なる土坑には、東西走向の短冊形土坑D105, D441, D442がある。D441は約長4mで、やや長い。D105からは、19世紀前半の瀬戸美濃二彩碗(1325)と同灰釉徳利(1389)及び瓦質土器焙烙(1734)が出土。1389は、南西64m離れた井戸跡D114と50m離れた土坑D144(P.60)出土片と接合。



II 調査成果

円形土坑のD466とD178は、それぞれ直径が1.2mほどで、深さは0.3mと0.5mである。後者は、桶埋設土坑の可能性もあるが、畠跡N016に重なるため残り悪い。D466からは、灰釉の壺小片が出土。

土坑D174～D176, D193, D306～D319, D445～D449遺構 (PL.10,67,68)

南堀跡が南に屈曲する部分の北側に展開する短冊形土坑群。長4.3mのD314を除く19基は、いずれも東西走向。最大は、長5.6m幅0.8mのD306で、最小は長1.8mのD308である。幅は0.5～0.6mが一般的で、1.2mあるD175は2基重複しているだろう。深さは、D418の0.4mが最も残り良い。1.ローム塊含むしまりない暗褐色土砂質土 2.暗褐色土砂質土 3.黒色土塊含むしまりない暗褐色砂質土 南北走向の区画溝M074及びM075と重なっている。

D306とD307は、未命名の畠跡と重複。D175からは、18世紀前半の肥前陶器二彩碗(1326)が出土。D306からは18世紀後半の瀬戸美濃灰釉香炉(1487)が見られ、またこれらのいづれかから18世紀代の同長石釉小皿(1437)が検出された。それらの年代が上限と考えられる。

円形土坑D193は、径1.2m深1.2mで、底付近の海拔88.3mに湧水層がある。井戸の想定で掘ったが、人為的に埋め戻したことが判明しただけで、長期間の湧水の痕跡はなかった。D176も円形土坑で、径0.9m深0.2m。形態からは、桶埋設土坑の可能性もあるが、確証はない。

井戸跡D171遺構 土坑D104,D168～D170,D443,D444遺構 (P.94図 P.94～97,PL.12,69,70)

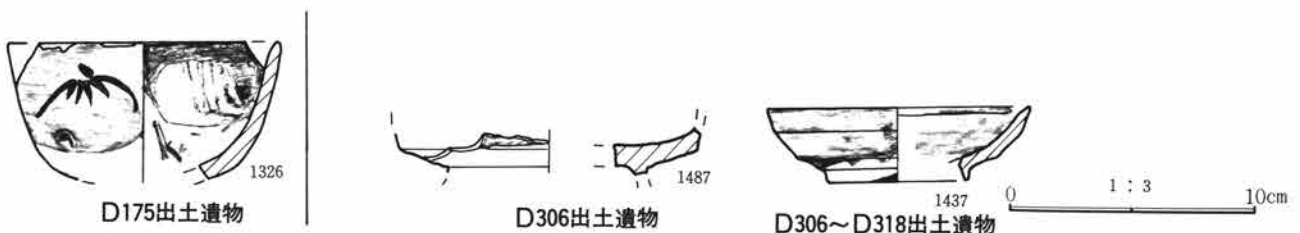
土坑D168は、長1.2m幅0.9m深0.2mの浅い長方形で、畠跡N016と走向の似る浅い未命名の溝と重なる。藁灰釉の菘碗(1329)・硯片(4198)・瓦質土器火鉢(1704)・新寛永通宝(5082)が出土。18世紀以降の廃棄物坑だろう。

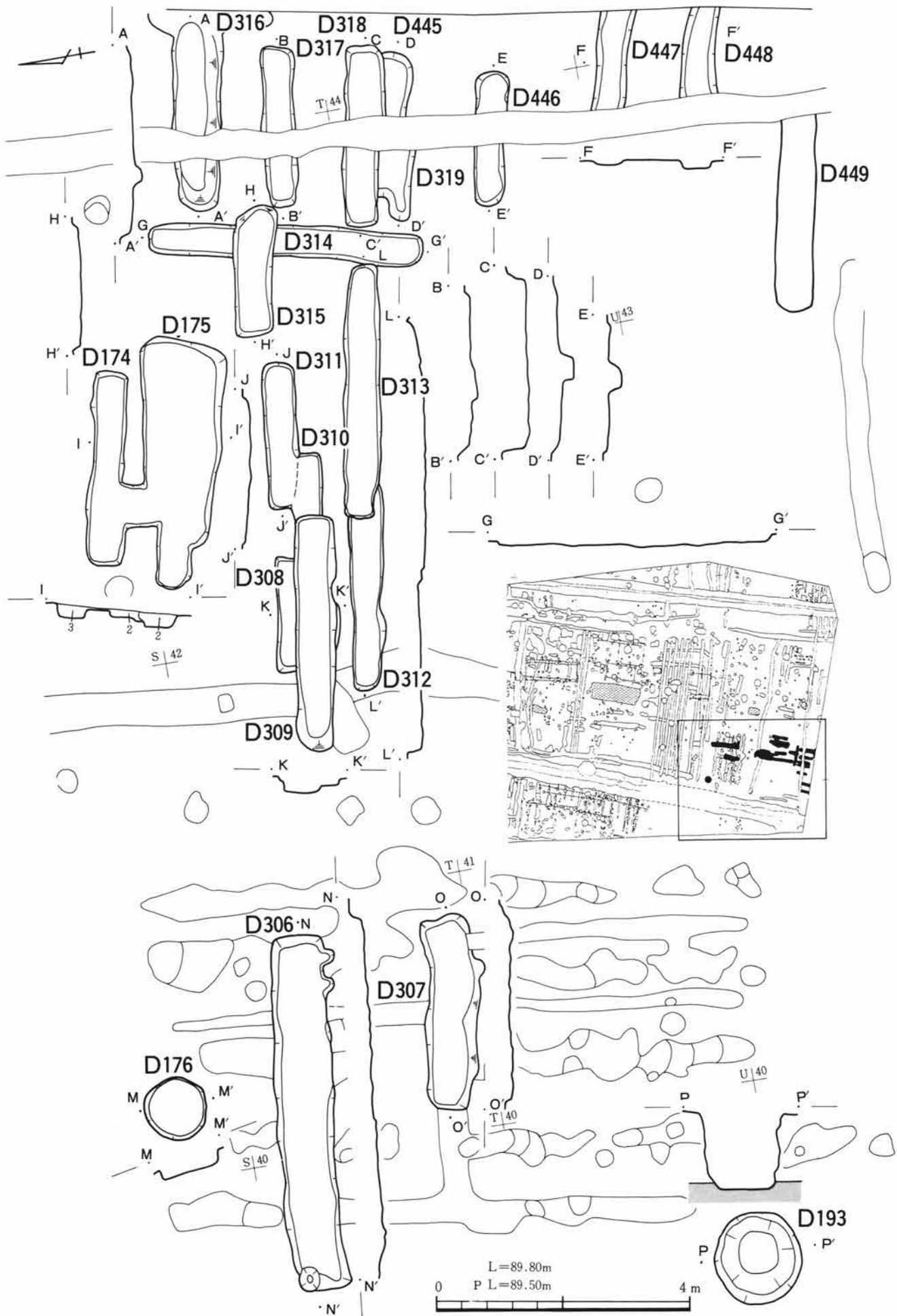
井戸跡D171は、径1.0m底は海拔86.5mを測るが、あまり顕著な長期使用の痕跡はなく、湧水層は不明。一括投棄と思われる大量の遺物が出土。

陶磁器は、ほとんど18世紀前半～中葉のものがまとまっていた。

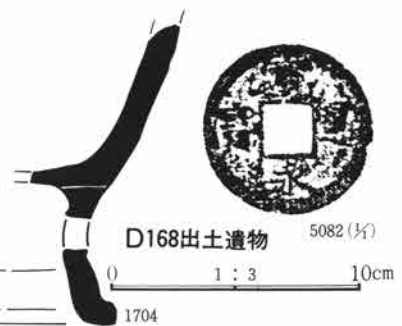
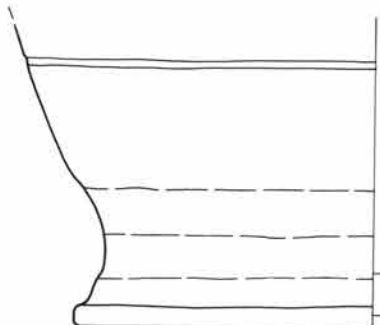
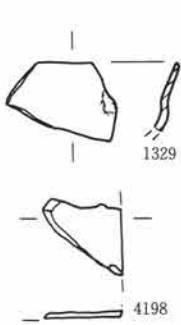
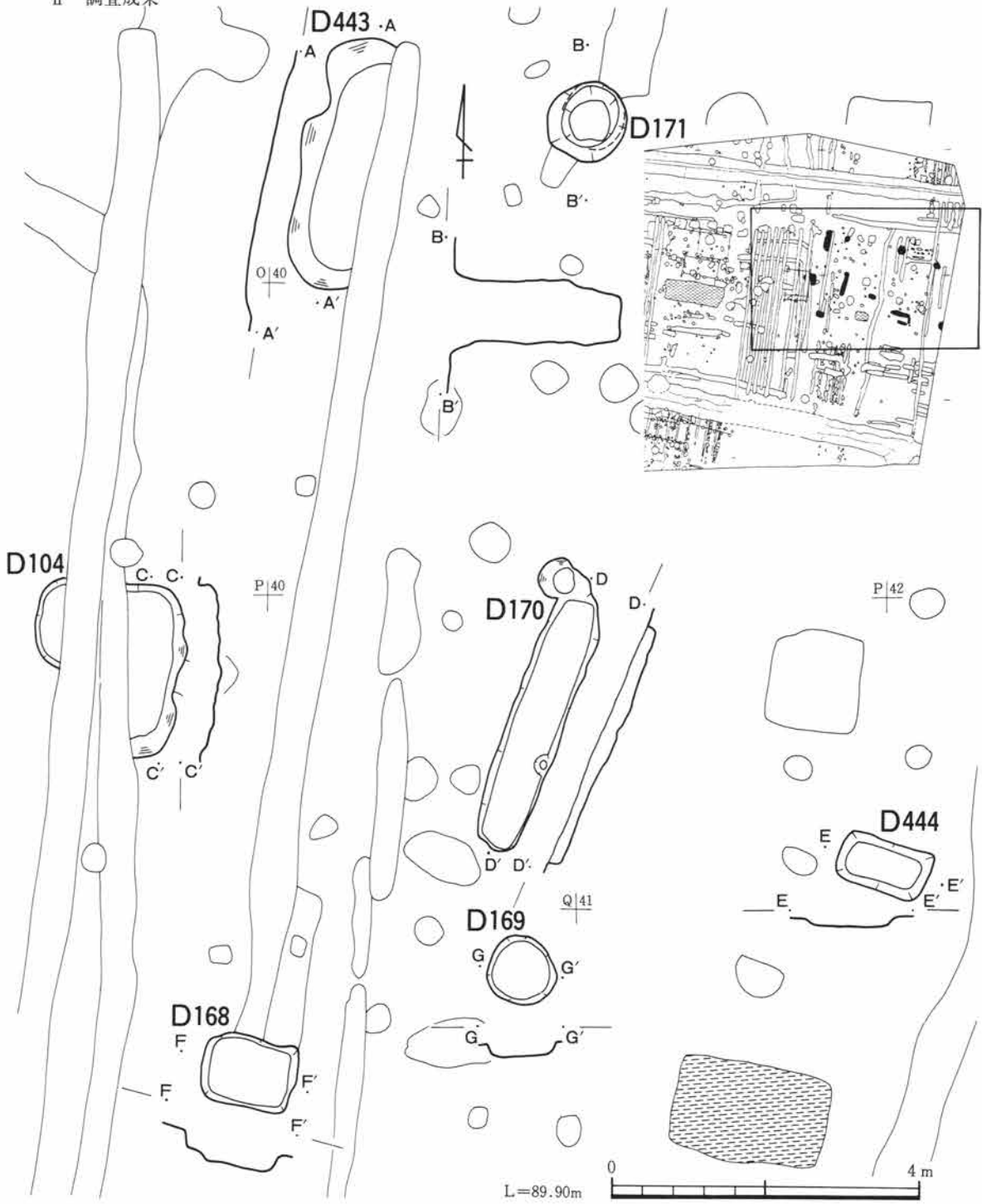
食器では、碗類では12～13世紀の竜泉窯系青磁小片(1013)が唯一の例外で、他は肥前のコンニャク印判碗(1105,20)・京焼風陶器碗(1310,13)・瀬戸美濃尾呂碗(1335,40,41,43,47,52～55)などである。皿は少なく、肥前波佐見の見込蛇の目釉割ぎ小皿(1077,89,1136)が中心である。鉢は、肥前二彩手印花(1449)や同刷毛目(1402,91)がある。

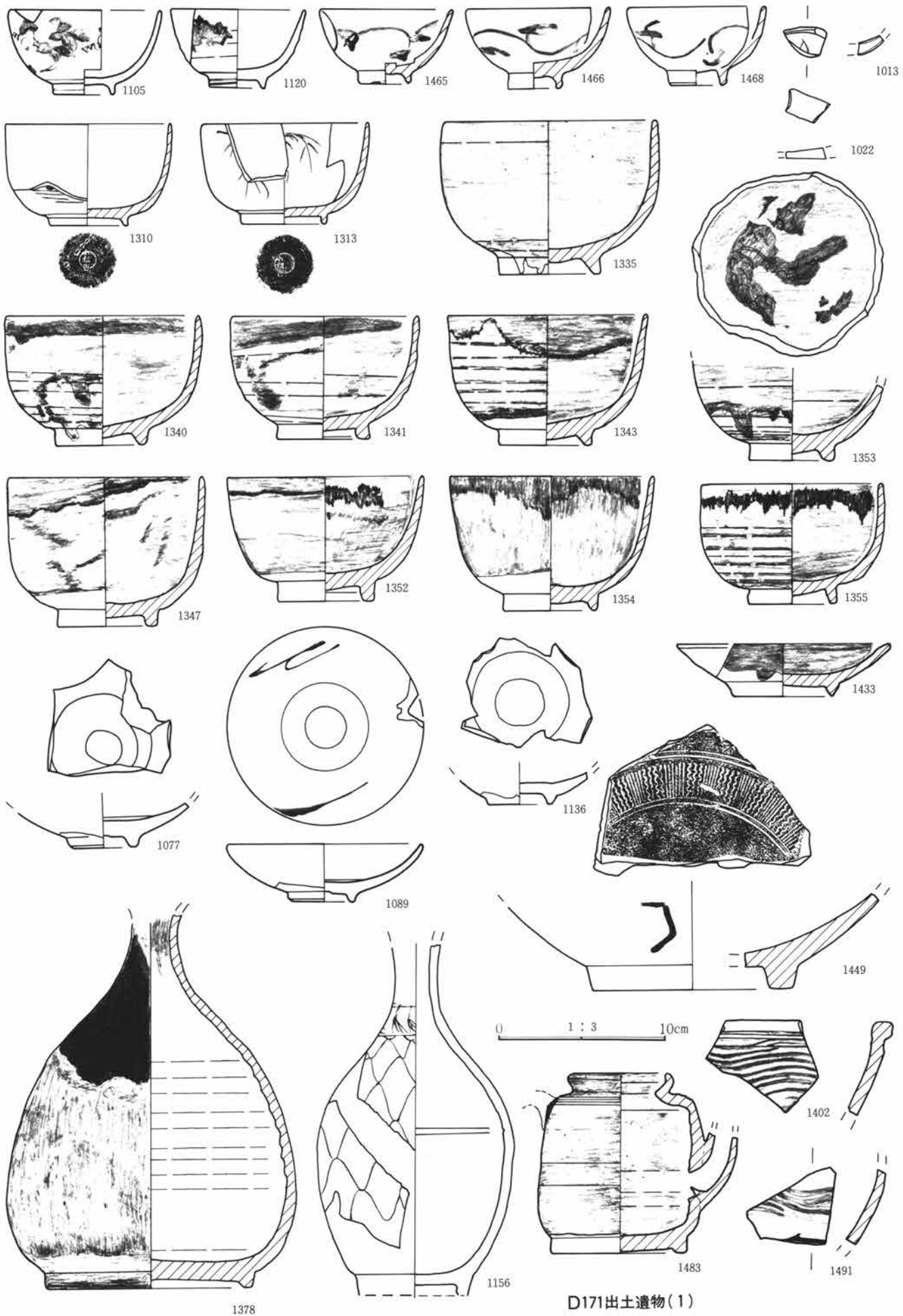
瓶類は、1650～80年代の肥前網目文染付(1156)が古い。瀬戸美濃掛け分け徳利(1378)や同飴釉水注(1483)は18世紀前半～中葉である。同鑄釉徳利(1384)も同時期。柿釉徳利(1367)は志土呂産で17世紀後半～18世紀初頭のもの。調理器では、瀬戸美濃二彩片口(1381)や丹波自然釉搦鉢(1515)もほぼ同時期である。貯蔵器の常滑甕(1523)は、14世紀と考えられる。調度具では、瀬戸美濃擦絵香炉(1475) (続P.97)

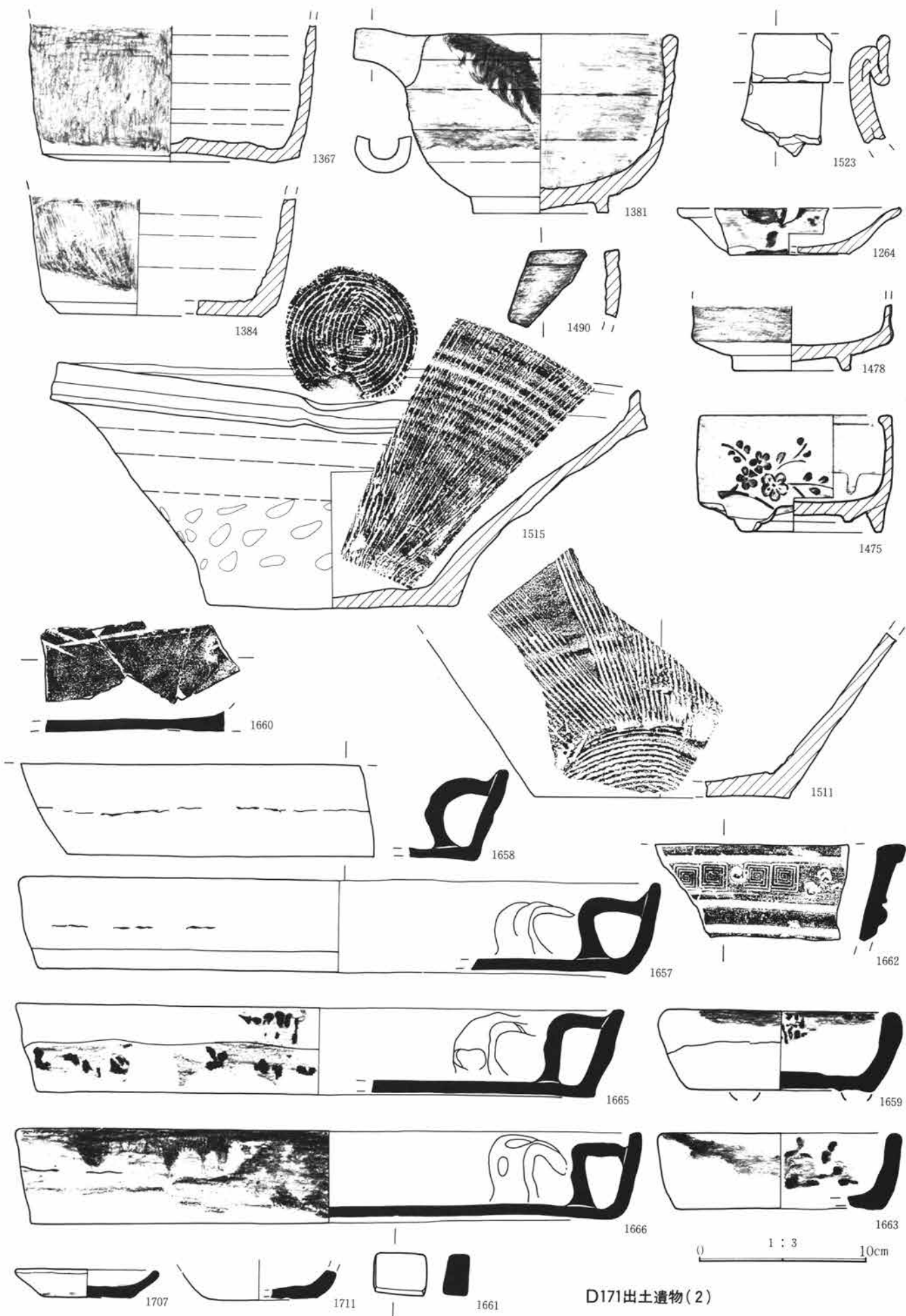




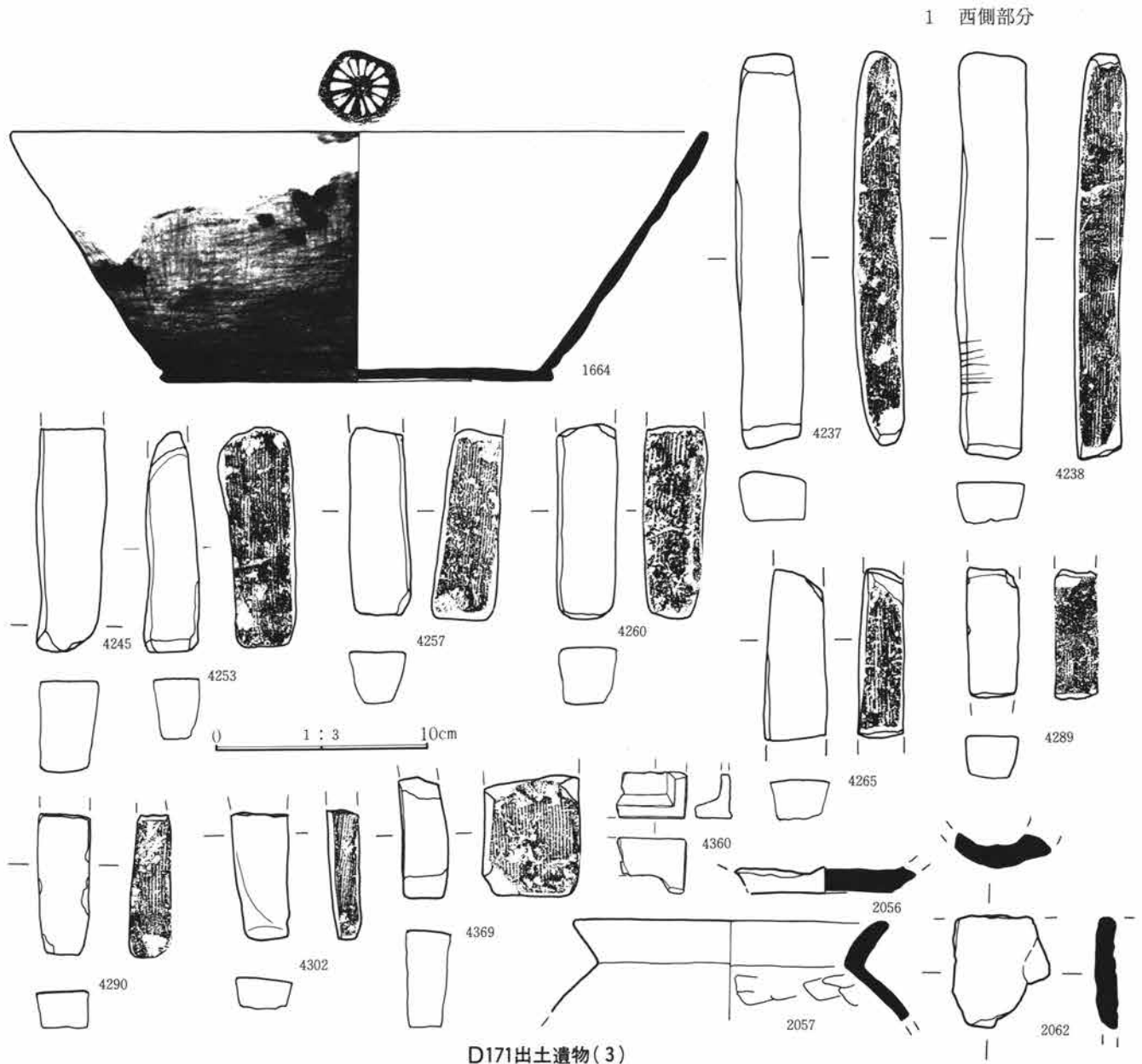
II 調査成果







D171出土遺物(2)



(P.92より) があった。瓦質土器では、焙烙(1657,58,60,65,66)はほぼ同一器形。1660の表面には不明の線刻が見られる。埴(1664)の内面には菊花状の印花が見られた。火鉢(1662)や小型火入れ(1659,63)もある。小型直方体(1661)は、栓か。

石製品は、あまり長期間使用されていない短冊形の櫛歯タガネ加工痕砥石が10本以上見られた。また脚付きの石鉢(4360)もあった。古代(2056)と古墳時代(2057,62)の土師器の混入もある。

以上のように、一部の混入品は含んではあるが基本的には同じ時期のものでまとまっている。肥前網目文染付瓶(1156)は、伝世品と考えられる。なお、この瓶以外に朝顔文染付碗(1105)・灰釉碗(1335)・尾呂碗(1352)の4点は、南西に37m離れた井戸跡D123からの破片と接合した。

D170は南北走向の短冊形土坑で、長3.4m幅0.6m深0.2mを測る。1.ローム塊含むしまりない暗褐色砂質土

D443も同規模の短冊形土坑か。D104は形状不明で、掘立J031と畠跡N016に重なる。D169は径0.8mの円形、D444は長1.2m幅0.6mの長方形で、いずれも浅い。

II 調査成果

井戸跡D179～D182遺構

土坑D118, D139～D143遺構 (PL.10, 11, 71, 72)

井戸跡D179は道路跡X001と重なり、径0.8m深1.7mを測る。海拔89.0mの壁に崩落状況が見られる。同じくX001の北側屈曲部分と重なるのが、井戸跡D180とD181である。前者は径1.0m深1.8mで海拔89.1mの壁に崩落状況がある。後者は、径1.0m深1.6mで南側にやや浅いピットが重なる。壁の崩落は見られない。D182は、北堀跡M065の北斜面にあり、径1.0m深1.6mでM065の底より0.3m深い。いずれも湧水層は、底近くで前者は海拔88.4m、後者は海拔88.3mである。

以上の中で、遺物はD181からのみ常滑系自然釉高台付きコネ鉢(1518)と石臼類が見られた。前者は12～14世紀頃と考えられる。北堀跡からの混入だろう。

道路X001に重なる箱形土坑は、D118, D139～D141がある。道路跡の南に連なるものとは列が異なる。幅はいずれも0.7mほどで最長のD141は1.7mでやや五角形。このD141からは、17世紀後半～18世紀中葉の瀬戸美濃尾呂碗(1356)が出土。そのため、道路跡より古いと考えられる。

円形のD143は、道路の北側屈曲部に重なり、径1.0mで浅い。短冊形土坑D142は、南北走向で長2.9m幅0.6m深0.5mである。

井戸跡D172, D173遺構

土坑D302～D305, D450～D452遺構 (P.100図 PL.10, 73, 74)

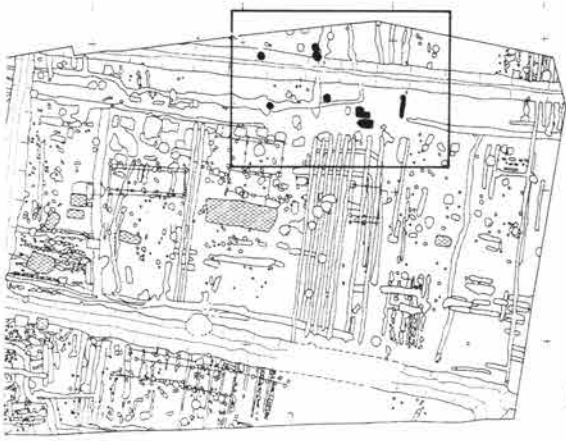
井戸跡D172は、上径1.6×1.2m深3.4mと深い。湧水層は海拔89.4mに見られ、深2.8mより下は径が小さく、増す掘りと思われる。畠跡N039と重なる。

遺物はやや多く、陶磁器では17世紀後半～18世紀前半の肥前二彩印花文鉢(1453)から18世紀後半の同染付湯飲み(1134)そして19世紀前半の瀬戸美濃錆釉小皿(1439)まで幅広い。焼締の播鉢(1508)は備前系。瓦質土器では、焙烙(1800)と火鉢類の脚部(1713)がある。また石臼(4149, 50)と共に、木器が少し出た。桶底板(3273)以外は、正確には何の部材かは不明の角材である。そのうち、長80cm近くの角材(3270)は、ホゾとホゾ穴が両側に見られる建築部材である。

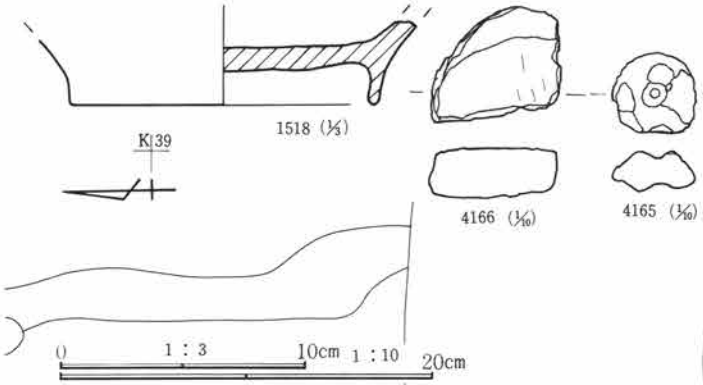
掘り増しも含めて、18世紀前半～19世紀前半の使用が考えられる。

井戸跡D173は、区画溝M075と重複し、上径1.3×1.1m深2.0mを測る。海拔89.4mの壁に崩落状況が見られる。南側に小型で浅い短冊形土坑D450～D452が、東西走向2基と南北走向1基並ぶ。円形土坑のD302は、井戸跡の可能性もあったが、半分が現有道路の下であったため、発掘をしなかった。

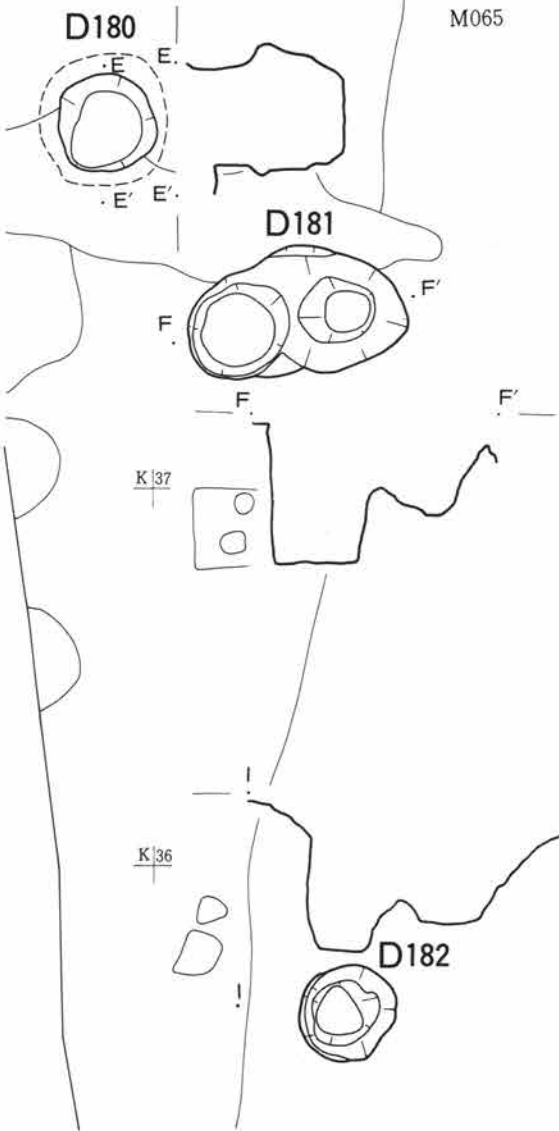
それらの井戸跡と土坑群の北大溝を挟んだ対岸には、畠跡N037に切られながら土坑D303～D305が見られた。D304は径1.6m深0.3mほどで、やや桶埋設土坑に似る。D305は1.4×1.2mの楕円形。以上はいずれも近世の土坑と思われるが、1.0×0.6mの小楕円形のD303からは、古代の須恵器碗(2067)が出土した。



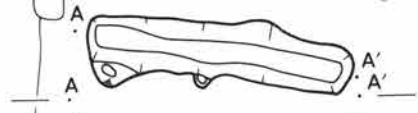
D181出土遺物



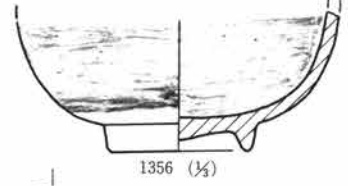
M065



D142

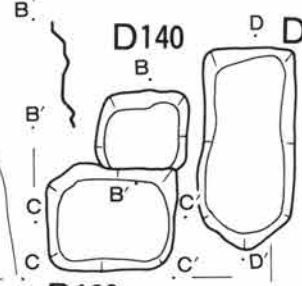


D141出土遺物



D140

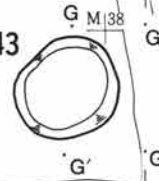
D141



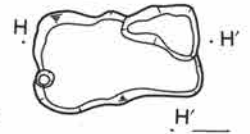
D139



D143



D118

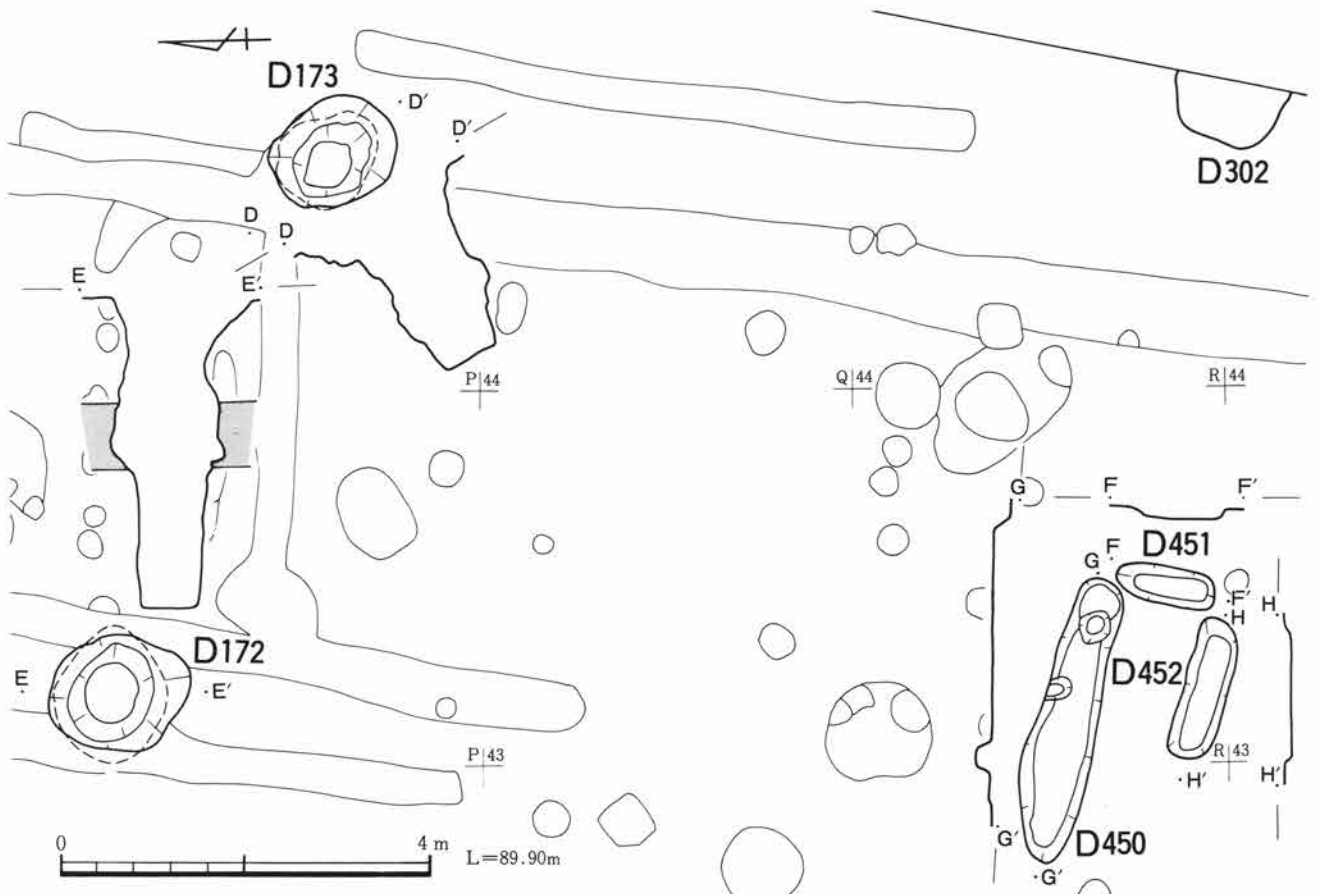
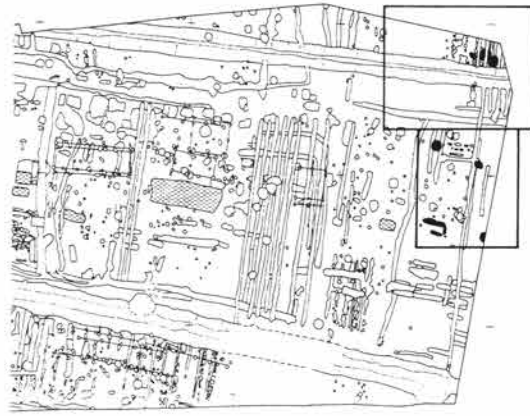
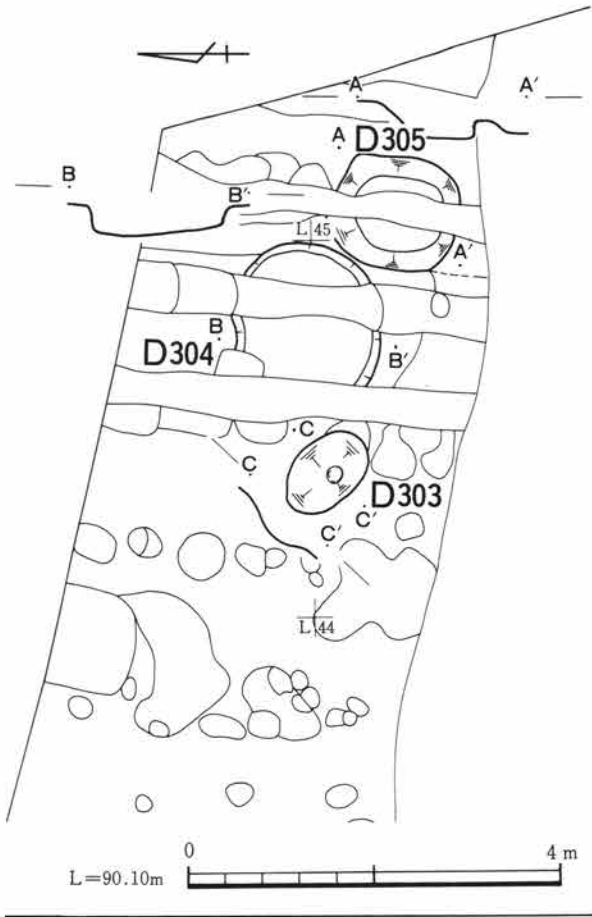


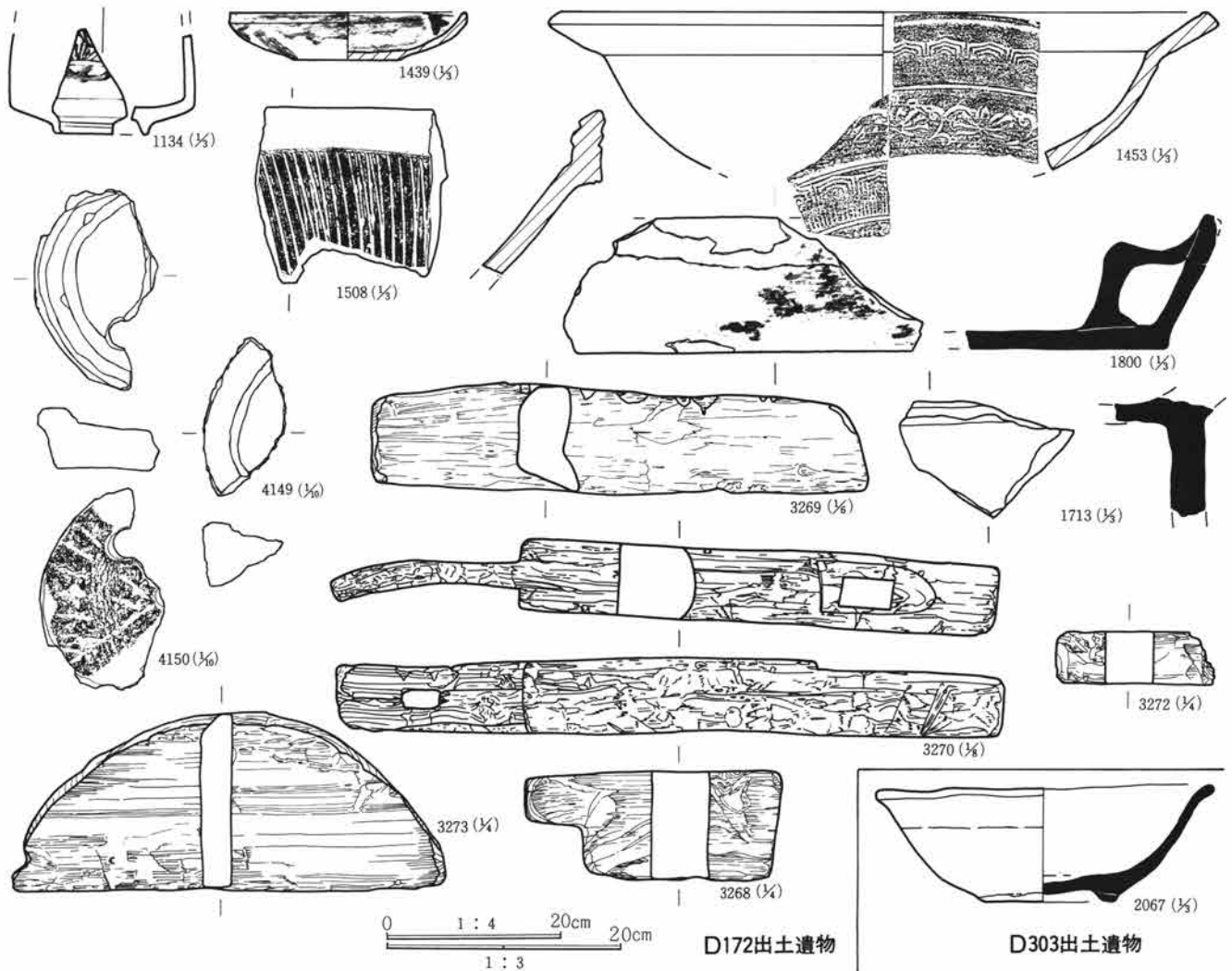
D179



L=89.90m







畠跡N015, N037~N039遺構 区画溝M072遺構
井戸跡D040遺構 (P.102図 PL.16,74,75)

畠跡N015は、1.2mほどの間隔で、南北走向で7条のサクが検出された。耕作単位は、東西9m南北8m以上となる。南側に浅い未命名の溝が重なる。

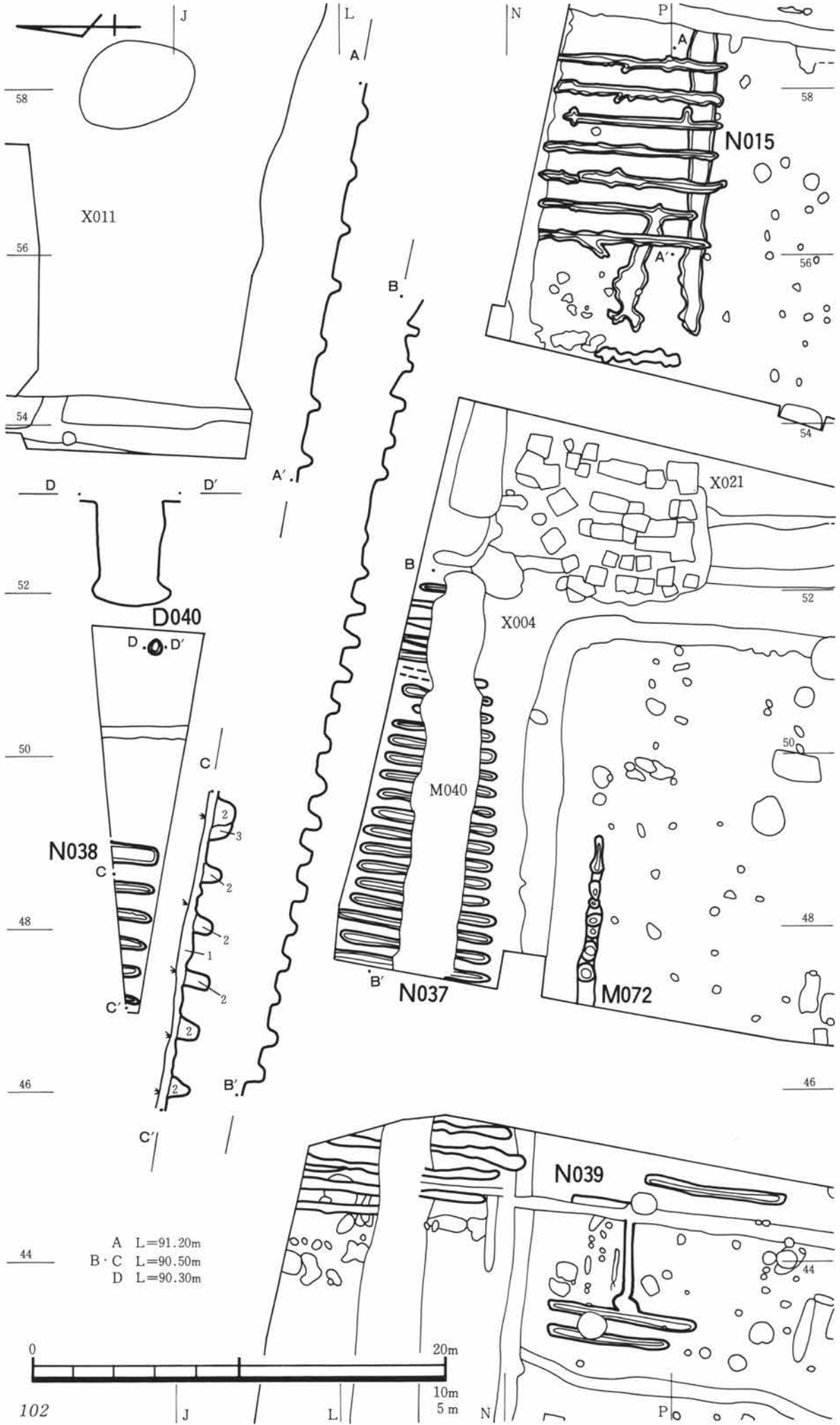
畠跡N037は、南北走向の27条以上のサクからなり、間隔は30cm前後と細かい。耕作単位は、東西30m南北10m以上となる。北大溝M065及び道路跡X001より新しいが、現有道路の下に入っている。この耕作単位内から出土した遺物は、1780~1810年代の肥前染付湯飲み(1124)と18世紀代の肥前二彩手印花鉢(1308)、そして砥石(4293,4316,17)・鎌(5068)がある。よって、19世紀代の遺構と考えられる。

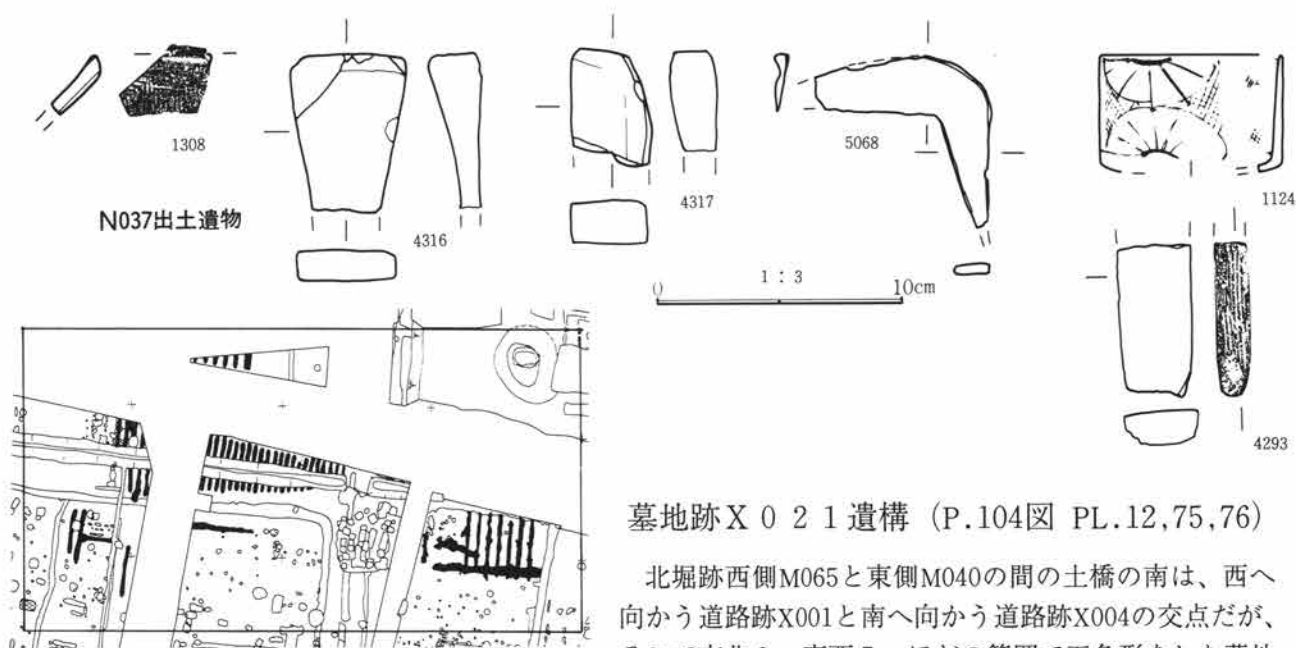
畠跡N038は、南北走向で間隔は60~80cm、6条のサクが検出された。東西は6m以上だが、検出範囲が狭く耕作単位は不明。1.表土 2.しまりない暗褐色砂質土 3.しまりない黒褐色砂質土 この畠跡は南側のN037と間隔が異なっており、両者の間の現有道路の存在を示唆している。そのため、旧道X001の廃絶後に現有道路とこれらの畠跡が形成されたと考えられる。

畠跡N039は、N039の南西側に南北走向の4条のサクが検出されただけである。検出状態は不良だが、間隔は50~70cmほどと思われ、耕作単位は東西8.5m南北11m以上となる。区画溝M075と重なるが、道路X001を意識している。そのため18世紀頃と推定できる。

区画溝M072は、道路跡X001に平行して東西走向で8m確認された。内部はピットの連続であり、排水溝ではなく植栽痕だろう。

井戸跡D040は、径1.6m深2.5mで、底の海拔88.4mに壁の崩落痕があり、湧水層と考えられる。





墓地跡X021遺構 (P.104図 PL.12,75,76)

北堀跡西側M065と東側M040の間の土橋の南は、西へ向かう道路跡X001と南へ向かう道路跡X004の交点だが、そこで南北9m東西7mほどの範囲で五角形をした墓地跡が検出された。

ここは久保田久雄氏家の墓地であったが、改葬が行われた後に調査を行った。しかし水位が高かったため、発掘は底までは行えず、実測も平面のみにとどめざるをえなかった。

平面形が一辺0.7~1.3mの正方形で深さが1m以上ある墓壙が35基以上、長1.4~2.0m幅0.8mの長方形で木棺が残る墓壙が3基確認された。長方形墓壙は中央にまどまり、正方形墓壙を壊している。また湧水中に衣服片が見られたため極めて新しいものと考えられた。正方形墓壙は、座棺の桶を埋設した可能性が大きい、木片の残存はなかった。平面が正方形であることと壁の掘り方がそれほど丁寧でない点が、桶埋設土坑と異なっている。正方形墓壙どうしでの重複も少しあるため、ある程度長期間の形成が考えられた。

遺物は、陶磁器と銅銭が主である。食器では、近代の瀬戸美濃染付端反碗(1203)と13~14世紀の竜泉窯縞蓮弁文青磁片(1005,15)が見られた。調理器では、18世紀前半~中葉の瀬戸美濃錆釉播鉢(1528)・関西系灰釉コネ鉢(1531)そして12~14世紀の常滑自然釉鉢(1532)があった。後者は北大溝M040出土片と接合した。銅銭は、いずれも寛永通宝で古寛永(5100A,E,5101B)と新寛永(5099,5100B~D,F,5101A)で5100Fは裏波文の四文銭である。

他には中世以後の土師器小皿(1745,53)・近世の瓦質土器焙烙片(1748)、そして鎌と石臼片が、見られた。

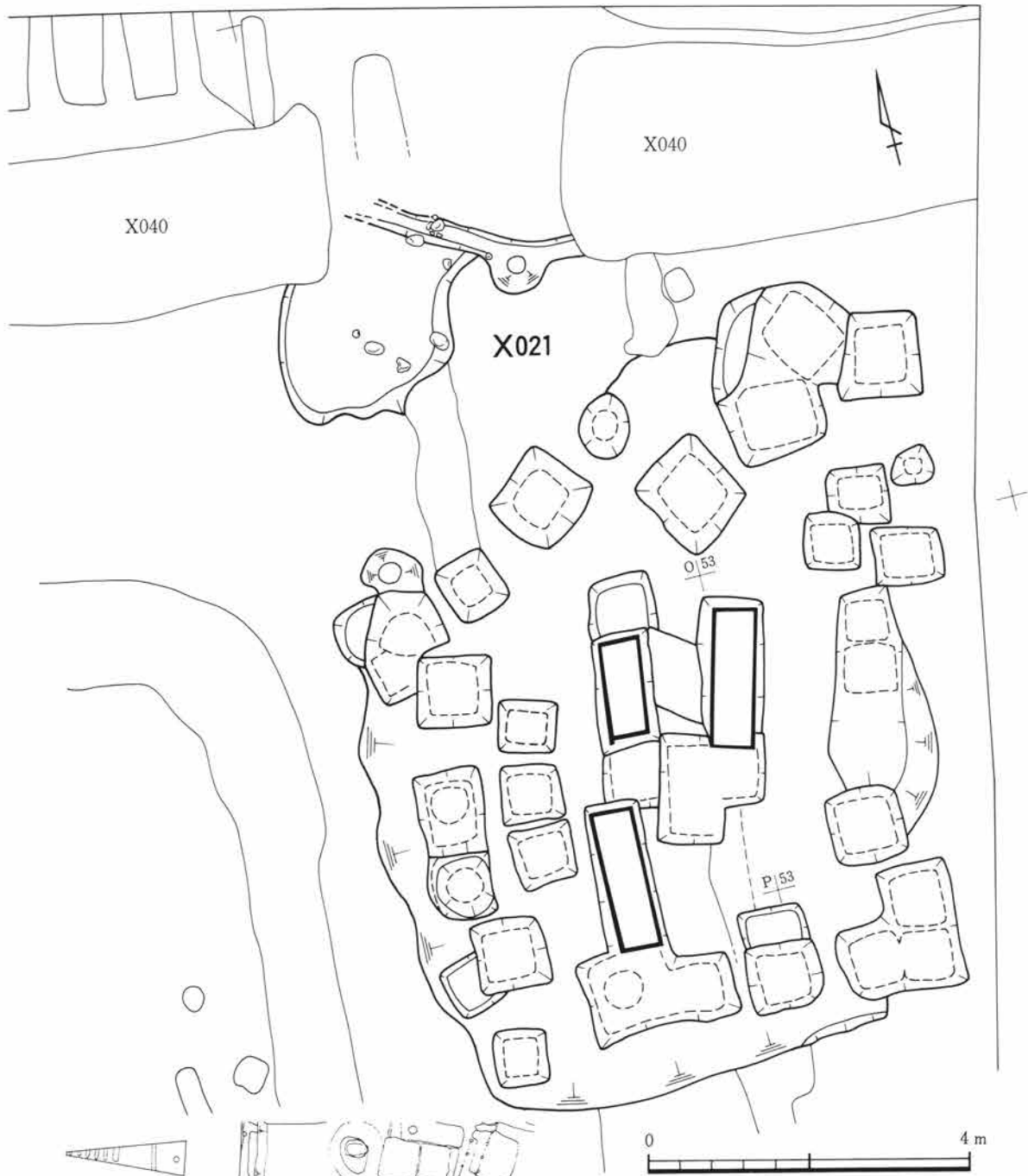
以上の中で、青磁と常滑鉢は中世遺構からの混入で、鎌と石臼片も墓壙への副葬品とは考えにくい。反対に播鉢とコネ鉢は、近隣の二之宮谷地遺跡(当事業団1993)でも見られたように被葬者の頭部にかぶせられていた可能性が考えられる。

道路跡X004の年代が18世紀前半であること、銅銭の中で最も新しい四文銭の初鑄が明和5(1768)年であることを含めて、遺物からは18世紀中頃から近代に至る使用と思われる。

なお、改葬後に調査したこの墓地の石塔銘は、次のとおりであった。

片面加工地藏弥勒像	享保5(1720)	享保6(1721)か	享保18(1733)	享和2(1802)
三面加工丸型標塔	宝暦5(1755)か	宝暦8(1758)	天明6(1786)	寛政8(1796)
同 角型標塔	明和4(1767)	天明1(1781)か	文化12(1815)/天保7(1836)	嘉永3(1850)か
四面加工丸型標塔	慶応1(1865)	明治22(1889)		
片面加工小標塔	享和2(1802)	不明2		
三面加工小標塔	天保14(1843)	弘化3(1846)	弘化4(1847)	嘉永3(1850)

II 調査成果



また墓誌に記された没年は、次のとおりである。（◆は石塔銘と一致するもの）

17世紀 元禄2,3,5

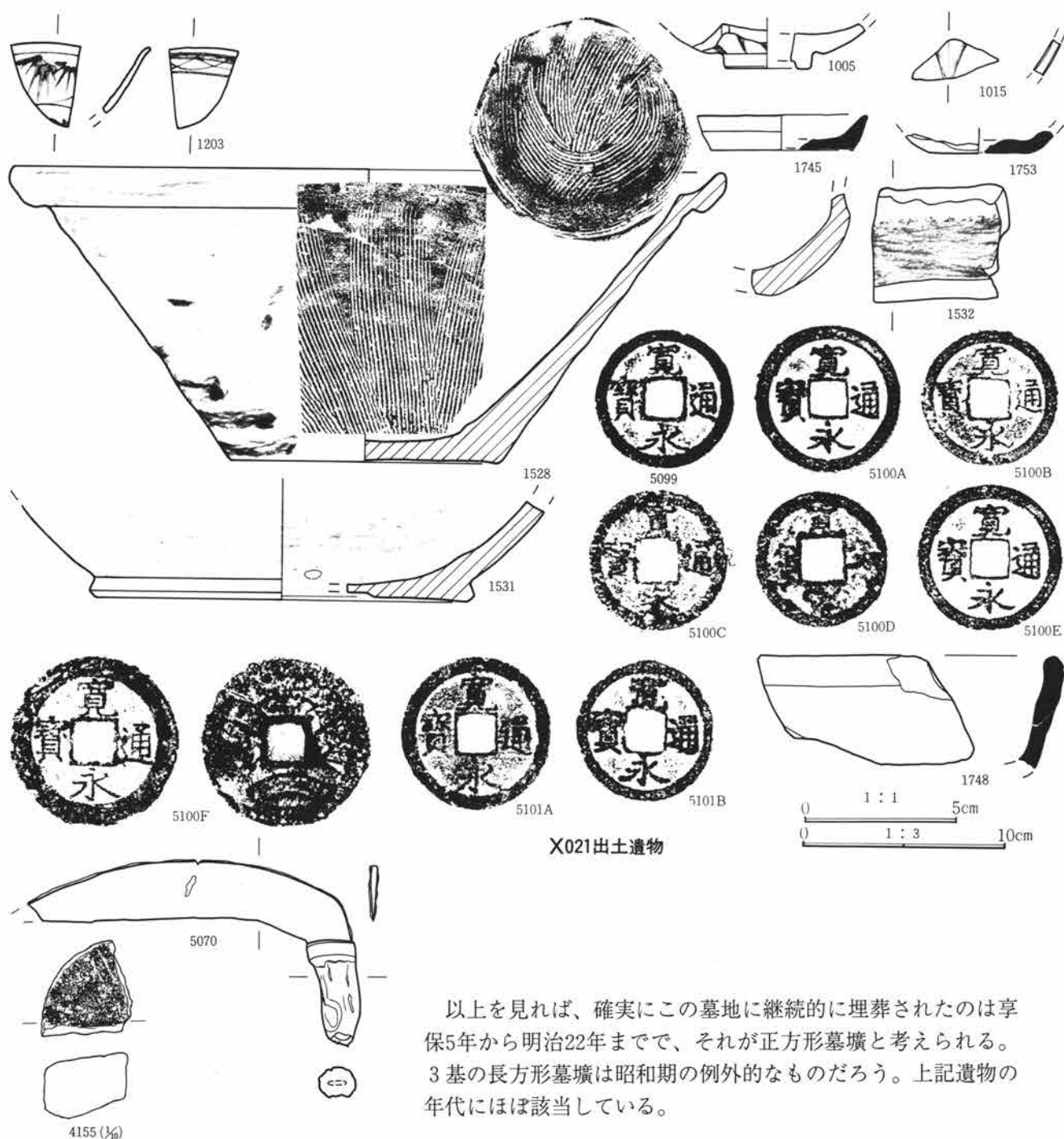
18世紀 ◆享保5 宝暦3,7,◆8,11

明和2,◆4 天明3,◆6 ◆寛政8

19世紀 享和4 文化9 文政2,6 天保1

嘉永1 明治9,12,14,16,21,26,
28

20世紀 昭和9,38,42,46,47,50



以上を見れば、確実にこの墓地に継続的に埋葬されたのは享保5年から明治22年までで、それが正方形墓壇と考えられる。3基の長方形墓壇は昭和期の例外的なものだろう。上記遺物の年代にほぼ該当している。

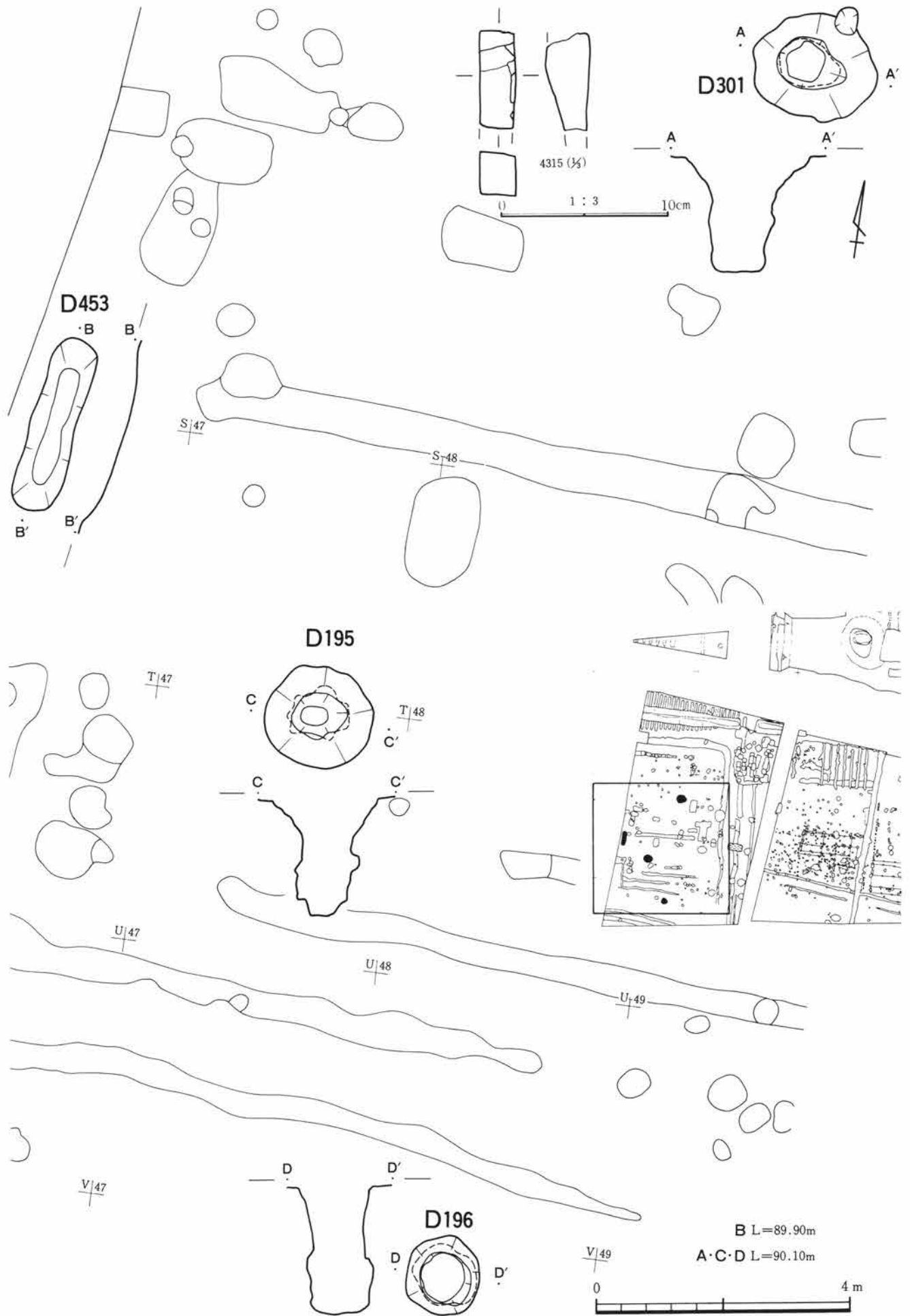
井戸跡D195, D196, D301遺構 土坑D453遺構 (P.106図 PL.76,77)

道路跡X004の西側に散在する遺構群。井戸跡D195は、上径1.7m深1.9mで、海拔89.3mの壁に崩落痕がある。井戸跡D196は、上径1.2m深2.0mで、同じく海拔89.1mより下の壁が崩落。井戸跡D301は、上径2.0×1.7m深1.8mで、やはり海拔89.3mに崩落痕。D301から山形の砥石(4315)が出土したのみ。

土坑D453は、長2.8m幅0.8mの南北走向の短冊形土坑。形状より近世と考えられる。

井戸跡D198, D199遺構 土坑D197, D200, D454遺構 (P.107図 PL.77)

道路跡X004に重なる遺構群。(続P.107)



1 西側部分

(P.105より)

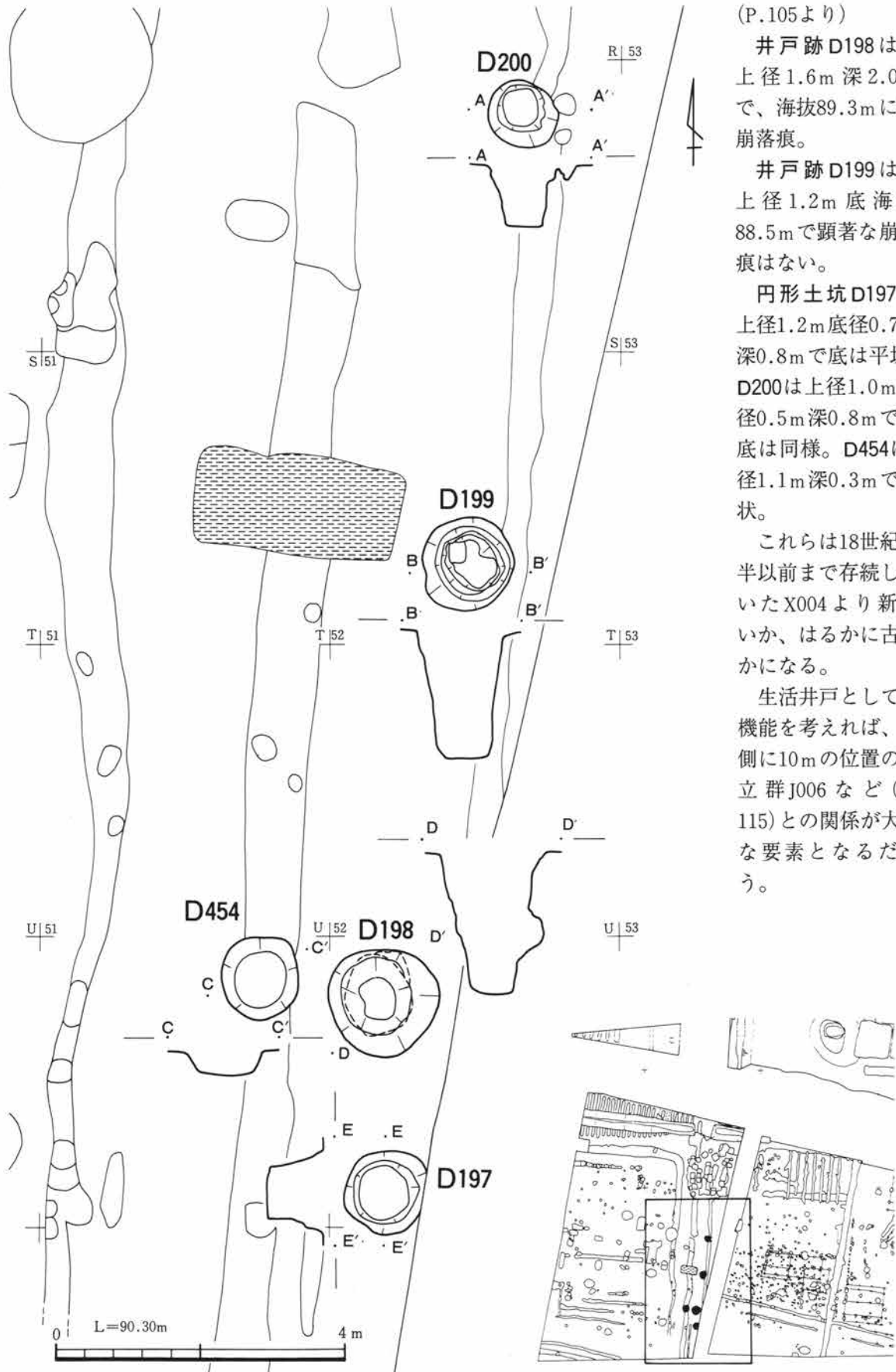
井戸跡D198は、上径1.6m 深2.0mで、海拔89.3mに壁崩落痕。

井戸跡D199は、上径1.2m 底海拔88.5mで顕著な崩落痕はない。

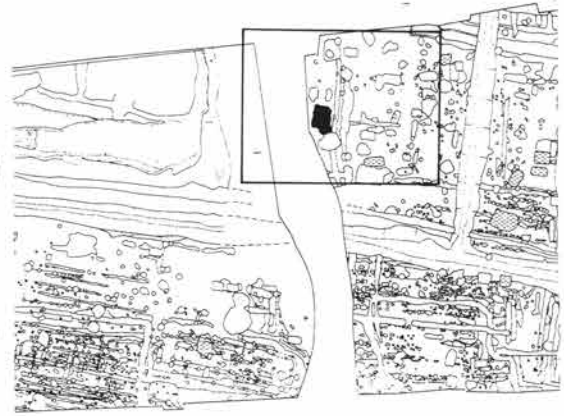
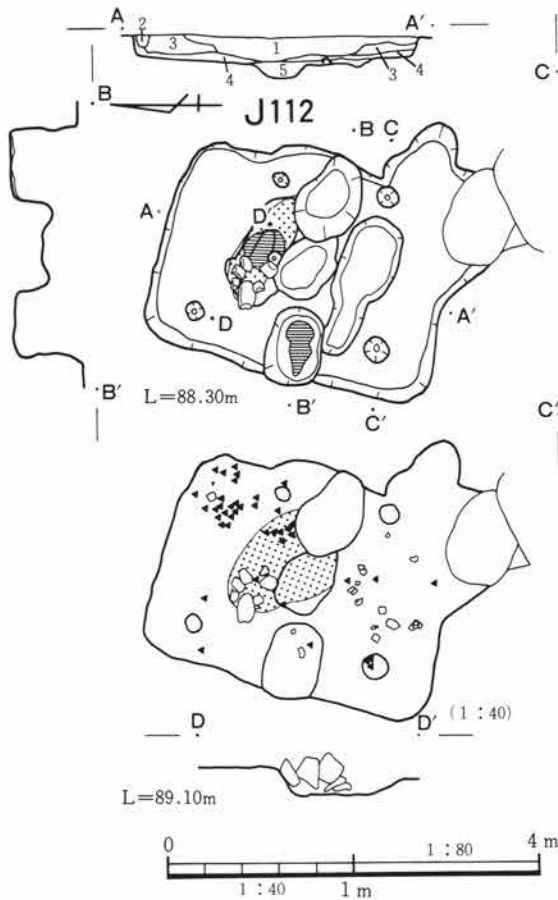
円形土坑D197は上径1.2m 底径0.7m 深0.8mで底は平坦。D200は上径1.0m 底径0.5m 深0.8mで、底は同様。D454は、径1.1m 深0.3mで皿状。

これらは18世紀前半以前まで存続していたX004より新しいか、はるかに古いことになる。

生活井戸としての機能を考えれば、東側に10mの位置の掘立群J006など(P.115)との関係が大きな要素となるだろう。



II 調査成果



竪穴住居跡 J 1 1 2 遺構 (PL.78,79)

台地西端に位置し、水田跡N203の低地を望む。東西2.4m南北3.1m深0.3mで、東壁南側にカマドがある。南東角は近世の井戸跡D190及び未命名の土坑に壊されている。1.黒褐色粘質土 2.攪乱 3.暗褐色土粘質土 4.にぶい黄褐色粘質土 ローム粒主体で鉄滓・炭化物多く含み、しまりなし 5.にぶい黄褐色粘質土 ローム粒主体、しまりなし

床面中央に東西方向に3個のピットが並んでいる。そのうち両端は80×50cm深80cm、中央のものは深40cm弱。西側のものは、底に灰が見られた。東端のピットと異なって西端のものの埋土はややしまりがあり、この竪穴の最終使用時には埋まっていた可能性がある。このピット列の北側中央には6個の礫でコ字形に組まれた石組が床の上にあり、灰と焼土がやや広く散布していた。

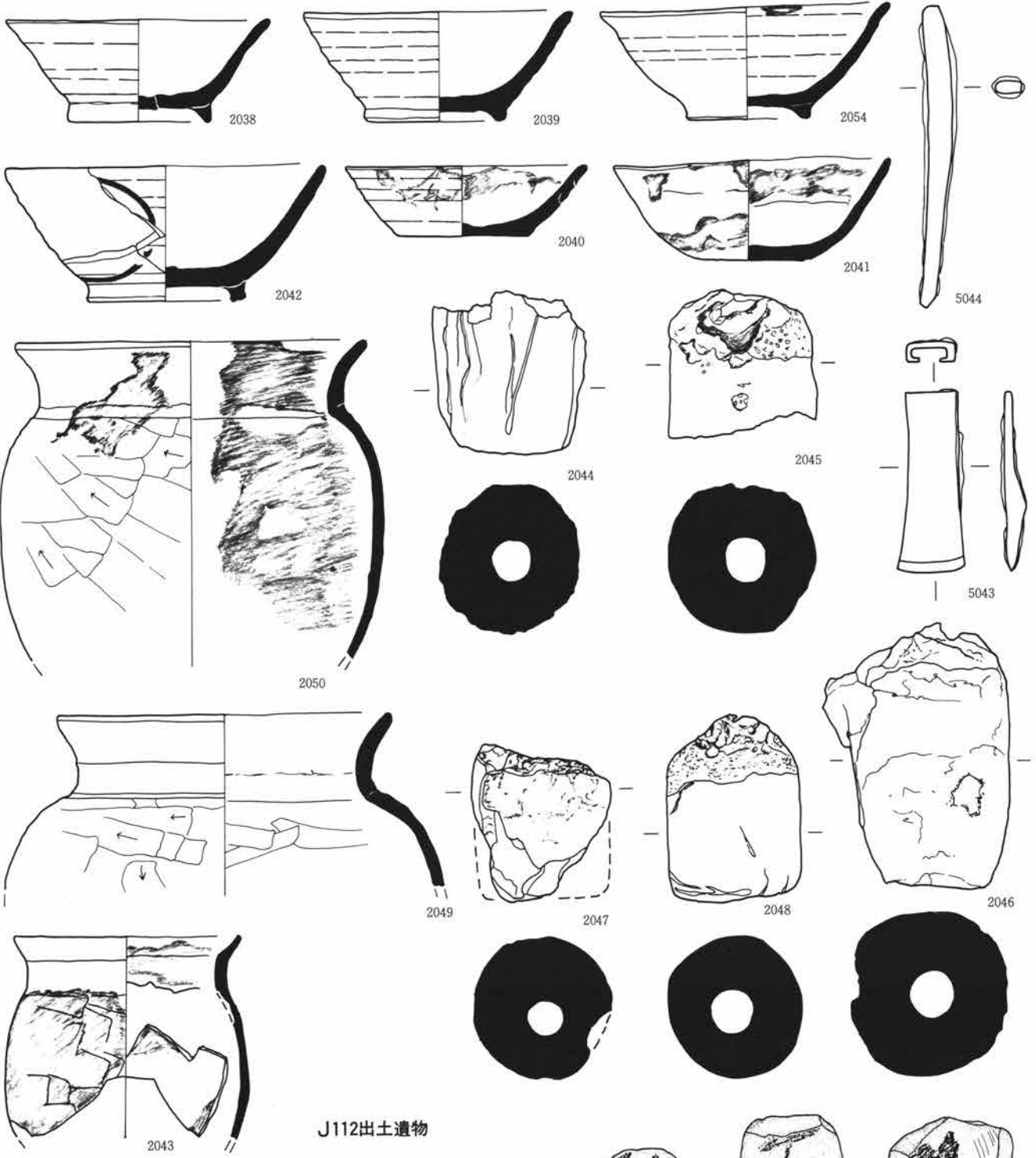
中央ピット列の南側でも1.5×0.5mほどの細長く浅い掘り込みがある。柱穴は4個あるが、竪穴の平面形とは異なって、東片が狭い台形配置になっている。上記各施設はいずれも、この台形内におさまっている。

遺物はかなり多く、特に北東角を中心に鉄滓(▲印)が大量に散っていた。その他に、5個の土製フイゴ羽口(2044~2048)がばらばらに見られた。そのうち完存の2046は13cm、2048は10cmの長さである。また石組に使われていたのは角閃石安山岩の加工石(4362~64)で、10×20×30cm以上の直方体状に作られている。表面には被焼痕がある。

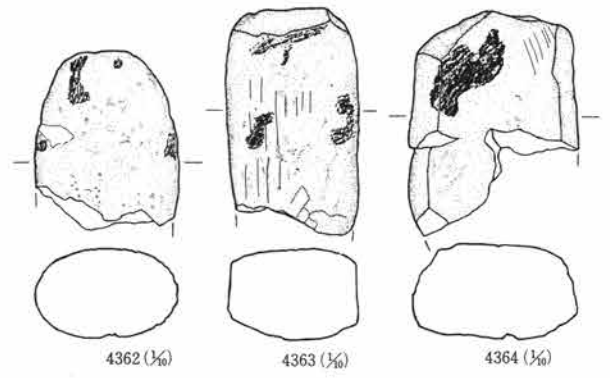
鉄製品では、長9cm幅3.5cmの袋状鉄斧(5043)と長15cm幅1.5cmの棒状のもの(5044)がある。

土器は一般的な食器と煮炊具が揃っている。しかし興味深いことに、須恵器碗の中に外面の大きく丸印の墨書のあるもの(2042)と内外面に線刻で「川」のような字があるもの(2054 参照PL.165)が含まれていた。また須恵器坏(2040)と土師器坏(2041)には内外面にススが見られた。土師器甕(2043,49,50)にもススが付着した部分が多い。

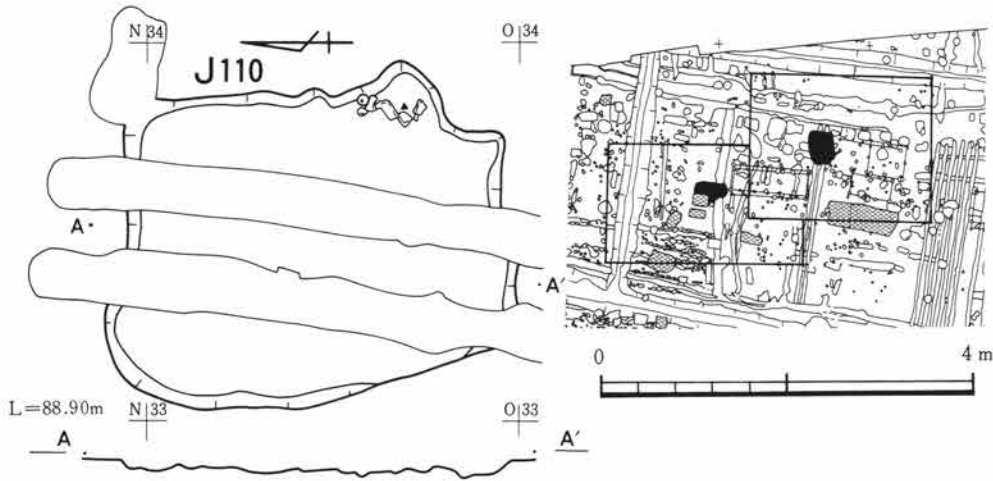
以上の特徴を見ると、この竪穴が小鍛冶生産を専門に行っていた施設であることはほぼ間違いないだろう。中央のピット列は工作用のものであり、石組施設も小鍛冶炉と考えられる。鉄斧や鉄棒も、製品とするのが自然だろう。そしてその施設のため、おそらく通風の処理の必要があって、建物の上屋も一般の竪穴とはかなり異なった構造になったと思われる。土器とカマドの存在から居住もなされていたが、墨書や線刻はこの施設の生業と関係あったのではないだろうか。時期は、土器より9世紀後半頃だろう。



J112出土遺物



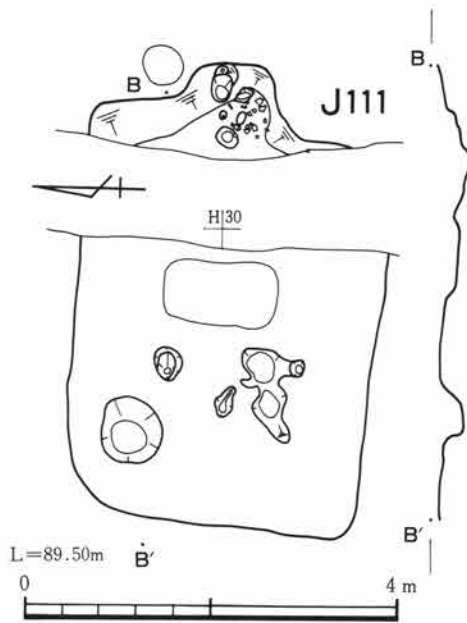
0 1 : 3 10cm



竪穴住居跡 J 1 1 0 遺構 (PL.80)

北大溝の南側で検出された。中央を近世の畠跡N019に壊され、床面は確認できずに掘り方部分のみを調査した。

東西3.4m南北4.2mの長方形で、東辺南側にカマドがある。カマド内には袖の芯材と思われる角柱状の砂岩の小片が大量に散っていた。他には何の遺物もなかった。

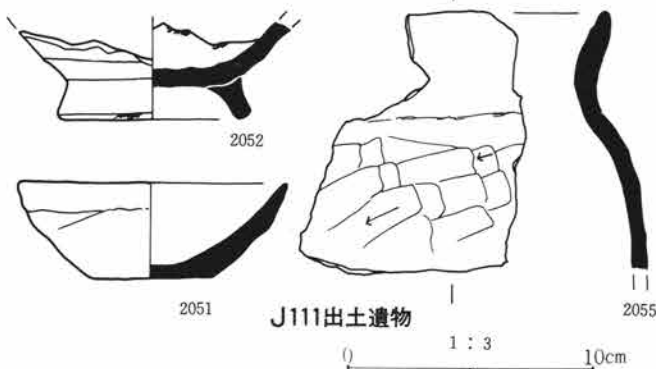


竪穴住居跡 J 1 1 1 遺構 (PL.79,80)

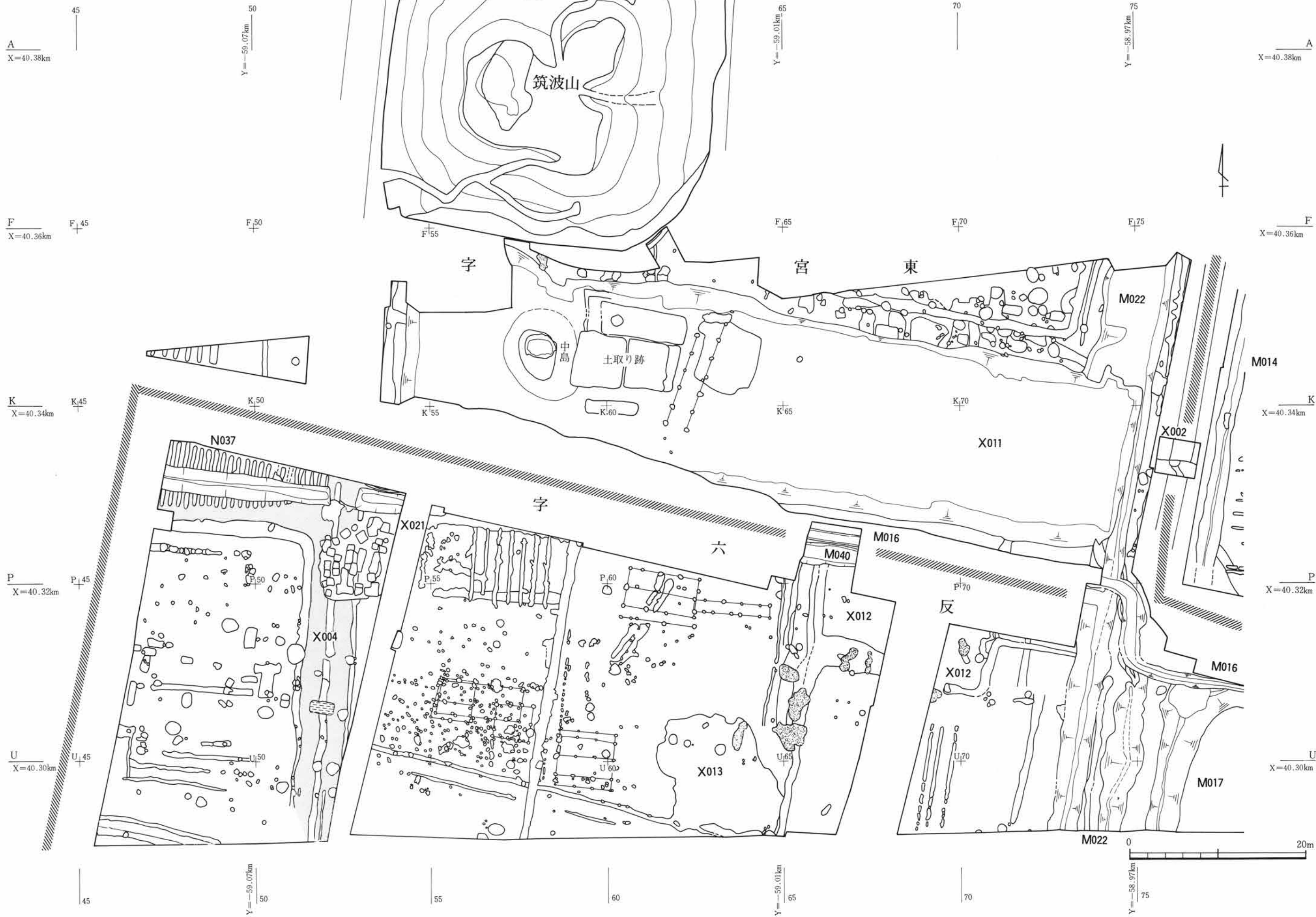
J110の南西約15mに位置する。中央を近世の区画溝M054と未命名の長方形土坑に壊される。床面はやはり確認されず、基本的に掘り方みの調査であった。

そのため平面形は推定線であって、規模は不明。ただカマドが東辺にあることは間違いない。北西側に浅いピットがあるが、この竪穴と関係あるかは確認できない。

遺物は全てカマド内から出土した。いずれも土師器で厚手の甕(2055)・高足碗(2052)・坏(2051)である。年代は11世紀頃と思われる。



中央部分全体図



2 中央部分

《 概要 》 (PL.81)

この部分は、筑波山の南側一帯の西は無量寿寺参道から東は南北の道路跡X002までで、東西100m南北70mほどの範囲である。東西走向の現存道路の北側が字宮東で南側が字六反である。

西端の南北に走る无量寿寺旧参道跡X004(第1節P.21)から東側は、明確な境がないままに低地性のシルト質土が地山になる。水位はかなり高く、大部分は調査開始前に水田であった。

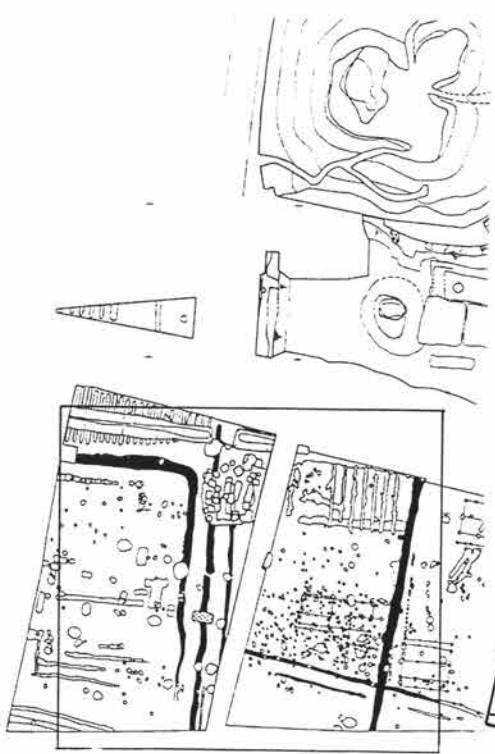
東西二つの道路跡には含まれたこの部分は、特異な遺構のあり方を示している。筑波山直下の字界の現存道路の北側のほとんどは、東西80m強南北20m強の近世の池跡X011であった。この大池は筑波山を含めて、少なくとも近世の民間信仰の中心地であった。現存道路の下には、北大溝M040と近世の水路M016が走っている。また東端道路跡X002の西側に沿って東大溝M022が南北走向で見られる。そして南側は、方形の園池X012や釣り殿状部分を持つ建物J005など、庭園を意識した中世の居住域としての様相が強い。

基本的には、次のように中世の居住と近世の水利・信仰に関する遺構が主体である。

溝類(M)	堀跡	1条
	区画溝	6条
	水路跡	9条
居住(J)	掘立柱建物跡	4箇所
	礎石建物跡	1棟
土坑類(D)	井戸	16基
	短冊形土坑	2基
	その他土坑	12基
耕作地(N)	畠跡	2箇所
その他(X)	道路跡	1条
	道路側溝	5条
	池跡	3箇所

遺構に伴わない遺物では、古代のものが僅かに見られただけである。

報告は、北大溝の南側・筑波山と池跡周辺・東大溝付近の順で行う。



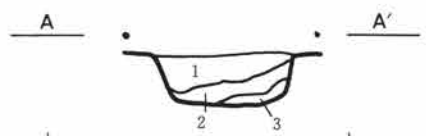
区画溝M036, M038,
M039遺構 (PL.81)

M036は、やや東に偏して南北方向に走る。直線状で34m検出。上幅0.8m深0.3mで、断面U字形。 1.黒褐色砂質土 浅間B軽石含む 2.堅い黒褐色砂質土 3.暗赤褐色砂

M038とM039は、M036に直交の東西走向。さらに東に続き(P.116)、前者は40m強の長さになる。後者も1.5mほどの間隔で平行。しかし西側では、道路跡X004の手前で消滅する。

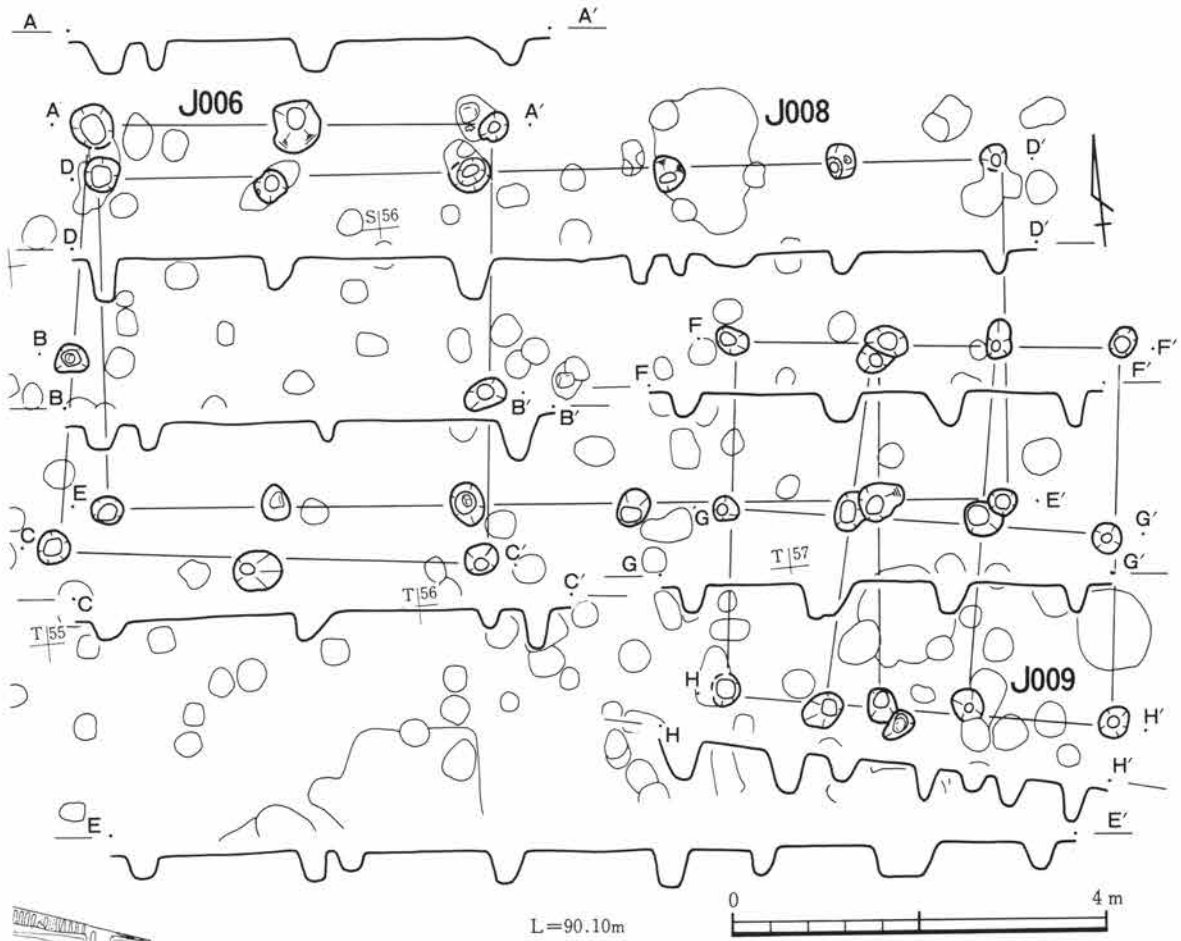
共に上幅50cm以下の狭い溝で、両者は調査前の水田境界と一致しており、かつ戦後までの地境とは異なる(P.11)ため、現代の大畦の跡であろう。

M036はその地境に似るため、近代以前。



54 L=91.20m 56 58





掘立柱建物跡J006, J008, J009遺構 (PL.5.82)

J006は、東西4.5m南北4.6mで2×2間。ほぼ正方形だが、柱穴は南北辺では各中央にあるのに対し、東西辺では南に偏る。柱穴の深さは30cmほどである。面積は21m²。

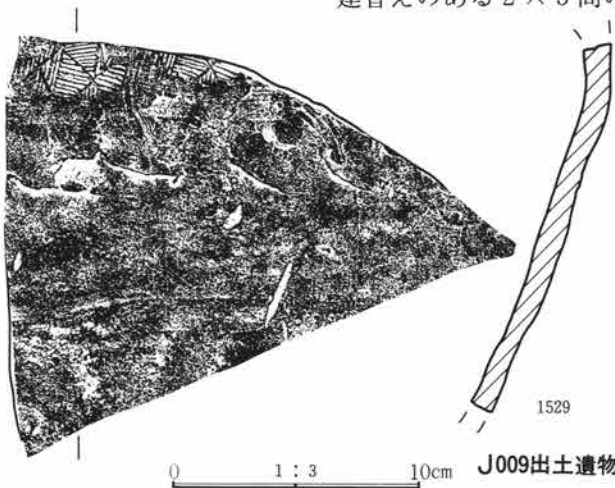
J008は、東西9.6m南北3.6mで1×5間の東西棟。柱間距離は1.7~2.3mである。柱穴の深さは30~40cm。面積は35m²となる。

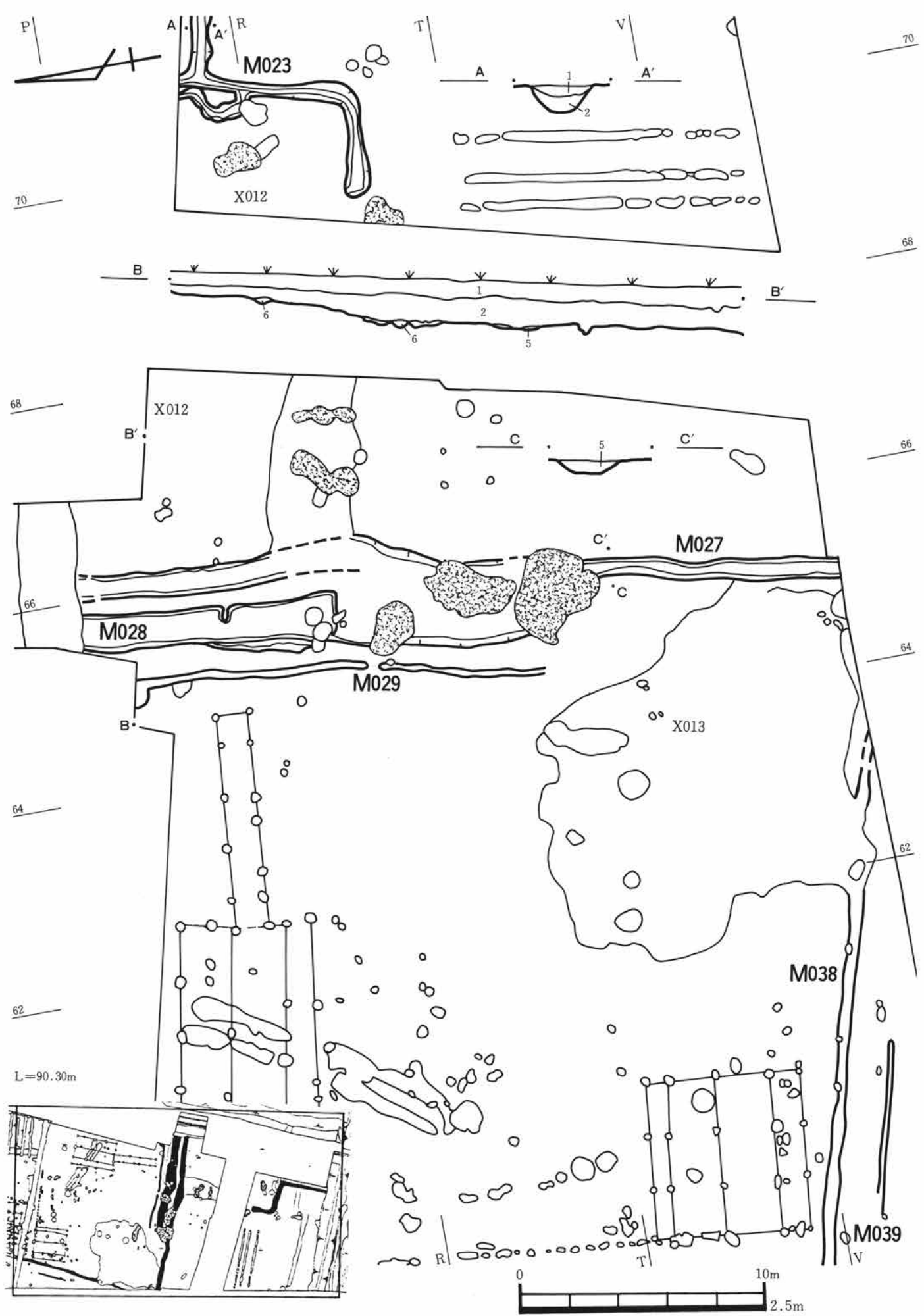
J009は、東西4.1m東辺4.0m西辺3.7mの少し台形ぎみの正方形。建替えのある2×3間の総柱と考えられる。柱間距離は南辺が1.0

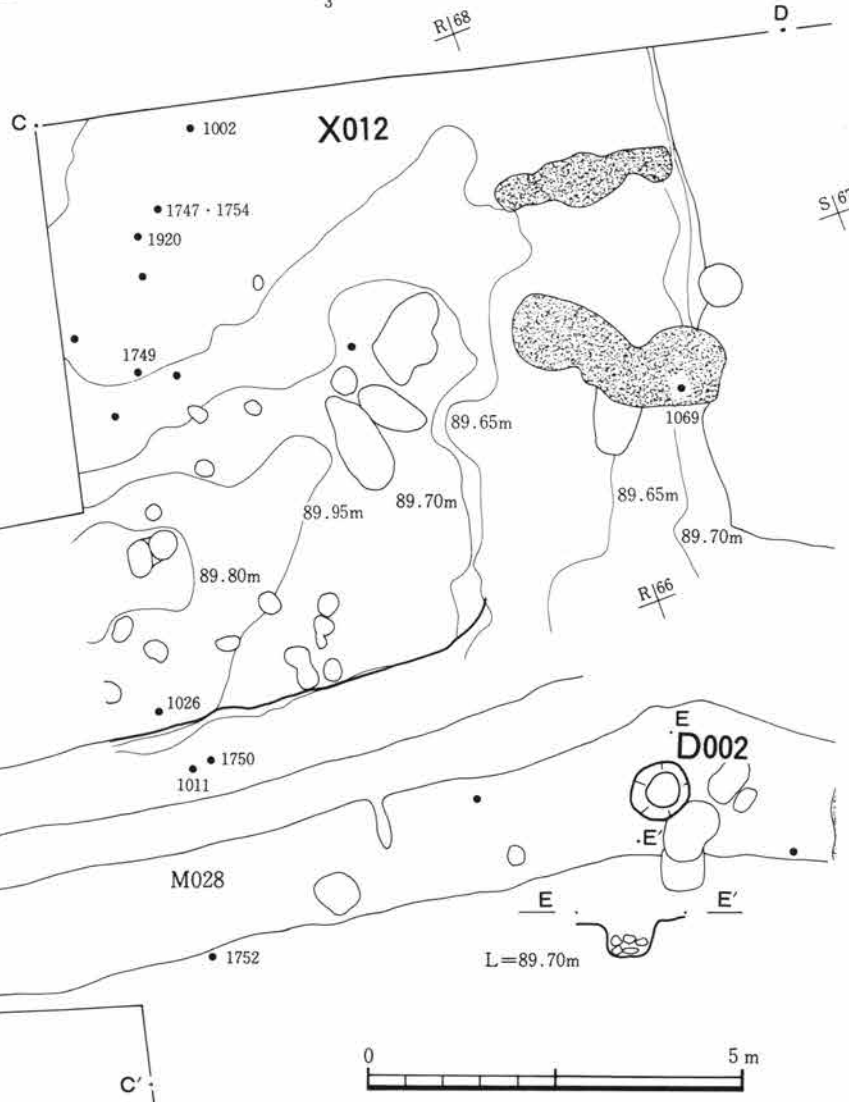
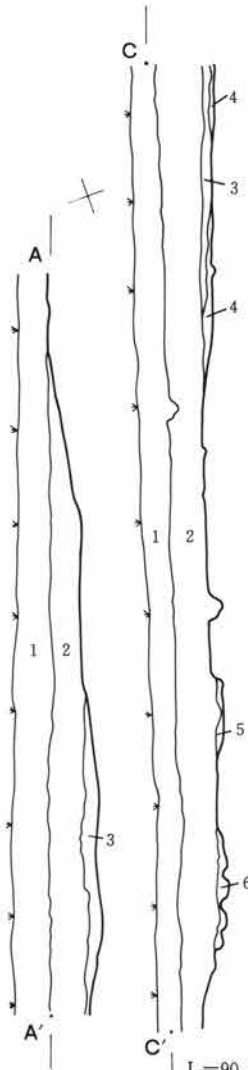
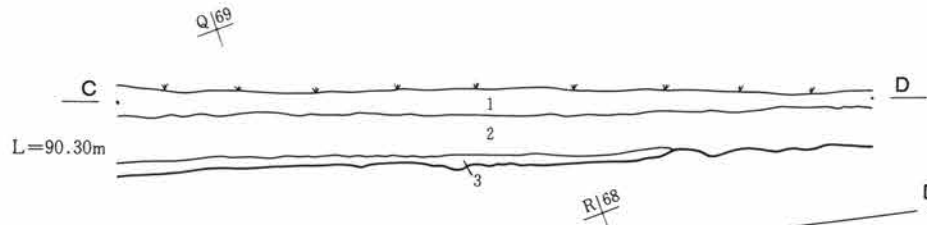
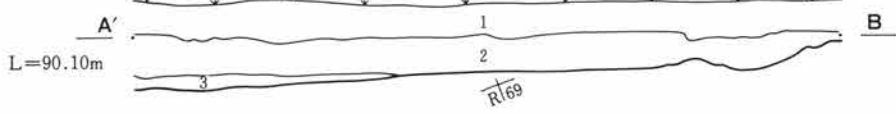
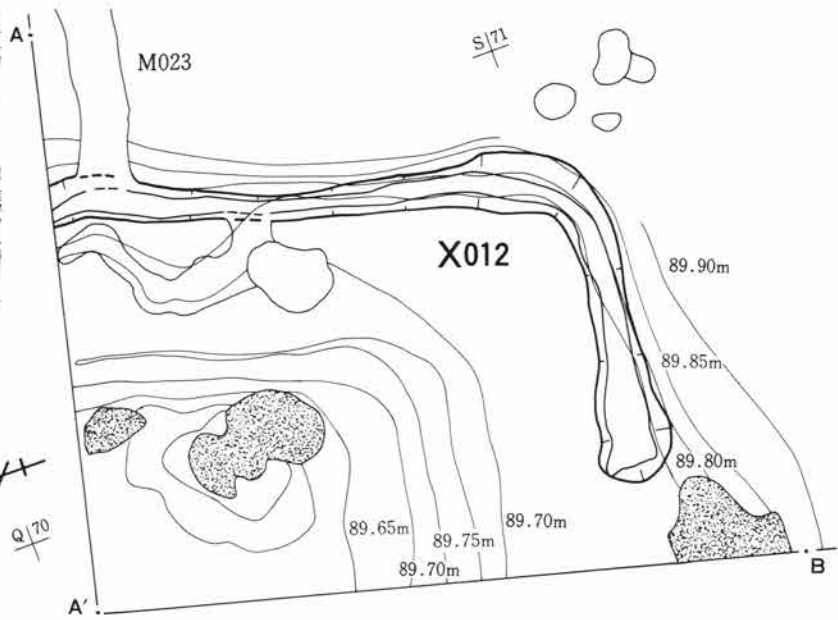
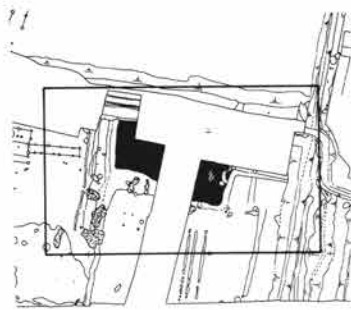
~1.5mと最も不揃いだが他はほぼ均等。面積は16m²。柱穴内より12~14世紀の常滑甕片(1529)が出土。周辺ではまだ多くのピットがあり、この3棟の重複以外にも建物があった可能性は高い。

J008と同規模の大型の東西棟の建物は、西側部分でいずれも18世紀代のJ015(P.32)J025(P.77)があるが、それらは柱穴径が40~50cmあり、30cm以下のJ008よりはるかに大きくまた深い。

全体としてこの3棟の柱穴は形状が似ており、12~14世紀の年代と推定できる。



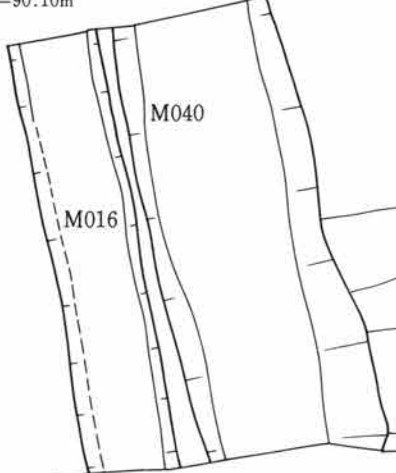


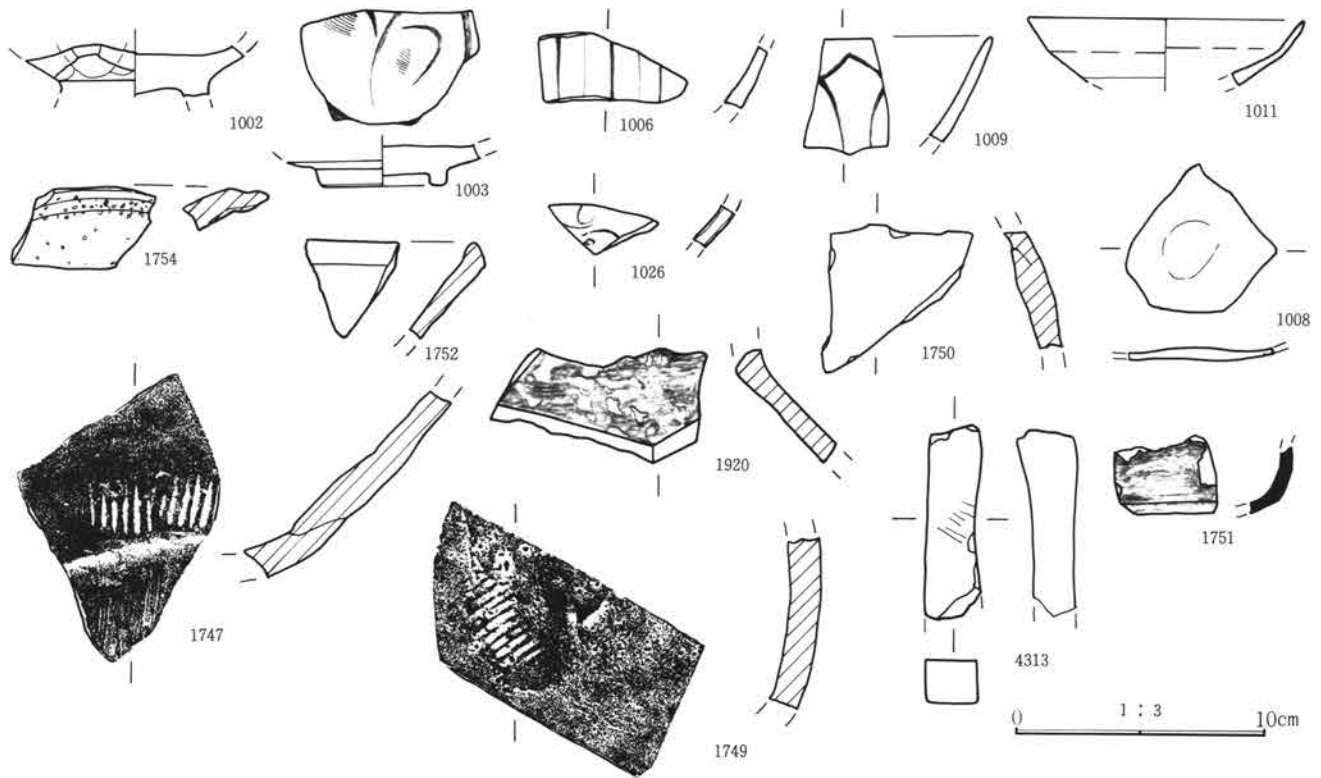


L=90.10m

L=90.30m

L=89.70m





X012出土遺物

池跡X012,013遺構 区画溝M023,027~029遺構 土坑D002~004遺構 (PL.13,82~84)

北大溝の南側の園池状遺構群。方形の園池X012は、東西21m南北11m以上で、北側を除く3方の周囲を幅0.4~1.0mの浅い溝が囲んでおり、中央は緩やかに30cmほど低くなっている。北側は方向が揃う状態で北大溝X040が走っているが、同時期か本遺構が古い。1.現水田耕作土 2.暗褐色土砂質土 砂含む 3.暗褐色土粘質土 粘性強い 4.灰黄褐色砂 遺物多く含む 5.黒褐色砂質土 砂と小礫含む 6.黒褐色粘質土 ローム塊含む (M028) (P.116・117・119図)

北大溝と併存していた場合、周囲の浅い溝は増水時にそこから水を取り入れた施設の役割を果すことになる。

現存道路の関係で、全体の3分の2程度しか調査できなかったが、西側の底から中国陶磁を中心とする多くの遺物が出土した。同安窯系青磁碗(1003)・竜泉窯系青磁碗(1002,06,09,26)・白磁皿(1011)・同鉢(1008)と12~14世紀中葉の間に入る中国陶磁片が本遺跡で最も集中している。さらに国産では12世紀の渥美甕片(1747,49,50)と時期不明常滑甕片(1920)そして産地不明の焼締陶器壺片(1752,54)など、同時期の貯蔵器が見られた。これらは、西に接する掘立J005で使用されていたものが、廃棄されたと考えられる。

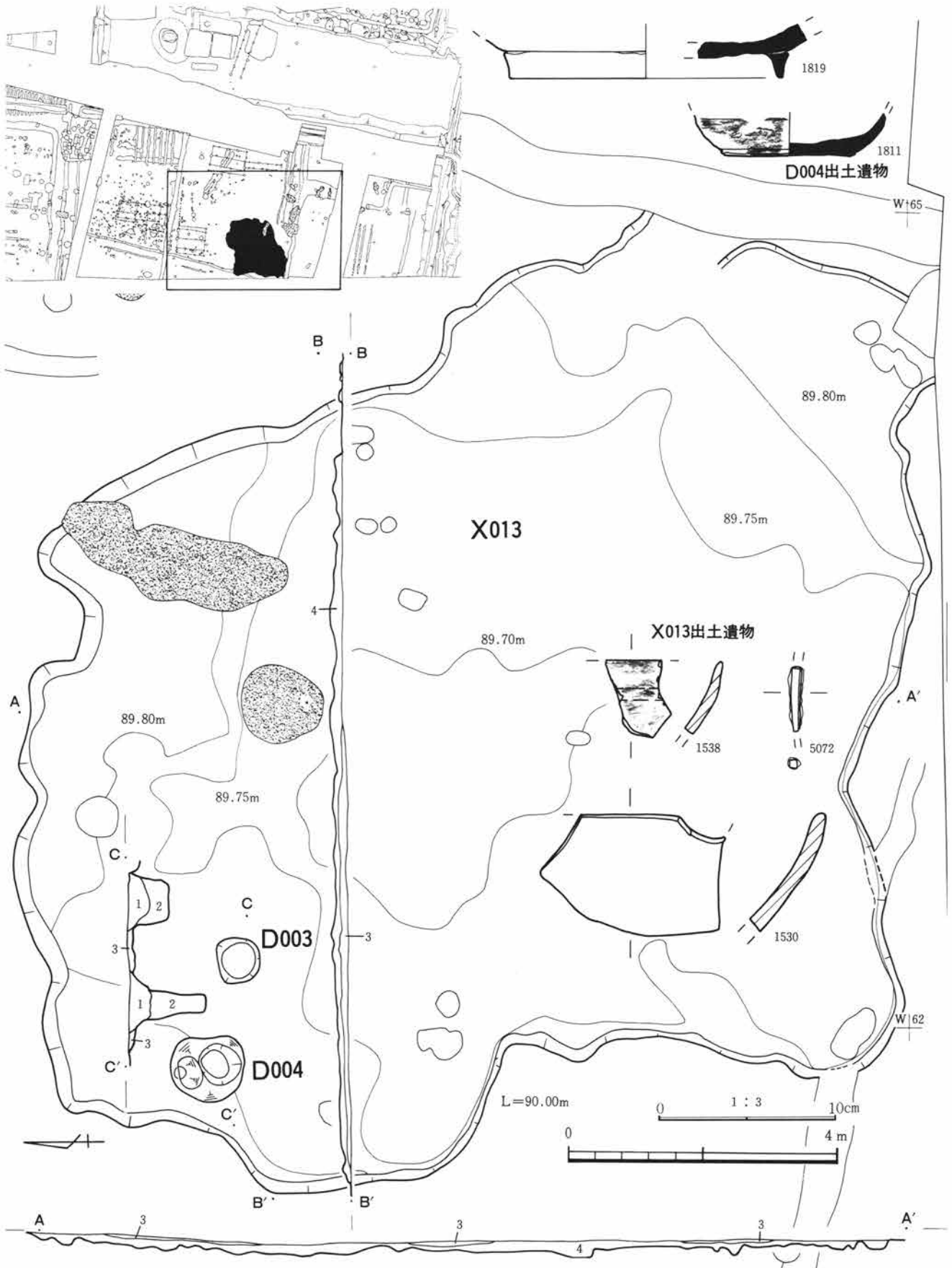
溝M023(P.116,160) 1.黒褐色粘質土 下面是砂 2.暗褐色土粘質土 とM027は、この園池X012の排水溝と考えられる。前者は上幅60cm深30cmで東に10m走って東端大溝M022に至る。後者は上幅60cm深10cmで南に20m以上伸びている。園池X012の西辺に平行する小溝M028とM029は、単なる区画であろう。X012の南西角付近のM028内には礫の入った径0.8m深0.5mの円形土坑D002が見られた。

X012から南西に12m離れて不定形の園池X013がある。長径16m短径12mで最大深20cmで、東側でX012の排水溝M027と重なるが関係不明。北西側でこの園池より新しい円形土坑D003は径0.6m深0.6m、D004は径0.6m深1.1mを測る。1.黒褐色砂質土 しまり弱い 2.黒色砂質土 3.暗褐色砂質土 しまり弱く浅間B軽石含む 4.黒褐色粘質土 しまり弱くローム・黒色土塊含む人為的埋土

遺物は、X013の埋土中より15世紀後半の瀬戸美濃天目碗(1538)と12~14世紀の東北系コネ鉢(1530)そして鉄釘(5072)が出土。またD004からは、瓦質土器高台付きコネ鉢(1819)と土師器小皿(1811)が見られた。したがって人為的に埋められたX013は15世紀後半、二つの土坑はそれ以後と考えられる。

時期的に完全に対応するかは不明だが、X013の西側にも掘立J010がある点は、興味深い。

2 中央部分

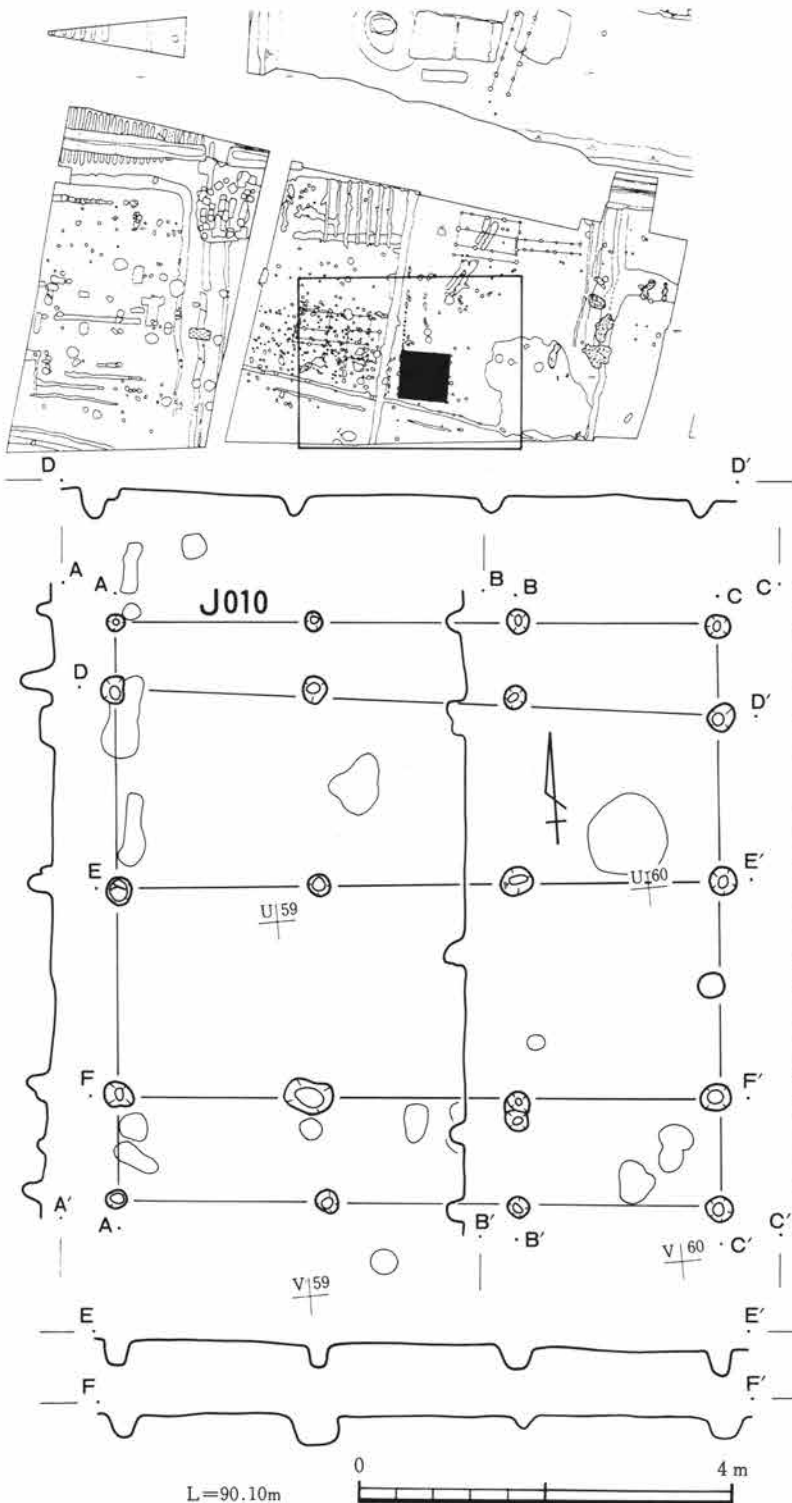


II 調査成果

掘立柱建物跡 J 0 1 0 遺構 (PL.84)

園池X013の西5m、掘立J009の東4mに位置する。東西6.5m南北6.1mだが、2×3間の東西棟の総柱建物の南北に庇がついた建物と考えられる。庇も含めた面積は、40㎡。柱間距離は母屋の東西が2.1~2.2mとほぼ等しいが南北は1.7~2.3mである。庇は、南側が1.1m北側が0.7~1.0mでやや不揃いだが、庇を含めた全体の形状は、僅かに南北に長い長方形になっている。柱穴は平均径20cm前後、深は20~30cmである。

走向は、西側の掘立J006、J008、J009とほぼ同様であり、基本的に同じ屋敷構えの建物と考えられる。直接には大形のJ008の延長のものの可能性がある。12~14世紀のJ009と大きく隔たらない時期だろう。

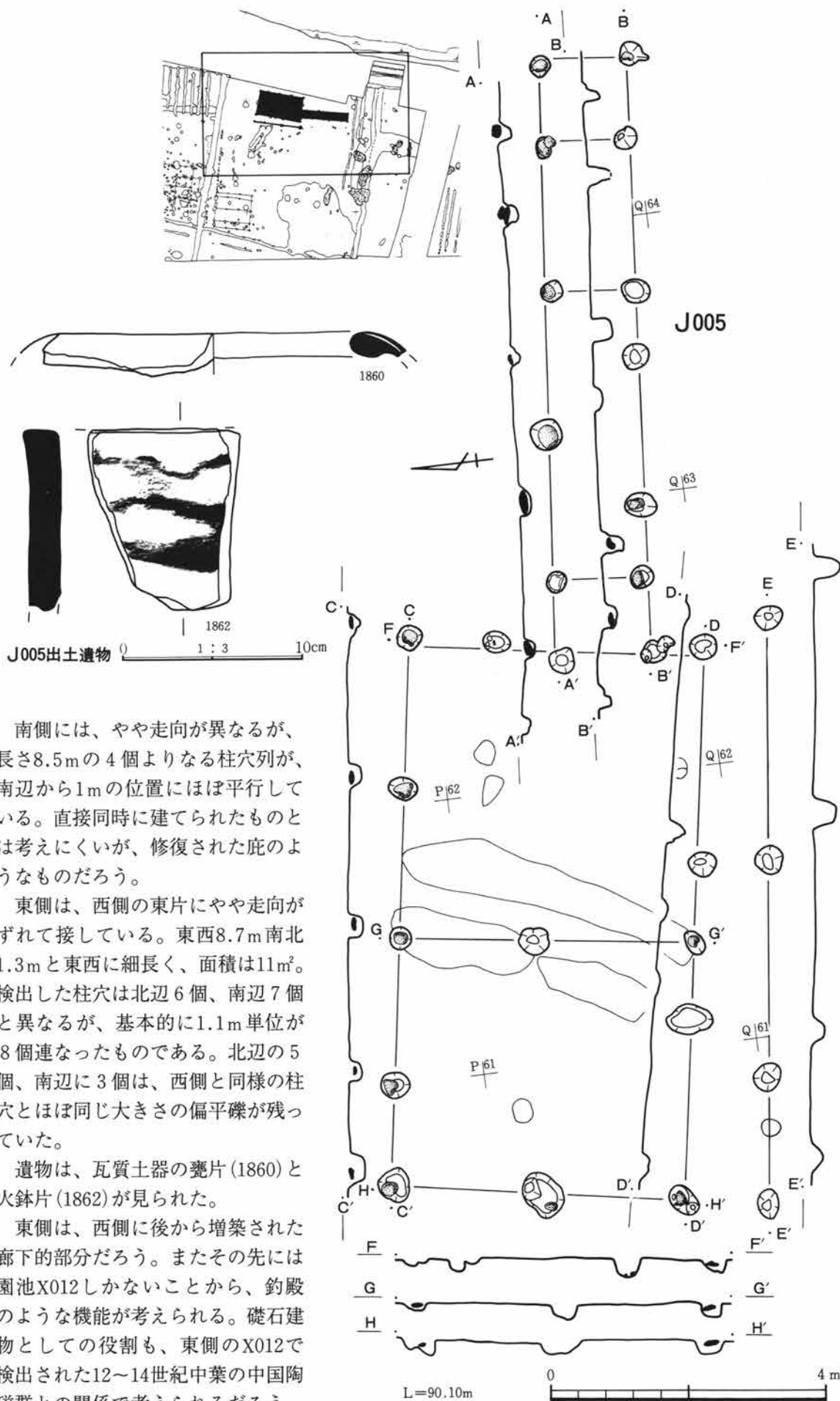


礎石建物跡J005遺構 (PL.85)

園池X012の西側6m、区画溝M029の西僅か1mに位置する特異な建物。

東西両側に大きく分かれる。西側は東西8.1m南北4.1~4.2mで、2×4間の東西棟。この部分の面積は34㎡。ただし、柱間距離は北辺の西端が1.5m以外は2.3mと揃うのに対し、南辺は西から2.6, 1.1, 1.1, 1.3, 1mと左右対称的な状態になっている。また南北の中央の柱穴を結ぶ線上の中央にも柱穴がある。

興味深いことに、北と西辺の全てと南片の中央の柱穴には柱止めの偏平礫が入っていた。礫の大きさや厚さに比べ、柱穴はそれほど大きくはない。むしろ柱穴ではなく、礎石の地業と考えたほうが適当だろう。

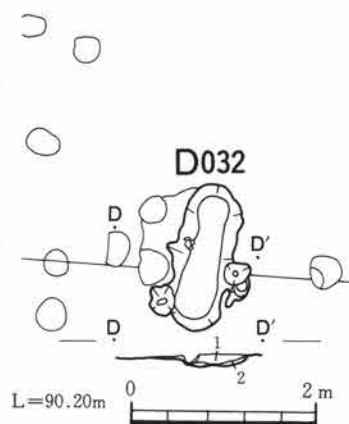
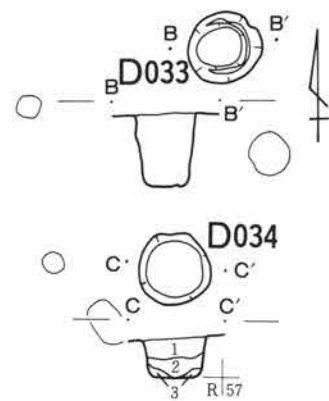
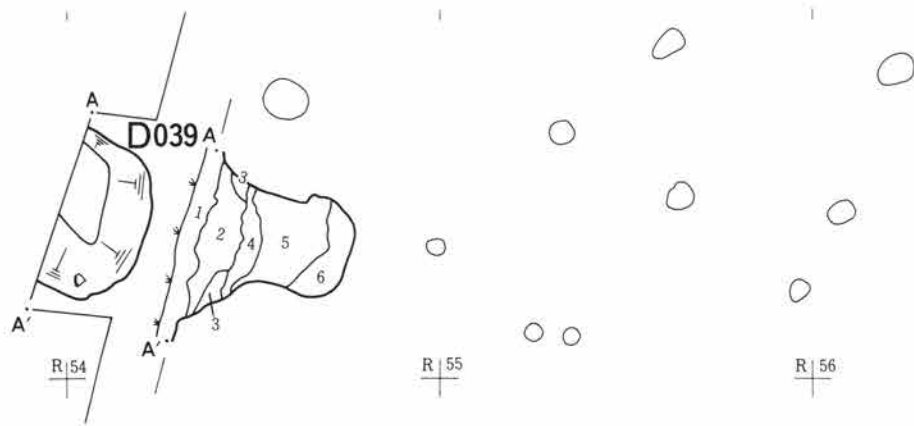


南側には、やや走向が異なるが、長さ8.5mの4個よりなる柱穴列が、南辺から1mの位置にほぼ平行している。直接同時に建てられたものとは考えにくいが、修復された庇のようなものだろう。

東側は、西側の東片にやや走向がずれて接している。東西8.7m南北1.3mと東西に細長く、面積は11m²。検出した柱穴は北辺6個、南辺7個と異なるが、基本的に1.1m単位が8個連なったものである。北辺の5個、南辺に3個は、西側と同様の柱穴とほぼ同じ大きさの偏平礫が残っていた。

遺物は、瓦質土器の甕片(1860)と火鉢片(1862)が見られた。

東側は、西側に後から増築された廊下的部分だろう。またその先には園池X012しかないことから、釣殿のような機能が考えられる。礎石建物としての役割も、東側のX012で検出された12~14世紀中葉の中国陶磁群との関係で考えられるだろう。



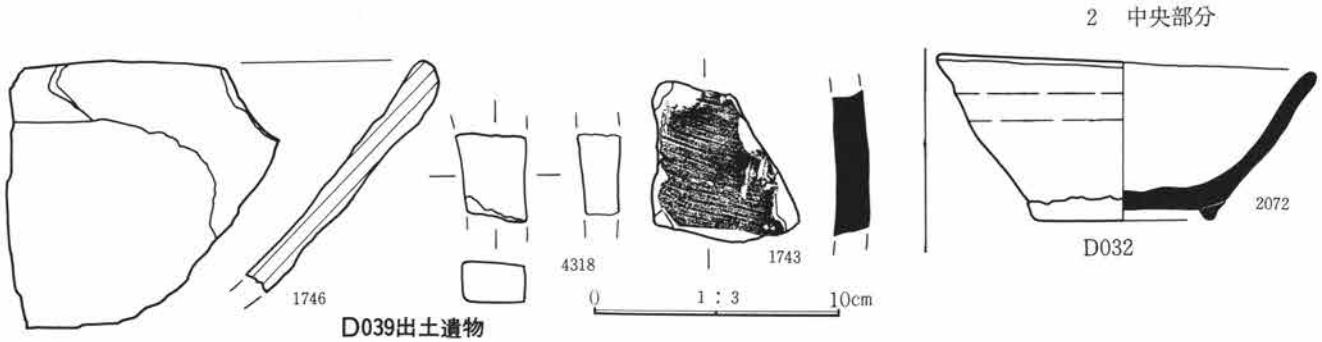
井戸跡D036～D039遺構
土坑D032～D034遺構
(PL.86,87)

井戸跡D036は、掘立J009と重なって検出された。上径0.8m 深1.2mを測る。海拔88.8mの底が僅かにえぐれる他は、あまり顕著な崩落痕はない。

井戸跡D038は、D036の南13m 離れ一部調査範囲外にかかる。上径1.2m 深1.7mで海拔88.6mより調査時に湧水。

その北東にほぼ接する井戸跡D037は、上径1.8×1.2m 底海拔88.7mで、南西側の上部が広がった形態。1.暗赤褐色粘質土 2. 黒褐色砂質土 3. 暗赤褐色土 底に砂互層堆積

掘立J006の北西7mの井戸跡D039は、現有水路にかかったため半分しか掘れなかったが、上径1.6m 深1.6m。



1.耕作土 2.黒褐色砂質土 3.暗褐色砂質土 しまり弱い 4.黒褐色粘質土 5.黒褐色粘質土 褐色砂質土塊含む 6.暗褐色砂質土 砂互層堆積含む

調査時には湧水はないが、海拔89.0mに崩落痕がある。産地不明無釉焼締コネ鉢(1746)・須恵器甕(1743)そして砥石(4318)が出土。明確な時期は不明だが、中世と推定できる。

土坑D032は、掘立J008と重なって検出された。長1.6m幅0.6mの長方形で深10cmほど。1.暗赤褐色土 しまり良い 2.褐色土 ローム粒混在 北西側の底から10cmで須恵器碗(2072)出土。10世紀か。

D032の北4mに土坑D034、6mに土坑D033がある。共に径0.7mの円形で、深はそれぞれ0.8mと0.5m。D034 1.黒褐色砂質土 浅間B軽石含む 2.黒色砂質土 3.暗赤褐色砂質土 ローム粒含む

D033は円筒形の掘り方で井戸の可能性もある。

井戸跡D008, D035, D101 遺構 畠跡N010 遺構 (P.124図 PL.87,88)

井戸跡D101は、礎石建物J005の西2mの位置で検出。上径0.8m底海拔88.5mで、掘り方は西から東にやや傾く。井戸跡D035はその南9mに位置し、上径1.3m底海拔89.1mの円筒形。1.暗赤褐色砂質土 浅間B軽石・ローム塊含む 2.褐色砂質土 底に砂互層堆積

浅く湧水痕はないが、人為的な埋土である。両者は礎石建物J005との関係が考えられる。

井戸跡D008は東端大溝M022の西5mの位置で検出された。上径1.1m深1.3m、底海拔90.2mより湧水。1.耕作土 2.しまりない暗褐色砂質土 3.暗褐色砂質土 4.黒褐色砂質土 5.にぶい黄褐色シルト質土 塊状しまりなし 6.黒褐色粘質土 シルト質土塊含む 人為的な埋土 周辺には居住遺構が見られない。

畠跡N010は、D008の西6mにあり、幅30~40cm深10~20cmの3条のサクで構成。耕作単位は、南北12.4m以上東西3.1m以上で、面積38㎡以上となる。砥石(4341)が出土したが、時期不明。

池跡X011 遺構 (P.125図 PL.13,14,89~92)

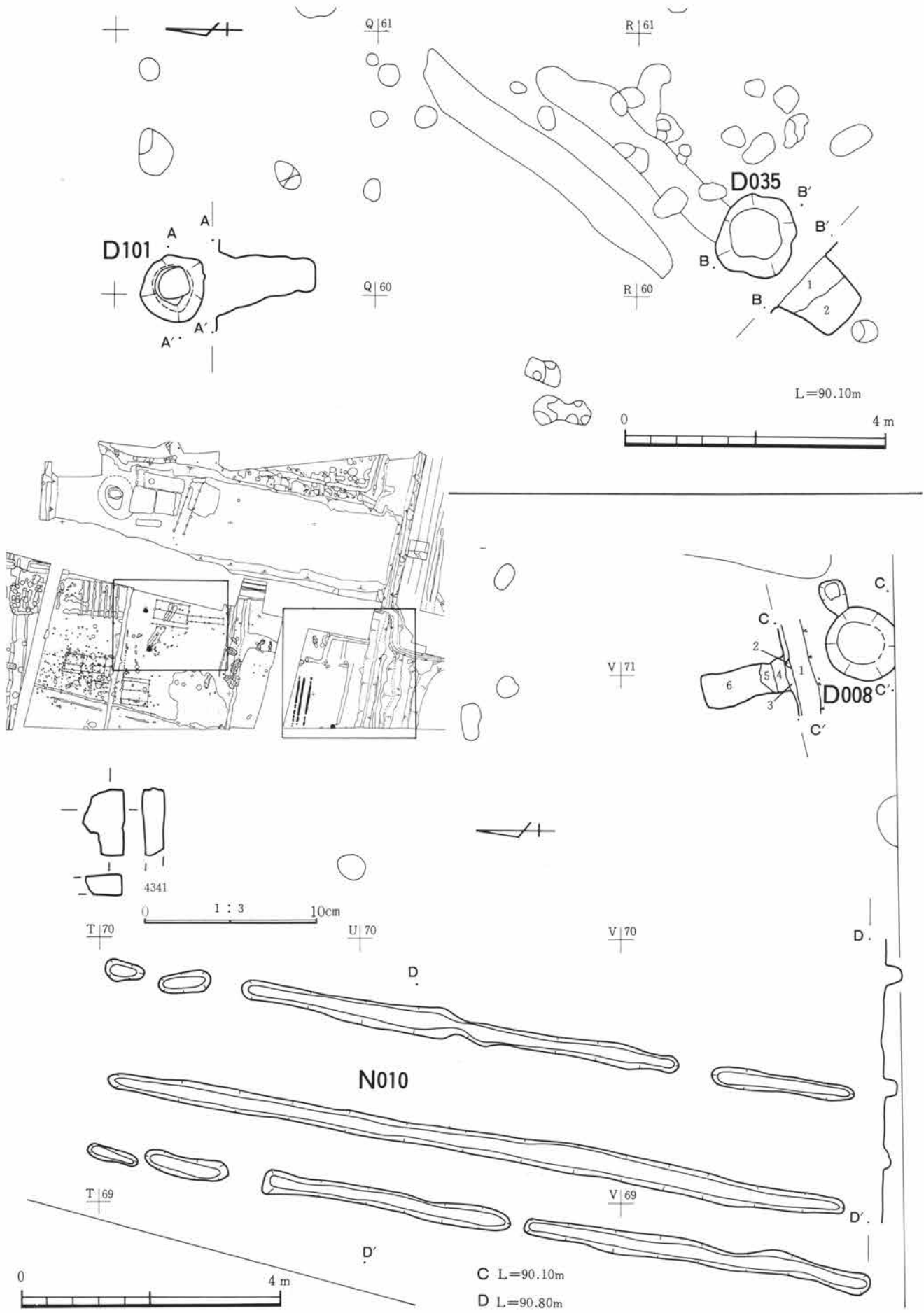
1. 全容

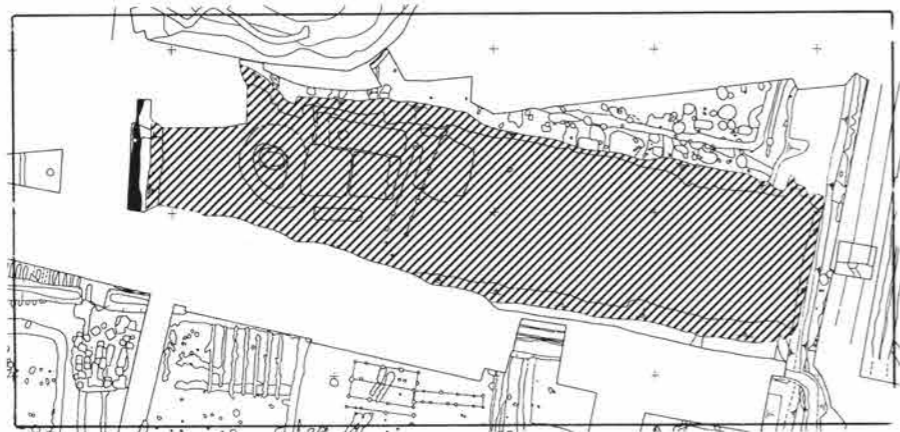
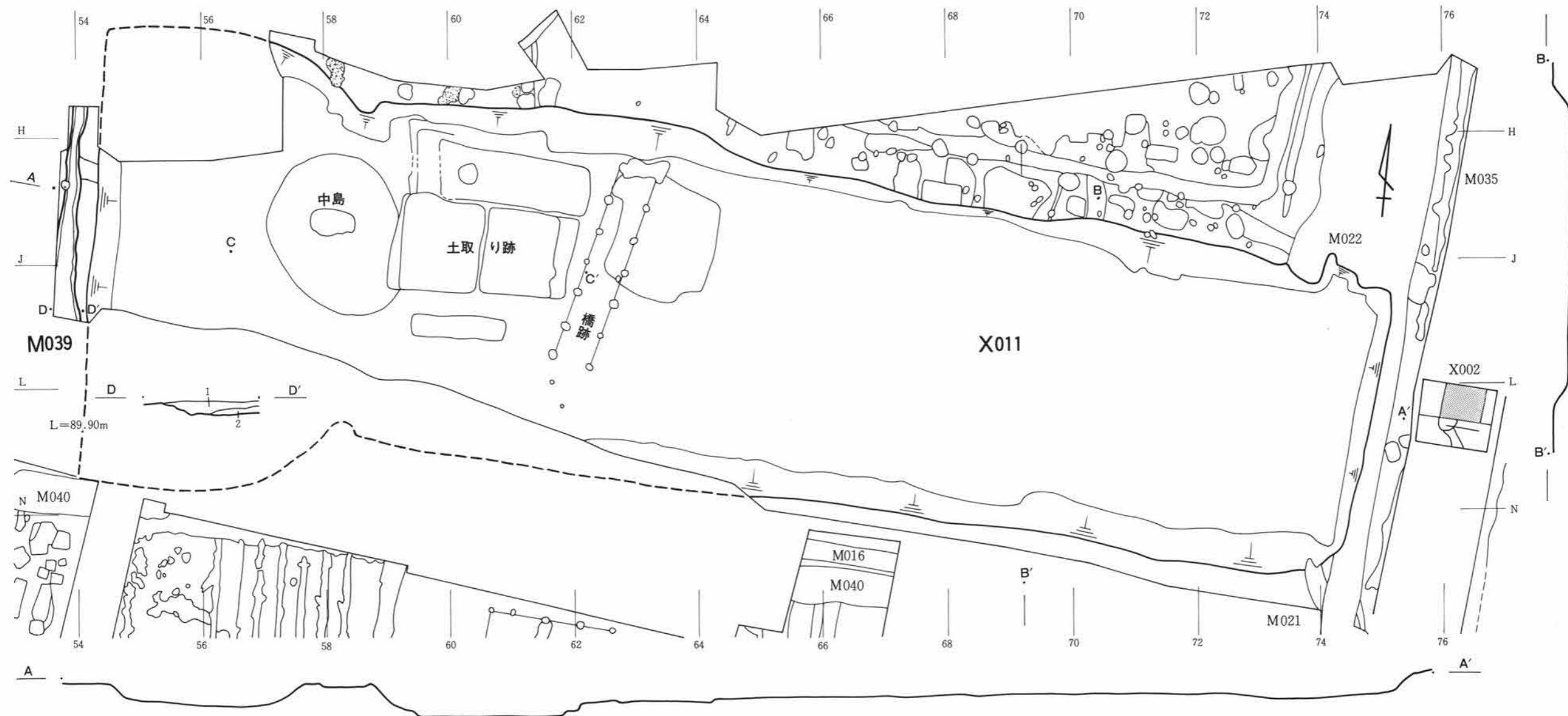
筑波山南側で無量寿寺参道から東端堀跡M022までの間の、東西83m南北20mの東西方向に長い長方形の平面形。深さは、平均1.5mでほぼ底は平坦(海拔88.5m前後)だが、西側中央に10×11mほどの土取りしてさらに1mほど深くなった部分がある。

筑波山直下には、五角形に近い平面形の中島がある。この中島の西側は、岸の大部分が調査できなかったが、東側と異なって半円形に近い形状が推定される。

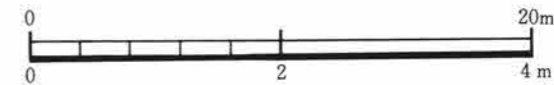
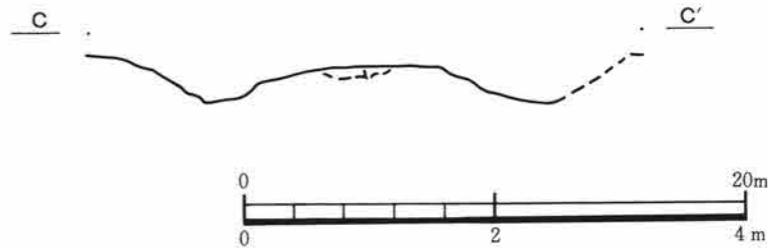
内部には中島と土取り跡と共に、橋跡がほぼ中央で南北に検出された。東端では、南北大溝M022を壊している。また南西角は北堀跡M040より新しい。南東角には排水溝と思われるM021が出ている。調査範囲外の北西角に取水口があったと、地元では言われている。

調査以前には、湿地状の水田となっていた。戦前には湧水期に塚状の中島ははっきりと見られたが、調査直前はあまり明確ではなかった。





A·B·C L=90.00m



池跡X011遺構

『二之宮村誌』(明治11年)には「(筑波山の)南麓ニ池アリ」と記され、『荒砥郷土誌』(明治43年)には「(筑波山の)東南に三百六十坪の池あり」と書かれている。また「筑波葦池」との呼称が角田佳一『二の宮の赤城神鎮まる里の風土の史紀』(1986)に見られる。「三百六十坪」は、1,188㎡で、中島の東側にやや足りない面積である。なお全体の呼称は、調査時の「大池」をここでは踏襲する。

検出された平面形を見ると、前述のように明らかに中島を境に形状が異なる。それは、中島北で東側部分の長方形の北西角がでていること、北堀跡を切る南西角は東側の南辺の延長線より広がることから、東と西の両側は別の造作によることが推定できる。推定復元をすれば、東側は、67×20mの長方形で面積は1,340㎡となり、西側は直径30mで西端がまっすぐのやや膨れた半円形で、面積は約800㎡ほどと考えられる。また西側の底は東側より40cmほど深い。

両者が同一時期としては余りに不自然な形状で、後述のように中島が土取り跡からの採土による完全な盛土であり、東側の掘削採土で築造された筑波山南辺の当初の裾が西側より新しいことから、Ⅰ.西側掘削と初期筑波山築造、Ⅱ.東側掘削による筑波山増築、Ⅲ.中島と橋築造、Ⅳ.中島増築、Ⅴ.西側完全埋没の順が考えられる。(P.152参照)

その場合、両側の掘削は共に北堀跡や東端堀跡を壊していること及び無量寿寺参道と道路跡X002を意識していることは重要である。またⅤは、前述の記録のように19世紀末には起きていた。

浅い南北走向の溝M039は無量寿寺参道の、M035は道路跡X002の側溝と考えられる。 M039 1.褐色砂質土 2.不明

2. 中島・土取り跡及び井戸跡D029, D030, D455遺構

中島は東側を底辺とする裾での大きさが東西約9m南北約11mの五角形に近い平面形をしている。頂部は東西約5m南北約6mで、やや北よりに3.8×2.5m深0.5m弱の楕円形の土坑がある。

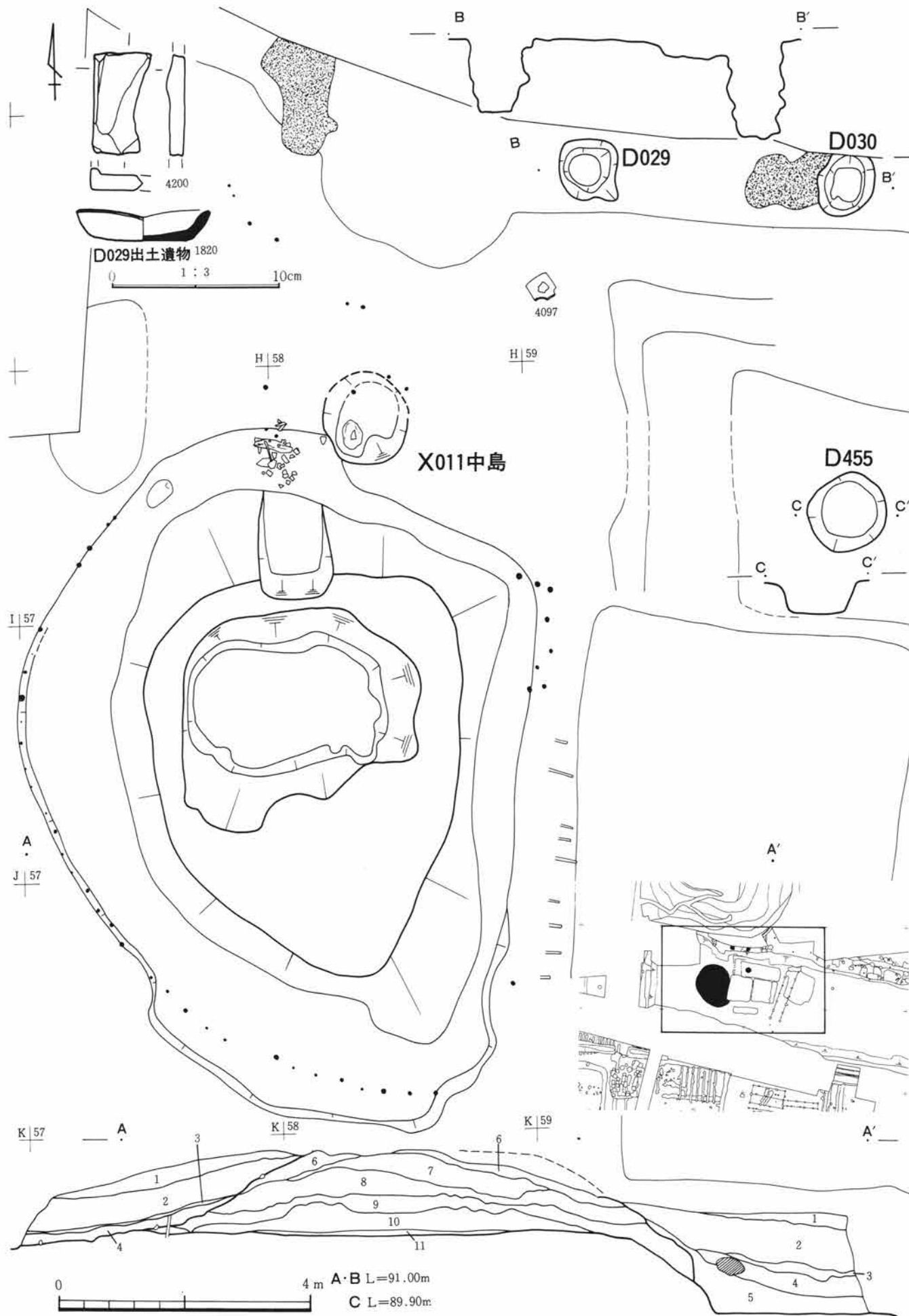
裾部には20cmほどの間隔で土留めの杭が巡っており、69本(垂直60本・水平9本)を確認した。杭は、土取り跡に接して急傾斜の東辺のみ水平方向にさされていた。北側には階段状の掘り込みと石敷きの一部のような礫の集中が杭の間に見られた。この部分では対岸の池本体の北岸にも杭列が残っていた。そのためこの部分は、中島へ渡る橋のような施設があったと思われる。

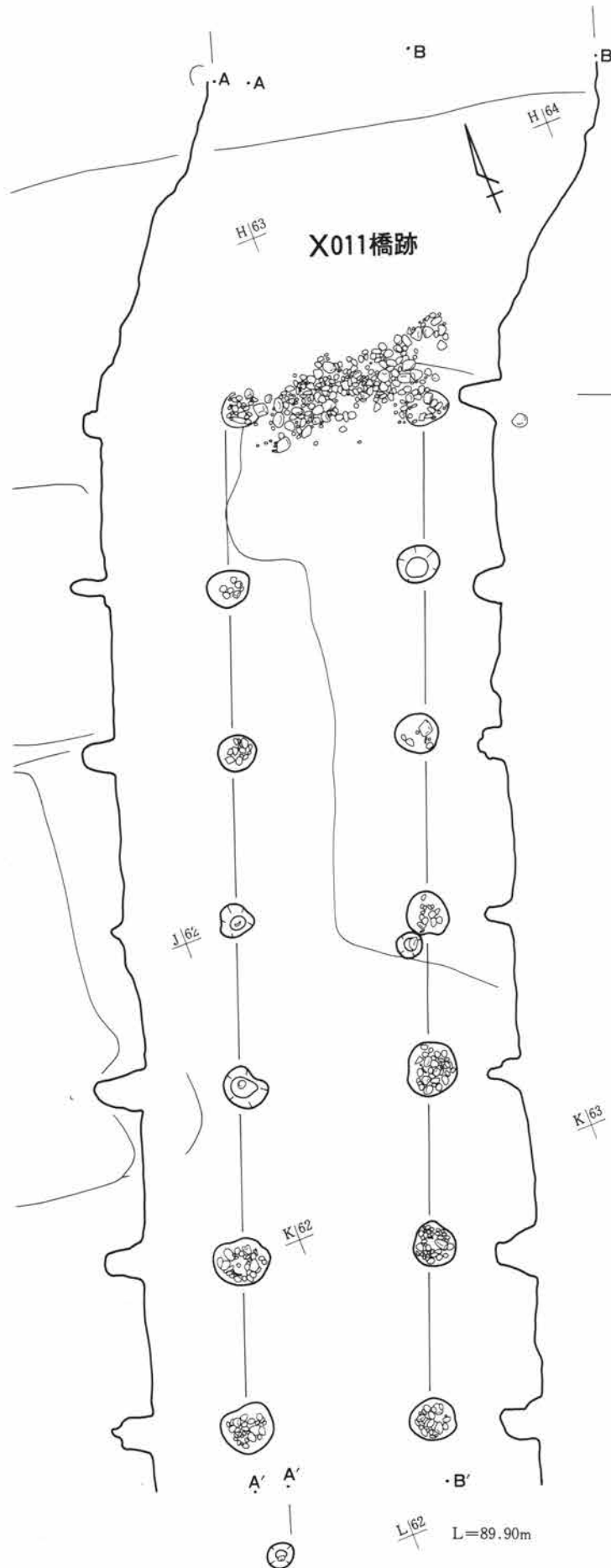
中島は、完全な盛土によって造成されている。1.灰白色シルト質土 シルト土塊・浅間A軽石混在 2.黒褐色粘質土 植物遺存体を多く含む軟らかい 3.浅間A軽石 4.黒褐色粘質土 植物遺存体を多く含む 庚申塔含む 5.黄灰色砂質土 砂粘質土互層にシルト土塊混じる 6.灰褐色シルト質土 7.灰黄褐色シルト質土 砂含む 8.にぶい黄褐色粘質土 しまり良い 9.灰黄褐色砂質土 細砂主体 10.灰黄褐色粘質土 シルト土塊混在 11.褐灰色粘土

工程は、Ⅰ.土取りと窪みへの粘土の敷設(11)、Ⅱ.粘質土と砂質土で基盤盛土(8~10)、Ⅲ.裾に土留め杭設置・基盤上にシルト土盛土(6,7)、Ⅳ.埋没後(2~5)二次盛土(1) 当初の造成は浅間A軽石の降下した天明3年よりかなり古く、二次盛土はかなり新しい。また天明以前に筑波山から庚申塔が転落している。

土取り跡は、中島東側に見られる。(P.125) 大小5個の長方形の掘り込みとして見られるが、畦のような境で接する北西側の3個は、底より1.3mの深さで全体は東西12m南北9mほどの規模である。140㎡ほどの体積となり、ほぼ中島の最初の盛土に近い。なお、この土取り跡外側で池の東側部分の北西角の底から流紋岩の有孔直方体製品(4097-P.150)が出土した。南にはなれたものと橋跡と重なるものは、底から10~20cm程度の深さで、二次盛土の採土跡と考えられる。

中島の北東側で3基の井戸跡が確認された。D029とD030は池の北岸で筑波山南麓との間の僅か1m強の幅の部分で検出された。共に上径1mほどで、前者は深1.2mで海拔89.3mに崩落痕があり、後者は深1.5mで崩落痕は海拔89.1mほどの位置にある。後者の南5mの土取り跡の底から発見されたD455は、径1.2mで深0.4m。D030と同じ高さから掘り込まれていれば、底は海拔87.5mで2.4mの深さになる。D029から硯片(4200)と土師器小皿(1820)が出土している。これらの井戸跡は、中島造成以前のものである。





3. 橋跡

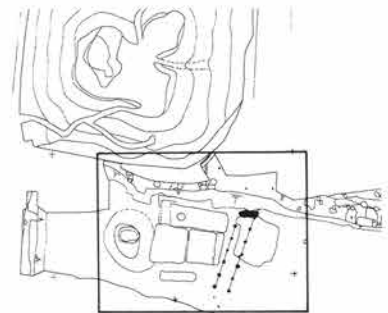
中島の東12mほどの位置で、池の北岸から底にかけて北北東から南南西方向に2列14個の柱穴が確認された。

各柱穴は上径50cmほどだが、径20cm弱の柱残片や掘り方が残っており、その周囲には柱止めの土器瓦片が詰められていた。

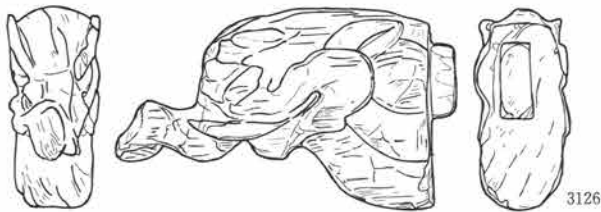
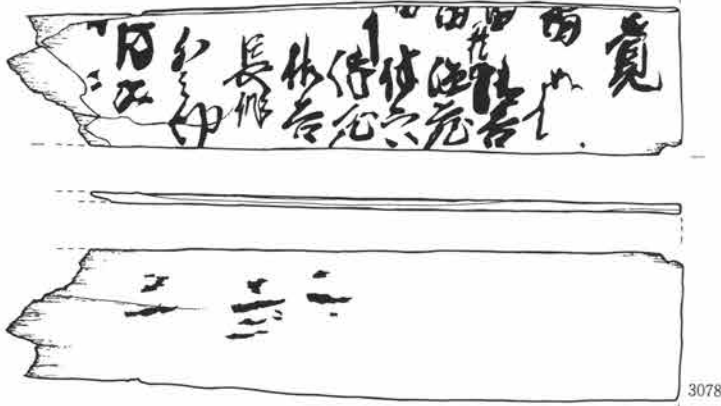
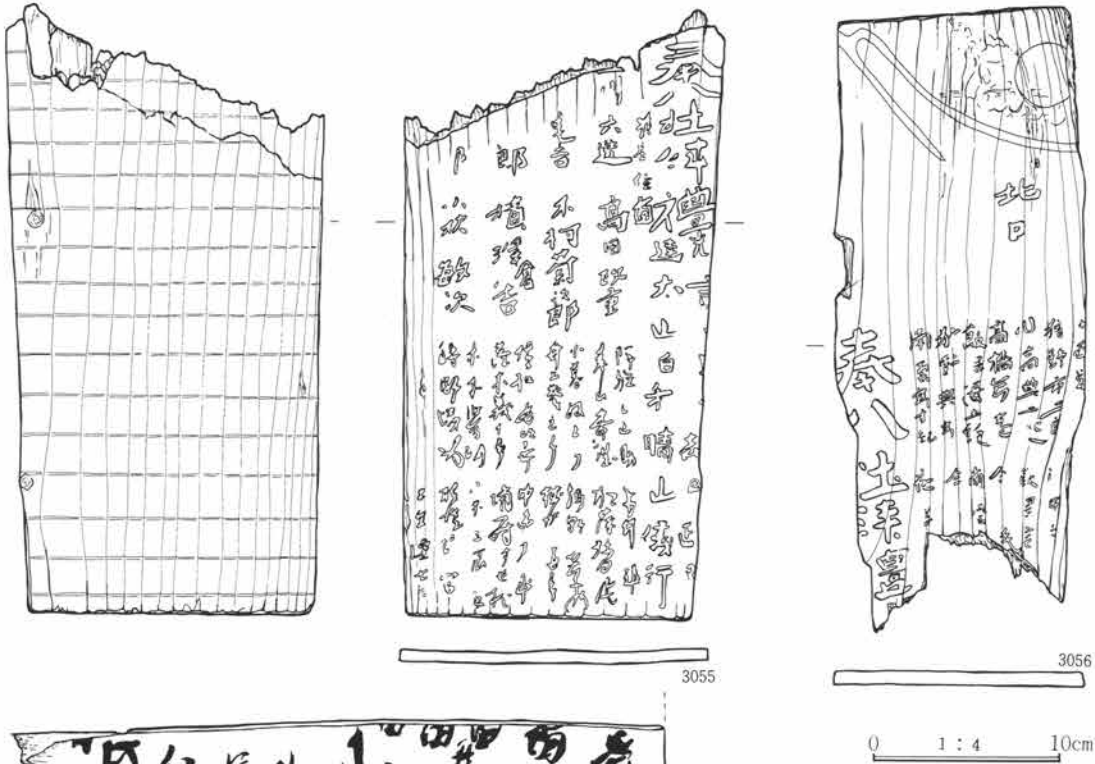
北岸の最初の柱穴の間は、大小の礫が敷き詰められており、柱間距離2.1mほどで12.8mほど伸びている。桁の長さは2.4mほどになる。

これは、北からかけられた橋跡であると思われる。しかし、この橋は、上述の長さで止まっており、推定南岸までの少なくとも7mの間には達していない。そのため、池を渡るためではなく、池中に遊ぶための施設と推定される。なお、北岸側の延長方向は、筑波山の東辺の参道に向かう。

東側の列の北から2～4番目の柱穴は中島二次盛土の土取り跡と重なっているが、他の柱穴より柱止めの残りが悪いことから、この橋跡が古いだろう。



II 調査成果



X011出土遺物(1)

4. X011遺構出土遺物 木製品

A 特殊品

金泥で人名を数多く連記した祭礼札が2点(3055,56)見られる。いずれもモミ材で、残存量は3055は長32cm,幅17cm,厚さ0.7cm、3056は長32cm,幅13cm,厚さ0.8cmを測る。前者は下端が、後者は上端が残っている。両者は別個体である。

共に表面に「奉八社拝札」の文字と人名が書かれ、3055は裏面に1.8から2.4cmほどの間隔で横線が引かれている。3056にはこの横線はないが、表面の上端に「北口」の文字の上に、2条の曲線が描かれている。人名の表現より近代のものと考えられる。(考察参照)

人名を墨書連記したスギ材の祭礼札(3078)は、残存量が長36.0cm,幅7.8cm,厚さ0.6cm。表面には「覚」字の左に「番」と人名が10人以上左上がりて書かれる。裏面にも不明の墨痕がある。中島東側出土。人名の表現より近世のものと考えられる。(考察参照)

象頭の形をした木鼻(3126)はヒノキ属で、中島北側出土。完存で、長18cm,幅11cm,厚さ4.9cmを測る。扁平な形状で象の頭部を表現しており、鼻・牙・耳は明瞭。首側に4.0×1.8×1.4cmのホゾがある。祭礼建築物の軒先の飾りで、近世中期以後のものだろう。



B 杭型塔婆

先端を尖がらした杭状の棒材の一面を削って、供養文を墨書したもの。長150cm、幅5cmほどが標準で、上端は山形に加工している。

一面を平坦に削った杭状のものは、図のように16点あり、幅や加工の状態は多様である。そのうち墨書が残るのは10点である。大部分はスギ材で、中島出土で細い3136のみがモクレン属。

形状は、やや曲がったものも多く、あまり厳密な規格は見られない。

3014には延享3(1746)年の紀年があり、全体としてもその前後だろう。(考察参照)

X011出土遺物(2)

II 調査成果

C 杭 (P.133~135図)

大池から出土した杭は76点で、その中で中島の土留めとして使われていたのは42点(P.133とP.134上段と下段3052)である。

形状はさまざまで、先端を尖がらせてあることが唯一の共通点と言える。棒状に加工してあるものでは、最長が完存のスギ材の3264の84cmであり、またクリ材の3143の径8.1cmが最も太い。細いものは、クスノキの3057の径1.9cmやスギの3189の径2.0cmがある。興味深いのは、クリ材の3156やトネリコの3072あるいはコナラの3265のように曲がった材の先端のみを削ったものが含まれていることである。

原木の種類では、アカガシ2点、アカマツ17点、イヌシデ1点、カバノキ1点、クスノキ2点、クリ9点、コナラ10点、サクラ3点、サワフタギ2点、スギ22点、トネリコ3点、ハリギリ1点、マツ1点、モミ1点、ヒノキ1点となる。スギ・アカマツ・コナラ・クリの順で多い。なお12点の杭が出土した井戸跡D114のものは、サクラ4点が最も多い。

D 漆器 (P.135図)

大部分が椀類で、他に長16cm径2cmの棒3127が1点ある。

椀類は、図示した19点のうち11点が中島周辺、特に北西側で出土した。形態は、いづれも小片であり、変形しているものもあるため明瞭ではないが、高台基部径6cm以上のもの(3088,3101)はあまり多くなく、4.5cmのものが多い。図上で高台のない3091,3092,3102も、本来はあったと思われる。

原木は、ブナ15点、トチノキ2点(3094,97)、モクレン2点(3091,92)となり、ブナが主体である。漆の種類は、両面赤漆9点(3090~92,95,97,3102~05)、同黒漆4点(3093,96,98,3100)、内赤外黒6点(3087~89,94,99,3101)であり、棒は黒漆である。高台内に金字銘が3096と97に見られる。前者は、鍵の手に「吉」と読める。

E 各種生活具類 (P.136,137図)

さまざまな種類のものが見られるが、用途の判明するものは次のようなものに過ぎない。

鍬(3085,3178,3236)、下駄(3032~34,86)、木札(3125)、栓(3124,82)、柄杓(3035,40,43,79,80)3080には刻印がある。桶類部材(3041,44,46,106,129,161,174,243,244,260)、調度具部材(3045,49,81)3045と3081には大きな透かしがある。モミの板材(3034)には、墨で山形線が引かれていた。また半截竹管に線刻文字のあるものも(3038)あった。(考察参照)

F 建具類 (P.138図)

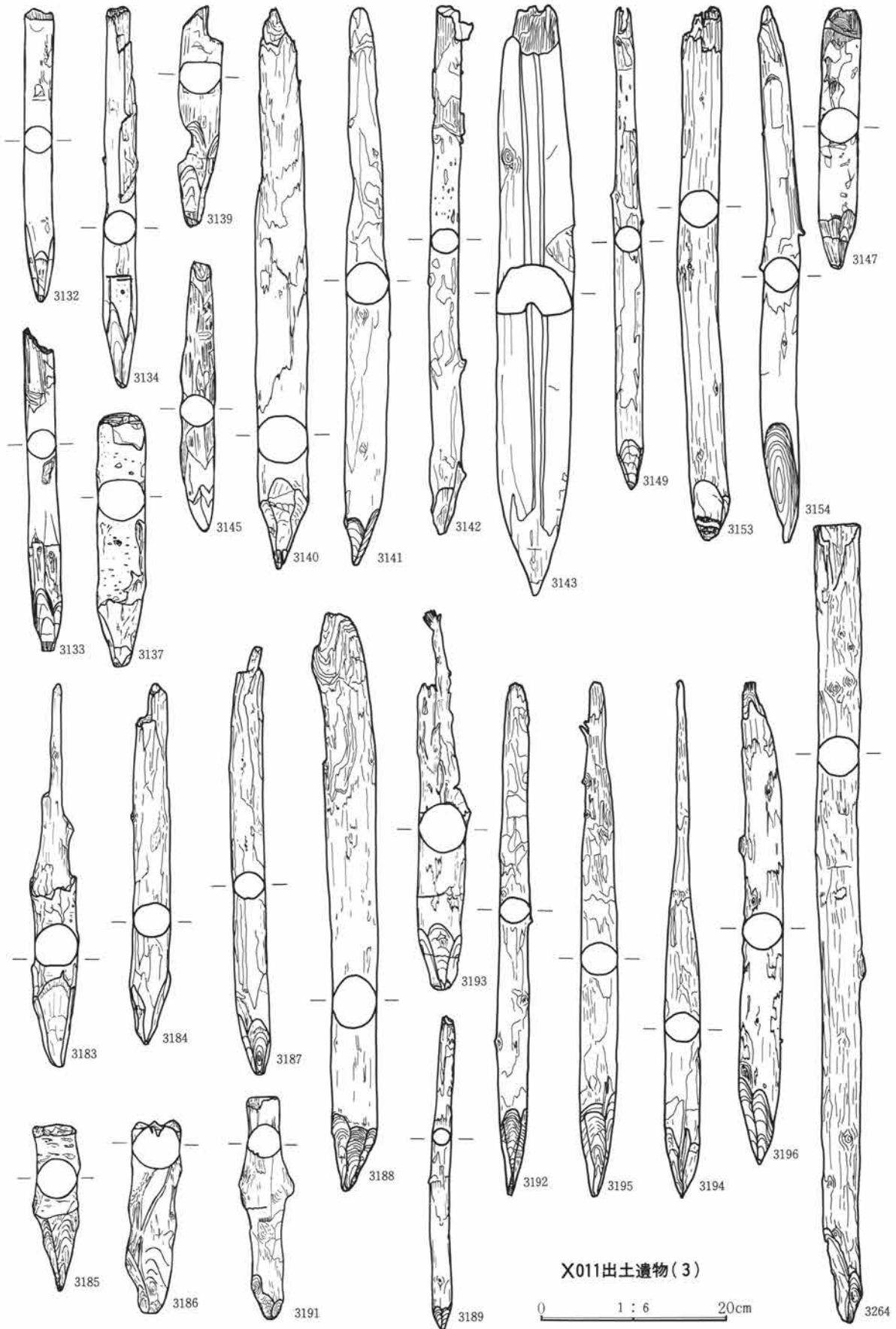
何らかの組み合わせ加工痕のある大形角材。その加工痕とは、ホゾ・ホゾ穴・溝で、10点あった。アカマツ角材3173は裏面に溝状のものがあるが、あまり明瞭ではなく、やや疑問も残る。また3259,66,91のような長い角材も建具の可能性が考えられる。薄いスギ角材3259は残存長100cm、クリ材3266は残存長99cm、細長いスギ材3291は同166cmを測る。

最大のものは、残存長258cm、幅6.6×5.6cmのスギ材3219で、39~42cmの間隔で6個のホゾ穴がある。そのうち3個は貫通していない。残存長177cmのスギ材3220は、両端にホゾとホゾ穴そして間に溝がある。いずれもスギ材の3113,221,245には、同様の加工痕が見られる。

細いスギ丸棒の3258,63は、それぞれ全長79,78cmしかないが、片側はホゾになっている。構造材以外の部分か、あるいは調度具の部材か。3221は、中島からの出土。

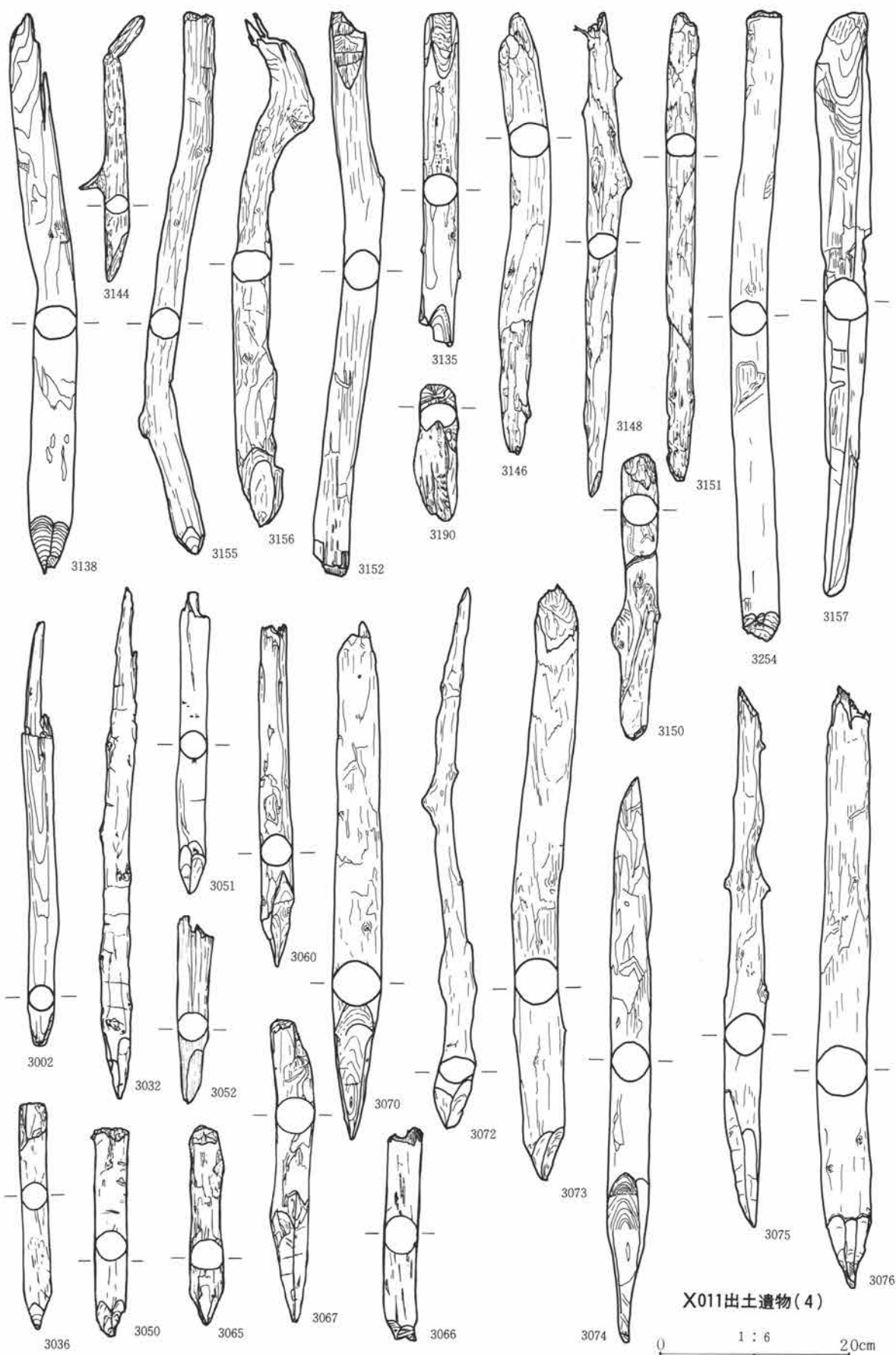
G 不明板材類 (P.139図)

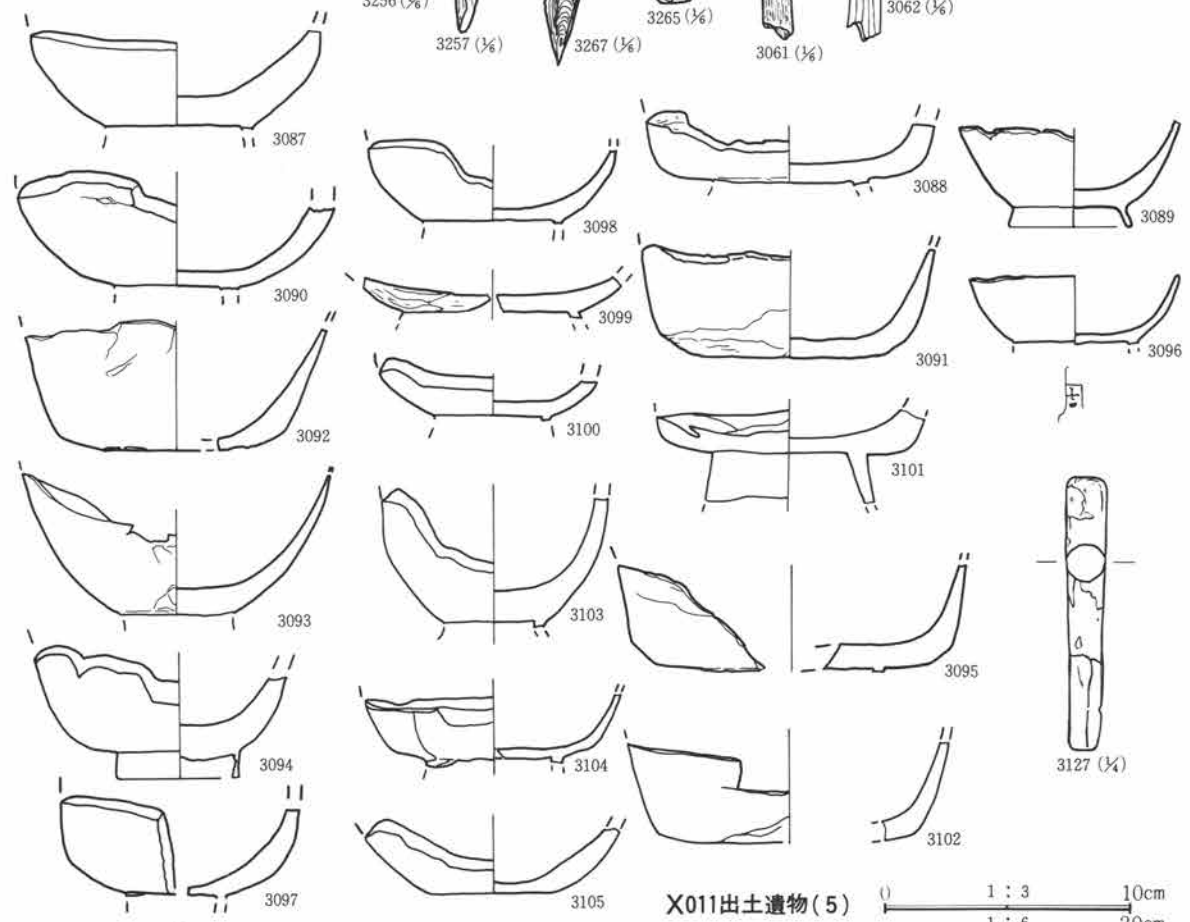
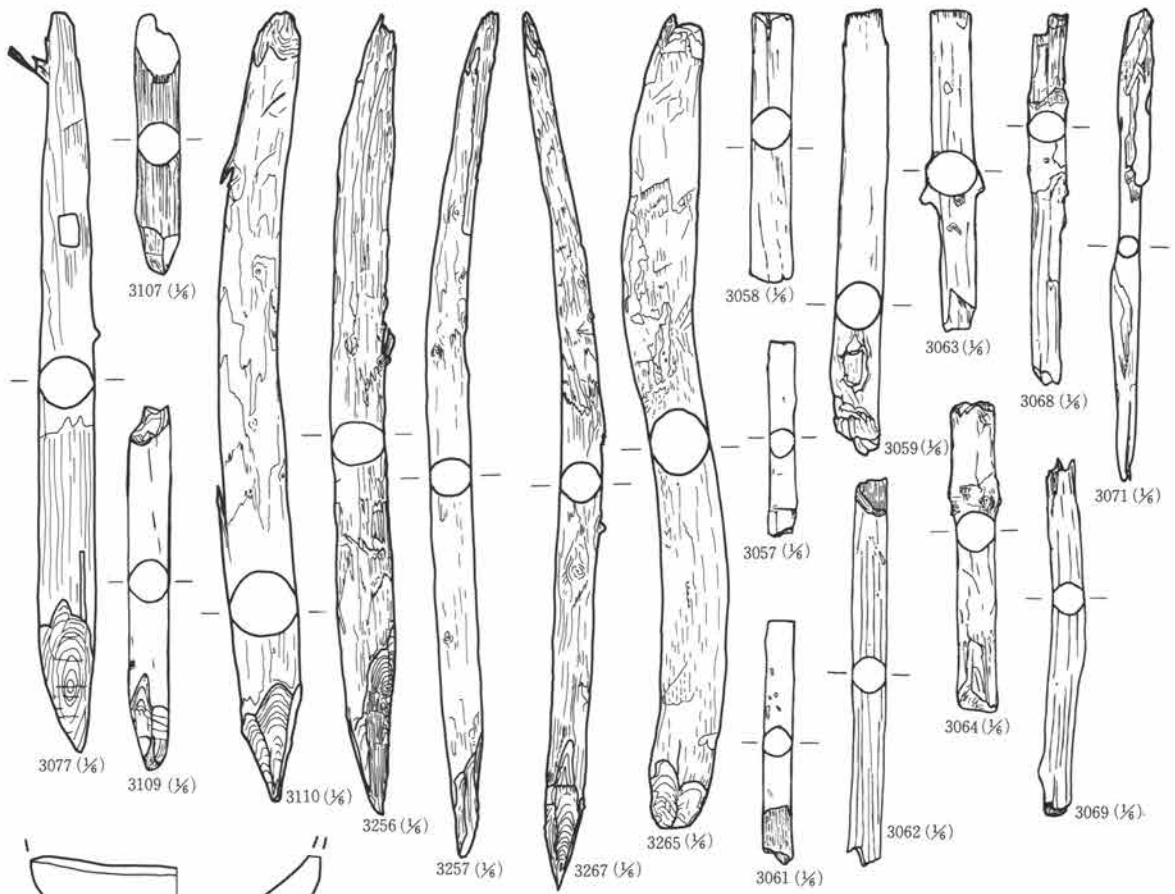
スギ材を中心とする板材。ホゾ穴があるもの(3114,261,262,261はサクラ)、長方形板(3112,128,175,176,181,222,242,222はアカマツ)などである。3128には、墨痕のようなものが見られる。



X011出土遺物(3)

0 1 : 6 20cm



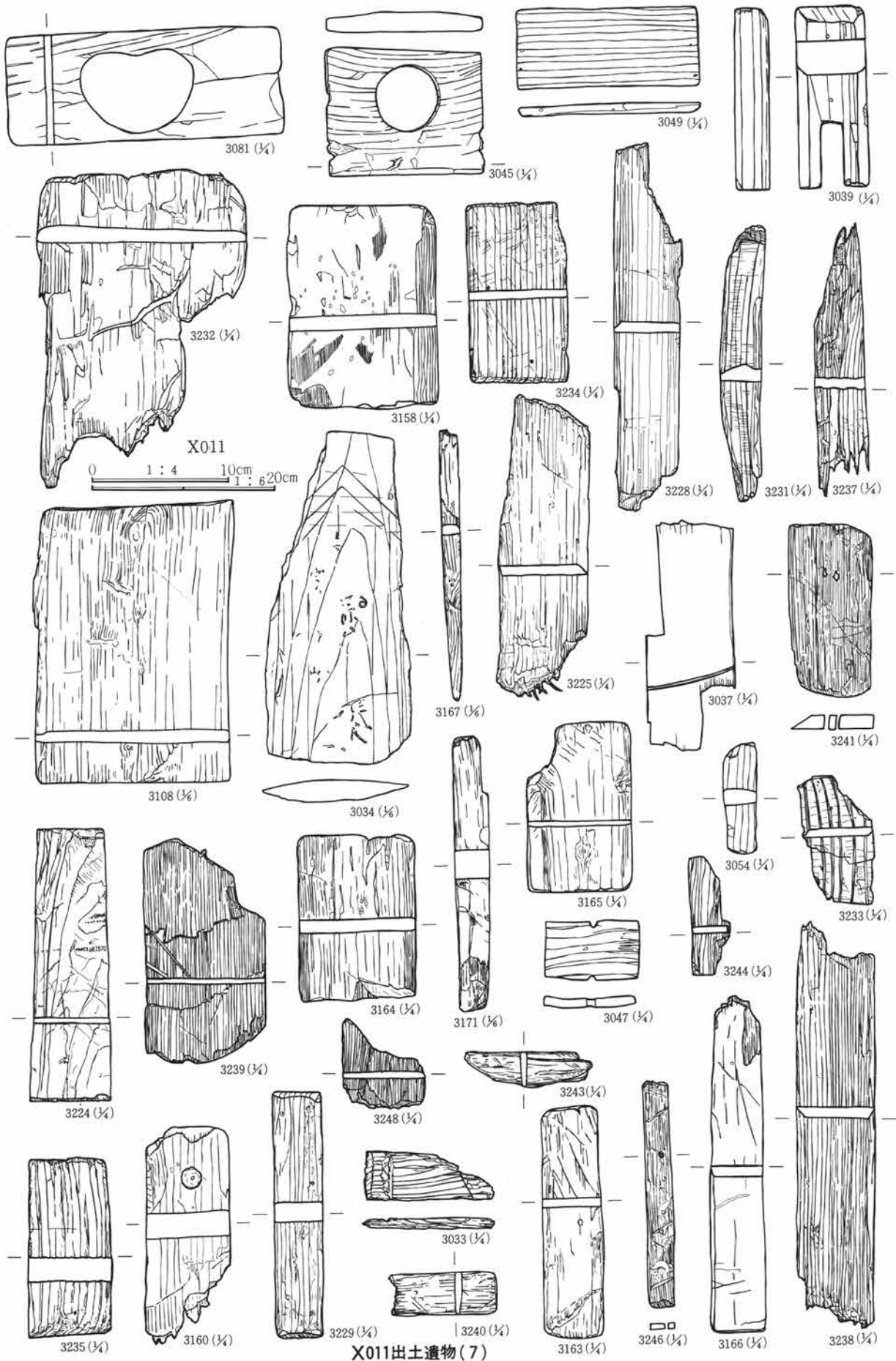


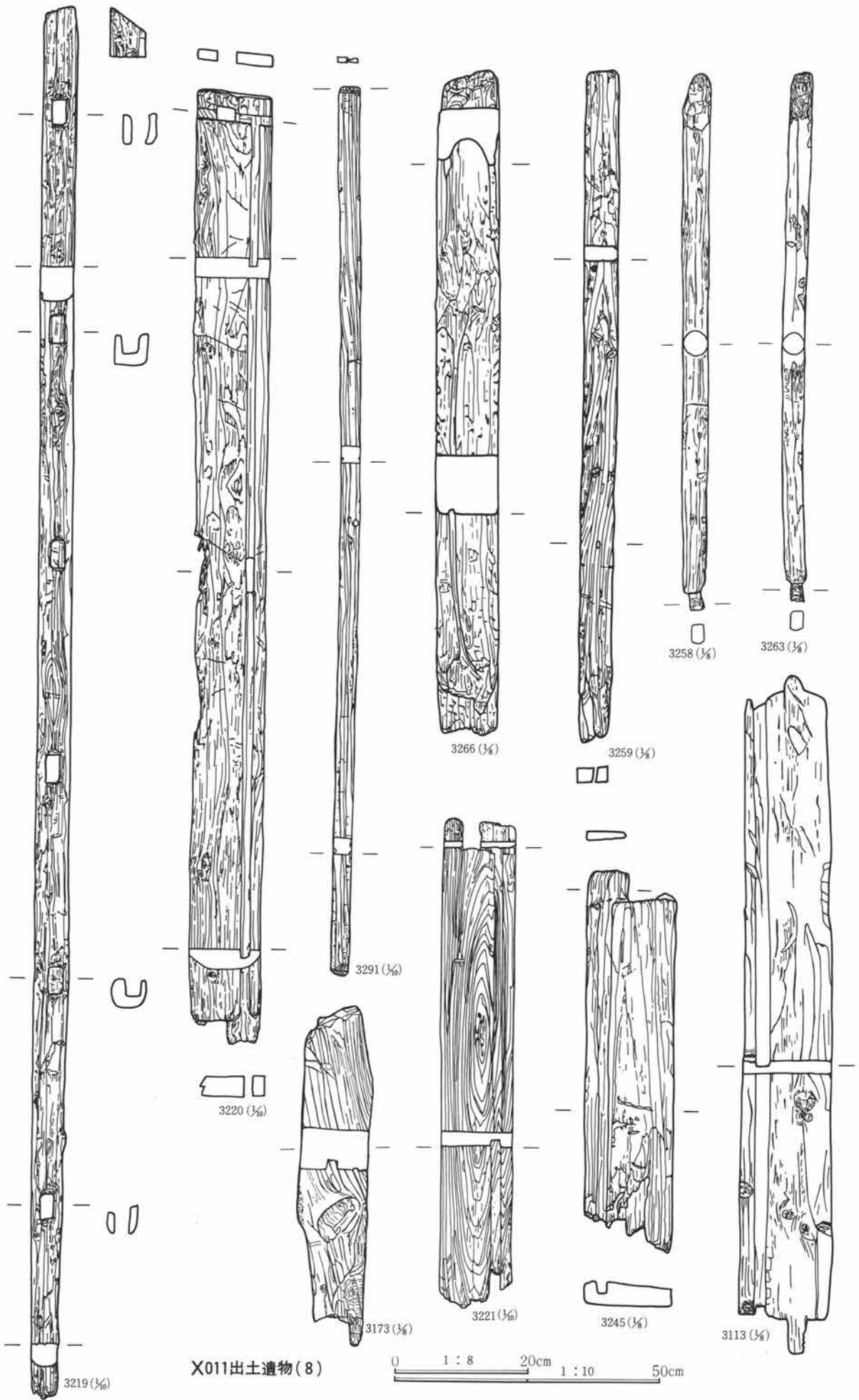
X011出土遺物(5)

0 1 : 3 10cm
1 : 6 20cm

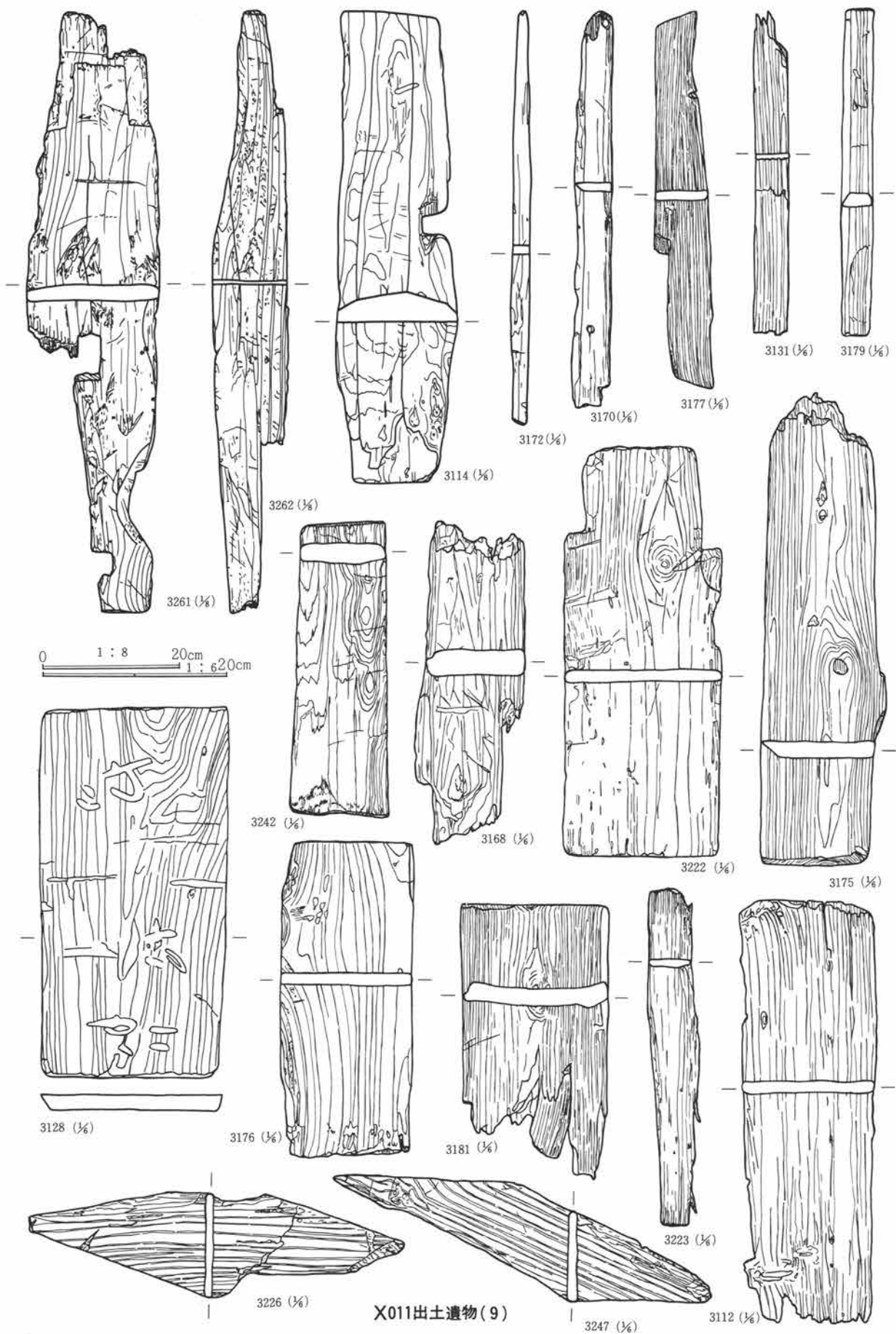


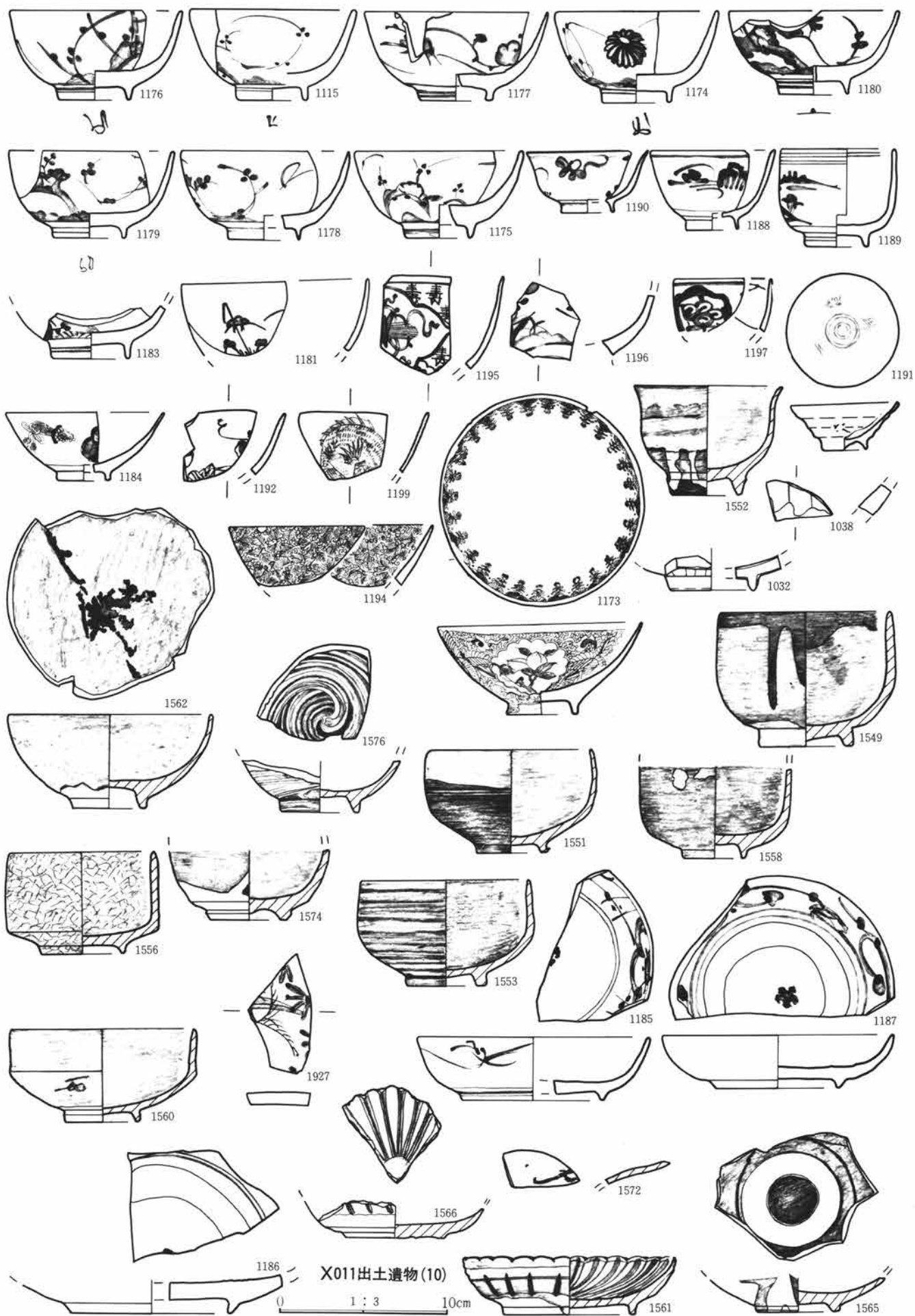
X011出土遺物(6)



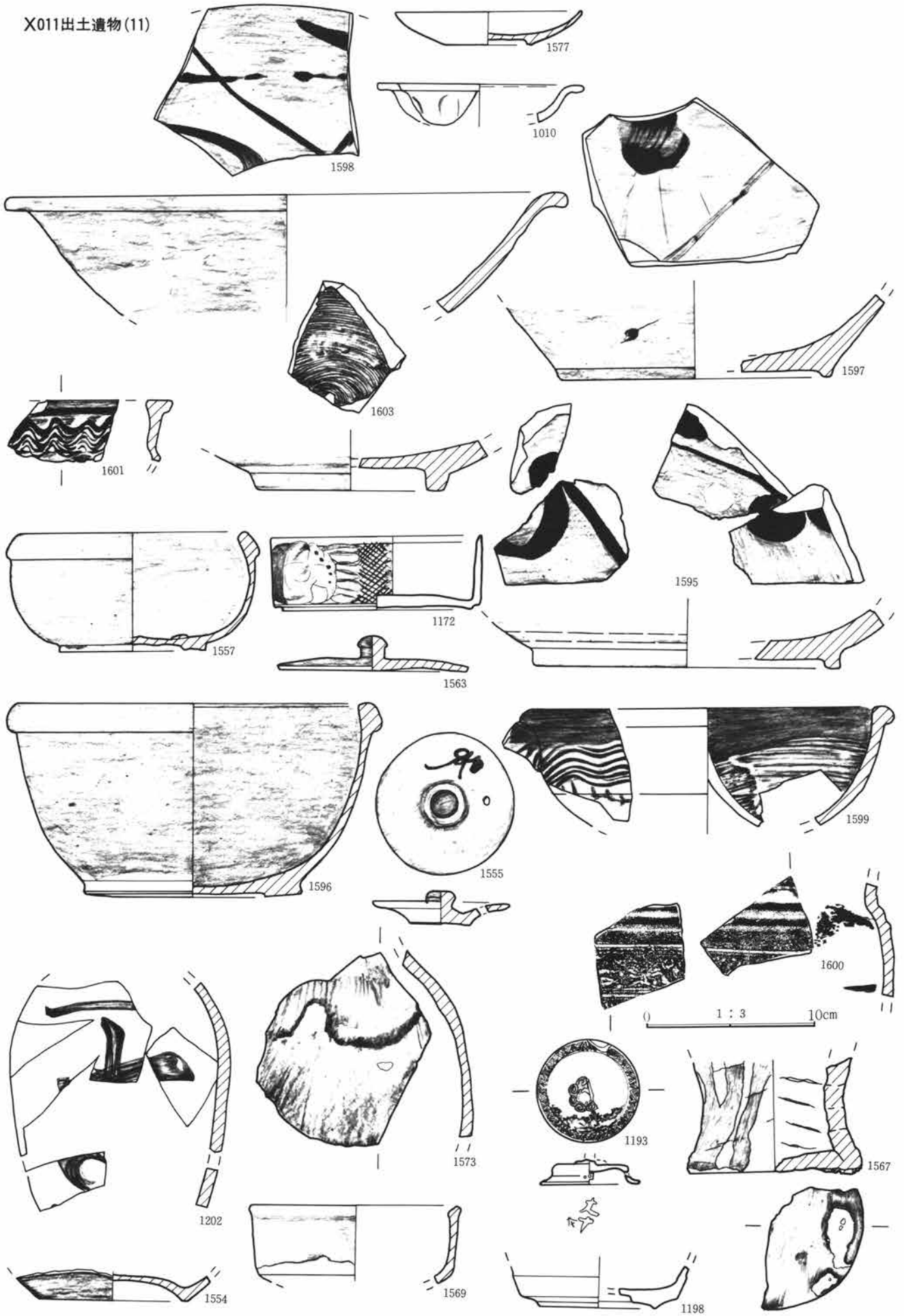


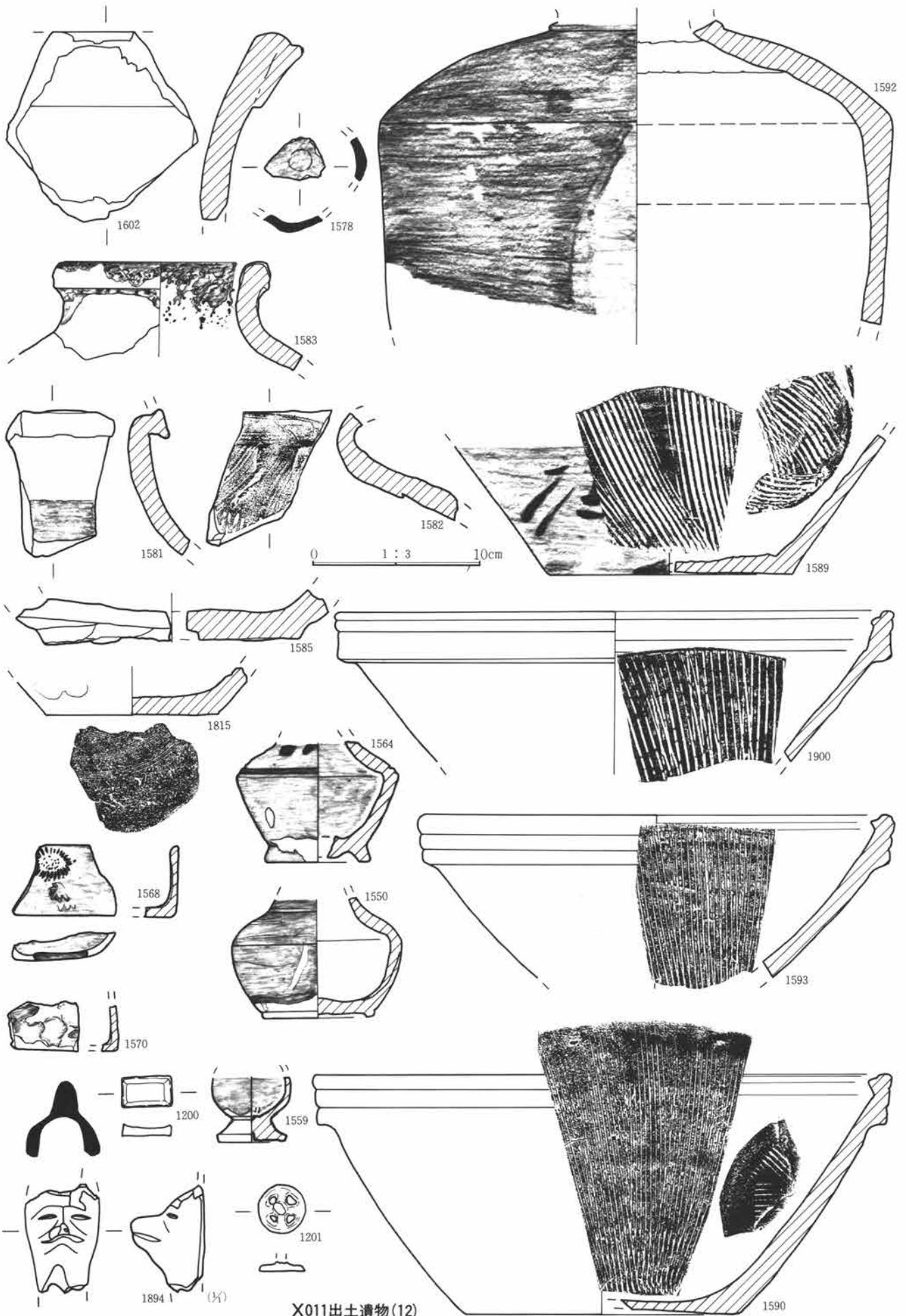
X011出土遺物(8)



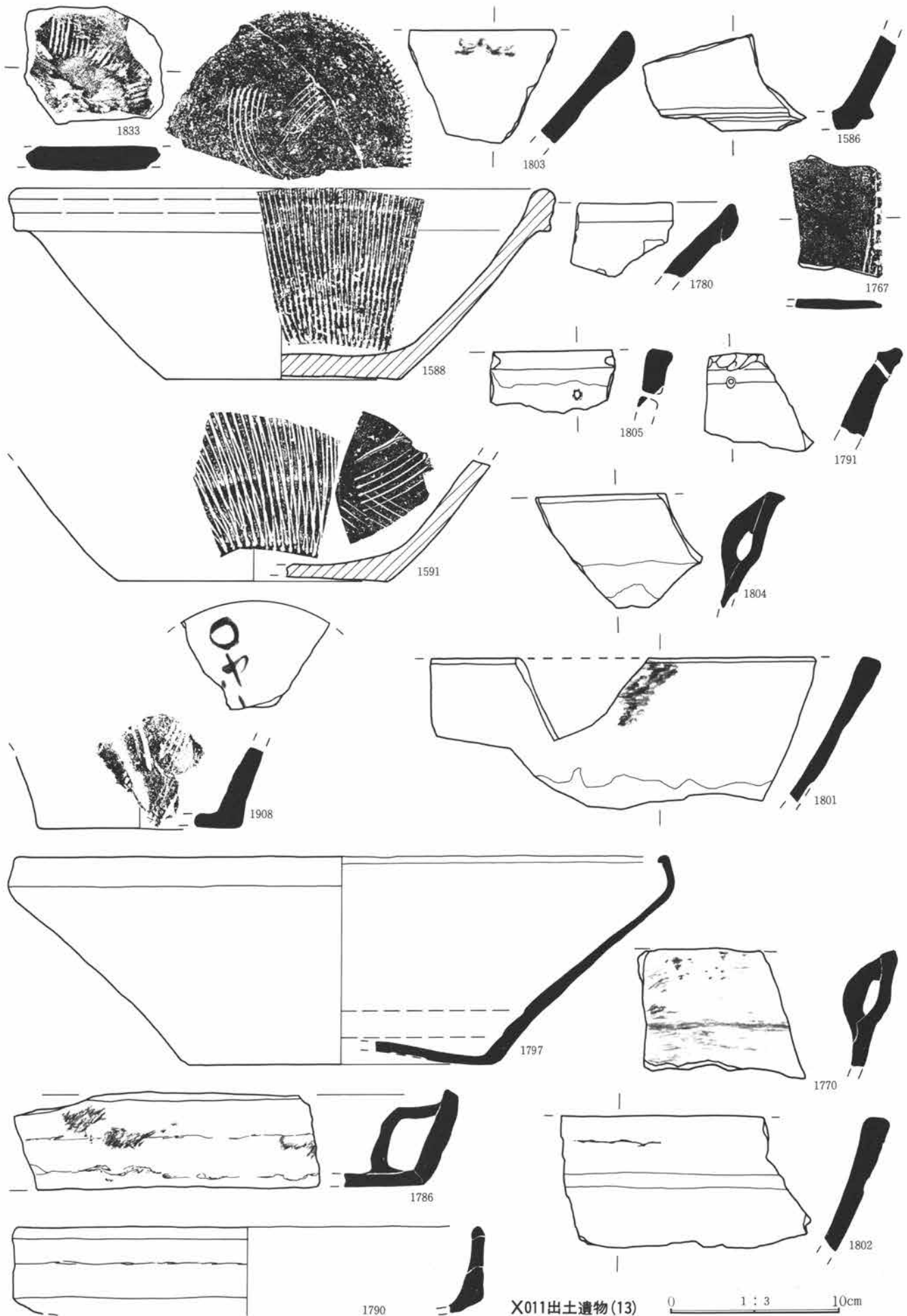


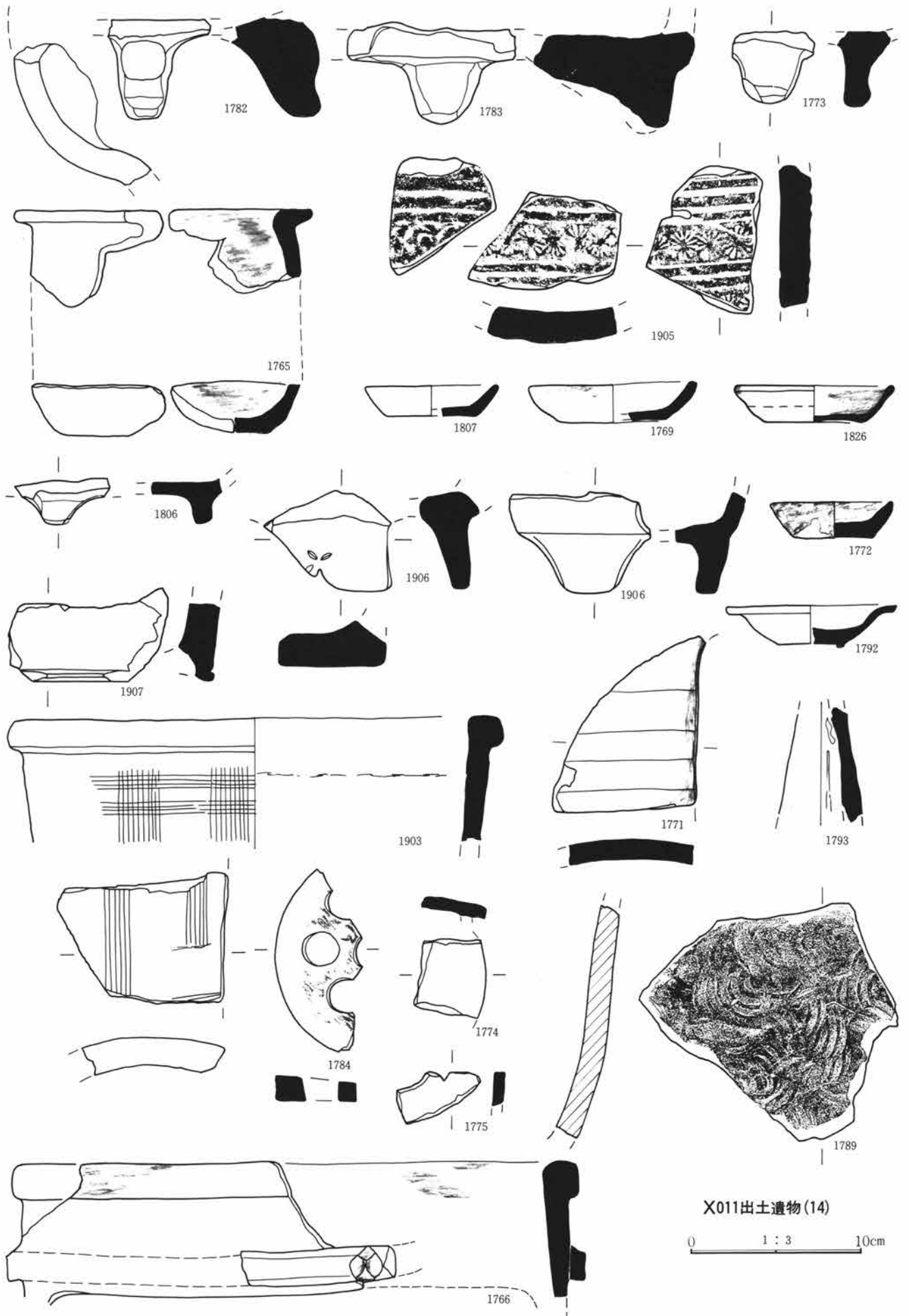
X011出土遺物(11)





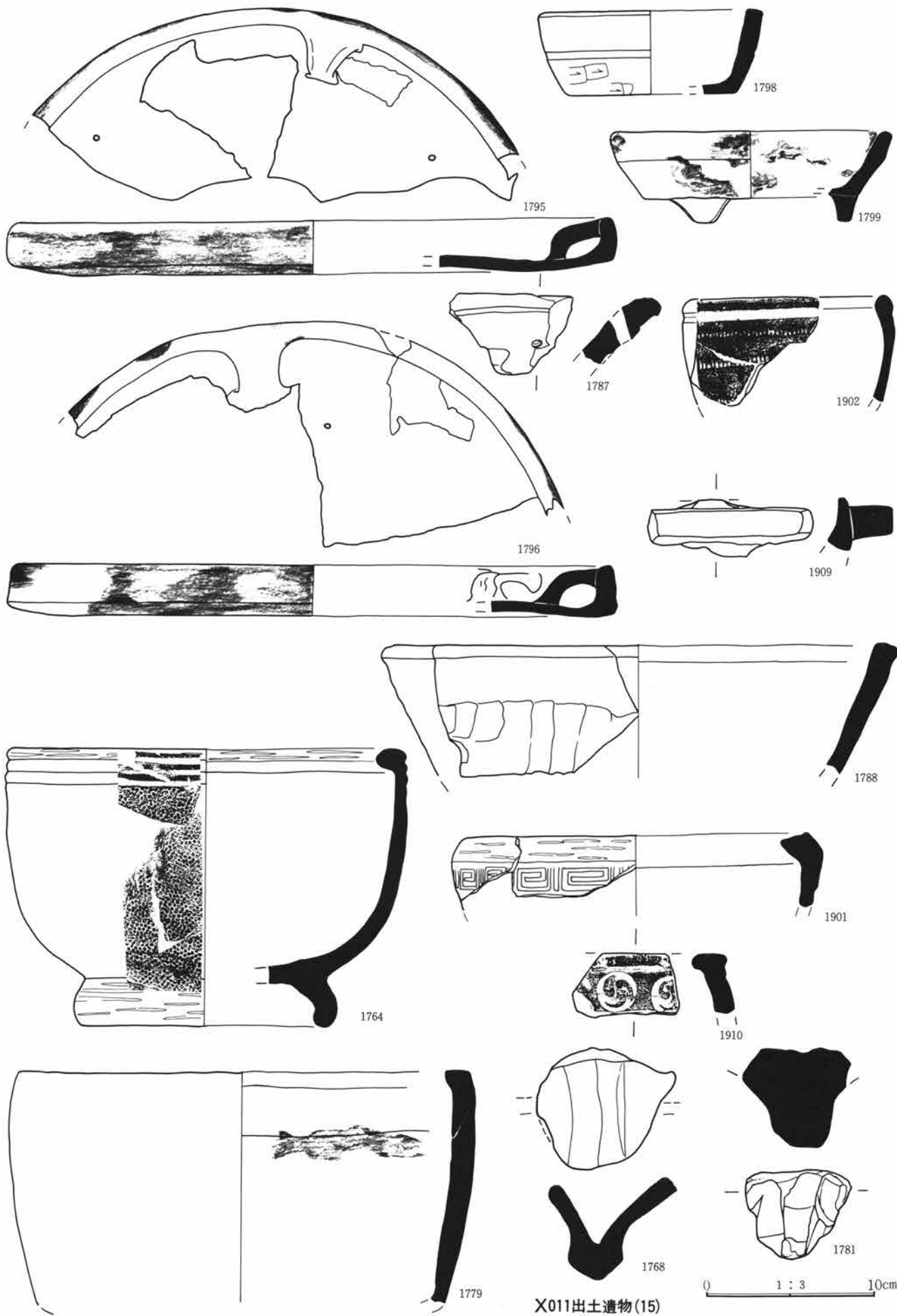
X011出土遺物(12)





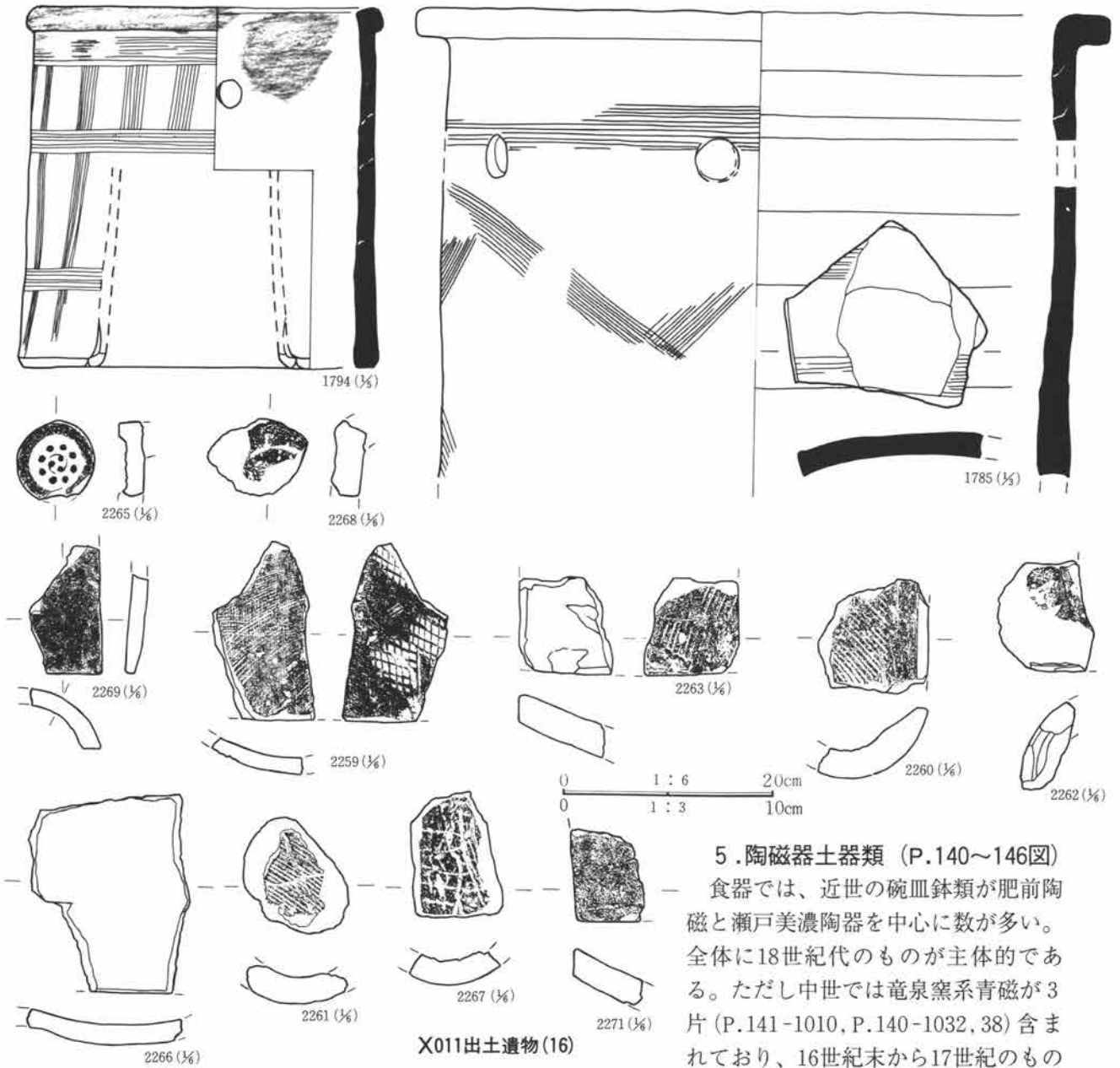
X011出土遺物(14)

0 1:3 10cm



X011出土遺物(15)

II 調査成果



5. 陶磁器土器類 (P.140~146図)

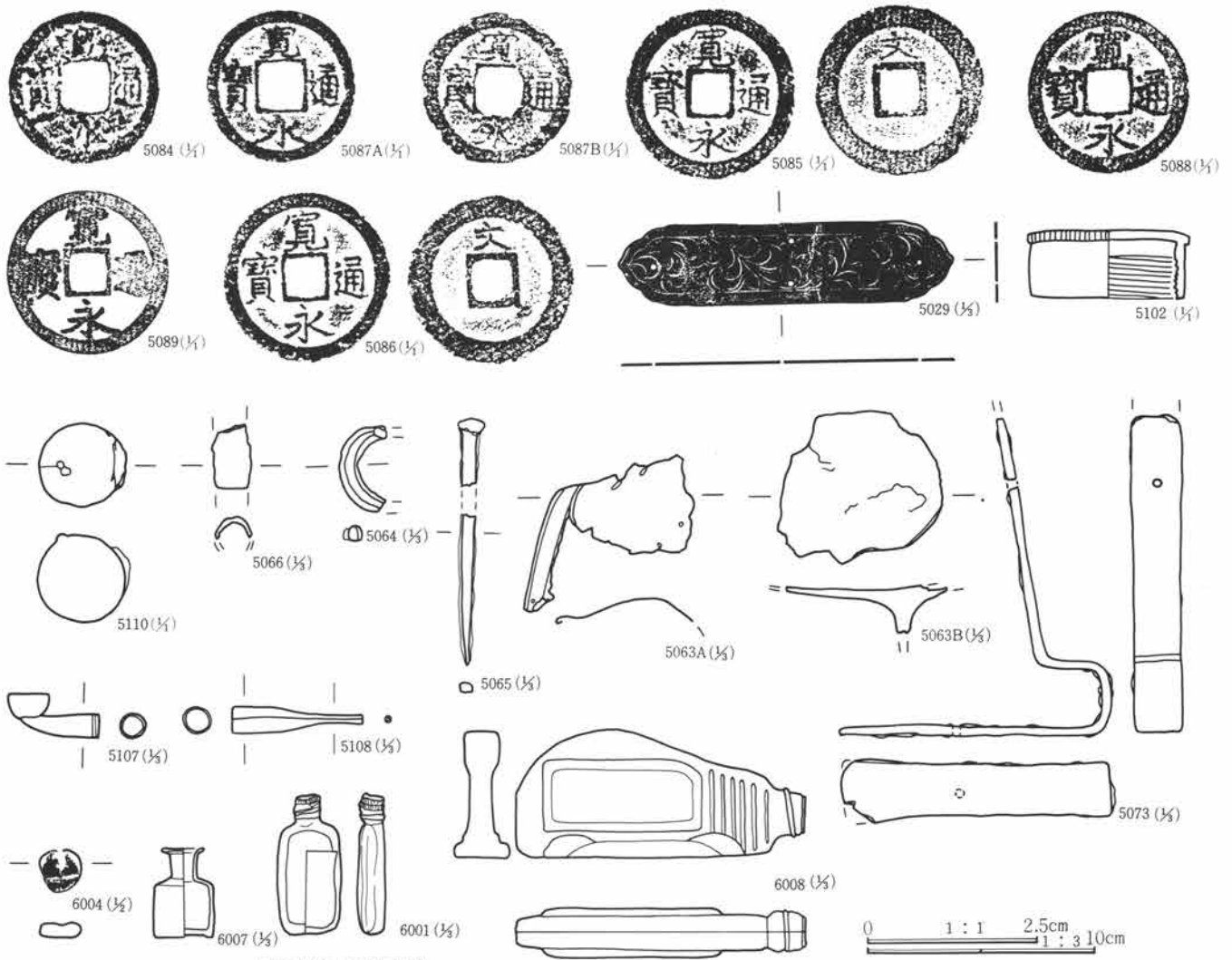
食器では、近世の碗皿鉢類が肥前陶磁と瀬戸美濃陶器を中心に数が多い。全体に18世紀代のものが主体的である。ただし中世では竜泉窯系青磁が3片(P.141-1010, P.140-1032, 38)含まれており、16世紀末から17世紀のものも肥前(P.140-1195, 1574)、瀬戸美濃

(P.140-1566, P.141-1595, 98)があることは注意を要する。瓶類は、屋号が染付けされた近代の貧乏徳利(P.141-1202)もあるが、やはり13世紀の古瀬戸瓶子(P.140-1567)は注目される。

調理具では、肥前二彩手刷毛目片口鉢(P.141-1599)や泉州堺・備前播鉢(1588, 590, 591, 593, 900)などが陶磁器で、焙烙・塙・コネ鉢などの瓦質及び土師質の中世からの土器が見られる。播鉢(P.143-1591)には、底部に「○ヤ？」の墨書が残る。貯蔵具は、常滑の壺・甕類が中世(1581/83)から近代(1592)までであった。

火処は(P.144~156)、火鉢類と焜炉に大きく別れる。共に瓦質土器で、種類はかなり多様である。印花装飾のある軟質の火鉢片(1905, 06, 10)は、橋跡の橋脚柱穴の裏込めに使われていた。灯火具は、陶器秉燭(1559)、磁器灯心押さえ(1201)、瓦質土器瓦灯(1771)、そして土師質小皿(1772など)がある。

中世の軒丸瓦片など(2267, 68, 71)は、前記火鉢片と共に橋跡の柱穴より出ている。その他に、化粧具として灰釉びん水入れ(P.142-1568, 70)、また泥人形の狐面(P.142-1894)も注目される。



X011出土遺物(17)

全体の出土量は大量だが、ここに図示した148点のうち85点は出土グリッドが記録されており、その分布を見ると、大部分が橋跡より西側に集中している。(単純な出土全破片数でも東側は僅かに133片。西側は846片。とりわけ中島北側のグリッドG57~59の上層からは178片が出土。)

時代的には、橋跡の柱穴の裏込めは、12~15世紀のものがまとまっている。

近世は、西側全体に広まっているが、特に中島と土取り跡そして橋跡の北端にまとまりがある。近代は、中島北側と土取り跡に集中する傾向がある。

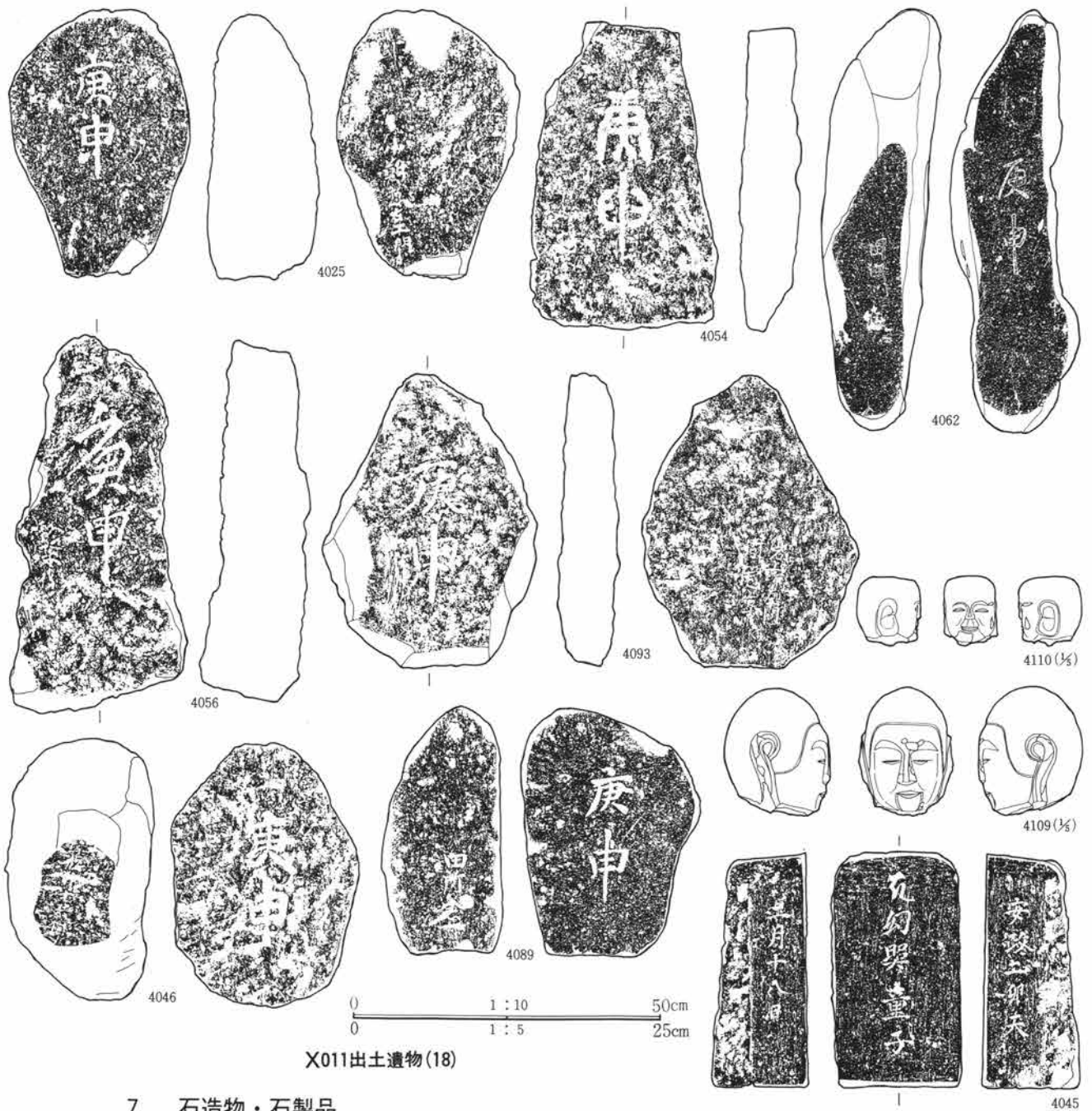
全体としては、13~15世紀、16世紀末~17世紀後半、18世紀中頃~19世紀後半の3時期があり、日常生活品は新しいものが多い。

なお古代以前の遺物は、橋跡から出土した須恵器甕片(1789)と中島北側の土師器高杯片(1793)のみである。

6. 金属・ガラス製品 (P.147図)

銅銭は、寛永通宝が7枚出ているが、分布は橋跡の北端の集石付近より新寛永3枚(5086, 87A, 87B)、土取り跡底より古寛永(5088)、中島と北側より新寛永(5084, 85)そして中島西側より古寛永(5089)となる。

飾り銅板(5029)は土取り跡北側底から、逆L字形の带状鉄金具(5073)は中央部南側上層また鉛鉄砲玉(5110)は橋跡の東約25m離れた場所からの出土である。キセルは雁首(5107)が中島西側底、吸口(5158)が中島埋土から出た。ガラス製品は、3点が薬瓶類、1点がおはじき(6004)である。



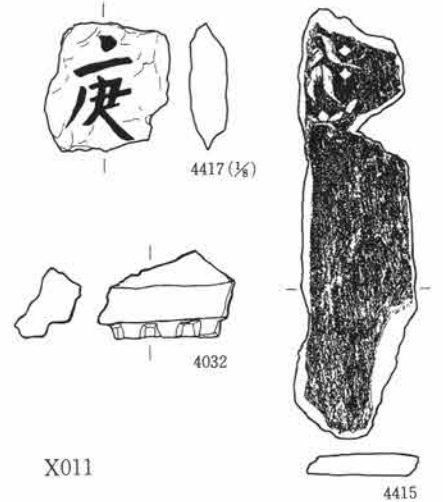
X011出土遺物(18)

7. 石造物・石製品

A 特殊品 (P.148図)

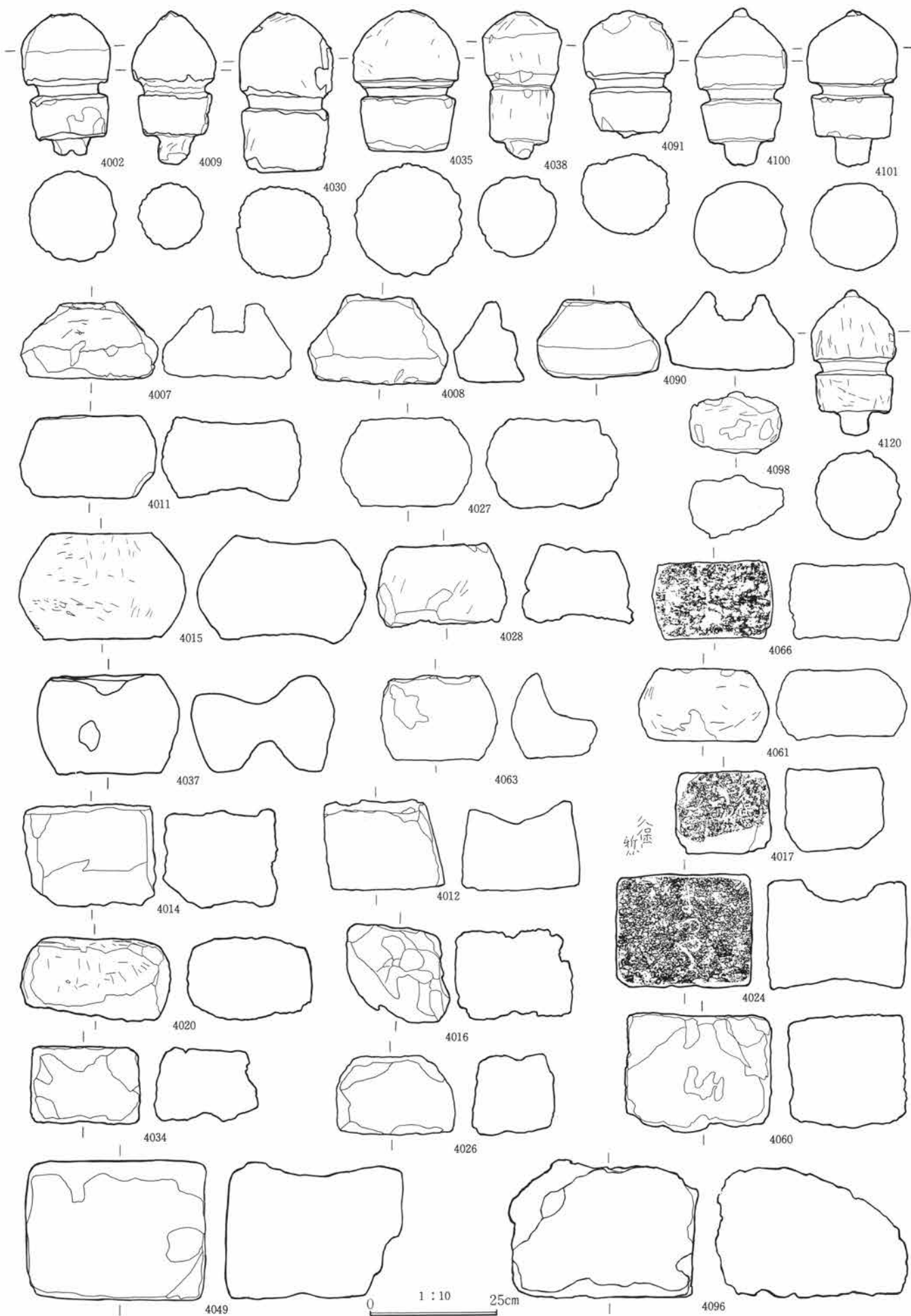
まず特徴的なものでは、7基の庚申塔がある。形状は自然の転石にあまり手を加えない状態で、正面に「庚申」の2字を彫り、建立者の銘もいづれかの面に加えられる。「小鮎惣右衛門」(4025)、「松井七兵衛」(4046)、「鈴木 ○」(4056)、「岡田 ○」(4062)、「田所 ○」(4089)、「岩上源右衛門 同宅 ○」(4093)が判読できるが、4054は不明。これらは筑波山の南側で出土しており、同山に建てられていたものが転落したと考えられる。なお同山中には少なくとも鈴木2例(No.151,157)・松井1例(No.156)・田所1例(No.149)の銘のある庚申塔状の石塔がある。

庚申信仰を示すものとしては他に、粗粒安山岩の手の平大の石塔片に「庚」と墨書したもの(4417)がある。仏頭が2体あり、(続P.152)

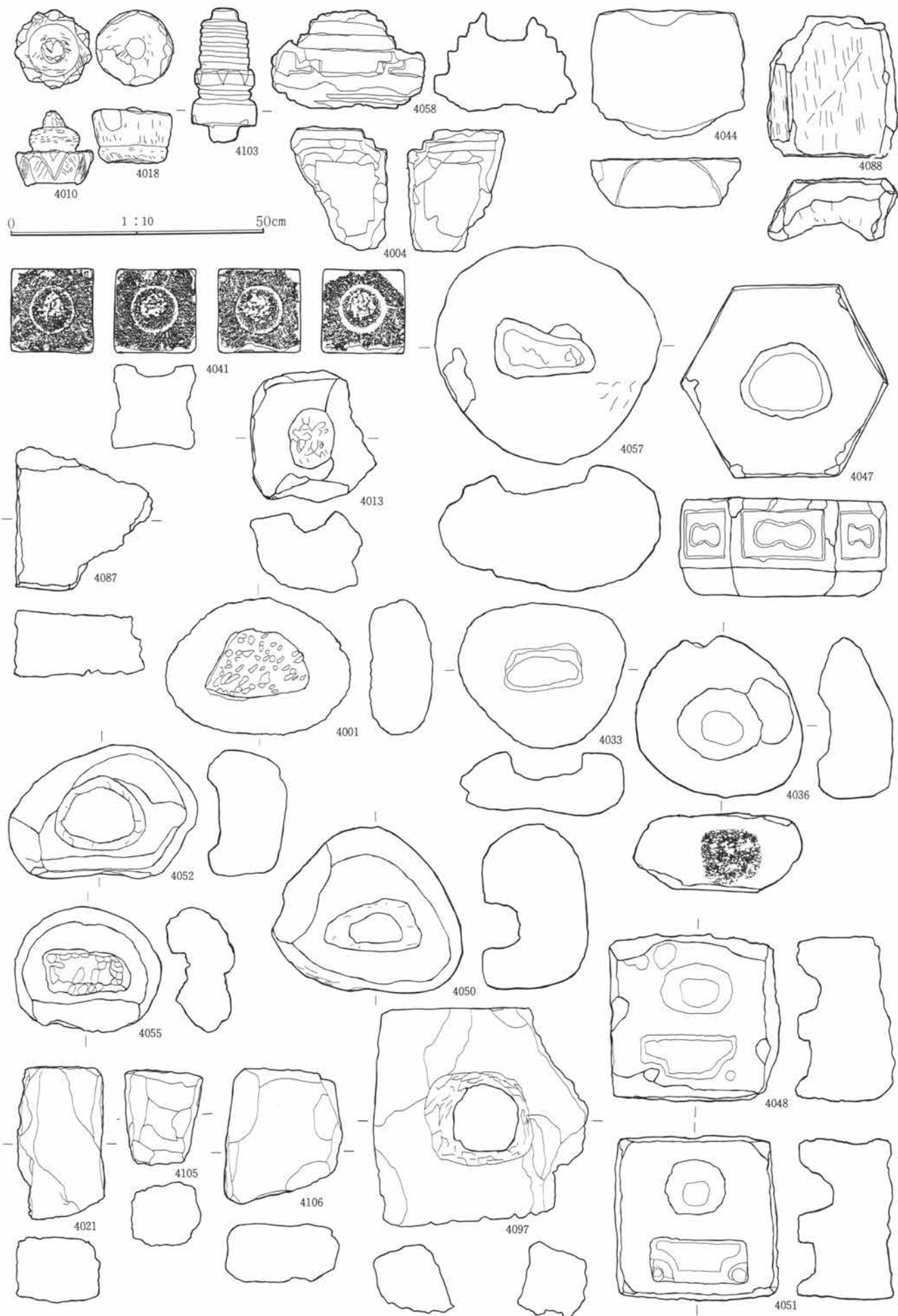


X011

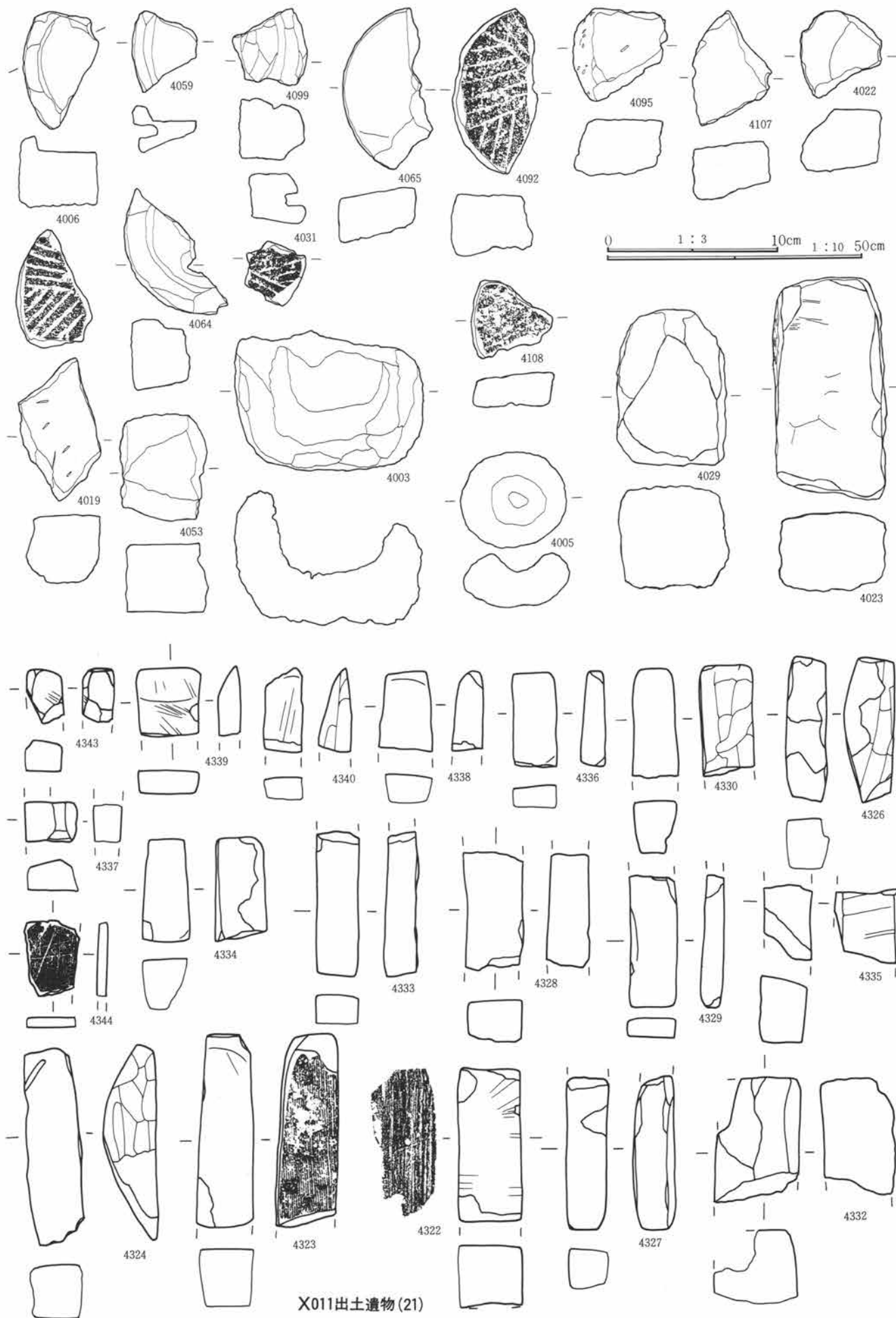
4415



X011出土遺物(19)



X011出土遺物 (20)



X011出土遺物(21)

小さいもの(4110)は全体に角張っており、大きいもの(4109)は反対に丸みを帯びた造形である。いずれも地蔵菩薩であろう。小さいものは墓標の可能性もある。

墓標として確実なものは、四面加工の小形標塔(4045)がある。表面に「幻照童子」右側面に「安政二卯天」(1855)年、左側面に「三月十八日」と彫られている。銘と大きさより夭折した子供の墓標だろう。

また石宮の屋蓋端部片(4032)は、筑波山南西角に現存しかつて中島上にあった寛永5(1628)年銘の石宮(No.2)の欠損部である。緑色片岩の板碑片(4415)は、種子は蓮華座のキリークだが、それ以外は判読できない。

B 五輪塔 (P.149図)

五輪塔の各部分と思われるものは、33点出土している。水輪の4066が角閃石安山岩、地輪の4096が流紋岩質凝灰岩である以外は、全て粗粒安山岩である。

空風輪は10基あり、空部の形状は側面形が半円・三角・五角などに別れる。火輪は3基で、稜線には反りは見られない。水輪は8基あり、形状はかなり差がある。4066には銘があるが判読できない。また4037は上下面が、4063は上面が必要以上に大きくえぐられている。後者は石鉢として転用したと思われる。

地輪と考えられるのは11基あるが、一辺20cm弱の小さなもの(4017)から、最大辺35cmを越えるもの(4049,96)まで含まれる。またかなり扁平なもの(4020)も一応ここに入れたが、厳密には他の石塔の基礎かも知れない。4017には「久保○新○」、4024には「まつや」の銘がある。前者は、大池の南西側の墓地跡の埋葬一族の名と同様であれば、「久保田」であろう。

C その他の石塔 (P.150～151図)

宝篋印塔の各部は、宝珠2点(4010,18)、相輪(4103)、笠部(4058)、塔身2点(4004,41)が出ている。宝珠と塔身はそれぞれ形状が異なる。小形の塔身の4041は、四面に円内の梵字の不明種子が彫られている。

その他に14基の石塔の基礎がある。これは平面形状により、六角・四角・楕円に別れる。六角は各側面に格座間がある石幢の基礎(4047)とやや高いもの(4088)がある。四角は、前面に蓮華状浮き彫りを持つもの(4044)、線香立て掘り込みを持つ墓標基礎(4048,51)などがある。楕円のもの、上面に塔身を立てる掘り込みのみを有するもので、規模はさまざまである。4036の前面に銘のようなものがあるが、判読不明。

直方体の石塔未製品が2点(4023,29)ある。前者は流紋岩質凝灰岩、後者は粗粒安山岩で、基礎もしくは墓標であろう。また軟らかい流紋岩質凝灰岩の直方体製品が4点(4021,097,105,106)見られる。そのうち最大の4097是一片40cm以上あり、中央に大きな穴が貫通している。これは、筑波山直下の底で出土した。

D 石臼類と砥石 (P.151図)

石臼類は、やや非確実なもの1点も含めて、上玉4点・下玉7点の計12点出土している。いずれも粗粒安山岩製である。大きく摩耗したものやあまり摩耗していないものなど、多様である。他に同じ素材による箱形の石鉢(4003)、小形自然形の石鉢(4005)、磨石(4053)がある。

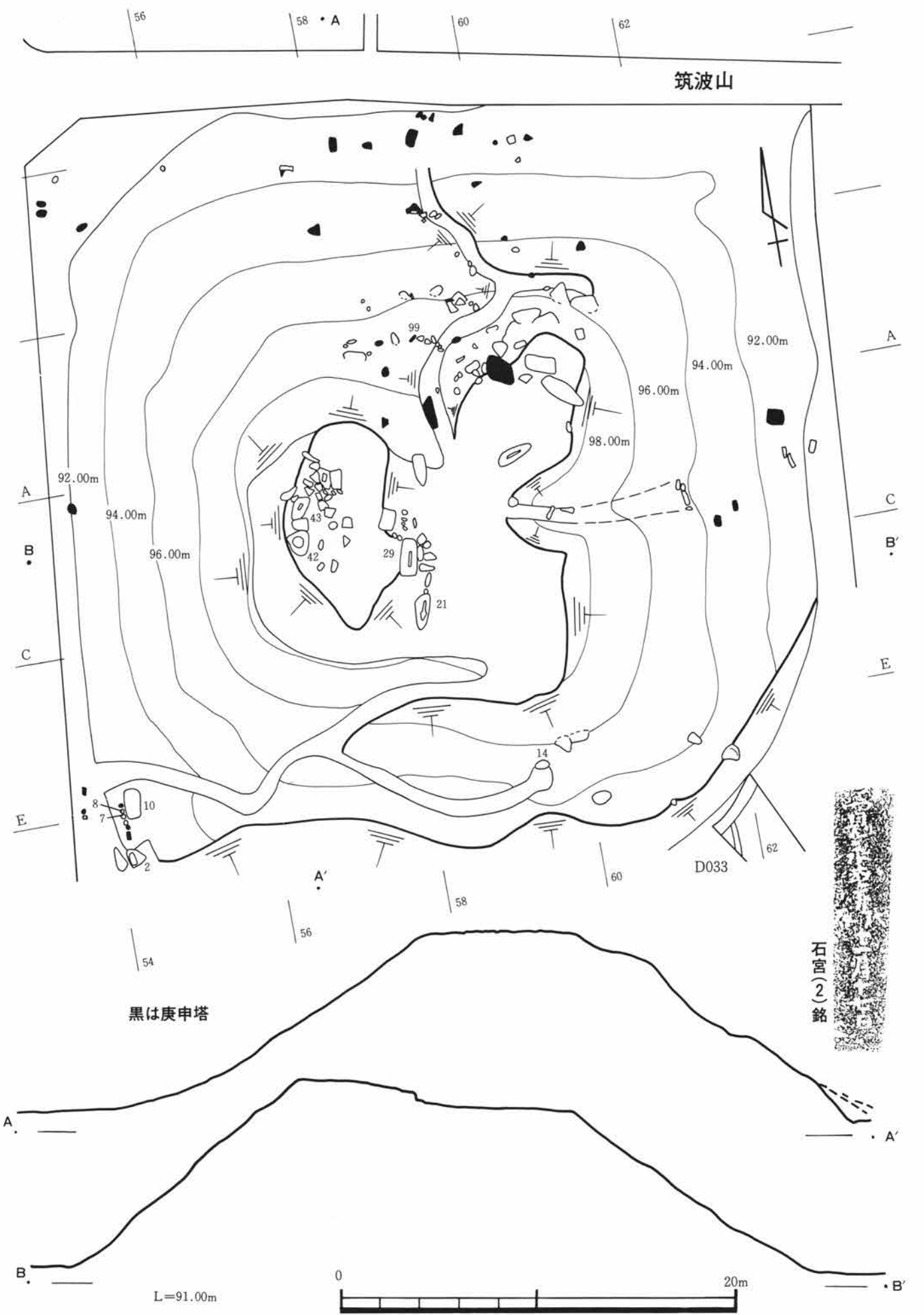
砥石は、計19点出土している。材質は、流紋岩3点(4322,28,35)、変質安山岩2点(4324,33)、頁岩1点(4344)そして残りの13点は砥沢石である。そのうち、流紋岩の4322には鋸加工痕がある。また頁岩の4344は薄く、確実ではない。また細ノミ加工痕のある山形の変質安山岩製の4324は、橋跡の柱穴より出土しており、共伴遺物より中世の可能性が考えられる。

大部分が日常生活具であり、上記石塔類とは大きく異なる。大池そのものの性格とは直接結び付くものではなく、破損などの理由で使われなくなったものが、投棄されたものだろう。

8. 大池まとめ

以上を時間的に整理すると、I期 西側掘削と初期筑波山築造：17世紀30年代頃(古寛永以後・(続P.154)

筑波山



石宮(2)銘

黒は庚申塔

L=91.00m

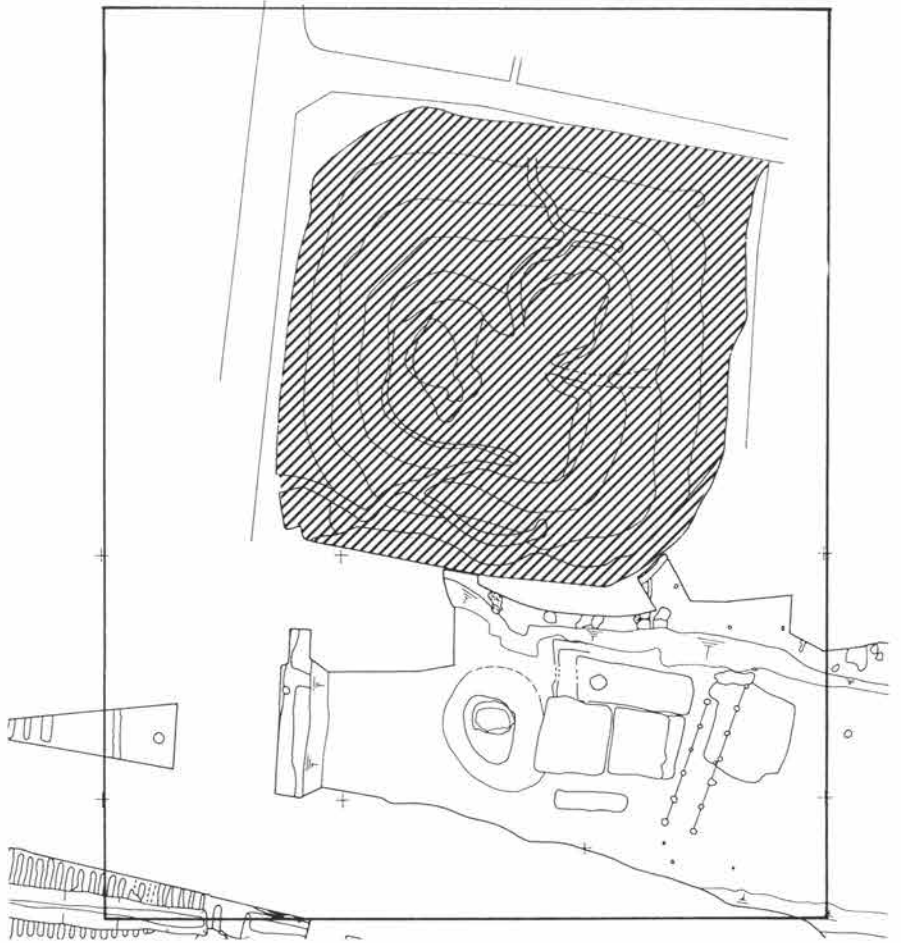


(P.152より) 寛永5石宮)、
Ⅱ期 東側掘削による筑波山
増築・中島と橋築造：18世紀
前半頃(天明以前・延享3-17
46杭型塔婆)、Ⅲ期 中島増
築：18世紀末～19世紀前半
(天明以後・安政2墓標)、Ⅳ
期 西側完全埋没：19世紀末
となる。

Ⅰ期は、17世紀後半があて
られる。筑波山への庚申塔奉
納とそれに関する信仰儀礼
は、Ⅲ期を中心に盛んだった
ろう。Ⅳ期の時点で排水溝は、
東端から南に向かうM021か
ら中島南より東に向かう
M016につけ替えられている。
(P.160)

なお東側にかつて存在した
井戸や瓦葺き建物を含む屋敷
は、13～15世紀頃だろう。

筑波山 (PL.93,94)
溝M033遺構 (P.153図)



南東から南辺の裾が削られているが、それを復元すれば、平面は方位に合った一辺約38mの正方形で、高さ8mの截頭四角錐の形状である。頂上は、東辺18m西辺10m両辺間19mの台形状の平坦部であり、西側幅5mほどが1m高い。その反対側の東斜面には、ややまっすぐ伸びた参道がある。南北の斜面にも上り道があるが、かなり曲がった付随的なものである。

筑波山全体で、見えるものだけで次の大小163個の石造物がある。

石宮4 庚申塔36 無縫塔2 五輪塔4 不動明王像1 人物像1 碑4 石柱1 梵字名号碑1 台石11 石段10
保護石48 方形有孔石1 自然石35 不明石4

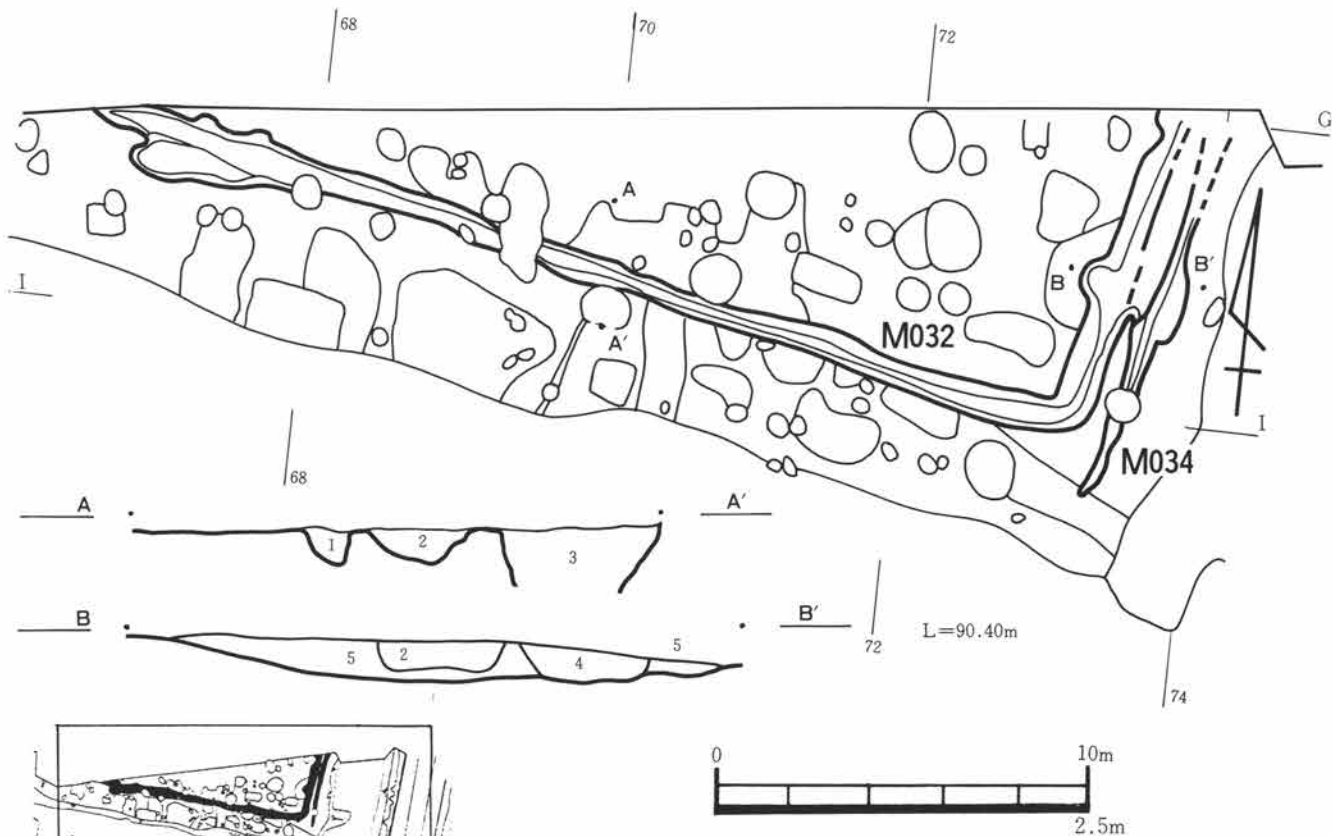
人工の盛土であるこの山の自然石は庚申塔の可能性が高い。庚申塔は大部分が北斜面にある。

以上の中で紀年銘は、次のとおりである。2.寛永5年石宮 7.寛文10年長海行人銘無縫塔 8.寛□4年□□僧都銘無縫塔 10.昭和31年開田碑 21.明治35年御岳講信徒名 29.大正6年観音寺無量寿寺合寺記念碑 42.明治29年富士山銘石宮 43.明治9年花園銘石宮 99.天保10年横田銘庚申塔 2,7,8,10は南西角麓にあり、2はかつて中島上にあった。21,29,42,43はいずれも頂上西側。99は北斜面。その他の人名など：庚申塔：石川・福田・田中2・三股・神沢・□原・設楽・田所・鈴木2・松井・岡□・春三月 石柱：御岳座王大権現 梵字名号碑：東白井内田

南東角の浅い溝M033は、裾の削りに伴うもので、4の開田の時のものだろう。

筑波山の土量は、約6,500m³である。一方、大池の東側は約2,000m³、西側は約1,200m³である。これらの池の掘削量を除いた現状の半分の約3,300m³の塚が、大池掘削以前にあったことになる。

筑波山は、元禄の頃に無量寿寺再興に伴い築造された、あるいは天保年中に増築された(明治43年『荒砥郷土誌』考察参照)と言われ、またもともと古墳であったとの考えもある。ただ現状の形状は、筑波山信仰に基づいたもので、内部の塚とは別と考えたほうが妥当である。



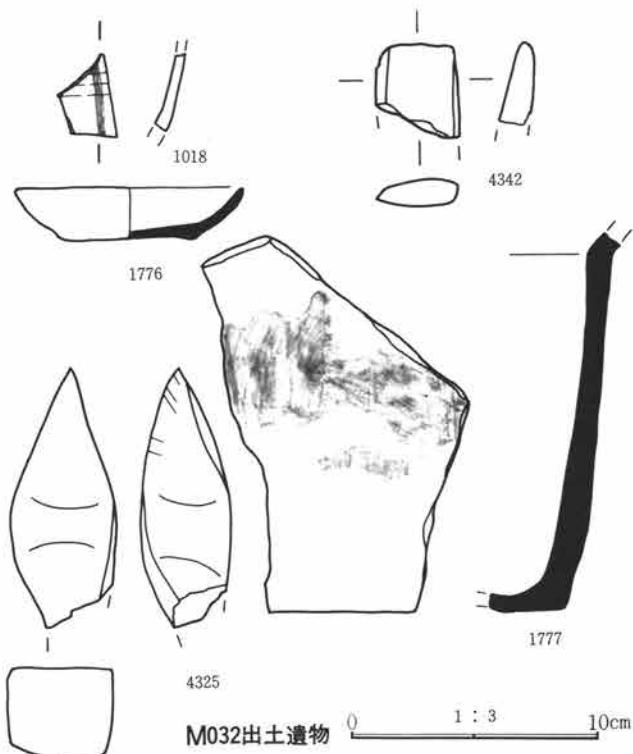
区画溝M032, M034遺構 (PL.15, 108)

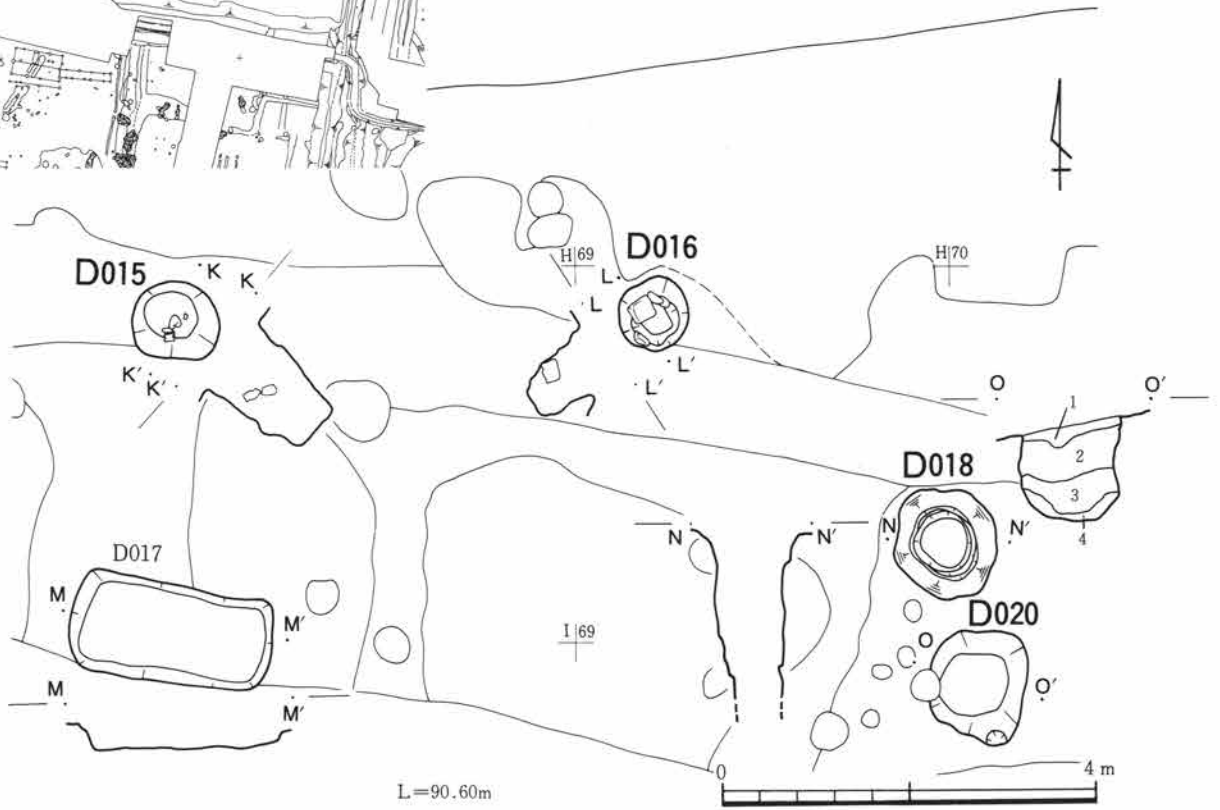
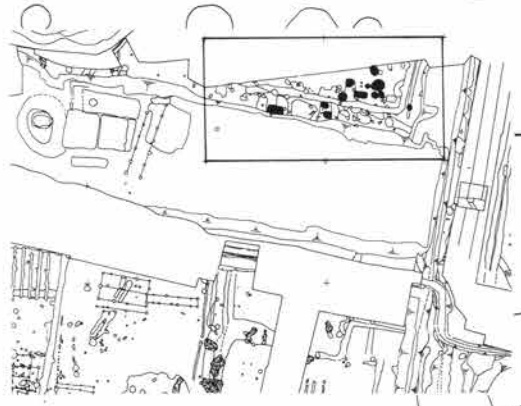
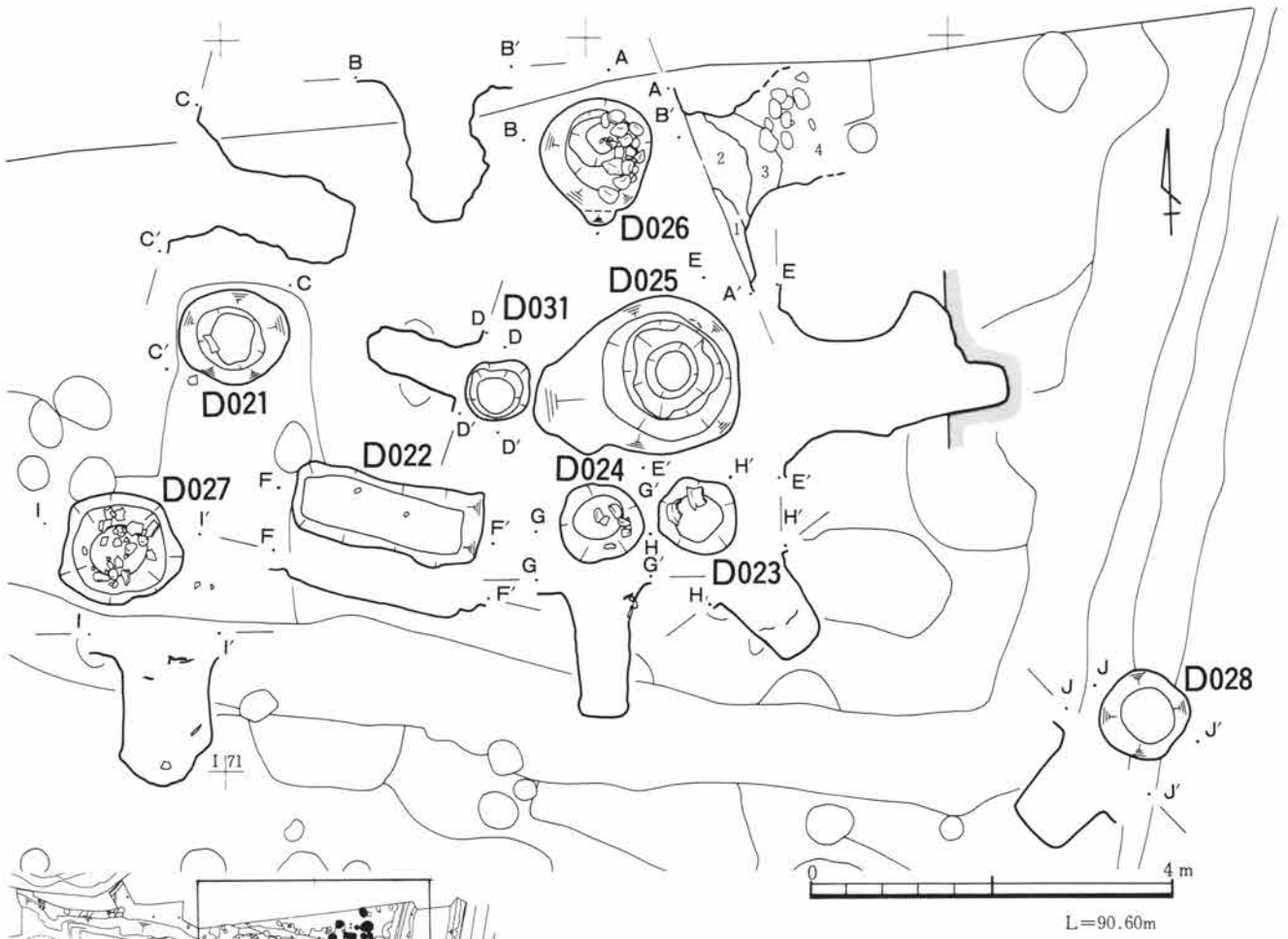
大池北岸の井戸跡群をめぐる区画溝。M032は、大池上端から3mの位置を同じ東西方向に27m以上走り、直角に曲がって東端堀M022の西岸にそって北に向かっている。上幅0.7~0.9m深0.2mほどで、断面形はU字形。1.褐色砂質土 2.暗褐色砂質土 炭化物・ローム塊含む 3.暗褐色砂質土 しまりない D018埋土 4.にぶい黄褐色砂質土 ローム塊多く含む 5.褐色砂質土 ローム塊含む

南北走向の溝M034は、M032の東にほぼ接している。M032の東端での掘り返し部分と考えられるが、B断面周辺は土質の似た褐色砂質土の掘り込みの中に両者が入っており、新旧関係は不明。

M032は、井戸跡D015・土坑D016と、M034は土坑D028と重なるが、関係は把握できていない。

M032埋土より竜泉窯系縞蓮弁文青磁碗片(1018)、瓦質土器塼(1777)、土師器小皿(1776)そして砥石(4342, 4345)が出土。青磁は13~14世紀中頃の年代が考えられるが、M032の東西走向は全く大池北岸と平行のため、17世紀後半頃の掘削と思われる、遺物は重複遺構のものだろう。形状・走向の似るM034も同じ頃の可能性がある。





井戸跡D015, D018, D021, D025～D027遺構 土坑D016, D017, D020, D022～
D024, D028, D031遺構 (P.156図 PL.15, 109～113)

大池北岸に集中する6基の井戸跡と6基の円筒形土坑そして2基の短冊形土坑。

井戸跡D015は上径0.9m深1.2mで海拔89.7m付近に崩落痕。溝M032と重なる。瓦質土器小鉢(1808)と茶臼上玉(4357)が埋土中位から出土。井戸跡D018は、上径1.3m深1.7m以上で下側は径0.5mほどにすぼまる。底は海拔89.3m。溝M032に近接。瓦質土器火鉢(1824)同塙(1825)丸瓦(2264)片口石鉢(4358)宝篋印塔相輪状片(4361)が出土。塙の特徴より16世紀頃と思われる。井戸跡D021は、上径1.2m深2.0mで海拔88.4mに崩落痕がある。遺物は比較的多く、瀬戸美濃黒釉壺片(1928)瓦質土器不明器形片(1818, 34)土師器小皿(1814)板碑(4348)五輪塔火地輪(4039, 42, 43, 4104)が見られた。1928は16～17世紀代とされ板碑の存在も考えれば、16世紀後半頃かと一応想定する。

井戸跡D025は、上径1.8×2.3m底径0.4mで深2.7m、海拔88.7mより湧水。上面は西側が大きく広がり、湧水層下の底は小さい。西側に土坑D031、南側に土坑D023, D024が近接している。これらの土坑はそれぞれ、D023が上径0.8m深1.0m、D024が上径0.9m深1.3m、D031が上径0.7m深1.3mを測り、規模形状が似ているため、D025と関係する施設の可能性がある。D025からはやや多く遺物が見られた。土器は土師器小皿(1817)だけだが、丸瓦が5点(2254～2258)そして石製品が板碑(4349)・茶臼(4350, 52)・石臼(4351, 53)・石鉢(4354, 56)そして立方体の流紋岩(4365)と鋳型片(4366)と多かった。D023には、中位にほぼ完存の瓦質土器塙(1778)が投棄されており、D024では埋土上位に瓦質土器塙片(1823)と砥石(4331)が見られた。塙1778は、1823やD018の1825より古いと思われるため、これらD025をめぐる遺構群は15世紀代かと考えられる。

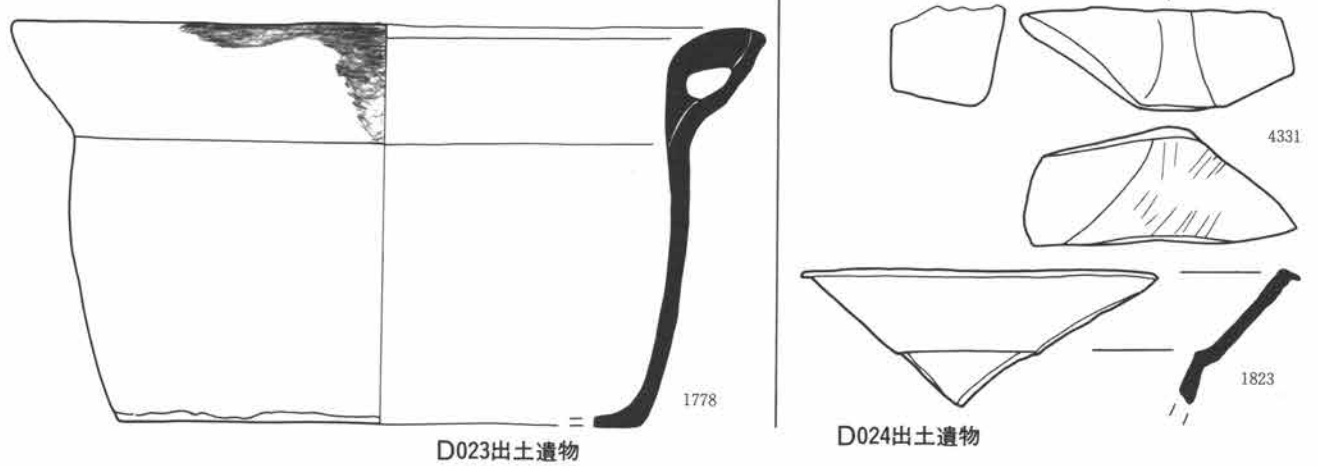
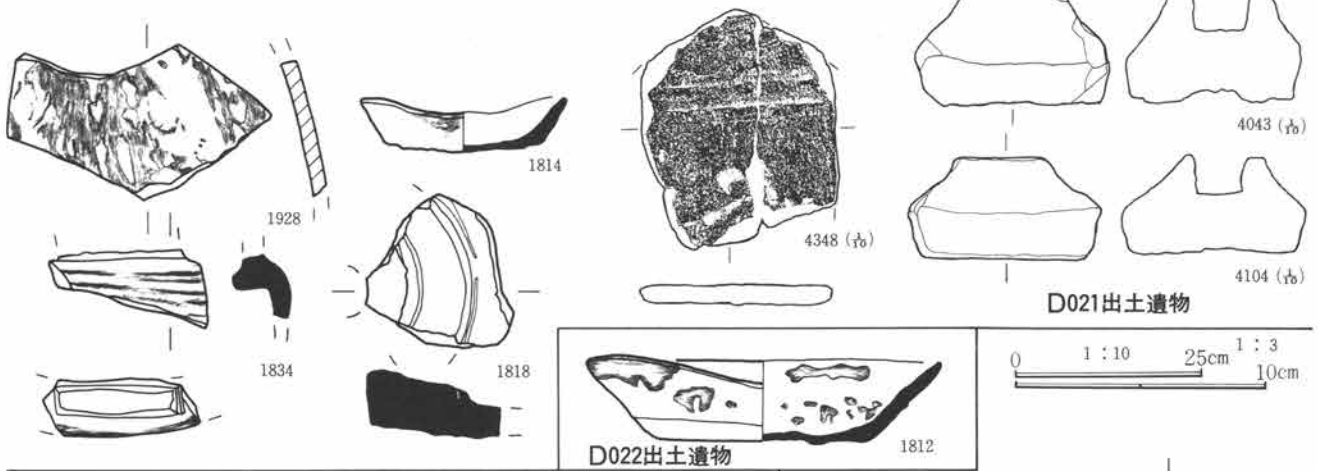
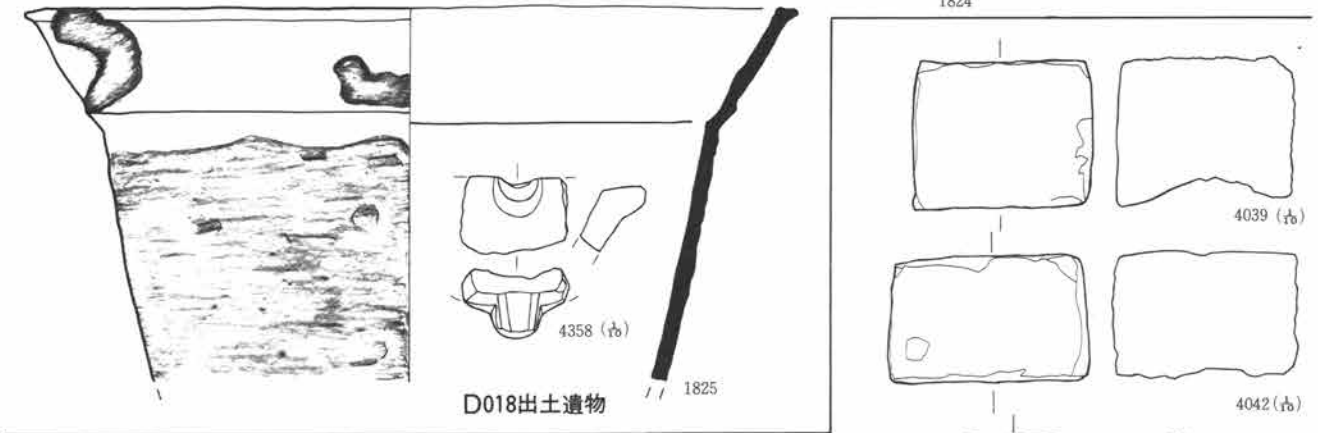
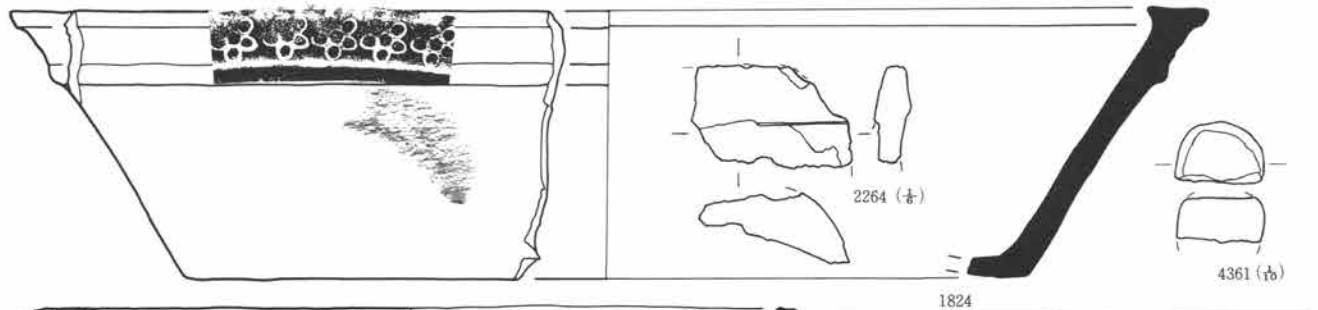
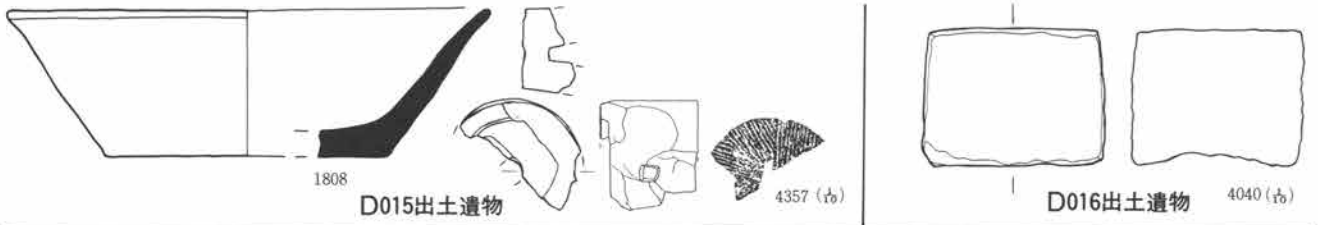
井戸跡D026は、上径1.4×1.2mで底は海拔88.9mより深い。南側がやや広いのは重なった浅い土坑のためである。1.褐色砂質土 2.暗褐色砂質土 小礫含む 3.黒褐色砂質土 砂・小礫含みしまり弱い 4.黒褐色砂質土 礫多く含みしまり弱い 人為的に埋め戻されている。遺物は土師器小皿(1821)のみ検出。井戸跡D027は、上径1.2m深1.4mで海拔89.5mほどに僅かな崩落痕がある。埋土上層に瓦質土器塙(1809)と播鉢(1810)が投棄され、中層からは土師器小皿(1813, 22)と小形板碑(4347)が多くの自然礫と共に見られた。塙はD018の1825に似ており、16世紀代と想定される。

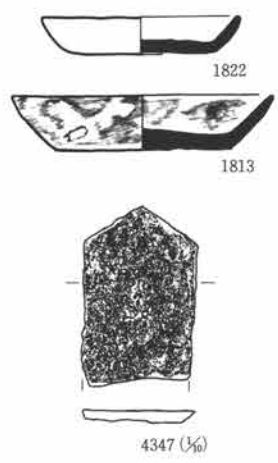
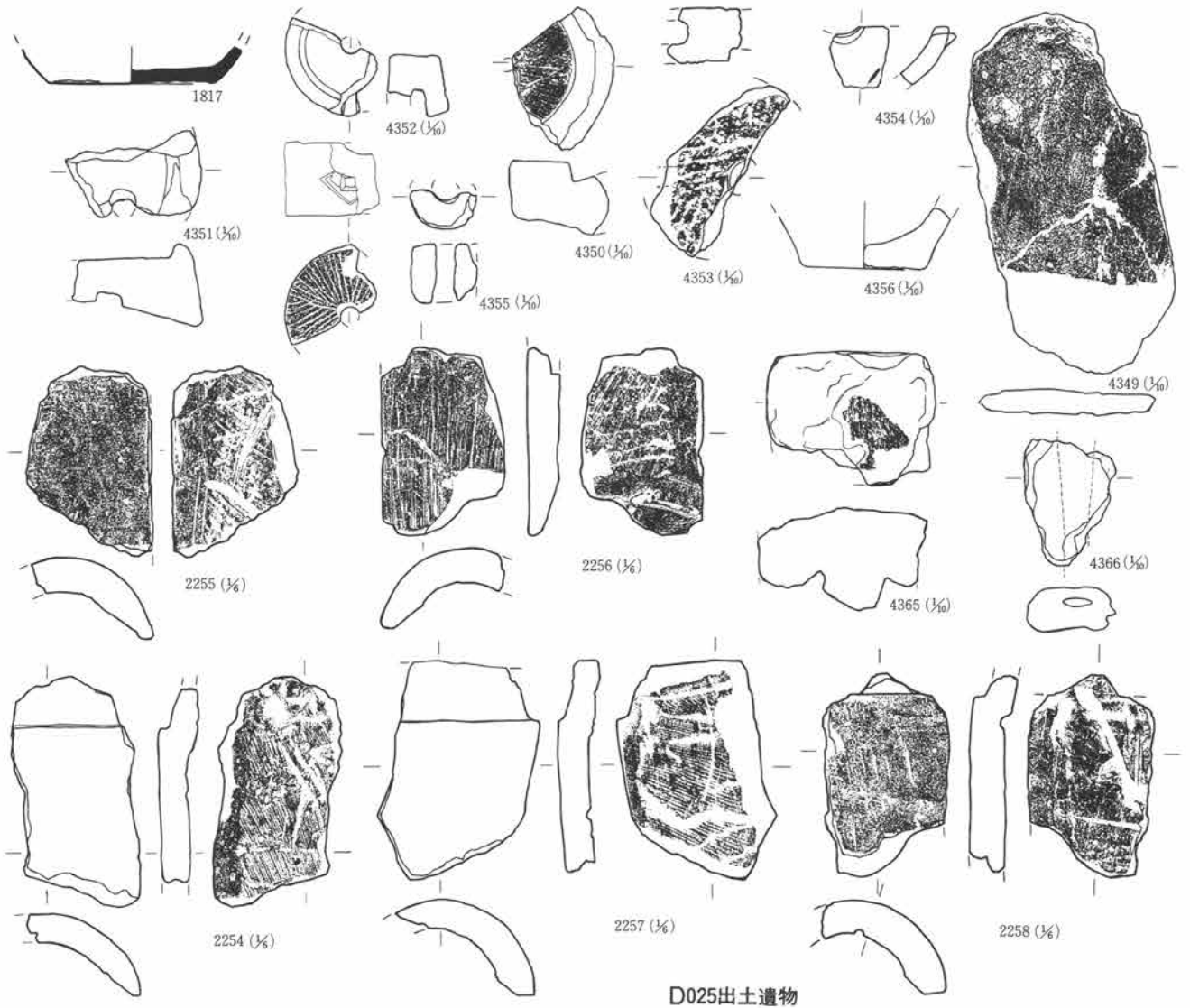
円筒形土坑D016は、上径0.7m深1.0mで、溝M032と重なる。埋土中位に五輪塔地輪(4040)が投棄されていた。やや大きめの円筒形土坑D020は、上径1.0m深1.0mで、井戸跡D018に近接。1.暗褐色砂質土 2.褐色砂質土 しまりない 3.黒褐色粘質土 小礫混じる 4.褐色粘質土 砂少し混じる 上位は人為的な埋土。東端の円筒形土坑D028は、上径0.9m深1.0mで、溝M034と重なる。

大池際の短冊形土坑D017は、東西走向で長2.1m幅1.0m深0.2mを測る。東側の短冊形土坑D022は、長2.1m幅0.7m深0.2mで、同じく東西走向。土師器小皿(1812)が出土。

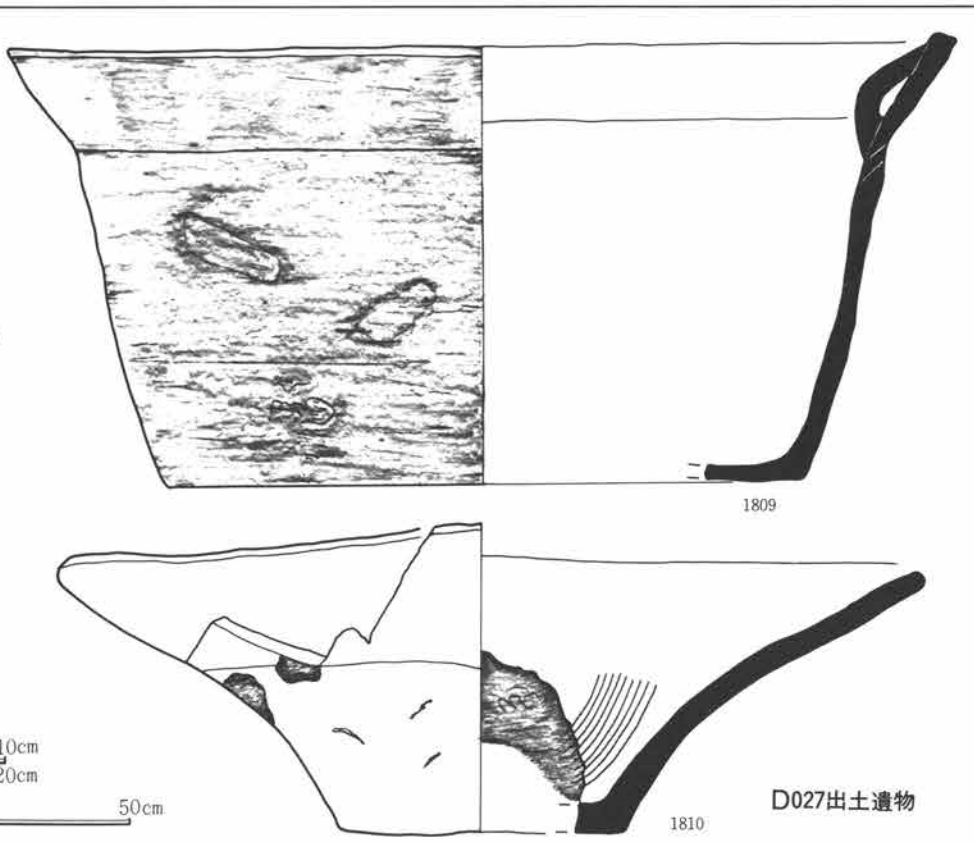
以上のように、この部分は15世紀頃から16世紀頃まで井戸の場所として絶えず使われていたことが、判明した。またその井戸を利用した生活の主体は、瓦葺き建物と関係があった。火鉢や茶臼を使う生活でもあった。板碑や五輪塔による信仰も持っていた。

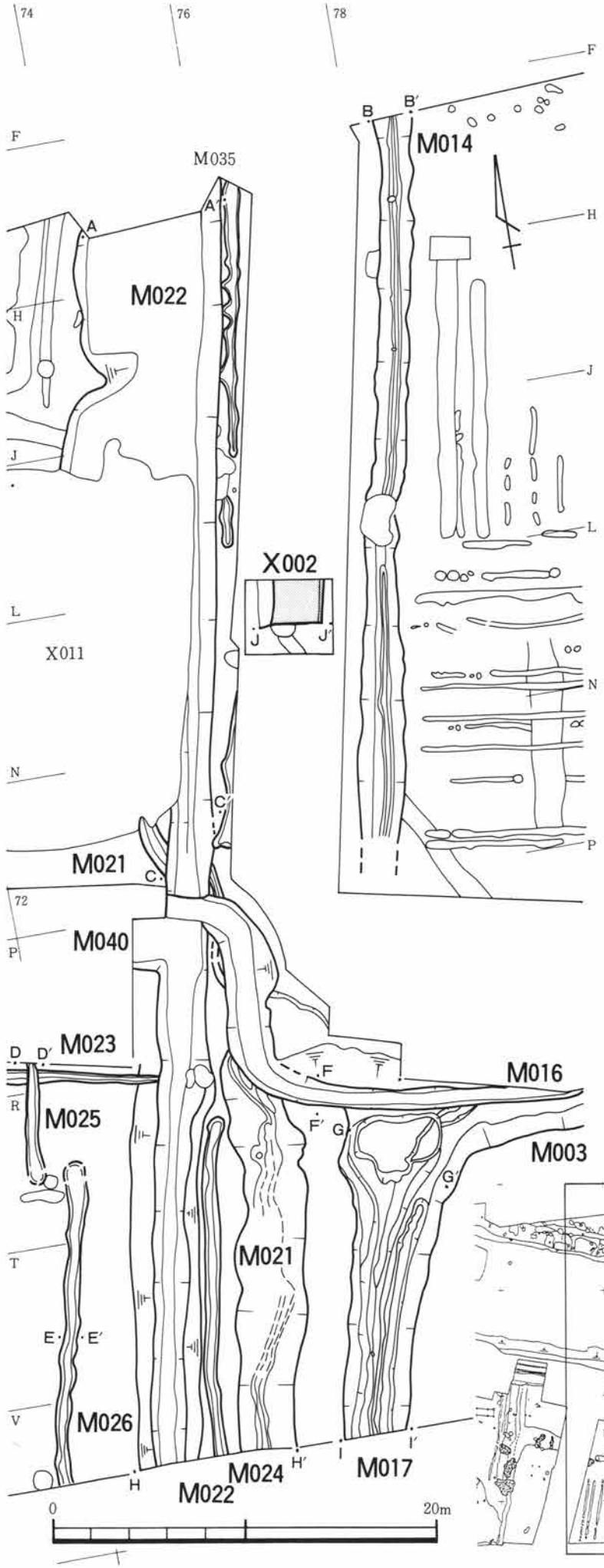
その後、17世紀後半に大池の掘削に伴って、井戸地としての利用はなくなったことが分かる。





0 1 : 3 10cm
0 1 : 6 20cm
0 1 : 10 50cm



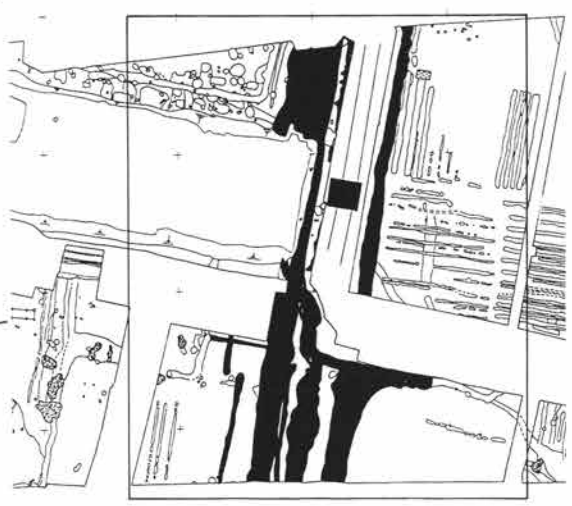


道路跡X002遺構
 東端堀M022遺構
 水路跡M016,021,
 025,026遺構
 道路側溝M014,017,
 024,035遺構
 (PL.13,15,114~117)

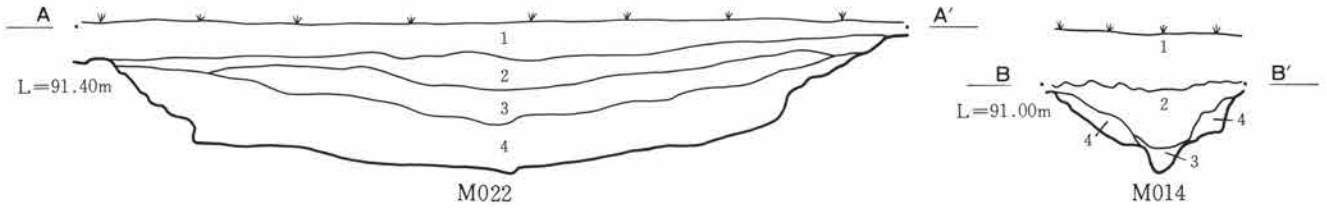
中央部分東端は、字宮東・江竜・六反の境界で、現存道路は三差路をなしていた。ここで以下のような複雑な溝などが検出された。

道路跡X002は、南北方向に走っており、現存の南北道路の下で路面が検出されただけでなく、東西側溝は調査前に水田だった南側の字六反まで続いていた。

路面は現存路面下0.6~0.9mで3面確認され幅2m弱である。最下面は溝M020より新しい。

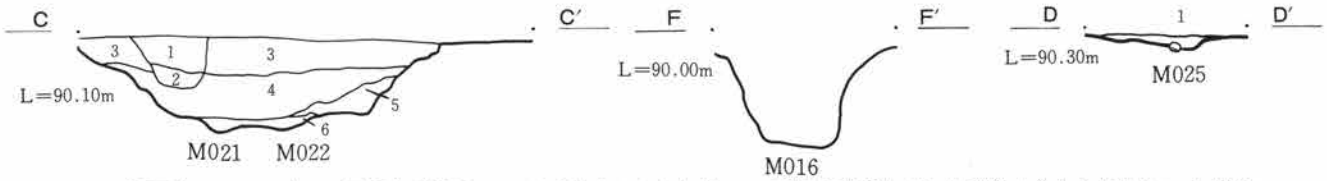


2 中央部分



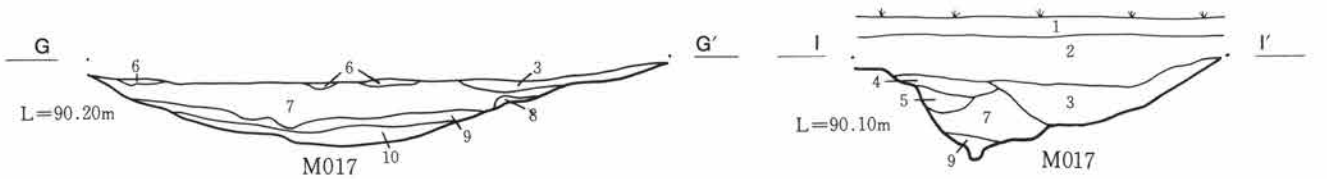
A A'断面 (M022) 1.耕作土 2.暗褐色砂質土 しまりなし 3.褐色砂質土 黒褐色土塊含みしまりない 4.黒褐色粘質土 植物根多く含む泥状

B B'断面 (M014) 1.耕作土 2.暗褐色砂質土 小礫混じりしまり弱い 3.黒褐色砂質土 黄色シルト粒含む 4.暗褐色土シルト質土 地山シルト粒多く含む

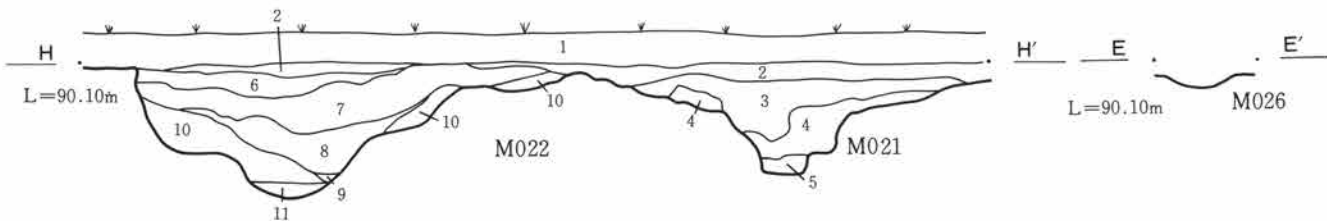


C C'断面 (M021, M022) 1.黒褐色砂質土 シルト土塊含みしまり弱い 2.暗褐色砂質土 砂・小礫多く含みしまりない 3.暗褐色粘質土 シルト土塊・小礫多く含む 4.黄褐色砂 小礫含む互層 下層25cmはシルト質土 5.黒褐色砂 小礫含む 6.灰黄褐色砂礫

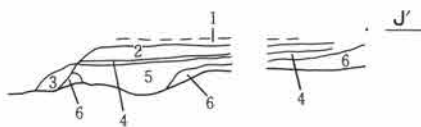
D D'断面 (M025) 1.暗褐色砂質土



G G'・I I'断面 (M017) 1.耕作土 2.暗褐色砂質土 小礫混じる 3.暗褐色粘質土 4.黒褐色砂質土 粘質土・シルト質土塊混在 5.にぶい黄褐色砂質土 砂・シルト質土混在 6.にぶい黄褐色シルト質土 鉄分凝固塊含む 7.にぶい黄褐色シルト質土 砂含む 8.褐色砂 9.黒褐色砂 小礫混在 10.にぶい黄褐色礫 砂混在



H H'断面 (M021, M022) 1.耕作土 2.暗褐色砂質土 3.暗褐色粘質土 4.灰黄褐色シルト質土 下位砂互層 5.黒褐色シルト質土 砂含む 6.にぶい黄褐色シルト質土砂混在 7.暗褐色土シルト質土 砂含む 8.黒褐色シルト質土 砂シルト塊混在 9.灰褐色砂 10.黒褐色シルト質土 礫砂含む 11.黒褐色砂 小礫混在



J J'断面 (X002) 1.暗褐色砂質土 浅間B軽石含みやや軟質、上面が路面 2.茶褐色砂質土版築硬化層 上面が路面で一部小礫を敷く 下層5cmは砂層 3.暗褐色砂質土 溝M020埋土 4.暗褐色砂質土硬化層 上面が路面 5.黒褐色粘質土 浅間C軽石含む 6.褐色粘質土 地山

東端堀M022は、南北走向で65m以上走るが、大池X011北側の上幅7.5m深1.3mで断面U字形に対し、南側は上幅2.5m深1.5mで断面V字形と大きく異なる。その境は、大池と重なった中央部分にあるようであり、現存道路の下では西から来た北側堀M040とT字形に交差している。

II 調査成果

北側に比べ南側は水流痕が明瞭である。遺物(P.164)は、常滑播鉢(1594)・瓦質土器塙(1631)同コネ鉢(1584)また丸瓦(2275)など15世紀前後のものと、肥前系染付湯飲碗(1182)・肥前京焼風染付皿(1575)及び西に10m強離れた井戸跡D021出土と同一個体の瀬戸美濃黒釉壺片(1928-P.158)のように新しいものも見られた。後者はいずれも北側の出土であるため、北側は近世に拡幅され大池への導水路として19世紀まで使われてたのだろう。調査範囲外北側の地割は、同じ幅でまだ25m延びている。また北側西岸に見られるやや突出した部分は、橋構造の跡かもしれない。15世紀頃にM040とほとんど同じ規模で掘られた堀の北側のみが17世紀後半頃に西に拡大されたと考えられる。

水路跡M016は、上幅1.8m深1.3mで断面はU字形。この部分では鍵の手状の特異な走向を示す。西に30m離れた部分でもM040と平行して見られた。(P.117,125) その走向と中島の南側の大池の南岸推定線との交点からの排水溝だろう。掘り込みはしっかりし、埋土中にはあまり砂礫やノロが多くはなかったため、常時多くの水流があったと思われる。

ここからは、比較的多くの遺物が出土した。確実に下層から出たものは肥前陶胎染付碗(1546)だけで、これに対し埋土上層に一括して投棄されていた(PL.115)ものは、肥前染付湯飲碗(1207,09,10,12)・肥前系染付湯飲碗(1208)・同染付蓋(1048,1211)・瀬戸美濃端反碗(1206)・同腰鏝碗(1543)・東北系藁灰釉土瓶(1542)・肥前黒釉油瓶(1545)・瓦質土器焙烙(1756)・同火入れ(1757)そして寛永通宝銅銭(5010AB)・同鉄銭(5100CDE)・砥石(4201,21)があった。他に層位不明で北宋銭1枚(5006)と寛永通宝銅銭8枚・同鉄銭約13枚が出ている。それ以外の竜泉窯系青磁碗片(1023)・須恵質コネ鉢(1760)・同甕(1758)・遠州湖西系灰釉瓶(1548)・瓦(2273)・埴輪(2248)は、混入だろう。18世紀前半が使用開始時期で、幕末には完全に埋没していたことになる。この水路が鍵の手に掘削された時には、道路跡X002はここで東に折れていたことが分かる。

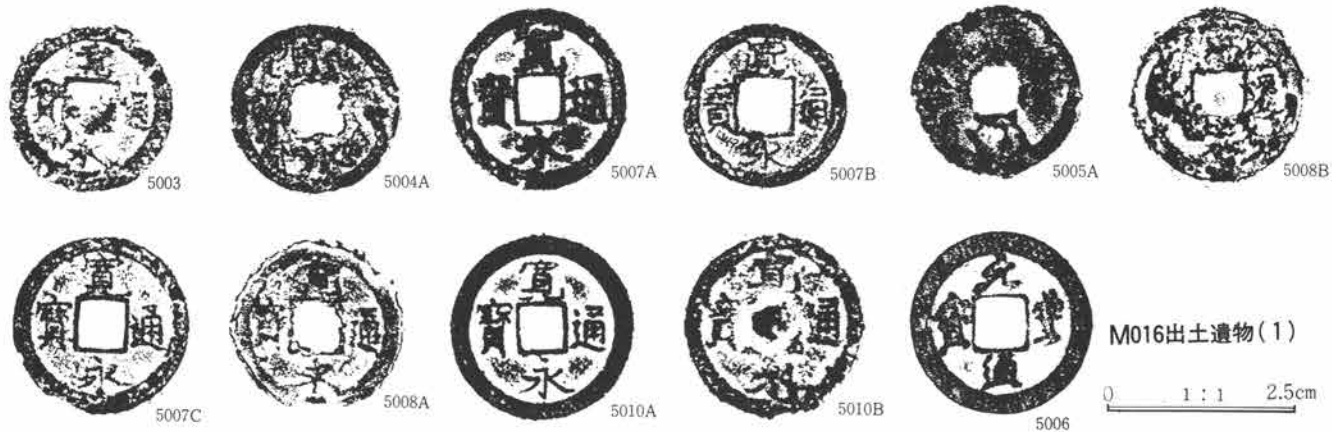
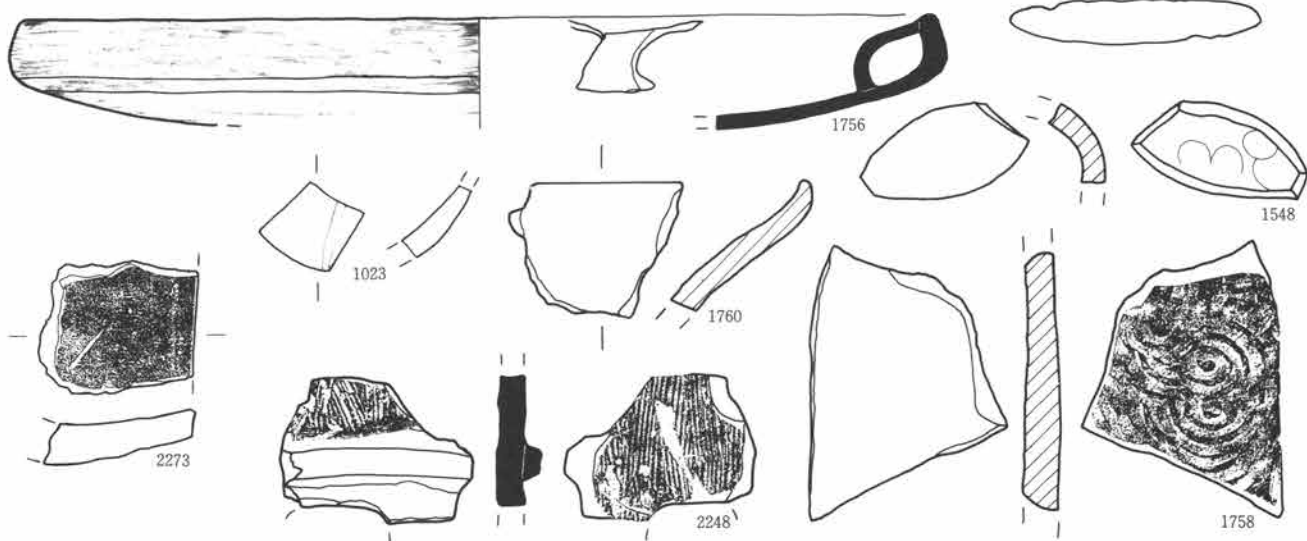
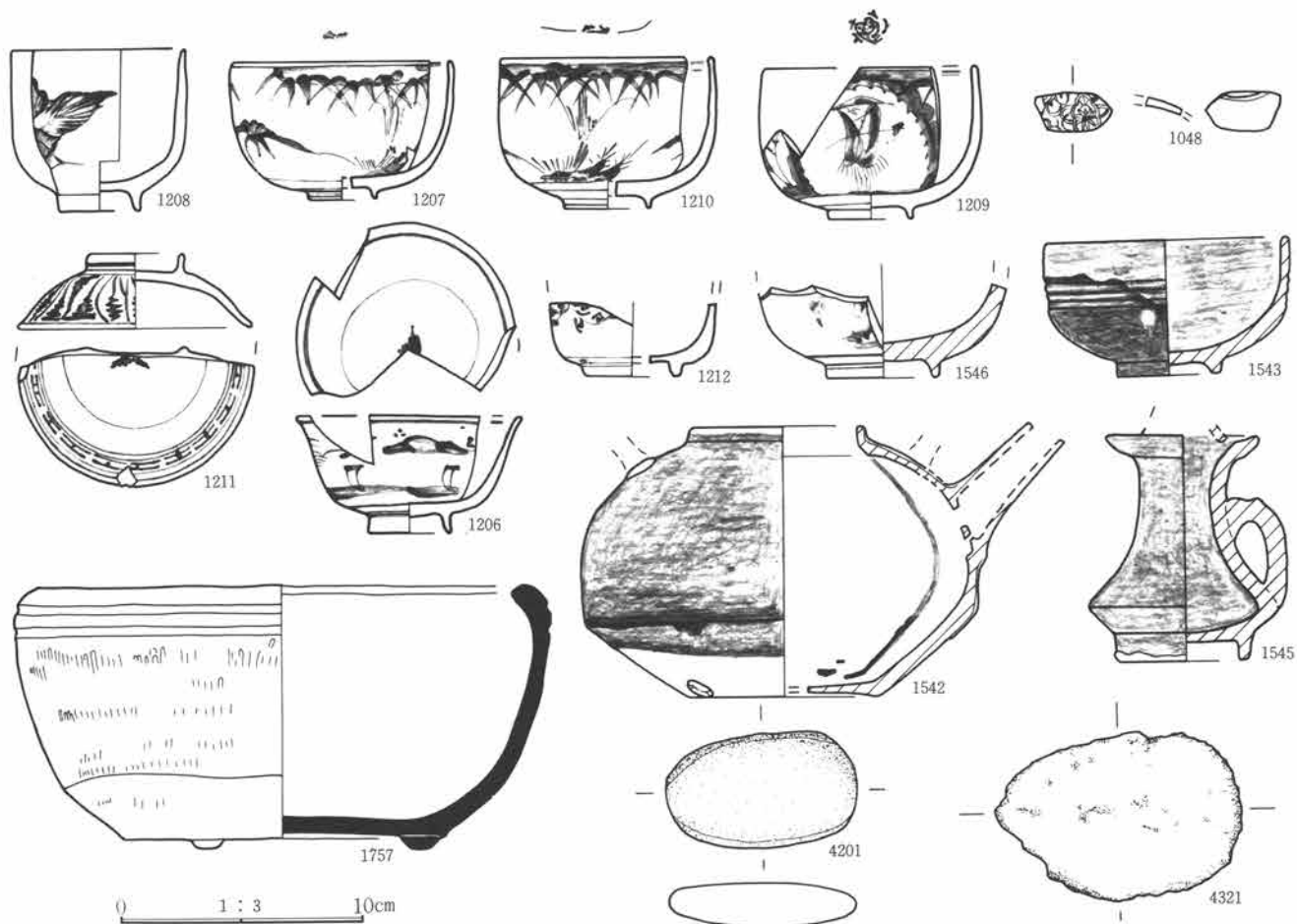
水路跡M021は、大池南東角からの排水溝で、やや蛇行しながら道路跡X002の南側の中央を南に走っている。上幅3.2m深1.3mで断面V字形である。M016と重なった南側のみ良く検出された。遺物は、中世の時期不明の無釉コネ鉢類(1587,1627)などが出ているが、混入の可能性はある。

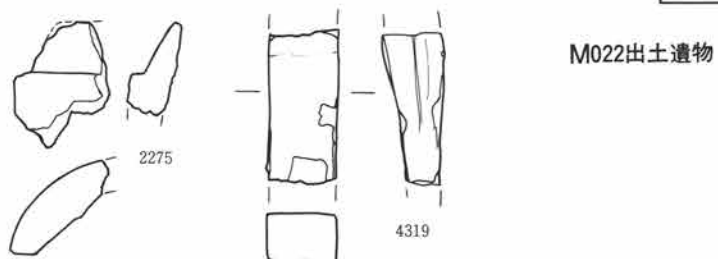
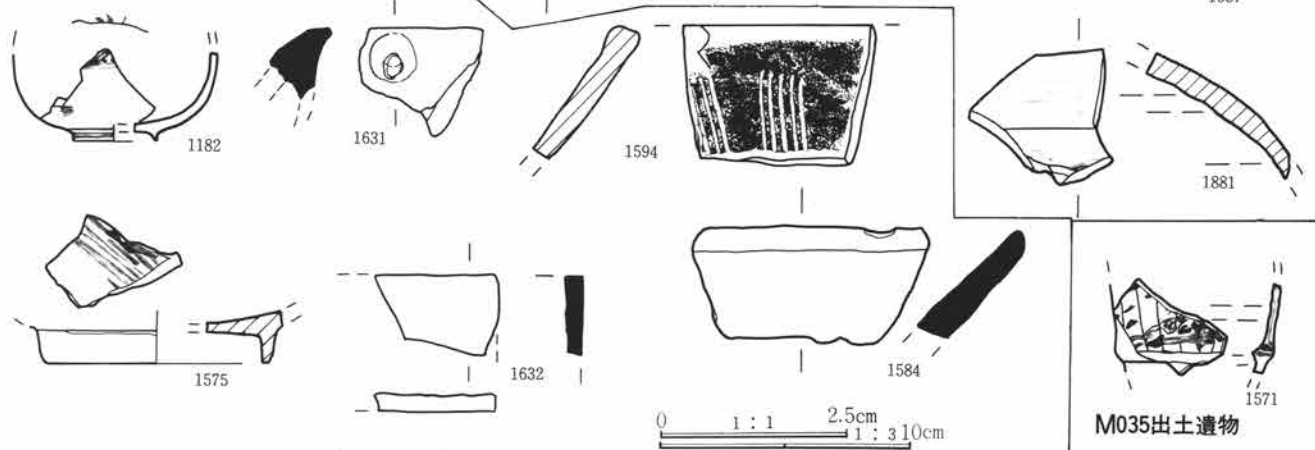
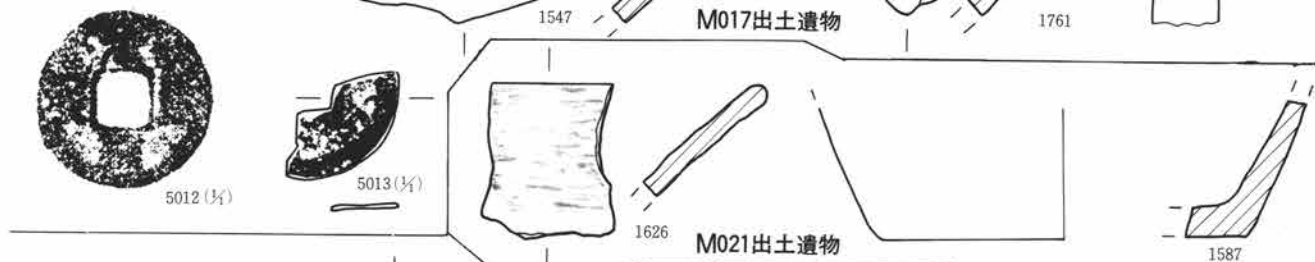
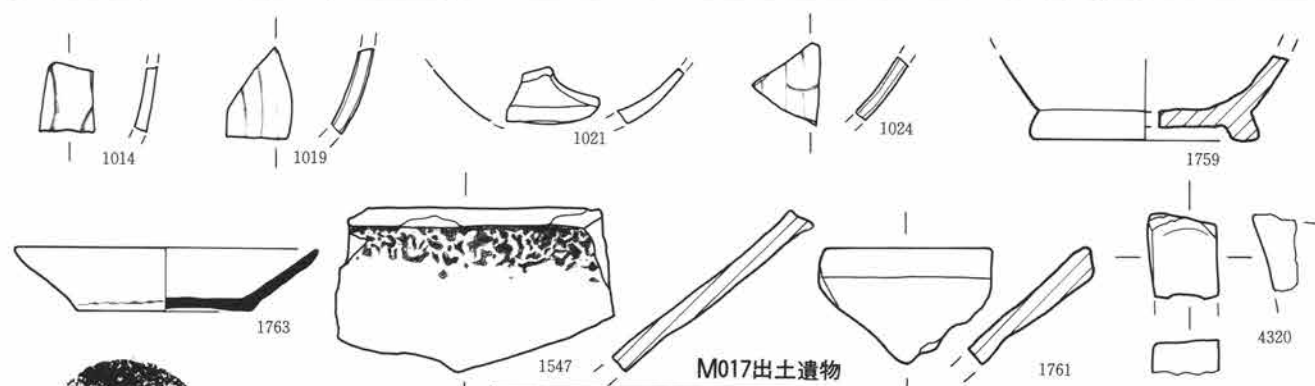
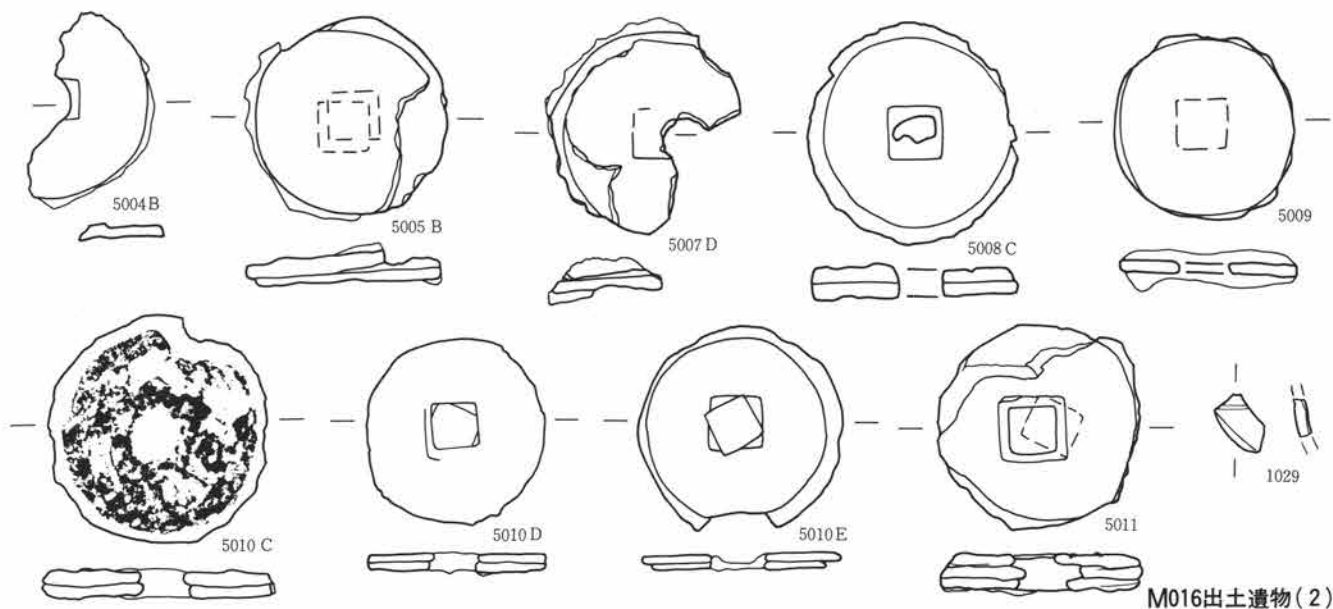
M025とM026は、南北走向の直線的な浅い溝で、上幅0.7m深0.2~0.3m、断面形はU字形である。前者は6m以上、後者は17m以上延び、両者の間隔は1mほどである。水流痕も明瞭でないため、西に7m離れた畠跡N010(P.124)と同様の畠跡の可能性もある。

道路跡X002の東側溝M014は、上幅1.9m深0.7mで断面はV字形。一部で掘り返し痕があるが、砂の堆積は不明瞭。37m以上直線状に延びる。M014の南は現存道路などで不明の15mほどを挟んで、同様のM017が延びる。上幅2.4mほど深0.7~0.9mで、断面はV字形。3回の掘り返し痕があり、北側は東からの溝M003と合流あるいは重複する部分が、上幅が6mほどの皿状落ち込みになっている。M017からは、竜泉窯系青磁碗片(1014,19,24)・白磁碗片(1021)と、4片の中国陶磁片が見られた。また常滑コネ鉢(1547)・須恵質コネ鉢片(1761)・同瓶(1759)・土器小皿(1763)と共に銅銭(5012,13)と砥石(4320)があった。以上により14~15世紀頃の使用年代が考えられる。

西側のM024とM035は、確認面では上幅0.6m前後深0.1mほどの浅い溝。後者は層位的には道路跡の第二次路面より新しく、近代の練上げ湯飲み(1571)が出土した。東側の側溝に対応するのはM022であろう。

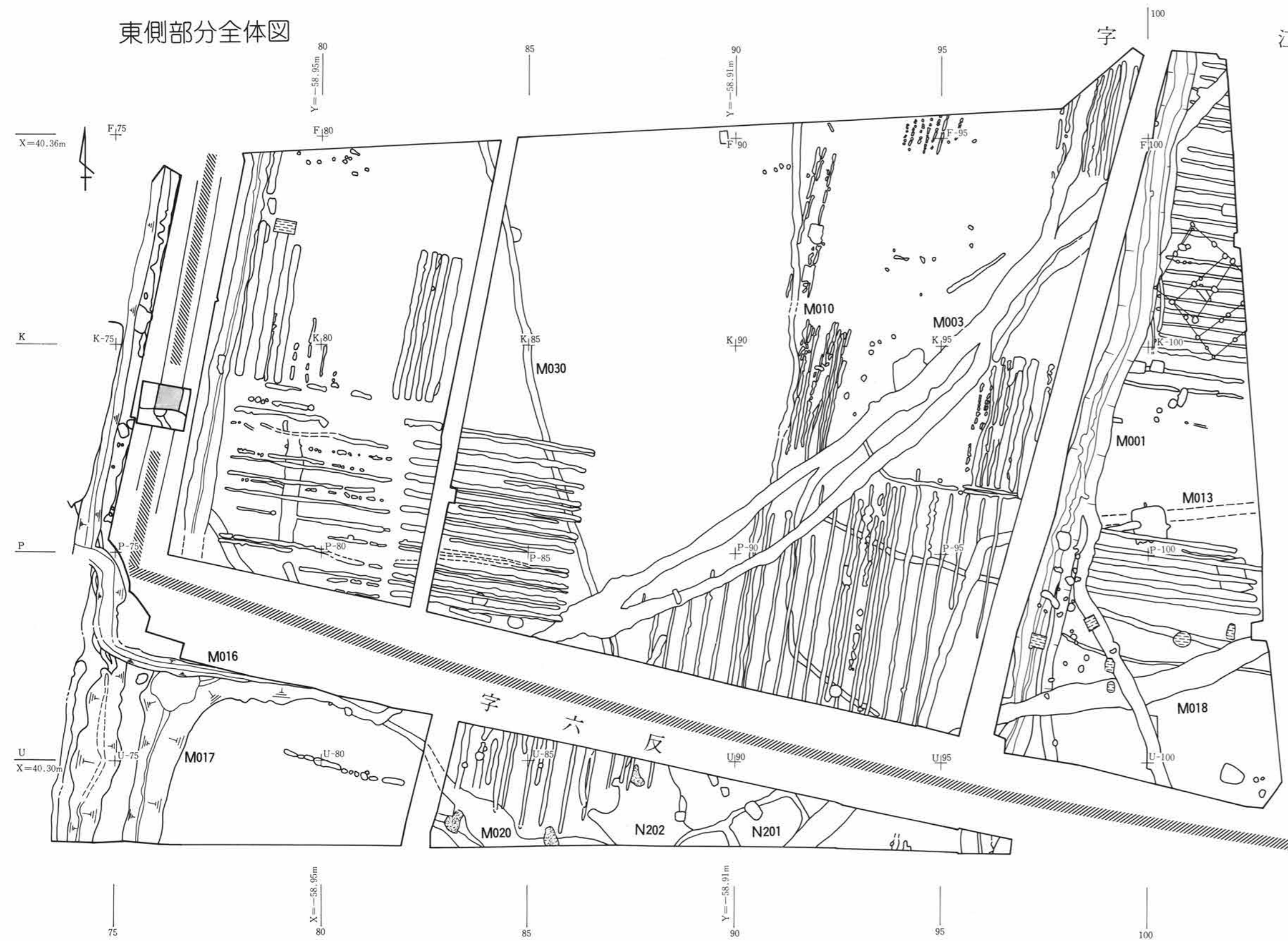
以上の各遺構の新旧関係は、M022→X011・M021→M016、M040→M016、(M003)→M017→M016、M023→M025となる。まとめれば古代起源の水路M003(P.183)の一部を利用して、北側堀M040と関係する南北道路の側溝が14~15世紀頃作られる。17世紀後半の大池の掘削に伴い西側溝の北側は拡幅され、排水溝が掘られ、道路は鍵の手に東に方向を変える。そして18世紀前半に南から東へ導水方向を完全に変えた水路M016が形成され、約1世紀利用されたことになる。





0 1:1 2.5cm 1:3 10cm

東側部分全体図



江



3 東側部分

《 概要 》 (PL.1,118)

この部分は、南北走向道路X002の東側から調査範囲東端の江竜川際までで、東西210mほど南北は70~80mである。大部分は字江竜(えりゅう)だが、西から東に走る現存道路の南側は字六反(ろくたん)にかかる。

調査前の状態は、南北の現存道路の西側が水田で、東側は畠地であり、この道路に面し2軒の人家があっただけである。地山は暗褐色のシルト質土で、溝埋土などに最大30cmの浅間B軽石の一次堆積が見られる。

検出された遺構は、東端側で南北に流れる江竜川の旧河道3本があった。その西は、広大に広がる近世の畠跡の下から、複雑に走る中世と古代の水路、そして小規模な古代の水田跡と集落が確認された。水に関係する旧河道M103, M201, M202と中世水路M001・古代水路M003が、この部分の景観を形成している。

全体としては、古代には水辺の居住域と小規模な生産域、中世には水路そして近世には広大な生産域と変化した。検出遺構は次のように多様だが、特に畠跡が多いことは注目に値する。

溝類(M)	旧河道	4条
	大水路跡(70m以上)	6条
	水路跡	47条
居住(J)	掘立柱建物跡	5棟
	竪穴住居跡	14棟
土坑類(D)	井戸	4基
	短冊形土坑	5基
	その他土坑	70基
耕作地(N)	畠跡	25箇所
	水田跡など(含む池湿地)	3箇所
その他(X)	道路跡	2条
	製鉄炉跡	1箇所
	小皿廃棄場跡	1箇所

なお、旧河道の一つは古墳時代前期~後期のもので、自然遺構だが同時代では唯一検出されたものである。また縄文時代の遺物が数基の土坑から少し見られているが、同時代の遺構かは断定できない。調査は南北走向の現存道路を境に別個に行った。報告は、新しい順に西から行う。

畠跡N005~N009遺構 (P.168 PL.119)

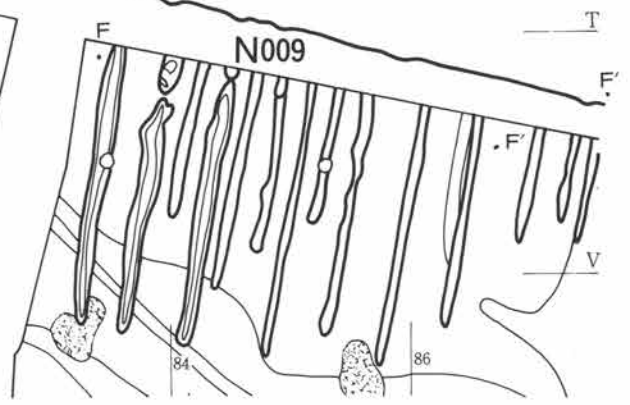
畠跡N005は、東西走向のサク痕が19条、耕作単位は17×17mの289㎡。サクは大小2種類が重なるが、大きいものは間隔1.2m上幅0.3~0.4m深0.6~0.7m。1.灰黄褐色粘質土 シルト土塊含みしまりない 2.明黄褐色砂質土 黒褐色土塊含む 3.灰黄褐色粘質土 黒褐色土塊多く含む 肥前染付皿(1216)・同三島手皿(1607)そして関西系白化粧徳利(1606)が出土しており、18世紀後半~近代の使用時期が考えられる。14~15世紀の瀬戸美濃灰釉碗(1037)は混入。鉄滓(5011)もあった。

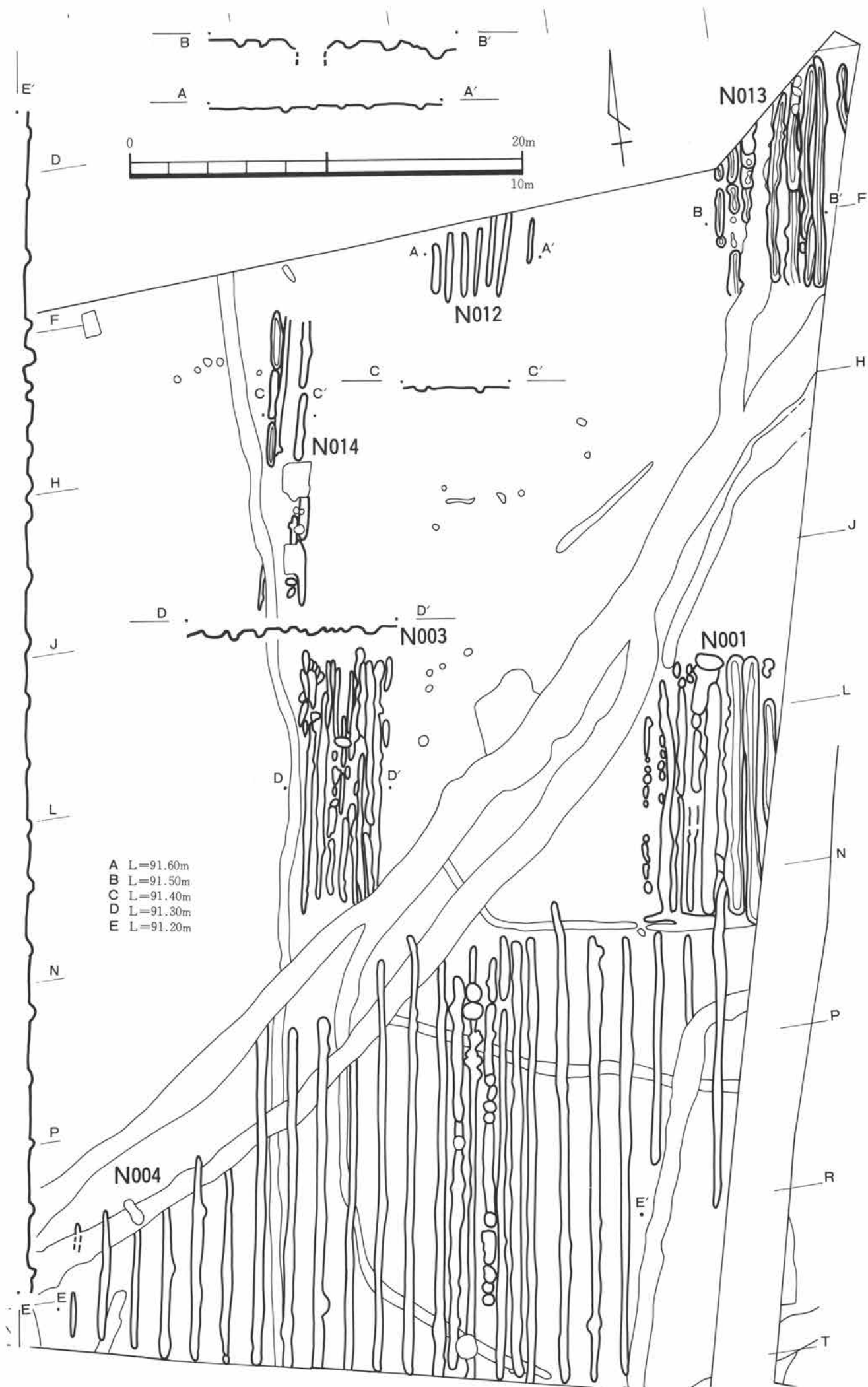
畠跡N006は、南北走向のサク痕が6条、耕作単位は17×4mの68㎡。サクは大小2種類が重なるが、大きいものは間隔0.4~0.6m上幅0.5m深0.3~0.4mで、断面形は方形。1.暗褐色砂質土 黒褐色土塊含みしまり弱い 2.黒褐色粘質土 ローム塊含みしまり弱い 個々のサクは、長大な短冊形土坑と見えなくもない。南側のN005との間に2.2mほどの空間。18世紀中頃の瀬戸美濃鉛釉徳利(1610)が出土。

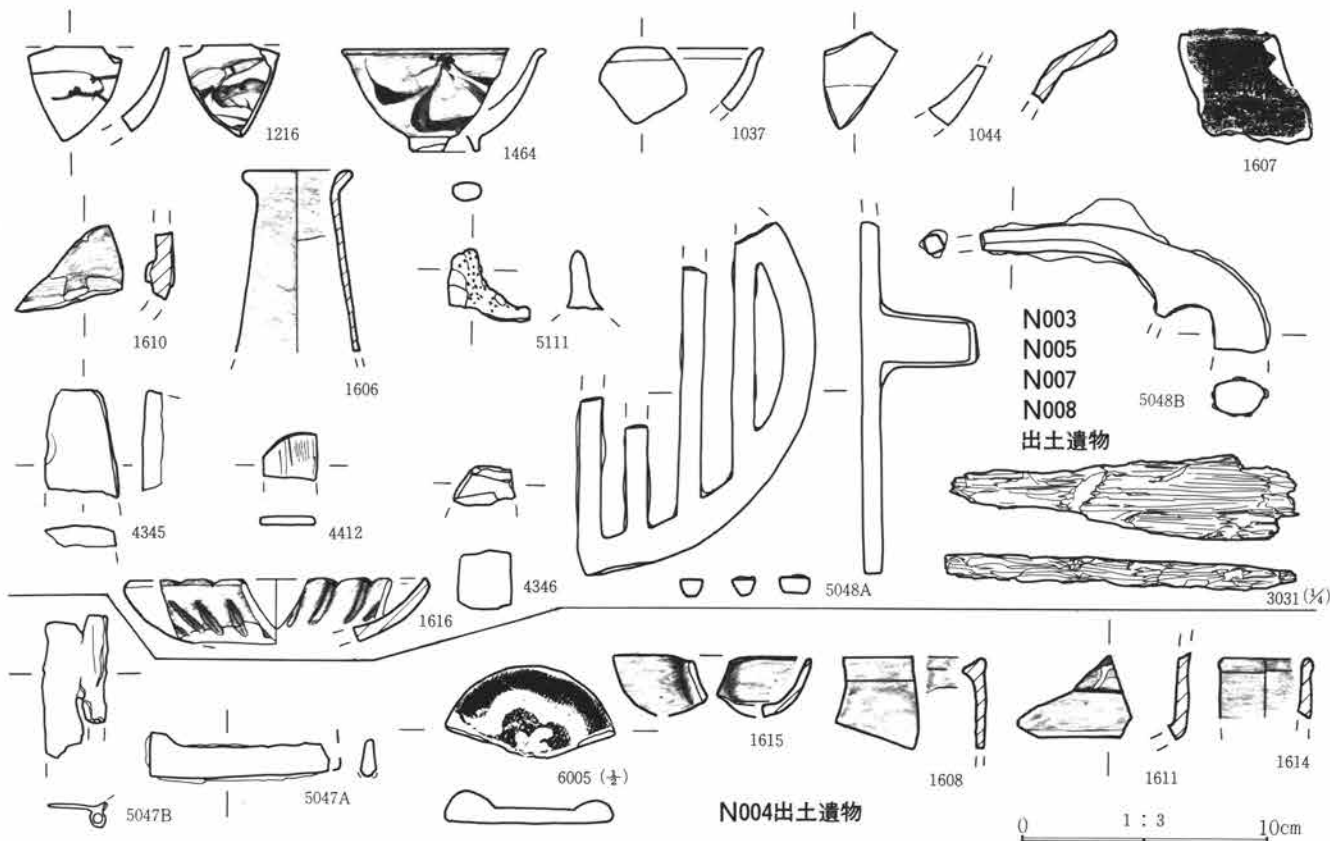
畠跡N007は、南北走向のサク痕が大小7条、耕作単位は大が17×4.5mの77㎡。小が10×5.5mの55㎡。



- A L=90.80m
- B L=91.10m
- C L=90.90m
- D L=90.80m
- E L=91.00m
- F L=90.70m







大は間隔0.9~1.1m上幅0.6m深0.6mほどで断面形は方形。4条は2条単位で作られ重なっている。小は間隔約2m上幅0.2mで浅い。1.暗褐色砂質土 黒褐色土塊含みしまり弱い 2.灰黄褐色砂質土 黒色土塊と小礫含む 北に2.2m離れて大と同様のサク1条がある。1.耕作土 2.にぶい黄褐色砂質土 しまり弱い 3.灰黄褐色砂質土 黒色土塊と小礫含む 鉄五徳(5048AB)・砥石類(4345,4412)そしてスギ板材(3031)が見られた。

畝跡N008は、東西走向のサク痕16条、耕作単位は19×17mの323m²。間隔は1.5mほどで上幅0.2m深0.1m。1.にぶい黄褐色砂質土 鉄分・浅間B軽石含む 同一単位内で2種のサクが重なる。東のN005との間に約1mの空間。幕末明治前期の関西系青磁鉄絵盃(1464)が出土。竜泉窯系青磁碗(1044)は混入。

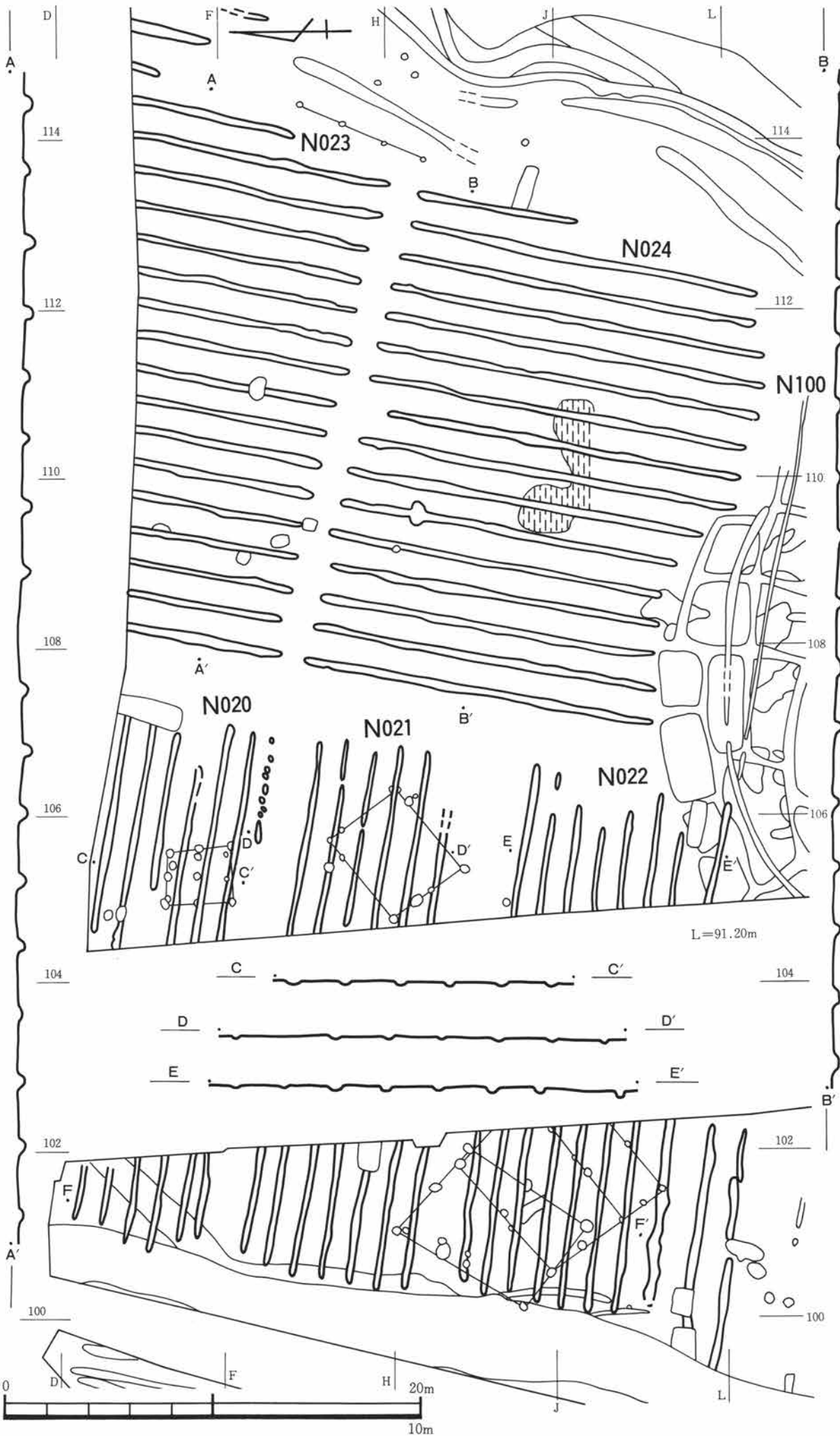
畝跡N009は、南北走向のサク痕15条、耕作単位は18×9m以上で162m²以上。2種以上重なるが、間隔は約1~1.5mで上幅約0.3m深約0.2m。

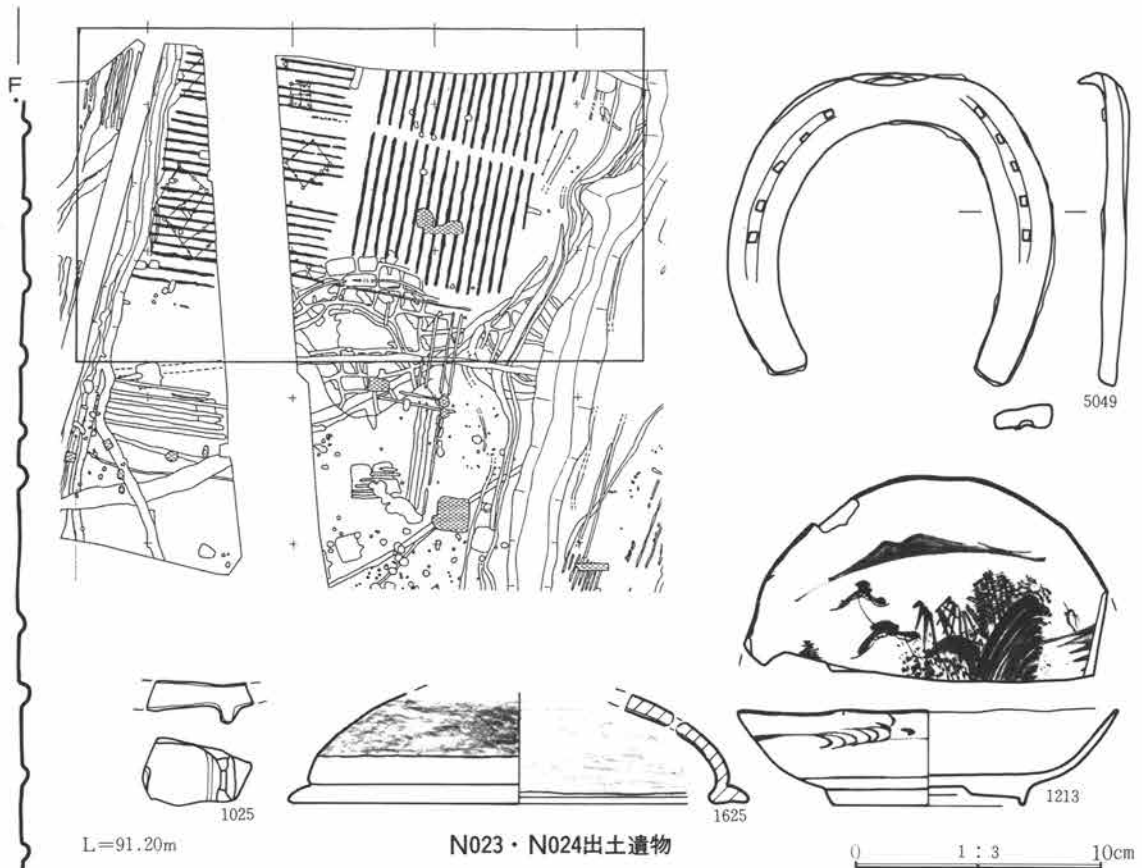


畝跡N001, N003, N004, N012~N014 遺構 (P.169図 PL.15,120,121)

畝跡N001は、南北走向のサク痕が9条ほど集中。耕作単位は13×7m以上で91m²以上。狭い間隔で上幅約0.3mと約0.6mのものが重なる。深はいずれも約0.2m。

畝跡N003は、南北走向のサク痕が9条集中し、耕作単位は13×4mで72m²。間隔は狭く、上幅約0.3m深約0.2m。17世紀中頃の瀬戸美濃菊皿(1616)と砥石(4366)が出土。





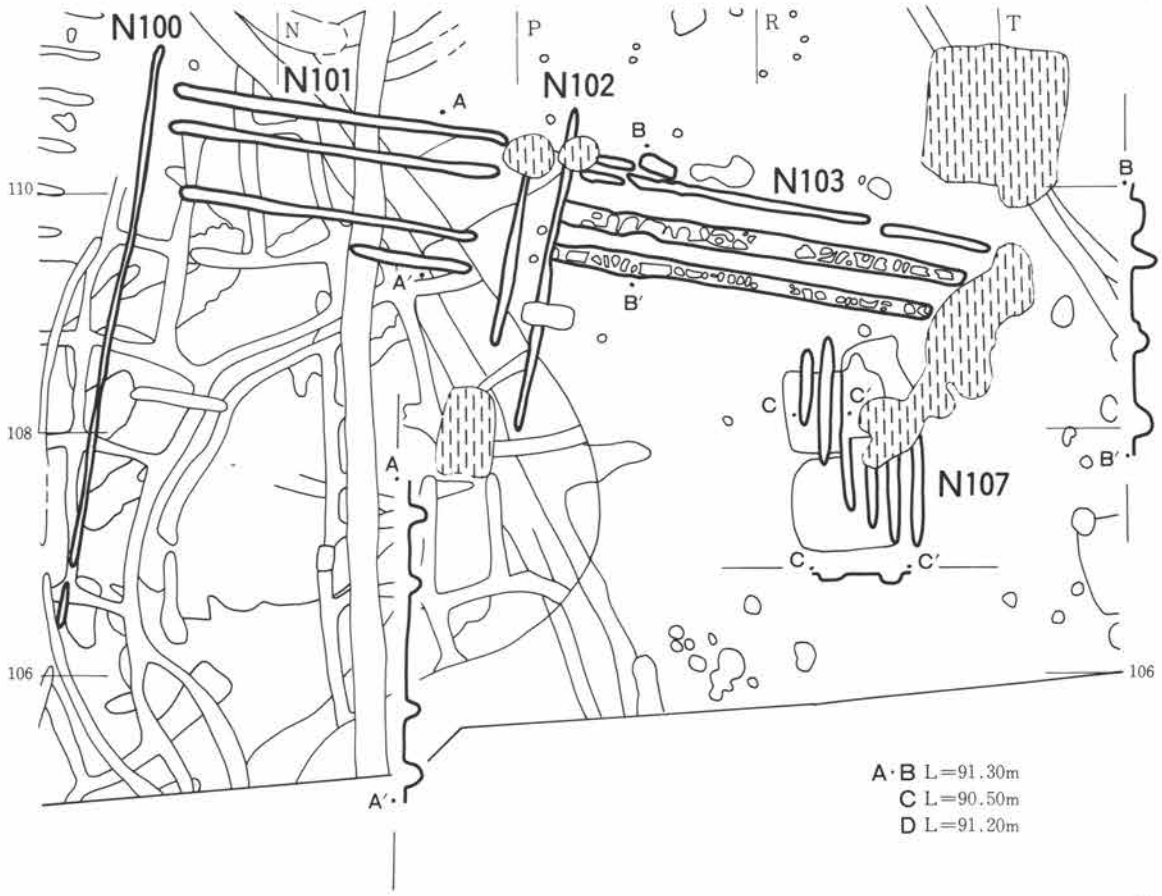
畠跡N004は、南北走向のサク痕が25条以上。検出は北西側があまり十分ではなかったが、本来方形の耕作単位で33×22m以上の726㎡以上と推定。中央で一部狭い間隔のものが重なるが、主体は1.2mの間隔で上幅0.3m深0.2mのもの。瀬戸美濃灰釉型打皿(1615)・同飴釉香炉(1608)・同錆釉徳利(1614)・関西系象嵌湯飲碗(1611)・火打金(5047)・ガラスおはじき(6005)などが出土。18世紀後半～近代の使用時期が考えられる。

いずれも南北走向で、畠跡N012はサク痕が7条。耕作単位は5×4m以上で20㎡以上。間隔約0.5mで上幅0.2m深約0.1m。畠跡N013はサク痕が8条。耕作単位は12×7m以上で84㎡以上。間隔0.5m上幅0.4m深約0.2mのものが、2種類重なった状態。畠跡N014はサク痕が3条。耕作単位は15×2mで30㎡。1.2mの間隔で上幅0.2m深0.2m。南のN003との間に2m幅の空間がある。

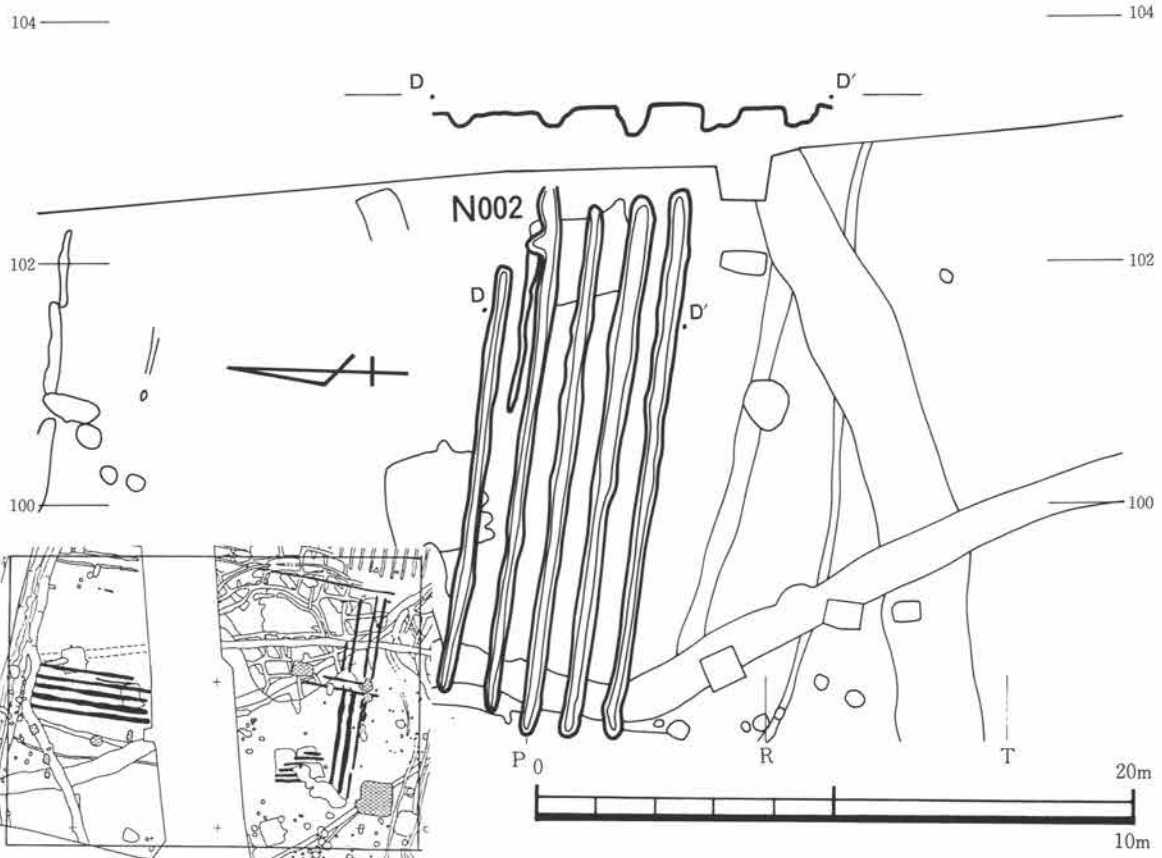
畠跡N020～N024遺構 (P.171図 PL.15,120,121)

いずれも東西走向で、畠跡N020はサク痕が7条。耕作単位は25×8m以上で200㎡以上。間隔1.0mで上幅0.2m深0.2m。畠跡N021はサク痕が7条。耕作単位は26×8m以上で、208㎡以上。間隔は北側のN020と同様で、2mほどの空間がある。畠跡N022も7条のサク痕よりなる耕作単位で、南側に同規模のサク痕3条が付随。N021との空間も約2m。

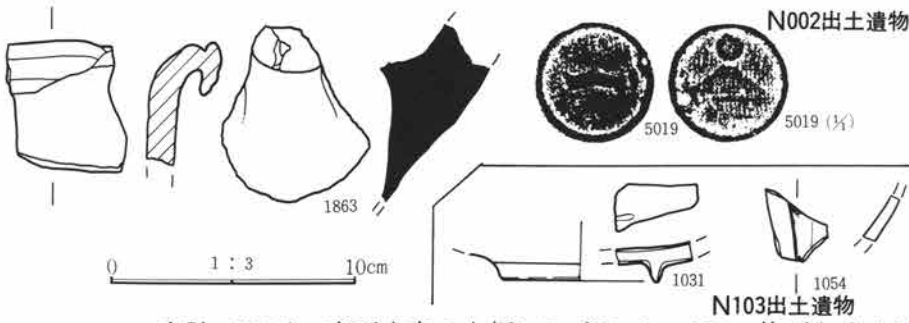
いずれも南北走向で、畠跡N023はサク痕が20条。耕作単位は30×18m以上で540㎡以上。間隔は約1.2mで上幅0.3m深0.2m。西側のN020との間に約3.5mの空間があり、南西角側に未検出の部分がある。鉄馬蹄(5049)が出土。畠跡N024は、サク痕が16条。耕作単位は23×18mで414㎡。周囲との空間は北側が1.2m、西側が3.0m前後、南側が約2.2m。肥前染付輪花皿(1213)・関西系飴釉行平蓋(1625)そして竜泉窯青磁碗(1025)が出土。近代が使用の中心だろう。



A·B L=91.30m
 C L=90.50m
 D L=91.20m



II 調査成果



畠跡N002, 100~103, 107遺構 (PL.15,120,122)

畠跡N002は、東西走向のサク痕が5条。耕作単位は18×6m以上で108m²以上。間隔は約0.8mで上幅0.5m深0.5m。昭和17年銘アルミー銭(5019)などが出土。

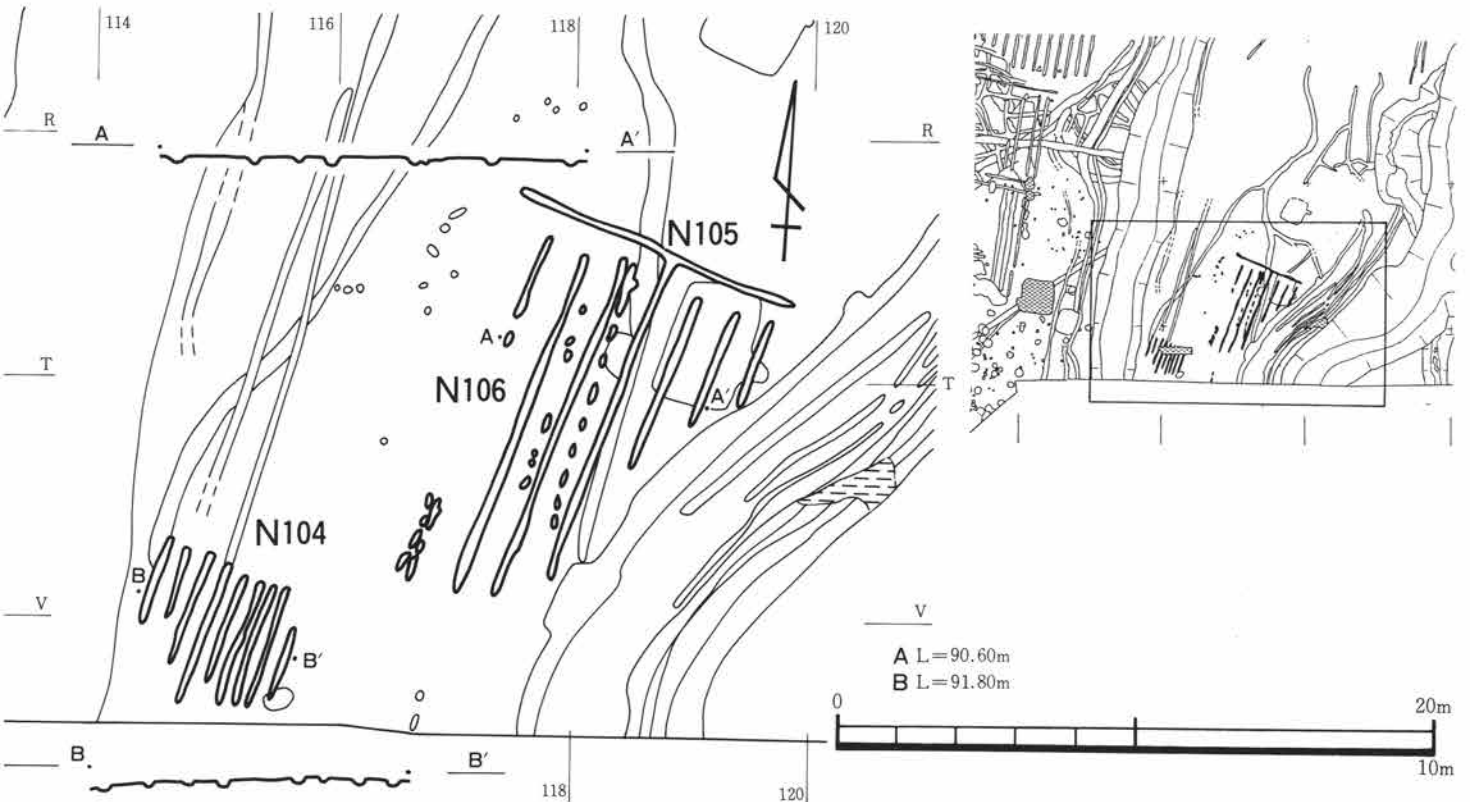
畠跡N100は、東西走向の上幅0.2m深0.2mで20m伸びたサク1条。畠跡N101は、南北走向のサク痕が4条。耕作単位は11×5mで55m²。約0.8mの間隔で上幅0.3m深0.2m。北側のN100との空白は約0.5m。畠跡N102は、東西走向のサク痕2条。耕作単位は11×1.5mで17m²。畠跡N103は、南北走向2種類のサク痕4条。耕作単位は14×4mで56m²。東側の2条は間隔は狭く、西側の2条は0.8mの間隔で上幅0.5m深0.3m、底は根痕が連なる。竜泉窯系青磁碗片(1031,54)が出土。

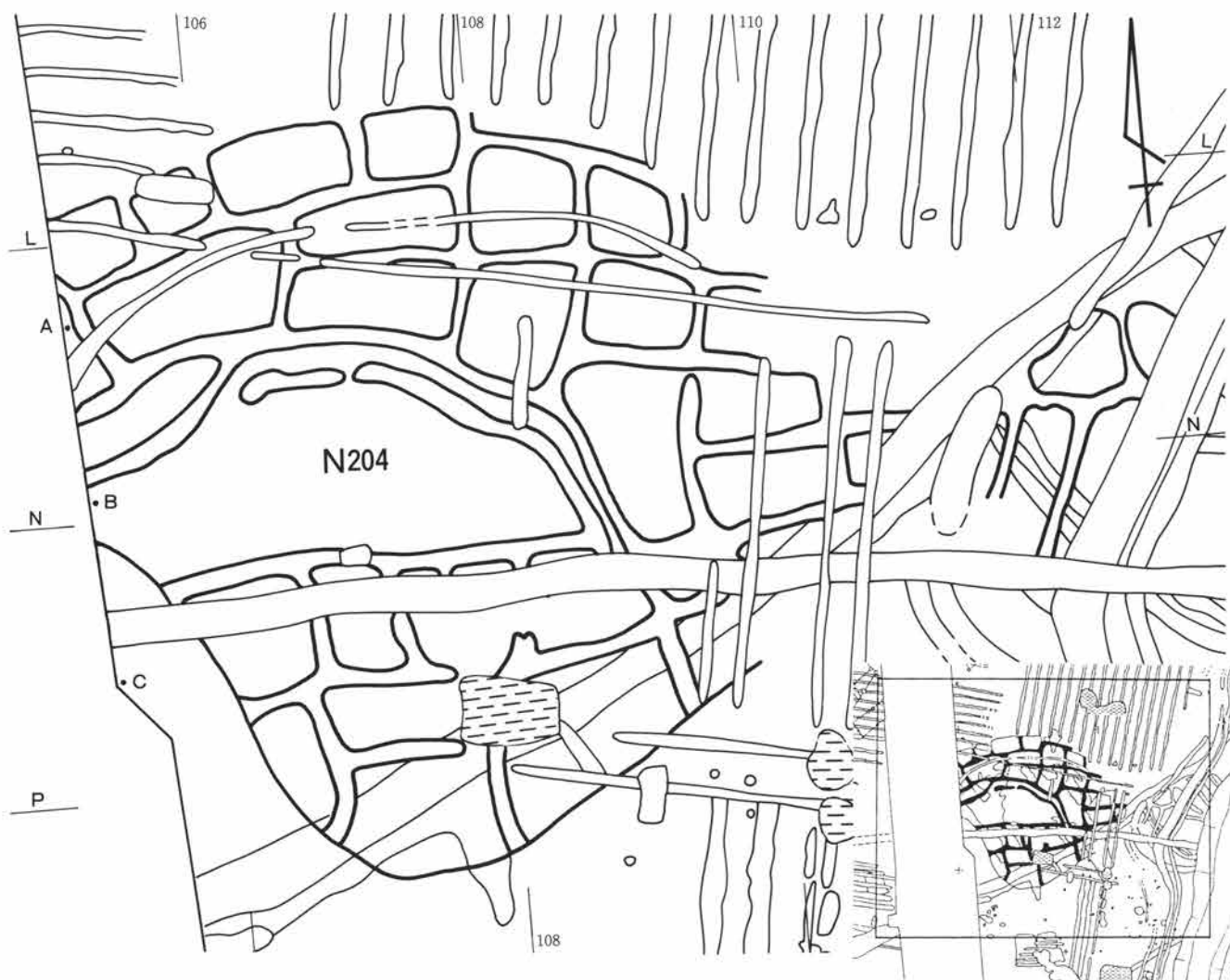
畠跡N107は、浅間B軽石下の東西走向のサク痕6条。耕作単位は7×4mで28m²。間隔0.5mで上幅0.3m深0.2m。走向は他とは異なる。同じ軽石下から検出された北側の水田跡N204まで7mの空間。

畠跡N104~N106遺構 (PL.122,123)

畠跡N104は、10mの東西走向のサク痕1条。畠跡N105は、南北走向サク痕2種10条が重なる。耕作単位は12×8mの96m²。共に間隔1.0m強、上幅0.2m深約0.1mだが、3条は根痕が連なった状態。北側のN104まで約1mの空間。畠跡N106は南北走向サク痕9条。耕作単位は5×5mの25m²、間隔約0.4m上幅0.2m深約0.1m。

☆ 遺物より大部分が18世紀後半~近代の継続的使用が判明。N003などの間隔の細かいものは17世紀中頃まで上がる可能性。N005, N008, N024, N103からの中国陶磁中心の中世遺物出土は要注意。N107は12世紀初頭。

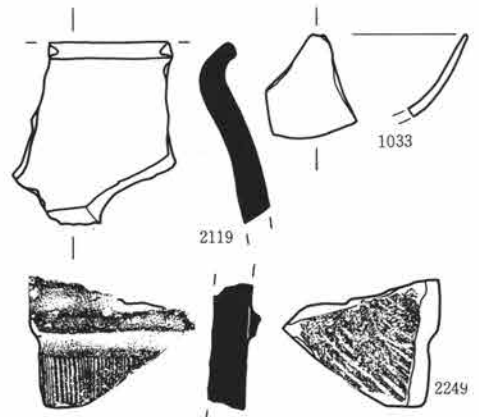




水田跡N204遺構 (PL.5,123)

浅間B軽石の直下で確認。上層には畝跡や溝が乗っている。32×22mの範囲で、高5cm上幅20cm下幅30~40cmの畦状の高まりが軽石下で検出された。それらに囲まれた区画は、中央の14×5mの半円形区画を除いて、最小で2×2m、最大で5×3m程度のものが約27個ほど。半円形区画は、北東外側に幅40cmほどの水路状の部分が巡っている。そこから南側の区画には、水口状の切れ目が畦に見られる。

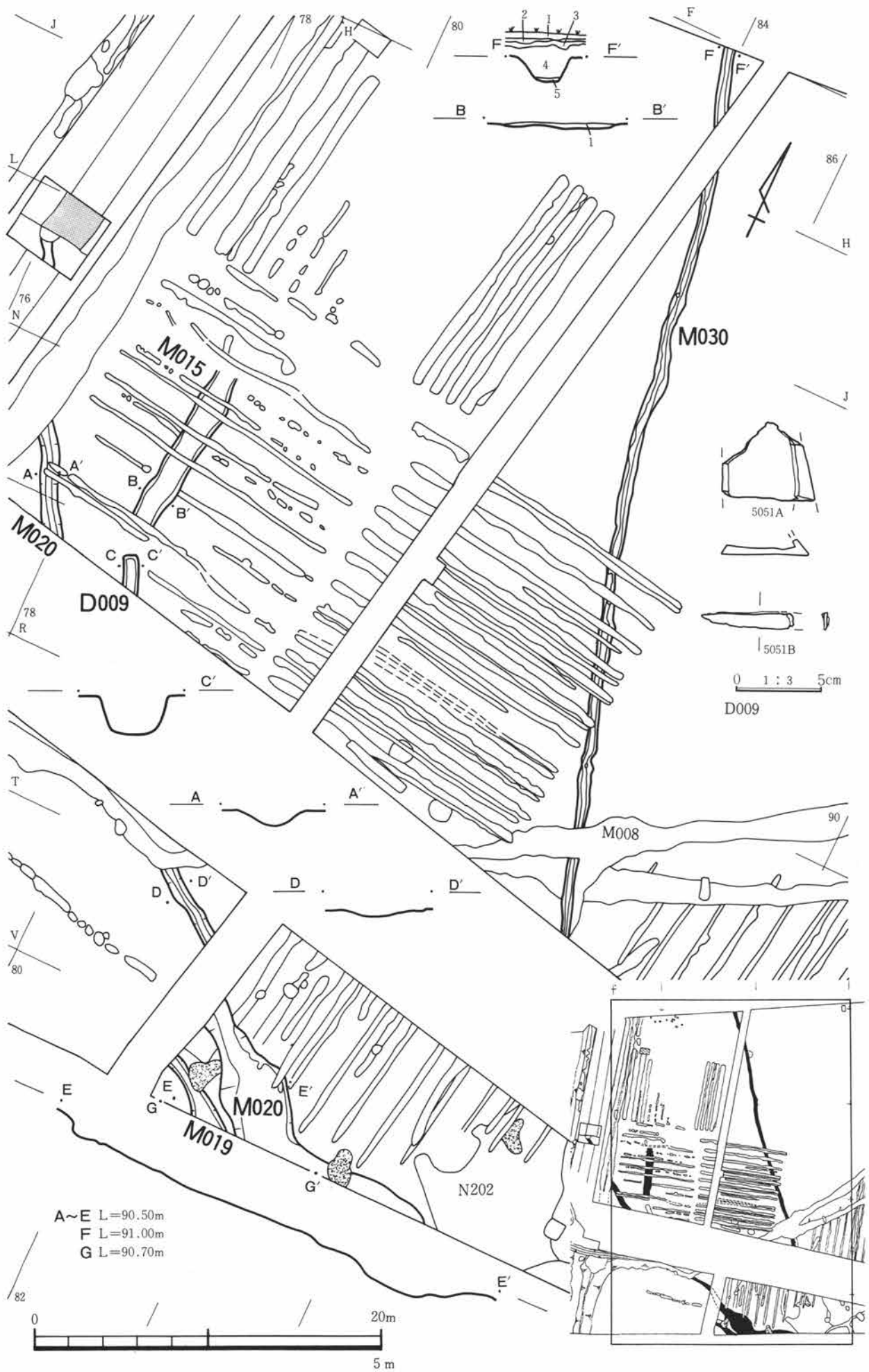
ただしこの水田部分と直接つながる水路は、全く確認されていない。南に7m離れて同じ軽石の下で確認された畝跡N107がある。そのため、この水田は検出した以上に大きく広がる可能性はなく、周囲から僅かに低い小さな窪地に営まれたことになる。

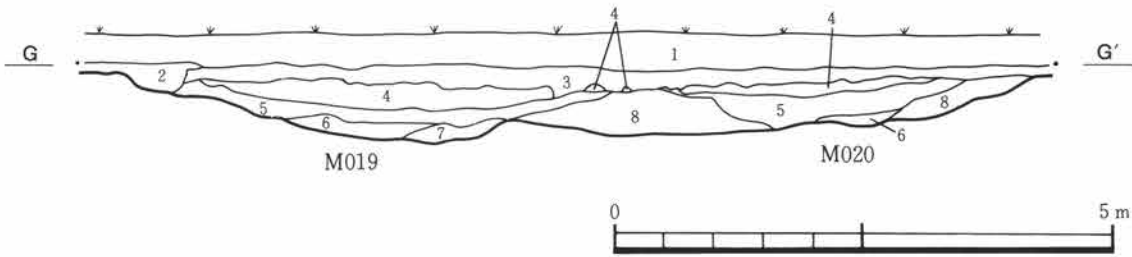


N204
出土遺物



B軽石下の水田耕作土は黒みが強くグライ化していないため、短期の耕作であろう。そこから検出のイネのプラント・オパール個数は1,200~3,000/cc程度でタケやウシクサの方が多かった。(分析報告参照) 土師器釜片(2119)が出土。他に周辺から肥前白磁小碗(1033)・埴輪片(2249)が見られた。





水路跡M015, M019, M020, M030 遺構 土坑D009 遺構
(P.176図 PL.124,125)

水路跡M015は、上幅1.5m深約5cmで南北方向に10m走る。B軽石降下後の水路。畠跡N008より古い。1.褐色砂質土 二次堆積の浅間B軽石と砂混在

水路跡M020は、道路跡X002の下から南東方向にやや蛇行しながら55m以上走る。底幅1m弱深0.7mで、南東側でほぼ同規模のM019が平行する。共に断面U字形。二つの水路は、本来一つの大きなものが埋まった後に掘り返され、B軽石の降下時にはすでに機能しなくなっていた。大水路跡M003より古い。1.現水田耕作土・床 2.褐色砂質土 しまりやや弱い 畠跡N009埋土 3.暗褐色砂質土 4.浅間B軽石 5.黒褐色粘質土 粘性強い 6.暗オリーブ褐色砂質土 下面に砂含む 7.暗褐色砂質土 砂・小礫含む 8.暗褐色シルト質土 砂互層堆積

水路跡M030は、北北西から南南東に60m以上ほぼ直線状に走り、水田跡N202に入る。上幅0.8m深0.4mで断面はU字形。B軽石降下時には完全に埋没。大水路跡M003より別れたM008より古い。1.現水田耕作土 2.現水田床 3.浅間B軽石 4.黒褐色粘質土 5.褐色砂 やや凝固

短冊形土坑D009は、長2.2m以上幅0.8m深0.4m。鉄製農具(5051A)同刀子類(5051B)が出土。近世以降。

池跡N201 遺構 湿地N202 遺構 土坑D005～D007 遺構
(P.178図 PL.125,126)

池跡N201は、大水路跡M018の北西側に接する掘り込みで、12m以上×5m以上の長方形で中央に下幅70cm上幅50cm比高10cmの畦状の高まりがある。東側は約28㎡。この高まりの西側は東側より10cmほど低い。深40cmほどだが、底も完全に平坦ではなく10cm程度の高低差が見られる。浅間B軽石の降下より以前にM018とは同時に埋没しており、その底より約30cmほど浅い。(P.185参照)

埋土中より土師器坏(2075～78)・同高足碗(2074)が出土。形態としては水田に似るが、底土は断面ではあまり鉄分の沈着が見られず、底が平坦でないことも含め、M018の調整池のようなものだろう。

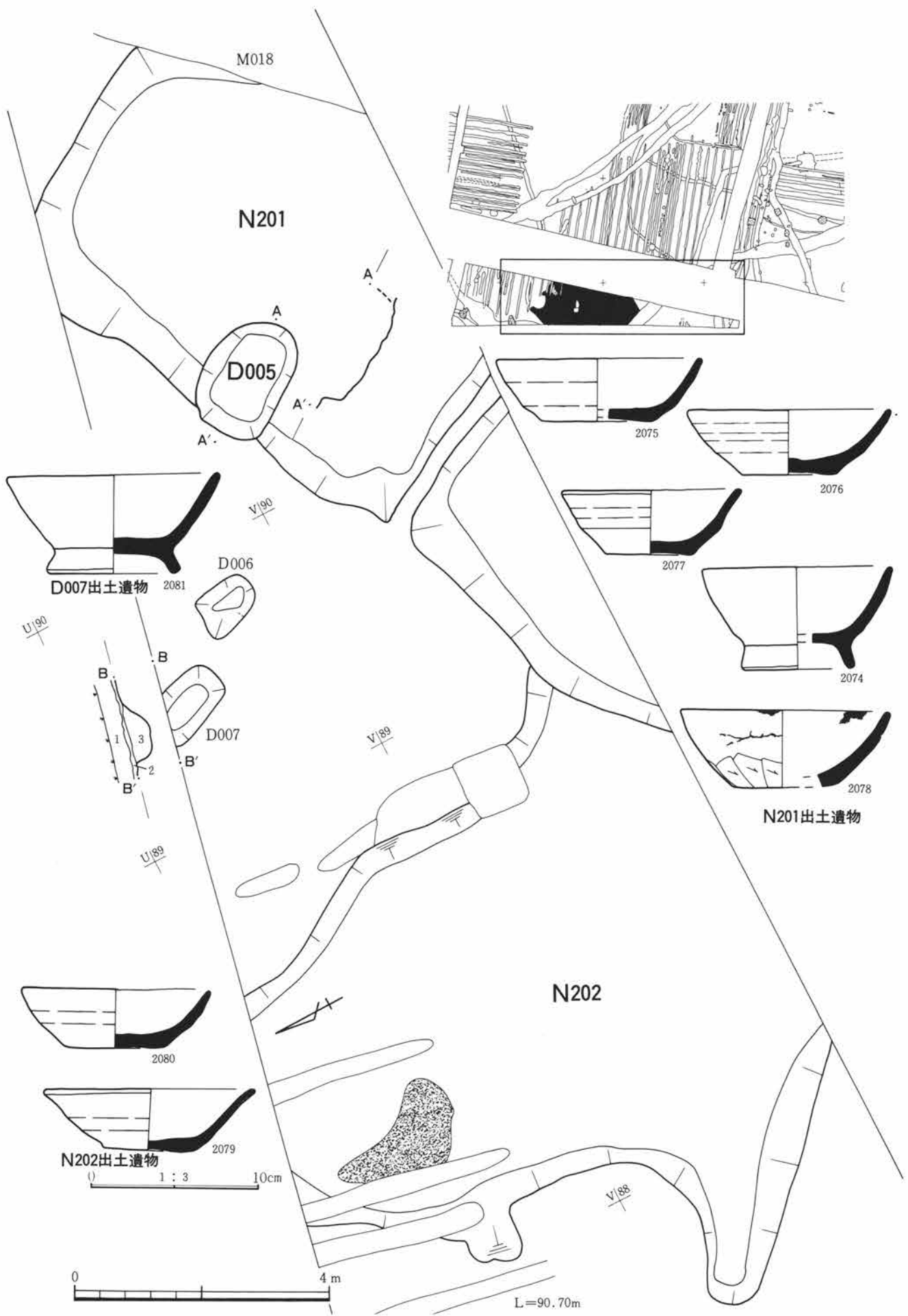
湿地N202は、N201の北西側で東西南北各8m以上の不整形で、深約30cmを測る。底の北側は平坦さみだが、南側はそれより10cmほど低くあまり平でなく、底に砂が溜まる。少なくとも南側は、N201及び溝M019, M020より古い。畠跡N009より古い北側はほぼ間違いなく溝M030からの水の供給を受けている。

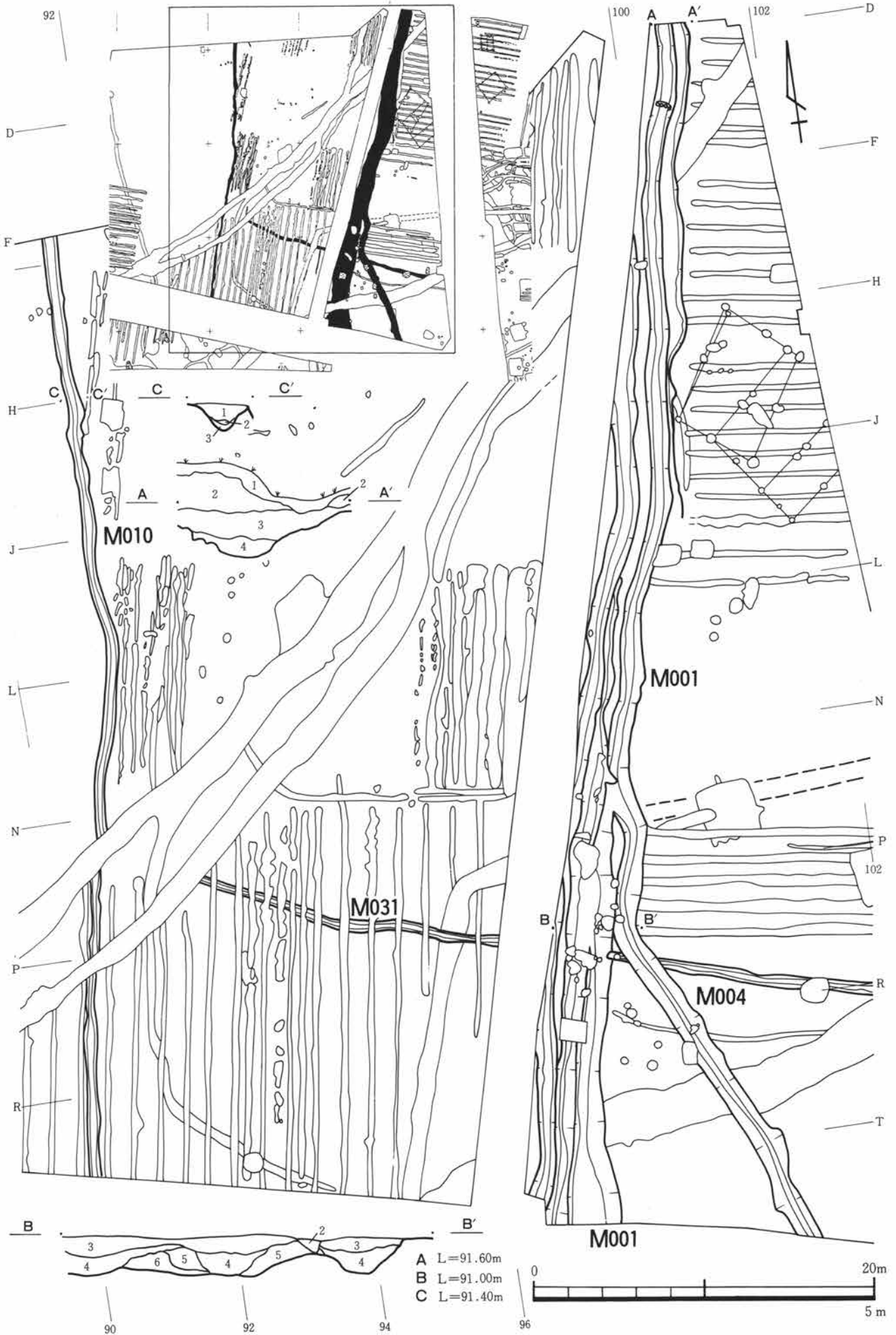
須恵器坏(2079)・土師器坏(2080)が埋土中より出土。水田利用の可能性もありうる。

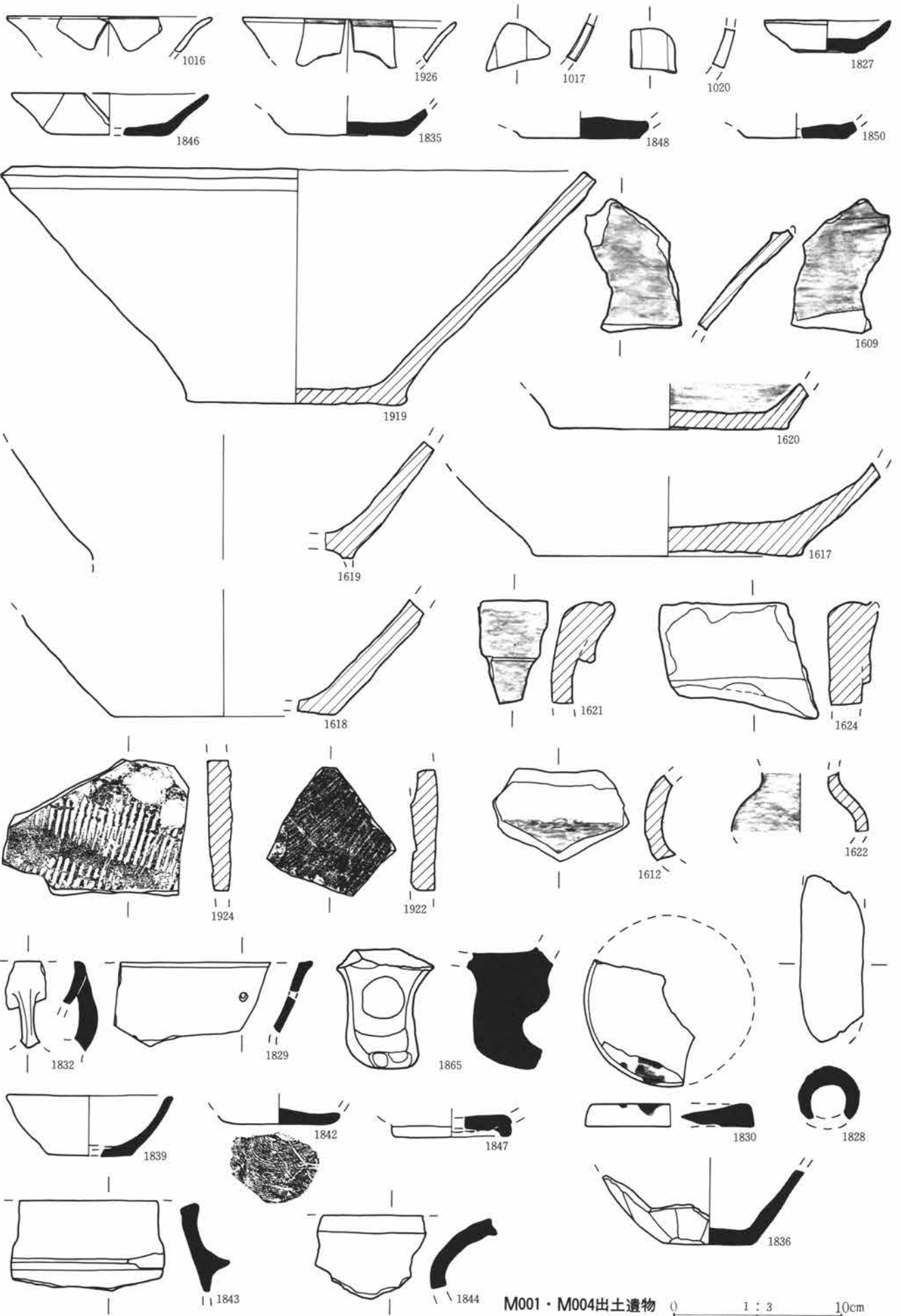
楕円形土坑D005は、N201と重なるが関係不明。長1.8m幅1.2mで、N201の底より約10cm深い。

土坑D006は、D005の北西2mの位置で、長1.0m幅0.6mほどの不整形だが、深は0.5mと深い。縄文土器(P.232-2281,87)が出土したが、同時期かは不明。

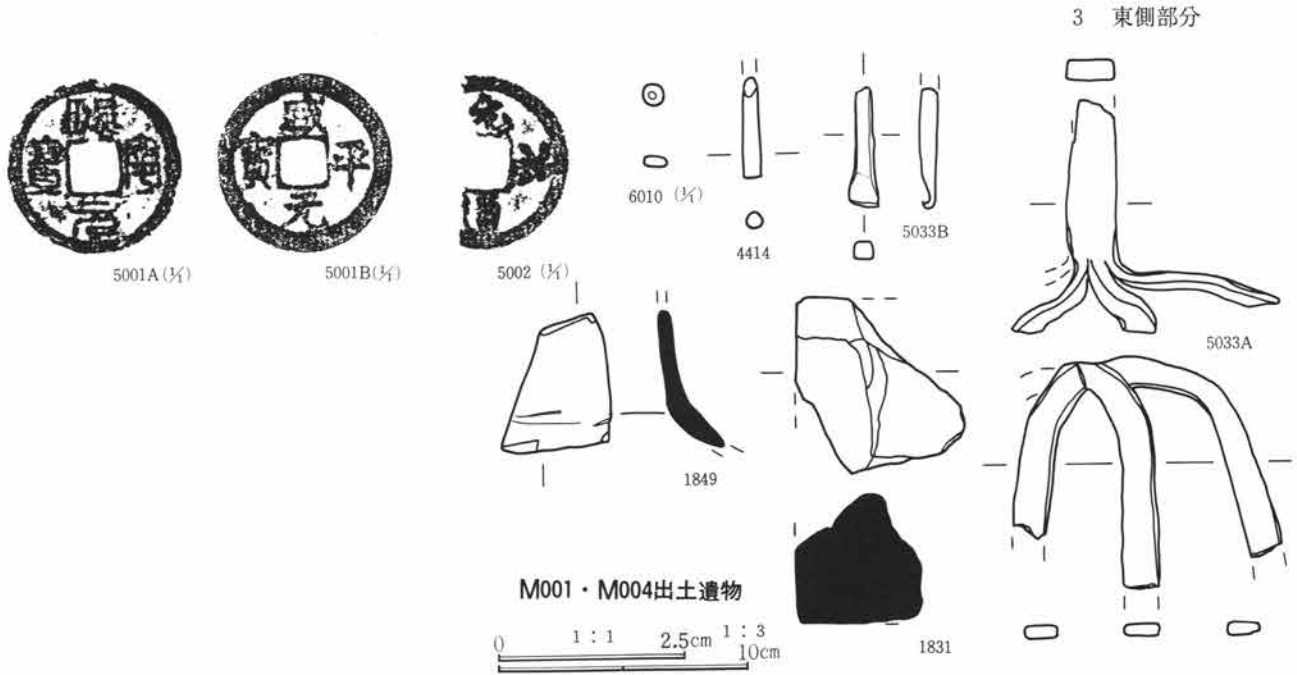
土坑D007は、D006の北西にはほぼ接し、長1.0m以上幅0.6m深0.3mの長方形。土師器高足碗(2081)が出土。1.現水田耕作土 2.暗褐色砂質土 3.黒褐色砂質土 しまりやや弱い 浅間B軽石降下より新しい可能性もある。







M001・M004出土遺物 0 1:3 10cm



水路跡M001, M004, M031, M010遺構 (P.179図 PL.2,15,127,128)

水路跡M001はほぼ直線状に70m南北方向に走り上幅4m前後あるが、少なくとも2回以上の掘り直しの結果の幅である。北側に堰跡のような板状のものを打ち込んだ跡があった。水流跡も顕著に見られた。1.耕作土 2.褐色砂質土 3.暗褐色砂質土 4.暗褐色砂質土 しまりやや弱く砂含む 5.褐色シルト質土 互層堆積砂・浅間B軽石粒含む 6.灰黄褐色砂 シルト質土含む互層堆積

南側で南東方向に水路跡M004が分岐するが、南下するものとの新旧関係は不明。

出土遺物はやや多く、中国陶磁では口剥げ白磁皿(1016,1926)・竜泉窯系青磁碗(1017,20)があり、国産陶磁では渥美甕(1922,24)・常滑甕(1612,21,24)・同コネ鉢類(1609,17~20,1919)などがある。また土師器小皿類(1827,35,46,48,50)・瓦質土器塙(1829,32)が見られた。M004からは、瀬戸美濃灰釉水注(1622)・瓦質土器火鉢脚部(1865)・同不明円盤(1830)が出土。金属器は、3枚の北宋銭(5001A・B,5002)があるが、他は近世以降のものだろう。古代の土師器・須恵器(1832,36,42,47,43,44)・古墳時代土師器(1849)とガラス玉(6010)が混入している。

この水路跡は、北に約100m伸びると江竜沼の屈曲部にあたり、走向は沼の西側と一致している。(P.11図参照) またすぐ西に同一走向の現在の水路があった。そのため、中世居館と推定される同沼の排水路であり、現在の水路と走向の異なるM004がより古いと思われる。上記遺物より12~15世紀が使用年代だろう。

水路跡M031は、上幅0.7m底幅0.3m深0.3mほどで、水路跡M007とM018の間を東西走向で約40m走っている。水路跡M001, M004, M007より古く、M013より新しい。底が50cm高い状態でV字形に合流するM018とはあまり時期差はないと思われる。浅間B軽石降下よりかなり古い。

水路跡M010は、上幅0.8m深0.4mの断面V字形で南北方向に55m以上走る。水路跡M003及びM007と重なるが関係不明。1.にぶい黄褐色砂質土 2.浅間B軽石 3.褐色粘質土 しまり弱い 浅間B軽石降下の直前まで使用されている。

II 調査成果

水路跡M003, M007~M009, M011, M012 遺構

(P.183図 PL.129,130)

水路跡M003, M007~M009, M011, M012 北東から南西方向に100m以上走る長大なもので、主流はM003よりM007が新しく、M012はM007と同一の可能性もある。またM008とM009はM003からの分流で、前者は南に後者は南から南東へ走っている。

本流のM003とM007は、上幅約2m深0.5mの断面V字形で、重複する他の水路跡で古いものはM020・M030・M031であり、M010とは関係不明。また末端はM017に重なっているだろう。明瞭な水流痕がある。北からのM012は上幅0.4m深0.3mほどで重複する畠跡N013に大きく壊されており、底はM003より僅か高い。M011は上幅0.8m深0.1m弱で浅いが、M003に平行している。1.耕作土 2.暗褐色砂質土 砂塊含む 3.褐色砂 4.褐灰色砂礫 5.暗褐色砂質土 砂含む 6.黒褐色砂質土 浅間B軽石多く含む 7.褐灰色砂 8.ぶい褐色砂質土 鉄分・砂塊含む

M006より須恵器碗類(1837,38,40)、M007より土師器坏(1851)が出土。またM012には畠跡からの混入の近世近代磁器(1214,15)と泥人形(1895)・ガラス円盤(6006)が混じる。

水路跡M008はM003の分流でM030より新しく、上幅0.6m底幅0.3m深0.2mで、南に20mほど走る。完全に浅間B軽石で埋没していた。

水路跡M009は同じくM003の分流で、上幅0.6m底幅0.3m深0.1mで、ほぼ浅間B軽石で埋没。南に17m走った後南東に10m流れる。1.ぶい赤褐色砂と浅間B軽石 鉄分含む

以上のようにこれらの水路跡は、浅間B軽石の降下直前頃に使用されて本流にはかなり水流があった。本流の付け替えや分流を持つ本格的な灌漑システムと考えられる。

水路跡M018, M125, M131, M133~M140, M142, M143, M151, M152 遺構 区画溝M013, M121 遺構 (P.185図 PL.4,130~133)

水路跡M018は、上幅約3m深0.9~1.1mの断面V字形で、江竜川旧河道のM202より南西方向に緩く蛇行しながら約130mにわたって検出された。ほとんど同じ位置で掘り返されているが、取水部の旧河道近くは両者がやや別れる。水流痕は明瞭である。1.耕作土 2.暗褐色砂質土 3.浅間B軽石 4.黒褐色粘質土 底に砂礫 5.暗褐色粘質土 黄褐色シルト質土塊含む 6.黒褐色粘質土 砂礫混在し固い 7.暗褐色土粘質土 底に砂 8.灰黄褐色粘質土 9.黒褐色土と砂の互層 10.黒褐色砂礫 固い 11.暗褐色粘質土 (M031埋土)

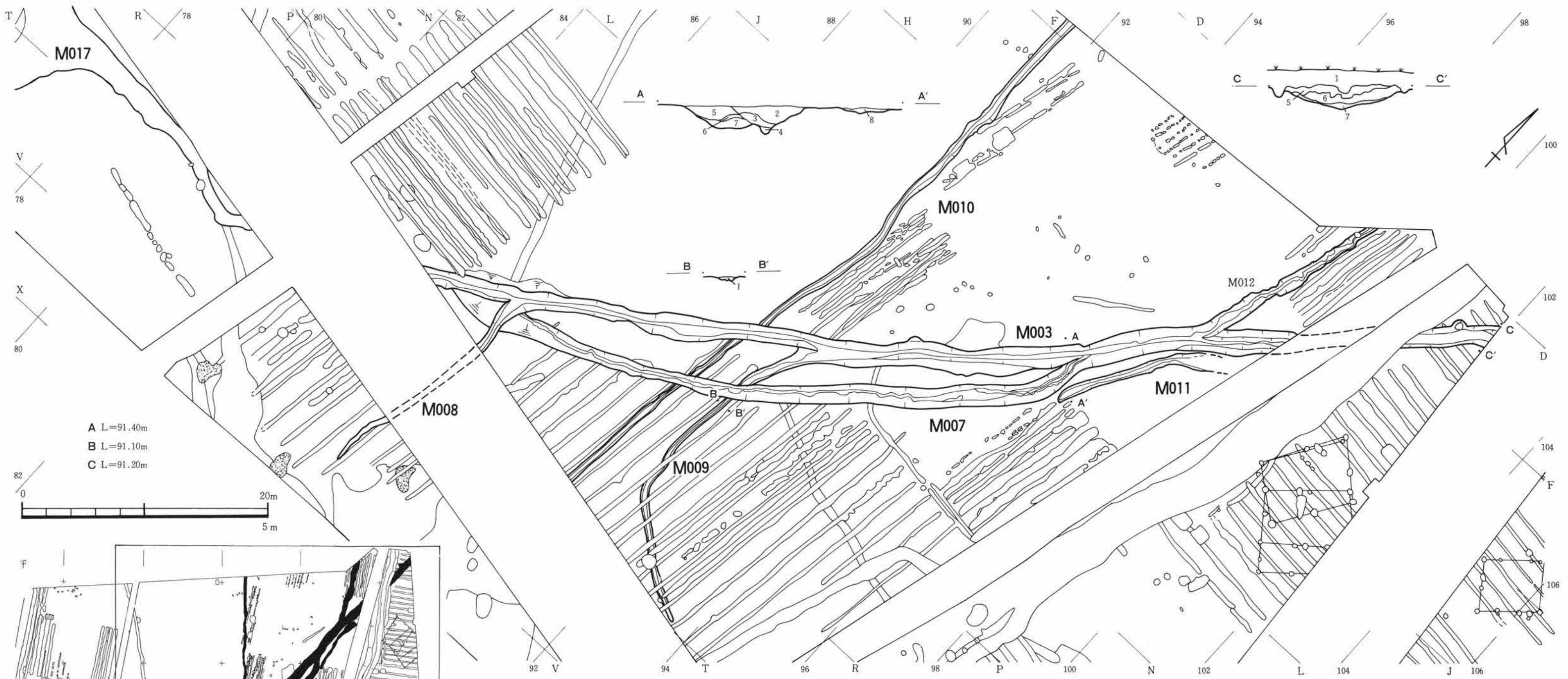
重複する水路跡でより新しいのはM001, M004, M013で、その他とは関係は不明だが、特にM031や池N201とは同時期と思われる。M003のような分水は見られないが、南西端の池N201は水量調節のための施設かもしれない。時期は、浅間B軽石降下よりかなり以前の使用である。

遺物は、灰釉壺片(1883)と須恵器碗(2095)坏(2163)以外は大部分が土師器で、高足碗(1852,2093,2094)・坏(2083)・壺(1762)・甕(1841,45)がある。このうち、1852と1762は上層より出土。他に土玉(1891)・鉄鏝(5034)は時期不明で、中世の丸瓦(2274)は混入。

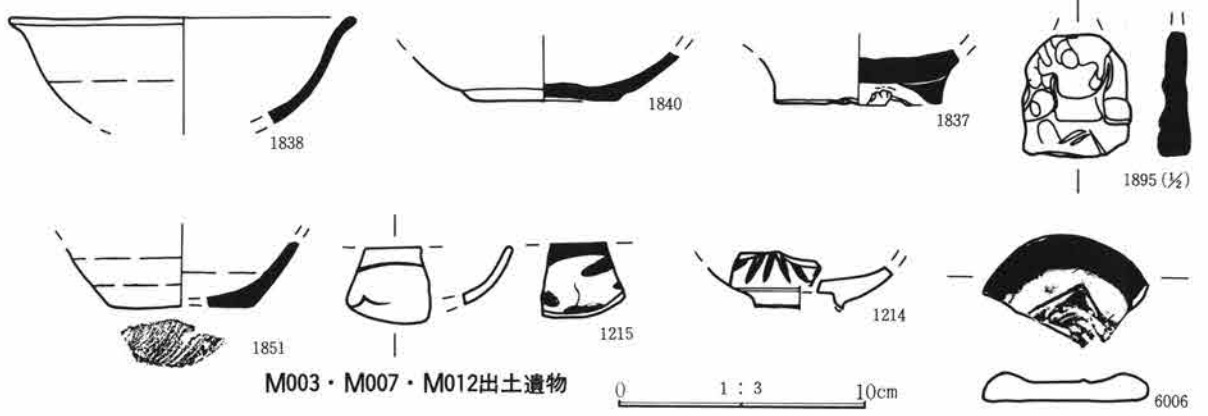
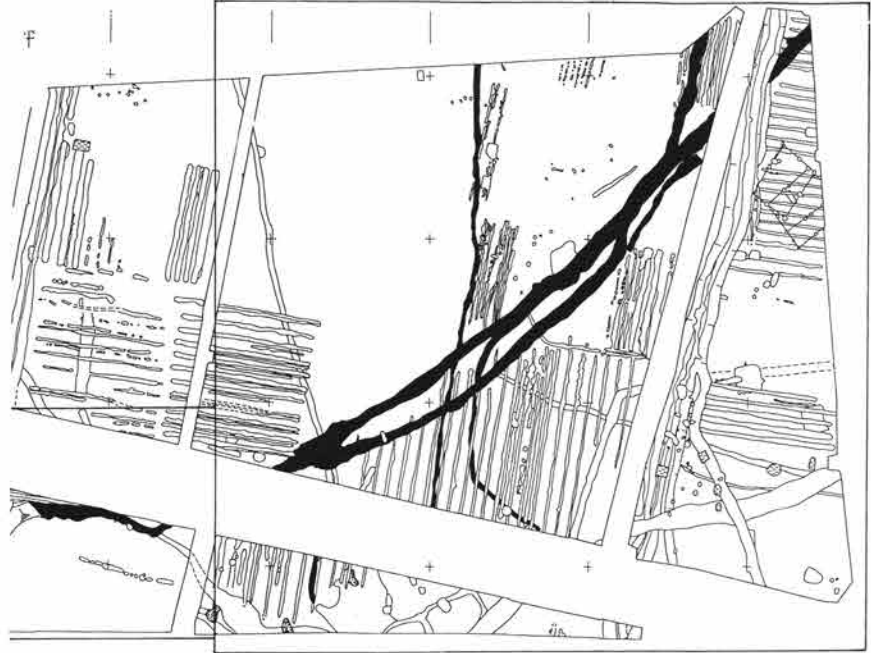
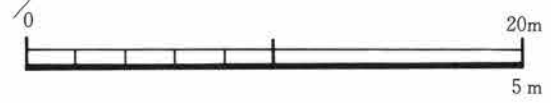
区画溝M013は、東西方向に約73m走った後やや鈍角で南に向きを変え30m以上伸びる。上幅1.2m底幅0.7mで断面はU字形。あまり顕著な水流痕はない。重複する水路跡M018, M125, M142などいずれよりも、また竪穴住居J102より新しいが、畠跡N101, N004より古い。また水路跡M001との関係は不明。1.耕作土 2.ぶい褐色砂質土 3.黒褐色砂質土 浅間B軽石混じる

走向方向また埋土状態より、旧河道M202と組み合わさった集落を区画する用途と思われる。時期は浅間B軽石降下より新しく18世紀後半以前。

区画溝M121は、水田跡N204の上で緩く南側に湾曲し24m以上走り、上幅0.5m底幅0.3m深0.1mと浅い。浅間B軽石降下より新しく、埋土はにぶい黄褐色砂質土。畠跡N100と重なるが関係不明。水田跡N204の跡地の湿地を区画したものか。



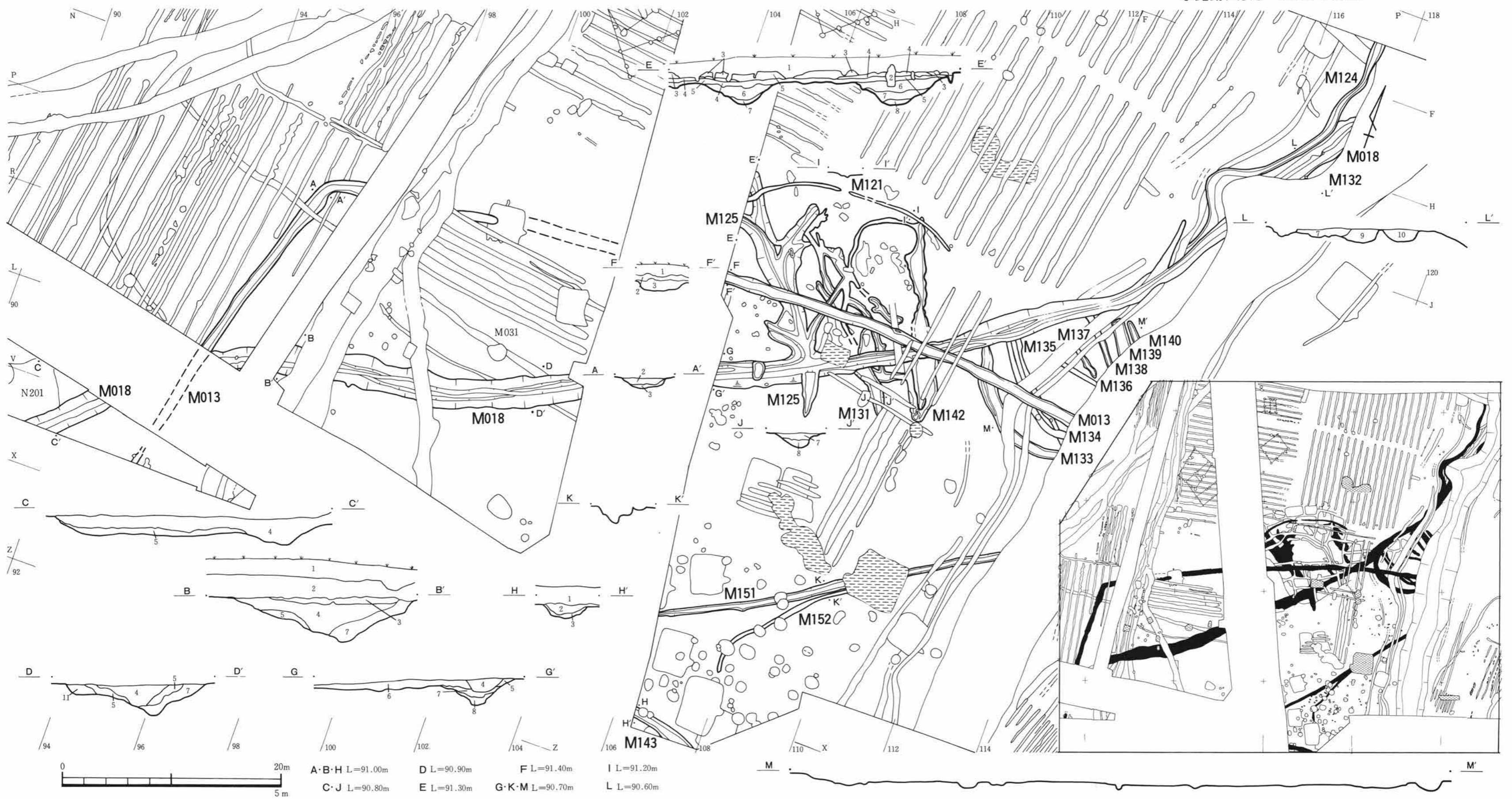
A L=91.40m
 B L=91.10m
 C L=91.20m



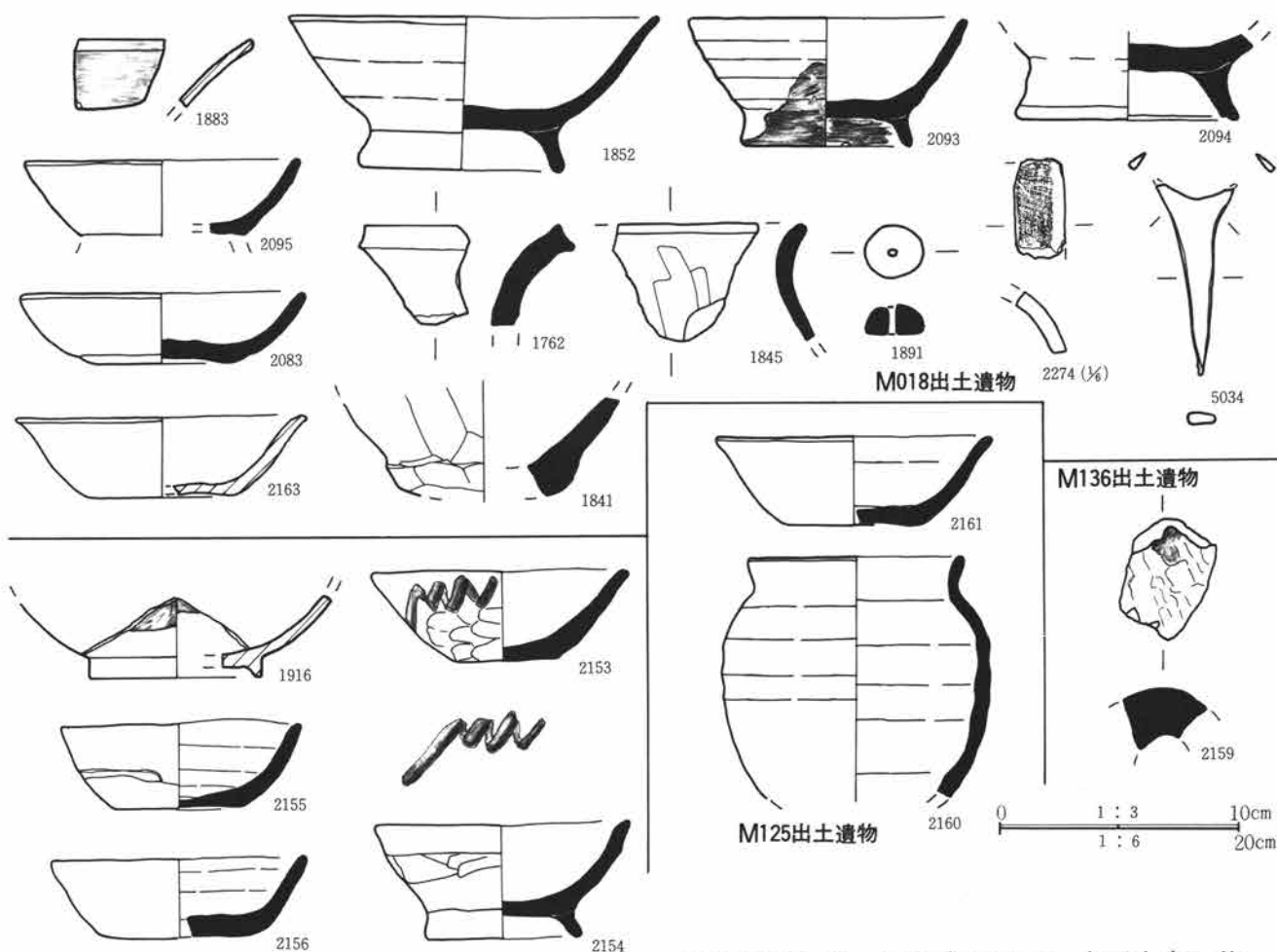
M003・M007・M012出土遺物

水路跡M003・M007遺構他

水路跡M018・M124遺構他



A·B·H L=91.00m	D L=90.90m	F L=91.40m	I L=91.20m
C·J L=90.80m	E L=91.30m	G·K·M L=90.70m	L L=90.60m



水路跡M151は、旧河道M202から南西方向に約32m走っており、上幅0.8m底幅0.3m深0.2mほどで断面はU字形で部分的にV字形である。重複する道路跡X005・水路跡M144・土坑D216, D236より古い。途中から別れるM152は、上幅0.3m深0.1mと浅いが、15mの検出部分の末端は南に向きを変える。重複する土坑D232~D234のいずれよりも古いが、M151との関係不明。

M151からは、美濃灰釉碗(1916)・須恵器坏(2155, 56)・土師器坏(2153)・同高足碗(2154)・同甕(2157)が出土。2153には記号のような墨書がある。11世紀前半と考えられる。

水路跡M143は、上幅1.0m下幅0.6m深0.3mで断面はU字形。東西走向で僅か8m検出。土坑D241, D265より古い。水流痕があり、浅間B軽石降下より

り新しい。1.耕作土 2.黒褐色砂質土 浅間B軽石多く含む 3.黒褐色砂質土 浅間B軽石と砂含む

水路跡M125, M131, M142は水田跡N204の下から発見されたもので、主に北西から南東方向へ走るが、かなり複雑に多くの分流が集まっている。これらは厳密な新旧関係があるかは不明で、低地に向かった自然の流路が重なったものだろう。

ただし西側のM125は最も掘り込みがはっきりしており、上幅1~2m深0.5mほどの断面V字形で、水流痕は明瞭。1.耕作土 2.攪乱 3.にぶい黄褐色砂質土 4.浅間B軽石 5.黒色粘質土 6.黒褐色粘質土 砂含む 7.黒褐色粘質土 砂混在 8.褐色砂 凝固 須恵器坏(2161)・土師器小形甕(2160)が出土。浅間B軽石降下よりはるかに古い。

II 調査成果

水路跡M133～M140は、水路跡M018と旧河道M202との間を結ぶやや湾曲した短い水路群で、上幅0.4～0.8m深0.1～0.2mで断面はU字形が多い。水路跡M013及び道路跡X005より古い。このうち中央のM136より土製輪片(2159)が出土。走向より、これらの大部分はM018の水量調節の機能かと考えられる。

旧河道M103, M201～203遺構 道路跡X005, 006遺構

水路跡M101, M102, M106, M107, M109, M110, M113, M115, M117～M119, M122, M123, M141, M144, M148, M150, M154, M157～M159遺構 (PL.4, 133～137)

江竜川に面する調査範囲の東端で、3本の旧河道と2条の道路跡そして多くの水路跡が重なっていた。

旧河道M202は、最大上幅11m深2.4mで北東から南西方向にほぼ直線状に80mほどを検出した。浅間B軽石の降下以前に形成されるが、降下後もまだ流れていた。1.黒褐色シルト質土 砂多く含む 2.浅間B軽石 3.黒色粘質土 下層では砂互層

水路跡M018, M151は、早い時期にこの河道から水を引いたと思われる。遺物は、最下層から須恵器坏(2110)・土師器碗類(2104, 2118)・同坏類(2109, 2108)及び円筒埴輪(2247)が出土。その他に猿投灰釉碗(1888)・須恵器碗(2103, 2111)・同陶質の坏(2107)・同罍(1912)そして土師器模倣坏(2106)が見られた。なおB軽石直下で刻書のある須恵器碗(2105)が出た。古墳時代後期から11世紀まで、この河道に沿った生活があったと思われる。

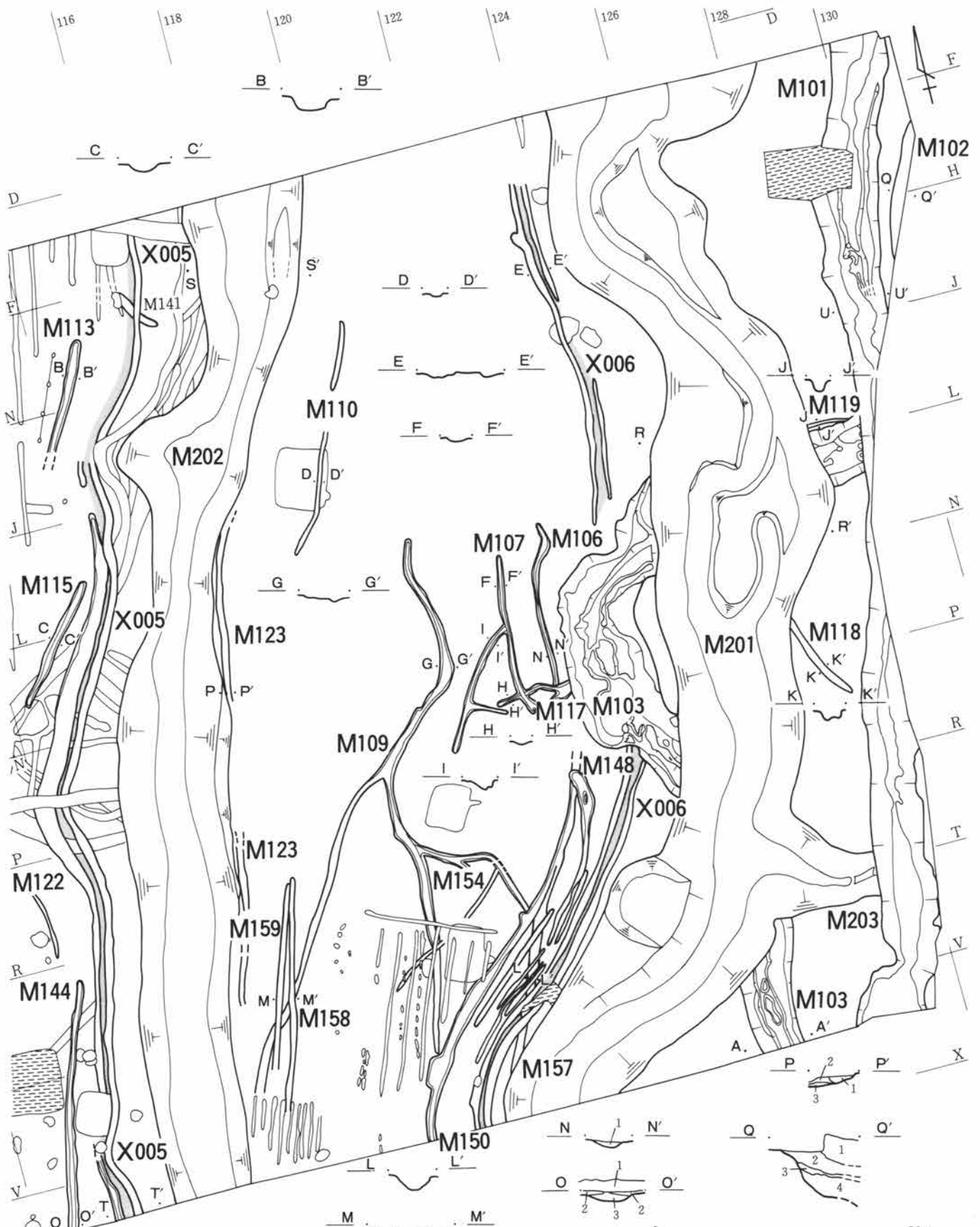
旧河道M201は、最大上幅14mで蛇行しながら延長90m以上北東から南西に向かって流れる。南側で上幅3mのM203が東から合流している。何回も流れの強弱があったことが埋土より見られた。1.黒褐色粘質土 砂含む 2.灰黄褐色シルト質土と砂互層 3.灰黄褐色シルト質粘土 4.砂礫と砂・シルト質土互層 5.砂礫とシルト質土塊の混在土 6.砂礫 4層より古代土器出土。また1層の上に浅間B軽石の堆積がM202と同様に見られ、その前後の時期は併存していたと思われる。遺物は、最下層より土師器坏(2117)が、その上から美濃灰釉碗(1889)・土師器甕(2112, 13)・同坏(2116)が見られた。2116には墨痕がある。9世紀頃が中心のため、M202より流入開始は新しい。

旧河道M103は、最大上幅6mで東から来て直角に南に延長60mほど流れる。旧河道M101及びM201より古い。新旧2回の流れが見られる。1.耕作土 2.褐色砂質土 3.にぶい黄褐色シルト質土 4.黒褐色粘質土 5.細砂 6.粗砂 7.黄褐色細砂 8.砂礫 9.明黄褐色粘質土 10.黄褐色細砂 11.黒褐色シルト質土 12.細砂 13.礫 遺物は出土層位の記録はとれなかったが、土師器坏類(2140, 41, 44)・同高坏(2150, 51)・同壺類(2168, 42, 43, 46～49)・同甕(2145)・同器台(2152)がある。いずれも著しく摩耗していた。そのため、古墳時代前期から後期の河道で、上流には同時期の集落と古墳があった可能性が高い。

水路跡M101は、調査範囲の東端で上幅約4m深1.6m断面V字形で、ほぼ南北に直線で70m流れる。人為的に埋められている。1.黒色粘質土 にぶい黄褐色土塊含む 2.灰白色シルト質土 砂含む 3.褐灰色砂質土 灰白色土塊含む 4.にぶい黄橙色粘質土塊 5.褐灰色シルト質土 砂含む 6.砂礫互層 M102 1.耕作土 2.褐灰色砂質土 砂含む 3.明褐灰色砂 4.灰黄褐色砂質土 砂礫含む すぐ東に水路跡M102の肩のみを検出した。M101の東10m強で江竜川の現在の河道が、ほぼ平行して流れている。

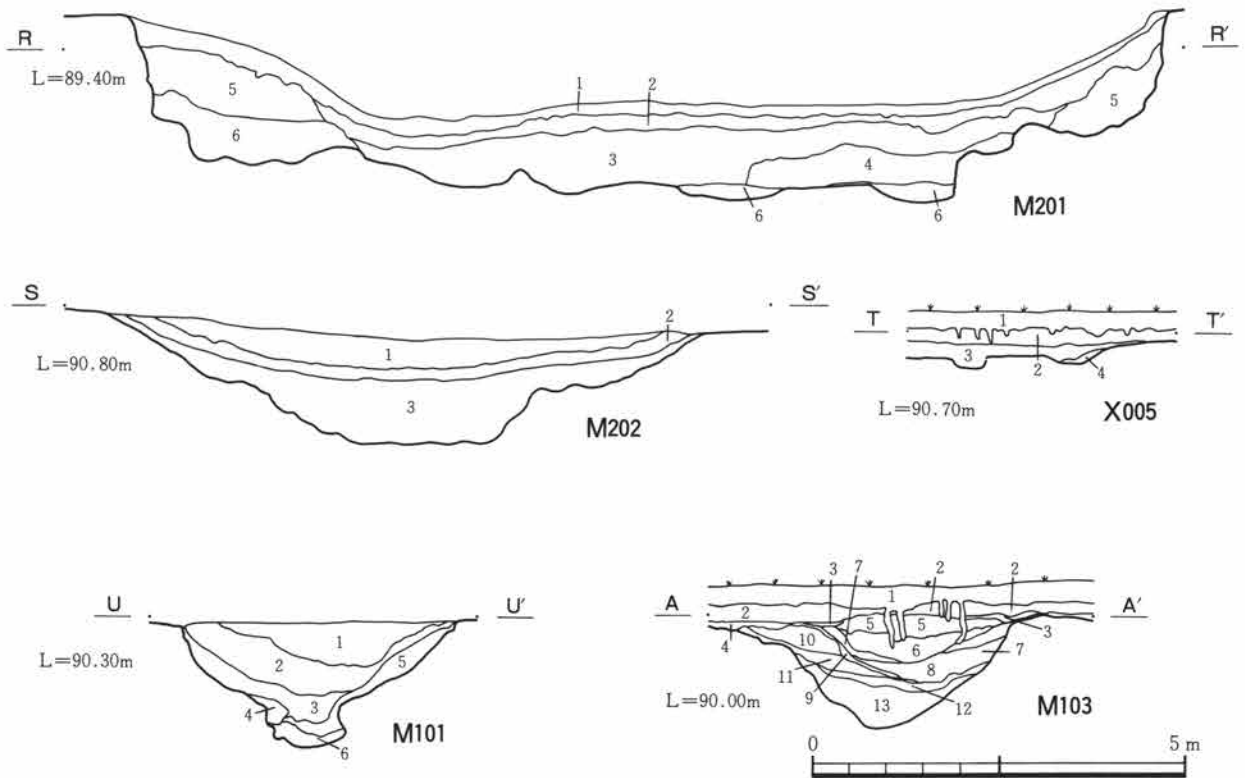
遺物は、古代の美濃灰釉碗(1914)・同碗(2131)に古墳時代の土師器壺類(2133, 34)・同甕(2139)・同高坏(2135)・須恵器甕(2132)・同罍(2138)・埴輪片(2136, 37)が見られた。古墳時代のものは全て摩耗しており、重なる旧河道M103からの混入だろう。10世紀末～11世紀の使用と考えられる。

道路跡X005は、旧河道M202の右岸に平行して走っている。両側に上幅0.4mほどの浅い側溝があり、路面幅は約0.8mで、70mほど走っている。硬化面は確認されていない。1.耕作土 2.暗褐色粘質土 3.黒褐色砂質土 4.黒褐色砂 水路跡M018より新しく、区画溝M013より古い。竪穴住居J156及び水路跡M151との関係は不明。土師器小皿(2162)・同坏(2165)が側溝より出土。9世紀頃から浅間B軽石の降下前後が主な使用時期と思われる。



110	112	114	116	118	120	122	124
J L=90.20m	C L=91.00m	E·H·I L=90.40m	G·M·Q L=90.50m	O L=90.80m			
B L=91.20m	D L=90.60m	F·K L=90.30m	L·N L=90.10m	P L=90.70m			

II 調査成果



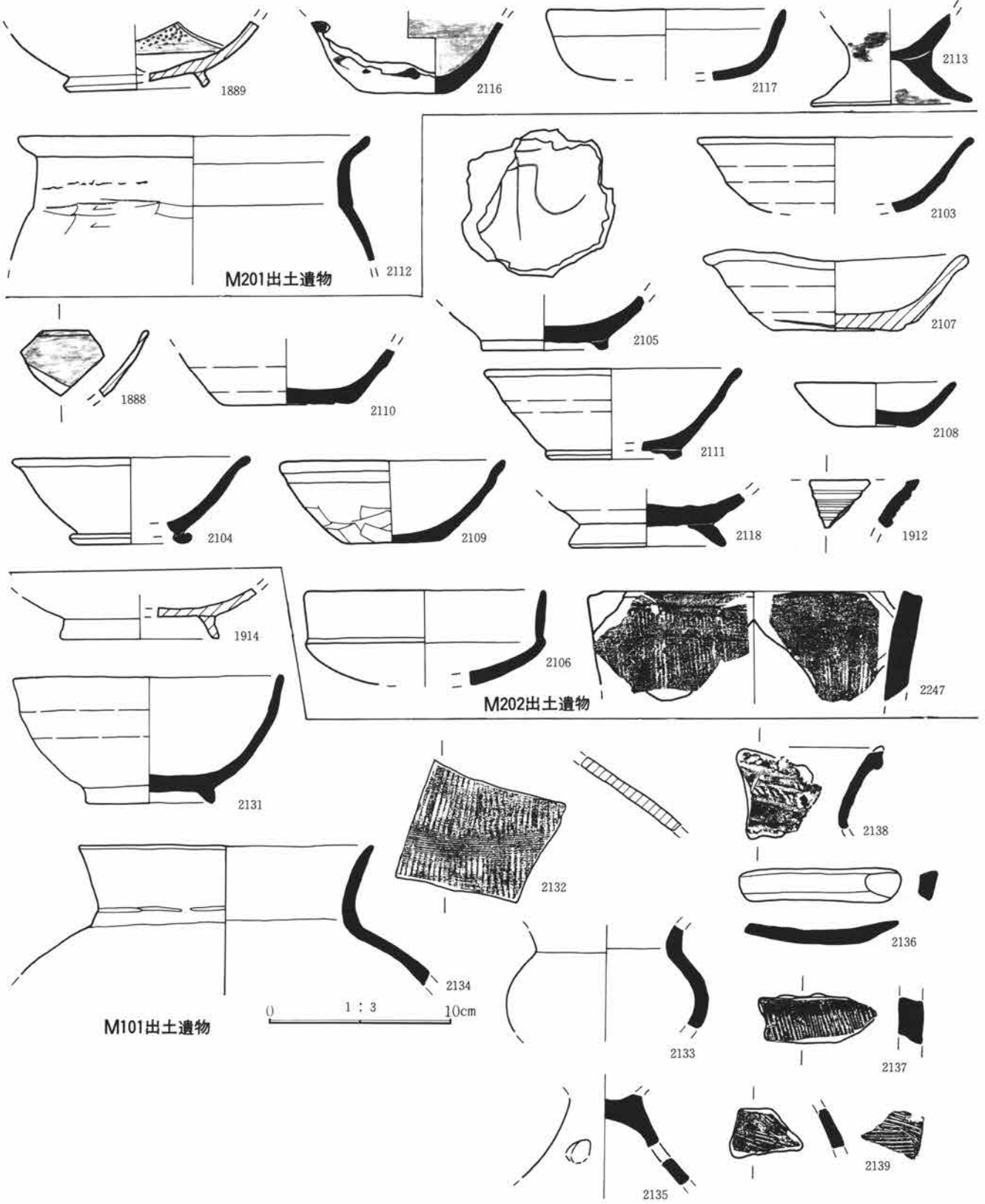
道路跡X006は、旧河道M201の右岸に平行して走っている。規模はX005とほとんど同じで両側溝含めて幅は最大1.6mである。やはり硬化面は未検出。土坑D209(P.217)より新しく、西側側溝は水流痕がある。旧河道M013及び水路跡M157より新しい。時期は、M201と併向するだろう。

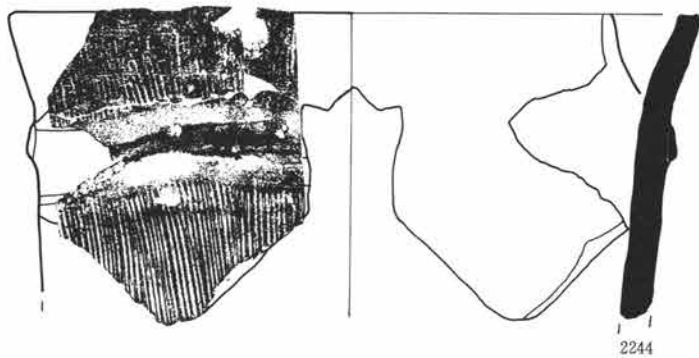
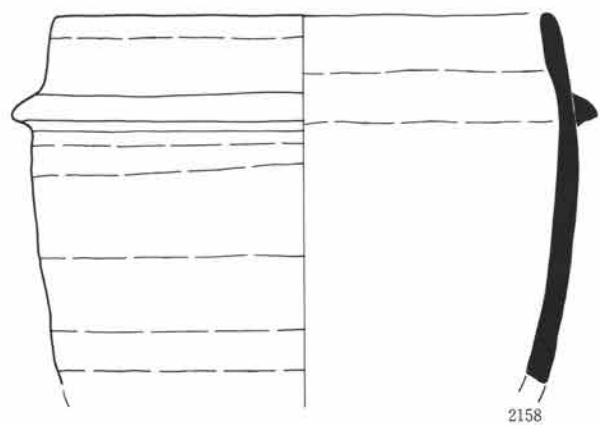
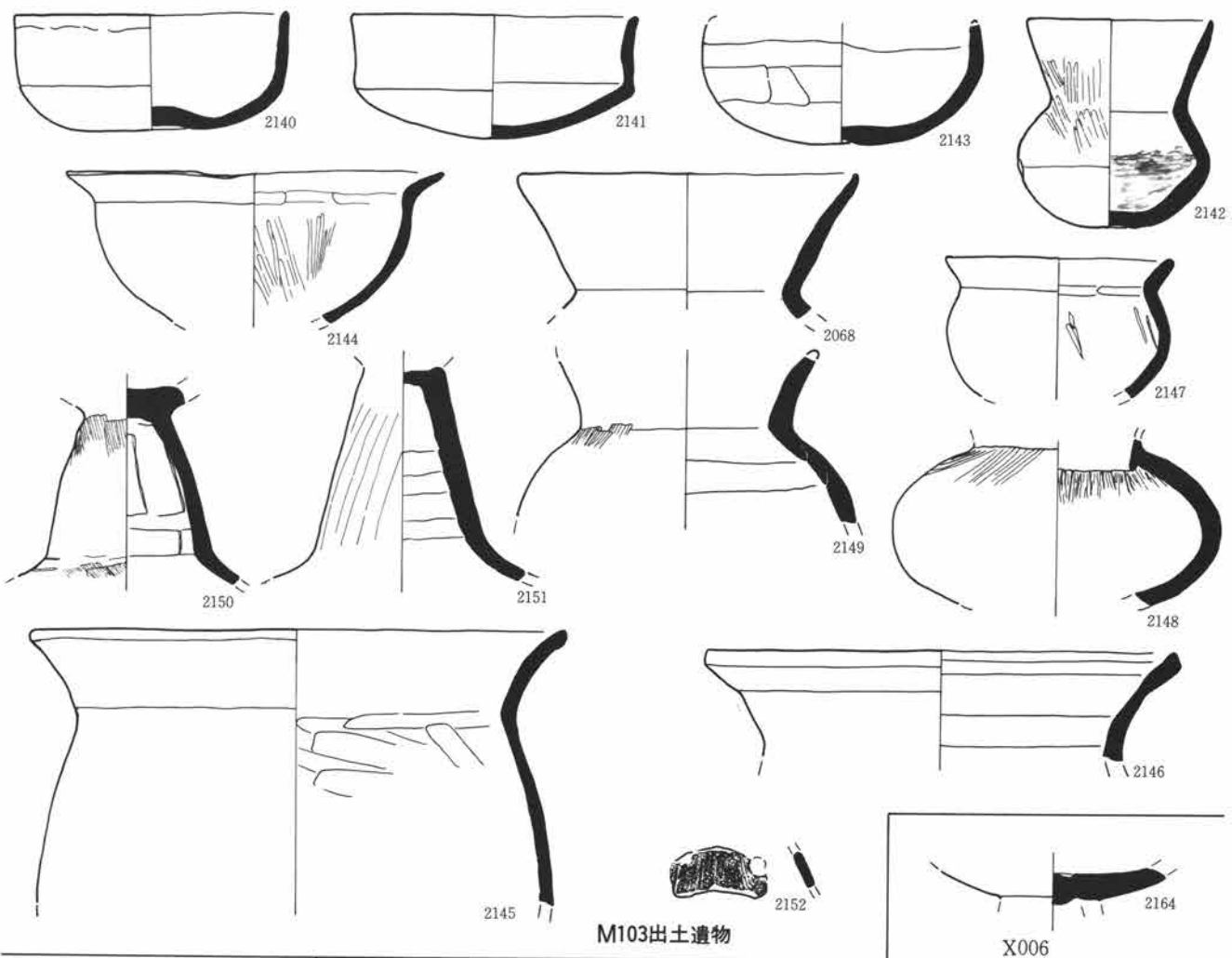
旧河道M202西側には、ほぼ同走向で上幅1m弱深0.2m弱の水路跡として、M113,M115,M122,M141,M144がある。M141は道路跡X005より古く、M115は水路跡M018より新しく、M144と水路跡M151の関係は不明。少なくともM144には水流痕がある。1.暗褐色砂質土 2.暗褐色砂 3.褐色砂質土 砂含む M144より土師器羽釜(2158)と円筒埴輪(2244)が出土するが、10世紀頃か。その他は、M141を除いて道路跡X005と似た時期だろう。

旧河道M201とM202の間には、やはり上幅1m弱深0.2mの水路跡として、M106,M107,M109,M110,M117,M123,M148,M150,M154,M157,M158,M159がある。このうち、M109とM107は南側でいくつか分岐している。M123は浅間B軽石の降下より新しい。M110は竪穴住居J151より新しい。M158,M109,M154は畠跡N104~106より古い。M157は道路跡X006より古い。少なくともM106とM123には水流痕がある。M106 1.暗灰黄色砂質土 砂含む M123 1.浅間B軽石含む砂 2.にぶい黄褐色砂質土 3.浅間B軽石屈曲するM109は、竪穴住居J154とJ155を意識して分岐しているようである。いずれも湿地の排水路ではないだろうか。

旧河道M201の東側には、重複して水路跡M118とM119がある。上幅0.2~0.4m深0.1~2mと小規模である。

3 東側部分





0 1 : 3 10cm

掘立柱建物跡 J 0 0 1, J 0 0 2, J 0 4 0 遺構 (P.194図 PL.137,138)

畠跡N021,N022,N023の下から検出されたもの。

建物跡 J002は、畠跡N021の下に位置し、東西2.6~2.7m南北3.0~3.3mの規模で、面積は8.3㎡となる。2×2間の南北走向の総柱建物である。柱穴は径0.3m深0.2m程度で、柱間距離は南北辺が1.3~1.6m東西辺が1.2~1.4mを測る。

単独の小規模な建物だが、周辺にまだピットがあるため、他にも建物があった可能性は残る。同一走向の他の遺構は、この周辺では西に15m離れた水路跡M001がある。それ以外には時期を想定する資料がないため、それらと近い12~15世紀のものと考えたい。

建物跡 J001は、畠跡N022の下に位置し、短辺4.1m長辺5.0~5.4mの規模で、面積は21.3㎡となる。2×3間で長辺の走向は、北東から南西となる。柱穴は径0.2~0.3m深0.1~0.3mで、柱間距離は長辺が1.6~1.7mが大部分であるのに対し、短辺は1.6mと2.6mに別れる。そのため、短辺中央の柱穴が棟筋とするなら、南東側への張り出しがかなり大きい。

長辺の走向を南西に10m少し延ばすと、ほぼ同一走向の掘立柱建物J004に至る。J004と重複するJ003も含めて、同一の時代の建物群と考えられる。

この長辺の走向は、北西側の水路跡M003及び南東側の水路跡M018の流れにかなり似ている。そのため、それらの水路跡の使用時期である10,11世紀の建物群とするのが自然であろう。

柵跡 J040は、畠跡N023の東側下面に位置し、全長6.5mで4個の柱穴より構成される。柱穴は径0.2m深0.1~0.2mと小さい。柱間距離は、2.0~2.3mである。

北北東から南南西への走向であるが、これは東側7mほどに流れている旧河道M202に平行させたと考えるのが自然であろう。そのため、10,11世紀頃の遺構と想定できる。

掘立柱建物跡 J 0 0 3, J 0 0 4 遺構 (P.195図 PL.138)

共に畠跡N022の西側下から検出された。

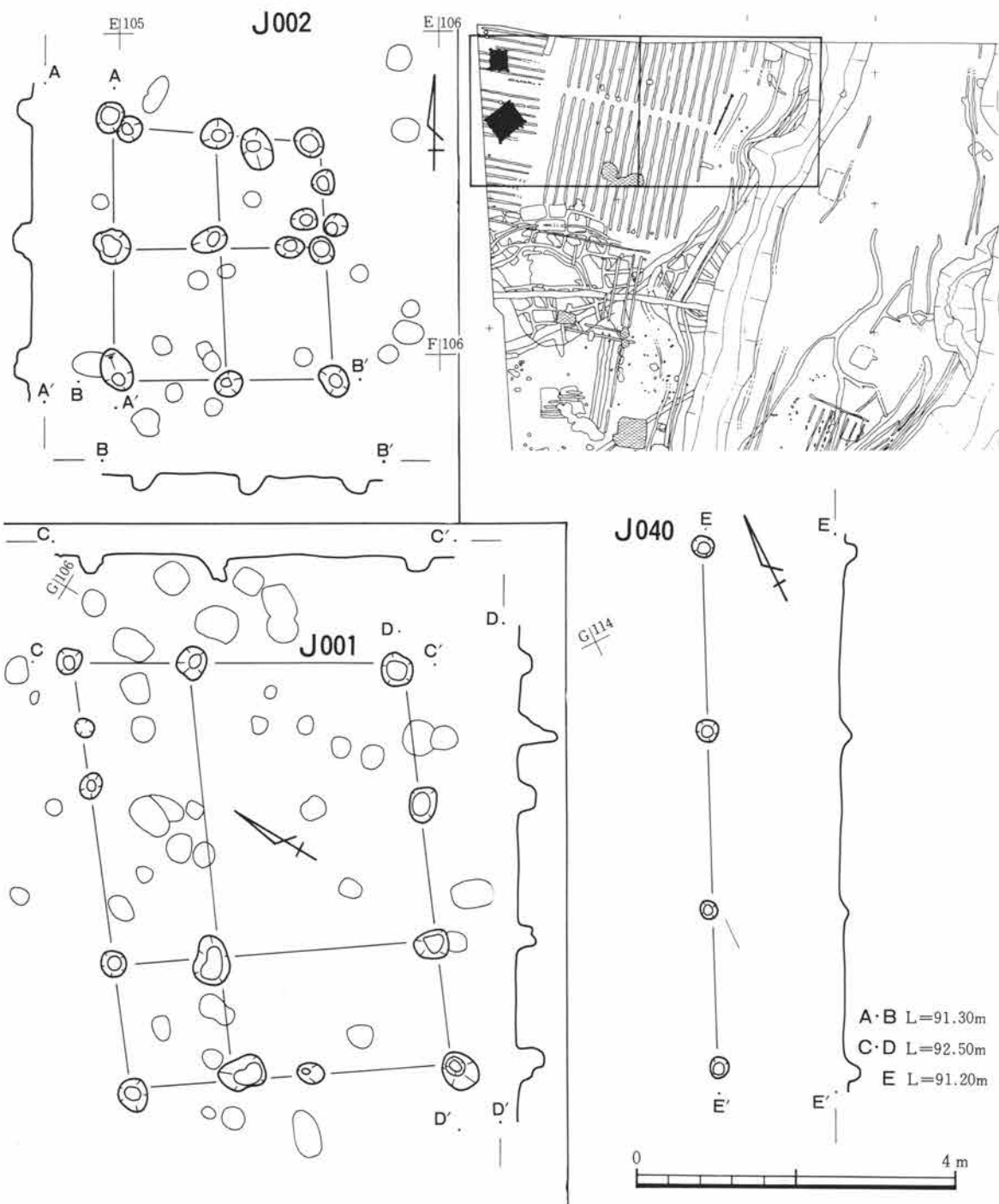
建物跡 J003は、短辺4.8~5.2m長辺6.7~7.0mの台形で面積は34.3㎡となる。2×2間で、長辺の走向は北東・南西だが、J004よりは南北方向にやや近い。柱穴は、径0.2~0.6m深0.2~0.3mで、柱間距離は長辺が3.3~3.8m短辺が2.1~2.8mを測る。

建物跡 J004は、短辺6.9m長辺6.8m以上の正方形か長方形で、面積は47㎡以上と考えられる。北東側が現存道路のため調査できなかったが、1×2間以上の主屋の南東側に庇が付いた形で、それに建替え重複の柱穴が出ていると推定される。長辺の走向は北東・南西である。柱穴は、径0.3~0.4m深0.2~0.4mを測り、柱間距離は短辺が主屋4.4m庇2.4m、長辺は2.7mが中心でそれに3.3~3.5mも見られる。

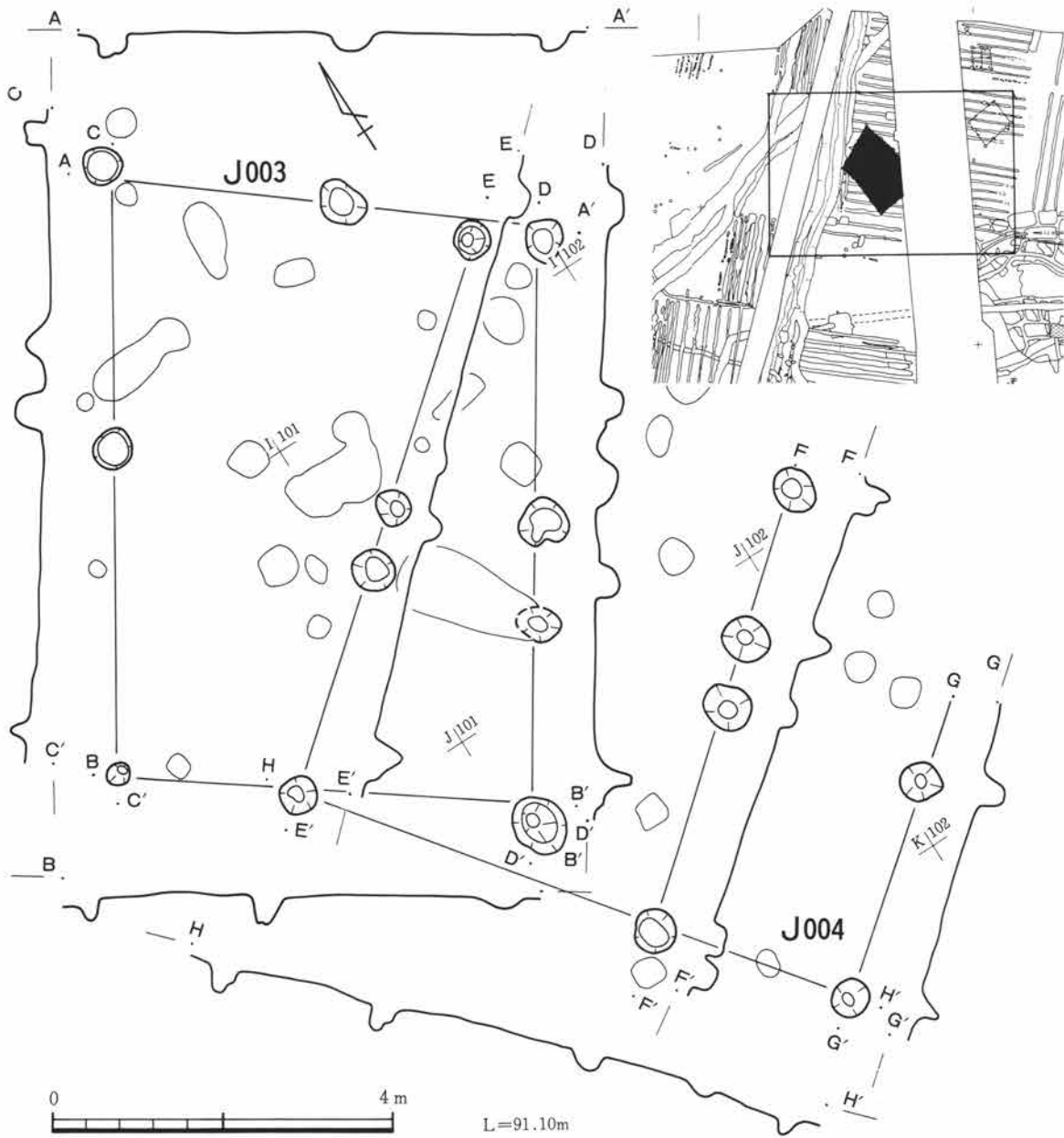
重複するJ003とJ004の新旧関係は不明で、また周辺には他にも柱穴があるため、さらに多くの建物が重なっていた可能性がある。

走向は、J001を含めて前述のように水路跡M003及びM018と同様であり、10,11世紀頃と想定できる。その内、J004が最も中心的な建物であろう。

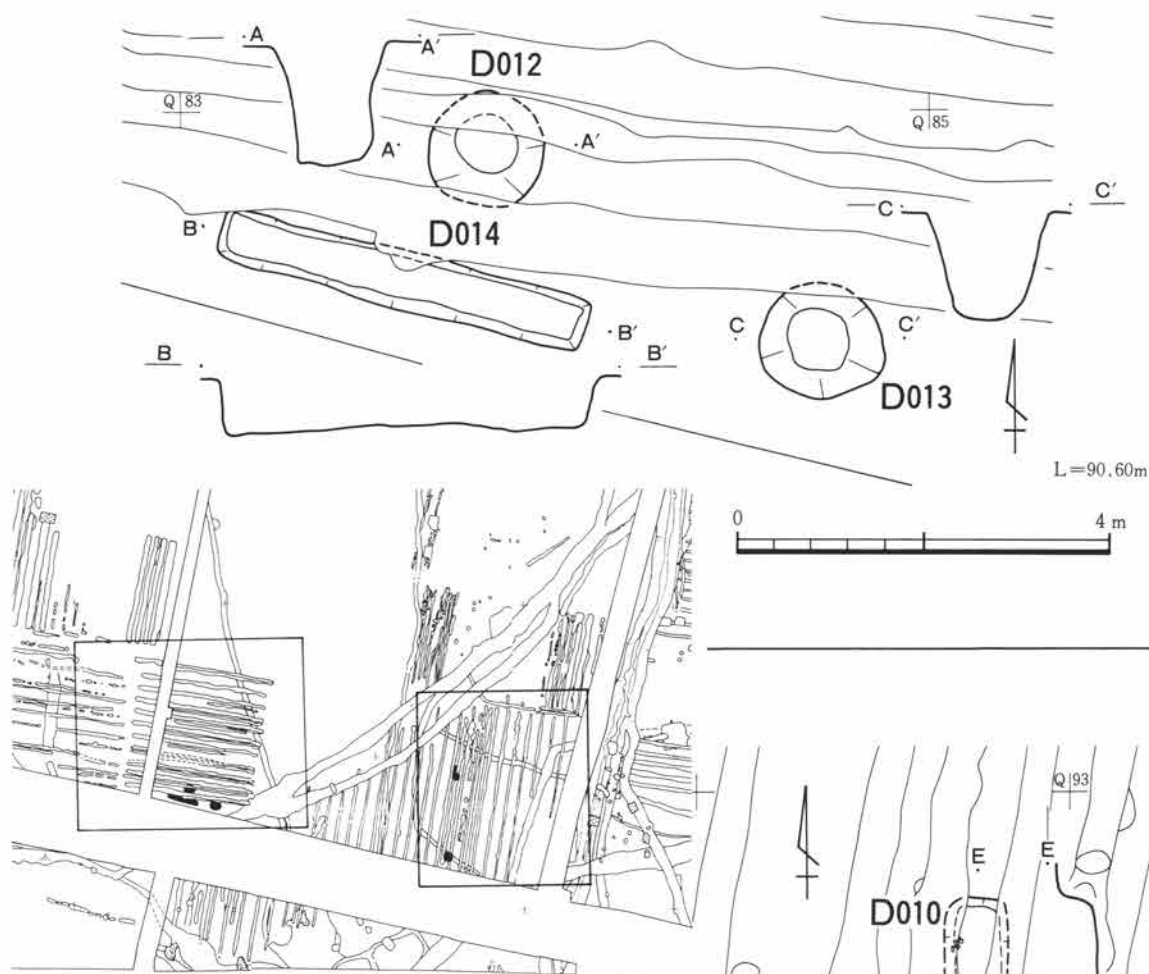
II 調査成果



3 東側部分



II 調査成果



短冊形土坑D014遺構

円形土坑D012,013遺構 (PL.139)

畠跡N005の下から検出された。

短冊形土坑D014は、長4.0m幅0.5m深0.5mを測る。単独で確認されたが、南側は現存道路で未調査のため、他にも同様のものがあった可能性は残る。

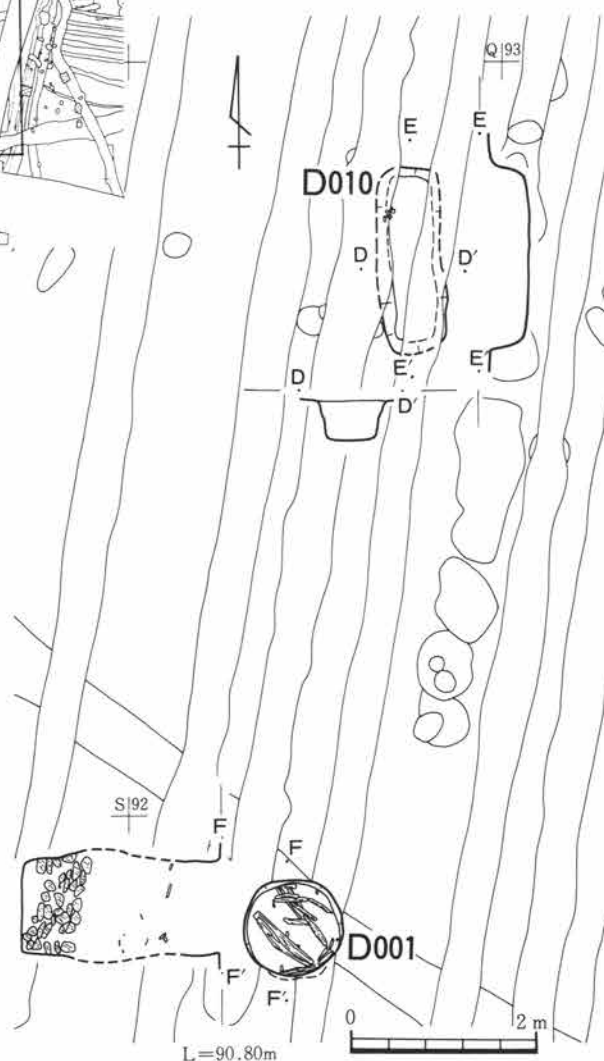
円形土坑D012は上径1.2m底径0.7m深1.2m、同D013は上径1.3m底径0.6m深1.1mである。井戸跡の可能性もある。

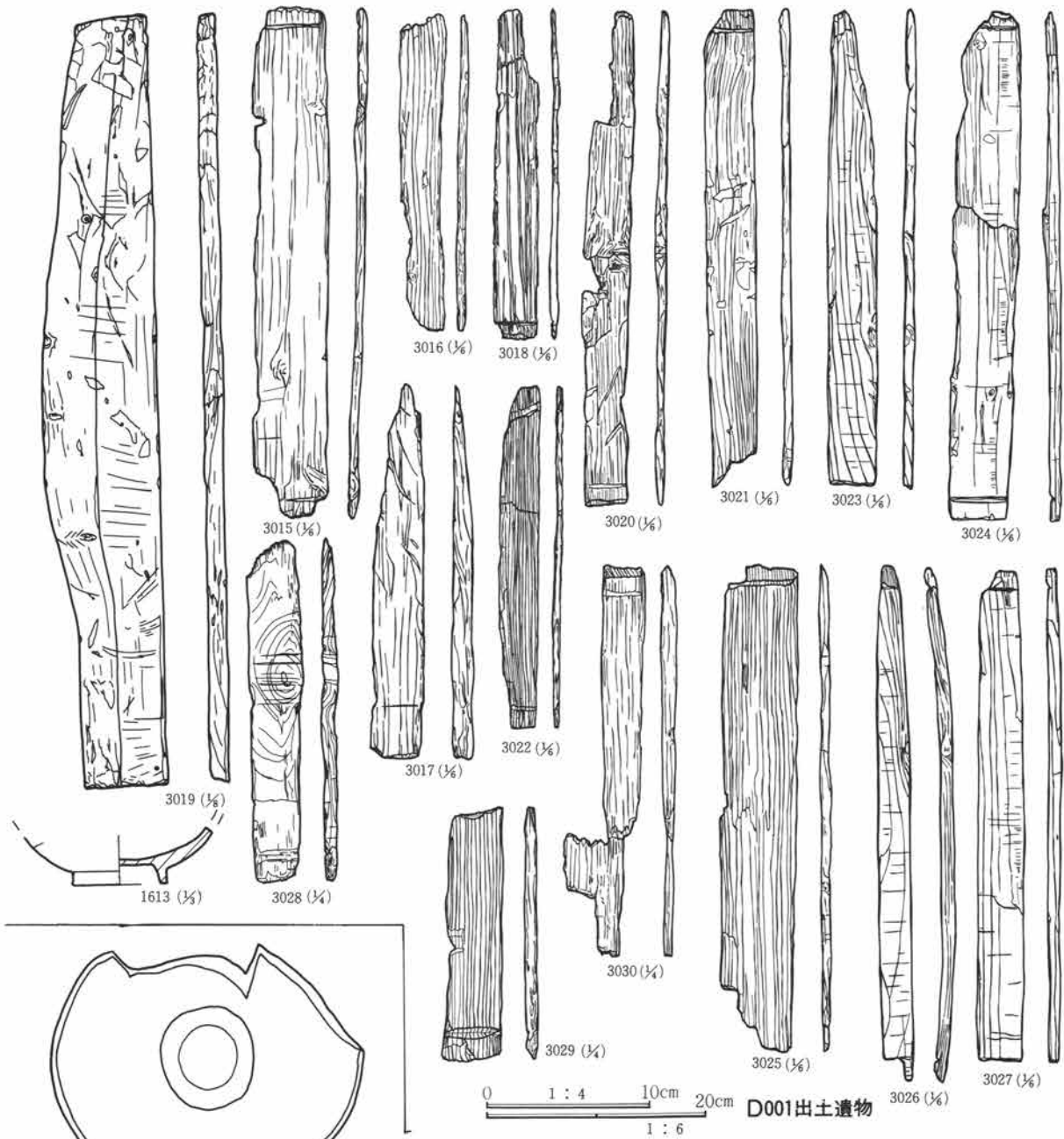
共に19世紀前半以前ののものであろう。

井戸跡D001遺構 短冊形土坑D010遺構
(PL.139,140)

共に畠跡N004の下から発見された。

井戸跡D001は、上径1.0m底径1.0m深2.3m底海拔88.7mである。下位に崩落痕がある。

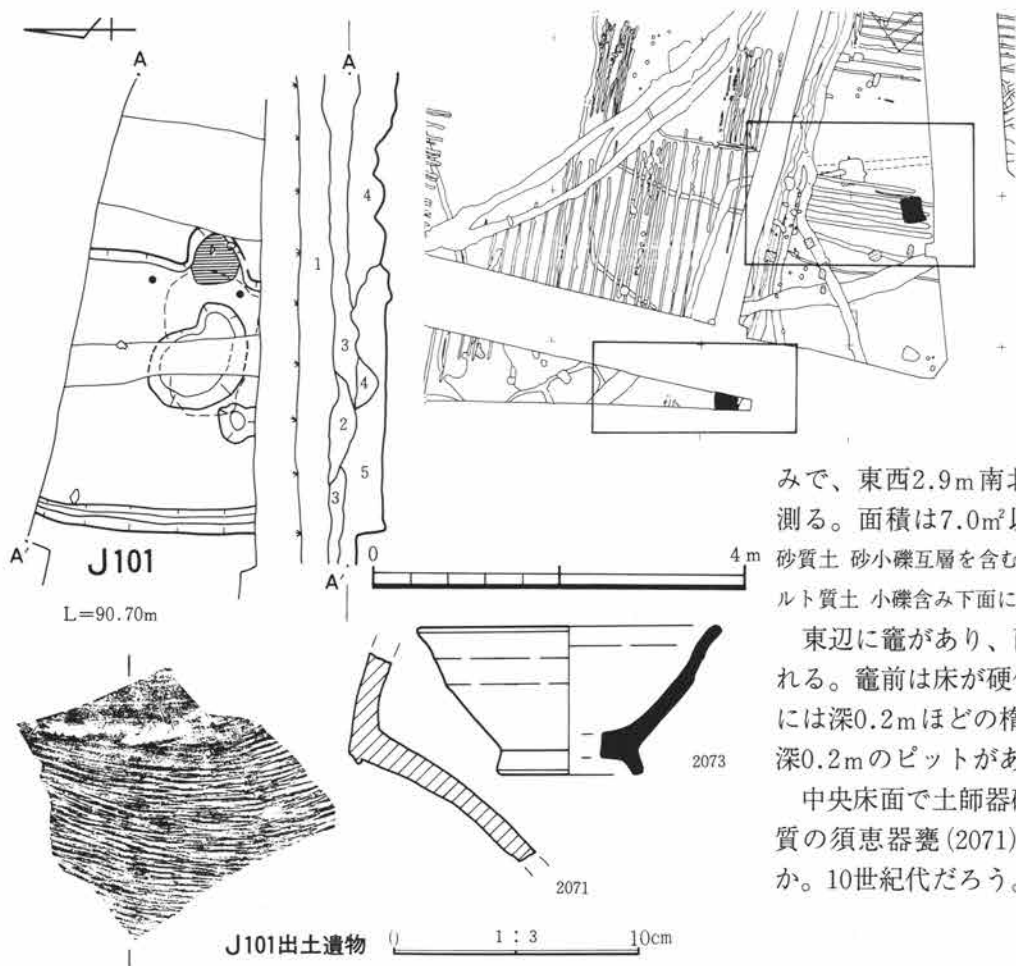




深0.6~1.0mの間に多量の板材が投棄され、また深1.5mから底までには、礫が投入されていた。

遺物は、肥前陶器灰釉碗(1613)があり、15点の板材はいずれも両端に狭いアテ痕があるスギ材で、長30~45cmほどのものが多い。これらの板材は箱形容器の部分と考えられるが、検出状態は雑然と投棄された感じで、井戸枠には見えなかった。水路跡N009より新しい。18世紀の使用である。

短冊形土坑D010は、長2.0m幅0.7m深0.4mを測る。人為的な埋土である。1.暗褐色砂質土 黄褐色土塊含みしまりない 口縁が大きく歪み墨書がある須恵器碗(2092)が出土したが、混入であろう。やはり18世紀代の遺構と推定される。



竪穴住居跡 J101遺構 (PL.140,141)

東側は水路跡M001に壊され、北側は現存道路で南側は調査範囲外になり、さらに中央は未命名の水路跡に切られる。調査は中央部の

みで、東西2.9m南北2.4m以上深0.3mを測る。面積は7.0㎡以上。1.耕作土 2.暗褐色砂質土 砂小礫互層を含む 3.暗褐色砂質土 4.褐色シルト質土 小礫含み下面に砂層 5.黒褐色粘質土

東辺に竈があり、西辺壁際に周溝が見られる。竈前は床が硬化しており、その床下には深0.2mほどの楕円形の土坑と径0.4m深0.2mのピットがあった。

中央床面で土師器碗(2073)が出土。陶器質の須恵器甕(2071)は埋土中のため混入か。10世紀代だろう。

竪穴住居跡J103遺構 (PL.140,141)

畠跡N002の下より検出。南北3.0m東西2.5m深0.2mほどで北東角が0.3m東へ張り出す。面積は約7.7㎡。1.暗褐色粘質土 2.褐色粘質土 黄褐色シルト土塊含む

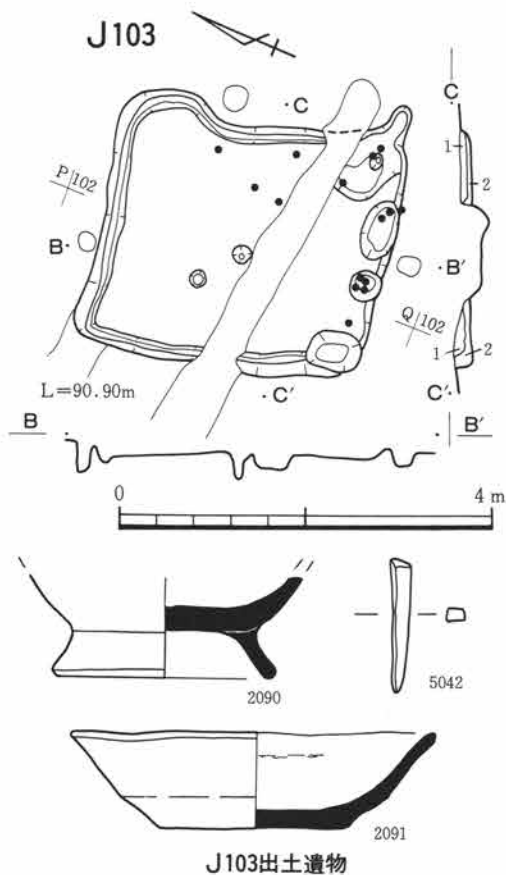
南東角に竈があり、南を除く三辺では周溝が確認された。中央に上径0.2m深0.3mの柱穴があり、その延長線上の壁外にやや浅い柱穴がある。南辺には壁際に深0.2mほどの掘込みが3箇所見られた。

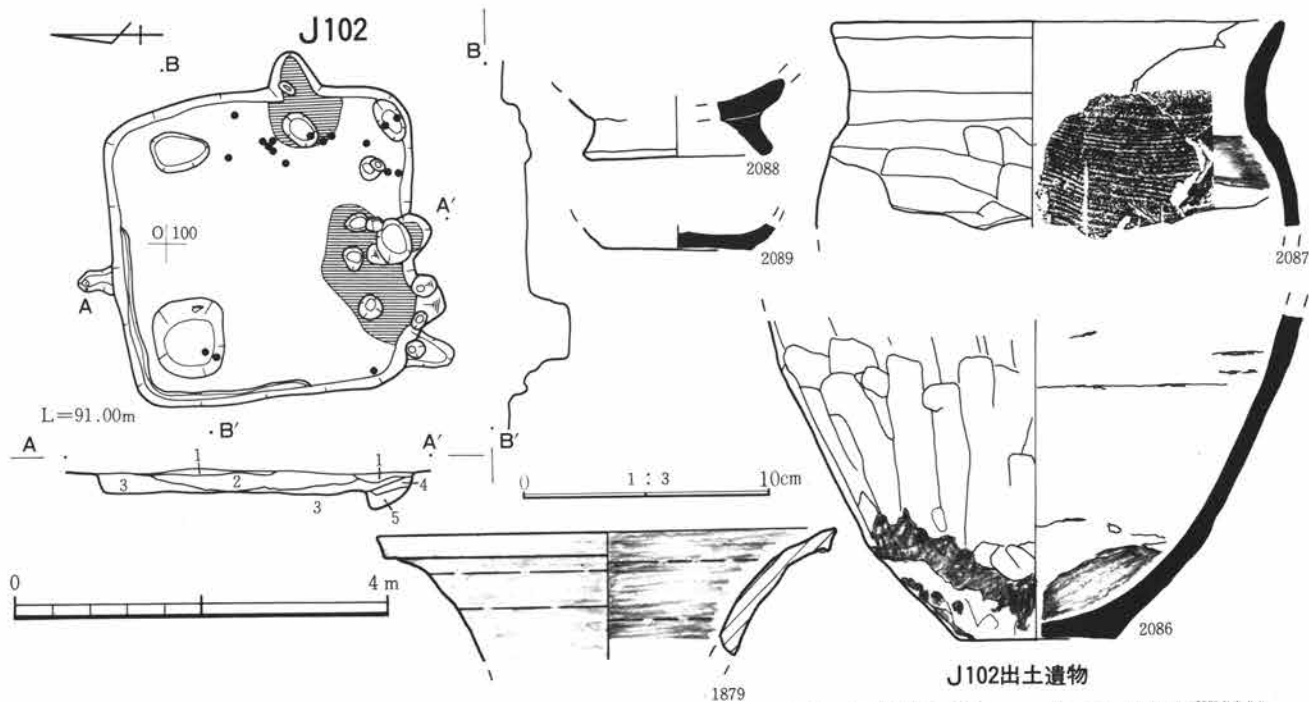
竈付近で土師器高足碗(2090)、南壁際掘込み中で同杯(2091)が見られた。鉄釘(5042)は確認面近くで混入だろう。11世紀代か。

竪穴住居跡J102遺構 (PL.141,142)

畠跡N022の下で竪穴住居跡J103の北西6mの位置で確認された。水路跡M013に切られるが、残存状態は良好。東西3.0~3.2m南北3.0~3.3m深0.2mの規模のやや台形ぎみの方形で、面積は約9.8㎡。

1.攪乱 2.暗褐色粘質土 3.褐色粘質土 炭化物含む 4.黒褐色粘質土 浅間C軽石多く含む 5.褐色粘質土 地山塊含む 竈は東辺南よりと南辺西よりの2箇所があり、前者が最終使用されていた。北西角に0.7×0.7×0.5mの方形の貯蔵穴があり、周溝も見ら

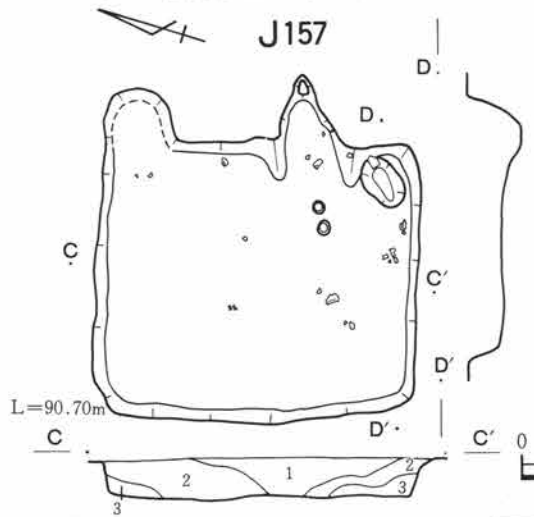
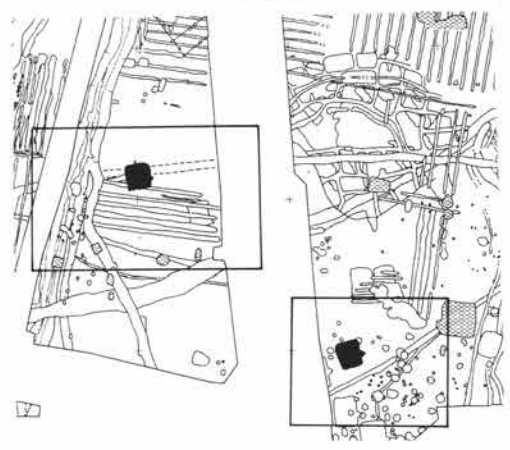




J102出土遺物

れた。南辺壁際には深0.1~0.2mのピットが5個弧状に並ぶが、柱穴とは決めにくい。同様の深さだが、北辺の壁外と南辺中央の壁にかかるものが、位置的に柱穴の可能性を考えられる。

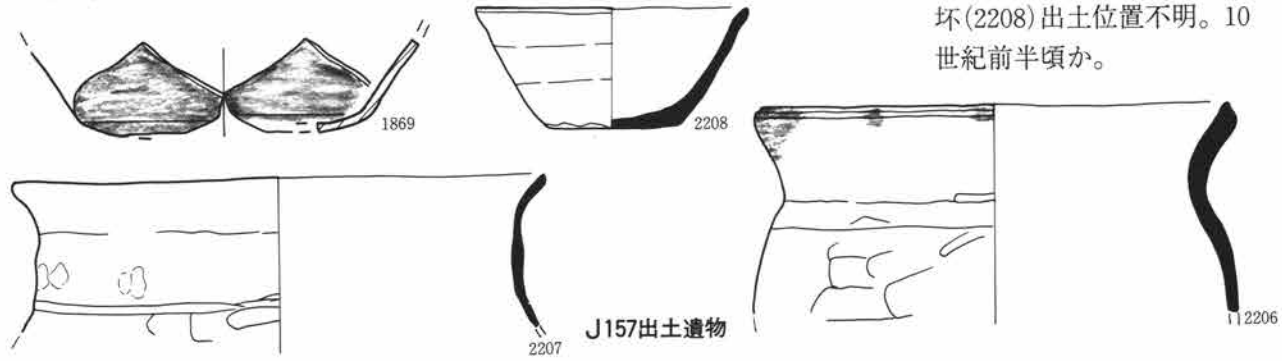
埋土3層から須恵器坏(2089)・土師器高足碗(2088)・同甕(2086)が出土。2層と新竈から土師器甕(2087)そして美濃灰釉壺(1879)は1層で混入。11世紀頃と推定される。



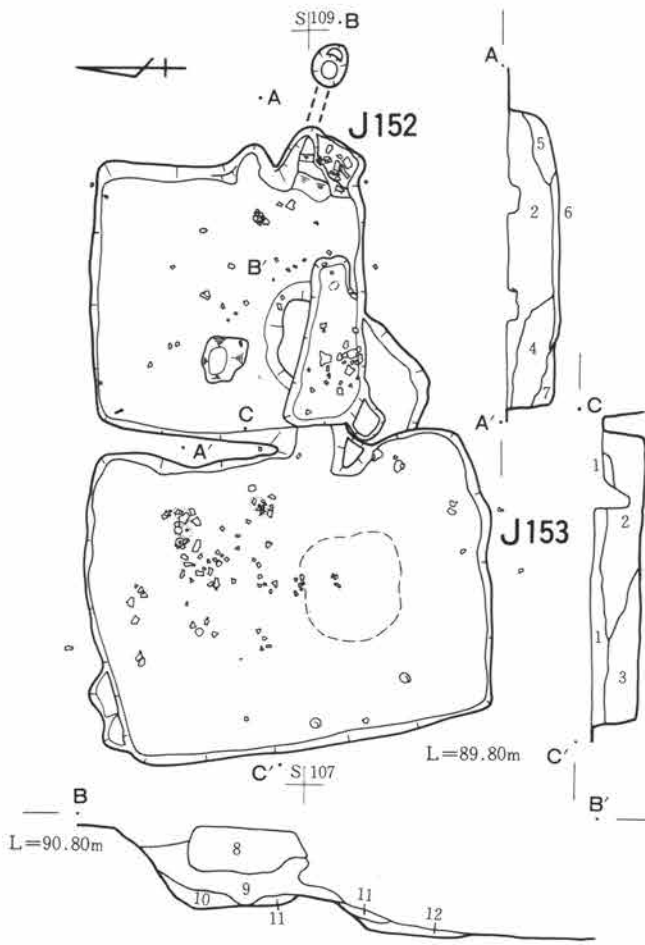
竪穴住居跡 J 1 5 7 遺構 (PL.4,142,155)

水路跡M151の北2mで確認。西2mに竪穴住居跡J158が近接。東西3.0m南北3.4m深0.4mの方形で、面積は10.2㎡。

東辺南側に竈が、南東角に深0.2mの貯蔵穴がある。北東角に円形の張り出しがある。1.黒色粘質土 浅間C軽石含む 2.黒褐色粘質土 にぶい黄色砂塊含む 3.黒褐色粘質土 同砂塊含有少ない 南壁際床面より猿投緑釉碗(1869)、同3層より土師器甕(2206)、1層中よりの土師器甕(2207)は混入。須恵器坏(2208)出土位置不明。10世紀前半頃か。



J157出土遺物



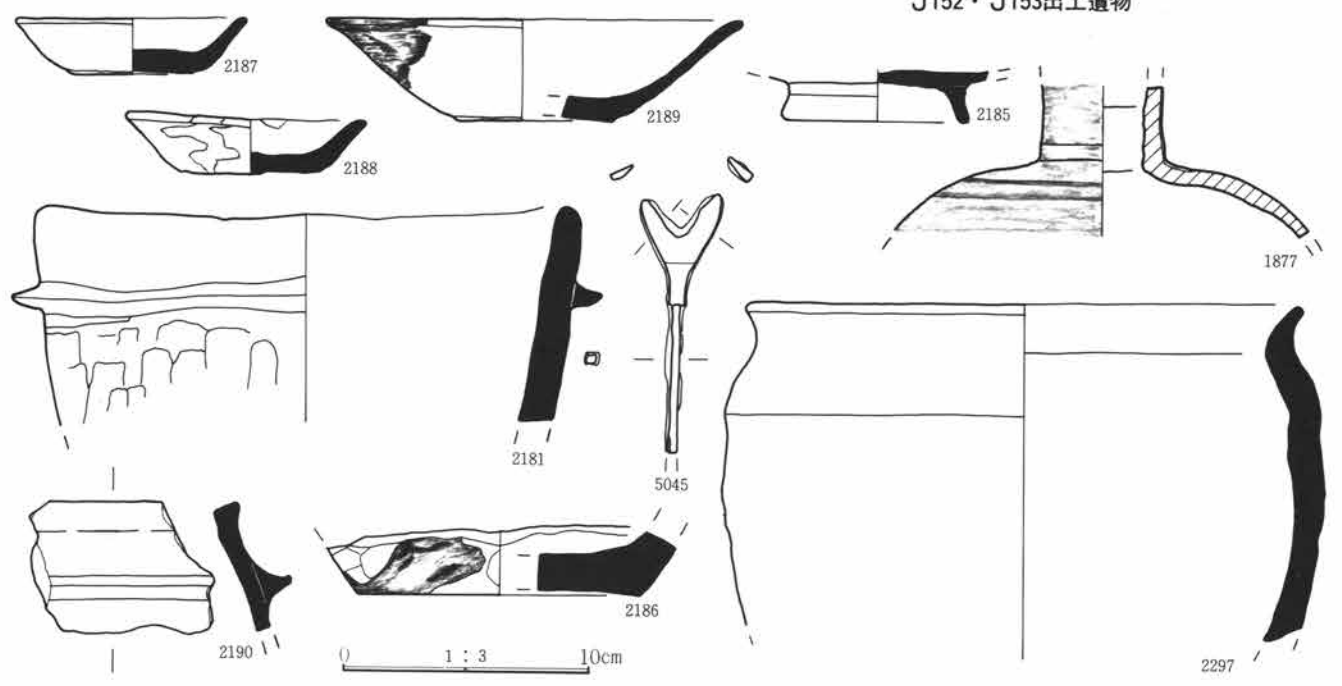
竪穴住居跡 J152, J153 遺構
(PL.4, 142~144, 146)

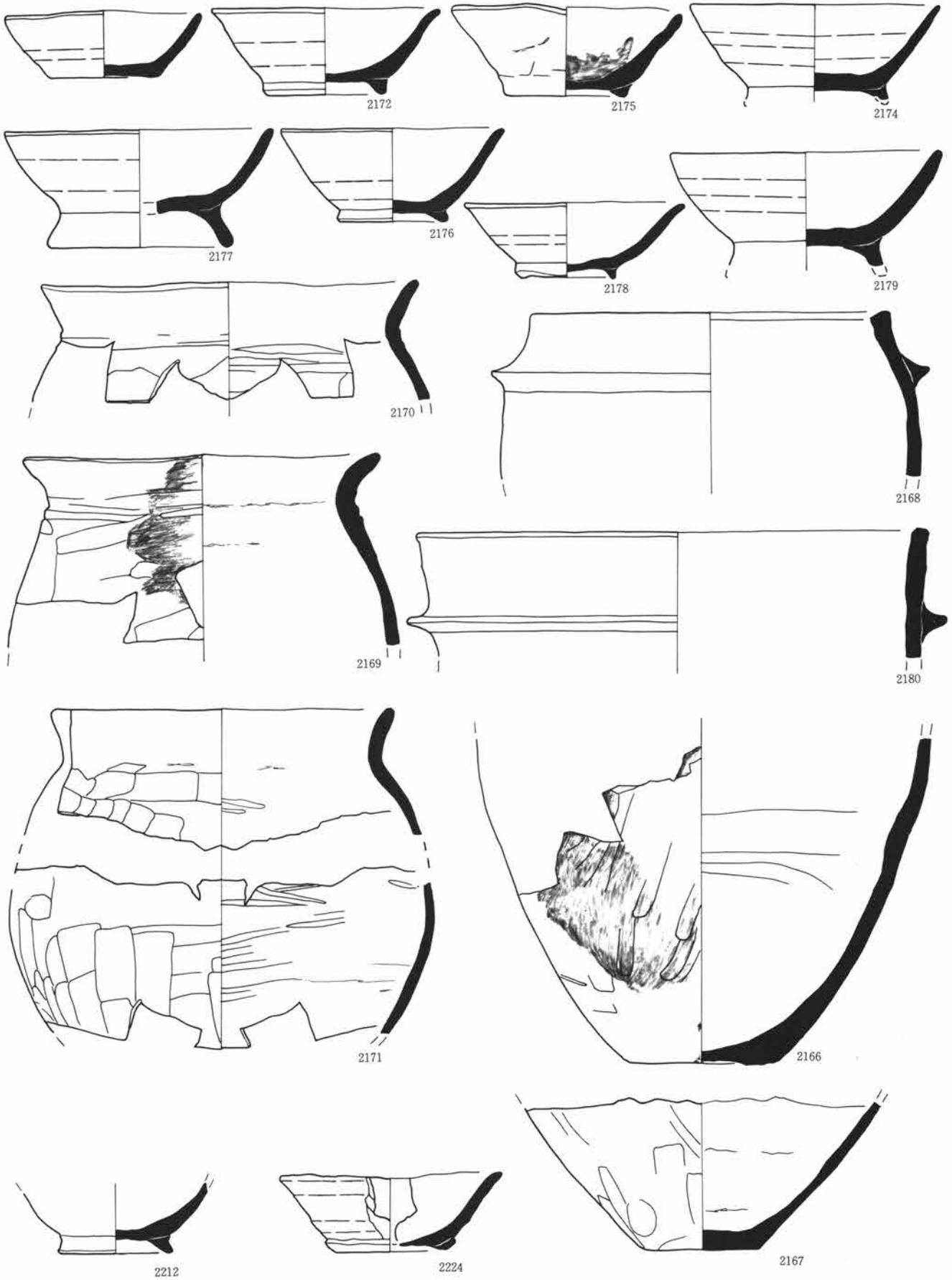
畠跡N107の下で確認された。東側のJ152が古く、西側のJ153が新しい。南側には浅い攪乱があった。
J153は、東西3.0m南北4.3m深0.5mの長方形で、北東角がやや膨れる。面積約12.3㎡。東辺南寄りに竈があり、2mほど掘り方が伸びる。調査時には新旧関係を誤ったため検出は不良。また竈前には径

1m深0.2mの隅丸方形の掘り方土坑がある。柱穴類は検出できなかった。

J152は、東西2.9m南北2.9m深0.5mの正方形で、面積は8.4㎡。東辺南寄りに竈があり、煙道が1.2mほどトンネル状に伸びた状態で検出された。焚き口右側はテラス状になっている。床中 (続P.202)

J152・J153出土遺物





J153出土遺物

0 1 : 3 10cm

II 調査成果

(P.200より) 央西寄りには径0.5m深0.25mのピットがあるが、柱穴かは不明。

1. オリーブ黒色粘質土 浅間C軽石含む 2. 黒褐色粘質土 浅間C軽石含む 3. 暗オリーブ褐色粘質土 黄橙色砂塊含む 4. 褐灰色粘質土 小礫・砂塊含む 5. 黒褐色粘質土 灰焼土炭化粒含む 6. 黒褐色粘質土 砂含む 7. 褐灰色粘質土 黒褐色土塊・小礫含む 8. 地山黒色粘質土 9. 黒褐色粘質土 焼土多く含む 10. 暗赤褐色粘質土 焼土含む 11. 焼土塊 12. 黒色灰

遺物は比較的出土量が多いが、大部分はそれぞれの廃棄後に投棄されたものである。また、前述のようにJ153の竈を調査時にJ152の一部として掘ったため、遺物の扱いがやや混乱した。それを整理すると次のようになる。

J153の竈からは、土師器皿類(2187~89)・同羽釜(2181,90)また竈右前の3層中より同碗類(2175,78,79)・須恵器碗(2172)、そして中央やや東寄りからは2層中より土師器坏(2173)、1層中より土師器碗類(2174,76,77,2212,2224)・同甕羽釜類(2166~71,80)が見られた。羽釜(2190)はJ152の可能性もある。

J152では、竈脇のテラスに焼成不良の土師器甕(2297)が見られた他は、いずれも2層中より土師器高足碗(2185)・同甕(2186)・猿投灰釉瓶(1877)・鉄鏃(5045)が検出された。

以上の中で1・2層から出土したものは、いずれも堅穴廃棄後の投棄遺物だが、それは浅間B軽石の降下で埋没した重複する畠跡N107よりは古い時期のものである。そのため、やや混乱はあるが、J153は11世紀代、J152はそれよりやや古い10世紀後半頃と考えたい。

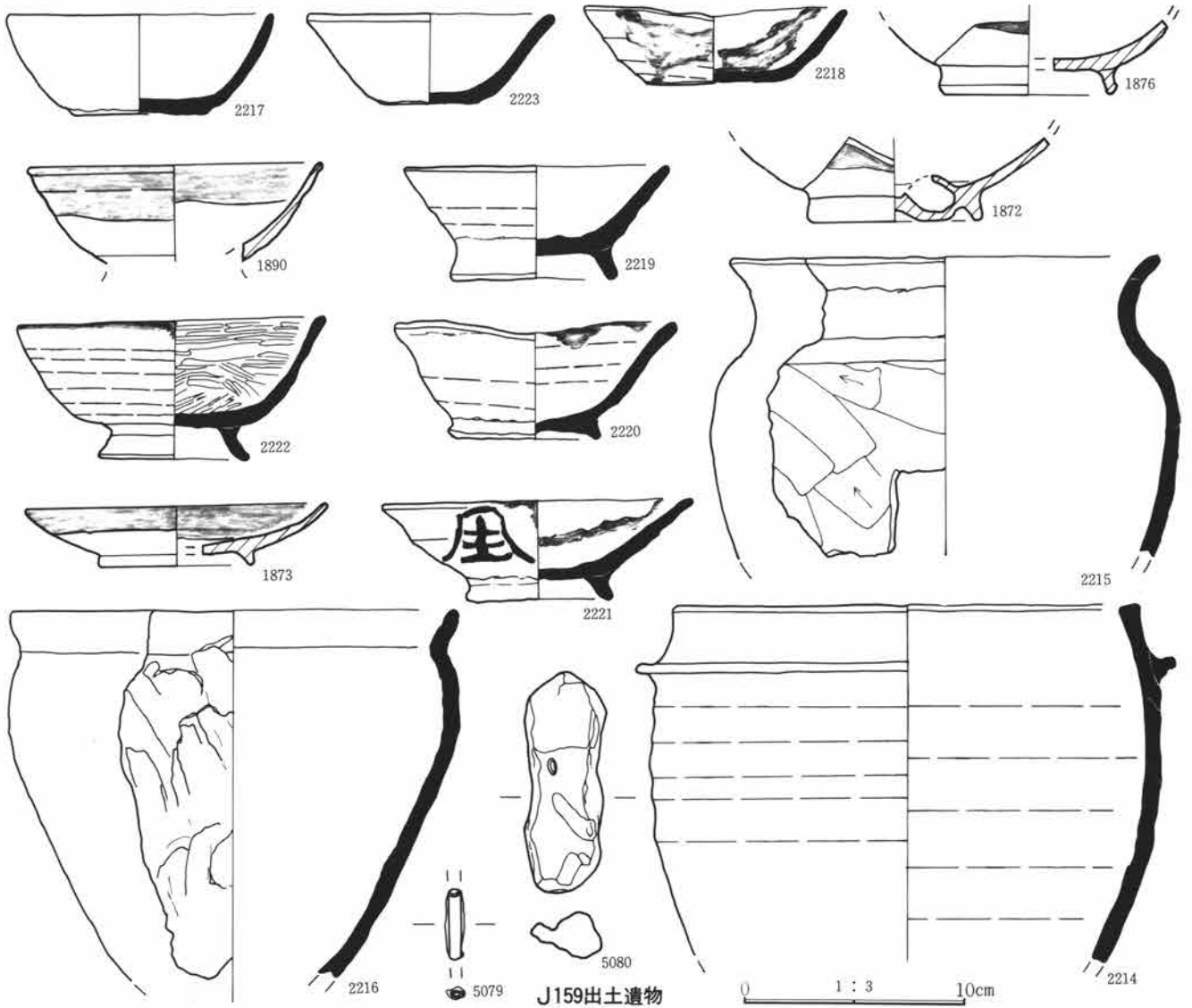
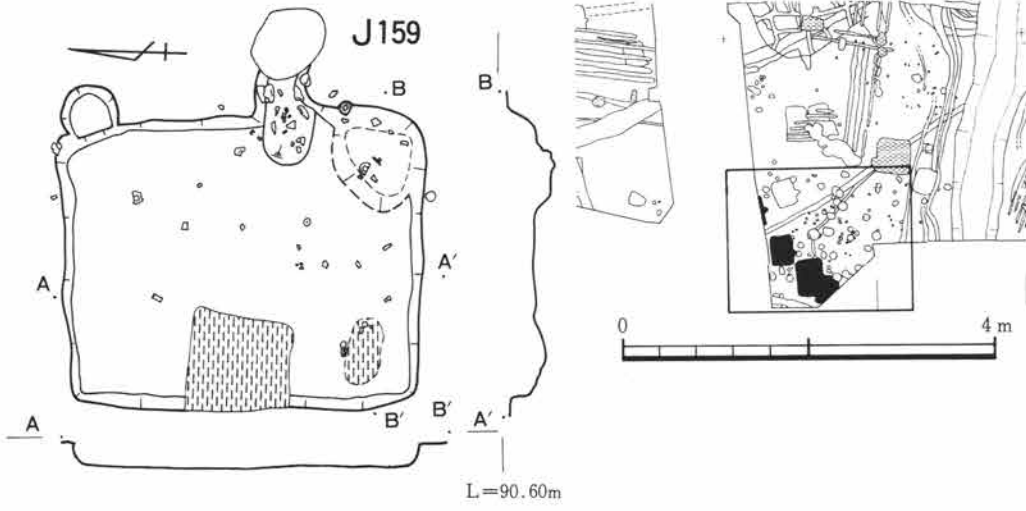
堅穴住居跡 J 1 5 9 遺構 (PL.4,145)

水路跡M151の南1.5mで確認された。南東側0.5mで堅穴住居J160が北西側2.0mで同J158が近接する。また円形土坑D239が中央でD252が竈脇で重なり、この堅穴より新しい。

東西3.1~3.2m南北3.8~3.9m深0.25mの長方形で、面積12.1m²。北東角に径0.6mの浅い円形部分があるが、張り出しかは不明。南東角に径0.8m深0.2mの貯蔵穴がある。柱穴は不明。埋土状態は、水平に上下2層が堆積していたが、土質の記録はできなかった。

遺物は、主に竈と貯蔵穴付近から出土した。下層からは、猿投灰釉碗(1890)・美濃灰釉皿(1873)・土師器坏(2217)・同皿(2221)・須恵器羽釜(2214)そして短冊形鉄製品(5080)が見られた。2221には墨書がある。上層からは、須恵器碗(2220)・黒色土器碗(2222)・土師器坏(2223)・同高足碗(2219)・同甕類(2215,16)そして堅穴壁外から猿投灰釉碗(1872)・土師器坏(2218)、また出土位置不明で猿投灰釉碗(1876)と棒状鉄製品(5079)が見られた。

以上のうち下層の遺物より、10世紀中頃の年代が考えられる。2221の風構え状の墨書については、まどめの高島論考(P.238)を参照されたい。短冊形鉄製品は摩耗しており、攪乱に接しての出土のため、混入の可能性もある。

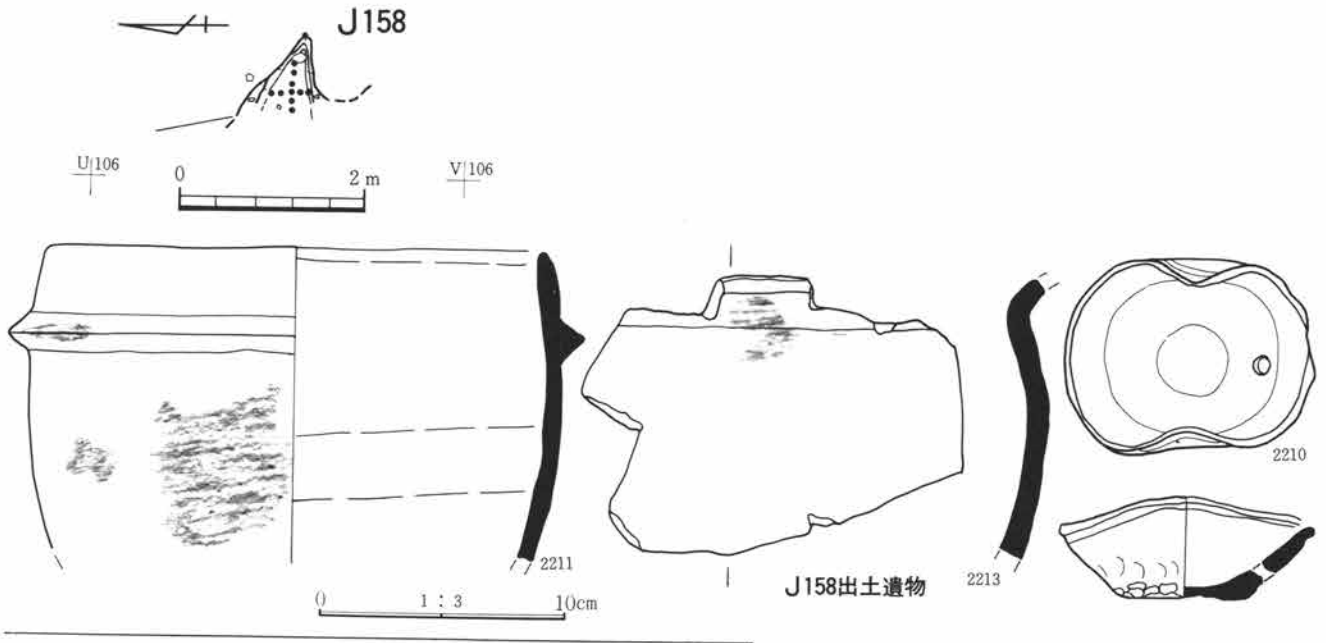


II 調査成果

竪穴住居跡 J 1 5 8 遺構 (PL.145,146)

竪穴住居跡 J157の西1.5m、J159の北西2.0mで東辺の竈先端部のみが検出された。中心部は現存道路のため、調査できなかった。J159との間には、水路跡M151が走っている。

須恵器羽釜(2211)・同甕(2213)・土師器有孔耳皿(2210)が見られた。10世紀後半頃か。

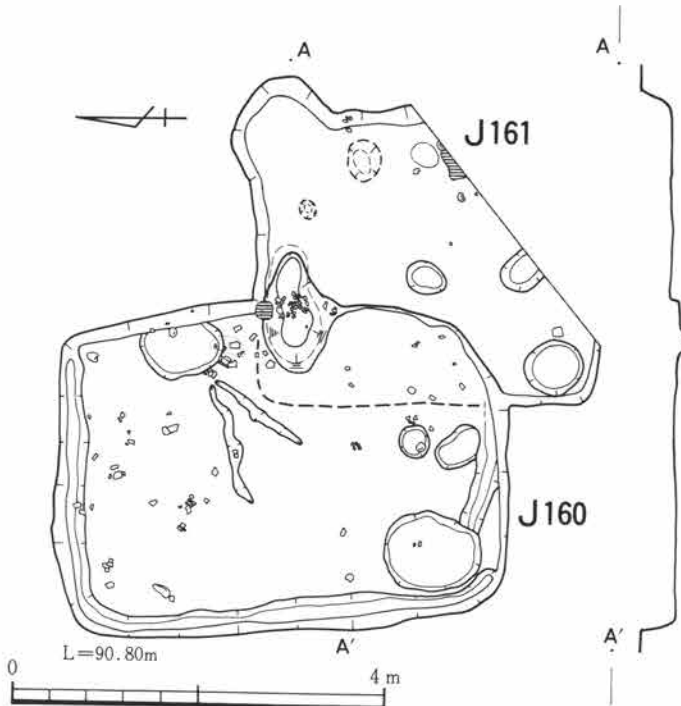


竪穴住居跡 J 1 6 0 , J 1 6 1 遺構 (PL.4,146,147)

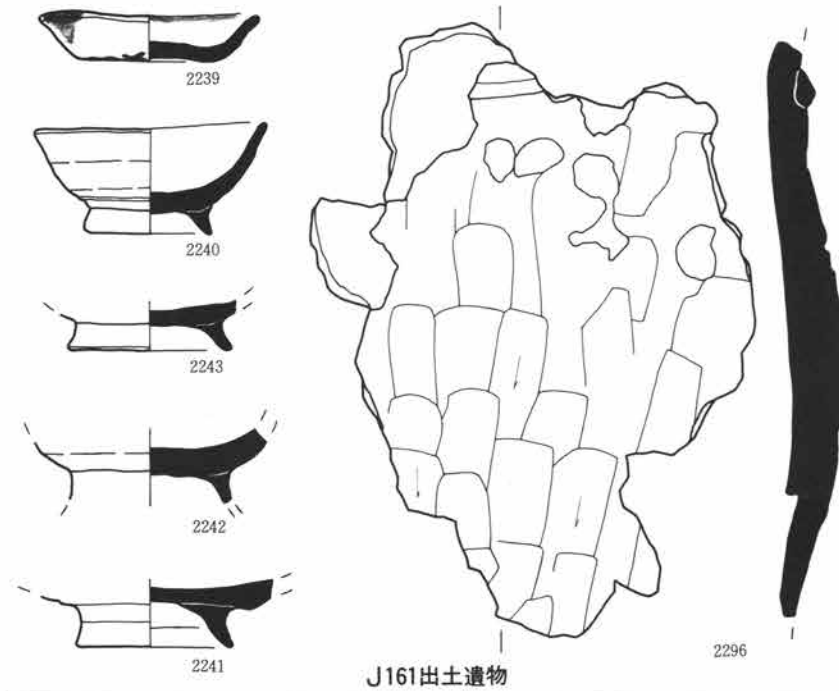
調査範囲南端の水路跡M143の1m北で重複して確認された。北西側で竪穴住居跡 J159、北側で水路跡M152と1m弱で近接している。円形土坑D266は、J160と北側で重なるが、関係不明。

北西側のJ160が古く南東側のJ161が新しいが、調査時には反対に誤認した。埋土は共に浅間C軽石を含む黒褐色粘質土。

(続P.206)

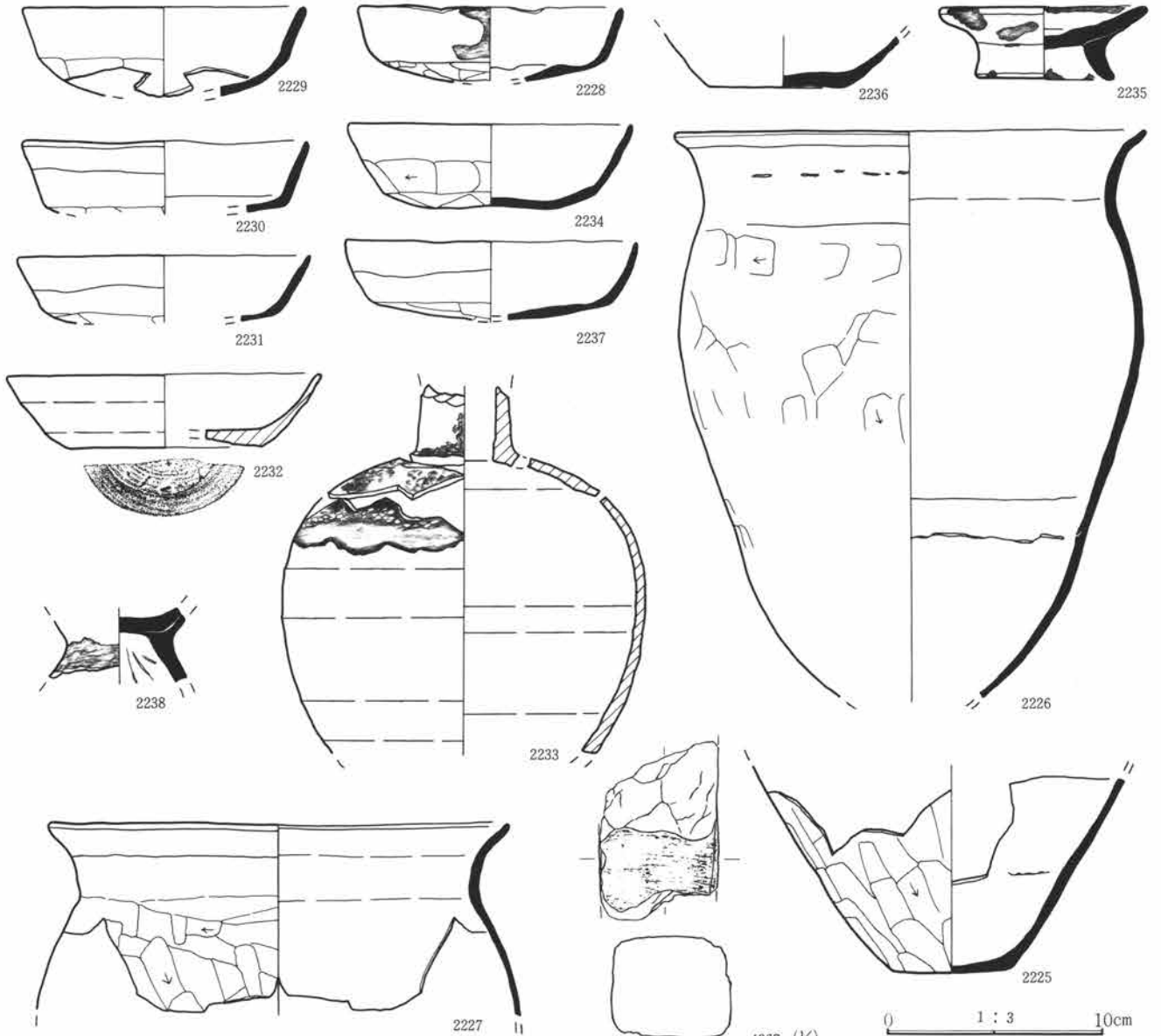


3 東側部分



J161出土遺物

2296



J160出土遺物

4367 (1/6)

0 1 : 3 10cm

II 調査成果

(P.204より) J161は、南東側が調査範囲外になるが、東西3.2m南北3.8m深0.35mの長方形で北東角に直径1mの半円形の張り出しがある。面積は、約13㎡。竈は調査範囲外にあるだろう。いくつかの浅い掘り込みが見られるが、柱穴とは考えにくい。張り出し部とは段差がない。

竈想定部分の前の床面で焼土と共に未焼成の土師器羽釜片(2296)が、見られた。また掘り方から土師器高足碗(2243)、床より10cm以内から同(2240~42)・同小皿(2239)が竈想定部分前面と西壁際で出土した。11世紀代と考えられる。

J160は、東西3.5m南北4.9m深0.4mの長方形で、面積は約17.2㎡。東辺中央に竈がある。竈は、J161に切られているため、基底部分が検出されたのみである。

また東辺以外に周溝が見られる。南辺は壁からやや離れる。南辺中央内よりに径0.3m深0.2mの柱穴状のものが、その他に東辺に深0.2mと南東角に深0.15mなどの掘り込みがある。

遺物は、上記柱穴状の掘り込みから直方体の石(4367)が、床より10cm以内で西側中央で猿投灰釉壺(2233)が、竈左と北壁際で土師器坏(2228,31,34,37)そして竈内より同甕(2225~27)が見られた。また上層では須恵器坏(2236)と土師器高足小皿(2235)が混入している。埋土中で他に須恵器坏(2232)と土師器坏(2229,30)が出ている。以上により、9世紀代の時期が考えられる。

竈穴住居跡 J 1 5 4 遺構 (P.207 PL.147)

水路跡M109に半円形に北東以外を囲まれた範囲で確認された。最小2mの間があいている。

南西側で5cm程度の壁が検出されただけで、東側は僅かな掘り込みがあったにすぎず、北側は全く検出できなかった。そのため東西約3m南北3m以上で、面積は9㎡以上と推定される。1.灰黄褐色粘質土 2.暗黄褐色粘質土 1層塊が地山土と混在

東辺に僅かに竈の突起した痕跡があったが、内部は深0.2~0.3mの不定形の床下掘り込みのみしか検出できなかった。竈前の床面より陶器質の須恵器甕(2196)そして床下より墨書のある土師器碗(2191)が、見られた。9世紀代と考えられる。

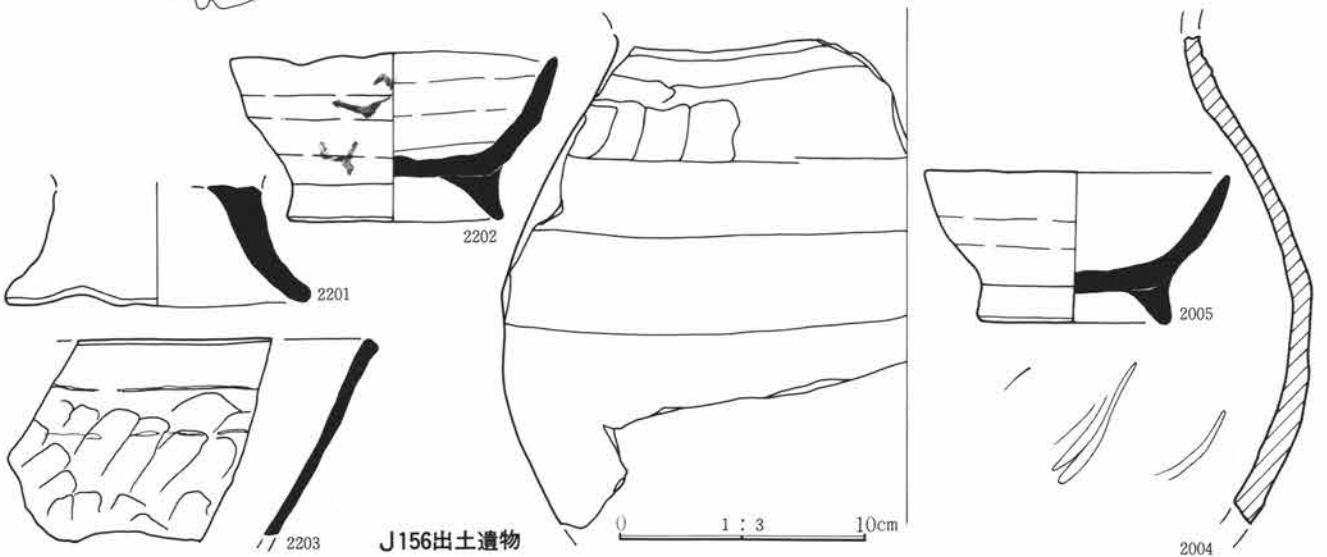
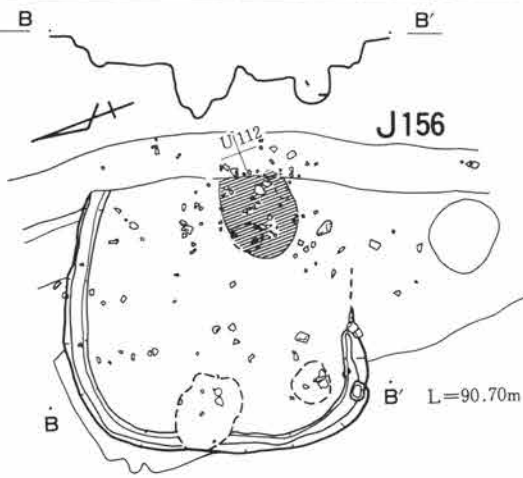
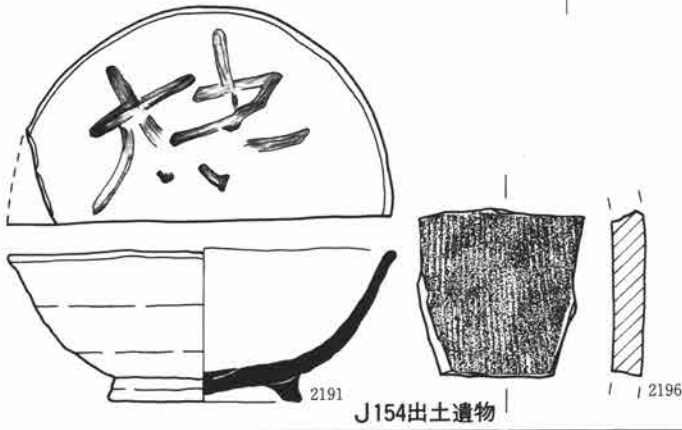
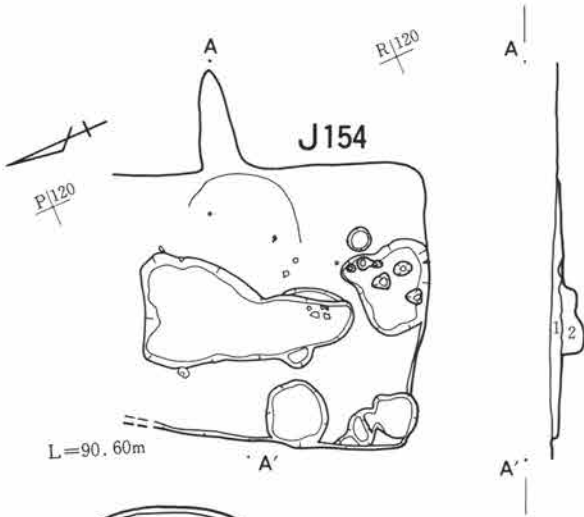
竈穴住居跡 J 1 5 6 遺構 (P.207 PL.147,148)

旧河道M202の右岸南約2m西で確認された。東側で道路跡X005に壊され、西側では水路跡M144と重なる。

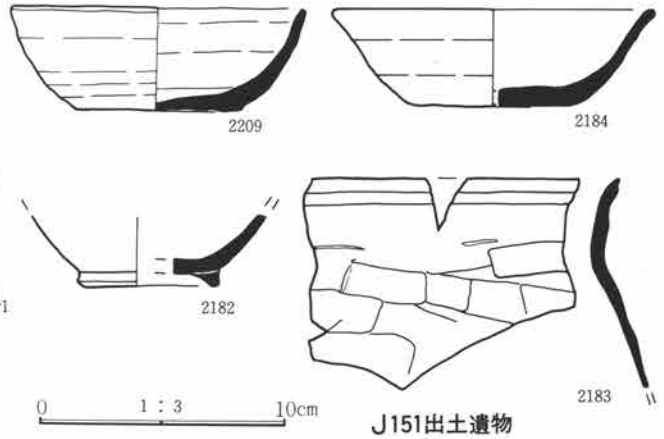
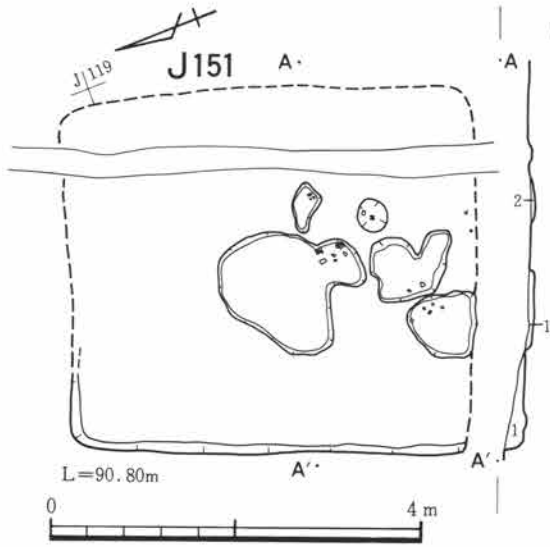
東西3.0m以上南北3.2m深約0.3mで、面積は9.2㎡以上である。X005に切られた東辺に竈があったと思われ、焼土が散っていた。北辺から南西角まで周溝が検出されたが、やや深い床下の掘り込みを除いて、確実な柱穴などは検出できなかった。

陶器質の須恵器壺(2204)・土師器台付甕(2201)・同鉢(2203)・同高足碗(2202,05)が、いずれも床下の掘り込み中に散乱していた。11世紀代と考えられる。

3 東側部分



II 調査成果



竪穴住居跡 J 1 5 1 遺構 (P.208 PL.148)

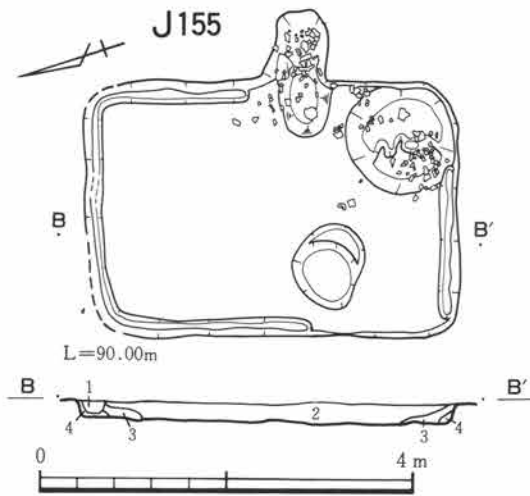
旧河道M202の左岸約2m東で確認された。水路跡

M110が東側を切っている。

僅かに西壁北西角が残っていただけで、正確な規模は不明だが、南北4.3m程度東西は3.5m以上かと推定される。そのため面積は、約15㎡以上だろう。1.黒色粘質土 2.黒褐色粘質土 焼土炭化物少量含む

不定形の5cm程度の浅い掘り込みがいくつか見られたが、そこから須恵器坏(2184,2209)・同瓶類(2182)そして土師器甕(2183)が検出された。

9世紀代と考えられる。



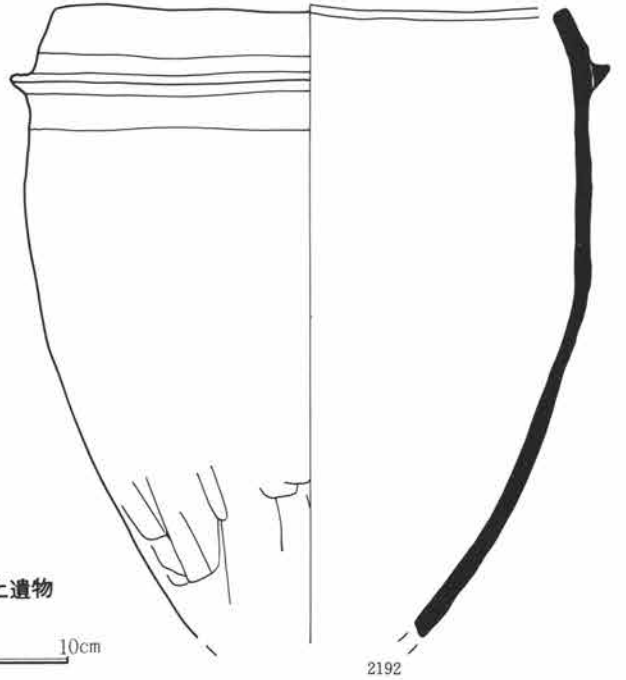
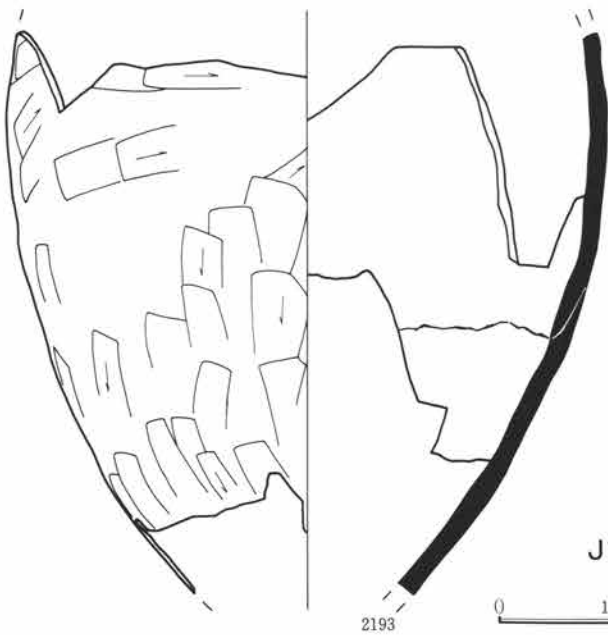
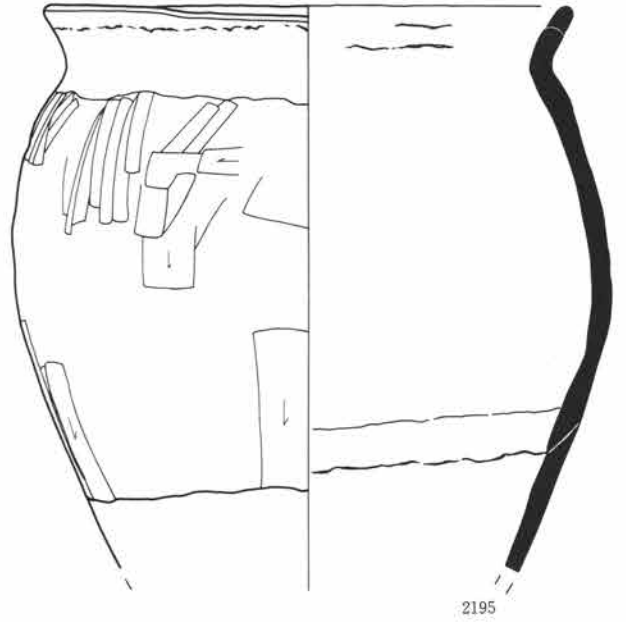
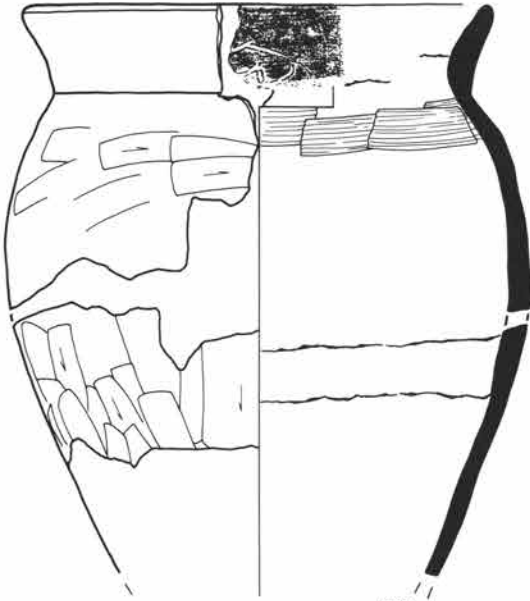
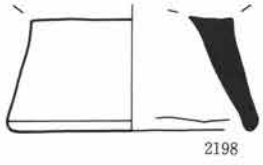
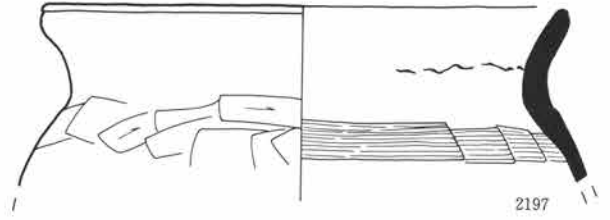
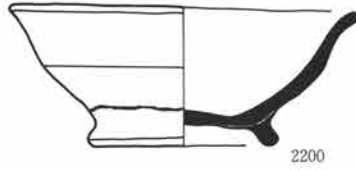
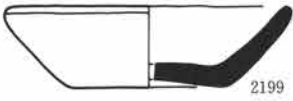
竪穴住居跡 J 1 5 5 遺構 (PL.148,149)

旧河道M201の右岸6m西で確認された。畠跡N105とN106の下で、水路跡M154及びM150と重なるが関係不明。西側1mを水路跡M109が走っており、同水路の分岐が北から東にも回っている点は、北に7m離れた竪穴住居跡J154と同様のあり方である。

東西2.8m南北4.0m深0.2mの長方形で、面積は11.2㎡である。東辺に竈が見られ、南西角を除いて周溝が回っている。南東角には径1.2m深0.3mの貯蔵穴がある。中央西寄りには床下の掘り込みがある。1.暗灰黄色砂質土 砂多く含む 畠跡N105埋土 2.黒褐色粘質土 浅間C軽石含む 3.にぶい黄褐色粘質土 砂少量含む 4.黒褐色粘質土 砂含む

竈と貯蔵穴に散乱した状態で、須恵器羽釜(2192)・土師器甕類(2193~95,97,98)・同碗(2200)・同小皿(2199)が出土した。10世紀代と考えられる。

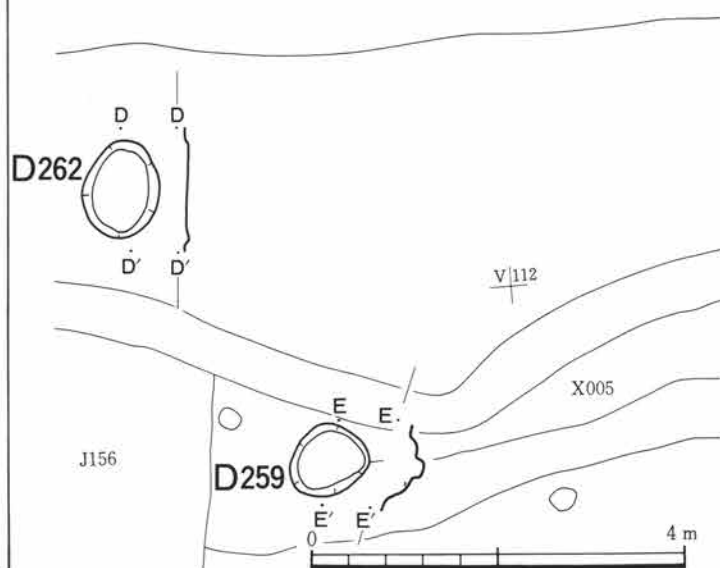
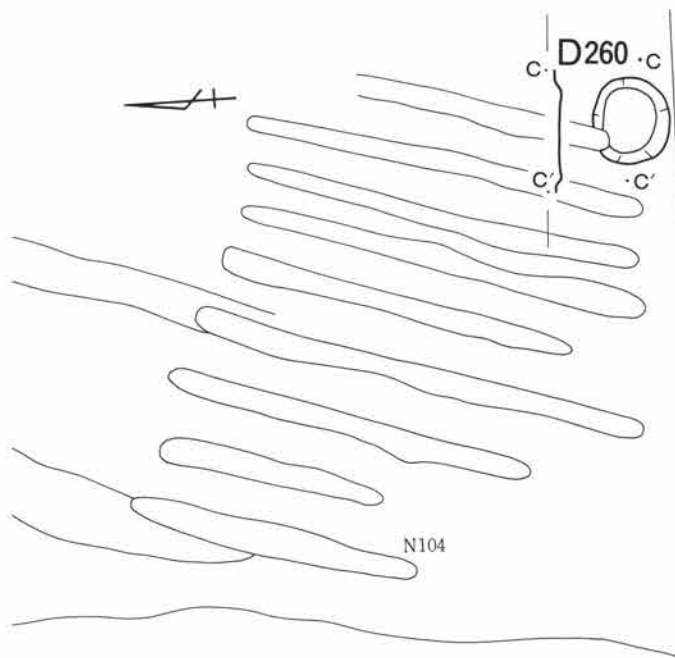
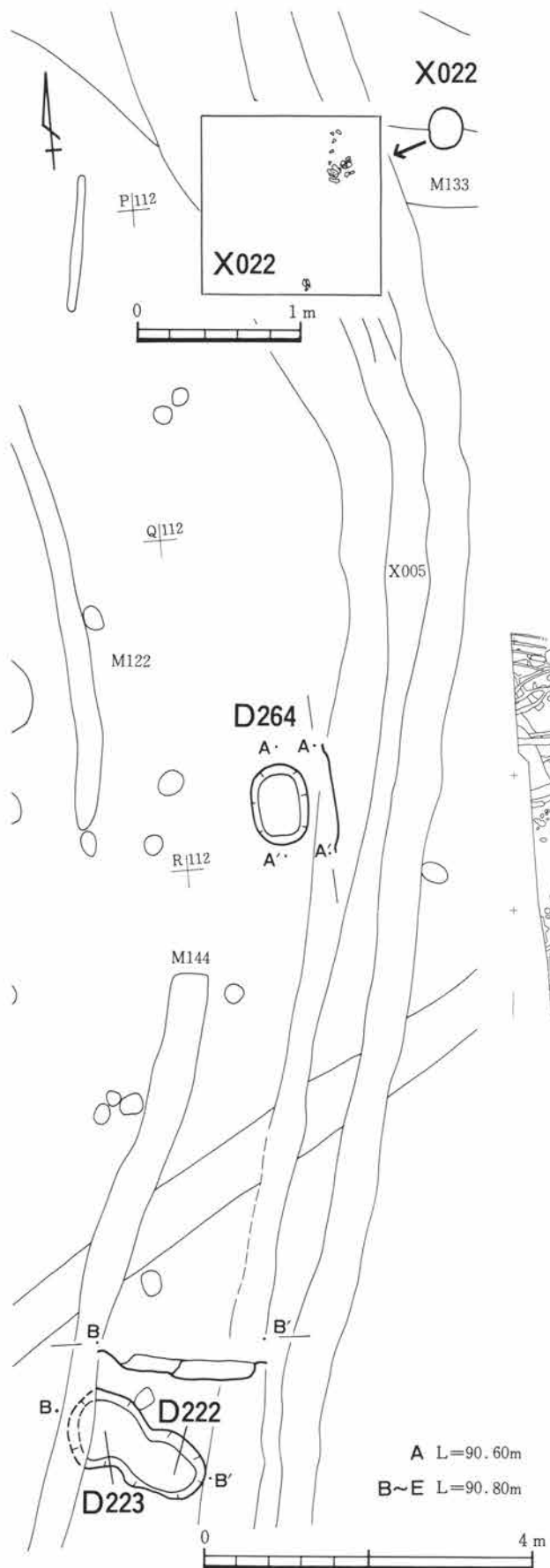
3 東側部分

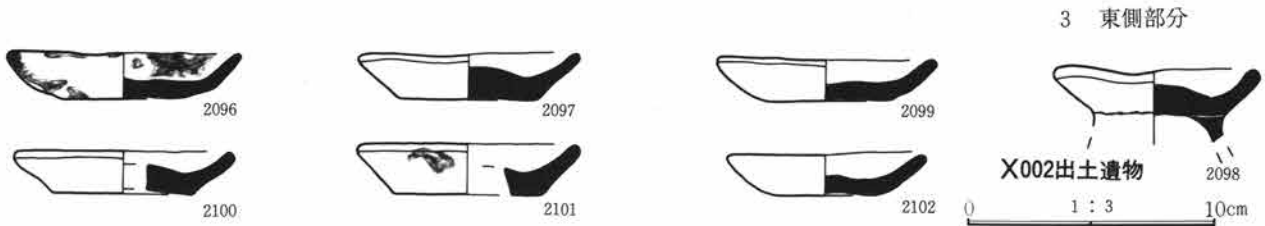


J155出土遺物

0 1 : 3 10cm

II 調査成果





小皿廃棄場跡X022遺構 土坑D222, D223, D264遺構
(PL.149,150)

小皿廃棄場跡X022は、旧河道M202の右岸2m西、道路跡X005の1m東で確認された。

水路跡M133の埋土中に7個体以上の粗製の土師器小皿(2096~2102)が集中して廃棄されていた。特定の掘込みなどは検出できず、M133の埋没土中にまとめて投げ捨てられた状態で出土した。

高台のある碗形の2098も含めてほとんど同型の小皿で、内外面に煤の付着していたものがいくつか見られる。深さに比べ底部がかなり厚手に作られ、口縁の歪みも大きい。

何らかの信仰儀礼に伴う廃棄場なのかは不明だが、最も近い竪穴住居跡からは20m離れている。11世紀代のものと考えられる。

土坑D222は、径1.2×0.7m深0.2mの楕円形で、道路跡X005に接する。それより新しい土坑D223は径1m深1.5mの円形で、水路跡M144より古い。埋土の記録はとれなかった。M144は11世紀後半以後であり、X005も同様であるため、これらの土坑は11世紀前半以前だろう。

土坑D264は、径0.9×0.7m深0.1mの楕円形で、道路跡X005に接する。顕著な特徴はない。

土坑D259, D260, D262遺構 (PL.149,151)

これらの土坑は、いずれも顕著な特徴も遺物もない。

土坑D259は、径0.8×0.7m深0.3mの不整形で底中央がピット状にくぼむ。道路跡X005と重なるが、関係は不明。

土坑D262は、D259の北東3mにあり、径1.0×0.8m深0.1mの楕円形である。

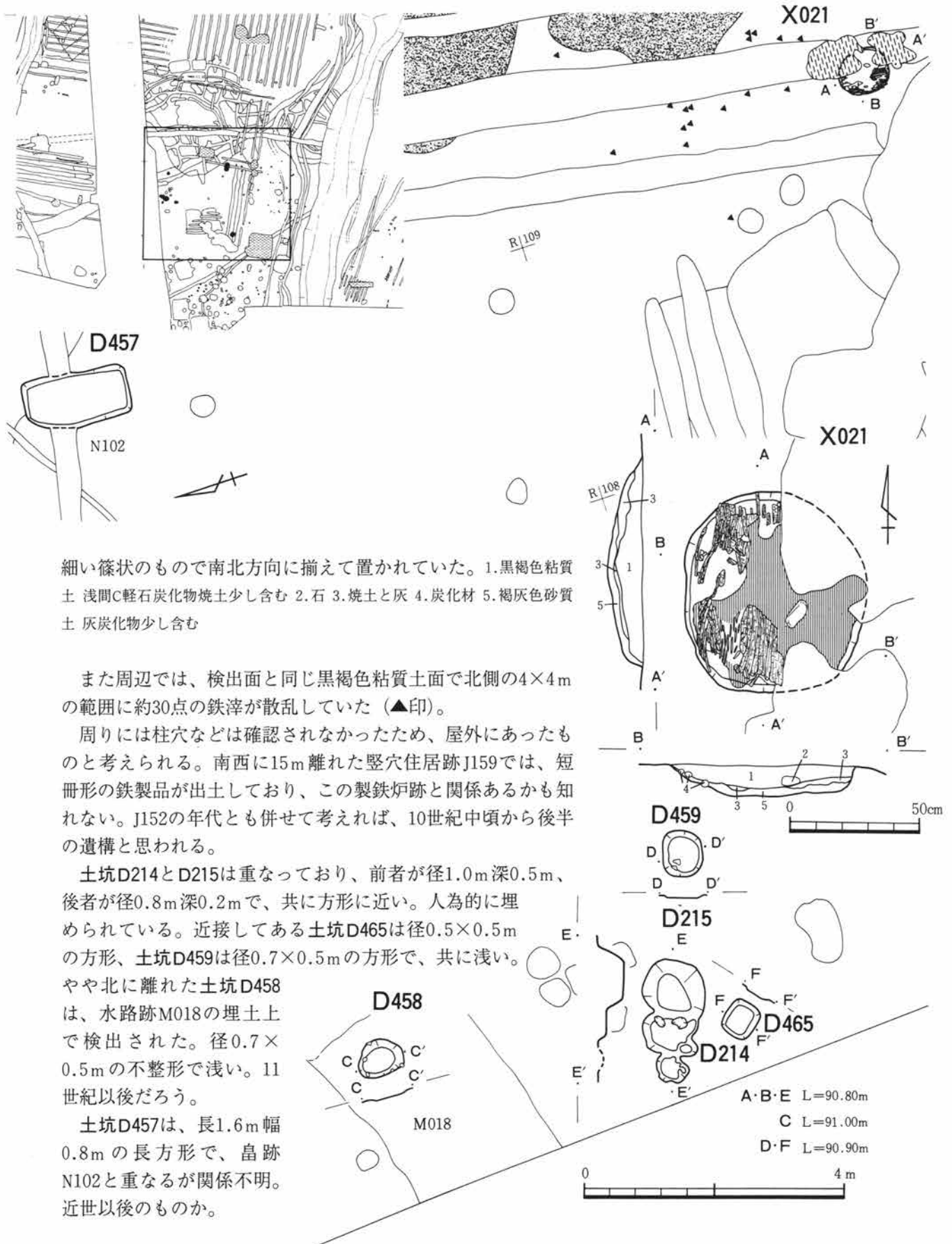
土坑D260は、畠跡N104の下から検出された。径0.9×0.8m深0.1mの楕円形。

製鉄炉跡X021遺構 土坑D214, D215, D457~D459,
D465遺構 (P.212図 PL.151)

製鉄炉跡X021は、畠跡N013の下で竪穴住居跡J152の東3.5mの位置で検出された。検出面は、J152と同様の浅間B軽石純層の10cmほど下の面である。

径0.8×0.7m深0.15mの楕円形の掘り込み内に、焼土とその下に炭化材層が見られた。炭化材は、

II 調査成果



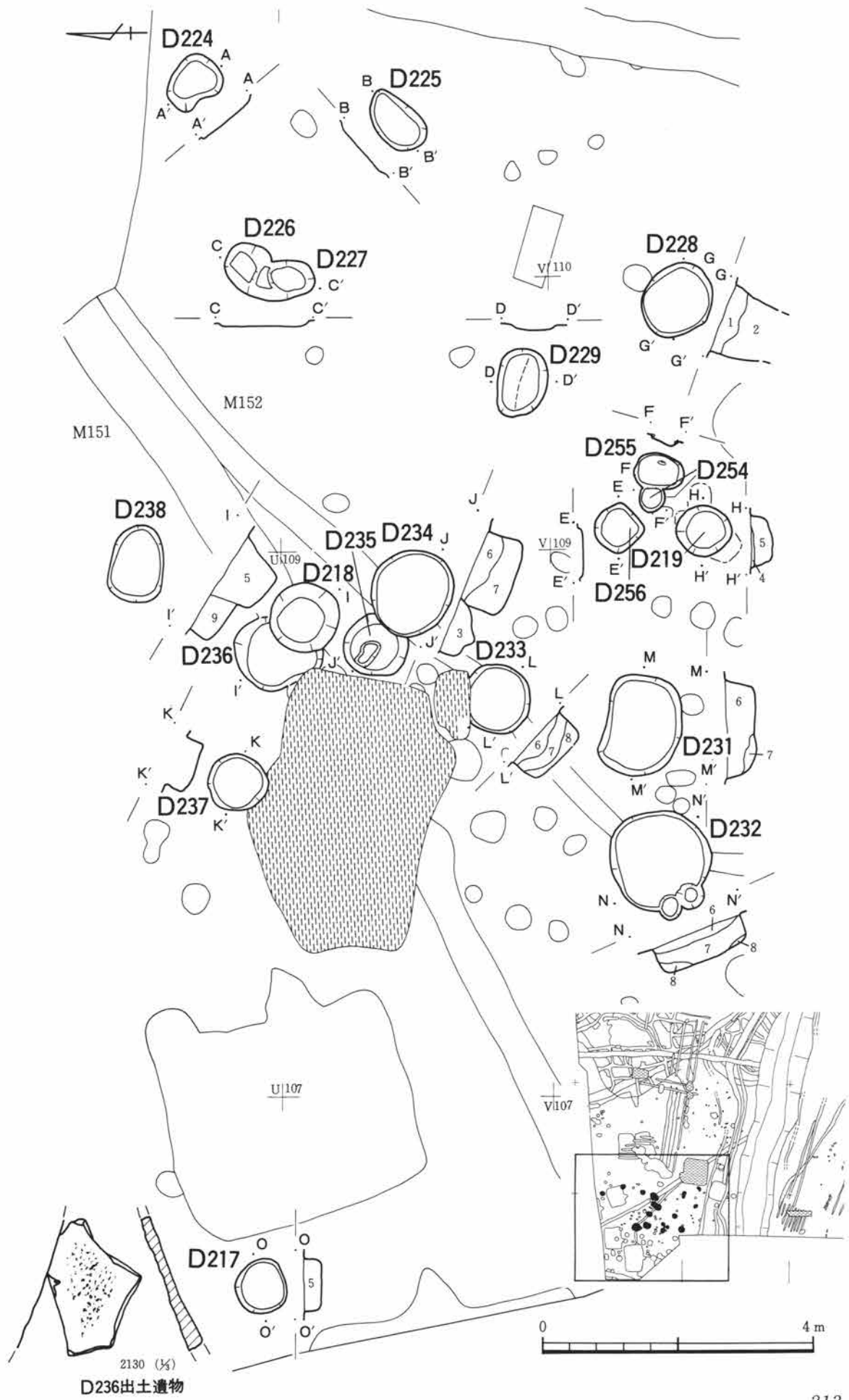
細い篠状のもので南北方向に揃えて置かれていた。1.黒褐色粘質土 浅間C軽石炭化物焼土少し含む 2.石 3.焼土と灰 4.炭化材 5.褐灰色砂質土 灰炭化物少し含む

また周辺では、検出面と同じ黒褐色粘質土面で北側の4×4mの範囲に約30点の鉄滓が散乱していた(▲印)。

周りには柱穴などは確認されなかったため、屋外にあったものと考えられる。南西に15m離れた竪穴住居跡J159では、短冊形の鉄製品が出土しており、この製鉄跡と関係あるかも知れない。J152の年代とも併せて考えれば、10世紀中頃から後半の遺構と思われる。

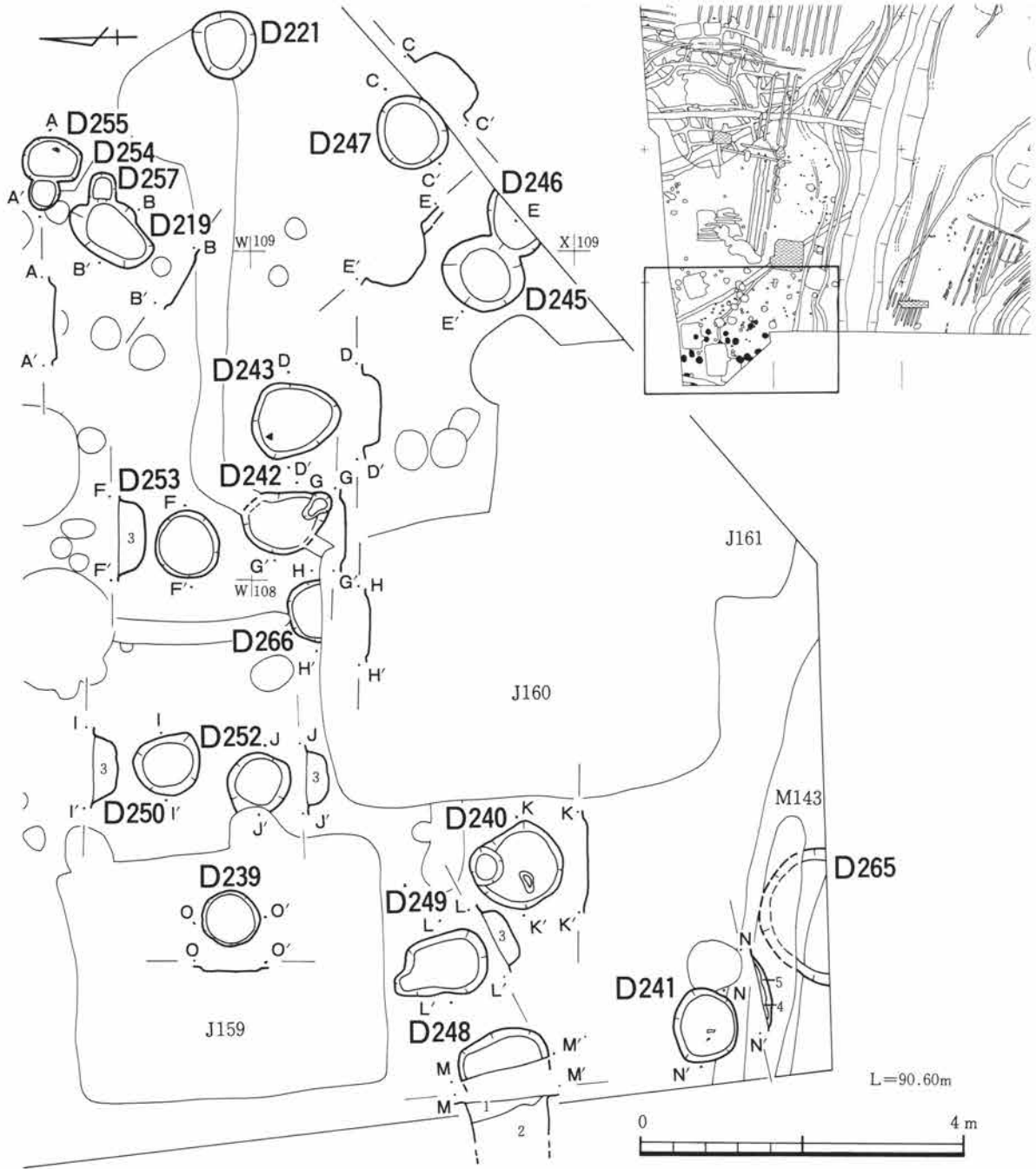
土坑D214とD215は重なっており、前者が径1.0m深0.5m、後者が径0.8m深0.2mで、共に方形に近い。人為的に埋められている。近接してある土坑D465は径0.5×0.5mの方形、土坑D459は径0.7×0.5mの方形で、共に浅い。やや北に離れた土坑D458は、水路跡M018の埋土上で検出された。径0.7×0.5mの不整形で浅い。11世紀以後だろう。

土坑D457は、長1.6m幅0.8mの長方形で、畠跡N102と重なるが関係不明。近世以後のものか。



D236出土遺物

II 調査成果



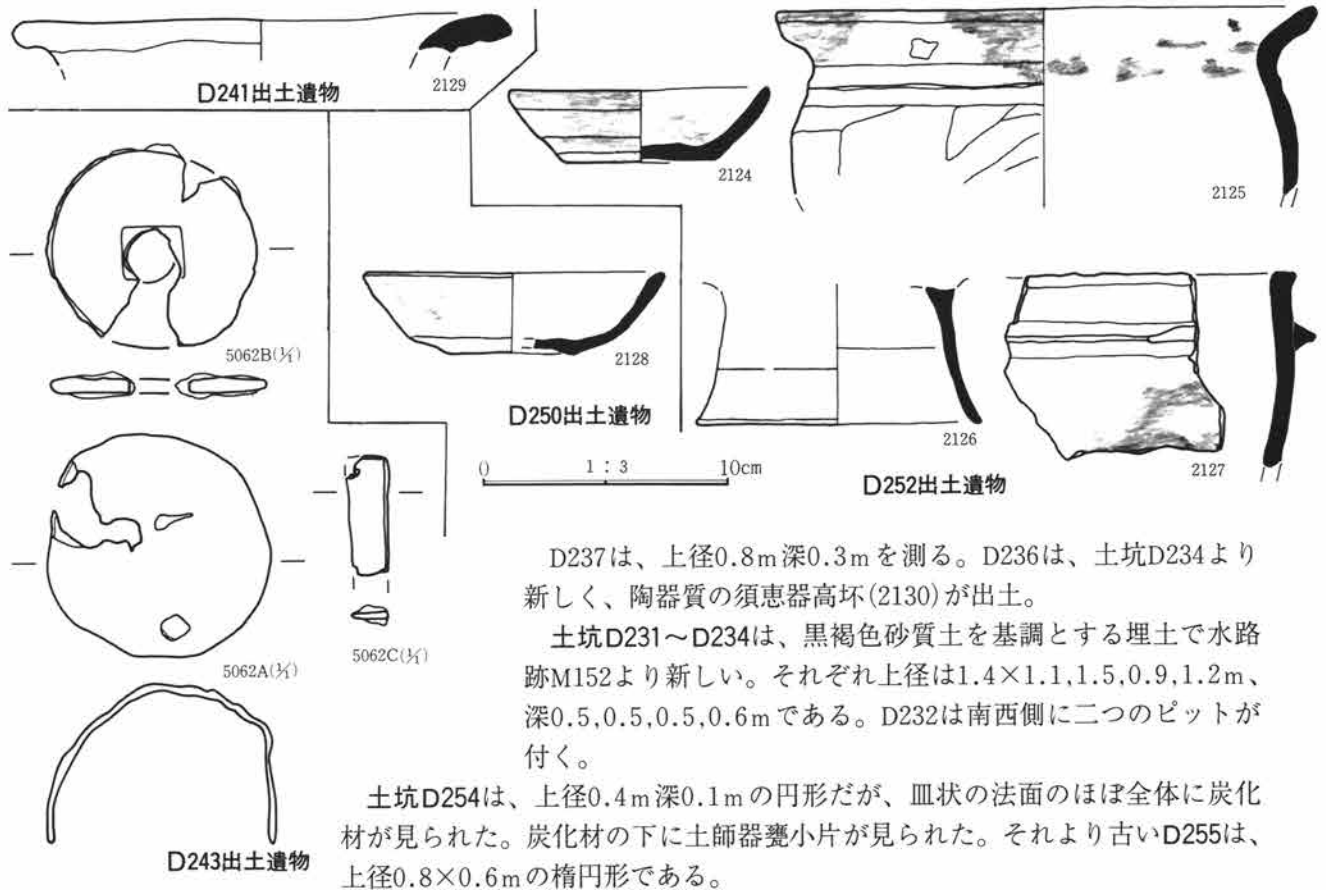
井戸跡D228遺構 土坑D217~19, 24~27, 29, 31~38, 54~56遺構 (PL. 152~154, 158)

旧河道M202と竪穴住居群の間に群集する井戸跡と土坑群の北側部分である。(P. 213図)

井戸跡D228は水路跡M144の西3m、竪穴住居跡J161の北東8mで確認された。上径1.2×1.0mを測り、深0.8mで湧水層にあたって、それより下は調査できなかった。明確な時期は不明だが、周辺の竪穴住居跡群に伴うものと考えられ、9~11世紀の年代が想定できる。

土坑D217~D219は、いずれも円形土坑で、それぞれ径0.8, 1.0, 0.8m深0.2, 0.7, 0.3mを測る。共に浅間B軽石が埋土の大部分となっており、軽石降下直前に使われていた。D217は竪穴住居跡J157とJ158の間にあり、D218は水路跡M151及び土坑D236より新しい。D219は土坑D257を切る。

土坑D235~D237は、浅間B軽石降下以前に埋没したが、11世紀前半の水路跡M151及びM152より新しい円形土坑である。D235は上径1.2m深0.4m、D236は上径0.9m深0.5mで底は平らでない。



D237は、上径0.8m深0.3mを測る。D236は、土坑D234より新しく、陶器質の須恵器高坏(2130)が出土。

土坑D231～D234は、黒褐色砂質土を基調とする埋土で水路跡M152より新しい。それぞれ上径は1.4×1.1, 1.5, 0.9, 1.2m、深0.5, 0.5, 0.5, 0.6mである。D232は南西側に二つのピットが付く。

土坑D254は、上径0.4m深0.1mの円形だが、皿状の法面のほぼ全体に炭化材が見られた。炭化材の下に土師器甕小片が見られた。それより古いD255は、上径0.8×0.6mの楕円形である。

その他の土坑D224～D227, D229, D238, D256は、いずれも浅く形状も不整形である。D225から土師器甕胴部片、D227から同坏口縁片、D238から同碗胴部片の小片が見られた。古代のものだろう。

1. 黒褐色粘質土
2. 黒色砂質土と明褐色砂質土の混在土 しまりなし
3. 黒色粘質土 浅間C軽石多く含む
4. 黒褐色砂質土 浅間B軽石多く含む
5. 浅間B軽石 上面は黒色土が混じる
6. 黒褐色砂質土
7. 黒色砂質土とにぶい黄色粘質土の混在土
8. 黒褐色砂質土 にぶい黄色粘質土を含む
9. 黒色粘質土 浅間C軽石含む

井戸跡D248遺構 土坑D219, 21, 39～43, 45～47, 49, 50, 52, 53, 57, 65, 66遺構 (P. 214図 PL. 155～158)

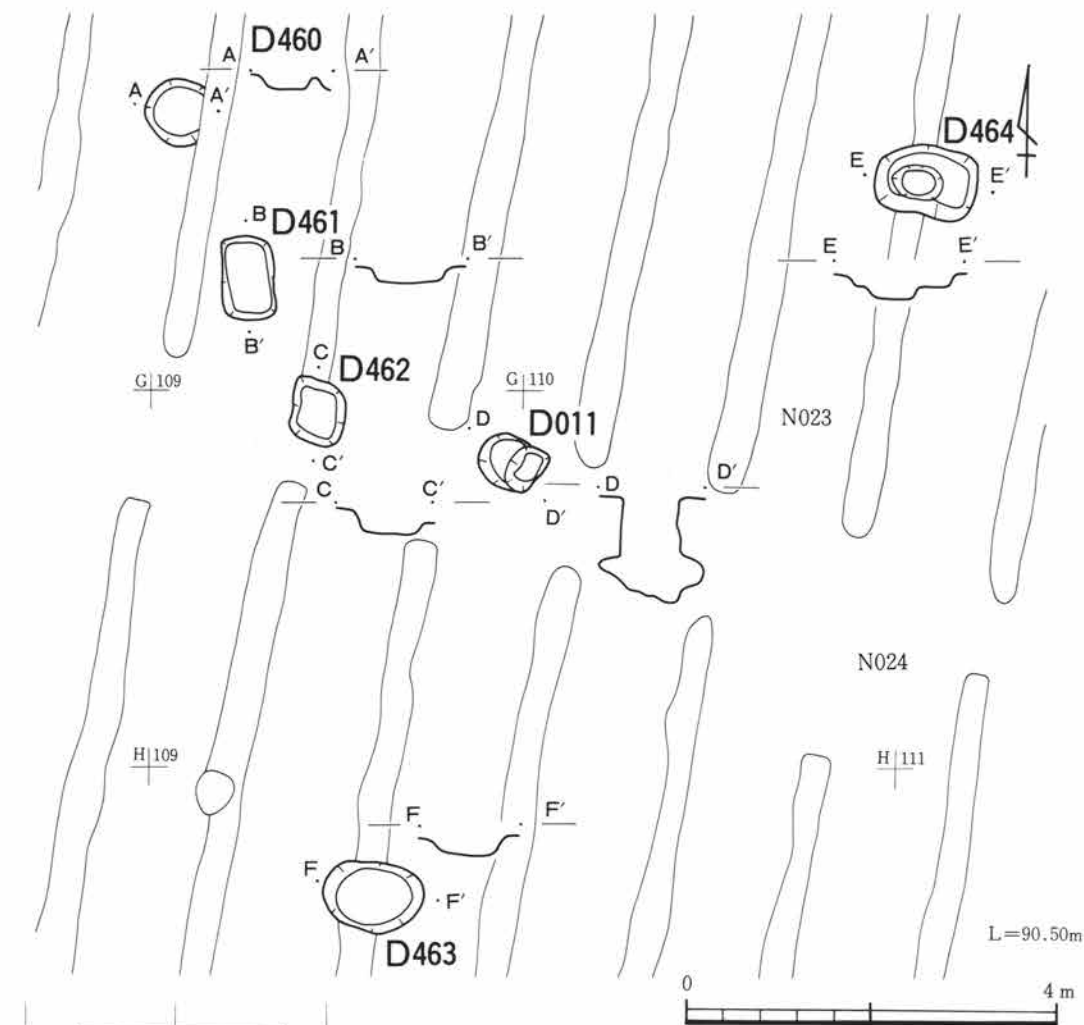
旧河道M202と竪穴住居群の間に群集する井戸跡と土坑群の南側部分である。

井戸跡D248は、竪穴住居跡J159の南僅か1mで検出した。現存道路にかかるため一部しか掘れず、少なくとも上径1.0m深0.5m以上である。人為的に埋められている。距離的に見れば、J159との共存は考えにくい。

土坑D241とD265は、浅間B軽石で埋没した水路跡M143に壊されて検出された。前者は径0.9m深0.1mで焼成穴と思われるが、土師器甕(2129)が出土。後者は径1.6mである。共に11世紀代と考えられる。

竪穴住居跡J159とJ160の間で検出された土坑D250, D252, D253, D248は、共に同一の埋土である。前3者は径0.7m深0.3mであり、D248は径1.2×0.7mの不整形である。D252はJ159より新しく、須恵器羽釜(2127)・同脚部(2126)・土師器甕(2125)・同坏(2124)が出土。隣接するD250からは、土師器坏(2128)が見られた。11世紀代のものになる。

他に径0.7～1.0mの円形土坑としてD239, D240, D245, D246, D247, D266がある。このうち、D239はJ159より新しい。D266とJ160の新旧関係は不明で、D245はJ161の張り出し部にほぼ接している。これらは、そのため11世紀代のものと少し古いものが混在していると思われる。小片では、D240から須恵器甕胴部と土師器碗体部、D247から須恵器碗体部と土師器碗甕類体部が見られた。



土坑D243は、上径1.1×0.9m深0.2mの楕円形で、鉄鈴(5062A)・鉄刃物(5062C)・鉄銭(5062B)が出土。18世紀後半の埋納土坑と思われるが、詳細は不明。

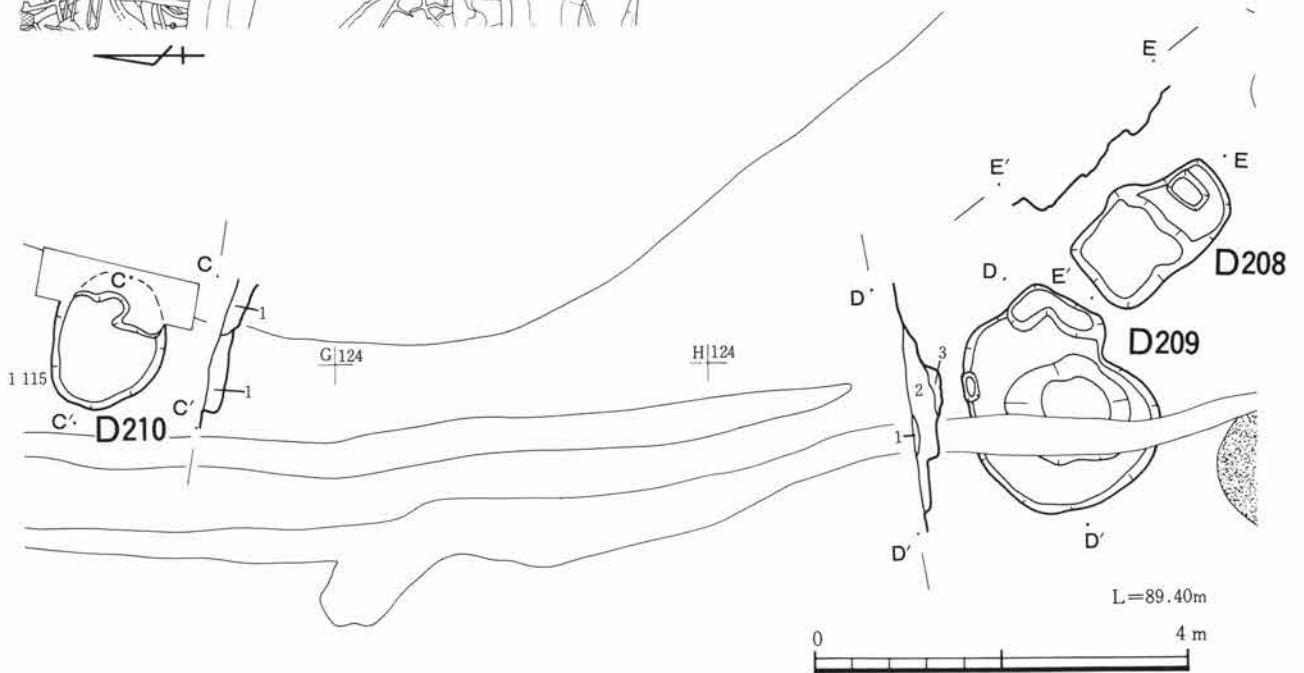
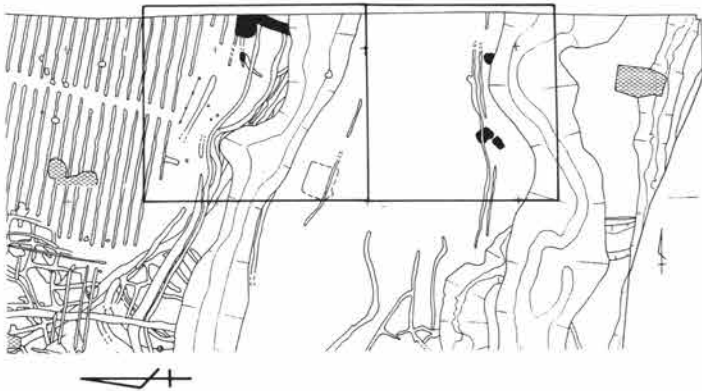
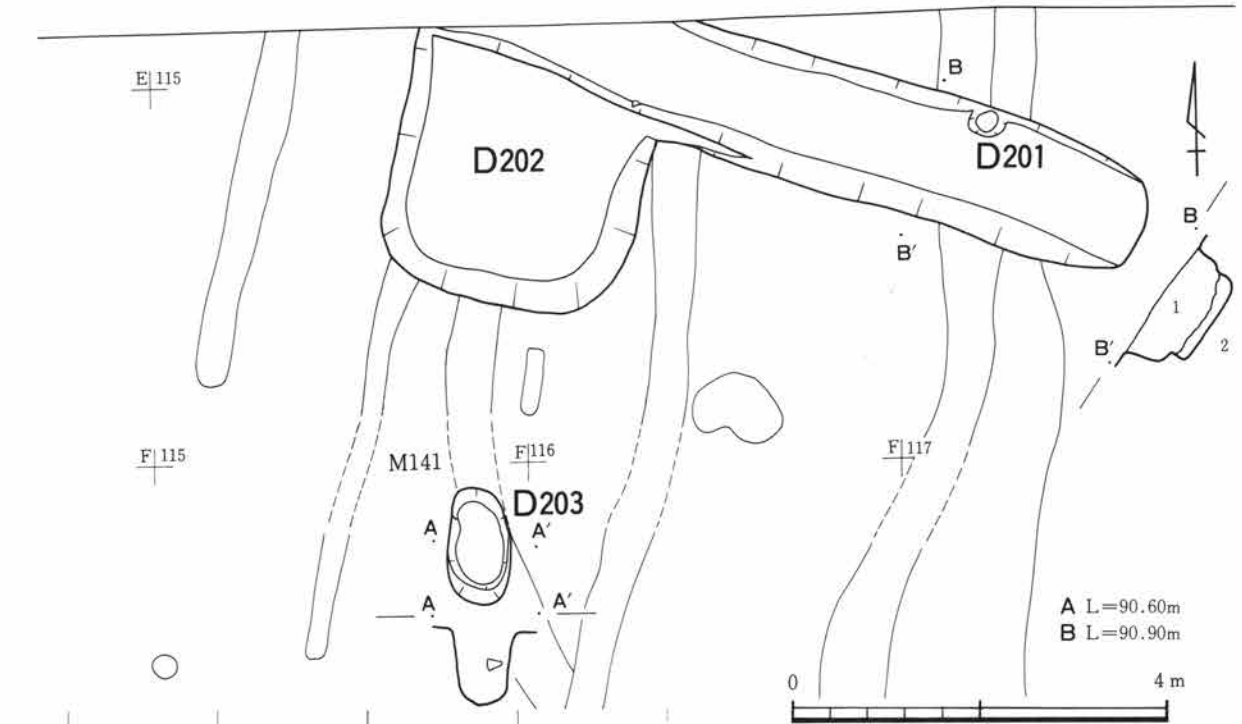
土坑D219, D221, D242, D257は不整形形で、詳細は不明。D242から土師器甕口縁小片が出ている。1.黒褐色粘質土 しまりなし 2.黒褐色粘質土 明黄褐色粘質土塊混在 人為的埋土 3.黒色粘質土 浅間C軽石炭化物焼土にぶい黄褐色砂質土粒を含む 4.黒褐色粘質土 5.4層と炭化物の混在土

以上のようにこの周辺では、11世紀代から12世紀初頭を中心とする円形土坑が群集しているが、特定の用途を想定させる遺物は見られず、また配置も規則性は伺われない。

井戸跡D011遺構 土坑D460～D464遺構 (PL.158)

畠跡N023とN024の下から発見された。井戸跡D011は、上径0.6m深1.2m湧水層は海拔90.70mである。西側の掘立柱建物跡のJ002まで17m、J001まで15mの距離である。中世以前のどちらかの掘立と関係するものだろう。

土坑D460～D464も畠跡の下から検出された。長径0.6～1.0m深0.2m程度で、形状は長方形がD461, D462, D464、楕円形がD460, D463である。遺物は見られず、他に顕著な特徴は不明である。



II 調査成果

土坑D201～D203遺構 (P.217図 PL.159)

畠跡N023の東端の下で旧河川M202の右岸で検出された。

土坑D201は、上幅1.4m下幅1.0m深0.6m長8m以上の長い長方形で、北西から南東に向けてM202の岸まで走る。1.褐色砂質土 浅間B軽石小礫多く含む 2.褐色砂質土 やや粘性あり 底はほとんど平坦で、大形の短冊形土坑に似ているが、断面形はやや異なる。中世から近世のものである。

土坑D202は、上径2.6×2.6m以上の方形で深0.3～0.4mを測る。底は中央がやや深く、D201と重なるが0.2～0.3m高い。水路跡M141と重なるが関係は分からない。詳細は不明だが、D201とそれほど変わらない時期か。

土坑D203は、上径1.2×0.6mの楕円形で深0.8mを測る。やはり水路跡M141と重複するが、関係不明。時期も分からない。

土坑D208～D210遺構 (P.217図 PL.158～160)

旧河道M201の右岸と道路跡X006の間で確認された。

土坑D208は、長1.7m幅1.0m深0.3mの長方形に似た不整形で、底も平坦でない。時期不明。

土坑D209は、道路跡X006より古く、径2.0m深0.4mでやや歪んだ円形。底は二段になっている。
1.暗灰黄色砂 2.黒色粘質土 浅間C軽石含む 3.にぶい黄橙色粘質土 11世紀以前だが、性格不明。

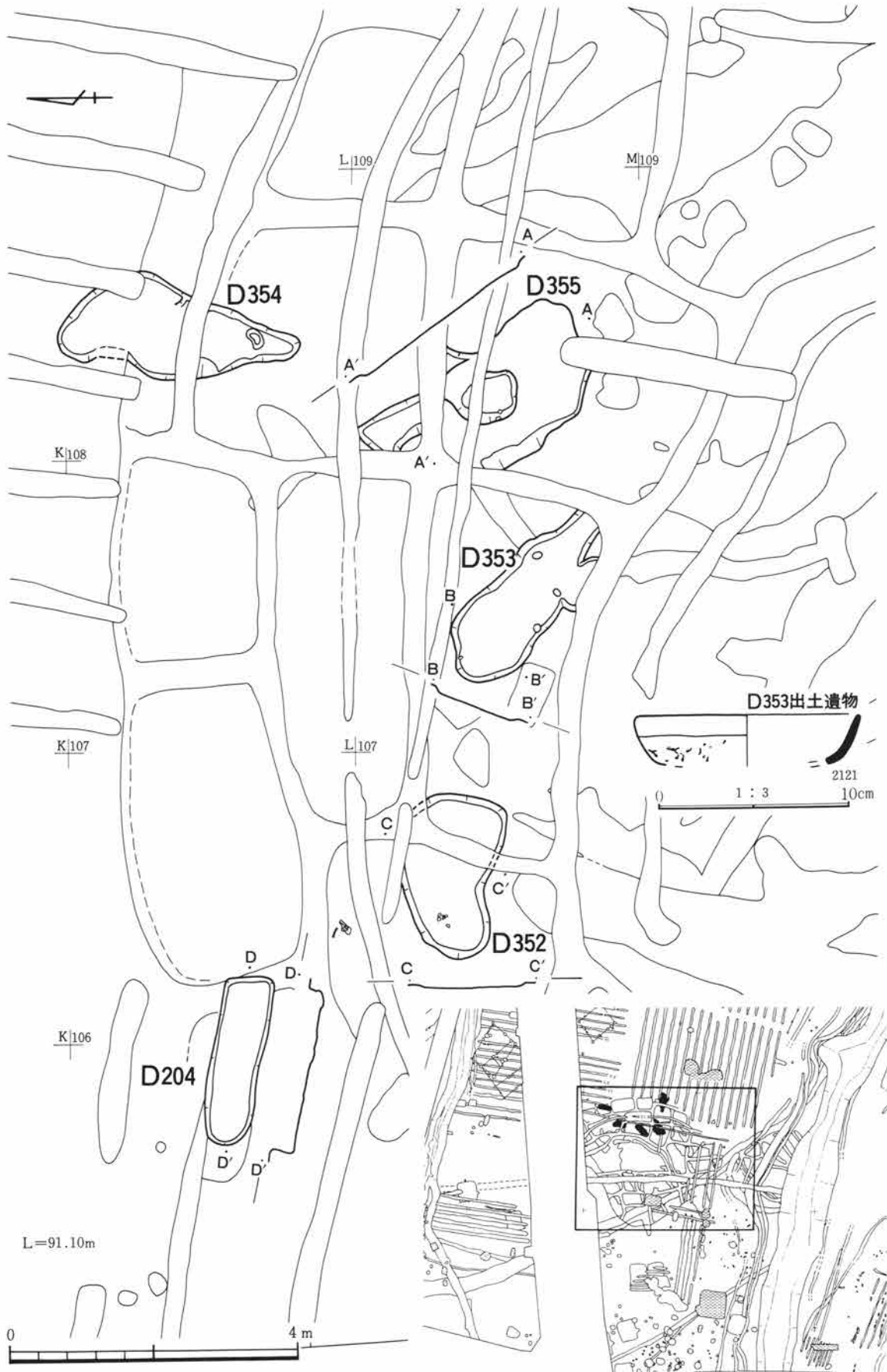
土坑D210は、径1.4×1.2m深0.2mの楕円形。1.褐灰色粘質土 浅間C軽石・砂含む M201より古いため、11世紀以前だが、性格不明。

土坑D204, D352～D355遺構 (P.219 PL.160)

土坑D204は、畠跡N022と重なって確認された。長2.2m幅0.7m深0.3mの短冊形土坑である。N204との新旧関係は不明だが、同一の東西走向であるため大きく時期の異なりはなく、19,20世紀のものだろう。

土坑D352～D355は、水田跡N204の下で確認された。形状はいづれも不定形で、最大長3.4m最大幅2.4m最小長2.1m最小幅1.0m深0.1m程度である。走向もまばらであり、人為的な遺構とは考えにくい。水路跡M125, M131, M142と重なるが、新旧関係不明。

D353から土師器坏(2121)が、D353とD355から縄文土器片(P.227参照)が出土している。この部分はやや低地であるため、11世紀より古い自然の落込みだろう。



II 調査成果

4 歴史時代遺構外出土遺物

遺構に伴わない状態で出土した遺物は、陶磁器土器を中心にかなり多い。基本的には全て出土グリッドの記録があるが、大きく出土位置をまとめるとその概要は次の通りである。(数字は、時代の異なる遺物の出土遺構数及び出土グリッド数の合計で、破片数ではない。)

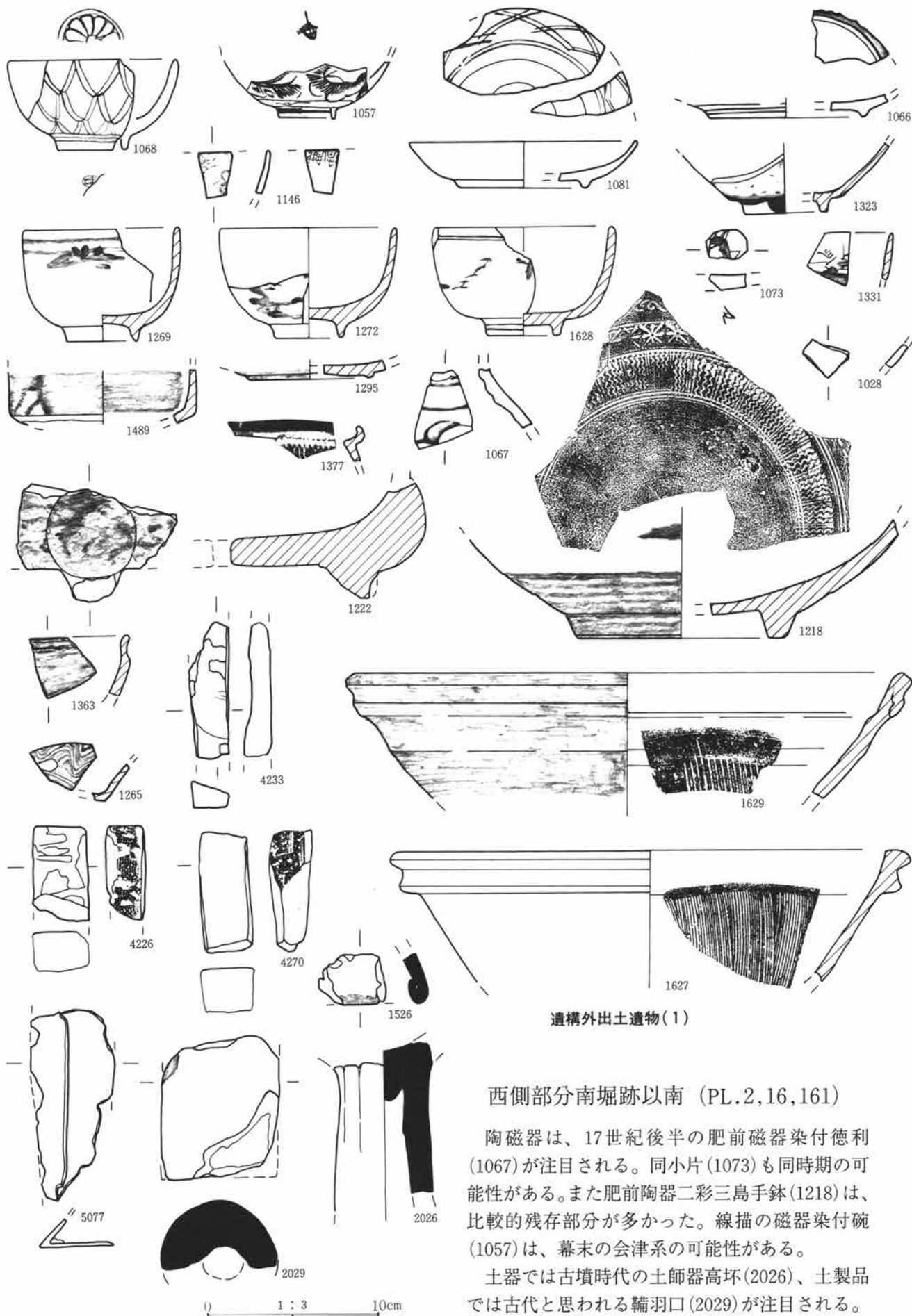
	西側部分		中央部分	東側部分
	南側大堀以南	南側大堀以北		
磁器	26 (32%)	41 (50%)	4 (5%)	11 (13%)
施釉陶器	63 (36%)	89 (51%)	5 (3%)	17 (10%)
焼締陶器	12 (27%)	25 (55%)	3 (7%)	5 (11%)
瓦質土器	93 (30%)	160 (52%)	28 (9%)	27 (9%)
灰釉陶器(古代)	12 (25%)	8 (17%)	4 (8%)	24 (50%)
須恵器	43 (29%)	35 (23%)	10 (7%)	61 (41%)
土師器/黒色土器(古代)	56 (22%)	35 (14%)	9 (4%)	156 (60%)
埴輪	2 (9%)	4 (17%)	1 (4%)	16 (70%)
砥石	9 (43%)	12 (57%)	0	0
瓦	12 (44%)	12 (44%)	1 (4%)	2 (8%)
板碑	8 (58%)	3 (21%)	1 (7%)	2 (14%)

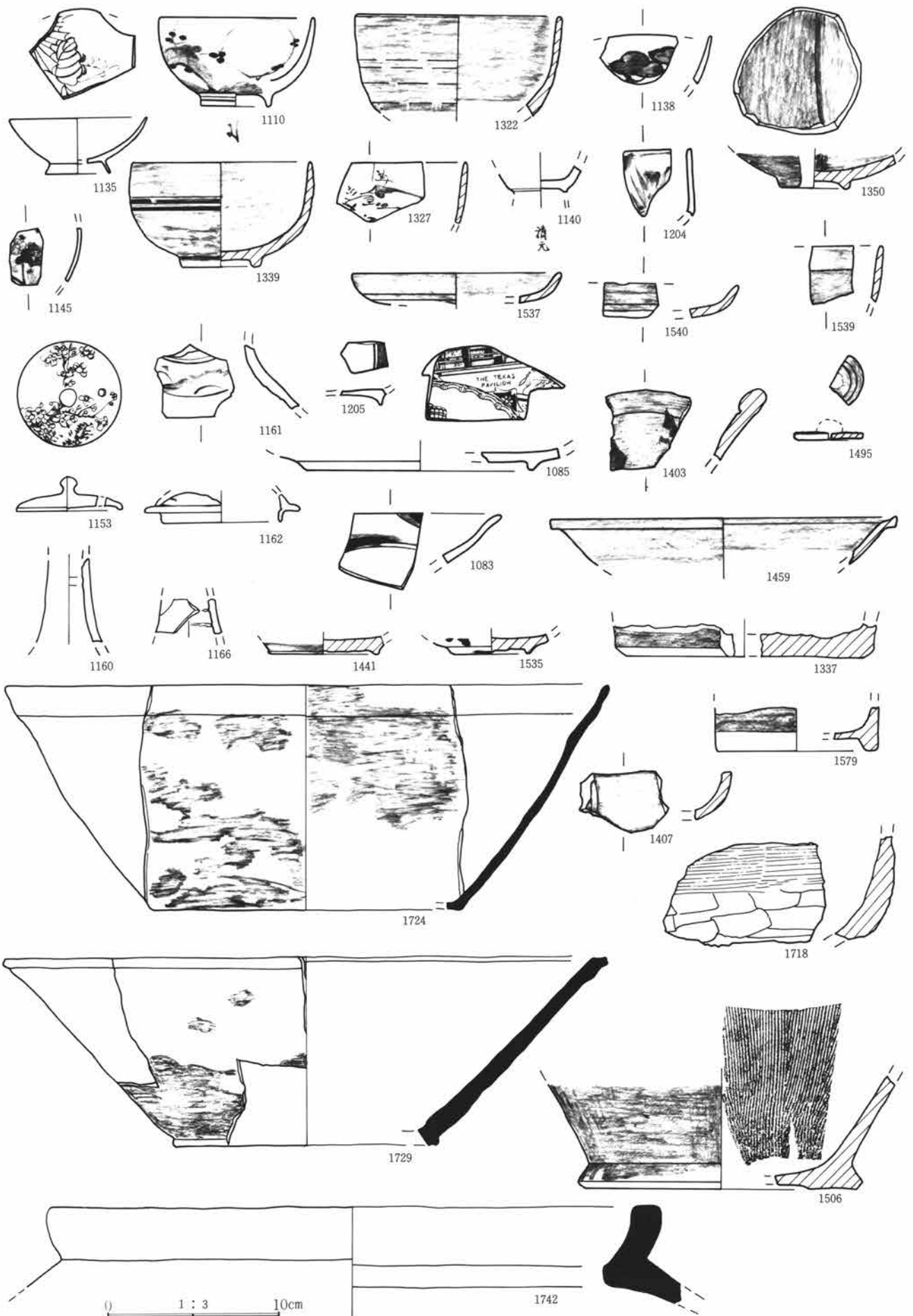
大部分が近世である磁器・施釉陶器・瓦質土器・砥石は、同時期の遺構が多いせいもあって、圧倒的に西側部分に8割以上集中している。多くが中世と考えられる焼締陶器・瓦・板碑も、同様の傾向が見られる。

一方、主に古代の灰釉陶器・須恵器・土師器類は、反対に東側部分が4～6割を占めるに至っている。古墳時代も東側部分が多い。

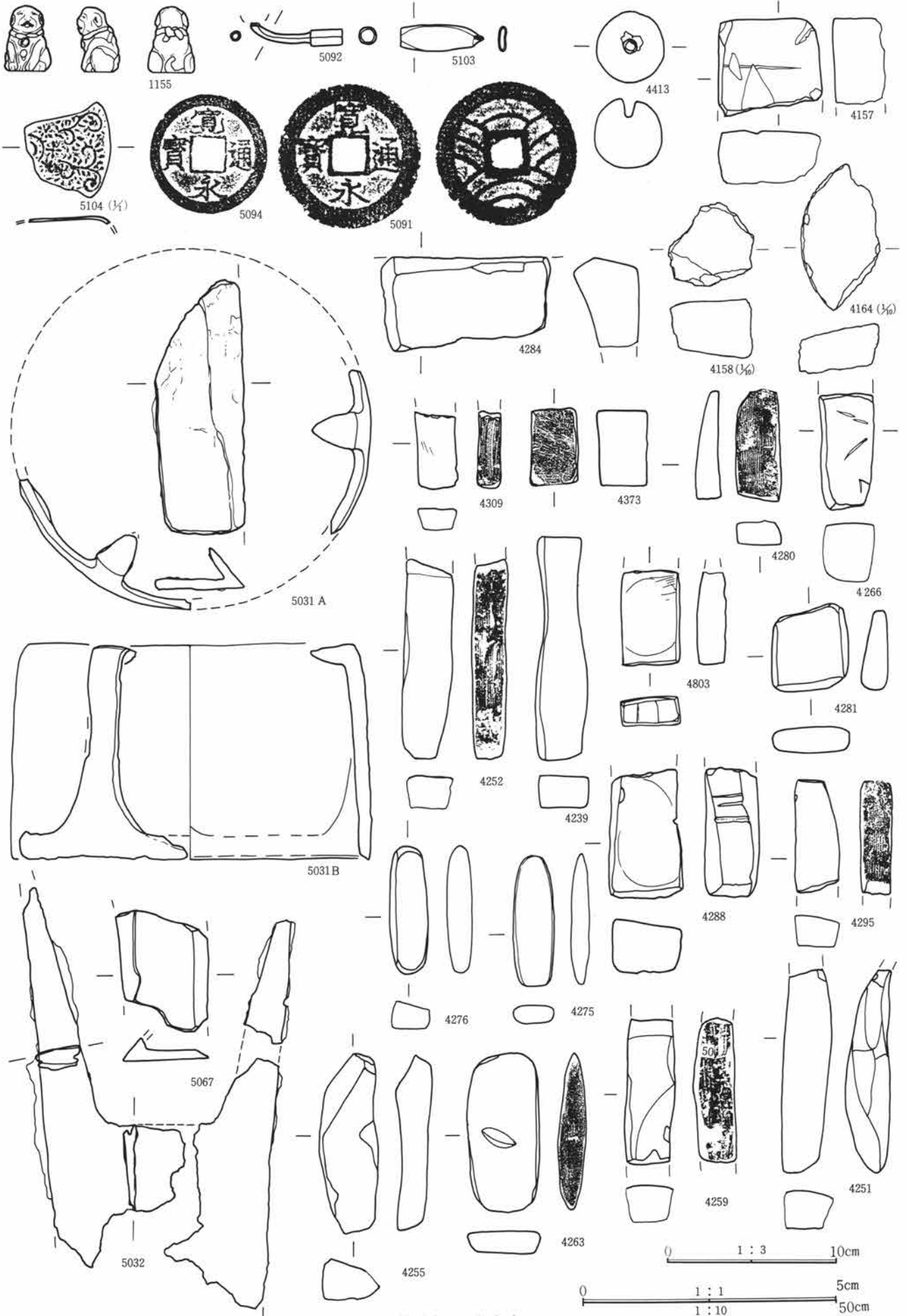
地域別に見れば、西側部分はこれまで報告したように全体が基本的に各時代の居住域であったため、遺物が多いのは当然だが、南側大堀以南は以北に比べ比較的古代の様相が強い。中央部分は、面積的に大きな割合を占める大池の存在のため、ここでの数字は全体に小さくなっているが、その中ではやや中世のものが多い。東側部分は、居住が古代中心のこともあって、古代の遺物が集中している。古墳時代が多いのは、旧河道の報告で述べたように、上流の調査範囲外のどこかに存在していたものからのものだろう。

以下、各地域ごとに代表的な遺物を報告する。



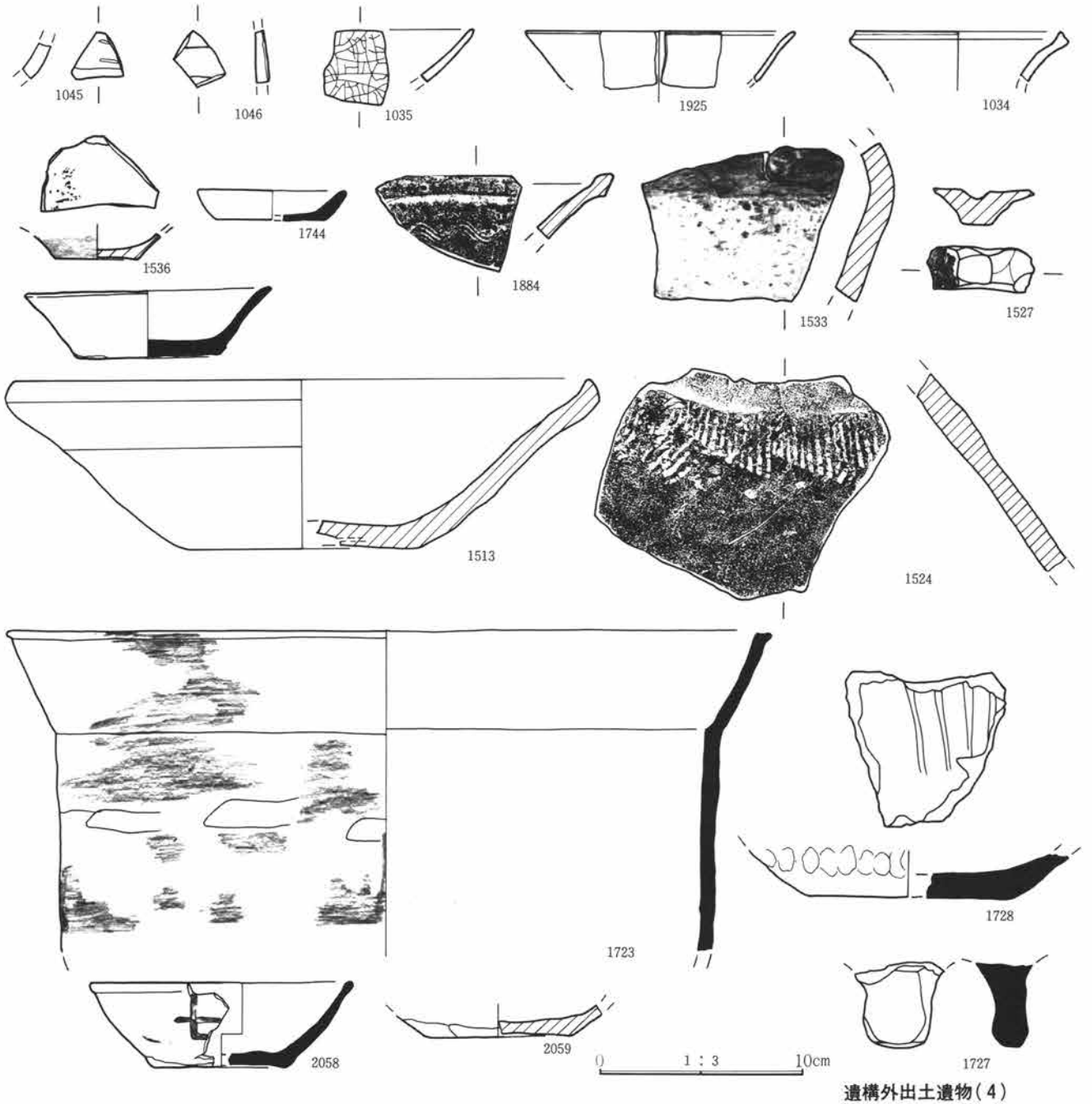


遺構外出土遺物(2)



遺構外出土遺物(3)

II 調査成果



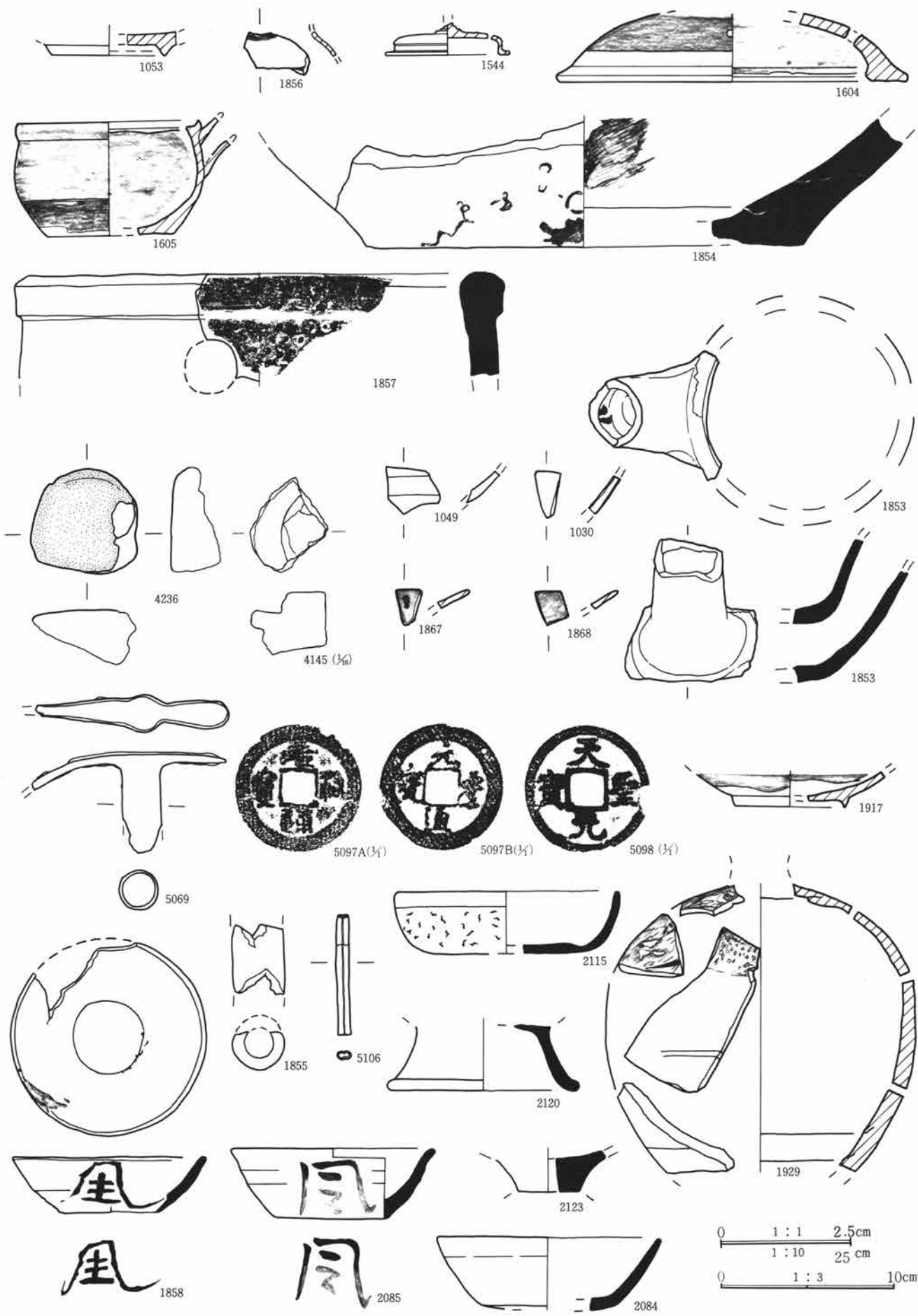
遺構外出土遺物(4)

西側部分南堀跡以北 (PL.16,161,162)

前述のように最も遺構外遺物の出土量の多い地域である。

近世以降では、陶磁器は16世紀代の瀬戸美濃大窯飴釉皿(1441)が最も古く、続いて16世紀末～17世紀初頭の越中瀬戸鉄釉皿(1535, PL.16-58)が見られ、また1640～50年代の肥前染付皿(1083)も注目される。越中瀬戸窯の製品は、当地域では極めて珍しい。

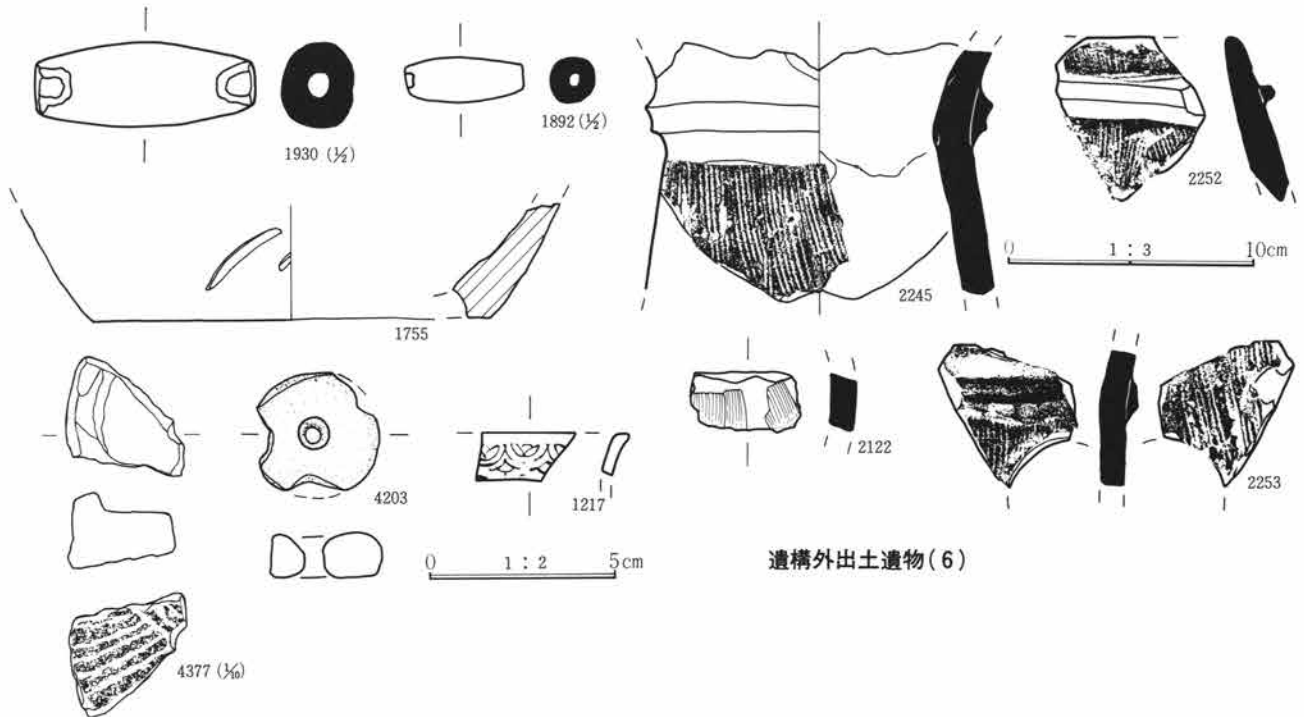
肥前磁器・瀬戸美濃陶器による18世紀代のものが量的に多いが、肥前青磁瓶(1034)を除いて、あり方は一般的である。19世紀では、貫入のある肥前白磁碗(1035)が見られる。近代では産地は多彩になり、関西系染付急須蓋(1153)は当地で比較的多く見られる。国内産地不明の染付大皿(1085)には銅版転写でTHE TEXAS PAVILIONと書かれてある。極めて限定された時期の製品だろうが、詳細は不明。瀬戸美濃色絵の犬人形(1155)も興味深い。(続P.226)



遺構外出土遺物(5)

0 1 : 1 2.5cm
 0 1 : 10 25 cm
 0 1 : 3 10cm

II 調査成果



遺構外出土遺物(6)

(P.224より) 金属製品は、17世紀代と思われるキセル雁首(5092)、唐草文を陽刻した銅容器(5104)そして鉄製五徳(5031B)が目目される。銅銭は、新寛永通宝2枚(501,94)があった。石製品は、片側に孔のある球形の砥沢石製品(4413)がまず目を引く。重りだろうか。また櫛歯状調整痕の残るものを中心とする数多くの砥石が見られた。他に石臼類や石塔基部などが見られた。

中世のものは、舶載陶磁としては竜泉窯青磁碗類で明代のもの(1046)・南宋~元のもの(1045)、そして後者と似た時期の口剥げ白磁碗(1925)があった。国産では常滑系甕類片がいくつかあるが、焼締陶器コネ鉢(1513)は産地不明。山皿に似た遠江湖西窯皿(1536)は、12世紀後半とされる。土器では、土師器の小皿(1744,1816)と瓦質土器の埵(1723)・挿鉢(1728)・火鉢脚部(1727)がある。

古代では、不明墨書の土師器坏(2058)と陶器質の須恵器坏(2059)があった。

東側部分・出土位置不明 (P.186,187 PL.16,162,163)

近世のものはほとんどなく、万古急須蓋(1544)など近代のものが多い。土器では瓦質の火鉢(1857)と土師器質の練炭起こし(1853)があった。ピッケル形鉄製品(5069)も見られた。

中世では、南宋元の竜泉窯青磁碗(1030,49)、茶白片(4185)、北宋銭(5097AB,98)がある。

古代のものは、同一個体かもしれない猿投緑釉碗片(1867,68)・同灰釉皿(1917)・同壺(1929)と10世紀前後のものがあった。また風構え状の墨書のある須恵器坏(2085)・同土師器坏(1858)が見られた。土錘(1892,1930)も出土している。

古墳時代では、埴輪と土師器甕(2122)がある。

出土位置不明のものは、栓のような有孔円盤(4203)が目立つ。須恵器コネ鉢(1755)は、無量寿寺北側の堀跡で表面採集したもの。

5 縄文時代遺物

山口逸弘

本遺跡の調査範囲からは数十点あまりの縄文時代の遺物が出土している。いずれも中～近世遺構覆土や平面確認作業などによる出土であり、縄文時代の遺構からの出土ではない。また、包含層出土とするには、余りにも希薄な出土であり、層位も安定していない。しかしながら、出土した土器片などに、当地域の特徴的な様相もみられることから、残存状態の良い数点を選び、特徴を概観しておきたい。

石器 (P.221～231)

33点を図示した。土器と比較して依存度は高く、形態、調整技法などは、前期～中期の石器群に共通性は認められるが、土器との共伴例はなく、その帰属時期などは特定できない。

1. 石鏃

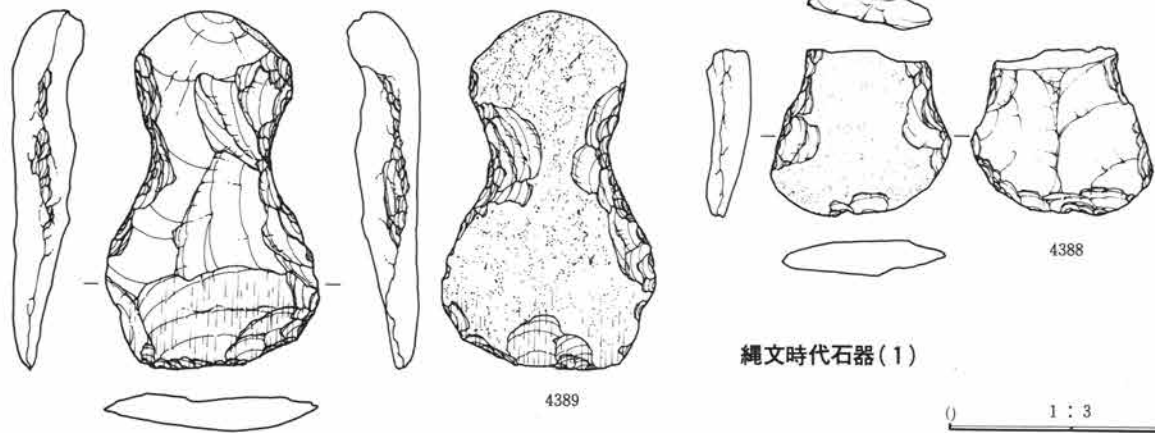
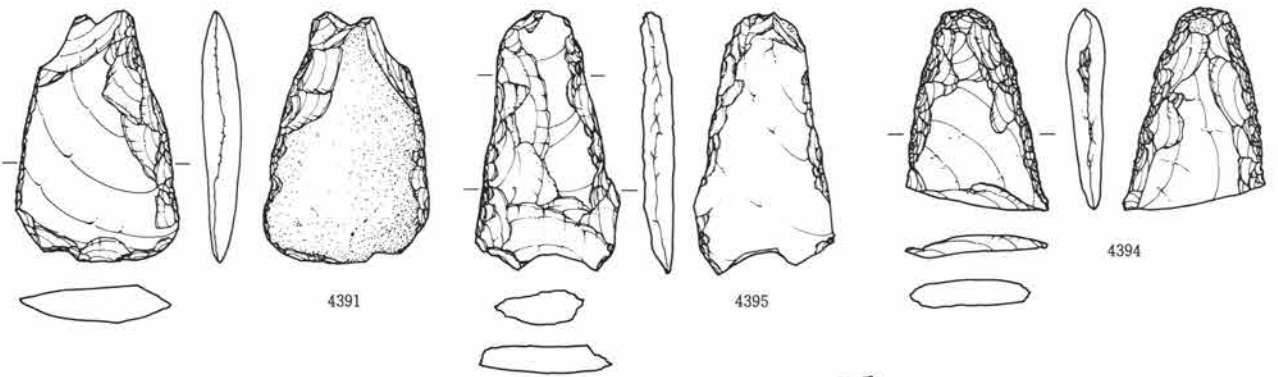
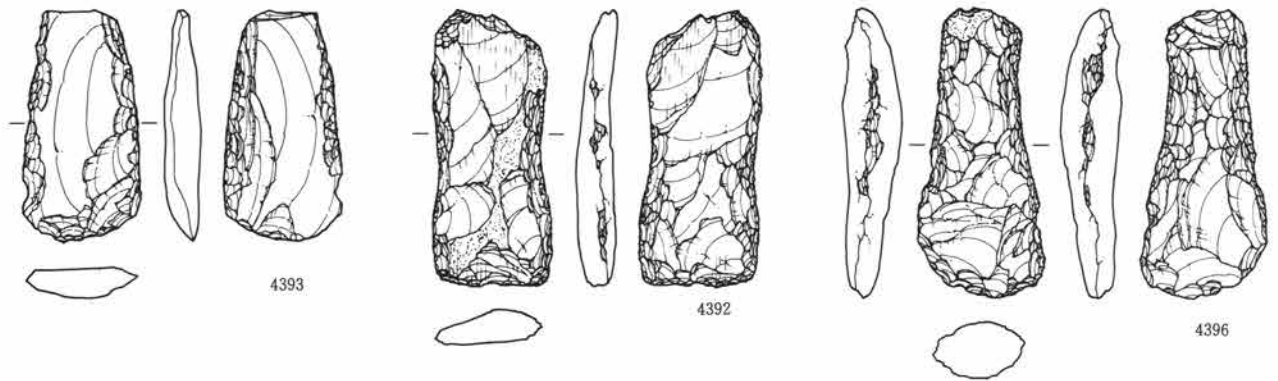
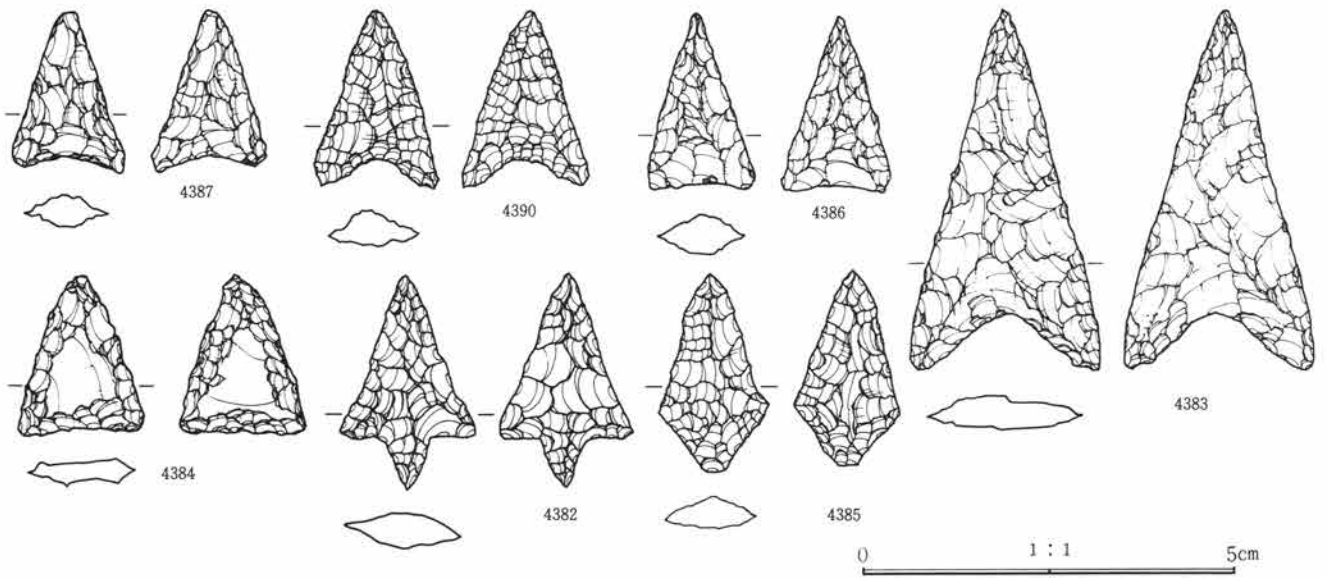
6点を図化した。4387は凹基鏃で、比較的雑な調整で縁辺を作出する。先端部僅かに欠損。黒色頁岩製。4390は黒曜石製の凹基鏃。特に凹部分の調整は丁寧である。4386は僅かに内湾するが平基鏃の範疇に入れたい。縁辺の調整は丁寧である。4384も平基鏃で、前三者とは違い中央の高まりを持たない。チャート製。4383は長身の凹基鏃ながら、側縁は直線的で左右の対称が保たれている。薄手の横長剝片を素材としたのであろうか。縁辺の調整は比較的丁寧である。黒色頁岩製。4382・4385は凸基鏃。4382、中子部分を脚部内湾によって突出させる。側縁下位は緩やかに湾曲する。黒色頁岩製。4385はチャート製で、中子部分が欠損するが4382に比して直線的に突出する。

2. 打製石斧

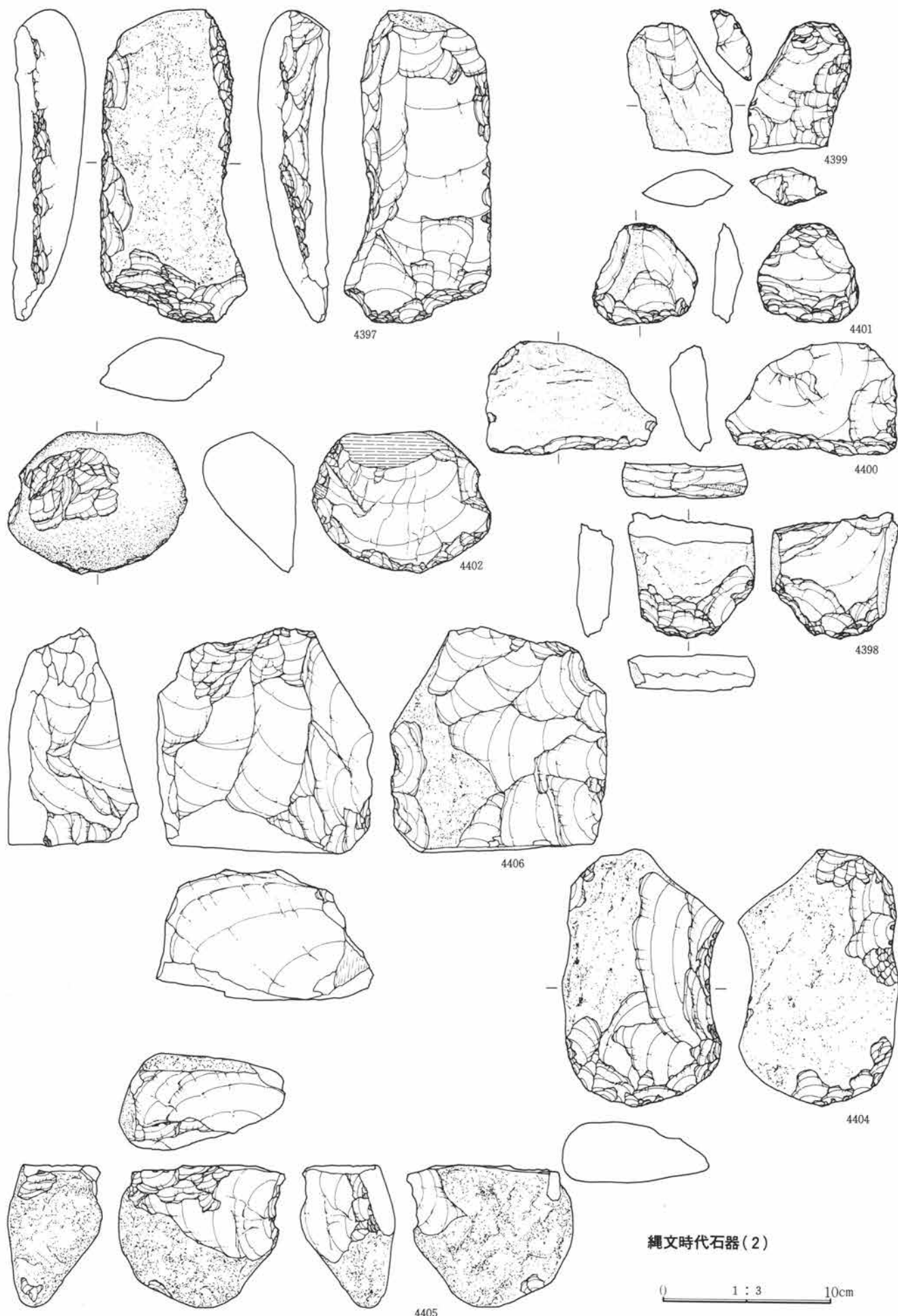
4392・4393・4396は短冊形。いずれも、刃部を中心に長軸方向の摩滅痕が認められる。4393は薄手の横長剝片を素材として直線的な側縁形状である。4392は頭部に厚みを残し側縁中位に入念な調整を施し、緩やかに湾曲させる。右側縁のツブレが顕著である。刃部の摩滅も著しい。4396の側縁もやや湾曲する。また、頭部周縁を細かな調整で方形に仕上げている。4391・4394・4395は刃部が開く撥形を集めた。4391は大きく礫面を残す。大形の横長剝片を素材とし、側縁上半は、大きな剝離が及ぶが下半は細かな調整を施している。4395の刃部は欠損する。素材形状を残し、比較的雑な調整で作出するが、側縁中位は直線的でツブレが見られる。4394の刃部も欠損する。周縁の調整は丁寧で特に頭部に及ぶ。4389・4388は分銅形。4389は大形で完形である。表面の礫面を残し、素材の円みを頭部に設けている。裏面刃部に摩滅痕が縦位に見られ、側縁中位の凹部にも使用痕があり、頻繁な装着・使用を物語る。4388は上半を欠損する。比較的厚手の刃部だが、縦位の摩滅痕が僅かに看取できる。

3. スクレイパー類

7点を図示した。素材剝片にある程度の規則性・目的性を持ち、刃部を作出しているものを集めた。4397は厚手で大形の縦長剝片を素材とし、剝片端部を両面からの調整により刃部としている。表面の礫面を大きく残し、素材の湾曲を利用している。4399も縦長剝片を素材とし、下半を欠損する。主に裏面からの調整が両側縁に及び、刃部としている。4401は三角形の横長剝片が素材。端部の調整で比較的鈍角な刃部を作出する。4402、円礫を半割し、剝片端部に半円状の刃部を作る。刃部稜上に摩滅痕が認められる。4400は横長剝片端部を直刃状の刃部としている。礫面を大きく残し、裏面の調整が段を持つ鋭角な刃部を作る。4398、楕円状の礫を縦位に半割した剝片端部を刃部としている。両面からの入念な調整で鋭角な刃部を作る。上半欠損。4404は偏平な礫をそのまま素材とし、側縁と端部の2辺を刃部としている。側縁の刃部は凹状をなし、稜上に僅かな歯こぼれが認められる。端部は凸状で比較的鋭角な刃部だが、使用痕は見られない。



縄文時代石器(1)



縄文時代石器(2)

0 1 : 3 10cm

II 調査成果

4. 石核

4406は大形の黒色頁岩が原石で、周縁に打点を転移させながら、比較的大形の縦長剥片を剥ぎ取っている。4405は黒色頁岩製の円礫を原石としているが、数回の剝離を行ったのみで、目的性を持った剥片数は少ない。

5. 三角錐形石器

1点のみ出土している。出土地点は東側部分の旧河道M202からで、帰属時期が予測される早期の遺物・遺構などは周辺にはない。4403は完形で、乳棒状の緻密な黒色頁岩製。下端の平坦面や頭部に使用痕はない。平坦面と言えども安定はせず長軸方向の剝離により凹凸が見られる。握り部ともいえる上半の側縁は摩滅しているが、使用による摩滅とは捉えがたい。

6. 不定形剥片石器

通常縄文時代の石器には、上記の定形石器以外に、不定形な剥片を素材にした石器が多く見られる。これらの不定形剥片石器も、報告例が増すにつれ、刃部形状や調整技法など共通性を持った一群が見いだされるべきであり、集成・研究の進展を期待したい。本遺跡では思いのほか、不定形な剥片石器が少なく、4点を図示したのみだが、今後もこの石器群の資料化を努めて行きたい。

7. 加工痕のある剥片石器

4381、上半を欠損する横長剥片を素材とし、端部を凹状の刃部に作出している。調整は比較的入念で、刃部角度は鈍い。4380、小形の縦長剥片を素材とし、端部を先鋭に尖らせる。両側縁に調整が及び、鋭角な刃部を作る。

8. 使用痕のある剥片石器

4378は縦長剥片を素材とし、左側縁を刃部とし、微細な歯こぼれが認められる。4379も縦長剥片が素材で、刃部の両側縁に歯こぼれが認められる。以上4点は黒色頁岩製。

9. 磨石類

本遺跡は近世～現代にかけての遺構群が濃密に分布しており、例えば井戸、溝、池からは多くの石が出土しており、その中には縄文時代の磨石類が混在していた。しかしながら、後世の二次利用や水流などによる摩滅によって、自然石と磨石との判別は非常に困難な場合もあり、ここでは、厳密に磨石類と判断できたもの4点を図示した。4411は表面に僅かな光沢を持ち、摩滅痕と考えた。4407は偏平で、周縁に叩打痕が見られる。4408、小形で偏平である。表面に摩滅痕が見られ、かつ凹み为数ヶ見られる。凹み石としては、消極的な凹凸みであり、磨石類とした。4410、表面に広く凹部を持つ。但し石皿様の凹みではなく、明確な稜線や変換線をもたない。しかし、摩滅痕はこの凹みを中心に見られ、用途に伴う凹みと判断した。周縁には僅かな叩打痕が見られる。

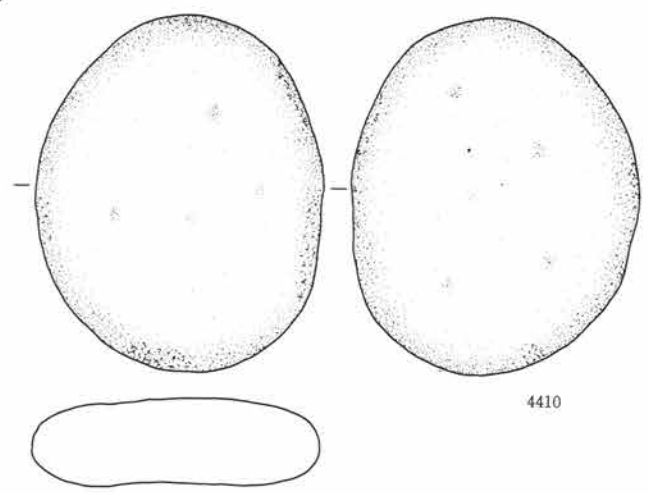
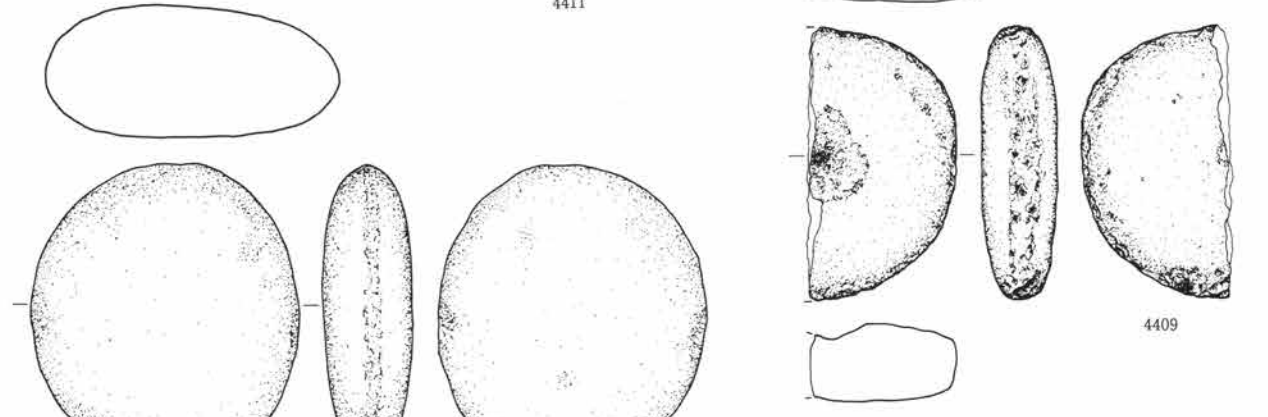
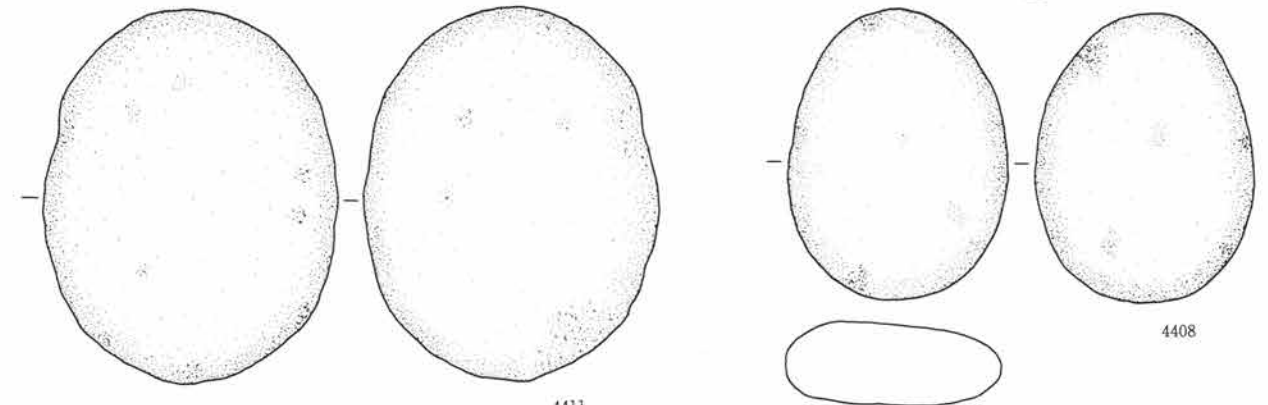
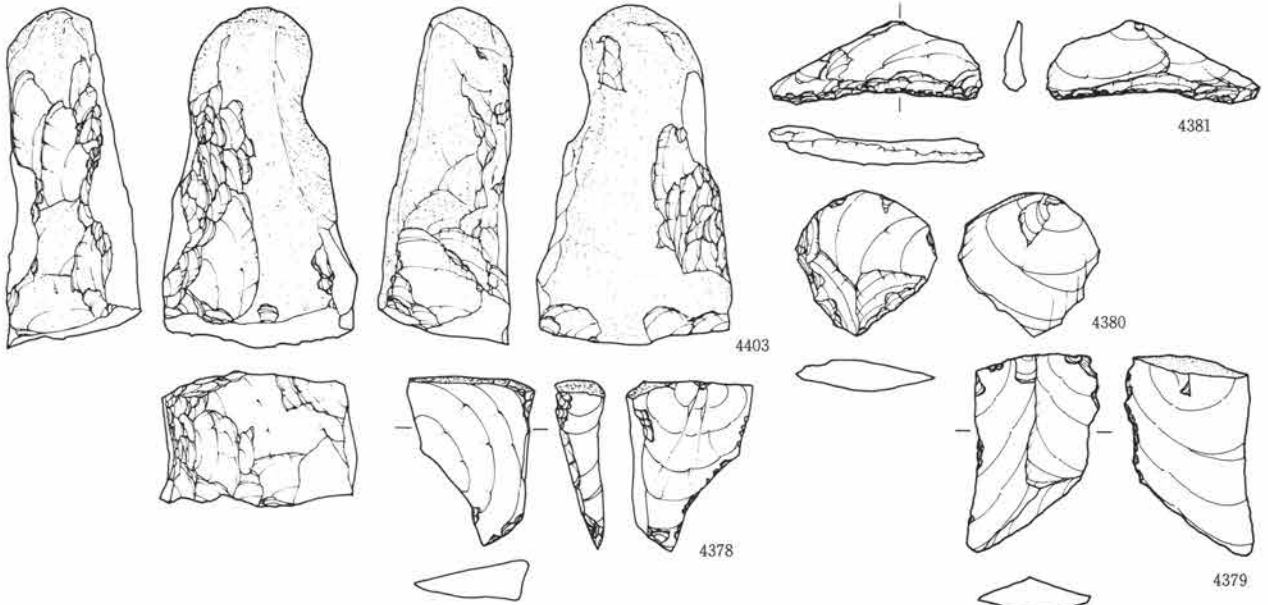
土器 (P.232)

出土点数は少なく、すべて破片状態である。復元図示した個体も1個体のみで、残存率は良くない。出土時期も早期から後期と散漫であり、また、出土地点も集中的な偏りはみられない。

2278・2285は条痕文系土器群。2点とも厚手で、2285の内面の条痕は顕著だが、2278の内面はやや摩滅しており判然としない。貝殻条痕であろう。早期。

2276・2283以外は前期の土器片。諸磯b式後半段階の所産。2291は平行沈線に矢羽状の刻みが沿う。2290は横位のナデを平行させ、僅かな高まりに矢羽状の刻みを沿わせる。浮線文の効果といえよう。

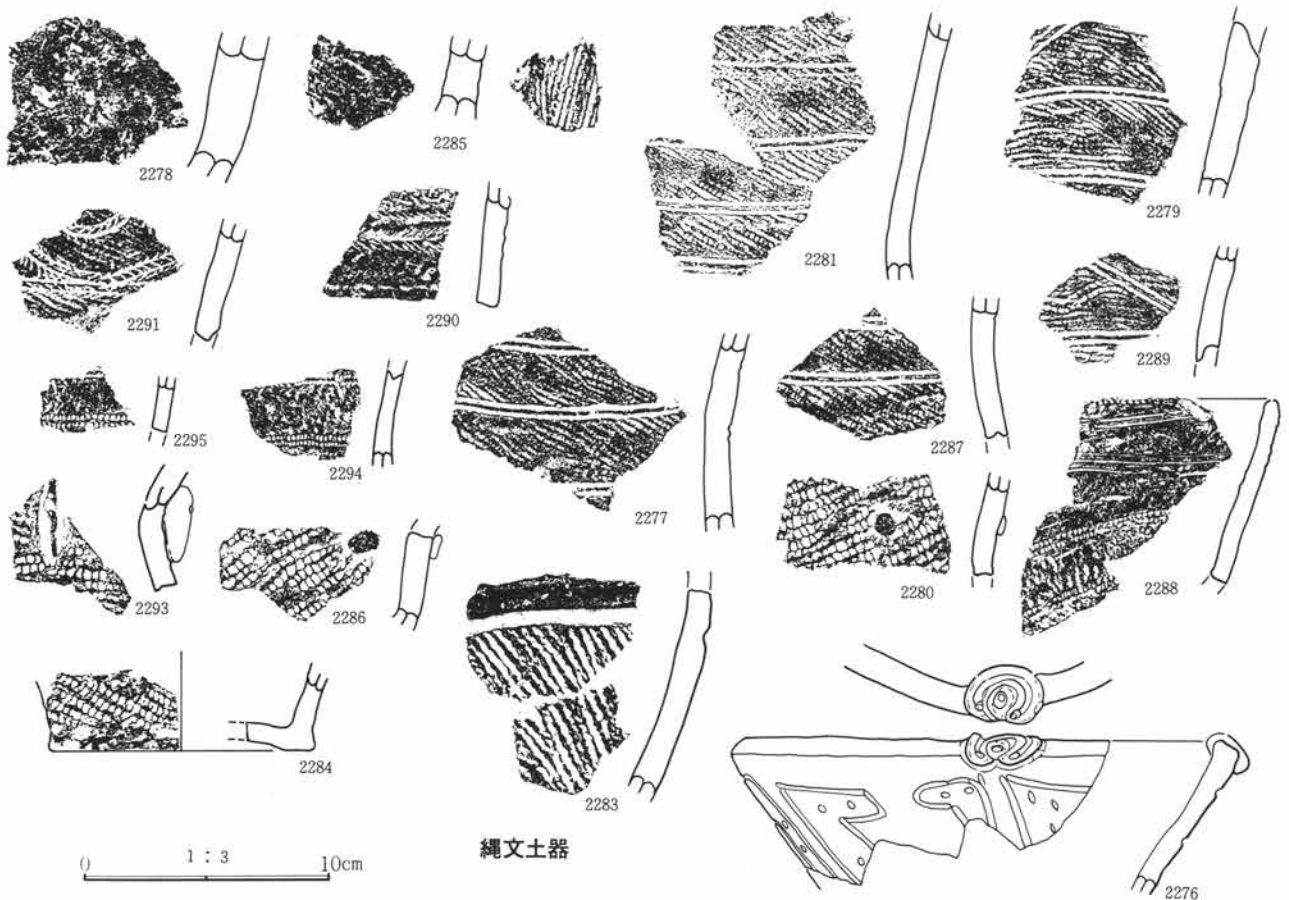
2277・2279・2281・2287は同一個体か。平行沈線による横位分帯構成だが、沈線に沿って矢羽状の刻みを施すものと、刺突列を沿わせる要素が共存している。2281の上位の平行沈線は刻みであり、下位の平行沈線には刺突が沿う。2279・2277・2287は刺突が沿うが、この刺突も押し引き施文ではなく、支点を交互に移動させながら刺突する手法である。おそらく、矢羽状の刻みから変化したものと捉えられる。また、2289も同様な施文である。これらは、諸磯b式に顕著な浮線文構成を取りながら、浮線を省略した一群であり類例をあまり見ない。検討を要する。



縄文時代石器(3)

0 1:3 10cm

II 調査成果



2288・2294・2295も同一個体。口唇部は僅かに内屈する兆しを見せ、端部には刺突が施される。口縁部とその下位には浅い平行沈線が施され、胴部上半には、2条一組の刺突列が施される。この刺突列は前述の2277などに見られた交互施文ではなく、単列づつの施文である。薄手であり胎土は緻密、色調は淡黄褐色を呈し異質感は受けるが、文様構成は横位文様帯構成であり、諸磯b式の範疇として考えて良いだろう。

2280・2284・2286・2293は地文に単節縄文を施す一群。2280・2286・2293のように、口唇部～体部上半に耳状・ボタン状の貼付を装飾する例が多い。装飾要素としての貼付文であるが、胴部横位文様帯構成の土器群が縦位一帯構成に変化する過程で、本資料のように縄文を主体的に施文する土器群にも貼付を施す様相は注意しなければならないだろう。2284は若干上げ底気味の底部で、底面周縁は平滑である。

2283は2条の凹線下に撚糸文を施す。中期加曾利E3式段階の連弧文系土器の変化であろうか。

2276は後期称名寺2式。口縁部を大きく開く深鉢。突起を口縁上に設け、体部は反転した銚先状モチーフの外側に刺突を施す。

以上のように、本遺跡出土の縄文時代の遺物は量的に貧弱であり、多くを語ることは控えなければならない。今回は、前期諸磯b式土器後半期の特徴などを問題提起しておきたい。周辺遺跡の調査・報告例が増加するに従い、この地域の該期様相も明らかになるだろう。

Ⅲ ま と め

1 二之宮環濠遺構群

(故) 山崎 一

前橋市二之宮町には三つの環濠遺構が鼎座している。中央に赤城神社、その西南350mに宮下西館(仮称)、東南400m(何れも中心部相互の距離)に無量寿寺を配し、東西800m、南北450m地域に展開する。各々性格を異にするのも面白い。以下、[社][寺][館]と略して記述する。

この地帯は、赤城山南麓、粕川・江竜川間の標高90m程の波状地で、[社]と[館]との間は、無名川(仮称)の流れる幅50m乃至100mの低湿地帯(現在は水田)を挟んでいるが、[社]と[館]とは同一微台地上にある。三遺構ののっている微台地及び付近の低湿地、水流は、いずれも北微東に高く、南微西に低い傾斜を示す。

北側には、古代からの上野国府と下野国府を結ぶ京からの主要路「あづま道」と推定されている道が、東西に走り、[社]の北では外堀との間50mに迫っている。従って、諸遺構を考えるにはつねにこの古道を意識に置く必要がある。

[社]は、一辺70mの、堀で囲まれた正方形の内郭と、それを囲む東西最大150m、南北125mの囲堀を備えた外郭とから成っているが、内郭、外郭の構造軸は僅かに不一致である。外郭の東北部は大きく「角欠き」となっている。そこは東北の鬼門に当たっているが、「鬼門欠き」としては規模が大きすぎる観がある。東西30m、南北50mの角欠きは、基本的な築造計画によるものと考えなければならぬ。このような「折」は、中世城館の戸口に対する大横矢(側防設備)の手法である。そこに現存する戸口は、斜に堀と土居を切って設けられていて、勿論後代の変更であるが、本来は直角にそれらを切っていたのでなければならぬ。郭外の通路も現在のような東から導入されるものではなく、北の「あづま道」から南進して、北面する戸口に入り、そのあと西に折れて内郭に向かっていたのであるまいか。「あづま道」の南に大きく湾曲していることはそれを示唆する。

ここの赤城神社には、いくつかの疑問がある。(1)、三夜沢の赤城神社には、多数の古文書が現存するのに、ここには一通もないのはなぜであろう。火災等による亡失も考えに入れねばならぬが、三夜沢等他所に関連文書も見当たらないのである。(2)、鎌倉時代のものと推定されている塔址は、内郭の東北部、現本殿の東北、やや後方にあり、かつての本殿は東に向かっていたのではないかと疑われる。(3)、この社は東方からここに移ったという説もある。ここには、古い石造物もあり、それらの疑問の反證となるかも知れないが、移動可能のものであり、殊に土居上にあることとて、その可能性充分といえよう。

これらから、当社は、囲堀と同時に成立したのではなく、或は、古館址に移築されたものか、本来の社域(内郭)の外側に、後になって外郭が増築されたのではないかとこの想像に逢着する。内郭、外郭の構造軸が一致していないこともそれを裏付けるかも知れない。

「当社年代記(勢多郡誌掲載)」には、「天正四年(1577)八月八日、南方(北条)氏政打破ルナリ、神主ハ無力ト云ニ大軍ヲ恐々マ不出持無宮ナラハ可打破ト云々」とあり、欠文もあるらしく難解であるが、北条氏政に攻畧されたいことを伝えている。もっともこの年には、金山城主由良成繁も、上杉謙信もまだ健在であり、氏政の東上州作戦は考えられず、或は天正十一年の誤りではないであろうか。

宮下西館は、昭和六十一年の発掘調査で遺構の一部が確認された中世環濠館址だが、既に、地籍図によってその存在が推定されていた。内郭は一辺75mの正方形に近い形で、南面やや西寄りと東面北寄りに戸口があったと推定される。南面東寄りに発見された架け橋の脚穴は、その南側にあった現代住居のものであるまいか。東面の堀にはそれに添って東側にやや狭い少し屈曲した外堀があり、共に南に18mのび、南面の外堀に達している。南外堀は東西150mに及ぶが、西部は次第に浅くなり、低湿地中に没する。北面外堀は、今道路となっている部分で、東西110m程である。西面は低湿地に

二之宮環濠遺跡群



群馬県埋蔵文化財調査事業団図及び前橋市教委図により作製

推定堀跡
近年構築の道路

0 100m



面した高さ2 m内外の急斜面が120 mにわたってつづく。その低湿地は現在水田となり、幅75 m程で、[館]の北100 mで東南方向から西南に向かって屈折してつづく。

無量寿寺も環濠遺構と推定されるが、数十年前まで堀があったと伝えられるばかりで確認されていない。東外堀の外側に道を挟んで更に一筋の堀が添い、南北にのびていたようである。今次の発掘調査で、東西170 mの南外堀が検出された。直線に近いその堀の中央よりやや西寄りに土橋があり、そこを通る道は直角に北に進み、無量寿寺の参道となっている。

南外堀の南側東部には、中世の掘立建物の柱跡群が検出され、南側西部には、外堀と並走する長さ150 mの直線堀が発見された。両堀の間隔は20 m程で、東端は南に折れてつづき、西端は無名川に達している。外堀東端にはこれと直交する堀があり、南端はこの堀に達し、北は西外堀につづいていたらしい。但し、両者は17 m程喰い違っていて、途中に「折」があったと思われる。

このように無量寿寺の南には、通常の環濠遺構とは異なる環濠集落が展開していたらしく、今後の調査でその確認がのぞまれる。東外堀から東90 mの所にも、それと並走する堀址が認められるが、無量寿寺附近の地形は、東北が高く、西南下りとなっていて、外堀東側に添う堀は、最高所軸を走り灌漑用水路の観が濃く、最東側の堀も亦同様である。

また宮下西館の外堀も同じ用途が考えられ、湿地帯間の中世遺濠の性格を示唆するとはいえまいか。伊勢崎市上植木地区の貯水池を別に設けたもの、粕川地区、高崎市大類地区等の囲堀と貯水池の併用等と比較し、中世遺濠と灌漑についての考察も、重要な研究部面として見のがすことはできない。

(1987年7月)

×	□□住直	達 太山白□ 晴山儀行	
×	×川六造	高田政重	□□□之助
×	×□宅吉	木村菊次郎	春山秀雄
×	×□郎	横沢倉吉	小暮政之助
×	×郎	小林敏次	井上恭之助
			佐和宅次郎
			茂木義之助
			本木豊明
			狩野□為
			□井準
			加藤□藏
			狩野□□
			□□□□
			中□□平
			□寿□□藏
			□□□辰□
			□□□□
			□□□□

(323) × (165) × 6 081

大振りのモミ属の板目材を用いるが、墨痕の残り具合からみて、四辺とも二次的に切断されたものとみられる。元来は相当に大きな板材であったと推定できる。大池からの出土である。

文字は金泥を用いて記された痕跡があり、金色は殆ど失われているが、文字の部分は盛り上がっている。現状の右端部にひときわ大きな文字で「奉八社拝禮」とあるが、次に掲げる3号とも比較すると、この部分が本来この木札の中央部分にあっていたのだろう。その「奉八社拝禮」の両側に人名を列記する書式とみられ、「奉八社拝禮」の文言のすぐ下には「先達」とあり、他の人名に比べてやや大きめの文字で記されたその下の四人分の人名はこの信仰に関する指導者であるとみられる。また、現状での上二段の人名と下二段の人名とでは文字の大きさが異なり、この点もそれぞれの人々の格付けの差を示しているのだろう。内容的には不明確な点が多く、具体的に何を物語るのかは不明であるが、祭礼に際しての何らかの出資・寄進などをした人々やあるいは氏子、講中などの名簿のような類のものともみるのがまず妥当なところであろう。また年代的にも、人名の記し方などからみて、近代に属するものと考えられる。

< 3号 > (3056)
 [釈文]
 □西□□
 狩野市二郎 □□□×
 [塚カ]
 小高典二郎 飯□□×
 高橋与恵 □□茂×
 飯塚清□郎 南雲×
 狩野典高 □□×
 南雲高紀 □□×

奉 八 社 拝 禮 ×

(330) × (133) × 8 081

2号と同様、モミ属の板目材を使用する。原形をとどめているのは上端部のみで、左辺・右辺・下端部とも切損している。文字は金泥で記してあり、書式は2号と全く同様であり、2号と同種・同形態のものともみてよいだろう。同じく大池からの出土である。

なお、信仰の対象と言える「八社」についてはいく通りかの解釈が可能であろう。まず一つには何らかの講のようなものが巡拝したであろう文字通り八つの神社の意。二つには「八坂神社」を略記したとする見方。現存するところでは尾島町に八坂神社があることが知られている。三つめには牛頭天王の八人の王子、八王子（八将神）をまつる神社という意味。実際のところそうした神社も特定できるわけではなく、またこれらの木札から直接、そのいずれのケースとも判別できないが、八坂神社にしる八王子にしる牛頭天王の信仰と関わってくるわけであり、もしそのような想定が可能であるならば、後述するような蘇民将来符とも関連で興味深いところである。2号と同様、近代のものと考えられる。

< 4号 > (3034)
 [釈文] (不明)

(358) × (155) × 22 081

Ⅲ まとめ

モミ属の板目材で、元來、墨書のあったものを二次的に整形して何らかの材としようとしたらしいが、欠損が甚しく明確にはしがたい。全体に数行、数段にわたって墨痕がみられ、原形は前掲の2・3号と同様の木札であった可能性が高いが、墨痕が確認できる程度で、文字は全く判読できず、詳細は不明である。1～3号と同様、大池からの出土である。

C 杭形塔婆

< 5号 > (3005)

[积文]
□□□□□□□□□□?塔百口六戸茲清信女相當壹七廻忌阿耨多羅三?三菩提也上造法 □□
□□
1418 ×45×25 061

上下両端を削り尖らせた杉の杭状材で、下端部がより鋭く削り尖らせてあり、土に突き立てられたものと思われる。材の一面を偏平に削って断面が半円形になるように整形し、平らな面に文字を記している。

戒名がみられ、その下に、「壹七廻忌」とあるので、ある人物の一七回忌の法要に際して立てられた卒塔婆であろう。

< 6号 > (3006)

[积文]
・□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□矣茲意起□□□経月□□□十七廻忌□□□法界平□
□
・ □□□
1496×47×36 061

上下両端を削り尖らせた杉の杭状材で、一面を平らに削って整形している。文字はその偏平にされた面におおく残存しているが、裏面の未調整の部分にも若干墨痕がのこる。やはり「十七廻忌」の文言があり、前例（5号）と同様、法要に際して立てられた塔婆であろう。

< 7号 > (3009)

[积文]
(梵 字)
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□右起為過去相當妙蓮禪定尼
第十七==廻忌×
(1213) ×40×30 061

断面長方形の角柱状の杉材で、文字は片面のみに記されている。下方は途中で折損しているが、上端部は前例同様削り尖らせてあり、原形は前例（5・6号）とほぼ同形と思われる。

上端部からかなり長く梵字が記され、下方部に文字が記載してある。本例では上半部の梵字の部分の墨の残りが比較的良好であるが、他例では殆ど確認できていない。本例も「戒名+十七廻忌」の文言がみえ、前例と同種のものであろう。

< 8号 > (3011)

[积文]
(梵 字)
×□□□□□□□□□□□□×
(574) ×35×28 061

前例と同じく杭状の杉材で、表面の整形はほとんどされておらず、楕円形状の断面を呈する。上下両端が折損しており、現存長からみても前掲例と同形態の杭形塔婆のごく一部分の断片とみられる。

墨痕はかなり薄れていて判読できないが、梵字であり、7号の例から考えるならば、杭形塔婆の上半部の断片と類推できよう。

<9号> (3014)

[釈文]

万至膳□平□太□
 ×菩提也 施主?言
 干時延亨三寅天□

(443) ×42×35 061

杉の杭状材の一面を偏平に整形し、断面は半円形を呈する。杭形塔婆の下端部の断片で、末端を削り尖らせ、地中に刺し立てられた部分が残存している。文言は、塔婆に記した供養願文の書き止めの部分にあたり、「延亨三年」(1746)の紀年銘が判読できる点は特筆に値する。本遺跡出土の文字資料で実年代を明確に知り得るものはこれが唯一であり、ここに掲げる一連の塔婆の年代は、ほぼこれに近いところに求めて大過ないだろう。

<10号> (3115)

[釈文]

× (梵字)
 □□□□□□×

(853) ×34×24 061

杭状の杉材で、一面を偏平に整形し、文字を書き込んでいる。墨痕は梵字七文字分が確認でき、杭形塔婆の上方部分の断片とみられる。

<まとめ>

以上、本遺跡の大池からは6点の杭形塔婆が出土している。いずれも上下端を削り尖らせた杭状の材を用い、供養の文言と供養対象者などの文言が記されている。殆どのものには明確にできないが、7号では供養文の上にかなり長々と梵字を書き連ねており、また断片的に梵字が確認できるものもあるので、ほぼ全例に上半部には梵字が記され、そのあとに供養文や供養対象者などが記載されるような書式のものであったとみられよう。

卒塔婆とはそもそも死者の供養のために墓地の墓標の前後に立てられるものであるが、やや特殊な事例として、雨乞いの際にその法要が行われた場所に立てられるとか、あるいは川施餓鬼供養の際に川辺に立てられることがあるという。また最もポピュラーなのは、上端部を三角の山形に整形した板状のもので、梵字や経文・供養対象者の名前などが記されたもので、後掲する11・12号のようなタイプのものであるが、中世の絵巻物などをみると角柱状を呈するものが多く散見できるし、また頭部を五輪塔状に整形するものも少なくはない。

しかしながらこれまでみてきた5~10号のように、ほとんど生木の樹皮や枝をはらっただけの杭状の材を用いる例は非常に稀である。

今日までの出土事例で、本遺跡出土のものに最もよく類似しているのは静岡県袋井市土橋遺跡出土の杭形塔婆である。土橋遺跡は、静岡県の西部、磐田原台地の東縁部の太田川左岸に位置する集落遺跡で、断片を含めて15点の杭形塔婆が、溝の堰の杭列中より出土している。それらは杭形の材の上端部を三角の山形に削り尖らせ、また下端部も若干削り尖らせた長さ2.1m・径12~3cmほどのもので、記載内容には、観音経の一節や供養者の住所などを示す文言がみられる。また「宝永七年寅正月廿九日」(1710年)や「正徳四年□月廿日」(1714年)などの紀年銘があり、本遺跡出土の杭形塔婆の年代(9号に延亨三年=1746年の紀年銘)にも近接している。細部の整形のしかたや文言などの内容はやや異なるというものの、形状・大きさなどを含めて、非常に共通した要素を有している。

なお、こうしたあまり類例を見ることの少ない杭形塔婆と、現在でも通例よくみられる板塔婆とが異なった目的で使用されるものであるのか、あるいは用途・目的とするところは同一で、ただ単に形態が異なるだけであるのかは、現時点では明確にしがたい。いずれにしても後掲する二点の板塔婆と同様、本遺跡に隣接する元禄年間中興と伝えられる無量寿寺との関連が考えられるところであろう。

Ⅲ まとめ

D 板塔婆

<11号> (3012)

[积文]

×□□□□□□□□□□竟 一七廻忌□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
(710)×34×10 061

杉の柁目材を札状に整形し、下端部を削り尖らせたもの。上方は折損している。現状で文字は片面のみに少しだけ残存している。杭形塔婆の例と同じく「一七廻忌」の文言がみえるので、それらと同様の字句が記された、同種のものともみられよう。杭形塔婆同様、大池から出土した。

<12号> (3227)

[积文]

□□□□□□□□×
(474) ×41× 6 061

杉の偏平な札状材である。上端部は原形を保持しており、緩やかな山形に整形されている。下端部は欠損している。墨は現状でごくわずかししか残存しておらず、釈読はできない。年代は明確ではないが、ほぼ杭形塔婆と同世代のものともみてよいだろう。同じく大池からの出土である。

E 蘇民将来符

<13号> (3251)

[积文]

☆ (梵字) 蘇民将来子孫
23×17×15.5 061

トチノキの材を用い、八角柱状を呈し、上端部は錘形に斜めに削り出しており、完全に原形を保持している。八角の各面に、五行押点「☆」・梵字（牛頭天王の種子）と「蘇民将来子孫」の文言を各一字ずつ記し、その上下両端に線刻で縦線が入る。

<14号> (3252)

[积文]

□□蘇民将来子孫
27×17×17.5 061

13号と全く同形で、八角の各面に一文字ずつ記すが、摩耗が甚だしく二面分（13号で五行押点[☆]と梵字[牛頭天王の種子]にあたる）が判読できない。前例と異なる点は、文字の上下両端に三角形の紋様が墨で記されている点で、さらにその両外側には線刻による縦線が入る。

<15号> (3253)

[积文]

□□蘇□将来子□
23×12×12 061

前二例13・14号と全く同種・同形であるが、二面分が欠失している。文字は全体に滅失が著しい。また、本例には材の中心部に穴が貫通しており、紐状のもので吊されていたものとみられる。文字の上下両端には三角形の紋様が線刻で記されている。

<まとめ>

以上三点の蘇民将来符は、西側部分の近世屋敷跡に伴う井戸跡D123号遺構からまとめて出土した。時期は18世紀代のものとみられる。

蘇民将来符の起源やその説話についてはすでに多く述べられているところであるが、まず、ごく簡単にその概要を述べてみよう。『備後国風土記』逸文に、

昔、北海志武塔神、南海神女子乎與波比爾出坐爾日暮。彼所将来二人在伎。兄蘇民将来、甚貧窮、弟将来富饒、屋倉一百在伎。爰武塔神、借ニ宿處一惜而不レ借、兄蘇民将来借奉。即以ニ粟柄

一為レ座、以ニ粟飯等饗奉。爰畢出坐。後爾經レ年、率ニ八柱子一還來天詔久、我将来之為ニ報答一。汝子孫其家爾在截止問給。蘇民将来答申久、己女子與ニ斯婦一待止申、即詔久以ニ茅輪一、令レ着ニ於腰上一。即夜爾蘇民之女子一人乎置天皆悉許呂志保呂保志天伎。即詔久、吾者、速須佐雄能神也。後世爾疫氣在者、汝蘇民将来之子孫止云天、以ニ茅輪一着レ腰在人者、將レ免止詔伎。

とあり、妻を求めて南海に赴いた武塔神が、途中、宿を求めたところ、裕福な弟の将来はこれを断ったが、兄の蘇民将来は貧しいにもかかわらず歓待した。帰途、再び立ち寄った武塔神は、弟の家で使われる蘇民将来の娘に茅の輪をつけさせてこれを救い、弟の将来とその家人たちは宿を貸さなかったという理由で報復をうけ、ことごとく滅されてしまったという。その際に、武塔神は、蘇民将来の子孫とって茅の輪を腰に着ければ疫病からまぬがれると言ったということであり、ここに除災の呪文としての「蘇民将来子孫」という文言や、その呪符の由来が示されている。

蘇民将来符は、現在でも護符として全国各地の神社や寺院で頒布されているが、近年では発掘調査による出土例も増加している。現在頒布されているものは、木製と紙製のものがあり、その形態も多種多様である。出土例からみると、現在のところ最も古く遡り得るもので中世の事例が存在するが、中世のものでは殆どが札状のものであり、呪符木簡の一類型としての位置を占めている。現行のものでは札状のものも多くみられる一方、柱状のものも少なからず存在しており、円形・四角形・六角形・八角形などの例がみられる。著名な例としては、長野県上田市の信濃国分寺八日堂で頒布されているもので、六角錐形で、頭部のすぐ下に切り込みを入れ、頭部を笠形に整形する。上部と下部に「アミ」と呼ばれる図柄が描かれている。笠形の頭部の六角錐状の部分に三角が六個並んでおり、魔除けの紋様とされている。

また、本遺跡出土の事例と同じく、八角柱状の例としては、宮城県仙台市陸奥国分寺や名取市道祖神社、山形県米沢市笹野観音、京都市八坂神社などで頒布しているものが挙げられる。このうち陸奥国分寺・道祖神社・八坂神社の事例は、八角形の材の中心部に穴があけられ、紐が通してあり、吊り下げられるようになっており、本遺跡出土の15号もおそらくはこのような形で用いられたものと言えるだろう。

なお、こうした柱状の蘇民将来符の原形として、卯槌や卯杖の形が考えられるということである。卯槌・卯杖は平安時代に宮中などで、正月上卯の日の祝に、邪気を払うために使用したもので、卯槌は桃の材を用い、一寸角で長さ三寸に作り、中心の軸に穴をあけて五色の組糸を通し、下方へ総のように下げたものである。さらにこれは中国・漢代の官吏が正月卯の日に腰に吊り下げた剛卯を模したものとされている。実際に、本遺跡出土の15号や、陸奥国分寺・京都八坂神社で頒布されているような、中心部に穴が貫通して紐が通してある事例は、漢の剛卯、あるいはそれに由来するわが国の卯槌によく類似している。

また信濃国分寺の事例をはじめ現在頒布されている蘇民将来符では、材としてドロヤナギや柳・ヌルデなどを用いた例が多いようであるが、本遺跡出土の事例ではいずれもトチノキの材を使用している。

なお、尾島町の安養寺森西遺跡からは、18世紀代のものと考えられる蘇民将来符が井戸跡より6点出土しているが、時期・形状ともに本遺跡の出土事例に全くよく類似しており、同該期の上野地方における蘇民将来符に関わる信仰形態やその特色を考える上で非常に興味深い。

F 半裁竹管刻書

<16号> (3038)
 [釈文]
 きまのき
 今 十

158×63×10 061

大池から出土したもので、ほぼ一節分の半裁竹管の表面に刻字されている。何に用いるものであるか、何の為に刻書されたのか、現段階においては全く不明である。

Ⅲ まとめ

G 墨書・刻書土器

古代の集落跡にともなう墨書・刻書土器が17点（17～31,35,36）、大池から出土した底部外面に墨書が記された近世陶器が3点（32～34）ある（表参照）。

近世陶器の墨書はいずれも殆ど判読できず、意味不明である。

古代の墨書・刻書土器は、平安時代の竪穴住居跡や低湿地から出土したもので、9～10世紀の間のものである。「？」（23=2042）や「？」（28=2153）など全く文字の体をなさず記号様を呈するものが含まれている点は注意すべきであろう。また「？」（18=1858、30=2221）や「？」（25=2085）など「几」の構えを有する文字は、近年各地で確認されつつあり、道教の符や則天文字にみられる構えの影響をうけたもので、この構えが人々に強烈な印象を与え、わが国においてこの構えの中に別の漢字を入れ、一種の吉祥または呪術的な意味を含めた特殊な字形を考案し、使用していたのではないかと考えられている。「？」（27=2105）は「万」の字の異体字である可能性が高い。いずれにしてもこれらの墨書土器は、すべて一字書きのものであり、意味するところはいかようにも解釈できるので、今回は積文の提示のみにとどめておく。

註

- (1) 『木簡研究』各号参照。
- (2) 窪徳忠『庚申信仰』1956。
- (3) 袋井市教育委員会『土橋遺跡』1985、永井義博『静岡・土橋遺跡』（『木簡研究』9 1987）。
- (4) なお、呪符や蘇民将来符のようなものにも、これら杭形塔婆のように自然木の枝をはらっただけの杭状の材の一面を扁平に整形し、そこに文字を記した例が存在している。それらの事例では、他の形態を呈する同種・同内容の呪符などと用途や目的が異なるというわけではなく、自然木に近い形の材が使用されたのは、木そのものの有する靈性を重視してのことと言われており、あるいは杭形塔婆使用の背景にもそのような理由が存在していた可能性も想定できよう。
- (5) 例えば千葉県銚子市円福寺の例（「梵字」蘇民将来子孫之門也 199×3×6）や長野県佐久市妙楽寺の例（「梵字」蘇民将来子孫之門也★ 160×25×5）、愛知県名古屋市洲崎神社の例 七福即生（「蘇民将来子孫繁栄」212×66×10）、三重県二見町松下社の例（「蘇民将来子孫家門」七難即滅 170×100×10）など。（川上 元『全国各地の蘇民将来符』[上田市立信濃国分寺資料館『蘇民将来符——その信仰と伝承——』1989）。
- (6) 倉沢正幸「蘇民将来符の製作過程」（上田市立信濃国分寺資料館註（5）前掲書）、同「蘇民将来符の一考察——信濃国分寺の事例を中心に——」（『信濃』42—8 1990）。
- (7) 川上元氏註（5）前掲論文。
- (8) 倉沢正幸氏註（6）前掲論文によるとすでに太田南畝（蜀山人）の『一話一言』巻24にこの考えが示されているという。
- (9) 藤原勉「蘇民将来と牛頭天王」（『東北福祉大学論叢』7 1967）。
- (10) 倉沢正幸氏註（6）前掲論文。内田律雄「隠岐島に残る蘇民将来符」（『季刊文化財』75 1992）。
- (11) 群馬県埋蔵文化財調査事業団『安養寺森西遺跡現地説明会資料』1983。
- (12) 平川南「則天文字を追う」（『歴博』34 1989）、同氏「下神遺跡出土の墨書土器について」（長野県埋蔵文化財センター『中央自動車道長野線埋蔵文化財調査報告6——松本市下神遺跡』1990）、同氏「墨書土器とその字形」（『国立歴史民俗博物館研究報告』35 1990）、拙稿「則天文字を記した墨書土器について」（『信濃』43—10 1990）など。なお、「？」は太田市清水田遺跡から（群馬県埋蔵文化財調査事業団『太田東部遺跡群』1985）、「？」は多野郡吉井町矢田遺跡からも（群馬県埋蔵文化財調査事業団『矢田遺跡』1992）、それぞれ類似のものが出土している。
- (13) 東野治之「墨書・刻書土器の意義」（群馬県史編纂室『群馬県出土の墨書・刻書土器集成』2 1992）。
- (14) 平川南・天野努・黒田正典「古代集落と墨書土器」（『国立歴史民俗博物館研究報告』22 1989）。

上記以外の文字資料

No	遺物番号	遺 構	積 文	種別	器種器形	時 期	文字部住	挿図頁	備 考
17	1719	M051	□	墨書	土師質小皿	中世か	底部外面	77	
18	1858	不明	「?」	墨書	土師器坏	古代	体部外面正位	225	太田市清水田遺跡より類似例出土
19	1870	N203	庚	墨書	陶器灰釉皿	古代	底部外面	22	
20	2030	N036	□	墨書	土師器坏	古代	体部外面	27	
21	2033	M048	□	墨書	土師器碗か	古代	体部外面	24	
22	2034	N203	□	墨書	土師器坏	古代	底部内面	22	
23	2042	J112	「?カ」	墨書	須恵器碗	古代	体部外面正位	109	
24	2058	西側遺構外	□	墨書	土師質	古代	体部外面正位	224	
25	2085	東側遺構外	「?」	墨書	土師器	古代	体部外面正位	225	吉井町矢田遺跡より類似例出土
26	2092	D010	「倍」	墨書	須恵器碗	古代	体部外面正位	197	
27	2105	M202	「?」	篆書	須恵器碗	古代	底部内面	191	「万」の異体字
28	2153	M151	?	墨書	土師器小坏	古代	底部外面	187	
29	2191	J154	□□	墨書	須恵質碗	古代	体部内面	207	
30	2221	J159	「?」	墨書	土師器皿	古代	体部外面正位	203	太田市清水田遺跡より類似例出土
31	2116	M201	□□	墨書	黒色土器坏	古代	体部外面	191	
32	1221	D041	「江□□□」	墨書	陶器灰釉片口鉢	近世	底部外面	41	
33	1474	D114	□	墨書	陶器鉛釉香炉	近世	底部外面	55	
34	1591	X011	「○ヤ□」	墨書	陶器焼締摺鉢	近世	底部外面	143	
35	2054	J112	「川」	篆書	須恵器碗	古代	体部内外面	109	
36	2009	J108	□	墨書	土師器碗	古代	体部内面	65	



信濃国分寺（長野県上田市）販布の蘇民将来符

(写真：上田市立信濃国分寺資料館提供)

3 陶磁器胎土・鉄滓分析

A はじめに

本遺跡出土の磁器は、17世紀以降のものは大部分が肥前産であるが、例外的な存在として中国福建広東系のもの（No.1065）も見られた。近年の調査研究により、従来考えられていたよりかなり多くの明末から清の中国磁器が日本国内にももたらされていることが判明しつつある。しかし、多くの場合、類似傾向が強く肥前磁器との肉眼での識別が容易でない。また、19世紀以降肥前磁器の技術が地方窯に広まり、各地で磁器生産が開始され、上野地方でも瀬戸美濃からの二次的な技術の流れとして皆沢や高浜で小規模ながら生産が見られる。この場合も、識別が簡単ではないものが多い。

そのような問題の解決に向けた試みとして、ここで胎土ならびに釉の化学分析を行った。この分析は下記に示すように、大西雅広らがかつて行ったものを比較し、また今後に向けての資料蓄積として広範囲な資料を用いた。分析資料は、次のものを用いた。

- 窯跡出土資料 8点： 肥前百間窯、肥前天狗谷窯、上野皆沢窯、上野高浜窯、瀬戸王子窯
 消費地資料 49点： 肥前・瀬戸など 本遺跡、五目牛南組遺跡（群馬県佐波郡赤堀町）
 景德鎮・福建広東諸窯など インドネシアの各遺跡

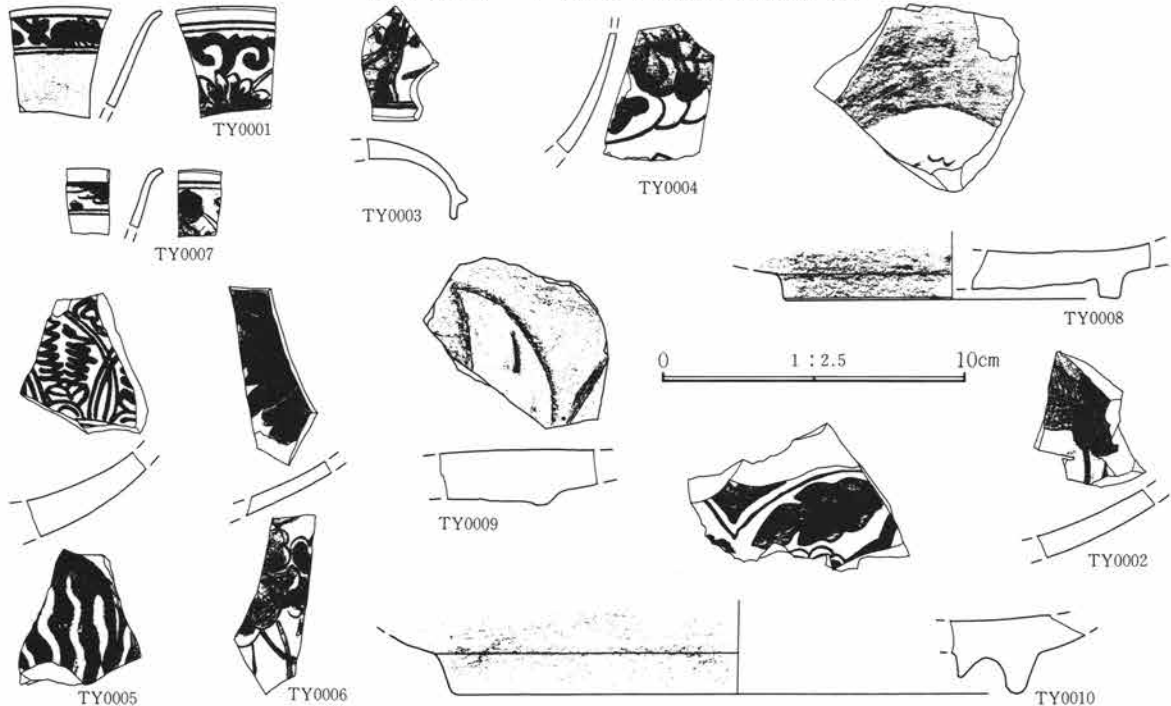
なお消費地資料は、今回窯跡資料と比較できない会津系諸窯そして中国諸窯のものの場合、肉眼での同定が必ずしも的確には行っていない状態で分析をした。そのため、分析報告での産地名称は、やや混乱したままなされたが、内容にかかわるため一部訂正したのみである。そのため最終的な同定による下記の分析資料一覧と分析結果を対比されたい。なお本遺跡出土以外の資料の多くは、次の参考文献に図が掲載されている。

その他に製鉄炉X023遺構出土及び竪穴住居J112遺構出土の鉄滓の成分分析を行った。

参考文献

- 大西雅広 1988：「皆沢焼物場所出土の資料について」『群馬の考古学』、当事業団
 大西雅広他1992：「五目牛南組遺跡陶磁器胎土分析」『五目牛南組遺跡』、当事業団
 坂井 隆 1988：「北スマトラ、コタチナ遺跡の在土器」『古代集落の諸問題』、玉口時雄先生古稀記念考古学論文集
 1991：「マラッカ海峡沿岸港市の外来文化と伝統生活」『社会科学討究』107、早稲田大学社会科学研究所

インドネシア・ティルタヤサ遺跡表面採集資料



分析資料一覽

分析番号	宮東1	宮東2	宮東3	宮東4	宮東5	宮東6	宮東7	宮東8	宮東9	宮東10	宮東11	宮東12
出土遺跡	STY	STY	STY	STY	STY	STY	STY	STY	STY	STY	KMZ	KMZ
種類	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器
器形	染付碗	染付皿	染付蓋	染付鉢	染付鉢	染付皿	染付碗	青磁皿	青磁皿	染付大皿	小片	染付皿
産地	景德鎮	肥前	肥前	福建広東	景德鎮	景德鎮	景德鎮	竜泉系	肥前	景德鎮	上野皆沢	上野皆沢
遺物番号	TY0001	TY0002	TY0003	TY0004	TY0005	TY0006	TY0007	TY0008	TY0009	TY0010	GMB521	GMB522
年代	17C前	17C後	17C後	17C前	17C後	17C後	17C前	15C	17C後	17C後	19C前	19C前
分析番号	宮東13	宮東14	宮東15	宮東16	宮東17	宮東18	宮東19	宮東20	宮東21	宮東22	宮東23	宮東24
出土遺跡	KSO	KSO	KHH	KHH	KHT	SSP	SSP	SSP	SSP	SGE	KTK	SNM
種類	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器
器形	染付碗	染付碗	染付鉢?	染付碗?	染付瓶	染付皿	染付皿	染付皿	染付碗	染付皿	染付碗	染付瓶
産地	瀬戸王子	瀬戸王子	肥前百間	肥前百間	肥前天狗谷	景德鎮	景德鎮	景德鎮	景德鎮	福建広東	上野高浜	肥前
遺物番号	GMB903	GMB904	GMB907	GMB908	GMB909	GMB910	GMB911	GMB912	GMB913	GM0914	GMB915	MY1063
年代	幕末明治初	幕末明治初	17C	17C	17C	16,17C前	17C前	17C後	15,16C	16C末17C初	19C前	17C前
分析番号	宮東25	宮東26	宮東27	宮東28	宮東29	宮東30	宮東31	宮東32	宮東33	宮東34	宮東35	宮東36
出土遺跡	SNM	SNM	SNM	SNM	SNM	SNM	SNM	SNM	SNM	SNM	SNM	SNM
種類	磁器	磁器	陶器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器
器形	染付皿	染付瓶	染付皿	染付碗	染付碗	染付碗	染付瓶	染付碗	染付盃	染付皿	染付瓶	染付小皿
産地	肥前系	肥前	不明	肥前系	肥前	肥前	肥前系	肥前	瀬戸美濃	肥前	肥前	肥前
遺物番号	MY1066	MY1067	MY1085	MY1139	MY1141	MY1145	MY1163	MY1195	MY1197	MY1911	MY1212	MY1215
年代	18C前	17C後?	明治大正	18C後	17C後	18C前	明治	17C後	幕末	17C中	幕末	18C前
分析番号	宮東37	宮東38	宮東39	宮東40	宮東41	宮東42	宮東43	宮東44	宮東45	宮東46	宮東47	宮東48
出土遺跡	SNM	SGM	SGM	SGM	SGM	SGM	SGM	SGM	SGM	SGM	SGM	SGM
種類	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	陶器	磁器
器形	染付皿	染付碗	染付碗	染付皿	白磁盃	染付湯呑	染付碗	染付蓋	染付蓋	染付徳利	染付皿	染付皿
産地	肥前	瀬戸美濃	会津?	肥前	会津?	会津?	会津?	瀬戸美濃	会津?	瀬戸美濃	上野皆沢?	会津?
遺物番号	MY1216	GM1010	GM1011	GM1049	GM1112	GM1117	GM1127	GM1137	GM1153	GM1161	GM1224	GM1262
年代	18C後	明治初	明治初?	18C前	明治?	明治?	明治?	明治初	明治?	明治?	19C前	明治大正
分析番号	宮東49	宮東50	宮東51	宮東52	宮東53	宮東54	宮東55	宮東56	宮東57			
出土遺跡	SGM	SGM	SGM	SBL	SBL	SBL	SBG	SGE	SKC			
種類	磁器	磁器	磁器	磁器	磁器	陶器	土器	磁器	土器			
器形	染付鉢	染付碗	染付瓶	染付鉢	染付皿	褐釉小皿	泥質精製	染付皿	泥質精製			
産地	肥前	不明	京焼系?	福建広東	福建広東	江蘇宜興?	不明	福建広東	不明			
遺物番号	GM1265	GM1418	GM1422	BL0001	BL0002	MLK097	MLK099	MLK081	KCN012			
年代	18C前	19C中後	明治	17,18C	17,18C	16~18C	11~13C	17C前	11~13C			
略号	出土遺跡	KHH	: 肥前百間窯跡	KHT	: 肥前天狗谷窯跡	KMZ	: 上野皆沢窯跡	KSS	: 瀬戸王子窯跡			
		KTK	: 上野高浜窯跡	SBG	: バンテン・ギラン遺跡	SBL	: バンテン・ラーマ遺跡					
		SGE	: ギエン遺跡	SGM	: 五目牛南組遺跡	SKC	: コタチナ遺跡	SNM	: 二之宮宮東遺跡			
		SSP	: サムドゥラ・バサイ遺跡	STY	: ティルタヤサ遺跡							
	遺物番号	BL	: バンテン・ラーマ遺跡表採資料 (前頁図)									
		GM	: 「五目牛南組遺跡発掘調査報告書」報告番号									
		GMB	: 同上 陶磁器胎土分析番号									
		KCN	: 「北スマトラ、コタチナ遺跡の在出土器」報告番号									
		MLK	: 「マラッカ海峡沿岸港市の外來文化と伝統生活」報告番号									
		MY	: 「二之宮宮東遺跡発掘調査報告書」(本書)									
		TY	: ティルタヤサ遺跡表採資料 (前頁図)									

B 二之宮宮東遺跡陶磁器胎土分析報告

井上 巖 (第四紀地質研究所)

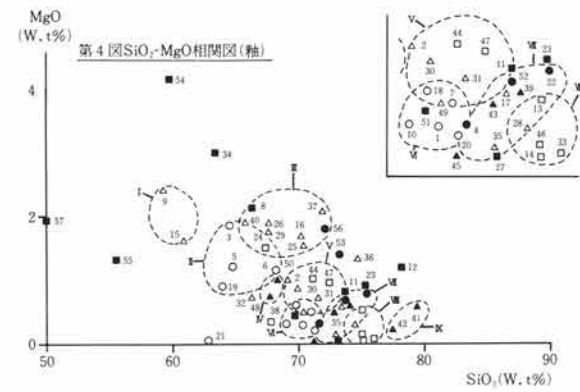
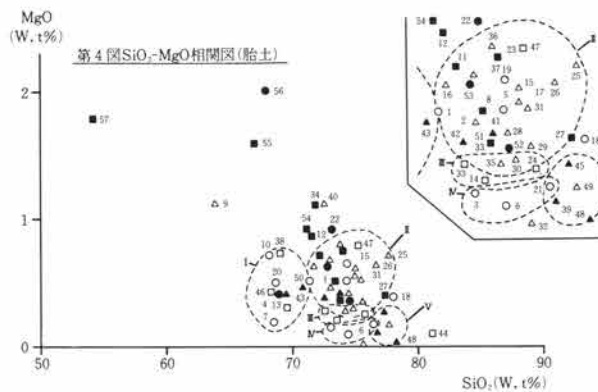
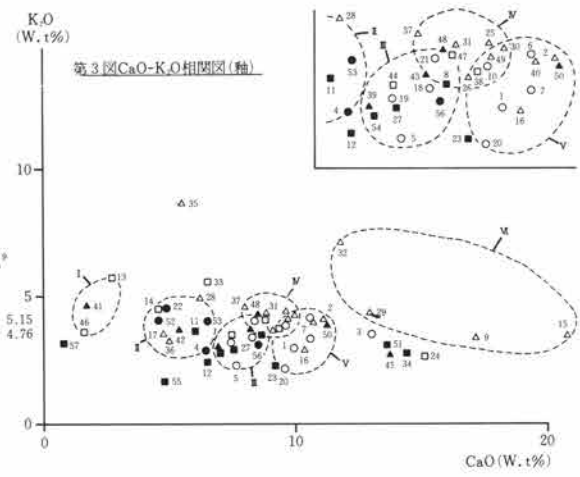
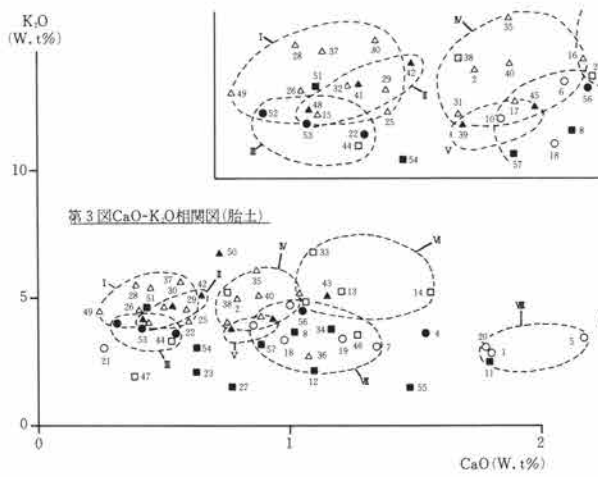
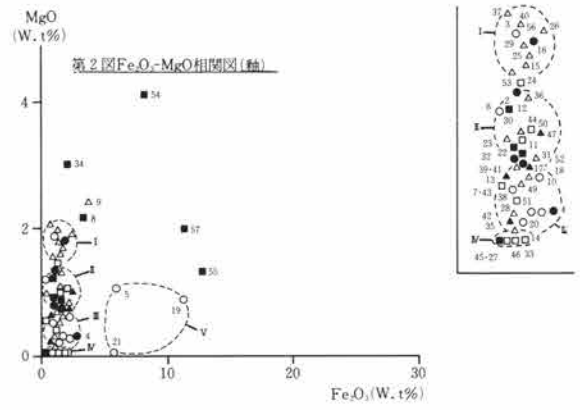
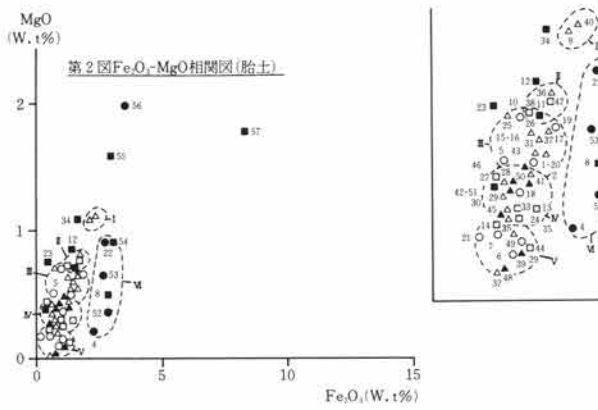
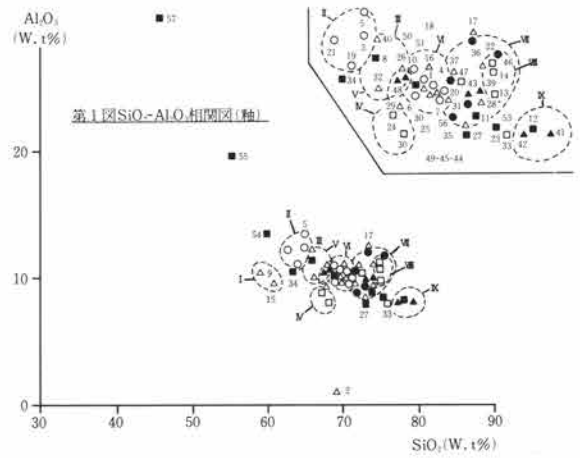
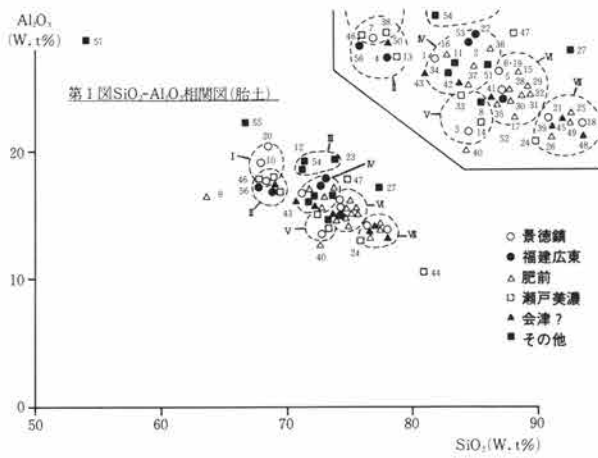
1 実験結果

57点の資料に対しては胎土の部分と表面の釉の部分の両方に対して分析を行なった。分析結果は化学分析表に示す通りである。化学分析は日本電子製JED-2001エネルギー分散型X線分析装置で行なった。実験条件は15KV, WD:20mm, INS:16mm, 倍率:200倍である。

分析結果に基づいて第1図~第4図を作成し、検討した。各図の上段には胎土、下段には釉の分析値に基づく相関図が記載されている。

1) $\text{SiO}_2\text{-Al}_2\text{O}_3$ の相関について

III まとめ



〔胎土〕 胎土は SiO_2 が68%~78%、 Al_2O_3 が12%~20%の領域にその大半が分布し、I~VIIのグループと“その他”に分類された。Iグループは景德鎮、IIグループは瀬戸美濃と福建広東系、IIIグループは“その他”、IVグループは肥前、福建広東系、“その他”、Vグループは瀬戸美濃、VIグループは肥前、景德鎮、VIIグループは会津、景德鎮、肥前で構成される。

〔釉〕 釉は SiO_2 が60%~80%、 Al_2O_3 が8%~14%の範囲に分布し、I~IXのグループと“その他”に分類された。Iグループは肥前、IIグループは景德鎮、IIIグループは肥前、IVグループは瀬戸美濃、Vグループは会津、VIグループは景德鎮と肥前、VIIグループは福建広東系、肥前、会津、VIIIグループは瀬戸美濃、IXグループは会津で構成されている。

以上の結果から明らかなように、釉では、景德鎮は明瞭に2グループに分かれるが、福建広東系は1つのグループに集中する。胎土では景德鎮は3つのグループに分散し、福建広東系も2グループに分散する。肥前は胎土、釉ともに3グループに分散し傾向は似ている。会津も胎土、釉ともに3グループに分散する。この様みにてくるとその分布形態は胎土と釉において傾向が類似しているように見受けられる。

2) Fe_2O_3 - MgO の相関について

〔胎土〕 胎土は Fe_2O_3 が0%~3%、 MgO が0%~1.2%の範囲に分布し、I~VIのグループと“その他”に分類された。Iグループは肥前、IIグループは肥前と瀬戸美濃、IIIグループは景德鎮と瀬戸美濃、IVグループは会津、肥前、瀬戸美濃、Vグループは景德鎮、会津、肥前、VIグループは福建広東系で構成される。

〔釉〕 釉は Fe_2O_3 が0%~10%、 MgO が0%~2%の範囲に分布し、I~Vグループと“その他”に分類された。Iグループは肥前、IIグループは福建広東系、肥前、瀬戸美濃、IIIグループは景德鎮、肥前、瀬戸美濃、会津で構成される。

以上の結果から明らかなように、胎土では福建広東系は Fe_2O_3 が2~3%と高く、明らかに他とは異質である。肥前は胎土と釉ともに MgO の値が高い。景德鎮は胎土と釉ともに MgO が2%以下の領域と2%以上の領域の2グループと Fe_2O_3 が2%以上の領域に分布する。会津は MgO が1~3%の領域に分布し、比較的集中度がいい。特に胎土では福建・広東系が明瞭に分かれるのが特徴である。

3) CaO - K_2O の相関について

〔胎土〕 胎土は CaO が0.2%~3%、 K_2O が1~7%の領域に分布し、I~VIIIグループと“その他”に分類された。Iグループは肥前、IIグループは会津、IIIグループは福建広東系、IVグループは肥前、Vグループは会津、VIグループは瀬戸美濃、VIIグループは景德鎮、VIIIグループも景德鎮で構成される。

〔釉〕 釉は CaO が0~22%、 K_2O が2~7%の領域に分布し、I~VIグループと“その他”に分類された。Iグループは瀬戸美濃、IIグループは福建・広東系、肥前、瀬戸美濃、IIIグループは景德鎮、会津、IVグループは肥前、瀬戸美濃、Vグループは景德鎮、VIグループは肥前で構成される。

以上の結果から明らかなように、景德鎮は胎土と釉ともに2グループに分かれ、福建広東系は1つのグループの形成と他は分散傾向という特徴が認められた。肥前は胎土と釉ともに2グループに分かれる。瀬戸美濃は釉では3グループに分かれるが胎土では1グループを形成し、他は分散する。会津は胎土では2グループに分かれるが、釉では1グループを形成し、他は分散する。景德鎮の胎土は CaO が多く、 K_2O が少なく、肥前の胎土は CaO が少なく、 K_2O が高いという特徴がある。肥前の釉のうちの一部は CaO の値が非常に高いものが認められる。

4) SiO_2 - MgO 相関について

〔胎土〕 胎土は SiO_2 が68%~80%、 MgO が0~1%の領域に分布し、I~Vグループと“その他”に分類された。Iグループは景德鎮、瀬戸美濃、会津、IIグループは肥前、福建広東系、会津、IIIグループは瀬戸美濃、IVグループは景德鎮、Vグループは会津で構成される。

〔釉〕 釉は SiO_2 が60%~80%、 MgO が0~2.2%の領域に分布し、I~IXグループと“その他”に分類された。Iグループは肥前、IIグループは景德鎮、IIIグループは肥前、IVグループは会津、Vグループは肥前と瀬戸美濃、VIグループは景德鎮、VIIグループは福建広東系、肥前、VIIIグループは瀬戸美濃、

Ⅲ まとめ

Ⅸグループは会津で構成される。

以上の結果から明らかなように、胎土では肥前の集中度が高く1つのグループを形成する。景德鎮は3グループ、福建広東系は分散、瀬戸美濃は2グループ、会津は3グループに分かれる。これに対して、釉では肥前は4グループ、景德鎮は2グループ、福建・広東系も2グループ、瀬戸美濃も2グループ、会津は3グループに分かれる。釉の方が各土器が各々独自のグループを形成する傾向が認められる。

2 まとめ

SiO₂-Al₂O₃の相関では、景德鎮の胎土は全体に分散傾向が強いが、釉は2グループに集中する。福建・広東系も胎土は分散傾向であるが、釉は1つのグループに集中する。胎土として使われている原石は2～3種類があるように見受けられる。これに対して、釉は景德鎮では2種類、福建広東系では1種類であるように見受けられる。

肥前の胎土は3つのグループを形成し、釉は4つのグループに分散する。瀬戸美濃も胎土は2～3グループ、釉も2～3グループを形成している。会津の胎土は2グループ、釉は3グループを形成している。この様みにてくると、景德鎮、福建広東系、肥前、瀬戸美濃、会津の各陶磁器は各々数種類含まれていると考えるのが妥当であろう。

“その他”の土器はこれらの陶磁器とは同じグループを作るのではなく、周辺に分布しており、異質であることがわかる。27は産地不明の近代の陶器であるが、明瞭に分かれて分布している、釉でも同じ傾向がある。54の宜興と57の泥質精製土器も明らかに異質である。54の釉の組成も異質である。

Fe₂O₃-MgOの相関では、福建広東系の胎土が明らかに異質で、景德鎮とは明瞭に分かれている。景德鎮はFe₂O₃の少ない領域で2つのグループを作る。肥前は3グループ、瀬戸美濃は2グループ、会津も2グループに分かれ、SiO₂-Al₂O₃の相関とよく類似していることがわかる。釉では福建広東系はFe₂O₃の低い領域に分布し、あまり明瞭ではない。これに対して景德鎮はFe₂O₃の高い領域に分布するものと低い領域のものとの2グループを作る。肥前は3グループ、瀬戸美濃は2グループ、会津も2グループに分かれる。このような傾向は胎土と類似する。54,55,57の胎土と釉は明らかに異質で、前記のグループとは離れて分布する。

CaO-K₂Oの相関では、景德鎮の胎土は2グループ、福建広東系も2グループ、肥前も2グループ、瀬戸美濃も2グループ、会津も2グループに分かれて分布する。景德鎮の釉は2グループ、福建広東系も2グループ、肥前は3グループ、瀬戸美濃は3グループ、会津は1グループとその他に分かれて分布する。27,54,55,57は胎土、釉ともに異質で、異なる領域に分布する。

C 二之宮宮東遺跡出土鉄滓の化学分析報告

井上 巖 (第四紀地質研究所)

1 分析結果

二之宮宮東遺跡出土の鉄滓2個を二之宮宮下東遺跡出土鉄鉱石と共に日本電子製エネルギー分散型X線分析装置JED-2001で分析した。実験条件は15KV, WD:20mm, INS:16mm, 倍率:200倍で行なった。分析結果は第1表化学分析結果表に示す通りである。分析結果に基づいて第1図Fe₂O₃-SiO₂相関図を作成した。(図と表は、『二之宮宮下東遺跡発掘調査報告書』当事業団に掲載)

二宮-8、9について

試料二宮-8(製鉄炉X023遺構出土 P.212)、二宮-9(竪穴住居J112遺構出土 P.108)は鉄滓である。鉄滓の鉄分の多いところを分析すると二宮-8はFe₂O₃が65.63%、TiO₂が0.45%、CuOが0.21%である。二宮-9はFe₂O₃が65.63%、TiO₂が0.19%、CuOが0%である。

2 まとめ

二宮-8と9は、Fe₂O₃の含有量が65～70%の領域にあり、鉄の粗鉄的である。

3 陶磁器胎土・鉄滓分析

第1表 化学分析表

Oxide	宮東1	宮東1Y	宮東2	宮東2Y	宮東3	宮東3Y	宮東4	宮東4Y	宮東5	宮東5Y
	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %
Na ₂ O	3.910	1.610	0.670	1.470	0.710	1.670	4.130	3.000	1.910	1.720
MgO	0.510	0.290	0.460	1.030	0.150	1.840	0.410	0.300	0.520	1.190
Al ₂ O ₃	16.750	10.230	16.260	10.020	13.490	12.360	16.730	10.560	15.250	13.440
SiO ₂	71.310	70.410	73.110	69.100	72.940	64.790	69.080	71.770	74.440	64.810
K ₂ O	2.820	2.850	4.980	4.000	4.760	3.490	3.530	2.810	3.390	2.260
CaO	1.800	9.960	0.790	11.210	5.150	13.050	1.540	6.420	2.170	7.620
TiO ₂	0.060	0.300	0.000	0.050	0.000	0.120	0.500	0.420	0.000	0.120
MnO	0.180	1.150	0.030	0.170	0.110	0.720	0.220	0.660	0.010	0.640
Fe ₂ O ₃	1.280	1.670	1.230	1.230	1.010	1.070	2.270	2.660	0.740	5.870
CoO	0.200	0.080	0.080	0.300	0.000	0.190	0.280	0.000	0.000	0.010
CuO	0.100	0.330	0.430	0.510	0.000	0.170	0.000	0.320	0.200	1.140
SnO ₂	0.000	0.180	0.810	0.700	0.740	0.000	0.340	0.470	0.380	0.470
HgO	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
PbO	1.080	0.960	1.140	0.850	0.940	0.530	0.970	0.610	0.980	0.710
SO ₂										
Total	100.000	100.020	99.990	100.640	100.000	100.000	100.000	100.000	99.990	100.000

Oxide	宮東6	宮東6Y	宮東7	宮東7Y	宮東8	宮東8Y	宮東9	宮東9Y	宮東10	宮東10Y
	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %
Na ₂ O	1.500	2.620	4.040	2.110	0.000	0.960	2.380	0.000	1.440	0.400
MgO	0.090	1.170	0.180	0.470	0.500	2.150	1.090	2.440	0.700	0.280
Al ₂ O ₃	16.100	9.720	17.610	9.560	14.700	11.430	16.370	10.210	19.030	10.950
SiO ₂	74.310	69.170	68.540	70.870	73.410	66.290	63.840	59.270	68.180	69.150
K ₂ O	4.670	4.070	2.980	3.270	3.670	3.400	6.350	3.300	3.910	3.860
CaO	1.000	10.590	1.340	10.600	1.020	8.760	2.360	17.190	0.850	9.650
TiO ₂	0.060	0.000	0.000	0.000	0.130	0.180	0.290	0.730	0.180	0.000
MnO	0.000	0.050	0.380	0.080	0.090	0.420	0.280	0.630	0.290	1.740
Fe ₂ O ₃	0.900	0.390	0.490	0.730	2.870	3.200	2.000	3.700	0.960	2.110
CoO	0.000	0.000	0.000	0.000	0.410	0.110	0.580	0.530	0.410	0.000
CuO	0.680	0.410	1.250	0.770	1.290	1.650	1.350	0.000	0.950	0.000
SnO ₂	0.210	0.570	1.580	0.330	1.040	0.990	2.550	0.000	1.790	0.290
HgO	0.000	0.000	0.290	0.600	0.000	0.000	0.000	0.250	0.170	0.240
PbO	0.480	1.250	1.310	0.600	0.860	0.450	0.560	1.770	1.150	1.320
SO ₂										
Total	100.000	100.010	99.990	99.990	99.990	99.990	100.000	100.020	100.010	99.990

Oxide	宮東11	宮東11Y	宮東12	宮東12Y	宮東13	宮東13Y	宮東14	宮東14Y	宮東15	宮東15Y
	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %
Na ₂ O	1.390	2.870	0.460	1.430	2.720	3.090	2.060	2.310	0.680	0.930
MgO	0.720	0.820	0.850	1.220	0.290	0.560	0.210	0.030	0.610	1.580
Al ₂ O ₃	16.460	8.740	19.170	8.270	16.750	9.820	13.840	10.920	15.990	9.630
SiO ₂	72.240	73.770	71.600	78.190	69.560	75.010	73.390	75.170	74.900	60.910
K ₂ O	2.400	3.520	2.100	2.330	5.250	5.720	5.240	4.410	3.990	3.370
CaO	1.790	6.010	1.090	6.470	1.200	2.720	1.560	4.560	0.430	20.840
TiO ₂	0.000	0.260	0.460	0.000	0.000	0.000	0.400	0.080	0.060	0.100
MnO	0.490	0.100	0.100	0.440	0.000	0.530	0.310	0.070	0.000	0.270
Fe ₂ O ₃	1.410	1.340	1.350	0.610	1.360	0.450	0.480	1.300	1.410	1.500
CoO	0.170	0.000	0.150	0.000	0.000	0.250	0.000	0.000	0.000	0.000
CuO	0.580	0.750	0.000	0.000	0.250	0.030	0.280	0.000	0.000	0.000
SnO ₂	1.040	0.230	1.520	0.000	1.540	0.740	0.860	0.120	0.840	0.000
HgO	0.000	0.050	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
PbO	1.290	1.550	1.140	1.030	1.090	1.090	1.370	1.020	1.090	0.860
SO ₂										
Total	99.980	100.010	99.990	99.990	100.010	100.010	100.000	99.990	100.000	99.990

Oxide	宮東16	宮東16Y	宮東17	宮東17Y	宮東18	宮東18Y	宮東19	宮東19Y	宮東20	宮東20Y
	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %
Na ₂ O	0.530	0.700	1.000	2.290	0.560	1.860	0.420	0.760	2.450	2.690
MgO	0.620	1.660	0.540	0.610	0.370	0.600	0.650	0.860	0.490	0.200
Al ₂ O ₃	16.820	11.030	14.100	12.490	13.810	10.420	16.090	11.050	20.340	10.010
SiO ₂	71.870	70.240	74.900	73.460	78.110	69.910	74.320	63.910	68.620	71.370
K ₂ O	5.180	2.750	4.200	3.480	3.310	3.430	3.430	3.120	2.970	2.150
CaO	1.040	10.370	0.890	4.770	0.980	8.300	1.210	7.440	1.770	9.620
TiO ₂	0.210	0.150	0.100	0.060	0.100	0.070	0.180	0.160	0.000	0.130
MnO	0.000	0.280	0.090	0.080	0.000	1.510	0.080	0.160	0.000	0.130
Fe ₂ O ₃	1.430	1.610	1.620	1.540	1.000	2.080	1.830	11.180	1.310	1.210
CoO	0.070	0.000	0.000	0.060	0.000	0.250	0.000	0.000	0.000	0.010
CuO	0.400	0.010	0.600	0.000	0.000	0.240	0.000	0.240	0.500	0.240
SnO ₂	0.610	0.140	0.660	0.370	0.390	0.310	0.680	0.210	0.500	0.120
HgO	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	1.000	0.000	0.000	0.000
PbO	1.230	1.070	1.310	0.780	1.370	1.030	1.110	0.910	0.960	1.090
SO ₂										
Total	100.010	100.010	100.010	99.990	100.000	100.010	100.000	100.000	100.000	99.990

Ⅲ まとめ

	宮東21	宮東21Y	宮東22	宮東22Y	宮東23	宮東23Y	宮東24	宮東24Y	宮東25	宮東25Y
Oxide	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %
Na ₂ O	2.290	3.950	0.170	0.250	1.350	1.310	1.060	0.850	0.090	0.800
MgO	0.170	0.000	0.900	0.790	0.750	0.860	0.250	1.460	0.690	1.530
Al ₂ O ₃	14.000	12.180	17.700	11.640	19.120	8.270	13.020	8.850	14.240	9.860
SiO ₂	76.440	62.890	73.180	75.500	74.060	75.380	75.830	67.340	77.510	70.500
K ₂ O	2.990	3.930	3.540	4.380	2.040	2.220	4.860	2.600	4.060	4.310
CaO	0.250	8.430	0.530	4.850	0.620	9.210	1.060	15.110	0.590	9.650
TiO ₂	0.410	2.710	0.080	0.130	0.180	0.230	0.090	0.000	0.150	0.110
MnO	0.190	0.000	0.240	0.090	0.270	0.000	0.000	0.710	0.000	0.670
Fe ₂ O ₃	0.130	5.620	2.790	1.190	0.390	0.870	0.950	1.220	0.750	0.730
CoO	0.360	0.000	0.000	0.000	0.000	0.030	0.000	0.610	0.000	0.070
CuO	1.080	0.000	0.000	0.010	0.000	0.400	0.450	0.460	0.220	0.500
SnO ₂	0.660	0.000	0.440	0.010	0.140	0.000	0.820	0.430	0.600	0.270
HgO	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
PbO	1.030	0.290	0.420	1.170	1.070	1.220	1.610	0.370	1.100	1.010
SO ₂										
Total	100.000	100.000	99.990	100.010	99.990	100.000	100.000	100.010	100.000	100.010
	宮東26	宮東26Y	宮東27	宮東27Y	宮東28	宮東28Y	宮東29	宮東29Y	宮東30	宮東30Y
Oxide	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %
Na ₂ O	1.180	1.520	0.760	5.950	0.670	1.410	0.490	0.560	0.640	1.400
MgO	0.620	1.900	0.380	0.000	0.400	0.290	0.340	1.740	0.280	0.860
Al ₂ O ₃	13.160	11.030	16.970	8.090	15.260	9.420	15.560	9.250	14.800	10.100
SiO ₂	76.520	67.890	77.440	72.980	74.400	74.480	75.470	67.730	74.750	69.920
K ₂ O	4.500	3.630	1.470	3.050	5.470	4.900	4.500	4.340	5.600	4.270
CaO	0.390	9.240	0.760	7.460	0.380	6.260	0.590	13.010	0.560	10.040
TiO ₂	0.030	0.190	0.310	0.300	0.330	0.000	0.220	0.110	0.040	0.180
MnO	0.090	1.090	0.000	0.000	0.090	0.960	0.220	0.250	0.220	0.080
Fe ₂ O ₃	1.280	2.300	0.400	0.170	0.580	0.830	0.580	1.520	0.750	0.860
CoO	0.000	0.010	0.000	0.000	0.020	0.020	0.000	0.000	0.000	0.000
CuO	0.360	0.140	0.130	0.360	0.230	0.270	0.340	0.130	0.540	0.800
SnO ₂	0.640	0.210	0.250	0.410	1.270	0.000	0.560	0.470	0.830	0.230
HgO	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
PbO	1.240	0.840	1.120	1.230	0.890	1.160	1.130	0.900	0.980	1.260
SO ₂										
Total	100.010	99.990	99.990	100.000	99.990	100.000	100.000	100.010	99.990	100.000
	宮東31	宮東31Y	宮東32	宮東32Y	宮東33	宮東33Y	宮東34	宮東34Y	宮東35	宮東35Y
Oxide	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %
Na ₂ O	0.140	0.790	0.510	1.130	0.950	0.310	0.950	1.320	0.430	0.510
MgO	0.520	0.750	0.000	0.700	0.280	0.070	1.090	3.010	0.260	0.080
Al ₂ O ₃	15.110	9.920	15.200	10.070	14.980	7.910	16.120	10.450	14.460	8.320
SiO ₂	75.370	71.370	75.490	66.170	72.460	76.050	71.920	63.540	74.190	73.070
K ₂ O	3.930	4.340	4.620	7.100	6.830	5.510	3.720	2.700	6.040	8.560
CaO	0.750	8.920	0.510	11.850	1.090	6.470	1.160	14.360	0.870	5.490
TiO ₂	0.130	0.000	0.000	0.050	0.380	0.130	1.700	0.520	0.390	0.350
MnO	0.000	0.360	0.130	0.180	0.000	0.220	0.050	1.350	0.000	0.000
Fe ₂ O ₃	1.460	1.920	0.470	1.160	0.880	1.000	1.600	1.970	0.800	0.930
CoO	0.000	0.000	0.010	0.090	0.000	0.000	0.000	0.140	0.000	0.200
CuO	0.220	0.080	1.030	0.000	0.160	0.310	0.000	0.300	0.270	0.330
SnO ₂	0.930	0.420	0.810	0.560	1.020	0.890	0.550	0.000	1.280	1.040
HgO	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
PbO	1.440	1.130	1.210	0.940	0.970	1.130	1.140	0.340	1.020	1.120
SO ₂										
Total	100.000	100.000	99.990	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.010	100.000
	宮東36	宮東36Y	宮東37	宮東37Y	宮東38	宮東38Y	宮東39	宮東39Y	宮東40	宮東40Y
Oxide	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %	W t %
Na ₂ O	0.370	1.490	0.870	0.280	2.090	1.880	1.360	1.790	1.280	2.780
MgO	0.790	1.330	0.660	2.060	0.720	0.380	0.120	0.580	1.100	1.880
Al ₂ O ₃	17.150	11.130	15.520	10.270	17.850	8.130	13.830	9.950	12.630	12.180
SiO ₂	73.880	74.680	72.860	72.070	69.070	67.810	76.660	74.220	72.700	65.910
K ₂ O	2.590	3.190	5.330	4.500	5.240	3.710	3.820	2.890	5.090	3.950
CaO	1.070	5.030	0.440	8.050	0.750	9.350	0.760	6.940	0.870	10.680
TiO ₂	0.460	0.140	0.000	0.110	0.330	0.410	0.240	0.150	0.910	0.000
MnO	0.080	0.130	0.000	0.380	0.200	0.200	0.500	0.020	0.140	0.400
Fe ₂ O ₃	1.700	1.670	1.790	0.770	1.200	0.880	1.000	0.630	2.310	1.170
CoO	0.000	0.090	0.000	0.000	0.140	0.000	0.130	0.450	0.150	0.000
CuO	0.340	0.130	0.250	0.060	0.600	0.000	0.000	0.950	0.660	0.000
SnO ₂	0.370	0.070	1.210	0.640	0.590	0.000	0.420	0.040	1.660	0.000
HgO	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.160	0.000	0.000
PbO	1.200	0.910	1.060	0.800	1.220	7.250	1.170	1.230	0.510	1.040
SO ₂										
Total	100.000	99.990	99.990	99.990	100.000	100.000	100.010	100.000	100.010	99.990

3 陶磁器胎土・鉄滓分析

Oxide	宮東41 W t %	宮東41Y W t %	宮東42 W t %	宮東42Y W t %	宮東43 W t %	宮東43Y W t %	宮東44 W t %	宮東44Y W t %	宮東45 W t %	宮東45Y W t %
Na ₂ O	1.120	1.130	1.970	0.950	2.420	2.020	0.890	1.460	0.450	0.570
MgO	0.390	0.630	0.360	0.210	0.470	0.480	0.100	1.020	0.270	0.000
Al ₂ O ₃	14.800	8.010	15.540	8.010	16.000	9.720	10.470	10.190	13.990	9.730
SiO ₂	74.070	79.520	72.510	77.370	70.800	72.930	80.970	71.150	77.250	71.310
K ₂ O	4.570	4.610	5.060	3.590	5.090	3.670	3.360	3.440	4.180	2.670
CaO	0.520	1.660	0.640	5.340	1.150	8.200	0.530	7.450	0.930	13.850
TiO ₂	0.320	0.140	0.410	1.670	0.290	0.310	0.110	0.130	0.300	0.120
MnO	0.030	0.250	0.190	0.090	0.080	0.000	0.230	0.190	0.000	0.220
Fe ₂ O ₃	1.200	0.630	0.930	0.790	1.130	0.710	1.040	1.530	0.750	0.280
CoO	0.000	0.000	0.000	0.070	0.000	0.300	0.000	2.240	0.040	0.200
CuO	0.650	0.610	0.250	0.070	0.320	0.390	0.270	0.080	0.420	0.000
SnO ₂	0.820	1.070	0.920	0.240	1.020	0.000	0.670	0.000	0.550	0.220
HgO	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.010	0.000	0.000
PbO	1.500	1.730	1.220	1.610	1.230	1.270	1.370	1.110	0.880	0.820
SO ₂										
Total	99.990	99.990	100.000	100.010	100.000	100.000	100.010	100.000	100.010	99.990

Oxide	宮東46 W t %	宮東46Y W t %	宮東47 W t %	宮東47Y W t %	宮東48 W t %	宮東48Y W t %	宮東49 W t %	宮東49Y W t %	宮東50 W t %	宮東50Y W t %
Na ₂ O	5.160	6.140	0.000	0.230	1.040	1.760	0.130	0.270	1.940	0.860
MgO	0.400	0.060	0.780	0.950	0.030	0.770	0.170	0.510	0.410	0.970
Al ₂ O ₃	17.730	11.240	17.740	10.700	13.290	10.430	14.220	9.850	17.520	10.980
SiO ₂	68.300	75.130	74.880	72.400	78.140	67.870	77.490	70.760	69.160	68.330
K ₂ O	3.620	3.480	1.920	4.140	4.080	4.110	4.410	4.010	6.820	3.910
CaO	1.260	1.540	0.370	8.840	0.420	8.670	0.240	9.710	0.720	11.260
TiO ₂	0.820	0.000	0.950	0.120	0.090	0.130	0.140	0.090	0.230	0.050
MnO	0.000	0.020	0.180	0.000	0.000	0.520	0.000	0.000	0.000	0.390
Fe ₂ O ₃	0.660	0.750	1.610	1.070	0.590	1.450	0.880	1.080	0.770	2.110
CoO	0.040	0.100	0.000	0.160	0.000	3.070	0.060	0.190	0.000	0.030
CuO	0.460	0.090	0.100	0.290	0.650	0.120	0.270	0.250	0.410	0.110
SnO ₂	0.450	0.490	0.490	0.160	0.610	0.280	0.700	0.090	1.110	0.190
HgO	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
PbO	1.120	0.960	0.980	0.930	1.070	0.840	1.290	3.210	0.880	0.800
SO ₂										
Total	100.020	100.000	100.000	99.990	100.010	100.020	100.000	100.020	99.970	99.990

Oxide	宮東51 W t %	宮東51Y W t %	宮東52 W t %	宮東52Y W t %	宮東53 W t %	宮東53Y W t %	宮東54 W t %	宮東54Y W t %	宮東55 W t %	宮東55Y W t %
Na ₂ O	0.620	0.270	0.290	0.410	0.060	0.070	0.670	1.480	0.290	0.580
MgO	0.380	0.440	0.340	0.740	0.650	1.410	0.900	4.170	1.580	1.290
Al ₂ O ₃	16.440	10.450	15.090	12.370	17.470	9.600	18.580	13.470	22.160	19.620
SiO ₂	73.940	69.760	74.680	73.800	72.830	73.240	71.200	59.930	66.910	55.610
K ₂ O	4.560	2.980	4.100	4.000	3.800	3.980	3.010	2.750	1.480	1.580
CaO	0.430	13.620	0.310	4.620	0.410	6.520	0.630	6.970	1.470	4.750
TiO ₂	0.190	0.190	0.640	0.120	0.520	0.110	0.620	0.990	1.170	1.830
MnO	0.160	0.030	0.030	0.210	0.010	1.970	0.080	2.050	0.440	0.300
Fe ₂ O ₃	0.720	0.880	2.810	1.410	2.680	1.060	2.980	8.190	2.950	12.720
CoO	0.000	0.000	0.040	0.080	0.010	0.280	0.000	0.000	0.040	0.000
CuO	0.630	0.080	0.290	0.340	0.540	0.250	0.320	0.000	0.140	0.000
SnO ₂	0.740	0.060	0.250	0.640	0.210	0.560	0.050	0.000	0.180	0.000
HgO	0.000	0.000	0.000	0.030	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
PbO	1.200	1.230	1.130	1.230	0.820	0.950	0.960	0.000	1.190	1.730
SO ₂										
Total	100.010	99.990	100.000	100.000	100.010	100.000	100.000	100.000	100.000	100.010

Oxide	宮東56 W t %	宮東56Y W t %	宮東57 W t %	宮東57Y W t %
Na ₂ O	1.570	1.540	0.250	0.570
MgO	1.990	1.810	1.780	1.990
Al ₂ O ₃	17.280	8.670	28.690	30.320
SiO ₂	67.980	72.170	54.210	49.690
K ₂ O	4.620	3.090	3.130	3.110
CaO	1.050	8.530	0.880	0.810
TiO ₂	0.240	0.060	1.140	1.370
MnO	0.080	0.940	0.260	0.320
Fe ₂ O ₃	3.510	1.830	8.330	11.240
CoO	0.000	0.420	0.000	0.000
CuO	0.400	0.000	0.460	0.240
SnO ₂	0.470	0.000	0.470	0.160
HgO	0.000	0.000	0.000	0.000
PbO	0.800	0.930	0.390	0.180
SO ₂				
Total	99.990	99.990	99.990	100.000

4 土坑D124号遺構出土馬歯について

宮崎 重雄

本資料は、馬の左第三後臼歯である。赤っぽい色をしているのは、土坑の中に投入する前に、何等かの理由があって人工的に着色したものか、埋存中に酸化鉄等で変色されたものか検討してみる必要がある。

この歯は保存状況が極めて良好で、単独で投入されたことは疑いない。もし歯の生えた下顎あるいは頭蓋骨をそのまま投入したとすれば、この歯の保存状況からして、他の部分が残らないはずはない。

歯髓腔内には水性堆積物と思われる砂粒が付着しており、おそらく土坑の埋土でなく、井戸などの底に埋まっていたもの、すなわち、井戸の使用時に投入されたものと考えられ、何か意図をもって投入されたものであろう。

この歯は、顎の最も奥に生えていて、生きている馬から引き抜くことはできない。死んで白骨化した下顎骨からならば、臼歯はごく簡単に引き抜くことができるが、歯肉のついたままの下顎からは、顎を壊すか、ペンチのようなもので強力な力を加えて抜き取るかするしかなく、そのときには歯にも破損が及ぶ可能性が高い。出土した歯の近心側（前側）の頬側（外側）と歯根部に破損があるのは、この時の傷の疑いもあり、この傷跡を詳しく検討して見る必要がある。これを歯の抜去時の傷跡とみるならば、上記の理由で生きた馬から引き抜くことができないのであるから、馬を殺して抜き取ったと考えるしかなく、その意図を推測した場合、江戸時代のものといえども、動物犠牲との関連が強く浮かび上がってくる。

この歯は第三大臼歯でありながら、舌側歯冠高が41.0mmあり、咬耗はあまり進んでいない。この歯冠高からは、馬の年齢は10～13才程度の壮令馬で、老衰で死亡する年齢にはまだ達してはいない。歯の大きさからは体高120～130cmほどが推定される。これは日本在来馬に照らすと小型馬と中型馬の中間的なものである。歯の舌側には歯根部から28.3mmの所に前後（近遠心）に走る溝があり、これは1種の Hypoplasia と考えられ、幼令馬の頃に栄養障害のあった可能性を示している。

下顎左第三後臼歯計測値（単位mm）

歯冠長	28.6	歯冠幅	11.2
歯冠高 頬側	39.4		
舌側	41.0		
下後錘谷長	—	下内錘谷長	9.9
double knot 長	12.2	咬合面の傾斜	75°
下内錘幅	3.7		

5 プラント・オパール分析報告

古環境研究所

A はじめに

浅間Bテフラの下層から水田跡と見られる面 (N204 遺構 P.175) が検出されていた。この面の稲作の分析的検討を主目的として分析を行った。

現地調査は、昭和61年6月24日に行った。試料の採取は、ABC3箇所で発掘調査担当者が行った層位区分に従い、採土管ならびにポリ袋を用いて各層ごとに5~10cm間隔で行った。

B 分析結果

イネ・キビ族 (ヒエなど) ・ヨシ属・タケ亜科 (竹笹類) ・ウシクサ族 (ススキなど) について同定・定量を行い、数値データを表に示した。イネ・ヨシ属・タケ亜科について、植物生産量を推定し、図にグラフで示した。

試料名	イネ (O.sati)	キビ族 (Pani.)	ヨシ属 (Phrag.)	タケ亜科 (Bamb.)	ウシクサ族 (Andro.)
A 4層	1,743	0	0	7,803	1,734
5層	3,041	0	760	29,646	3,801
6-1層	1,596	798	1,596	27,932	4,788
6-2層	2,190	0	2,190	27,006	3,650
B 1層	5,471	0	2,052	12,993	684
2層	4,760	0	680	10,881	4,080
3層	2,944	0	981	11,774	3,925
4層	879	0	0	6,150	879
5層	2,044	0	2,044	26,571	3,407
6層	0	0	627	26,314	1,253
C 4層	0	0	0	6,749	0
5層	1,248	0	1,872	29,949	1,248
6層	0	0	634	24,722	2,536

C 考察

(1) 稲作の可能性について

土層は、1~6層の6層に分層された。このうち、4層は浅間Bテフラを含む層であり、5層はその直下層である。

分析の結果、5層からはABC全ての地点でイネのプラント・オパールが検出された。プラント・オパール密度は1,000~3,000個/ccと少ないものの、4層よりは多いため上層からプラント・オパールが混じりこんだことは考えにくい。このことから、同層で稲作が行われていた可能性があるが、当時の周辺水田からプラント・オパールが流れ込んだことも考えられる。

6層からは、A地点を除いてイネのプラント・オパールは全く検出されなかった。A地点は、溝状の遺構の内部であるため、人為的な攪乱によってプラント・オパールが混じり込んだものと考えられる。

(2) 稲穀生産量の推定

藤原宏志による植物生産量の推定方法により、稲穀の生産総量 (面積10a当たり換算) を算出した。また、当時の年間収量を100kg/10aであったと仮定して、稲作の行われていた期間を推定した。

地点	層位	生産総量 (t/10a)	期間 (年間)
A	5	3.7	37
B	5	1.7	17
C	5	1.5	15

以上のように、5層ではA地点でおよそ40年間、BC地点でおよそ15年間と比較的短期間であることが推定された。なお、この推定は、あくまでも目安として考えられたい。

6 古代から近世への土地利用

A 時期別の変遷

今回の調査で検出された遺構は、これまで報告してきたように長い時代にまたがった多種類のものが見られた。ほとんど遺物のみしか検出されなかった縄文・古墳時代を除いて、時代ごとの年代が想定できる検出遺構の変化により、宮東地区の土地利用変化を考えてみたい。

1. 9世紀まで

西側部分と東側部分の両方に竪穴住居集落が、形成された。両者の間は320mほどの距離がある。

無名川に沿う西側部分では低地にあまり広くない水田（N203遺構）も営まれると共に、鍛冶専門の作業竪穴（J112遺構）が見られる。ここではかなり集中して鉄斧などを生産していたようで、この集落は稲作を含めた農業生産以外の比重が大きかった可能性が考えられる。水田中から出土した二彩陶片は、二之宮赤城神社との何らかの関係を想定せざるをえない。

東側部分では、すでに古墳時代より江竜川の流れが少なくとも2回の変化があった。この時期には、東側の流路（M201遺構）が新たに大きな流れとして現れたが、西側の古くからの流路（M202遺構）も残っていた。出水期にはかなり水の影響を受けていた川沿いに竪穴住居集落が出現した。それは、新たな流路の誕生と関係があっただろう。西側に比べ、あまり際立った特徴の少ない集落である。

2. 10世紀

西側部分と東側部分の竪穴住居集落が発展する。

西側部分の集落は、前代の鍛冶竪穴とは離れて、水田低地のすぐ南側台地に近接した状態で竪穴住居が建てられる。やや人口が増えた可能性があり、生業は鍛冶産業の痕跡がほぼ消えてしまう。

東側の集落は、大きく変化をとげる。まず竪穴住居の範囲が東西100mまで広がり、そして北側では掘立柱建物が建設され始める。そして突然、製鉄炉遺構（X023遺構）が生まれている。これは、前代に西側にあった鍛冶産業が移転してきた可能性が考えられる。

またこの時期の終わりには東側の江竜川の流れのさらに東側に新たな流路（M101遺構）が出現している。

3. 11世紀

東側部分で水路の築造が盛んになる。

西側部分の集落は、集中度がかなり低くなり、人口が低下したと思われる。

これに対し東側の集落は、江竜川から西に少し離れて竪穴住居や掘立柱建物が60×60mほどの範囲でまとまって見られようになる。同時に最も古くからあった最西端の流路（M202遺構）から、南西方向への長大な水路（M018遺構）が掘削されている。この水路の先では、北から（M030遺構）と北西から（M020遺構）の2条の水路が合流しており、調査範囲の南側に想定される農地に向けての統合的な大規模な灌漑施設と考えられる。

4. 12世紀

東側部分で水路建設が繰り返され、中央部分では居館が築造される。

この時期の初めにあった浅間山の噴火で大きな被害があったが、東側部分での変化はそれほど劇的なものではないようだ。噴火により竪穴住居集落は移転し、小規模な水田（N204遺構）が壊滅するが、前代からの大規模水路はさらに何回も掘り代えされる。北東から南西に向けて流れていた水路は全体に40mほど北西に移動して同方向の水路（M003遺構）が築かれ、南方向に移転した可能性が考えられる集落を囲んでいたかもしれない方形の溝（M013遺構）が作られる。しかし、江竜川の流路がまた大きく変わったことにより、今度は南北走向の水路（M001遺構）が新しく掘られることになる。この水路の取水口は、居館の堀と推定される江竜沼である。

そして水路群の西の中央部分では、大規模な居館が形成され始めた。前述の北東からの水路（M0

03遺構)の廃棄に伴い、その南側(M017遺構)に向けての堀(M014遺構)が掘られる。さらにその西にはこの時期から14世紀までに礎石建物(J005遺構)掘立柱建物群と池を持つ庭園(X012遺構)が誕生していた可能性がある。

この居館の主は、早くから高価な中国陶磁を所有できる財力があつた。

5. 13・14世紀

居館はさらに大規模に群をなし、中央部分だけでなく西側部分まで範囲に取り込む。

200m近くも直線状に東西に走る2本の堀(M040、M050、M065遺構)そして西側で両者を南北に結ぶ堀(M064遺構)が掘削される。北側の堀には土橋があり、現在の無量寿寺の本堂付近に一つの中心的な建物群が存在したと思われる。また南側の堀が東端で鍵の手にさらに南に向かうことから、これらの堀は単独の中心を同心円的に囲むのではなく、有機的な関係のある複数の中心の外郭の結合体として考えられる。

調査範囲内では、前代からの庭園を持つ建物群を除いて、中心部分があたっていないため、これらの居館の性格特に居住状況はあまり明確ではない。ただこれらの堀がその後長くこの地域の社会のあり方と大きく関係していたことは間違いない。

6. 15・16世紀

中央部分北側で居住が始まる。居館群東端に南北走向の道路が生まれる。

居館群の東端部では、従来の堀に加えて内側に平行してもう1条の堀(M022遺構)が掘られ、その間は南北に走る道路となった。また庭園部分でも新たな池(X013遺構)が掘られ居住が続いている。しかし、北側の範囲外に瓦葺建物を含む新たな居住施設が生まれたようで、上記堀に接した北側では、井戸の築増が始まっている。

東側部分で12世紀末以来使われてきた南北走向の水路(M001遺構)は、15世紀中に基本的に廃棄されている。

7. 17世紀

中央部分で大池と筑波山が築増され、西側での居住と東側での畠作が始まる。

今回の調査での最大の遺構である池跡(X011遺構)が中央部分で掘削され、その廃土をもって筑波山の形が整えられた。筑波山は、この時期以前にすでに低い塚であった可能性が高いが、現在見られるような載頂ピラミッド形の形状は、大池の造成に伴って生まれている。極めて大規模な工事であり、また大池内部には庭園的景観を構成する橋も架けられていることから、強い権力的な意志によるものと考えられる。関東特に農村地帯ではかなり珍しいこの時期の中国陶磁や肥前陶磁が、少なからず出土していることは、その反映であろう。それは、前橋藩主酒井家とつながった無量寿寺の可能性が高い。

西側部分では南側堀の南側で居住が始まっている。特に西端部では、区画溝で囲まれた掘立柱建物群で構成される明瞭な屋敷地が生まれている。また堀はようやく機能を止めようとしており、最初に南北走向のものが埋められた。

東側部分での畠作が開始されている。

8. 18世紀

西側部分で無量寿寺参道と堀の廃棄があり、中央部分での池、東側での畠地の拡大が見られる。

最も劇的な変化は、長年この地域の中心であった無量寿寺本堂への参道が墓地(X021遺構)が形成されたことである。そしてそれに伴い2条の東西走向の堀も埋められる。ただこれらの堀に沿って道路が生まれており、前代南側から始まった屋敷地の造成は、東西の旧堀及び道路の走向に大きく規制されている。

屋敷地は、いづれも多くの井戸を掘っており、単に一般的な生活用水の汲み上げ以上の役割も考えられる。建物は、東西棟の掘立柱建物で、他地域と同じように膨大な量の陶磁器の使用が見られる。一部墨書されたものもあることから、これらの屋敷の居住者は寺とのつながりも残っていたのだろう。

Ⅲ まとめ





IV期：17世紀

V期：18世紀

VI期：19世紀以降

Ⅲ まとめ

池は西側が拡大され、東へ延びる用水路（M016遺構）の取水口になるなど、用水池としての役割が強まった。同時に、中島への供養塔婆などの供献、そして筑波山への庚申塔の献納など、民間信仰の中心的な聖域としての要素も極めて強まった。

東側部分では、大規模な畠作が展開している。

9. 19世紀以降

西側部分の畠地化。

前代に居住が拡大した西側部分は、一転して全体が急激に畠地化している。東西走向の道路遺構（X001遺構）とこれに接した部分に小規模な居住の痕跡が見られるだけで、大部分は畠地に転じている。前代の居住者たちが、一般的な農民ではなかったかもしれないことと関係するだろうか。

東側部分ではさらに、大規模な畠作が拡大している。

両部分でのそれらの景観は、その後現在までほぼ継続した。

以上をまとめれば、Ⅰ期・製鉄・鍛冶集落時代（9,10世紀）、Ⅱ期・用水施設時代（11,12世紀）、Ⅲ期・居館時代（13～16）、Ⅳ期・大池時代（17世紀）、Ⅴ期・屋敷地時代（18世紀）、Ⅵ期・畠作時代（19世紀以降）のような区分に大別することができる。

B 井戸・水路及び池の水利について

調査で検出された井戸跡は、計58基に達する。井戸跡としたものは、土坑の中で円筒形の断面形を持ち、底の深さが2m以上か、側面に湧水痕が残るものをさしている。これらは、埋没年代別に次のように分類できる。

	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅳ期	Ⅴ期	Ⅵ期	不明	計
西側部分	1	0	0	2	12	4	19	38
中央部分	0	0	4	0	0	0	12	16
東側部分	0	1	0	0	1	0	2	4
合計	1	1	4	2	13	4	33	58

即ち、全体の半分ほどが西側部分で発見されており、その中心はⅤ期になる。一方、全体の3割ほどを占める中央部分の中心は、Ⅲ期になる。もちろん、それは各部分の居住時期に重なっている。ただ、比較的多くの堅穴住居集落が展開したⅠ期とⅡ期のものが少ないのは、生活用水を井戸ではなく水路や川の流路に依存していたためだろう。

次に時期別に湧水層の深さを海拔高度ごとに分類すると次のようになる。（ ）内は湧水層が不明のもの底の深さ。Ⅴ期及び時期不明の各1基は、二つの水位がある。

	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅳ期	Ⅴ期	Ⅵ期	不明	計
85.0m以上	0	0	0	0	2	0	0	2
86.0m以上	0	0	0	0	4	2	1	7
87.0m以上	1	0	0	0	6	1	5(1)	13(1)
88.0m以上	0	0	2	0(1)	1(1)	0	11(2)	14(4)
89.0m以上	0	0	1	1	0	1	11	14
90.0m以上	0	0	0	0	0	0	2	2
水位不明	0	1	1	0	0	0	1	3
合計	1	1	4	1(1)	13(1)	4	31(3)	55(5)

以上のように湧水層の深さは、海拔87.0～89.9mの間に集中している。時期不明のものが多く古いもので水位が分かるものが少ないため必ずしも明瞭ではないが、時期的にはⅠ期は87.0m～87.9m、Ⅲ期は88.0～89.9mに分布している。量的に最大のⅤ期は、86.0～87.9mのものが多い。Ⅰ期、Ⅲ期、Ⅴ期の間には湧水水位の変化があるのかも知れない。なお、Ⅳ、Ⅴ期の池（X011遺構）の底は海拔88.5m前後であり、池造成による水位の低下がⅢ期とⅣ期の間に見られたのだろう。

調査で検出された水路跡は、大小計71条に達する。そこには、各種溝状遺構の中で恒常的な水流痕のあるもの及び概ね100m以上の長さを持つもの、さらに堀とした上幅3m以上のものを含めている。それらの時期的な分布は、掘削開始時期によれば次の通りである。

	I期	II期	III期	IV期	V期	VI期	不明	計
西側部分	0	0	4	2	2	0	0	8
中央部分	0	1	1	0	1	0	7	10
東側部分	5	27	0	0	0	0	21	53
合計	5	28	5	2	3	0	28	71

時期の判明しているものでは、圧倒的に東側部分でII期に掘られたものが、大半をしめている。それに対し、埋没時期を見ると、次のようになる。

	I期	II期	III期	IV期	V期	VI期	不明	計
西側部分	0	0	0	1	7	0	0	8
中央部分	0	0	1	0	0	2	7	10
東側部分	5	25	2	0	0	0	21	53
合計	5	25	3	1	7	2	28	71

以上のように、掘削開始時期に比べて、埋没時期がかなり遅れるものが西側及び中央部分が多い。つまり、現象としてはII期を中心に東側部分で水路が数多く掘られるが、それは多くが短期的に廃棄され、その後西側及び中央部分でIII期からV期にかけての長期間の存続する堀が形成されている。

それは、現象的には前述のIII期以降の中央・西側部分での井戸の増加に対応している。短期的な水路の掘削を繰り返す時代から、堀の形成と井戸を依存させる時代への変化である。本質的に当遺跡地域は水が豊富であり、各種の利用形態が歴史的に継続されたが、川から水を引いて流すという水路形態から掘削した水を貯めるという堀・井戸形態への変化がそこに見られる。

その場合、農業との関係はもちろん重要な要素である。ただ常識的に水路形態と結び付くと思われる水田耕作の痕跡は、少なくとも今回の調査範囲内では極めて狭い範囲でしか確認されていない。それに対し、堀・井戸形態に直接対応するわけではないが、V期とVI期には広大な畠地が見られた点が大きな問題となろう。

池跡X011遺構が、そのような水と当遺跡との歴史的な関係の中で、最も象徴的かつ大規模な施設として登場したことは明記すべきことである。即ち、庭園施設として堀の拡張から出発したと思われるこの池は、結果的には水路跡M016遺構などの用水路のための貯水池としての機能が大きな割合を占めるようになった。水路形態が農業用水と居住生活用水を併せた施設であるのに対し、堀・井戸形態は農業水利施設そのものではなく、基本的には防衛・居住施設である。そのような施設が主体を占める時代にあつて、池は農業用水としての機能を専門に分化させて使われていた。当遺跡地における水利の特徴を最も端的に現したものと言える。

なお近世における二之宮村と隣接する村々の石高は、次の通りである。

		二之宮	飯土井	新井	波志江	増田	今井	荒口	荒子
寛文8(1668)年	田(石)	614.9	132.0	230.6	711.0	806.5	170.5	182.8	165.8
	畠(石)	458.5	51.4	184.2	592.0	686.5	49.1	27.0	108.4
天明2(1782)年頃 ~弘化3(1846)年	田(町)	52.3	15.3	—	72.0	35.8	17.1	—	22.1
	畠(町)	128.2	52.1	—	59.0	70.1	32.5	—	60.5

平凡社1987『群馬県の地名』所収の「寛文郷帳」・「前橋藩領村々明細」による。

周辺村の中では、増田(天明以前に上下に分村 下欄は上増田村分)・波志江に続く収量が寛文に見られるが、耕地面積全体は天明~弘化では最大である。また畠作の割合が特に面積で高いことが分かる。

池からの用水は、方向的には東の飯土井村に向かっている。実際にどのような水利関係があつたかは不明だが、それは二之宮村の川東地区以外にも及んでいた可能性は考えられる。

7 庚申信仰を中心とする信仰資料

すでに第2節などで述べられたように、当遺跡では文字資料が少なからず出土しているが、その中には各種の信仰に関する遺物は次のように見られる。

A 庚申塔及び関係遺物

1. 池跡X011遺構出土(P.148)

7基の庚申塔(P.148)がある。建立者銘として「小鮒惣右衛門」「松井七兵衛」「鈴木 ○」「岡田 ○」「田所 ○」「岩上源右衛門 同宅 ○」が判読できる。

これらは筑波山の南側で出土しており、同山に建てられていたものが転落したと考えられる。

「庚」字墨書石塔片も見られる。

2. その他出土

筑波山には、表面に現れているものだけで36基が、確認できている。その中で建立者銘は、次の通りである。石川・福田・田中(2例)・三股・神沢・□原・設楽・田所・鈴木(2例)・松井・岡□・横田 最後の横田銘のものには天保10(1839)年銘が読める。その他、山中の盛土中には、まだ大量の庚申塔が埋まっている可能性が高い。

西側部分の水田跡N203から出土した灰釉陶器皿の高台内にも「庚」字の墨書が見られる。(P.22) この陶器の製作年代は、9世紀後半から10世紀初頭である。しかし、ここでは17世紀前半から18世紀前半の陶磁器も出土しているため、二次的な墨書とするのが妥当であろう。

3. 出土状態の傾向

以上のような出土状態から、庚申信仰関係に直接関係する遺物は、本来筑波山に献納された庚申塔が中心であることはほぼ確実である。その年代が19世紀前半を中心とする時代であることも、間違いないだろう。

そのような石塔を建立するものに対して、「庚」字を墨書した石塔片と灰釉陶器片の2例は、あり方が異なっている。離れた場所でのこの2例は、廃棄物に「庚」字を墨書し、共に池あるいは湿地より出土したことに共通点がある。石塔を建立する以前の恐らく17世紀から18世紀の間での庚申信仰の形態は、このような廃棄物に「庚」字を墨書して水辺に投棄するものであった可能性が考えられる。

B 墓標類

1. 池跡X011遺構出土

杭型塔婆(P.131)

中島周辺で16点出土。先端を尖がらした杭状の棒材の一面を削って、供養文を墨書したもの。延享3(1746)年の紀年銘のものがあり、18世紀前半～中頃のものだろう。

四面加工小形標塔(P.148)

小型の幼児墓標。「安政二卯天」(1855)年銘。

五輪塔(P.149)

各部33点が出土。「久保○新○」と「まつや」の銘が見られる。

その他の石塔(P.150～151)

宝篋印塔の各部は、6点出土。小形の塔身1点に、不明種子がある。その他に14基の石塔の基礎と石塔未製品が2点ある。後者は、ここでの石塔製作を示している。

寛永5(1628)年銘の中島上にあった石宮の屋根破片も出土している。

板碑(P.148)

1点出土。

2. その他出土

五輪塔類

池跡北側の井戸跡群(P.158)より、6点の五輪塔各部の出土が見られる。その他に西側部分の井戸跡D076(P.46)より5点、D114(P.58)より6点、D192(P.72)より1点、D194(P.84)より2点、箱型土坑D135(P.81)より1点出土している。

また筑波山には無縫塔2基・五輪塔4基が見られる。無縫塔は、いずれも僧侶の墓標で、一つには寛文10(1670)年の銘がある。

板碑(P.158,159)

池跡北側の井戸跡より2点破片が出ている。

3. 出土状態の傾向

池跡からの出土したものは、年代が明確なものは石宮(1628年)・杭型塔婆(1746年)・四面加工小形標塔(1855年)がある。その他に板碑・五輪塔があるが、前者が15,16世紀頃と推定される北側井戸群のみに見られるのに対し、後者はそれらと共に西側部分の18世紀前半を中心とする井戸跡から少なからず出土している。

もちろん、五輪塔部分としたものの中には、特に地輪の場合は他の石塔と区別できないが、全体に五輪塔は15世紀頃～18世紀までの長期間の使用が考えられる。また、本来の設置位置も池跡の周辺に限らないようである。

ここで問題になるのは、池跡南東角に接する久保田家の墓地跡X021(P.104)である。この遺構は、出土遺物からは18世紀中頃から近代に至る使用が認められたが、改葬後の墓石で最も古いものは、享保5(1720)年銘の片面加工地藏弥勒像であり、また墓誌に記されたそれ以前の没年は、元禄2(1689)・3(1690)・5(1692)各年がある。そのため、この墓地は遅くとも1720年以降の継続的な使用が考えられる。

そのため、上記の杭型塔婆はこの墓地に献納された供養塔婆である可能性が、極めて高い。また「久保○新○」銘五輪塔と安政の四面加工小形標塔も、この墓地の墓標であったと思われる。

C その他の信仰遺物

1. 池跡X011遺構出土

人名連記札(P.130) 人名連記祭札が3点見られた。墨書した1点は近世、金泥書の2点は近代のものである。近世のものは、人名が同じ大きさで何らかの順番を示した「覚え」だが、近代のものは大きさに差がある寄付名簿のようなものである。

祭礼建築物部材(P.130,138) 中島周辺より象頭の形をした木鼻が見られた。近世中期以後と考えられる。また建築物の構造材も出土。

漆椀(P.135) 中島北西側池底より19点以上が集中して出土。

偶像類その他(P.142,148) 土製狐面が見られる。また2体の石仏頭部も出土。1対は幼児墓の標識の可能性もある。

2. その他出土

筑波山の表面に見える163個の石造物の中の、石宮3基(もと中島にあったものを除く)・不動明王像1基・人物像1基・梵字名号碑1基は、明らかな信仰対象物である。その中では、石宮は明治9年花園銘及び明治29年富士山銘がある。また梵字名号碑には、内田の姓名が記される。その他に、明治35年御岳講信徒名碑及び御岳座王大権現銘の石柱がある。

西側部分の道路跡X001遺構の側溝からは、泥人形仏像が見られる。(P.25) 同様のものは畠跡N036遺構(P.27)・区画溝M044遺構(P.29)でも出土しており、基本的には18世紀代の屋敷内部で使われたものだろう。

西側部分の井戸跡D123遺構からは、木製の蘇民将来符が3点出土している。(P.89)ここからは大量の陶磁器・土器を中心とする遺物が出土しているが、ほとんど全ては一般の生活具である。そのため、この蘇民将来符も井戸の本来の使用目的から離れた状態で検出されたのだろう。上記泥人形と

Ⅲ まとめ

同様に18世紀代の屋敷で使用されていたと考えられる。

馬歯が、西側部分の箱型土坑D 1 2 4 遺構から出土している。(P.80) この遺構は、近代の廃棄物処理場所で、他の遺物のあり方は特定の信仰状況と結びつきにくい。

東側部分には、11世紀頃の土器小皿廃棄場跡X 0 2 2 遺構が野外に見られる(P.210)。単なる廃棄場所ではなく、特定の祈祷行動を伴ったものと思われる。

3. 出土状態の傾向

以上のような点から、まず筑波山がその名も示すように疑似神体山として信仰対象であったことが伺われる。その変化は、18世紀においては筑波山であり、近代になってからは富士山・御岳山との関係が深かったことは確実である。また不動明王像など密教的な石像なども見られ、山岳信仰との結びつきが見られる。

その筑波山の直下の大池中島には、近世中期以降何らかの信仰対象の建物が建っていた可能性が高い。その建物には、象形の木鼻がついていた。大池内から検出された3点の人名連記板そして集中的に投棄された漆椀は、その建物の信仰と関係が深いとするのは、無理がないだろう。

すでに第2節で触れられたように、近代の人名連記板に記された「八社」については、牛頭天王と関係のある八坂神社あるいは八王子と結び付けて考えることができる。これは蘇民将来信仰と深くつながっている。

次に18世紀代の屋敷地の信仰に関係するものとして、泥人形と共に蘇民将来符が注目される。同様の角柱状の蘇民将来符は、第2節で記述のように八坂神社のある尾島町の安養寺森西遺跡の幕末の井戸跡から6点出土している(木簡研究会1993)他に、足利市の板倉城跡の18世紀代の井戸より4点(足利市教育委員会1990)、埼玉県騎西町の16世紀中頃の私市城武家屋敷跡の井戸から1点(行田市立博物館1998,東国土器研究会1988)見られる。いづれも中世城館及びそこから継続する近世屋敷跡の井戸から出土している点が、共通している。

近世井戸の多い当遺跡でもD 1 2 3 遺構からのみの出土であり、この蘇民将来符が井戸の廃絶に伴うものとは断定しがたい。しかし、注意すべきは、安養寺森西は明王院、板倉城跡は靈山寺と当遺跡と同じように近世には寺院になっている点は同じである。もともと、蘇民将来符は寺院・神社で頒布されていることが多いため、そのような出土状態は特に注意すべきではないかもしれないが、私市城例を除けば、現状では頒布元の寺社と密接な関係のある屋敷地からの出土に限定されているのは、確かである。

現在も続いている蘇民将来符の頒布は、次のような分布がある。そのうち、角柱状のものは京都から青森まで、主に旧東山道地域に中心があるようである。群馬の紙の例は高崎市の妙音寺のもの。現在は残っていないが、かつて尾島町世良田の八坂神社でも紙のものが配られていた。(版木が、八坂神社近隣の長楽寺と近世に本山末寺関係のあった信濃国分寺に残っている。)

現在頒布されている蘇民将来符の形状		上田市立信濃国分寺資料館1988による		
		角柱	板	紙
東北	岩手	3	1	0
	宮城	3	0	0
	青森	1	0	0
	秋田	0	0	0
	山形	1	0	0
関東	千葉	0	1	0
	埼玉	1	0	0
	群馬	0	0	1
甲信越	新潟	0	1	14
	長野	1	1	0
	群馬	0	0	1
東海	愛知	1	2	1
	三重	0	2	0
近畿	兵庫	1	0	0
	京都	1	0	0
	滋賀	0	0	1
九州	長崎	0	1	0
				その他 1

なお11世紀の小皿廃棄場は、興味深い遺構であるが、現状ではその意味や他の遺構との関係を明確にすることはできない。また西側部分の水田跡N203遺構で発見された8世紀頃の二彩陶器(P.22)の意味についても二之宮赤城神社と何らかの関係があったかと推定できる程度である。

D 二之宮地域の中世・近世の信仰形態

これまで見てきたように、各種の信仰遺物が今回の調査で検出された。内容が不明瞭な古代部分を除いて考えると、概ね次のような変化をたどることができる。

一般信仰		埋葬信仰	
富士塚的信仰	17世紀前半～19世紀後半	板碑	15,16世紀
庚申信仰	17世紀頃～19世紀前半	五輪塔	15世紀～18世紀
蘇民将来信仰	18世紀前半～19世紀後半	墓地	17世紀末～現代

富士塚的な信仰は、大池の掘削による筑波山の造成に始まっている。ただそれ以前もここに何らかの塚があったことは間違いなく、その塚と板碑・五輪塔の埋葬信仰が関係していた可能性も十分に考えられる。内容的には、17世紀末～18世紀前半の筑波山、19世紀後半の富士山・御岳と変わっているが、山を模倣したものであることは間違いない。本質的には、赤城山への信仰の現れであろう。

庚申信仰は、初期にはその大池と西の無名川に対して、投棄的な献納がなされている。この地域の水との深い関係と結び付くものとも考えられる。やがて19世紀前半には筑波山への庚申塔と中島に何らかの社殿を建立した記念碑的な献納に大きく変わる。

蘇民将来信仰は、泥人形などに代表されるようなどこにも見られる屋敷地内での信仰というより、この屋敷地の性格を示す特異なものと考えた方が妥当である。蘇民将来符を使っているものから、近代には八社への集団的な奉納というような形に発展している。

以上のような流れを見ると、全体としては無量寿寺の果たした役割が極めて大きかったと言わざるをえない。全てのものが何らかの形で無量寿寺の存在と関係している。

無量寿寺は、10世紀初頭の延喜年間創建の伝承もあるが、さらに15世紀末の明応年間、あるいは17世紀後半の天和～元禄年間の中興開基との説もある。最後のものは、徳川綱吉と深い関係のあった江戸護持院隆光との関係や前橋藩主酒井家とのつながりも説かれている。(隆光は筑波山との山号を持っていたと言う。) 今回の調査成果から見ると、上述のように17世紀初頭にはすでに寺院としての体裁をとっていた可能性は高い。

なお、二之宮赤城神社近くの磯部家には、文明17(1485)年銘の石宮が現存している。そして「明治初年の廃仏毀釈に際し、村内の石仏が筑波山に集められたが、この石宮はその後戻した。」と伝えられている。(角田1986) 筑波山の役割を考える上で、興味深い伝承である。

また字十二天には「大山祇神」を祭る「十二天様」との社があり、南隣の新井村分になる「十二天郭」祭っていたが、明治に赤城神社に合併されたとされている。(角田1986) 現在も赤城神社境内には十二天堂が見られる。すでに報告したように、この「十二天郭」に相当する部分の、北側が今回の調査で検出された南堀跡で、走向よりこの「十二天郭」の三方を囲っていたと思われる。無量寿寺と同様に居館から神社への変化となっている。ただそこに「十二天」なる名称が後世まで残ったことは興味深い。

以上のように、本遺跡地域は近世においてかなり特殊な信仰地の領域としてあったことは、間違いなく、そのシンボルが赤城山信仰から生まれた筑波山であったと思われる。赤城山信仰の近世的な展開が、このような多様な信仰形態を示したと考えることができる。

Ⅲ まとめ

参考文献

- 足利市教育委員会1990『板倉城跡』
上田市立信濃国分寺資料館1988『蘇民将来符—その信仰と伝承—』
行田市立博物館1988『企画展 埋もれた戦国時代』
角田佳一1986『二の宮の赤城神社鎮まる里の風土の史紀』
東国土器研究会1988『東国土器研究』1
木簡研究会1993『木簡研究』

IV 資 料

IV 資料

1. 遺構一覽表

番号	旧番号	種類	地区	時代	開始年代	埋没年代	掲載頁	写真	遺物図	備考
D001	1	土坑	東側	近世		18C	196	139	197	底88.7m
D002	2	土坑	中央	中世か	不明		117	83		
D003	3	土坑	中央	中世	15C	15C	119	84		
D004	4	土坑	中央	中世	15C	15C	119	84	119	
D005	5	土坑	東側	古代か	不明		178	126	178	
D006	6	土坑	東側	古代か	不明		178	126		
D007	7	土坑	東側	古代		11C	178	126	178	
D008	8	土坑	中央	中世	不明		124	88		湧水90.2m
D009	9	土坑	東側	近世	不明		176	124	176	
D010	10	土坑	東側	近世		18Cか	196	139	197	不明墨書土器
D011	11	土坑	東側	中世か	不明		216	158		湧水90.7m
D012	12	土坑	東側	近世		19C以前	196	139		
D013	13	土坑	東側	近世		19C以前	196	139		
D014	14	土坑	東側	近世		19C以前	196	139		
D015	15	土坑	中央	中世	不明		156	109	158	湧水89.7m
D016	16	土坑	中央	中世	不明		156	109	158	
D017	17	土坑	中央	近世	不明		156	109		
D018	18	土坑	中央	中世		16Cか	156	109		湧水不明
D020	20	土坑	中央	中世か	不明		156	109		
D021	21	土坑	中央	中世		16Cか	156	109	158	湧水88.4m
D022	22	土坑	中央	近世	不明		156	110	158	
D023	23	土坑	中央	中世		15Cか	156	110	158	
D024	24	土坑	中央	中世		15Cか	156	110	158	
D025	25	土坑	中央	中世		15Cか	156	110	159	湧水88.7m
D026	26	土坑	中央	中世	不明		156	110	159	湧水88.9m以下
D027	27	土坑	中央	中世		16Cか	156	110	159	湧水89.5m
D028	28	土坑	中央	中世	不明		156	111		
D029	29	土坑	中央	中世	不明		128	108	128	湧水89.3m
D030	30	土坑	中央	中世	不明		128	108		湧水89.3m
D031	31	土坑	中央	中世		15Cか	156	111		
D032	32	土坑	中央	古代	10C	10C	122	86	123	
D033	33	土坑	中央	中世	不明		122	86		
D034	34	土坑	中央	中世	不明		122	86		
D035	35	土坑	中央	中世か	不明		124	88		湧水89.1m
D036	36	土坑	中央	中世	不明		122			湧水88.8m
D037	37	土坑	中央	中世	不明		122	86		湧水不明
D038	38	土坑	中央	中世	不明		122	87		湧水88.6m
D039	39	土坑	中央	中世	不明		122	87	123	湧水89.0m
D040	40	土坑	西側	近世	不明		102	75		湧水88.4m
D041	41	土坑	西側	近世	18C	19C	40	31	41-42	墨書陶器 湧水86.5m
D042	42	土坑	西側	近世	19C	19C	39	30		
D043	43	土坑	西側	近世	19C	19C	39	30	39	
D044	44	土坑	西側	近世	19C	19C	39	30		
D045	45	土坑	西側	近世	11C	11C以後	43	33	44	
D046	46	土坑	西側	近世	18C	19C	43	33	44	
D047	47	土坑	西側	近世	不明		43	33		
D048	48	土坑	西側	近世	不明		43	33		
D049	49	土坑	西側	近世	不明		43	33		
D051	51	土坑	西側	近世	不明		43	33	44	2基重複
D054	54	土坑	西側	近世	18C	18C	40	31	42	湧水86.6m
D055	55	土坑	西側	近世	17C	18C	43	33	44	湧水86.8m
D056	56	土坑	西側	古代		10C	43	34	44	湧水87.5m
D057	57	土坑	西側	近代	不明	20C	43	34	44	
D058	58	土坑	西側	近世	不明		43	33		
D059	59	土坑	西側	近世	不明		43	34		
D060	60	土坑	西側	近代	17C	19C	43	34	44	
D061	61	土坑	西側	近世	不明		43	34		
D062	62	土坑	西側	近世	不明		48	37		
D063	63	土坑	西側	近世か	不明		45	35		
D064	64	土坑	西側	近世	不明		45	35		
D065	65	土坑	西側	近世	不明		48	37		
D066	66	土坑	西側	近世	不明		48	37		
D067	67	土坑	西側	近世	不明		48	37		
D068	68	土坑	西側	近世	不明		48	37		
D069	69	土坑	西側	近世	不明		48	37	49	
D070	70	土坑	西側	近世	不明		48			
D071	71	土坑	西側	近世	不明		48	38		
D072	72	土坑	西側	近世	不明		48	38		
D073	73	土坑	西側	近世	不明		48	38		
D074	74	土坑	西側	近世	不明		48	38	49	
D075	75	土坑	西側	近世	18C	18C	45	35		湧水86.8m
D076	76	土坑	西側	近世	18C	18C	45	35	46-47	湧水86.8m
D077	77	土坑	西側	近世	不明		30	27		湧水86.5m
D078	78	土坑	西側	近世	18C	18C	45		47	
D079	79	土坑	西側	近世		18C	50	39	49	
D080	80	土坑	西側	近世	不明		50	39		
D081	81	土坑	西側	近世		18C	50	39	51	湧水85.4m
D082	82	土坑	西側	近世		18C	50	39	51	湧水85.4m
D083	83	土坑	西側	近世	不明		50	39		
D084	84	土坑	西側	近世	不明		50	39		

1 遺構一覽表

番号	旧番号	種類	地区	時代	開始年代	埋没年代	掲載頁	写真	遺物図	備考
D085	85土坑	短冊形土坑	西側	近世	17C	18C	50	40	49	
D086	86土坑	短冊形土坑	西側	近世	17C	18C	50	40	49	
D087	87土坑	短冊形土坑	西側	近世	17C	18C	50	40	49	
D088	88土坑	短冊形土坑	西側	近世	17C	18C	50	40	49	
D089	89土坑	短冊形土坑	西側	近世	17C	18C	50	40	49	
D090	90土坑	短冊形土坑	西側	近世	17C	18C	50	40,41	49	
D091	91土坑	短冊形土坑	西側	近世	17C	19C	50	41	49	
D092	92土坑	桶埋設土坑	西側	近世	不明	不明	50	41		
D093	93土坑	桶埋設土坑	西側	近世		18C	50	41	49	
D094	94土坑	桶埋設土坑	西側	近世	不明	不明	50	42		
D095	95土坑	桶埋設土坑	西側	近世	不明	不明	50	42		
D096	96土坑	桶埋設土坑	西側	近世	不明	不明	50	42		
D097	97土坑	桶埋設土坑	西側	近世	不明	不明	50	42		
D098	98土坑	桶埋設土坑	西側	近代	不明	不明	43	34		
D099	99土坑	土坑	西側	近世	不明	不明	40	31		
D100	100土坑	井戸跡	西側	近世	19C	19C	40	31	42	湧水86.8m
D101	101土坑	井戸跡	中央	中世	不明	不明	124	88		湧水88.5m
D102	102土坑	土坑	西側	古代	11C	11C	40	30		
D103	103土坑	土坑	西側	古代	11C	11C	40	30	42	
D104	104土坑	土坑	西側	近世	不明	不明	94	69		
D105	105土坑	短冊形土坑	西側	近世		19C	91	67	91	
D106	106土坑	桶埋設土坑	西側	近世		18C	82	62	83	
D107	107土坑	桶埋設土坑	西側	近世	18C	19C	82	62	83	
D108	108土坑	箱形土坑	西側	近世	不明	不明	82	62		
D109	109土坑	箱形土坑	西側	近世	不明	不明	82	62		
D110	110土坑	箱形土坑	西側	近世	不明	不明	82	62		
D111	111土坑	箱形土坑	西側	近世	不明	不明	82	62		
D112	112土坑	箱形土坑	西側	近世	不明	不明	82	63		
D114	114土坑	井戸跡	西側	近世	17C	18C	52	43	53-59	遺物大量
D115	115土坑	土坑	西側	近世		18C	82	63	83	
D116	116土坑	土坑	西側	近世		19C	82	63	83	
D117	117土坑	箱形土坑	西側	近世		17C	82	63	87	
D118	118土坑	箱形土坑	西側	近世	不明	不明	99	71		
D119	119土坑	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	86	65		
D120	120土坑	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	86			
D121	121土坑	土坑	西側	近世	不明	不明	86	65		
D122	122土坑	井戸跡	西側	近世	不明	不明	86	65		湧水88.6m
D123	123土坑	井戸跡	西側	近世	17C	18C	86	65	87-90	湧水87.3m 蘇民将来護符
D124	124土坑	箱形土坑	西側	近世		19C	79	58,60	80	
D125	125土坑	箱形土坑	西側	近世	不明	不明	79	59		
D126	126土坑	箱形土坑	西側	近世	不明	不明	79	59		
D128	128土坑	短冊形土坑	西側	近世		19C	73	54	73	
D129	129土坑	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	73	54		
D130	130土坑	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	73	54		
D131	131土坑	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	73			
D132	132土坑	土坑	西側	近世	不明	不明	73			
D133	133土坑	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	72	52		
D134	134土坑	桶埋設土坑	西側	近世	不明	不明	73	54		
D135	135土坑	箱形土坑	西側	近世	不明	不明	79	59	81	
D136	136土坑	箱形土坑	西側	近世	不明	不明	79	60		
D137	137土坑	土坑	西側	近世	不明	不明	79	60		
D138	138土坑	箱形土坑	西側	近世	不明	不明	82	63		
D139	139土坑	箱形土坑	西側	近世	不明	不明	99	71		
D140	140土坑	箱形土坑	西側	近世	不明	不明	99	71		
D141	141土坑	箱形土坑	西側	近世		18C	99	71	99	
D142	142土坑	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	99	71		
D143	143土坑	土坑	西側	近世	不明	不明	99	71		
D144	144土坑	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	61	47		
D145	145土坑	短冊形土坑	西側	近世		19C	61	47		
D146	146土坑	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	52	43		
D147	147土坑	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	52	44		
D148	148土坑	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	52	44		
D149	149土坑	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	52	44		
D150	150土坑	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	52	44		
D151	151土坑	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	61	47		
D152	152土坑	短冊形土坑	西側	近世	17C	18C	61	48	60	
D153	153土坑	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	61	48		
D154	154土坑	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	52	44		
D155	155土坑	方形竪穴	西側	中世	不明	不明	52	44		
D156	156土坑	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	61	48		
D157	157土坑	土坑	西側	近世	不明	不明	61	48		
D158	158土坑	短冊形土坑	西側	近世		18C	61		60	
D159	159土坑	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	61			
D160	160土坑	井戸跡	西側	近世	不明	不明	62	49	62	湧水87.9m
D161	161土坑	桶埋設土坑	西側	近世	不明	不明	62			
D162	162土坑	桶埋設土坑	西側	近世	不明	不明	62			
D163	163土坑	桶埋設土坑	西側	近世	不明	不明	62	49		
D164	164土坑	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	62	49		
D165	165土坑	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	62	49		
D166	166土坑	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	61	48		
D167	167土坑	土坑	西側	近世	不明	不明	61	48		
D168	168土坑	土坑	西側	近世		18C以後	94	69	94	

IV 資料

番号	旧番号	種類	地区	時代	開始年代	埋没年代	掲載頁	写真	遺物図	備考
D169	169	土坑	西側	近世	不明	不明	94	69		
D170	170	土坑	短冊形土坑	西側	近世	不明	94	69		
D171	171	土坑	井戸跡	西側	近世	18C	94	69	95~97	湧水87.5m
D172	172	土坑	井戸跡	西側	近世	19C	100	73	101	湧水89.4m
D173	173	土坑	井戸跡	西側	近世	不明	100	73		湧水89.4m
D174	174	土坑	短冊形土坑	西側	近世	18C	93	68		
D175	175	土坑	短冊形土坑	西側	近世	18C	93	68	92	
D176	176	土坑	桶埋設土坑か	西側	近世	不明	93	68		
D177	177	土坑	井戸跡	西側	近世	不明	91	67		湧水89.0m
D178	178	土坑	土坑	西側	近世	不明	91			
D179	179	土坑	井戸跡	西側	近世	不明	99	71		湧水89.0m
D180	180	土坑	井戸跡	西側	近世	不明	99	72		湧水89.1m
D181	181	土坑	井戸跡	西側	近世	不明	99	72	99	底88.4m
D182	182	土坑	井戸跡	西側	近世	不明	99	72		底88.3m
D183	183	土坑	井戸跡	西側	近世	18C	79	60	81	湧水87.7m
D184	184	土坑	井戸跡	西側	近世	18Cか	79	60		湧水87.7m
D185	185	土坑	土坑	西側	近世	不明	73	55		
D186	186	土坑	井戸跡	西側	近世	18C	73	55	74,75	湧水87.7m
D187	187	土坑	井戸跡	西側	近世	不明	73	55		湧水88.2m
D188	188	土坑	井戸跡	西側	近世	不明	70	53		湧水87.5m
D189	189	土坑	井戸跡	西側	近世	不明	72	53		湧水87.9m
D190	190	土坑	井戸跡	西側	近世	不明	70	53	70	湧水87.4m
D191	191	土坑	井戸跡	西側	近世	不明	73	55		湧水88.2m、87.1m
D192	192	土坑	井戸跡	西側	近世	不明	72	53	72	湧水88.3m
D193	193	土坑	土坑	西側	近世	不明	93	68		湧水88.3m井戸かは不明
D194	194	土坑	井戸跡	西側	近世	18C	82	58	84	湧水88.1m、87.4m
D195	195	土坑	井戸跡	西側	近世	不明	106	76		湧水89.3m
D196	196	土坑	井戸跡	西側	近世	不明	106	77		湧水89.1m
D197	197	土坑	土坑	西側	近世	不明	107	77		
D198	198	土坑	井戸跡	西側	近世	17C以前	107	77		湧水89.3m
D199	199	土坑	井戸跡	西側	近世	17C以前	107	77		底88.5m
D200	200	土坑	土坑	西側	近世	不明	107	77		
D201	201	土坑	土坑	東側	不明	不明	217	159		
D202	202	土坑	土坑	東側	不明	不明	217	159		
D203	203	土坑	土坑	東側	不明	不明	217	159		
D204	204	土坑	短冊形土坑	東側	近世	不明	219	160		
D208	208	土坑	土坑	東側	不明	不明	217	158		
D209	209	土坑	土坑	東側	古代	11C以前	217	159		
D210	210	土坑	土坑	東側	古代	11C以前	217	160		
D214	214	土坑	土坑	東側	古代	不明	212			
D215	215	土坑	土坑	東側	古代	不明	212			
D217	217	土坑	土坑	東側	古代	12C	213	152		浅間B軽石
D218	218	土坑	土坑	東側	古代	12C	213	152		浅間B軽石
D219	219	土坑	土坑	東側	古代	12C	213	152		浅間B軽石
D220	220	土坑	土坑	東側	古代	不明	214			
D221	221	土坑	土坑	東側	古代	不明	214	155		
D222	222	土坑	土坑	東側	古代	11C以前	210	150		
D223	223	土坑	土坑	東側	古代	不明	210	150		
D224	224	土坑	土坑	東側	古代	不明	213			
D225	225	土坑	土坑	東側	古代	不明	213	152		
D226	226	土坑	土坑	東側	古代	不明	213	152		
D227	227	土坑	土坑	東側	古代	不明	213	152		
D228	228	土坑	井戸跡	東側	古代	9C	213	152		
D229	229	土坑	土坑	東側	古代	不明	213	153		
D231	231	土坑	土坑	東側	古代	不明	213	153		
D232	232	土坑	土坑	東側	古代	不明	213	153		
D233	233	土坑	土坑	東側	古代	不明	213	153		
D234	234	土坑	土坑	東側	古代	不明	213	154		
D235	235	土坑	土坑	東側	古代	11C	213	154		
D236	236	土坑	土坑	東側	古代	11C	213	154	213	
D237	237	土坑	土坑	東側	古代	11C	213	154		
D238	238	土坑	土坑	東側	古代	不明	213	154		
D239	239	土坑	土坑	東側	古代	11C以前	214	155		
D240	240	土坑	土坑	東側	古代	11C以前	214	155		
D241	241	土坑	土坑	東側	古代	11C	214	156	215	
D242	242	土坑	土坑	東側	古代	不明	214	156		
D243	243	土坑	土坑	東側	近世	18C	214	156	215	
D245	245	土坑	土坑	東側	古代	11C以前	214			
D246	246	土坑	土坑	東側	古代	11C以前	214			
D247	247	土坑	土坑	東側	古代	11C以前	214	156		
D248	248	土坑	井戸跡	東側	古代	不明	214	157		
D249	249	土坑	土坑	東側	古代	11C	214	157		
D250	250	土坑	土坑	東側	古代	11C	214	157	215	
D252	252	土坑	土坑	東側	古代	11C	214	157	215	
D253	253	土坑	土坑	東側	古代	11C	214	158		
D254	254	土坑	土坑	東側	古代	不明	214	158		
D255	255	土坑	土坑	東側	古代	不明	214			
D256	256	土坑	土坑	東側	古代	不明	213			
D257	257	土坑	土坑	東側	古代	不明	214			
D259	259	土坑	土坑	東側	古代	不明	210	151		
D260	260	土坑	土坑	東側	古代	不明	210	149		
D262	262	土坑	土坑	東側	古代	不明	210	151		

1 遺構一覧表

番号	旧番号	種類	地区	時代	開始年代	埋没年代	掲載頁	写真	遺物図	備考
D264	264	土坑	東側	古代	不明	不明	210	150		
D265	265	土坑	東側	古代		11Cか	214	158		
D266	266	土坑	東側	古代		11C以前	214			
D301	301	土坑	西側	近世	不明	不明	106	76	106	湧水89.3m
D302	302	土坑	西側	近世	不明	不明	100	73		未掘 井戸か
D303	303	土坑	西側	古代		10Cか	100	73	101	
D304	304	土坑	西側	近世	不明	不明	100			桶埋設土坑に似る
D305	305	土坑	西側	近世	不明	不明	100			
D306	306	短冊形土坑	西側	近世		18C	93		92	
D307	307	短冊形土坑	西側	近世		18C	93			
D308	308	短冊形土坑	西側	近世		18C	93			
D309	309	短冊形土坑	西側	近世		18C	93			
D310	310	短冊形土坑	西側	近世		18C	93			
D311	311	短冊形土坑	西側	近世		18C	93			
D312	312	短冊形土坑	西側	近世		18C	93			
D313	313	短冊形土坑	西側	近世		18C	93	67		
D314	314	短冊形土坑	西側	近世		18C	93	67		
D315	315	短冊形土坑	西側	近世		18C	93	67		
D316	316	短冊形土坑	西側	近世		18C	93	67		
D317	317	短冊形土坑	西側	近世		18C	93	67		
D318	318	短冊形土坑	西側	近世		18C	93	67		
D319	319	短冊形土坑	西側	近世		18C	93			
D352	2落込み	土坑	東側	不明	不明	不明	219	160		
D353	3落込み	土坑	東側	古代か	不明	不明	219	160	219	
D354	4落込み	土坑	東側	不明	不明	不明	219	160		
D355	5落込み	土坑	東側	不明	不明	不明	219			
D401	なし	短冊形土坑	西側	近世	19C	19C	39			
D402	なし	短冊形土坑	西側	近世	19C	19C	39			
D403	なし	短冊形土坑	西側	近世	19C	19C	39			
D404	なし	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	30			
D405	なし	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	30			
D406	なし	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	43			
D407	なし	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	43			
D408	なし	土坑	西側	不明	不明	不明	45			
D409	なし	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	48			
D410	なし	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	48			
D411	なし	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	48			
D412	なし	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	50			
D413	なし	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	50			
D414	なし	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	50			
D415	なし	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	50			
D416	なし	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	50			
D417	なし	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	61			
D418	なし	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	61			
D419	なし	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	62			
D420	なし	箱形土坑	西側	近世	不明	不明	70			
D421	なし	箱形土坑	西側	近世	不明	不明	70			
D422	なし	箱形土坑	西側	近世	不明	不明	70			
D423	なし	箱形土坑	西側	近世	不明	不明	70			
D424	なし	土坑	西側	近世	不明	不明	70			
D425	なし	土坑	西側	近世	不明	不明	70			
D426	なし	箱形土坑	西側	近世	不明	不明	70			
D427	なし	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	70			
D428	なし	土坑	西側	近世	不明	不明	70			
D429	なし	土坑	西側	近世	不明	不明	70			
D431	なし	土坑	西側	近世	不明	不明	73			
D432	なし	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	79			
D433	なし	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	79			
D434	なし	土坑	西側	近世	不明	不明	79			
D435	なし	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	86			
D438	なし	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	86			
D439	なし	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	86			
D440	なし	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	86			
D441	なし	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	91			
D442	なし	土坑	西側	近世	不明	不明	91			
D443	なし	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	94			
D444	なし	土坑	西側	近世	不明	不明	94			
D445	なし	短冊形土坑	西側	近世		18C	93			
D446	なし	短冊形土坑	西側	近世		18C	93			
D447	なし	短冊形土坑	西側	近世		18C	93			
D448	なし	短冊形土坑	西側	近世		18C	93			
D449	なし	短冊形土坑	西側	近世		18C	93			
D450	なし	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	100			
D451	なし	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	100			
D452	なし	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	100			
D453	なし	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	106			
D454	なし	土坑	西側	近世	不明	不明	107			
D455	なし	井戸跡	中央	中世	不明	不明	128			底87.5m
D456	なし	短冊形土坑	西側	近世	不明	不明	43			
D457	なし	短冊形土坑	東側	近世	不明	不明	212			
D458	なし	土坑	東側	古代		11C以後	212			
D459	なし	土坑	東側	古代	不明	不明	212			

IV 資料

番号	旧番号	種類	地区	時代	開始年代	埋没年代	掲載頁	写真	遺物図	備考
D460	なし	土坑	東側	不明	不明	不明	216			
D461	なし	土坑	東側	不明	不明	不明	216			
D462	なし	土坑	東側	不明	不明	不明	216			
D463	なし	土坑	東側	不明	不明	不明	216			
D464	なし	土坑	東側	不明	不明	不明	216			
D465	なし	土坑	東側	古代	不明	不明	212			
D466	なし	土坑	西側	近世	不明	不明	91			
J001	1掘立	掘立柱建物	東側	古代	10Cか	11Cか	194	137		
J002	2掘立	掘立柱建物	東側	中世	12Cか	15Cか	194	138		
J003	3掘立	掘立柱建物	東側	古代	10Cか	11Cか	195	138		
J004	4掘立	掘立柱建物	東側	古代	10Cか	11Cか	195	138		
J005	5掘立	礎石建物跡	中央	中世	12C	14C	121	82.85	121	
J006	6掘立	掘立柱建物	中央	中世	12Cか	14Cか	115	82		
J008	7・8掘立	掘立柱建物	中央	中世	12Cか	14Cか	115	82		
J009	9掘立	掘立柱建物	中央	中世	12Cか	14Cか	115	82	115	
J010	10掘立	掘立柱建物	中央	中世	不明	不明	120	82.84		
J011	11掘立	掘立柱建物	西側	近世	17C	17C	33	28	33	
J012	12掘立	掘立柱建物	西側	近世	17C	17C	33	28	33	
J013	13・14・15掘立	掘立柱建物	西側	近世	不明	18C	32	27	31	
J014	なし	掘立柱建物	西側	近世	不明	18C	32	27	31	
J015	なし	掘立柱建物	西側	近世	18C	18C	32	27.33	31	
J016	16・19掘立	掘立柱建物	西側	近世	18C	18C	34	28	35	
J017	18掘立	掘立柱建物	西側	近世	17C	18C	34	28	35	
J018	なし	掘立柱建物	西側	近世	17C	18C	34	28	35	
J019	なし	掘立柱建物	西側	近世	18C	18C	34	28	35	
J020	20掘立	掘立柱建物	西側	近世	不明	18C	35	28	35	
J021	21掘立	掘立柱建物	西側	近世	18C	18C	36	29	37	
J022	22掘立	掘立柱建物	西側	近世	不明	18C	36	29		
J023	24掘立	掘立柱建物	西側	近世	不明	18C	36	29		
J024	なし	掘立柱建物	西側	近世	不明	18C	36			
J025	25～27掘立	掘立柱建物	西側	近世		18Cか	77	57	77	
J027	なし	掘立柱建物	西側	近世	17C	17C	38		37	
J029	29掘立	掘立柱建物	西側	近世	不明	不明	78	58		井戸跡D194と同一か
J030	30掘立	掘立柱建物	西側	近世	不明	不明	78	58		
J031	31掘立	掘立柱建物	西側	近世		18Cか	78	58		
J040	40掘立	掘立柱建物	東側	古代	10Cか	11Cか	194	138		
J041	なし	掘立柱建物	西側	近世	不明	18C	33	28		
J042	なし	掘立柱建物	西側	近世	不明	18C	36			
J043	なし	掘立柱建物	西側	近世	不明	18C	36			
J044	なし	掘立柱建物	西側	近世	18C	18C	36		37	
J045	なし	掘立柱建物	西側	近世	不明	18C	33			
J046	17掘立	掘立柱建物	西側	近世	18C	18C	34			
J046	なし	掘立柱建物	西側	近世	不明	不明	78			
J101	1住	竪穴住居跡	東側	古代		10C	198	141	198	
J102	2住	竪穴住居跡	東側	古代		11C	199	141	199	灰釉陶器
J103	3住	竪穴住居跡	東側	古代		11C	198	141	198	
J104	4住	竪穴住居跡	西側	古代		10C	63		63	灰釉
J105	5住	竪穴住居跡	西側	古代	不明		64	51	64	
J106	6住	竪穴住居跡	西側	古代		10C	63	50	63	灰釉
J107	7住	竪穴住居跡	西側	古代		10C	64	50	64	灰釉
J108	8住	竪穴住居跡	西側	古代	9Cか	10Cか	65	51	65	
J109	9住	竪穴住居跡	西側	古代	11Cか	12Cか	65	51	65	埴輪古墳前期壘
J110	10住	竪穴住居跡	西側	古代	不明	不明	110	80		
J111	11住	竪穴住居跡	西側	古代		11C	110	80		
J112	12住	竪穴住居跡	西側	古代		09C	108	78	109	製鉄跡
J151	51住	竪穴住居跡	東側	古代		09C	208	148	208	
J152	52住	竪穴住居跡	東側	古代		10C	200	144	200	灰釉陶器
J153	53住	竪穴住居跡	東側	古代		11C	200	144	200	
J154	54住	竪穴住居跡	東側	古代		09C	207	147	207	不明墨書土器
J155	55住	竪穴住居跡	東側	古代		10C	208	148	209	
J156	56住	竪穴住居跡	東側	古代		11C	207	147	207	灰釉陶器
J157	57住	竪穴住居跡	東側	古代		10C	199	142.155	199	
J158	58住	竪穴住居跡	東側	古代		10C	204	145	204	
J159	59住	竪穴住居跡	東側	古代		10C	203	145	203	灰釉陶器墨書土器
J160	60住	竪穴住居跡	東側	古代		09C	204	146	205	灰釉陶器
J161	61住	竪穴住居跡	東側	古代		11C	204	146	205	
M001	1・5溝	水路跡	東側	中世	12C	15C	179	127,128	180	
M003	3・6溝	水路跡	東側	古代		12C	183	129	183	浅間B軽石降下直前
M004	4溝	水路跡	東側	中世	12C	15C	179	127	180	
M007	7溝	水路跡	東側	古代	12C	12C	183	129	183	浅間B軽石降下以後
M008	8溝	水路跡	東側	古代		12C	183			浅間B軽石降下直前
M009	9溝	水路跡	東側	古代		12C	183	129		浅間B軽石降下直前
M010	10溝	水路跡	東側	古代		12C	179,183	127		浅間B軽石降下直前
M011	11溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	183	129		
M012	12溝	水路跡	東側	古代		12Cか	183	130	183	
M013	13・120溝	水路跡	東側	古代		12C	185	131		浅間B軽石降下以後
M014	14溝	道路側溝	中央	中世	不明	不明	160	114		
M015	15溝	水路跡	東側	中世	不明	不明	176	124		浅間B軽石降下以後
M016	16溝	水路跡	中央	近世	18C	19C	160	114,115	163	
M017	17溝	水路跡	中央	中世	12Cか	15C	160	115,116	164	
M018	18・124・132溝	水路跡	東側	古代		11C	185	130,131	187	浅間B軽石降下以前
M019	19溝	水路跡	東側	古代		11C	176	125		浅間B軽石降下以前

1 遺構一覧表

番号	旧番号	種類	地区	時代	開始年代	埋没年代	掲載頁	写真	遺物図	備考
M020	20溝	水路跡	東側	古代		11C	176	125		浅間B軽石降下以前
M021	21溝	水路跡	中央	近世	不明	不明	160	115	164	
M022	22溝	堀跡	中央	中世	15C	19C	160	114~116	164	南北方向
M023	23溝	水路跡	中央	中世か	不明	不明	116,160		83	
M024	24溝	道路側溝か	中央	近世か	不明	不明	160	115		畠址の可能性あり
M025	25溝	区画溝か	中央	近世	不明	不明	160			畠址の可能性あり
M026	26溝	区画溝か	中央	近世	不明	不明	160			畠址の可能性あり
M027	27溝	水路跡	中央	中世	不明	不明	116	82		
M028	28溝	水路跡	中央	中世	不明	不明	116	82		
M029	29溝	水路跡	中央	中世	不明	不明	116	82		
M030	30溝	水路跡	東側	古代		11C	176	124		浅間B軽石降下以前
M031	31溝	水路跡	東側	古代		11C	179	127		浅間B軽石降下以前
M032	32溝	区画溝	中央	中世	12Cか	17C	155	108	155	
M034	34溝	区画溝	中央	中世	12Cか	17C	155	108		
M035	35溝	道路側溝	中央	近代	不明	19C	160	116	164	
M036	36溝	水路跡	中央	近代	不明	不明	114	80		
M038	38溝	区画溝	中央	現代	不明	不明	114			
M039	39溝	区画溝	中央	現代	不明	不明	114			
M040	40溝	堀跡	西側	近世	13C	18C	19	20		東西方向
M041	41・43溝	区画溝	西側	近世	18C	18C	28	25	29	
M042	42溝	区画溝	西側	近世	17C	19C	28	25	29	
M043	50土坑	区画溝	西側	近世	17C	19C	28			
M044	44溝・53土坑	区画溝	西側	近世	18C	18C	28	25	29	
M045	45溝	区画溝	西側	近世	17C	18C	28	26	29	
M046	46溝	区画溝	西側	近世	不明	18C	30	27	31	
M047	47溝	区画溝	西側	近世	不明	不明	30	27		
M048	48溝	水路跡	西側	近世	17C	18C	19	19,20	24	
M050	50溝	堀跡	西側	近世	13C	18C	19	19,20	23	東西方向
M051	51溝	区画溝	西側	近世		18Cか	76	57	77	墨書土器
M052	52溝	区画溝	西側	近世		18Cか	76	57	77	
M054	54溝	区画溝	西側	近世	17C	19C	68	52	69	
M057	57溝	水路跡	西側	近世	17C	18C	19		24	
M059	59溝	区画溝	西側	近世	不明	不明	76	57	77	
M060	60溝	区画溝	西側	近世	不明	不明	30	27		
M061	61溝	区画溝	西側	近世	17C	18C	30	27	31	
M062	62溝	区画溝	西側	近世	不明	不明	30	26		
M063	63溝	区画溝	西側	近世	不明	不明	30	27	31	
M064	64溝	堀跡	西側	近世	13C	17C?	19	19,20	23	南北方向
M065	65溝	堀跡	西側	近世	13C	18C	19	20,21	23	東西方向
M066	66溝	水路跡	西側	中世	12Cか	18C?	19			
M072	72溝	区画溝	西側	近世	不明	不明	102			
M074	74溝	区画溝	西側	近世	不明	不明	19	24		
M075	75溝	区画溝	西側	近世	不明	不明	19	24		
M101	101溝	水路跡	東側	古代	10C	11C	189	134,135	191	
M102	102溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	189			
M103	103溝	河道跡	東側	古墳	04C	07C	189	134,135	192	
M106	106溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	189	135		
M107	107溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	189	135		
M109	109・155・156溝	水路跡	東側	古代	9Cか	10Cか	189	135		
M110	110溝	水路跡	東側	古代	10C以後	10C以後	189			
M113	113溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	189			
M115	115溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	189			
M117	117溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	189			
M118	118溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	189			
M119	119溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	189			
M121	121溝	水路跡	東側	古代		12C	185			浅間B軽石降下以後
M122	122溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	189			
M123	123溝	水路跡	東側	古代	12C	12C	189			浅間B軽石降下以後
M125	125・126溝	水路跡	東側	古代		11C	185	132	187	浅間B軽石降下以前
M131	131溝	水路跡	東側	古代か	不明	不明	185			
M133	133溝	水路跡	東側	古代		10C	185	131		
M134	134溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	185	131		
M135	135溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	185	131		
M136	136溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	185	131	187	
M137	137溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	185	131		
M138	138溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	185	131		
M139	139溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	185	131		
M140	140溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	185	131		
M141	141溝	水路跡	東側	古代	不明	不明	189			
M142	142溝	水路跡	東側	古代か	不明	不明	185			
M143	143溝	水路跡	東側	古代		12C	185	132		浅間B軽石降下直前
M144	144溝	水路跡	東側	古代	11C	11C	189		192	
M148	148溝	水路跡	東側	古代	11Cか	11Cか	189			
M150	150溝	水路跡	東側	古代	11C以後	11C以後	189	135		
M151	151溝	水路跡	東側	古代		11C	185	132	187	
M152	152溝	水路跡	東側	古代		11C	185	132		
M154	153・154溝	水路跡	東側	古代	11C以後	11C以後	189			
M157	157溝	水路跡	東側	古代	10Cか	10Cか	189			
M158	158溝	水路跡	東側	古代	11Cか	11Cか	189			
M201	1河道	河道跡	東側	古代	9C	11C	189	133,134	191	
M202	2河道	河道跡	東側	古代	6C	11C	189	133,134	191	
M203	3河道	河道跡	東側	古代	不明	不明	189	134		

IV 資料

番号	旧番号	種類	地区	時代	開始年代	埋没年代	掲載頁	写真	遺物図	備考
M204	なし	区画溝	西側	近世	不明	不明	68			
M301	なし	区画溝	西側	近世	不明	不明	30	26		
M302	なし	区画溝	西側	近世	不明	不明	68			
M303	なし	区画溝	西側	近世	不明	不明	68			
N001	4サク	畝跡	東側	近世	不明	不明	169			南北走行
N002	2サク	畝跡	東側	近代		20C	173	120	174	東西走行
N003	3サク	畝跡	東側	近世		17C	169			南北走行
N004	4サク	畝跡	東側	近世	18C	19C	169	119	170	南北走行
N005	5サク	畝跡	東側	近代	18C	19C	168	119	170	東西走行
N006	6サク	畝跡	東側	近世		18C	168	119	170	南北走行
N007	7サク	畝跡	東側	近世	不明	不明	168			南北走行
N008	8サク	畝跡	東側	近代		19C	168			東西走行
N009	9サク	畝跡	東側	近世	不明	不明	168	120		南北走行
N010	10サク	畝跡	中央	近世	不明	不明	124	87	124	
N012	12サク	畝跡	東側	近世	不明	不明	169			南北走行
N013	13サク	畝跡	東側	近世	不明	不明	169	120		南北走行
N014	14サク	畝跡	東側	近世	不明	不明	169			南北走行
N015	15サク	畝跡	中央	近世	不明	不明	102	74		
N016	16~18サク	畝跡	西側	近世	18C	19C	66			67
N019	19サク	畝跡	西側	近世	18C	19C	66			
N020	1・20サク	畝跡	東側	近代	不明	不明	171			東西走行
N021	1・21サク	畝跡	東側	近代	不明	不明	171	119,121		
N022	1・22サク	畝跡	東側	近代	不明	不明	171	121		
N023	23サク	畝跡	東側	近代	19C	20C	171	121	172	南北走行
N024	24サク	畝跡	東側	近代	19C	20C	171	121	172	
N031	31サク	畝跡	西側	近世	17C	17C	66			67
N032	32サク	畝跡	西側	近世	不明	不明	66			
N033	33~36サク	畝跡	西側	近世	19C	19C	26			27
N034	なし	畝跡	西側	近世	18C	18C	26			
N036	36サク	畝跡	西側	近世	18C	19C	26			27
N037	37サク	畝跡	西側	近世	18C	19C	102	74	103	
N038	38サク	畝跡	西側	近世	不明	不明	102			
N039	なし	畝跡	西側	近世		18Cか	102			
N100	116溝	畝跡	東側	近代	不明	不明	173			
N101	101サク	畝跡	東側	近代	不明	不明	173	122		南北走行
N102	102サク	畝跡	東側	近代	不明	不明	173	122		東西走行
N103	103サク	畝跡	東側	近代	不明	不明	173	122	174	南北走行
N104	104サク	畝跡	東側	近世	不明	不明	174	123		南北走行
N105	105サク	畝跡	東側	近世	不明	不明	174	122		東西走行
N106	106サク	畝跡	東側	近世	不明	不明	174	122		南北走行
N107	107サク	畝跡	東側	古代		12C	173	122		東西走行 浅間B軽石直下
N201	1水田	池跡	東側	古代		11C	178	125	178	浅間B軽石降下以前
N202	2水田	湿地跡	東側	古代	10C	11C	178	125	178	
N203	3水田	水田跡	西側	古代	9C	18C	19	23	22	墨書灰釉
N204	4水田	水田跡	東側	古代		12C	175	123	175	
X001	53・55溝	道路跡	西側	近世	18C	19C	19	21	23	
X002	1道路	道路跡	中央	中世	不明	不明	160	22,116		
X003	67・68溝	道路跡	西側	近世	18C	18C?	19	21	24	
X004	69~71溝	道路跡	西側	近世	18C	18C	19	22	24	
X005	111・114溝	道路跡	東側	古代	11C	11C	189	135	192	
X006	104・105溝	道路跡	東側	古代	11Cか	11Cか	189	135	192	
X011	大池	池跡	中央	近世	17C	19C	125	20,89~ 92,95	130~ 151	
X012	1池塘	池跡	中央	中世	12C	14C	117	82,83	118	
X013	2池塘	池跡	中央	中世	12C	15C	119	83	119	
X021	墓地跡	墓地跡	西側	近世	18C	19C	104	75,76	105	
X022	1祭祀	小皿廃棄場跡	東側	古代		11C	210	149	211	
X023	小鍛冶	製鉄炉跡	東側	古代		10C	212	151		
筑波山	なし	塚	中央	近世		18C	153	80,89,91,93,94		

2. 遺物一覽表

番号	地区	遺構	種類	釉焼成	器形	法量	産地	時代	本文	写真	備考
1001	西側	N203表土	磁器	染付	輪花皿	□-高-底7.0	肥前	近世1630/40	22	2-6/7,5-16	八宝文胎灰色
1002	中央	X012 No.2	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C	118	2-4/5,13-48	縞蓮弁文高台無釉
1003	中央	X012, (R-066G)	磁器	青磁	碗	底5.2	竜泉系	中世13/14C	118	2-4/5,13-48	見込摺描手画花高台無釉胎濃灰色
1004	西側	D114	陶器	灰釉	碗	底6.0	瀬戸美濃	近世	54	9-32	付高台下無釉胎灰色気泡
1005	西側	X021	磁器	青磁	碗	□-高-底4.2	福建広東	中世13C	105	2-4/5,12-47	蓮弁刻丸彫高台無釉目跡胎茶灰色
1006	中央	X012	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C	118	2-4/5,13-48	縞蓮弁文刻花幅広片切彫胎灰色
1007	西側	N203確認面	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世12/13C	22	2-4/5,5-16	内画花片切彫
1008	中央	X012	磁器	白磁	鉢		中国	中世13C	118	2-4/5,13-48	見込印花魚文無高台底部無釉薄手
1009	中央	X012 No.16	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C中	118	2-4/5,13-48	縞蓮弁文刻花幅広片切彫胎灰色
1010	中央	X011東側, (G-059G)	磁器	青磁	皿/小鉢	□12.0	竜泉系	中世14後/15前	141	2-4/5,14-52	外縞蓮弁文刻花胎暗灰色
1011	中央	X012 No.11	磁器	白磁	皿	□(11.0)	中国	中世12/13C	118	2-4/5,13-48	外下無釉胎明灰色
1013	西側	D171	磁器	青磁	皿		竜泉系	中世12/13C	95	2-4/5,12-44	見込画花片切彫胎暗灰色
1014	中央	M017	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C中	164	2-4/5,15-56	外縞蓮弁文画花片切彫胎暗灰色
1015	西側	X021中層	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C中	105	2-4/5,12-47	外縞蓮弁文画花片切彫胎灰色
1016	東側	M001下層	磁器	白磁	碗	□(12.0)	中国	中世13/14C中	180	2-4/5,15-59	口壳胎明灰色
1017	東側	M001	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C中	180	2-4/5,15-59	外縞蓮弁文刻花線彫胎暗灰色

2 遺物一覧表

番号	地区	遺構	種類	釉焼成	器形	法量	産地	時代	本文	写真	備考
1018	中央	M032	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C中	155	2-4/5,15-56	外縞蓮弁文画花丸彫胎外暗灰色
1019	中央	M017溜部下層	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C中	164	2-4/5,15-56	外縞蓮弁文刻花丸彫無稜胎灰色
1020	東側	M001 No.6	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C中	180	2-4/5,15-59	外縞蓮弁文刻花胎暗灰色
1021	中央	M017	磁器	白磁	碗		中国	中世15C	164	2-4/5,15-56	切高台目跡胎暗白色黒色微粒子
1022	西側	D171	陶器	灰釉	皿		肥前	近世18C前	95	12-45	京焼風底無釉胎黄灰色
1023	中央	M016	磁器	青磁	鉢		竜泉系	中世14/15C前	163	2-4/5,13-49	外縞蓮弁文刻花丸彫胎暗灰色
1024	中央	M017	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C中	164	2-4/5,15-56	外縞蓮弁文刻花胎灰色
1025	東側	N024	磁器	青磁	鉢	底(6.8)	竜泉系	中世14/15C前	172	2-4/5,15-58	高台両側面取胎灰色
1026	中央	X012 No.10	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世12/13C	118	2-4/5,13-48	見込画花胎暗灰色
1027	西側	X003	陶器	灰釉	鉢		瀬戸美濃	近世	24	5-18	見込目跡胎オリーブ灰色
1028	西側	(X-003G)	磁器	白磁	小碗		肥前	近世17/18C	221	16-60	胎土明白色
1029	中央	M016	磁器	青磁	瓶類		不明	近代	164	13-49	盛上象嵌胎明白色
1030	東側	(不明)	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C	225	2-4/5,16-62	外斑状画花胎暗灰色
1031	東側	N103	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C中	174	2-4/5,15-58	見込画花胎明白色
1032	中央	X011中島,(H-058G)	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C	140	2-4/5,13-51	外縞蓮弁文刻花胎暗灰色
1033	東側	N204付近表土	磁器	白磁	小碗		肥前	近世18C	175	5-18	砂付胎灰色
1034	中央	(R-051G)	磁器	青磁	瓶		肥前	近世18C	224	16-62	上手胎明灰色
1035	中央	(M-047G)	磁器	白磁	皿		肥前志田	近世19C初/幕末	224	16-62	型打成形胎明白
1036	西側	M052	陶器	鉄釉	小皿		美濃	近世	77	5-17	こけ底煤付着外無 釉たれ
1037	東側	N005	陶器	灰釉	碗		瀬戸美濃	中世14/15C	170	15-57	胎灰色
1038	中央	X011,(L-063G)	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C	140	2-4/5,13-50	外縞蓮弁文刻花丸彫胎暗灰色
1039	西側	M044,M045	磁器	青磁	碗		肥前系	近世17C?	29	6-20	1041(N203)と同一
1040	西側	N036-11列,(V/W-011G)	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C	27	2-4/5,6-22	外縞蓮弁文刻花幅広片彫胎明灰色
1042	西側	D106	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C中	83	2-4/5,8-29	外縞蓮弁文刻花
1043	西側	N036-8列	磁器	青磁	碗		中国	中世13/14C	27	2-4/5,6-22	外縞蓮弁文刻花胎明灰色
1044	東側	N005	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C	170	2-4/5,15-57	胎黄灰色
1045	西側	(L-031G)	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C	224	2-4/5,16-61	内画文胎灰黄色
1046	中央	(R-050G)	磁器	青磁	香炉		竜泉系	中世14C	224	2-4/5,16-62	外横方向画花胎明灰色
1047	西側	D060	磁器	青磁	壺		肥前	近世17C	44	2-6/7,7-26	1052(中央)も同一胎明灰色
1048	中央	M016上層	磁器	染付	蓋		肥前系	近世1820/60	163	13-49	細線描花文胎白色
1049	東側	(不明)	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C	225	2-4/5,16-62	胎黄灰色
1050	西側	N036 6列	磁器	青磁	碗		肥前か	近世17C	27	6-22	胎土白色
1051	西側	N036	陶器	灰釉	碗か		瀬戸美濃	近世	27	6-22	旧No.1044の一部
1053	東側	(不明)	陶器	灰釉	碗	底(6.4)	瀬戸美濃系	近世	225	16-62	高台無釉胎黄灰色軟質
1054	東側	N103	磁器	青磁	碗		竜泉系	中世13/14C	174	2-4/5,15-58	外縞蓮弁文画花片切彫胎暗灰色
1055	西側	D081	磁器	染付	鉢	口10.2高5.2底4.0	肥前	近世18C後	51	8-28	雪輪梅樹文
1056	西側	M044,M045	磁器	染付	鉢	底6.5	肥前	近世19C初/幕末	29	6-20	二次焼成山水絵胎目凹型高台
1057	西側	(P-011G)	磁器	染付	碗	底3.5	会津か	近代幕末明治初	221	16-60	牡丹文見込胎文
1058	西側	D076	磁器	染付	小碗	口7.4高3.7底3.0	肥前	近世18C	46	7-27	笹文
1059	西側	N036	磁器	染付	瓶	小片	肥前	近世18C/19C	27	6-22	図柄不明
1060	西側	D091	磁器	染付	広東碗	口11.4	肥前系	近世1780/19C前	49	8-28	牡丹文
1061	西側	D076	磁器	染付	猪口	口7.6高3.8底3.0	肥前	近世18C	46	7-27	雪輪梅樹文高台砂
1062	西側	J016/J046	磁器	染付	瓶	小片	肥前	近世17C後	35	6-23	網目文
1063	西側	D088	磁器	染付	瓶	小片	肥前	近世17C前	49	2-6/7,8-28	菊花文
1064	西側	N203上面	磁器	染付	皿	底8.4	肥前	近代	22	5-16	銅版転写意絵
1065	西側	M048上層,(Q-023G)	磁器	染付	皿	小片	中国福建広東	近世1580/17C前	24	2-4/5,5-19	呉須手美蓉手胎暗色
1066	西側	(不明)	磁器	染付	皿	底8.8	肥前系	近世1690/18C前	221	16-60	雪輪文?
1067	西側	(X-005G)	磁器	染付	瓶	小片	肥前	近世17C後か	221	2-6/7,16-60	雪輪文
1068	西側	(P-011G)	磁器	染付	碗	口9.8高5.2底4.0	肥前	近世18C中末	221	16-60	二重網目文見込菊花文渦福
1069	西側	D076	磁器	染付	湯飲碗	小片	肥前系	近世18C後	46	7-27	繪宝文銀化
1070	西側	D041	磁器	染付	碗	小片	肥前	近世18C中末	41	7-25	鱗状文文五弁花
1071	西側	N036	磁器	染付	湯飲碗	小片	肥前系	近世18C後/19C初	27	6-22	人物文
1072	西側	D046,D047	磁器	白磁	ミニチュア	長3.2幅1.9高0.6	肥前	近代	44	7-26	方形皿
1073	西側	(不明)	磁器	染付	碗?	小片	肥前	近世17C後か	221	16-60	松竹梅文?大明銘
1074	西側	D100	磁器	染付	猪口	口18.4高4.1底3.4	肥前	近世18C前	42	8-28	菫菫菊文
1075	西側	D041	磁器	染付	瓶	小片	肥前吉田か	近世17C後	41	7-25	発色不良
1076	西側	D082	磁器	染付	碗	小片	肥前	近世18C前	51	8-28	雨降文発色不良鉄ざみ
1077	西側	D171	磁器	白磁	小皿	底4.0	肥前波佐見	近世18C	95	12-45	見込蛇目軸刺ぎ
1078	西側	D194,D114	磁器	染付	皿	口13.2高3.8底8.0	肥前波佐見系	近世18C後	84	10-39	雪輪梅樹文見込五弁花渦福高台砂
1079	西側	D194	磁器	染付	皿	口12.2高3.6底7.0	肥前波佐見系	近世18C後	84	10-39	雪輪梅樹文菫菫五弁花渦福高台砂
1080	西側	D123	磁器	白磁	蓋付小鉢	底3.6	肥前	近世18C前	87	11-43	輪高台
1081	西側	(U-028G)	磁器	染付	小皿	口13.2高2.6底7.4	肥前波佐見系	近世18C後	221	16-61	格子目文見込蛇目軸刺ぎ高台砂
1082	西側	D114	磁器	染付	皿	口14.4高3.6底8.2	肥前波佐見系	近世18C中末	53	9-32	雪持笹文菫菫五弁花渦福高台砂
1083	西側	(M-022G)	磁器	染付	小片		肥前	近世1640/1650	222	2-6/7,16-61	
1084	西側	D123	磁器	白磁	大皿	小片	瀬戸美濃	近代	87	11-40	裏無釉「吾周」銘印花型作り
1085	西側	(L-026G)	磁器	染付	皿	底13	不明	近代	222	16-61	銅版合成Co THE TEXAS PAVLION
1086	西側	X001	磁器	染付	輪花皿	口14	肥前志田	近世19C前/幕末	25	5-17	口跡山水絵
1087	西側	X001	磁器	白磁	瓶	口8	肥前	近世18C	25	5-17	焼成不良
1088	西側	M054	磁器	染付	皿	口14.4高3.4底8	肥前波佐見系	近世18C後	69	6-21	唐草文蛇目軸刺ぎ高台砂
1089	西側	D171	磁器	染付	小皿	口11.8高3.4底3.8	肥前波佐見系	近世18C	95	12-45	鉄色発色草文蛇目軸刺ぎ
1090	西側	D114	磁器	染付	皿	口14高3.6底8.5	肥前	近世	53	9-32	雪輪笹文五弁花高台砂
1091	西側	D123,M050	磁器	白磁	皿	底4.2	肥前波佐見	近世18C	87	11-41	蛇目軸刺ぎ
1092	西側	M054	磁器	染付	湯飲碗	口7.6高5.6底4.0	肥前	近世1780/1810	69	6-21	菊花散らし菫菫五弁花
1093	西側	D194	磁器	染付	湯飲碗	口9.8高6.0底4.2	肥前	近世1780/1810	84	10-39	竹雪持笹文
1094	西側	M054	磁器	染付	碗	口10	肥前	近世18C前中	69	6-21	菫菫井桁文
1095	西側	D123	磁器	染付	碗	口4.8高5.2底4.2	肥前	近世18C前中	87	11-43	菫菫樹文
1096	西側	D114	磁器	染付	小杯	口7.6高5.4底3.6	肥前	近世1690/18C前	53	9-32	草文?大明年製銘
1097	西側	D114	磁器	染付	湯飲碗	口7.8高5.4底3.8	肥前	近世1780/1810	53	9-32	窓絵菫菫文手描五弁花
1098	西側	D186	磁器	白磁	蕎麦猪口	口6.8高5.8底4.4	肥前	近世18C前中	74	10-38	
1099	西側	D186	磁器	青磁染付	湯飲碗	口7.0高5.6底4.0	肥前	近世18C後	74	10-38	手描五弁花
1100	西側	D114	磁器	染付	碗	口10.0高5.5底4.0	肥前	近世18C後/19C初	53	9-32	雪輪梅樹文軸たれ
1101	西側	M057,D123	磁器	染付	碗	口11.0高5.8底4.3	肥前	近世18C前	24	5-17	松文(発色良好)高台砂
1102	西側	M050	磁器	色絵	碗	口8.4高5.5底3.8	不明	近代	23	5-17	外青磁地とびがんな色絵内白磁
1103	西側	X001	磁器	染付	碗	口9.6高5.1底4.4	肥前	近世18C前中	25	5-17	菫菫井桁柏葉文渦福
1104	西側	D186	磁器	染付	碗	口9.9高5.1底4.2	肥前	近世18C後	74	10-38	雪輪梅樹文崩大明年製
1105	西側	D171,D123	磁器	染付	碗	口9.0高5.0底3.4	肥前	近世1690/18C前	95	12-44	朝顔文
1106	西側	D186	磁器	染付	碗	口9.4高4.8底3.6	肥前波佐見系	近世18C後	74	10-38	雪輪梅樹文崩大明年製

IV 資料

番号	地区	遺構	種類	釉焼成	器形	法量	産地	時代	本文	写真	備考
1107	西側	M054	磁器	染付	碗	□9.2高5.1底3.4	肥前波佐見系	近世18C後/19C初	69	6-21	雪輪梅樹文崩大明年製
1108	西側	M054	磁器	染付	碗	□10.2高4.8底4.0	肥前	近世18C後	69	6-21	四方樽斜格子市松文薄い高台低い
1109	西側	M054	磁器	染付	湯飲碗	□7.0高4.3底-	肥前	近世1780/1810	69	6-21	窓絵菖蒲文
1110	西側	(O-022G)	磁器	染付	碗	□8.8高5.1底4.0	肥前	近世18C後	222	16-61	雪輪梅樹文崩大明年製
1111	西側	M054	磁器	染付	小碗	□7.4高3.9底3.2	肥前	近世18C前	69	6-21	草文発色良好
1112	西側	N016	磁器	染付	碗	□9.0高5.4底3.8	肥前	近世18C後	67	10-36	二重銅目文崩大明年製
1013	西側	D114	磁器	染付	碗	□11.0高6.3底4.3	肥前	近世17C後/18C初	53	9-32	遠山・松文やや上手銀化高台砂
1114	西側	D106, D186	磁器	染付	蕎麦猪口	□7.4高5.7底5.4	肥前	近世18C中末	83	8-29	菱草文
1115	中央	X011 (I-061G)	磁器	染付	碗	□9.8高5.3底4.0	肥前波佐見	近世18C後/19C初	140	13-50	雪輪梅樹崩大明年製高台砂
1116	西側	D124	磁器	染付	猪口	□7.5高4.6底2.5	関西系	近代	80	8-30	合成Co菊花三字文高台面とり
1117	西側	N016	磁器	染付	碗	□9.8高5.0底4.0	肥前波佐見	近世18C後/19C初	67	10-36	雪輪梅樹文高台砂
1118	西側	D186	磁器	染付	小碗	□7.0高3.5底2.5	肥前	近世18C	74	10-38	笹文
1119	西側	D186	磁器	染付	碗	□9.2高底-	肥前系	近世1780/1810	74	10-38	菊花文(暗色発色)
1120	西側	D171	磁器	染付	猪口	□7.9高4.6底3.3	肥前	近世18C前	95	12-44	菊蕨桐文崩大明年製高台砂釉割れ
1121	西側	M054	磁器	染付	碗	□-高底3.6	肥前	近世18C後	69	6-21	雪輪梅樹文崩大明年製
1122	西側	D123	磁器	染付	猪口	□8.5高4.5底3.5	肥前	近世18C後	87	11-40	雨降文薄手釉割れ高台砂
1123	西側	D123, M050	磁器	染付	碗	□9.0高底-	肥前	近世18C前	87	11-41	梅花文発色良座落後2次焼成
1124	西側	N037周辺, (N-044G)	磁器	染付	湯飲碗	□7.4高底-	肥前	近世1780/1810	103	10-37	菊花散文五弁花
1125	西側	D194	磁器	染付	湯飲碗	□5.8高底3.0	肥前系	近世18C末/19C初	84	10-39	草花蝶文1012接合
1126	西側	D107	磁器	染付	碗	□9.4高4.9底4.0	肥前波佐見	近世18C後/19C初	83	8-29	崩大明年製
1127	西側	D123, M050	磁器	染付	碗	□13高5.8底4.7	肥前有田	近世1660/1670	87	2-6/7, 11-41	見込折枝松竹梅文大明化年銘
1128	西側	N016, (N-038G)	磁器	染付	碗	□10高5.4底4.0	瀬戸美濃	近代	67	10-36	松竹梅文銅版牡丹
1129	西側	D123	磁器	青磁染付	湯飲碗	□7.6高5.5底4.0	肥前	近世18C後	87	11-40	四方樽文見込五弁花高台砂
1130	西側	D107	磁器	青磁染付	湯飲碗	□7.6高5.5底4.0	肥前	近世18C後	83	8-29	内四方樽文
1131	西側	D114	磁器	染付	皿	□12.8高3.1底6.2	肥前	近世18C後	53	9-32	唐草文見込五弁花蛇目軸刺ぎ
1132	西側	D114	磁器	染付	湯飲碗	□7.0高5.4底3.3	肥前	近世1780/1810	53	9-32	見込五弁花雪輪文
1133	西側	D114	磁器	染付	碗	□9.4高5.7底3.3	肥前	近世1780/1810	53	9-32	見込五弁花竹文
1134	西側	D172	磁器	染付	湯飲碗	□-高底4.0	肥前	近世18C後	101	10-37	松文
1135	西側	(L-026G)	磁器	金彩白磁	盃	□8.0高3.2底3.6	瀬戸美濃	近代	222	16-61	内桜花文
1136	西側	D171	磁器	白磁	小皿	□-高底3.6	肥前波佐見系	近世18C	95	12-45	見込蛇目軸はぎ
1137	西側	D088	磁器	染付	小盃	□5.2高3.1底2.0	肥前	近世18C	49	8-28	花文
1138	西側	(N-041G)	磁器	染付	碗	□-高底-	肥前	近世18C	222	16-61	松文
1139	西側	X001	磁器	染付	碗	□-高底4.0	肥前系	近世18C中末	25	5-17	波文発色良
1140	西側	(U-039G)	磁器	染付	小杯	□-高底3.0	肥前	近世19C	222	16-61	清元銘
1141	西側	D123, M050	磁器	染付	碗	□-高底-	肥前	近世17C後/18C初	87	11-41	秋草文
1142	西側	D123	磁器	染付	碗	□-高底-	肥前	近世1690/18C前	87	11-40	松文
1143	西側	D114	磁器	染付	碗	□-高底-	肥前	近世18C後	53	9-32	菊花散文
1144	西側	X001	磁器	色絵	小碗	□-高底-	肥前	近世18C後/19C初	25	5-17	
1145	西側	(O-023G)	磁器	染付	小杯か	□-高底-	肥前	近世18C前	222	16-61	松牡丹文
1146	西側	(U-025G)	磁器	染付	碗	□-高底-	肥前	近代	221	16-61	型紙描菊花文
1147	西側	D107, (N-038G)	磁器	染付	蓋碗	□-高底-	肥前	近世18C後	83	8-29	外雪輪文内四方樽文
1148	西側	D114	磁器	青磁	瓶	□-高底-	肥前	近世17C中	54	9-35	高台砂
1149	西側	D124	磁器	染付	灯芯押え	□-高3.6底2.6	瀬戸美濃	近代	80	8-30	合成Co型合わせ成形
1150	西側	D194, D114	磁器	染付	瓶	□-高底6.4	肥前	近世17C中	84	2-6/7, 10-39	花文底部高台割れ
1151	西側	D186	磁器	染付	水滴	長幅底3.4	肥前	近世18C	74	10-38	鯉滝登り文型作り
1152	西側	D114	磁器	染付	瓶	□-高底-	肥前	近世17C後/18C前	54	9-35	内鉄環銀
1153	西側	(L-038G)	磁器	染付	急須蓋	□6.2高1.9底-	関西系か	近代	222	16-61	合成Co手描梅樹文
1154	西側	M054	磁器	染付	瓶	□-高底-	肥前	近世1650/1680	69	2-6/7, 6-21	丸文
1155	西側	(N-037G)	磁器	色絵	大入形	□-高3.8底2.8	瀬戸美濃か	近代	223	16-61	口耳・赤中穴型あわせ底部孔
1156	西側	D171, D123/M050	磁器	染付	瓶	□-高底-	肥前	近世1650/1680	95	2-6/7, 12-45	綱目文
1157	西側	M054	磁器	白磁	壺	□10.0高底-	肥前	近世17C後/18C前	69	6-21	内無軸部におはぐろ水
1158	西側	D123	磁器	染付	瓶	□-高底7.6	肥前吉田山か	近世17C後	87	2-6/7, 11-40	胎灰色きめ細かい外圈線
1160	西側	(P-022G)	磁器	白磁	瓶	□-高底-	肥前	近世17C後/18C前	222	16-61	
1161	西側	(Q-022G)	磁器	染付	瓶	□-高底-	肥前系	近世19C前/幕末	222	16-61	外遠山文か内おはぐろ水
1162	西側	(R-026G)	磁器	染付	蓋物蓋	□7.0高底-	肥前	近世17C後/18C前	222	16-61	下位無軸
1163	西側	N016	磁器	染付	瓶	□-高底-	肥前系	近代明治	67	10-36	合成Co外草文
1164	西側	N016	磁器	染付	湯飲碗	□-高底-	肥前	近世18C末/19C中	67	10-36	外雨竜文内圈線
1165	西側	N031, (W-032G)	磁器	白磁	小杯	□-高底-	肥前	近世1630/1640	67	2-6/7, 10-36	高台無軸
1166	西側	(R-026G)	磁器	染付	瓶	□-高底-	肥前	近世17C後/18C前	222	16-61	
1167	西側	D123	磁器	白磁か	德利	□-高底-	肥前	近世17C後/18C前	87	11-40	
1168	西側	D107	磁器	染付	油壺か	□-高底-	肥前	近世	83	8-29	蛸唐草
1169	西側	N016, (T-039G/040G)	磁器	白磁	瓶	□-高底-	肥前	近世17C後/18C前	67	10-36	
1170	西側	N016	磁器	白磁	瓶	□-高底-	肥前	近世17C後/18C前	67	10-36	内鉄分付着
1171	西側	D114	磁器	青磁	火入れ	□-高底7.3	肥前	近世18C	55	9-35	内面無軸
1172	中央	X011中下層	磁器	染付	段重	□12.4高4.3底11.2	会津か	近代 明治大正	141	14-52	合成Co手描窓絵花文
1173	中央	X011底, (H-062G)	磁器	染付	碗	□12.1高5.25底4.2	瀬戸美濃か	近代 明治大正	140	14-55	外窓絵花文内環珞文銅版
1174	中央	X011試掘	磁器	染付	碗	□9.6高5.3底4.2	肥前	近世18C前中	140	13-50	崩大明年製銘草文菊蕨花文
1175	中央	X011底, (G-059G)	磁器	染付	碗	□10.0高5.1底4.0	肥前	近世18C後/19C初	140	14-55	雪輪梅樹文
1176	中央	X011新中島, (J-059G)	磁器	染付	碗	□10.2高5.2底4.4	肥前波佐見系	近世18C後	140	13-51	雪輪梅樹文 崩大明年製銘
1177	中央	X011南西, X011底	磁器	染付	碗	□10.8高5.2底-	肥前	近世18C	140	14-53	梅樹文 見込蛇目軸刺ぎ
1178	中央	X011西底	磁器	染付	碗	□10.0高5.2底4.3	肥前	近世18C後	140	14-53	雪輪梅樹文
1179	中央	X011下層, (H-060G)	磁器	染付	碗	□10.8高5.1底4.3	肥前波佐見系	近世18C後	140	14-54	雪輪梅樹文崩大明年製銘高台砂
1180	中央	X011下層	磁器	染付	碗	□10.1高4.9底2.2	肥前波佐見系	近世18C後	140	14-54	雪輪梅樹文 裏銘不明
1181	中央	X011上層, (H-060G)	磁器	染付	碗	□11.0高底-	肥前	近世17C末/18C前	140	13-50	草花文
1182	中央	M022下層	磁器	染付	湯飲碗	□-高底3.4	肥前系	近世1780/1810	164	15-56	外 四方樽文 見込不明 高台小
1183	中央	X011西端底	磁器	染付	碗	□-高底-	肥前	近世17C末/18C中	140	14-53	雪輪梅樹文 高台砂 高い
1184	中央	X011下層, (H-062G)他	磁器	色絵	碗	□9.4高4.0底3.2	肥前	近代 大正昭和	140	14-54	ダルマ絵
1185	中央	X011新中島, (J-059G)底	磁器	染付	皿	□13.8高3.7底8.4	肥前波佐見系	近世18C	140	13-51	芙蓉手梅花文手描五弁花高台砂
1186	中央	X011下層, (J-059G)	磁器	染付	皿	□-高底9.6	肥前波佐見系	近世18C	140	14-54	五弁花か見込蛇目軸刺ぎ高台砂
1187	中央	X011下層	磁器	染付	皿	□13.6高3.1底7.4	肥前波佐見系	近世18C後	140	14-54	雪輪梅樹五弁花蛇目軸刺ぎ高台砂
1188	中央	X011底, 62G	磁器	染付	盃	□7.4高4.7底3.1	瀬戸美濃	近代 幕末明治初	140	14-55	合成Co源香文
1189	中央	X011土取下層	磁器	染付	湯飲碗	□6.8高5.7底3.8	肥前系	近世1820/幕末	140	14-54	山水絵
1190	中央	X011中島一括	磁器	染付	燗反盆	□7.2高3.6底3.2	瀬戸美濃	近代 幕末明治初	140	13-51	源香文 口鋪草花文
1191	中央	X011上層, (G-059G)	磁器	色絵金彩	盃	□6.4高2.7底2.8	瀬戸美濃か関西か	近代	140	13-50	外合成Co六弁菊文内金彩字
1192	中央	X011下層	磁器	色絵	碗	□-高底-	肥前	近世18C末/19C前	140	14-54	草花文
1193	中央	X011土取下層, (U-060G)	磁器	染付	急須蓋	□-高底6.0	関西	近代 幕末明治	141	14-54	合成Co山水文鉄彩裏焼銘銘
1194	中央	X011底, (H-063G)	磁器	染付	碗	□12.0高底-	瀬戸美濃	近代 明治大正	140	14-55	銅版転写 唐唐草文

2 遺物一覽表

番号	地区	遺構	種類	釉焼成	器形	法量	産地	時代	本文	写真	備考
1195	中央	X011土取層,(H/I-061G)	磁器	染付	碗	□-高-底-	肥前	近世 17C後	140	2-6,7	窓絵寿字文
1196	中央	X011底,(G-059G)	磁器	染付	碗	□-高-底-	肥前	近世 18C前	140	14-55	草花文
1197	中央	X011中島,(I-058G)	磁器	染付	盃	□(5.8)高-底-	瀬戸美濃系	近代 幕末	140	13-51	合成Co窓絵花文
1198	中央	X011西試掘層,(G-057G)	磁器	青磁	火入れ	□-高-底-(7.0)	肥前	近世 18C	141	13-50	内面錆釉 蛇目凹形高台 太鼓形
1199	中央	X011下層,(H-062G)	磁器	軸下彩	碗	□-高-底-	瀬戸美濃	近代	140	14-54	魚文
1200	中央	X011中島東,(I-058G)	磁器	白磁	ミニチュア	長3.0 幅1.8 高0.8	瀬戸美濃	近代	142	13-51	方形皿
1201	中央	X011底,(H-062G)	磁器	白磁	灯心押さえ	径2.8	瀬戸美濃	近代	142	14-55	底面無釉 油煙付着
1202	中央	X011中島上面一括	陶器	染付	貧乏徳利	□-高-底-	肥前系	近代	141	13-51	合成Co
1203	西側	X021中層	磁器	染付	端反碗	□-高-底-	瀬戸美濃	近代	105	12-47	合成Co笹文
1204	中央	(Q-047G)	磁器	染付	湯飲碗	□-高3.9底-	肥前	近世 1780/19C	222	16-62	葛蒲文
1205	中央	(Q-048G)	磁器	染付	皿	□-高-底-	肥前	近世 17C末/18C初	222	16-62	円文
1206	中央	M016上層	磁器	染付	端反碗	□9.2高4.8底3.4	瀬戸美濃系	近代 幕末	163	13-49	見込円文 山水文
1207	中央	M016上層	磁器	染付	湯飲碗	□9.0高5.6底2.6	肥前	近世 1780/1810	163	13-49	見込五弁花 孟宗譚文
1208	中央	M016上層	磁器	染付	湯飲碗	□7.2高6.5底3.4	肥前系	近世 1820/幕末	163	13-49	草花文
1209	中央	M016上層	磁器	染付	湯飲	□8.8高6.2底3.4	肥前	近世 1780/1810	163	13-49	孟宗譚文 見込手描五弁花
1210	中央	M016上層	磁器	染付	湯飲碗	□8.8高6.1底3.6	肥前	近世 1780/1810	163	13-49	孟宗譚文 見込五弁花
1211	中央	M016上層	磁器	染付	碗蓋	□9.5高3.1底4.1	肥前系	近世 1820/1860	163	13-49	見込花文
1212	中央	M016上層	磁器	染付	湯飲碗	□-高-底4.0	肥前	近代 幕末	163	13-49	唐草文
1213	東側	N024	磁器	染付	輪花皿	□15.2高3.8底7.6	肥前	近代 明治大正	172	15-58	合成Co山水絵 蛇目凹型高台
1214	東側	M012	磁器	染付	碗	□-高-底-	瀬戸美濃系	近代 幕末明治	183	15-59	笹文
1215	東側	M012	磁器	染付	小皿	□9.6高-底-	肥前	近世 18C前中	183	15-59	雪輪文か
1216	東側	N005	磁器	染付	皿	□-高-底-	肥前	近世 18C中末	170	15-57	梅文
1217	不明	(出土位置不明)	磁器	染付	鉢	□-高-底-	肥前系	近世 19C初/幕末	226	16-60	銭文
1218	西側	(P-011G)	陶器	二彩	三島手鉢	□-高-底11.8	肥前	近世 17C末/18C中	221	16-60	見込砂目 胎土赤灰色
1219	西側	N036,(R-011G)	陶器	鉛釉	片口鉢	□18.8高-底-	瀬戸美濃	近世 18C後	27	6-22	胎土気泡 軟質
1220	西側	M048,(Q-020G)	陶器	鉄釉	半胴羹	□-高-底14.0	瀬戸美濃か	近世	24	5-19	胎土砂粒含入 灰黄色
1221	西側	D041上層	陶器	灰釉	片口鉢	□18.8高11.1底9.4	瀬戸美濃	近世	41	7-25	165 底部墨書 見込目痕 軟質
1222	西側	(出土位置不明)	陶器	灰須釉	植木鉢	□-高-底-	瀬戸美濃	近代	221	16-60	内面無釉 胎土気泡 軟質
1223	西側	D041上層	陶器	灰釉	練鉢	□21.6高10.0底11.2	瀬戸美濃	近世 18C	41	7-25	見込目痕 胎土気泡
1224	西側	M048	陶器	鉛釉	瓶	□-高-底8.0	瀬戸美濃	近世 18C前中	24	5-19	硬質 胎土砂粒 灰黄色
1225	西側	D081	陶器	柿釉	油徳利	□5.6高-底-	瀬戸美濃	近世 18C	51	8-28	頂部に小孔 灰色 鎌原で類例
1226	西側	D054(T-009G)	陶器	二彩刷毛目	片口鉢	□24.0高-底10.0	肥前	近世 18C	42	7-26	胎土暗赤色
1227	西側	M048上層	陶器	二彩刷毛目	片口鉢	□-高-底-	肥前	近世 18C	24	5-19	胎土赤灰色
1228	西側	M048	陶器	鉛釉	徳利	□-高-底-	不明	近世 古くない	24	5-19	虫くい多い 内面錆塗り
1229	西側	D041	陶器	柿釉鉛釉掛け	徳利	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C前	41	7-25	内面錆塗り 胎土黄灰色
1230	西側	D076	陶器	徳利	□-高-底-	産地不明	近世	46	7-27	内面鉄付着	
1231	西側	D091	陶器	灰釉鉄絵	鉢	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 17C前中	49	8-28	黄灰色
1232	西側	J021,(W-019G)ピット	陶器	灰釉鉄釉	笠原鉢	□-高-底16.0	瀬戸美濃	近世	37	6-23	高台施釉 胎土暗灰色 泥質
1233	西側	M048	陶器	素焼	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C	24	5-19	下部有孔 灰黄色	
1234	西側	D054,D041	陶器	灰釉鉄絵	笠原鉢	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 17C前中	42	7-26	灰色
1235	西側	J016,(T-009G),(V-015G)地	陶器	二彩刷毛目	皿	□-高-底-	肥前	近世 17C後/18C	35	6-23	胎土赤褐色 2片
1236	西側	M044	陶器	灰釉	片口鉢	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C前	29	6-20	胎土気泡 白黄色
1237	西側	D078	陶器	鉄釉	猪口	□8.4高-底-	瀬戸美濃	近世	47	7-27	胎土黄白色 気泡
1238	西側	M048	陶器	鉄釉掛分け	仏花瓶	□-高-底-	瀬戸美濃か	近世 18C	24	5-19	底部無調整 鉄錆
1239	西側	J044フク土	陶器	鉛釉	不明脚部	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C	37	6-23	内面鉄錆 胎土気泡 黄白色
1240	西側	N203	陶器	灰釉	ピン水入れ	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 17C/18C中	22	5-16	胎土気泡 白灰色
1241	西側	J016	陶器	鉛釉	片口鉢	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C少し古い	35	6-23	胎土気泡 灰黄色
1242	西側	D057フク土	陶器	青緑釉	徳利	□-高-底-	不明	近世	44	7-26	赤灰色 釉厚い
1243	西側	M048	陶器	黒釉	徳利か	□-高-底-	不明	近世	24	5-19	暗灰色
1244	西側	D082	陶器	二彩刷毛目	片口鉢	□21.4高10.2底9.4	肥前	近世 17C後/18C前	51	8-28	胎土黄灰色
1245	西側	D100	陶器	掛分け	碗	□9.2高5.6底4.2	瀬戸美濃	近世 19C	42	8-28	腰錆 胎土黄灰色 貫入
1246	西側	D078	陶器	灰釉	盃/猪口	□7.0高3.8底3.7	瀬戸美濃	近世 18C	47	7-27	胎土黄灰色
1247	西側	D041	陶器	掛分け	碗	□10.2高-底-	瀬戸美濃	近世 18C後	41	7-24	腰錆 胎土明灰色
1248	西側	D055	陶器	柿釉	盃/猪口	□8.6高3.7底4.0	瀬戸美濃	近世 18C	44	7-26	溶着痕 胎土黄灰色
1249	西側	M045	陶器	柿釉	天目碗	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 17C前中	29	6-20	
1250	西側	M048	陶器	鉛釉	尾呂碗	□11.0高7.1底5.0	瀬戸美濃	近世 18C中	24	5-19	胎土黄灰色
1251	西側	D041	陶器	二彩	碗	□11.2高4.4底4.2	瀬戸美濃	近世 18C後	41	7-24	高台施釉口縁指押さえ 胎土暗灰色
1252	西側	D093	陶器	黒釉	天目碗	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 17C後/18C前	49	8-28	
1253	西側	D041上層	陶器	掛分け	碗	□10.3高6.2底4.9	瀬戸美濃	近世 18C中	41	7-24	腰錆 胎土灰色 高台施釉
1254	西側	D041上層	陶器	灰釉鉄絵	碗	□10.1高6.1底3.4	信楽	近世 18C末/19C	41	7-24	貫入
1255	西側	D041上層	陶器	灰釉	京焼風碗	□12.7高5.1底4.6	肥前	近世 18C前	41	7-24	胎土黄灰色 貫入
1256	西側	D041	磁器	色絵	碗	□9.5高5.8底3.5	信楽	近世 18C末/19C	41	7-24	松樹文
1257	西側	D041	陶器	灰釉	碗	□12.5高7.7底5.4	瀬戸美濃	近世 18C前中	41	7-24	胎土気泡多い 明灰色 貫入淡緑色
1258	西側	D046,D049	陶器	灰釉山水絵	京焼風碗	□-高-底4.8	肥前	近世 17C末/18C初	44	7-26	胎土灰黄色
1259	西側	N203表土	陶器	灰釉	碗	□12.0高7.4底5.2	瀬戸美濃	近世 18C前中	22	5-16	
1260	西側	D041上層	陶器	掛分け	碗	□10.0高5.6底3.9	瀬戸美濃	近世 18C末	41	7-24	腰錆 高台施釉
1261	西側	J017/J046,N036	陶器	二彩	碗	□6.7高-底-	瀬戸	近世 19C	35	6-23	胎土黄灰色
1262	西側	D041	陶器	二彩刷毛目	碗	□5.0高-底-	肥前	近世 18C前	41	7-24	胎土灰色
1263	西側	D082	陶器	二彩	□-高-底-	肥前	近世 18C前	51	8-28	胎土赤灰色	
1264	西側	D171	陶器	錆釉	蓋	□13.0高2.2底7.0	瀬戸美濃	近世 時期不明	96	12-45	胎土気泡 灰黄色
1265	西側	(X-005G)	陶器	二彩刷毛目	碗	□-高-底-	肥前	近世 17C末/18C前	221	16-60	胎土赤灰色
1266	西側	N036	陶器	二彩刷毛目	碗	□-高-底-	肥前	近世 18C前	27	6-22	胎土暗灰色
1267	西側	M042	陶器	灰釉鉄絵	柳茶碗	□12.6高5.6底4.6	瀬戸美濃	近世 19C	29	6-20	柳文 胎土明灰色
1268	西側	M042,(T-007G)	陶器	陶胎染付	碗	□11.0高-底-	肥前	近世 18C前	29	6-20	四方禪文 山水絵 胎土砂粒灰色
1269	西側	(出土位置不明)	陶器	陶胎染付	碗	□9.0高5.4底4.0	肥前	近世 18C前	221	16-60	胎土暗灰色 山水絵
1270	西側	D041フク土	陶器	陶胎染付	碗	□11.7高7.5底4.9	肥前	近世 18C前	41	7-24	高台砂 山水絵 胎土灰色
1271	西側	D076フク土	陶器	陶胎染付	碗	□10.2高6.7底4.0	肥前	近世 18C前	46	7-27	四方禪文 山水絵 高台砂
1272	西側	(出土位置不明)	陶器	陶胎染付	碗	□10.0高6.3底3.9	肥前	近世 18C前	221	16-60	胎土砂粒暗灰色高台砂山水絵貫入
1273	西側	D041上層,(T-009G)	陶器	陶胎染付	碗	□10.0高7.2底5.2	肥前	近世 18C前	41	7-24	胎土暗灰色 山水絵 四方禪文
1274	西側	M044,M050	陶器	陶胎染付	碗	□10.2高6.6底4.3	肥前	近世 18C前	29	6-20	桔梗四方禪山水絵高台砂灰黄色貫入
1275	西側	D041	陶器	陶胎染付	碗	□11.0高7.5底4.7	肥前	近世 18C前	41	7-24	明灰色花本文高台砂口徑至み貫入
1276	西側	D041上層	陶器	陶胎染付	碗	□14.0高-底-	肥前	近世 18C前	41	7-24	胎土灰色 唐草文 貫入
1277	西側	D041上層,(T-009G)	陶器	陶胎染付	碗	□11.8高8.0底5.2	肥前	近世 18C前	41	7-24	胎土灰色山水絵高台砂釉割れ貫入
1278	西側	D041上層	陶器	陶胎染付	碗	□12.4高7.9底5.0	肥前	近世 18C前	41	7-24	胎土灰色 唐草山水絵 虫喰い
1279	西側	D041	陶器	陶胎染付	碗	□12.6高8.0底4.9	肥前	近世 18C前	41	7-24	胎土灰色四方禪山水絵高台砂
1280	西側	D041	陶器	陶胎染付	碗	□11.0高7.6底4.0	肥前	近世 18C前	41	7-24	胎土暗灰色 山水絵 高台砂 貫入
1281	西側	D082	陶器	陶胎染付	碗	□11.0高-底-	肥前	近世 18C前	51	8-28	胎土灰色 山水絵

IV 資料

番号	地区	遺構	種類	釉焼成	器形	法量	産地	時代	本文	写真	備考
1282	西側	D041	陶器	灰釉	小皿	□11.6高3.7底5.3	瀬戸美濃	近世 18C後	41	7-25	小碟含む歪大きい見込ワトチ痕
1283	西側	D041上層	陶器	灰釉	香炉	□9.7高5.0底6.8	瀬戸美濃	近世 18C後/19C前	41	7-25	底部厚い
1284	西側	D041,N036	陶器	鎊釉	灯明皿	□10.0高1.6底5.2	志土呂か	近世 19C	41	7-25	九州の可能性をあり
1285	西側	D076	陶器	鎊釉	灯明皿	□10.8高3.4底5.2	瀬戸美濃	近世 18C	46	7-27	ゴケ底
1286	西側	J011 周辺	陶器	鎊釉	菊皿	□-高底7.0	美濃	近世 17C後	33	6-23	見込み目痕 高台内煤附着
1287	西側	J013(V-015G)	陶器	灰釉	花瓶	□-高底5.9	瀬戸美濃	中世 15C	31	6-23	
1288	西側	D055	陶器	灰釉	皿	□15.5高3.2底9.0	瀬戸美濃	近世 17C後	44	7-26	全面施釉 底部に目痕 貫入
1289	西側	D060	陶器	黄瀬戸	灯明皿	□10.0高2.2底4.6	瀬戸美濃	近世 18C	44	7-26	ゴケ底 胎土軟質
1290	西側	D041	陶器	灰釉	盃洗?	□-高底4.4	瀬戸美濃	近世 19C	41	7-25	胎土軟質
1291	西側	M048	陶器	志野釉	鉄絵皿	□-高底7.0	瀬戸美濃	近世 17C中後	24	5-19	
1292	西側	D081	陶器	鉄釉	皿	□-高底5.4	肥前	近世 18C前	51	8-28	見込蛇目軸はぎ 口縁波状
1293	西側	M046	陶器	鎊釉	落とし蓋	□-高1.4底3.0	瀬戸美濃	近世 18C以前	31	6-20	
1294	西側	D079	陶器	灰釉	皿	□13.0高2.0底6.6	瀬戸美濃	近世 18C後	49	7-27	見込ワトチ痕
1295	西側	(出土位置不明)	陶器	志野釉	小皿	□-高底7.0	瀬戸美濃	近世	221	16-60	胎土軟質
1296	西側	M048	陶器	天目釉	瓶	□-高底-	瀬戸美濃	近世 時期不明	24	5-19	胎土軟質
1297	西側	D051	陶器	灰釉	小皿	□10.0高-底-	瀬戸美濃	近世	44	7-26	胎土軟質 貫入
1298	西側	D054	陶器	志野織部釉	小皿	□9.0高-底-	瀬戸美濃	近世	42	7-26	胎土軟質 内面鉄絵
1299	西側	N036	陶器	志野釉	菊皿	□-高底7.0	瀬戸美濃	近世 17C前	27	6-22	
1300	西側	D041	陶器	灰釉	小皿	□11.0高2.3底6.0	瀬戸美濃	中世 16C前 大窯	41	7-25	
1301	西側	N036	磁器	二彩鎊釉	ミニチュア	□4.0高1.8底1.4	瀬戸美濃	近代	27	6-22	播鉢
1302	西側	D041	陶器	灰釉	小皿	□12.0高-底-	瀬戸美濃	近世 17C前中	41	7-25	光沢
1303	西側	N203表土(Q-010/011G)	陶器	灰釉	小瓶	□-高底-	瀬戸美濃	中世か	22	5-16	光沢
1304	西側	D087/D090,D092	陶器	灰釉	香炉	□-高底6.4	瀬戸美濃	近世 17C後/18C前	49	8-28	2片光沢
1305	西側	D041	陶器	灰釉	香炉	□8.0高-底-	瀬戸美濃	近世 17C後/18C前	41	7-25	光沢貫入
1306	西側	M050	陶器	灰釉	小瓶	□5.0高-底-	産地不明	近世	23	5-17	外銘連弁文刻花 光沢
1307	西側	M044	陶器	灰釉	水滴	□1.4高3.6底3.4	瀬戸美濃	中世	29	6-20	淡緑色
1308	西側	N037 周辺.(M-045G)	陶器	二彩刷毛目	皿	□-高底-	肥前	近世 18C	103	10-37	印花
1309	西側	D060	陶器	焼締	壺	□-高底-	常滑	近代	44	7-26	胎土砂礫 暗灰色
1310	西側	D171	陶器	灰釉呉須絵	京焼風碗	□(9.8)高6.0底4.5	肥前	近世 18C前	95	12-44	「小松吉」印 山水絵
1311	西側	D114	陶器	灰釉呉須絵	京焼風碗	□9.8高5.3底4.6	肥前	近世 18C前	53	9-33	「木弥下」印 樓閣山水絵
1312	西側	D186,D171	陶器	灰釉	京焼風碗	□9.0高5.2底5.0	肥前	近世 18C前	74	10-38	
1313	西側	D171	陶器	灰釉呉須絵	京焼風碗	□9.8高5.9底5.0	肥前	近世 18C前	95	12-44	「小松吉」印
1314	西側	D114	陶器	灰釉	呉器手碗	□11.0高8.0底5.0	肥前	近世 17C後/18C初	53	9-33	高台削れる 気泡 軟質 黄白色
1315	西側	D123	陶器	灰釉呉須絵	京焼風碗	□9.6高-底-	肥前	近世 17C後	87	2-6/7	11-43 樓閣山水絵
1316	西側	N203表土	陶器	二彩刷毛目	碗	□-高底-	肥前	近世 17C末/18C初	22	5-16	
1317	西側	D194	陶器	陶胎染付	碗	□-高底4.4	肥前	近世 18C前	84	10-39	草木絵
1318	西側	D107,D124	陶器	灰釉	碗	□9.6高4.6底3.4	瀬戸美濃	近世 19C	83	8-29	鉄絵
1319	西側	M054	陶器	鎊釉	湯飲碗	□-高底4.0	瀬戸美濃	近世 19C	69	6-21	高台施釉 気泡 軟質 黄灰色
1320	西側	D114	陶器	掛分け	鍍茶碗	□-高底3.8	瀬戸美濃	近世 18C後	53	9-33	内面鉄軸 気泡 灰色
1321	西側	D107,N016	陶器	灰釉	小杯	□6.0高4.1底3.0	瀬戸美濃	近世 18C	83	8-29	高台無軸 気泡 灰色 貫入
1322	西側	(N-041G)	陶器	長石釉	尾呂碗	□(12.0)高-底-	瀬戸美濃	近世 18C	222	16-61	気泡 黄白色
1323	西側	(出土位置不明)	陶器	呂須釉	碗	□-高底(4.8)	瀬戸美濃	近世 18C後	221	16-60	気泡 灰白色 軟質
1324	西側	D116	陶器	二彩手	碗	□-高底-	瀬戸美濃	近世 19C	83	8-30	微砂粒 橙灰色
1325	西側	D105	陶器	二彩	碗	□-高底-	瀬戸美濃	近世 19C	91	8-29	気泡 灰白色
1326	西側	D175	陶器	二彩鉄絵	碗	□(11.0)高-底-	肥前	近世 18C前	92	10-37	緻密 暗灰色
1327	西側	(S-044G)	陶器	灰釉呉須絵	京焼風碗	□-高底-	肥前	近世 18C前	222	16-61	山水絵 気泡 黄白色 軟質
1328	西側	D186	陶器	色絵	碗	□-高底-	肥前か	近世 18C	74	10-38	笹文 関西の可能性もあり
1329	西側	D168	陶器	鉄彩薬灰釉	碗	□-高底-	萩	近世	94	10-37	緻密 灰色
1330	西側	D114	陶器	色絵	碗	□-高底-	肥前か	近世 17C末/18C初	53	9-33	京焼風碗に色を付けたものか
1331	西側	(出土位置不明)	陶器	灰釉呉須絵	京焼風碗	□-高底-	肥前	近世 18C前	221	16-60	山水絵 微気泡 軟質 黄灰色
1332	西側	D114	陶器	掛分け	腰鎊碗	□9.6高5.2底4.0	瀬戸美濃	近世 19C	53	9-33	気泡 灰白色
1333	西側	D107	陶器	掛分け	腰鎊碗	□9.4高5.0底3.8	瀬戸美濃	近世 19C	83	8-29	気泡 灰色
1334	西側	D114	陶器	掛分け	腰鎊碗	□9.3高5.6底2.0	瀬戸美濃	近世 19C	53	9-33	気泡 灰色
1335	西側	D171,D123	陶器	灰釉	碗	□12.6高9.0底6.0	瀬戸美濃	近世 18C前中	95	12-44	気泡 軟質 黄灰色 光沢
1336	西側	D114	陶器	掛分け	腰鎊碗	□9.2高5.3底3.6	瀬戸美濃	近世 19C	53	9-33	気泡 灰色
1337	西側	D186	陶器	掛分け	腰鎊碗	□8.8高5.3底4.2	瀬戸美濃	近世 19C	74	10-38	気泡 灰白色
1338	西側	D128,D114	陶器	掛分け	腰鎊碗	□4.5高5.2底4.1	瀬戸美濃	近世 19C	73	8-30	気泡 白灰色
1339	西側	(R-031G)	陶器	掛分け	腰鎊碗	□10.6高6.0底4.5	瀬戸美濃	近世 18C後	222	16-61	気泡 黄灰色
1340	西側	D171埋土	陶器	掛分け	尾呂碗	□11.4高7.6底5.4	瀬戸美濃	近世 17C後/18C前	95	12-44	胎土軟質
1341	西側	D171埋土	陶器	掛分け	尾呂碗	□11.0高7.2底5.6	瀬戸美濃	近世 17C後/18C前	95	12-44	胎土軟質
1342	西側	D123,M050	陶器	掛分け	尾呂碗	□12.4高7.3底6.0	瀬戸美濃	近世 17C後/18C前	87	11-41	胎土軟質
1343	西側	D171,(N-041G)	陶器	掛分け	尾呂碗	□11.3高7.7底5.6	瀬戸美濃	近世 17C後/18C前	95	12-44	胎土硬質 灰色 光沢
1344	西側	D123,M050	陶器	鎊釉	尾呂碗	□12.3高7.1底5.4	瀬戸美濃	近世 17C後/18C前	87	11-41	胎土黄灰色 口径歪む
1345	西側	D114	陶器	掛分け	尾呂碗	□11.7高7.5底5.4	瀬戸美濃	近世 17C後/18C前	53	9-33	胎土黄灰色気泡高台施釉 光沢
1346	西側	D114	陶器	掛分け	尾呂碗	□11.2高6.7底4.3	瀬戸美濃	近世 18C後	53	9-33	胎土気泡乳白色 光沢厚くたれる
1347	西側	D171	陶器	掛分け	尾呂碗	□11.5高8.7底5.9	瀬戸美濃	近世 17C後/18C前	95	12-44	胎土気泡 黄灰色
1348	西側	D123?,D114?	陶器	掛分け	尾呂碗	□11.9高6.7底5.6	瀬戸美濃	近世 17C後/18C前	87	11-43	胎土気泡 黄白色 光沢
1349	西側	D114	陶器	掛分け	鍍茶碗	□8.1高5.0底4.2	瀬戸美濃	近世 18C後	53	9-33	高台施釉
1350	西側	(M-039G)	陶器	掛分け	碗	□-高底4.0	産地不明	近世	222	16-61	胎土暗灰色 硬質 (灰・柿)縦
1351	西側	D123	陶器	掛分け	尾呂碗	□11.8高7.7底5.7	瀬戸美濃	近世 17C後/18C中	87	11-43	胎土黄灰色 下位薄鎊
1352	西側	D171,D123	陶器	掛分け	尾呂碗	□11.6高7.3底5.7	瀬戸美濃	近世 17C後/18C中	95	12-44	胎土灰色 硬質
1353	西側	D171	陶器	鎊釉	碗	□-高底5.0	瀬戸美濃	近世 17C後/18C中	95	12-44	胎土気泡 白黄色 内面灰かぶり
1354	西側	D171	陶器	掛分け	尾呂碗	□12.1高7.9底5.6	瀬戸美濃	近世 17C後/18C中	95	12-44	胎土気泡黄灰色 下位鎊釉
1355	西側	D171	陶器	掛分け	尾呂碗	□10.6高7.0底5.2	瀬戸美濃	近世 17C後/18C中	95	12-44	胎土灰色 下位鎊釉 硬質
1356	西側	D141,D123/M050	陶器	鎊釉	尾呂碗	□-高底5.8	瀬戸美濃	近世 17C後/18C中	99	10-37	胎土気泡 黄灰色
1357	西側	D114	陶器	掛分け	腰鎊碗	□9.8高5.5底5.0	瀬戸美濃	近世 19C	53	9-33	胎土気泡 灰色 高台施釉 貫入
1358	西側	D076	陶器	掛分け	腰鎊碗	□9.7高5.7底4.3	瀬戸美濃	近世 18C後	46	7-27	胎土気泡 灰色 高台施釉 貫入
1359	西側	D123	陶器	鎊釉	壺/猪口	□8.0高4.4底3.3	瀬戸美濃	近世 18C	87	11-43	胎土気泡 黄灰色 見込灰かぶり
1360	西側	D114	陶器	掛分け	腰鎊碗	□(9.5)高5.1底4.1	瀬戸美濃	近世 19C	53	9-33	胎土白灰色 高台施釉
1361	西側	D114	陶器	掛分け	腰鎊碗	□(8.6)高5.2底4.1	瀬戸美濃	近世 19C	53	9-33	胎土気泡 白色 高台施釉 貫入
1362	西側	D114	陶器	掛分け	尾呂碗	□(12.4)高-底-	瀬戸美濃	近世 17C後/18C中	53	9-33	胎土黄灰色
1363	西側	(V-028G)	陶器	黒釉	天目碗	□-高底-	瀬戸美濃	近世 17C後/18C	221	16-61	胎土黄灰色
1364	西側	D114	陶器	黒釉	天目碗	□-高底-	瀬戸美濃	近世 17C後/18C前	53	9-33	胎土気泡 黄灰色 光沢
1365	西側	D115	陶器	黒釉	ゲンコツ碗	□-高底-	瀬戸美濃	近世 18C中後	83	8-30	胎土気泡白黄色外灰かぶり 光沢
1366	西側	D152	陶器	うのふ釉	天目碗	□-高底-	瀬戸美濃	近世 17C後/18C前	60	8-30	胎土気泡 白黄色 長石釉
1367	西側	D171,(N-041G)	陶器	徳利	碗	□-高底7.5	志土呂	近世 17後/18前	96	12-45	胎土微砂粒 暗灰色 硬質
1368	西側	D114	陶器	黒釉	香炉か	□-高底9.0	瀬戸美濃	近世 18C後か	55	9-35	胎土気泡 黄灰色 硬質

2 遺物一覧表

番号	地区	遺構	種類	釉焼成	器形	法量	産地	時代	本文	写真	備考
1369	西側	D114	陶器	錆軸	半胴壺	□-高-底10.4	瀬戸美濃	近世	54	9-35	胎土気泡 黄灰色 砂粒 硬質
1370	西側	D194, D114/N016	陶器	錆軸	徳利	□3.6高(20.0)底10.2	不明	近世	84	10-39	気泡灰底無調整光沢硬質
1371	西側	M054	陶器	黒釉	瓶	□-高-底8.0	不明	近世 18C?	69	6-21	胎土緻密 黄白色 軟質
1372	西側	D123	陶器	柿軸	耳壺	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C中後	88	11-42	胎土気泡 黄灰色 軟質
1373	西側	D123	陶器	黒釉	瓶	□9.0高-底-	不明	近世	88	11-42	胎土気泡 橙色 軟質
1374	西側	D054	陶器	掛分け	尾呂徳利	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C中後	42	7-26	胎土微砂粒 灰色
1375	西側	D123	陶器	柿軸	半胴壺	□-高-底(18.4)	不明	近世	88	11-42	黒鉱物暗灰色産後2次焼成内目痕
1376	西側	D114	陶器	錆軸	徳利	□-底-底-	不明	近世	54	9-35	気泡オリブ灰色胴部へこみ軟質
1377	西側	(U-028G)	陶器	錆軸	行平壺	□9.0高-底-	関西系	近世 19C?	221	16-61	胎土緻密 灰色
1378	西側	D171	陶器	掛分け	尾呂徳利	□-高(12.0)底12.0	瀬戸美濃	近世 18C前中	95	12-45	胎土緻密 灰色
1379	西側	X001, (S-044G)	陶器	灰軸	瓶	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 19C	25	5-17	胎土気泡 灰色 カイラギ状
1380	西側	D123, (R-039G)	陶器	掛分け	尾呂徳利	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C中後	87	11-42	胎土砂粒 灰色
1381	西側	D171	陶器	二彩灰軸青緑釉	片口鉢	□-高10.8底8.0	瀬戸美濃	近世 18C前	96	12-46	気泡白灰 見込トチン痕
1382	西側	D186	陶器	鉛釉	徳利	□3.4高21.7底8.4	瀬戸美濃	近世 18C中後	74	10-38	胎土気泡 オリブ灰色 肩拂目
1383	西側	D194, D114	陶器	柿軸	半胴壺	□27.0高-底-	不明	近世	84	10-39	胎土黒色産物 暗灰色
1384	西側	D171	陶器	錆軸	徳利	□-高-底(14.6)	瀬戸美濃	近世 18C	96	12-45	気泡砂粒黄灰色底無調整内錆めり
1385	西側	D186	陶器	錆軸	徳利	□-高-底-	不明	近世	74	10-38	胎土気泡 黄灰色
1386	西側	D114	陶器	柿軸	徳利	□-高-底7.6	備前	近世	54	9-35	胎土緻密 暗灰色 硬質
1387	西側	(L-026G)	陶器	柿軸	徳利	□-高-底14.0	瀬戸美濃	近世	222	16-61	胎土気泡 オリブ灰色 軟質
1388	西側	D114	陶器	灰軸	徳利	□-高-底6.8	瀬戸美濃	近世 19C	54	9-35	胎土気泡 灰色 ゴケ底
1389	西側	D105, D114/D144	陶器	灰軸	徳利	□-高-底6.4	瀬戸美濃	近世 19C	91	8-29	気泡灰ゴケ底産後2次焼成光沢
1391	西側	D158, (V-023G)	陶器	柿軸	徳利	□-高-底14.0	瀬戸美濃	近世 18C	60	8-30	胎土気泡 白灰色 2片
1392	西側	D186	陶器	陶胎染付	火入れ	□-高-底-	肥前	近世 18C前	74	10-38	胎土灰色 折り返し玉縁 内錆軸
1393	西側	D106	陶器	灰軸	片口鉢	□10.0高-底-	瀬戸美濃	近世 18C後	83	8-29	胎土気泡 灰白色
1394	西側	M054	陶器	黒釉	耳壺	□-高-底-	不明	近世	69	6-21	胎土微砂粒 灰色
1395	西側	D114	陶器	掛分け	尾呂徳利	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C前	54	9-35	胎土気泡 黄灰色
1396	西側	N016	陶器	灰軸	ビン水入れ	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C中以後	67	10-36	胎土気泡 砂粒 灰白色 底無軸
1398	西側	D194, D114	陶器	二彩灰軸地錆軸	水注	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C中	84	10-39	胎土気泡 黄灰色
1399	西側	D114	陶器	掛分け	尾呂徳利	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C中	54	9-35	胎土気泡 オリブ灰色
1400	西側	D124	陶器	鉛釉	練鉢	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 19C前	80	8-30	胎土気泡砂粒オリブ灰色軟質
1401	西側	D114	陶器	錆軸	碗	□-高-底(5.0)	関西	近世	53	9-33	胎土緻密暗灰色上位へこみ硬質
1402	西側	D171	陶器	二彩刷毛目	片口鉢	□-高-底-	肥前	近世 17C後/18C中	95	12-46	胎土微砂粒赤灰色 口縁無軸
1403	西側	(S-027G)	陶器	錆軸	煙硝摺	□-高-底-	瀬戸美濃	近世	222	16-61	胎土気泡黄灰色内無軸へこみ軟質
1404	西側	N203	陶器	鉛釉	徳利	□-高-底-	瀬戸美濃	近世	22	5-16	胎土緻密 オリブ灰色
1405	西側	X001	陶器	鉛釉	徳利	□4.0高-底-	瀬戸美濃	近世	25	5-17	胎土気泡 黄灰色 軟質
1406	西側	D123	陶器	鉛釉	徳利	□-高-底-	瀬戸美濃	近世	87	11-40	胎土気泡 黄灰色 軟質貫入
1407	西側	(O-023G)	陶器	灰軸	片口鉢	□-高-底-	瀬戸美濃	近世	222	16-61	胎土気泡 白灰色 軟質
1408	西側	D114	陶器	灰軸摺絵	小皿	□13.4高3.0底8.1	瀬戸美濃	近世 18C前中	54	9-34	気泡白黄桜花産後2次焼成軟質
1409	西側	D186	陶器	灰軸摺絵	小皿	□13.0高2.7底8.3	瀬戸美濃	近世 18C前	74	10-38	胎土気泡 黄灰色 桜花文 軟質
1410	西側	D194	陶器	灰軸摺絵	小皿	□12.5高2.6底8.4	瀬戸美濃	近世 18C前中	84	10-39	胎土気泡 黄白色 5弁花 軟質
1411	西側	D123, M050	陶器	灰軸鉄絵	皿	□-高-底4.4	関西系	近世	87	11-41	胎土微砂粒オリブ灰色硬質
1412	西側	D114	陶器	灰軸摺絵	皿	□-高-底6.7	瀬戸美濃	近世 18C前中	54	9-34	胎土気泡 灰色 トチン痕 硬質
1413	西側	D114	陶器	灰軸摺絵	型打皿	□-高3.2底4.9	瀬戸美濃	近世 18C前	54	9-34	緻密灰色見込摺絵色付高光沢
1414	西側	D114	陶器	灰軸	型打皿	□12.7高3.6底5.2	瀬戸美濃	近世 18C前	54	9-34	胎土気泡 灰白色 貫入
1415	西側	M061	陶器	志野軸	小皿	□10.9高2.2底5.9	瀬戸美濃	近世 17C後/18C前	31	5-17	胎土気泡白灰色ゴケ底歪み軟質
1416	西側	D114	陶器	青緑釉	小皿	□13.2高3.3底4.6	肥前	近世 18C前	53	9-34	微砂粒灰白見込蛇目軸はぎ外灰軸
1417	西側	D194	陶器	青緑釉	小皿	□-高-底4.0	肥前	近世 18C前	84	10-39	微砂粒灰白見込蛇目軸はぎ外透明軸
1418	西側	D123, M050	陶器	錆軸	端反皿	□11.3高2.4底5.0	瀬戸美濃	近世 18C前	87	11-41	胎土気泡 黄白色 底無調整 軟質
1419	西側	D114埋土	陶器	灰軸	小皿	□12.6高3.1底7.0	瀬戸美濃	近世 18C前	54	9-34	胎土気泡 黄灰色 重ね痕 軟質
1420	西側	D123, M050	陶器	灰軸	小皿	□13.5高2.5底7.2	瀬戸美濃	近世 18C前	87	11-41	胎土気泡 灰色 重ね痕 軟質
1421	西側	D116, D123	陶器	灰軸	小皿	□13.0高3.1底7.0	瀬戸美濃	近世 18C前	83	8-30	胎土気泡灰オリブ色重ね痕軟質
1422	西側	D114	陶器	灰軸	端反皿	□14.0高3.4底7.8	瀬戸美濃	近世 17C中	54	9-34	トチン痕(5脚)貫入
1423	西側	M061	陶器	志野軸	鉄絵皿	□12.0高2.7底6.5	瀬戸美濃	近世 17C中後	31	5-17	胎土気泡白色見込トチン痕軟質
1424	西側	M061	陶器	志野軸	鉄絵皿	□12.2高2.5底7.0	瀬戸美濃	近世 17C中後	31	5-17	胎土気泡 白色 軟質
1425	西側	M054	陶器	志野軸	鉄絵皿	□-高-底7.1	瀬戸美濃	近世 17C中	69	6-21	胎土気泡 灰色 軟質
1426	西側	D114	陶器	二彩織部軸	菊皿	□13.9高3.1底6.9	瀬戸美濃	近世 17C中	54	9-34	胎土気泡 黄灰色 トチン痕 軟質
1427	西側	D123	陶器	二彩織部軸	菊皿	□14.7高4.6底7.3	瀬戸美濃	近世 17C中	87	11-43	胎土気泡 白黄色 軟質
1428	西側	D123, M050	陶器	二彩鉛軸	菊皿	□12.8高3.9底5.8	瀬戸美濃	近世 17C中	87	11-41	胎土気泡 黄灰色 軟質
1429	西側	J027, (V-034G)	陶器	灰軸	小皿	□10.6高3.0底4.3	肥前	近世 1580/1610	37	2-6/7	16-61 緻密暗灰色見込トチン痕高台粗雑
1430	西側	N203	陶器	灰軸	菊皿	□-高2.8底8.0	瀬戸美濃	近世 17C中	22	5-16	胎土緻密 灰白色
1431	西側	D123	陶器	灰軸	輪はけ皿	□-高-底6.2	瀬戸美濃	近世 17C中	87	11-40	胎土気泡 灰白色 見込菊印花
1432	西側	D152	陶器	志野軸	輪はけ皿	□-高-底6.5	瀬戸美濃	近世 17C中	60	8-30	胎土石英黄褐色見込蛇目軸はぎ
1433	西側	D171埋土	陶器	灰軸	小皿	□12.4高3.0底5.8	瀬戸美濃	近世 18C前	95	12-45	胎土気泡 灰黄色 軟質
1434	西側	D114	陶器	志野軸	小皿	□-高-底7.2	瀬戸美濃	近世 17C分	54	9-34	胎土気泡 白黄色 軟質
1435	西側	D114	陶器	灰軸鉄絵	皿	□13.0高3.0底8.0	瀬戸美濃	近世 17C中	54	9-34	気泡白灰色見込無軸鉄絵文軟質
1436	西側	J027	陶器	灰軸	端反皿	□18.0高-底-	瀬戸美濃	近世 17C中	37	6-23	胎土気泡白黄色見込無軸軟質
1437	西側	D306/D318	陶器	長石釉	小皿	□10.5高-底5.4	瀬戸美濃	近世 18C	92	10-37	胎土気泡 黄灰色 軟質
1438	西側	D114	陶器	灰軸鉄絵	皿	□14.0高-底-	瀬戸美濃	近世 17C中	54	9-34	気泡白灰色見込無軸鉄絵軟質
1439	西側	D172	陶器	錆軸	小皿	□10.0高2.0底4.5	瀬戸美濃	近世 19C	101	10-37	胎土気泡 灰オリブ色
1440	西側	X001	陶器	錆軸	小皿	□-高-底5.0	瀬戸美濃	近世 19C	25	5-17	胎土気泡 灰色 見込輪トチン痕
1441	西側	(R-031G)	陶器	鉛釉	小皿	□-高-底6.0	瀬戸美濃	中世 16C 大窯	222	16-61	気泡黄灰色高台内輪トチン痕貫入
1442	西側	D123	陶器	灰軸	小皿	□-高-底6.0	瀬戸美濃	近世 17C	87	11-40	気泡白灰重ね痕産後2次焼成
1443	西側	D114	陶器	鉛釉	菊皿	□-高-底8.0	瀬戸美濃	近世 17C中	54	9-34	胎土砂礫灰色見込青緑釉軟質
1444	西側	M054	陶器	灰軸摺絵	皿	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 17C後	69	6-21	胎土気泡 白灰色 梅花文 軟質
1445	西側	M065	陶器	鉛釉	小皿	□(12.0)高-底-	瀬戸美濃	近世 18C中	23	5-17	胎土気泡 黄白色 軟質
1446	西側	D123	陶器	黄瀬戸釉	鉢	□-高-底14.6	瀬戸美濃	近世 17C中	88	11-43	気泡白灰高台軸目痕口縁波
1447	西側	M054, D123	陶器	二彩刷毛目	鉢	□-高-底13.0	肥前	近世 17C後/18C前	69	6-21	型打微砂粒赤灰産後2次焼成
1448	西側	D123	陶器	灰軸	皿	□23.0高5.3底11.0	瀬戸美濃	近世 19C	88	11-43	型打見込トチン痕ゴケ底灰色
1449	西側	D171	陶器	二彩三鳥手	鉢	□-高-底12.0	肥前	近世 17C末/18C中	95	12-46	微砂粒赤灰色見込胎土目
1450	西側	D114	陶器	灰軸	ひだ皿	□26.0高-底-	瀬戸美濃	近世 17C後/18C中	54	9-34	胎土気泡灰白色内貫入トチン痕
1451	西側	D114	陶器	青緑釉	皿	□-高-底6.0	肥前内の山	近世 18C前	53	9-34	蛇目軸刺ぎ微砂粒白貫入軸たれ
1452	西側	D123	陶器	二彩	笠原鉢	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 17C前中	88	11-43	胎土緻密気泡 黄白色
1453	西側	D172	陶器	二彩三鳥手	鉢	□29.0高-底-	肥前	近世 17C後/18C前	101	10-37	胎土微砂粒 赤灰色
1454	西側	D117	陶器	長石釉	鉢	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 17C前中	83	8-30	胎土泥質 灰オリブ色外軸たれ
1455	西側	D114	陶器	二彩鉄絵	鉢	□-高-底18.0	瀬戸美濃	近世 17C前中	54	9-34	気泡黄灰色高台軸目痕産後2次焼
1456	西側	D114	陶器	二彩鉄絵	笠原鉢	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 17C	54	9-34	胎土気泡黄灰色高台軸軟質
1457	西側	M050	陶器	長石釉	笠原鉢	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 17C	23	5-17	胎土気泡 灰オリブ色

IV 資料

番号	地区	遺構	種類	釉焼成	器形	法量	産地	時代	本文	写真	備考
1458	西側	D152	陶器	二彩	鉢	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 17C	60	8-30	気泡砂粒黄灰色備目文黄瀬戸軸
1459	西側	(Q-044G)	陶器	灰釉	皿	□20.0高-底-	瀬戸美濃	近世 18C	222	16-61	胎土気泡 灰白色 軟質
1460	西側	D114	磁器	染付	小碗	□8.4高4.5底3.4	肥前	近世 18C	53	9-32	高台砂 唐草文 発色不良
1461	西側	D123.M050	陶器	陶胎染付	碗	□-高-底 (4.6)	肥前	近世 18C	87	11-41	胎土灰色 唐草文高台砂施釉銀化
1462	西側	D123.M050	陶器	陶胎染付	碗	□10.4高7.5底5.1	肥前	近世 18C前	87	11-41	唐草文 銀化
1463	西側	D114	陶器	陶胎染付	碗	□10.4高6.7底4.3	肥前	近世 18C前	53	9-33	四方摺文山水絵灰高台砂施釉光沢
1464	東側	N008	磁器	青磁多彩	盃/猪口	□8.2高4.1底2.8	関西系	近代 幕末明治前	170	15-57	胎土暗灰色 花文 口縁玉縁
1465	西側	D171	陶器	陶胎染付	盃/猪口	□7.9高4.3底3.2	肥前	近世 18C前	95	12-44	雪輪文 高台施釉
1466	西側	D171	陶器	陶胎染付	盃/猪口	□8.5高4.7底3.3	肥前	近世 18C前	95	12-44	唐草白化粧土なし気泡多光沢
1467	西側	M054	磁器	染付	盃/猪口	□7.3高4.0底3.1	肥前	近世 18C前	69	6-21	胎土灰色 高台砂 胎土体部歪む
1468	西側	D171	陶器	陶胎染付	盃/猪口	□8.2高4.6底3.5	肥前	近世 18C前	95	12-44	唐草文胎土気泡灰色光沢虫くい
1469	西側	D123	磁器	染付	盃/猪口	□7.1高4.0底3.0	肥前	近世 18C	87	11-40	唐草紫灰口徑歪む虫くいひどい
1470	西側	D123	磁器	染付	盃/猪口	□(4.0)高-底-	肥前	近世 17C後/18C前	87	11-43	唐草文 胎土灰色
1471	西側	D123.M050	陶器	陶胎染付	碗	□-高-底-	肥前	近世 18C前	87	11-41	唐草文 胎土暗灰色 銀化
1472	西側	D123.M050	陶器	餡釉	香炉	□10.6高6.0底8.3	瀬戸美濃	近世 18C中	89	11-41	胎土気泡 黄白色 軟質
1473	西側	D114	陶器	柿釉	香炉	□14.0高8.0底14.4	瀬戸美濃	近世 18C前中	55	9-35	胎土気泡 黄白色 軟質
1474	西側	D114	陶器	餡釉	香炉	□11.4高6.5底12.2	瀬戸美濃	近世 17C後	55	9-35	底部不明墨書胎土気泡灰色御明瞭
1475	西側	D171	陶器	灰釉	摺絵香炉	□11.4高6.8底11.0	瀬戸美濃	近世 18C前中	96	12-45	気泡黄灰色摺絵桜花文ゴケ底
1476	西側	D123	陶器	餡釉	香炉	□10.5高6.4底11.0	瀬戸美濃	近世 18C前	89	11-43	気泡黄白色体部菊花文彫り軟質
1477	西側	M054	陶器	灰釉	油瓶か	□-高-底6.9	瀬戸美濃	近世 18C後/19C	69	6-21	胎土気泡 灰色
1478	西側	D171	陶器	黒釉	火入れ	□-高-底7.0	肥前系	近世	96	12-45	胎土砂粒灰色高台や歪む硬質
1479	西側	D114	陶器	餡釉	片口小鉢	□11.8高-底-	瀬戸美濃	近世 19C	54	9-35	砂粒気泡 灰色
1480	西側	M054	陶器	灰釉	小形火入れ	□5.4高4.9底3.7	瀬戸美濃	近世 18C後	69	6-21	胎土微砂粒 白灰色 軟質貫入
1481	西側	M054	陶器	黒釉	兼燗	□5.2高4.6底4.1	瀬戸美濃	近世 19C	69	6-21	胎土気泡 白灰色 軟質
1482	西側	D114	陶器	餡釉	水注	□-高-底5.4	瀬戸美濃	中世 16C中 大窯	55	9-35	胎土気泡砂粒灰白色底灰付着
1483	西側	D171	陶器	餡釉	水注	□5.6高10.6底7.9	瀬戸美濃	近世 18C中	95	12-46	胎土気泡 黄灰色 軟質
1484	西側	D124	磁器	青磁	兼燗	□7.2高5.0底6.3	関西系	近世 18C/19C	80	8-30	白灰色 灰オリーブ色貫入光沢
1485	西側	D114	陶器	餡釉	香炉	□-高-底7.2	瀬戸美濃	近世 18C後	55	9-35	緻密暗灰色体部薄いつ上手硬質
1486	西側	D124	陶器	柿釉	香炉か	□-高-底7.8	瀬戸美濃	近世 18C中	80	8-30	気泡暗灰色内錆ぬり貼り付け足
1487	西側	D306	陶器	灰釉	香炉	□-高-底8.0	瀬戸美濃	近世 18C後	92	10-37	胎土気泡 白灰色 軟質
1488	西側	M054	陶器	灰釉	鳥餌入れ	□-高-底-	瀬戸美濃	近世	69	6-21	胎土緻密 灰黄色 底無調整硬質
1489	西側	(V-024G)	陶器	餡釉	香炉か	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C中	221	16-61	胎土気泡 黄灰色 軟質
1490	西側	D171	陶器	黒釉	香炉	□5.3高-底-	瀬戸美濃	近世 18C前	96	12-45	胎土気泡砂粒白灰色内無軸軟質
1491	西側	D171	陶器	二彩刷毛目	片口鉢	□-高-底-	肥前	近世 18C	95	12-46	胎土微砂粒 暗灰色
1492	西側	D186	陶器	餡釉	灯明受台	□8.4高-底-	瀬戸美濃	近世 18C中	74	10-38	根来型気泡黄白色上スス付着軟質
1493	西側	D123.M050	陶器	餡釉	香炉	□11.4高-底-	瀬戸美濃	近世 18C前	89	11-41	胎土気泡 灰色 硬質
1494	西側	D186	陶器	灰釉	火入れ	□-高-底5.6	瀬戸美濃	近世 18C前	74	10-38	胎土気泡 白黄色 軟質
1495	西側	(M-026G)	陶器	餡釉	小物蓋	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C中	222	16-61	胎土微砂粒 黄白色
1496	西側	D114	陶器	灰釉	仏飯器か	□-高-底-	瀬戸美濃	近世	54	9-35	胎土微砂粒 灰黄色 貫入
1497	西側	D123	陶器	柿釉	瓶蓋	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C後	88	11-40	胎土砂粒 黄灰色 軟質
1498	西側	D114	陶器	餡釉	摺鉢	□34.6高14.4底13.0	不明	中世 16Cか	55	8-31	胎土砂礫暗灰色摺目左
1499	西側	D123	陶器	餡釉	摺鉢	□-高-底14.2	瀬戸美濃	近世 19C前	88	11-42	砂礫黄灰摺目幅広左底無調整目痕
1500	西側	D123	陶器	餡釉	摺鉢	□-高-底13.4	瀬戸美濃	近世 19C	88	11-42	気泡砂粒黄白摺目幅広左底無調整
1501	西側	D123	陶器	餡釉	摺鉢	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 19C	88	11-42	気泡黄灰摺目幅広左目痕底無調整
1502	西側	D123	陶器	餡釉	摺鉢	□36.0高-底-	瀬戸美濃	近世 19C	88	11-42	気泡黄灰摺目幅広左軟質
1503	西側	D194.D114	陶器	餡釉	摺鉢	□36.6高14.3底10.4	瀬戸美濃	近世 19C前	84	10-39	気泡黄灰摺目幅広左軟質
1504	西側	D186	陶器	餡釉	摺鉢	□37.2高13.2底12.6	瀬戸美濃	近世 19C	74	10-38	気泡黄灰摺目幅広左粗底無調整
1505	西側	D114	陶器	餡釉	摺鉢	□35.0高14.3底14.3	瀬戸美濃	近世 18C前	55	8-31	気泡灰黄摺目幅広左粗
1506	西側	(L-026G)	陶器	柿釉	摺鉢	□-高-底15.6	不明	近世	222	16-61	微砂粒赤灰摺目右向き左細密
1507	西側	D123	陶器	餡釉	摺鉢	□-高-底14.6	瀬戸美濃	近世	88	11-42	気泡白黄摺目幅広左見込車輪状
1508	西側	D172	陶器	自然釉	摺鉢	□-高-底-	備前系	近世	101	10-37	砂粒暗赤灰摺目左硬質
1509	西側	D123	土器	瓦質	焜炉	□-高-底-	不明	近世	89	45	胎土微砂粒 内スス付着
1510	西側	D123	陶器	無軸	摺鉢	□35.0高-底-	泉州堺	近世	89	11-42	胎土砂粒 赤灰色 摺目幅広左
1511	西側	D171	陶器	餡釉	摺鉢	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 19Cか	96	12-46	胎土気泡砂粒 摺目左粗 目痕
1512	西側	D123	陶器	柿釉	摺鉢	□29.0高-底-	不明	近世	89	11-42	黒鉱物暗灰色摺目幅広左硬質
1513	西側	(L-035G)	陶器	無軸	コネ鉢	□32.0高8.2底15.2	不明	中世	224	16-61	胎土砂粒赤灰色 内摩耗 硬質
1514	西側	D123	陶器	無軸か	摺鉢	□-高-底8.4	肥前	近世 17C前	89	2-6/7 11-42	緻密レンガ状赤灰摺目左粗
1515	西側	D171.(N-041G)	陶器	自然釉	摺鉢	□34.4高-底14.8	丹波	近世 18C以降	96	12-46	砂粒灰色摺目右備前写し
1516	西側	D114	陶器	餡釉	摺鉢	□34.2高12.7底13.6	備前系か	近世	55	8-31	胎土砂粒暗灰色 摺目左
1518	西側	D181	陶器	自然釉	コネ鉢	□-高-底12.2	常滑か	中世 12C/14C	99	10-37	胎土砂粒 内摩耗
1519	西側	M065	陶器	自然釉	大甕か	□-高-底18.0	常滑か	中世	23	5-17	胎土砂粒 暗灰色 幅広高台痕
1520	西側	X001	陶器	自然釉	大甕か	□-高-底-	常滑	中世 13C	25	5-17	胎土砂粒 暗灰色
1521	西側	M064	陶器	自然釉	大甕か	□-高-底-	常滑	中世 13C	23	5-17	胎土砂粒 黄灰色
1522	西側	D114	陶器	餡釉	大甕か	□-高-底-	不明	近世	55	9-35	胎土泥質 黄土色 軟質
1523	西側	D171	陶器	自然釉	大甕	□-高-底-	常滑	中世 14C	96	12-46	胎土微砂粒 灰色
1524	西側	(K-028G)	陶器	無軸	大甕	□-高-底-	常滑	中世 12C/14C	224	16-61	胎土砂粒 灰色 平行タタキ目
1525	西側	M050.D123	陶器	自然釉	大甕	□-高-底-	常滑	中世	23	5-17	胎土砂粒多 赤灰色 器壁厚い
1526	西側	(V-024G)	土器	瓦質	不明脚部	□-高-底-	不明	近世	221	16-61	胎土砂粒 赤褐色 スス付着
1527	西側	(S-035G)	陶器	自然釉	四耳盃	□-高-底-	常滑	中世	224	16-61	胎土微砂粒 灰色
1528	西側	X021	陶器	餡釉	摺鉢	□35.4高14.5底13.2	瀬戸美濃	近世 18C前中	105	12-47	砂礫黄白色 摺目幅広左
1529	中央	J009.(J-055G)ピット	陶器	自然釉	甕	□-高-底-	常滑	中世 12/14C	115	5-18	胎土砂粒 オリーブ灰色
1530	中央	X013	陶器	無軸	コネ鉢	□36.0高-底-	東北系か	中世 12/14C	119	13-48	胎土微砂粒 灰色 硬質
1531	西側	X021	陶器	灰釉	コネ鉢	□-高-底18.4	関西系	近世 19C	105	12-47	緻密黄白蛇目凹形高台目痕
1532	西側	X021.M040	陶器	自然釉	鉢	□-高-底-	常滑	中世 12C/14C	105	12-47	胎土砂粒 暗灰色 硬質
1533	中央	(R-051G)	陶器	自然釉	甕	□-高-底-	常滑	中世 12C/14C	224	16-62	胎土砂礫 暗灰色 硬質
1534	西側	X004	陶器	灰釉	皿	□-高-底6.0	瀬戸美濃	近世 18C前中	24	5-18	気泡オリーブ灰目痕軸めくれ
1535	中央	(T-046G)	陶器	鉄釉	皿か	□-高-底4.6	越中瀬戸か	近世 17C末/18C末	222	16-62	胎土緻密赤灰色 スス付着 硬質
1536	中央	(S-050G)	陶器	灰釉	山皿	□-高-底4.0	遠江瀬戸	中世 12C後	224	16-62	気泡オリーブ灰底無調整スス付着
1537	中央	(Q-048G)	陶器	灰釉	小皿	□12.0高-底-	瀬戸美濃	近世 18Cか	222	16-62	胎土白色鉱物 灰色
1538	中央	X013	陶器	黒釉	天目碗	□12.0高-底-	瀬戸美濃	中世 15C後	119	13-48	胎土緻密 灰色
1539	中央	(T-049G)	陶器	灰釉	碗	□-高-底-	肥前か	近世 18C前か	222	16-62	胎土緻密 オリーブ灰色 硬質貫入
1540	中央	(S-047G)	陶器	灰釉	小皿	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C	222	16-62	胎土緻密 オリーブ灰色 光沢
1541	西側	X003	陶器	灰釉	片口	□-高-底-	京焼か	近世	24	5-18	胎土緻密 白黄色 細貫入
1542	中央	M016上層	陶器	藁灰釉	土瓶	□7.0高10.9底7.6	東北か	近世 18C/19C	163	13-49	気泡黄灰色下スス削下3足貫入
1543	中央	M016上層	陶器	掛分け	腰鉢碗	□10.0高5.5底4.2	瀬戸美濃	近世 19C前	163	13-49	胎土気泡白色 高台施釉
1544	東側	(U-090G)	陶器	朱泥焼締	急須壺	□7.1高-底-	古古	近代 19C	225	16-62	胎土緻密 暗褐色
1545	中央	M016上層	陶器	黒釉	油瓶	□-高-底5.2	肥前	近世 18C	163	13-49	底部に白泥輪 胎土緻密暗褐色

2 遺物一覽表

番号	地区	遺構	種類	釉焼成	器形	法量	産地	時代	本文	写真	備考
1546	中央	M016下層	陶器	自然染付	碗	□-高-底4.6	肥前	近世 18C前	163	13-49	胎土緻密暗灰色 高台砂
1547	中央	M017下層	陶器	胎軸	平鉢	□-高-底-	常滑	中世 13C/14C	164	15-56	胎土石粒暗灰色
1548	中央	M016中層	陶器	灰軸	瓶	□-高-底-	遠江湖西	中世 12C後	163	13-49	胎土緻密 白灰色
1549	中央	X011東	陶器	胎軸	尾呂碗	□10.0高7.8底5.4	瀬戸美濃	近世 18C前	140	14-52	胎土砂粒 灰黄色 高台施釉
1550	中央	X011西底,(H-056G)	陶器	胎軸	仏花瓶	□-高-底6.5	瀬戸美濃	近世 18C前	142	14-53	胎土気泡 灰白色 内厚く軸底
1551	中央	X011新中島,土取り跡	陶器	掛分け	腰鎗碗	□9.5高6.0底4.0	瀬戸美濃	近世 18C	140	13-51	気泡白灰高台施釉重ね高台小
1552	中央	X011中層	陶器	掛分け	霜反湯飲碗	□8.6高6.4底4.0	東北系か	近世 18C後	140	13-50	微砂粒灰高台施釉鎗塗後灰濁
1553	中央	X011底,(I-055/056G)	陶器	胎軸	碗	□10.0高6.2底4.5	瀬戸美濃	近世 18C後	140	14-55	胎土砂粒 灰色 光沢
1554	中央	X011底	陶器	長石釉	土瓶	□-高-底8.6	関西系	近代	141	14-55	胎土微砂粒 灰褐色
1555	中央	X011底	陶器	灰軸鉄絵	土瓶蓋	□8.0高1.9底3.6	関西系	近代	141	14-55	廃棄後2次焼成
1556	中央	X011中島	陶器	灰軸	湯炊碗	□8.4高5.9底4.9	瀬戸美濃	近世 19C	140	13-51	気泡黄灰高台施釉廃棄後2次焼成
1557	中央	X011上下層,(I-062G)他	陶器	灰軸	小鉢	□14.0高6.9底8.5	関西系	近世 19C	141	13-50	微砂粒灰輪トチ痕高台目痕光沢
1558	中央	X011中島	陶器	二彩	碗	□-高-底3.6	不明	近世	140	13-51	微砂粒暗灰高台施釉光沢
1559	中央	X011底	陶器	黒釉	乗燭	□-高-底4.0	瀬戸美濃	近世 19C	142	14-55	胎土気泡灰白色
1560	中央	X011底	陶器	灰軸	腰折皿	□10.7高5.4底4.2	肥前か	近世 18C前中	140	14-55	微気泡黄灰色 関西の可能性も
1561	中央	X011中島,X011中下層	陶器	灰軸	菊皿	□12.5高3.3底7.7	瀬戸美濃	近世 17C中	140	13-51	胎土気泡 灰色
1562	中央	X011新中島,X011中層	陶器	灰軸鉄絵	碗	□12.0高5.4底4.2	京焼	近世 18C前中	140	13-51	山水絵 胎土気泡淡灰色
1563	中央	X011下層	陶器	灰軸	瓶類蓋	□11.0高2.0底-	東北系	近世	141	14-54	胎土気泡灰色やや青磁状光沢貫入
1564	中央	X011底,(J-061G)	陶器	胎軸	仏花瓶	□-高-底6.0	瀬戸美濃	近世 18C前	142	14-55	気泡灰白色内外面高台施釉軟質
1565	中央	X011西端下層	陶器	青緑釉	皿	□-高-底4.7	肥前内の山	近世 18C前	140	14-53	砂粒黄灰蛇目粗はき高台施釉光沢
1566	中央	X011底	陶器	志野釉	菊皿	□-高-底5.8	瀬戸美濃	中世か 16C末か	140	14-55	気泡灰白色高台施釉底目痕
1567	中央	X011橋W-7,X011底	陶器	古瀬戸灰釉	瓶子	□-高6.5底10.0	瀬戸	中世 13C	141	14-52	緻密灰色胎土目底部施釉硬質貫入
1568	中央	X011底	陶器	灰軸摺絵	ビン水入れ	□-高4.1底-	瀬戸美濃	近世 18C前	142	14-55	胎土気泡 白灰色 菊花文
1569	中央	X011底	陶器	胎軸	香炉	□12.0高-底-	瀬戸美濃	近世 18C前中	141	14-55	胎土微砂粒 黄灰色 2次焼成
1570	中央	X011底,(M-071G)	陶器	灰軸	ビン水入れ	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C前中	142	14-55	胎土微砂粒 灰色 鉄摺絵か貫入
1571	中央	M035	陶器	練上無釉	瓶類	□-高-底-	不明	近代	164	15-56	胎土緻密 暗紫色 硬質
1572	中央	X011下層,(H-062G)	陶器	二彩具須絵	瓶	□-高-底-	瀬戸美濃か	近代	140	14-54	胎土微砂粒 黄灰色 下面無釉
1573	中央	X011底	陶器	掛分け	尾呂德利	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C中	141	14-55	胎土気泡 暗灰色
1574	中央	X011中島,(I-057G)	陶器	長石釉	碗	□-高-底4.6	肥前	近世 16C末/1630	140	2-6/7 13-51	胎土微砂粒 灰褐色
1575	中央	M022	陶器	染付	京焼風皿	□-高-底9.0	肥前	近世 17C末/18C初	164	15-56	緻密淡オリブ高台内削りこみ
1576	中央	X011底	陶器	二彩刷毛目	碗	□-高-底-	肥前	近世 17C後/18C初	140	14-55	胎土微砂粒黄灰色高台施釉
1577	中央	X011底,(H-062G)	陶器	無釉	小皿	□11.0高1.9底5.0	不明	近代	141	14-55	緻密灰色ゴケ底廃棄後2次焼成
1578	中央	X011下層	土器	塗彩	小瓶類	□-高-底-	不明	近代	142	14-54	気泡白灰色外洗柿色内白色軟質
1579	中央	(I-051G),X011確認面	陶器	青緑釉	植木鉢	□-高-底9.2	不明	近代	222	16-62	胎土黒色鉱物粒 黄灰色
1581	中央	X011橋,(K-062G)	陶器	自然釉	甕	□-高-底-	常滑	中世 12C/14C	142	14-52	胎土砂礫含む 白灰色 硬質
1582	中央	X011橋W-8,(K-061G)	陶器	自然釉	甕	□-高-底-	常滑	中世 12C/13C	142	14-52	胎土緻密灰色 硬質
1583	中央	X011橋,(H-064G)	陶器	自然釉	壺	□11.2高-底-	常滑か	中世 15C	142	14-55	胎土砂粒多い 灰白色
1584	中央	M022底	土器	瓦質	コネ鉢	□-高-底-	不明	中世	164	15-56	胎土微砂粒 橙灰色
1585	中央	X011下層,(H/I-060/061G)	陶器	無釉	コネ鉢	□-高-底15.0	不明	中世	142	14-54	胎土白色鉱物暗褐色底砂目硬質
1586	中央	X011底,(J-065G)	土器	瓦質	コネ鉢か	□-高-底-	不明	中世	143	14-55	胎土砂粒多い 灰褐色
1587	中央	M021下層	陶器	無釉	甕	□-高-底14.6	不明	中世	164	15-56	白色鉱物灰色下位ケズリ調整硬質
1588	中央	X011下層	陶器	無釉	摺鉢	□32.0高11.1底14.0	泉州堺	近世	143	14-54	胎土砂礫 橙色 摺目左 砂底
1589	中央	X011南西	陶器	錆釉	摺鉢	□-高-底14.4	瀬戸美濃か	近世	142	14-53	摺目幅広 見込目痕 底無調整
1590	中央	X011北,(K-059/060G)	陶器	無釉	摺鉢	□34.0高14.0底16.0	備前	近世	142	14-52	胎土砂礫 暗紫灰色 摺目左硬質
1591	中央	X011底,(I-060G)	陶器	無釉	摺鉢	□-高-底16.0	備前	近世	143	14-55	底部墨書「〇ヤ・」砂礫橙灰色 砂底
1592	中央	X011下層,(G-062G)	陶器	自然釉	壺	□-高-底-	常滑か	近代	142	14-54	胎土緻密 暗紫色 光沢
1593	中央	X011中島,X011底	陶器	無釉	摺鉢	□28.0高-底-	泉州堺	近世	142	13-51	胎土砂粒橙灰色 摺目左
1594	中央	M022	陶器	自然釉	摺鉢	□(28.0)高-底-	常滑	中世	164	15-56	胎土緻密灰色摺目幅狭粗
1595	中央	X011橋W-7,(H-063G)他	陶器	二彩鉄絵	笠原鉢	□-高-底-	瀬戸美濃	近世	141	13-50	胎土気泡 黄灰色
1596	中央	X011西上層,(G-059G)	陶器	灰軸	片口鉢	□22.0高11.3底12.6	瀬戸美濃か	近代	141	14-53	緻密黄橙色見込目痕蛇目凹形高台
1597	中央	X011中島東,(I-058G)	陶器	二彩鉄絵	鉢	□-高-底16.0	不明	近世か	141	13-51	胎土緻密 黄灰色 胎土目 光沢
1598	中央	X011西端下層	陶器	二彩	笠原鉢	□33.0高-底-	瀬戸美濃	近世 17C前中	141	14-53	胎土気泡 黄灰色
1599	中央	X011西端下層	陶器	二彩刷毛目	片口鉢	□-高-底-	肥前	近世 18C	141	14-53	胎土緻密橙褐色
1600	中央	X011下層,(H-059G/I-058G)	陶器	二彩三鳥手	甕	□-高-底-	肥前	近世 17C後/18C前	141	14-54	緻密橙褐色内上ス2片
1601	中央	X011新中島中層,(I-060G)	陶器	二彩刷毛目	甕	□-高-底-	肥前	近世 17C後/18C初	141	13-51	胎土緻密灰色
1602	中央	X011底,(G/H-062G)他	陶器	錆釉	甕	□-高-底-	常滑	中世 15/16C	142	14-55	胎土黒色鉱物粒砂礫 暗灰色
1603	中央	X011橋E-6,(J-062G)	陶器	鉄軸	鉢か	□-高-底9.0	肥前	近世 18C	141	14-52	緻密灰見込目刷毛目きみ硬質
1604	東側	(R-092G)攪乱	陶器	胎軸	土壺蓋	□20.0高-底-	不明	近代	225	16-62	胎土気泡 黄灰色
1605	東側	(出土位置不明)	陶器	胎軸	手付鍋	□10.4高6.5底7.2	不明	近代	225	16-62	胎土緻密 灰褐色
1606	東側	N005	陶器	透明釉	德利	□4.4高-底-	関西系	近代	170	15-57	緻密橙灰色白化粧貫入
1607	東側	N005	陶器	胎軸	皿	□-高-底-	肥前	近世 18C	170	15-57	三鳥手 胎土微砂粒灰色
1608	東側	N004	陶器	胎軸	香炉	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C中後	170	15-57	胎土緻密 灰色
1609	東側	M001,M004	陶器	長石釉	鉢か	□-高-底-	瀬戸美濃	中世 15C後	180	15-59	胎土微砂粒 灰褐色
1610	東側	N006	陶器	胎軸	德利か	□-高-底-	瀬戸美濃	近世 18C中	170	15-57	胎土気泡 白灰色
1611	東側	N004	陶器	二彩印花鉄絵	湯炊碗	□-高-底-	関西系か	近世	170	15-57	微砂粒灰褐色象眼軟質
1612	東側	M001	陶器	自然釉	甕	□-高-底-	常滑	中世	180	15-59	胎土石英粒 黄灰色
1613	東側	D001	陶器	灰軸鉄絵	甕	□-高-底4.4	肥前	近世 18C	197	15-57	胎土微砂粒黄灰色 高台施釉
1614	東側	N004	陶器	錆釉	德利	□3.6高-底-	瀬戸美濃か	近世 18C後	170	15-57	胎土緻密 灰色
1615	東側	N004	陶器	灰軸	型打皿	□7.5高-底-	瀬戸美濃	近世 18C	170	15-57	胎土微砂粒 灰色
1616	東側	N003,(F/G-093G)	陶器	灰軸	菊皿	□11.4高-底-	瀬戸美濃	近世 17C中	170	15-57	胎土気泡 灰色
1617	東側	M001	陶器	無釉	コネ鉢か	□-高-底15.6	常滑	中世	180	15-59	砂礫暗灰色砂底廃棄後2次焼成
1618	東側	M001下層	陶器	無釉	コネ鉢	□-高-底12.6	不明	中世	180	15-59	胎土気泡砂粒 灰色 軟質
1619	東側	M001	陶器	無釉	コネ鉢	□-高-底13.4	東海系	中世	180	15-59	胎土砂礫灰白色 高台あり 軟質
1620	東側	M001	陶器	自然釉	コネ鉢	□-高-底14.0	常滑	中世 12C/14C	180	15-59	胎土微砂粒 灰色 砂底 硬質
1621	東側	M001下層	陶器	自然釉	甕	□-高-底-	常滑	中世 14C/15C	180	15-59	胎土砂粒 灰色 硬質
1622	東側	M004	陶器	灰軸	水注	□-高-底-	瀬戸美濃	中世	180	15-59	気泡黄白内廃棄後2次付着軟質
1623	東側	N002	陶器	自然釉	甕	□-高-底-	常滑	中世 13C/14C	174	15-57	胎土砂粒 暗灰色 硬質
1624	東側	M001	陶器	錆釉	甕	□-高-底-	常滑	中世 15C/16C	180	15-59	胎土砂粒暗灰色 硬質
1625	東側	N024	陶器	胎軸	行平蓋	□18.4高-底-	関西系	近代	172	15-58	胎土微砂粒黄灰色 白化粧かけ
1626	中央	M021下層	陶器	自然釉	コネ鉢	□-高-底-	尾張	中世	164	15-56	胎土気泡灰色 山茶碗系 軟質
1627	西側	(P-011G)	陶器	錆釉	摺鉢	□15.0高-底-	不明	近代	221	16-60	胎土砂粒灰褐色 摺目 幅広左
1628	西側	(P-012G)	陶器	陶胎染付	碗	□10.4高6.3底4.4	肥前	近世 18C前	221	16-60	山水絵 胎土微砂粒灰色 高台砂
1629	西側	(P-011G)	陶器	柿軸	摺鉢	□32.4高-底-	瀬戸美濃	近世 18C中	221	16-60	胎土気泡白灰色 摺目幅広粗 軟質
1630	西側	X003	土器	瓦質酸化	焜炉か	□-底-高-	不明	近世	24	24	胎土砂粒 橙黄色 軟質
1631	中央	M022,(H-074G)	土器	瓦質還元	塙	□-高-底-	不明	中世	164	117	胎土微砂粒 灰色
1632	中央	M022,(H-074G)	土器	瓦質酸化	不明	□-高-底-	不明	中世	164	117	胎土緻密 黄灰色
1633	西側	M048	陶器	無釉焼締	コネ鉢	□-高-底19.0	常滑か	中世	24		胎土気泡砂粒 灰色

IV 資料

番号	地区	遺構	種類	軸焼成	器形	法量	産地	時代	本文	写真	備考
1634	西側	M048	土器	瓦質酸化	焜炉	□-高-底-	三河高浜	近代	24	24	胎土気泡砂礫 橙色 上面スス
1635	西側	M042, (U-006G)	土器	瓦質酸化	鉢	□-高-底-	不明	近世	29	26	胎土気泡 白黄色 硬質
1636	西側	M048	土器	瓦質還元	瓶か	□-高-5底6.6	不明	中世	24	24	胎土気泡砂礫 灰色 内スス 軟質
1637	西側	M048	土器	瓦質酸化	焙烙	□-高5.5底-	不明	中世	24	24	胎土気泡砂粒 白橙色
1638	西側	M042, (T-007G)	土器	瓦質還元	火鉢か	□-高-底-	不明	近世	29	26	胎土気泡砂粒 灰黄色
1639	西側	M048	土器	瓦質還元	焜炉	□-高-底-	不明	近代	24	24	胎土砂粒 灰橙色 廃棄後2次焼成
1640	西側	M048, (Q-020G)	土器	瓦質酸化	焜炉	□-高-底-	不明	近代	24	24	胎土砂粒 橙色 内面2次焼成
1641	西側	M042, (U-006G)	土器	土師器	小皿	□9.6高2.0底5.8	不明	近世	29	26	胎土砂粒 黄橙色
1642	西側	M042, (U-006G)	土器	瓦質酸化	焜炉	□16.0高-底-	不明	近世	29	26	胎土微砂粒 灰橙色 軟質
1643	西側	M044, (U-014G)	土器	瓦質還元	瓦灯か	□-高-底-	不明	近世	29	26	胎土砂粒 暗灰色 内面2次焼成
1644	西側	D041	土器	瓦質還元	焙烙	□-高5.3底-	不明	近世	41	32	胎土砂粒気泡 黄灰色 土底
1645	西側	D082	土器	瓦質還元	埴	□39.8高11.3底21.0	不明	近世	51	43	胎土砂粒 暗灰色
1646	西側	D078	土器	瓦質還元	焙烙	□-高5.8底-	不明	近世	47	36	赤色鉱物粒灰橙土底外全面スス
1647	西側	D081	土器	瓦質還元	埴	□39.8高11.1底21.0	不明	近世	51	43	胎土砂粒 暗灰色
1648	西側	D081	土器	瓦質酸化	瓦灯	□-高-底-	不明	近世	51	43	胎土赤色鉱物粒 灰橙色
1649	西側	D076	土器	瓦質還元	埴	□-高-底-	不明	近世	46	36	胎土微砂粒 暗灰色
1650	西側	D041	土器	瓦質還元	焙烙	□-高-底-	不明	近世	41	32	気泡暗灰色土底見込菊花状押印
1651	西側	D041	土器	瓦質還元	小形火入れ	□-高-底-	不明	近世	41	32	胎土気泡 白灰色
1652	西側	D081	土器	瓦質還元	小形火鉢か	□-高-底-	不明	近世	51	43	胎土砂粒 暗灰色
1653	西側	N203上面	土器	瓦質酸化	焙烙	□(34.6)高3.1底(35.0)	不明	近代	22	23	胎土気泡 橙 土底
1654	西側	N203, (P-011G)	土器	瓦質酸化	焙烙	□(35.4)高2.8底(34.0)	不明	近代	22	23	胎土砂粒 橙 土底 内外スス
1655	西側	N203	陶器	無軸	コネ鉢	□(31.0)高-底-	不明	中世	22	23	胎土砂礫 暗紫紫色 硬質
1656	西側	J021(W-018G)ピットJ022	土器	瓦質還元	焙烙	□(35.4)高5.9底33.0	不明	近世	37	29	気泡灰橙色土底廃棄後2次焼成
1657	西側	D171, (N-041G)	土器	瓦質還元	焙烙	□38.5高5.4底-	不明	近世	96	70	胎土赤色鉱物粒 灰橙色 土底
1658	西側	D171	土器	瓦質還元	焙烙	□20.0高5.4底-	不明	近世	96	70	胎土気泡黄灰色土底内外スス
1659	西側	D171	土器	瓦質還元	火入れ	□14.4高4.6底10.1	不明	近世	96	70	胎土気泡 暗灰白色 3脚
1660	西側	D171	土器	瓦質還元	焙烙か	□-高-底-	不明	近世	96	70	線刻 胎土気泡 白灰色 軟質
1661	西側	D171	土器	瓦質酸化	栓か	□-高-底-	不明	近世	96	70	胎土砂粒 橙色 直方体
1662	西側	D171	土器	瓦質還元	火鉢	□-高-底-	不明	近世	96	70	赤色鉱物粒灰色雷文印花軟質
1663	西側	D171	土器	瓦質還元	火入れ	□14.4高-底12.4	不明	近世	96	70	胎土砂粒 暗灰色 3脚
1664	西側	D171	土器	瓦質還元	埴	□33.0高11.6底18.6	不明	近世	97	70	気泡暗灰色土底見込菊花状押印外スス
1665	西側	D171	土器	瓦質還元	焙烙	□36.0高5.1底32.6	不明	近世	96	70	胎土気泡暗灰白色土底径歪み
1666	西側	D171	土器	瓦質還元	焙烙	□37.0高5.5底34.4	不明	近世	96	70	橙灰色 土底 径歪み
1667	西側	D114	土器	瓦質酸化	埴	□33.0高13.5底19.5	不明	近世	57	45	胎土気泡 黄灰褐 土底
1668	西側	D114	土器	瓦質還元	焙烙	□38.7高5.5底35.4	不明	近世	56	45	気泡暗灰色径大きく歪む土底
1669	西側	D114	土器	瓦質還元	水鉢か	□-高-底20.0	不明	近世	55	45	胎土赤色鉱物粒 橙色
1670	西側	D114	土器	瓦質還元	焙烙	□-高-底-	不明	近世	56	45	胎土気泡 灰色
1671	西側	D114	土器	瓦質還元	焙烙	□37.0高5.5底35.0	不明	近世	56	45	気泡白灰土底孔廃棄後2次焼成
1672	西側	D114	土器	瓦質還元	焙烙	□-高5.5底-	不明	近世	56	45	砂粒白灰暗灰色土底口縁面とり
1673	西側	D123	土器	瓦質還元	焙烙	□35.0高5.1底-	不明	近世	89	66	胎土気泡 黄灰色 土底 補修孔
1674	西側	D114	土器	瓦質還元	焙烙	□40.0高5.5底36.0	不明	近世	56	45	胎土気泡 暗灰白色 土底 軟質
1675	西側	D114	土器	瓦質還元	焙烙	□37.8高6.0底35.6	不明	近世	56	45	土底
1676	西側	D114	土器	瓦質酸化	火鉢	□31.0高-底-	不明	近世	57	45	赤色鉱物粒白黄色欄目廃棄後2次焼成
1677	西側	D114	土器	瓦質酸化	焙烙	□-高-底-	不明	近世	56	45	赤色鉱物粒橙灰色孔土底廃後2次焼成
1678	西側	D114	土器	瓦質還元	埴	□35.0高11.0底19.0	不明	近世	57	46	胎土砂粒 暗灰白色 土底
1679	西側	D114	土器	瓦質還元	手持灯器	□-高-底-	不明	近世	55	45	胎土微砂粒 オリブ灰色
1680	西側	D123	土器	瓦質酸化	手持灯器か	□-高7.6底15.0	不明	近世	89	66	赤色鉱物粒橙暗灰色外研磨
1681	西側	D123	土器	瓦質酸化	火鉢	□27.0高-底-	不明	近世	89	66	赤色鉱物粒橙灰色外口縁研磨
1682	西側	D114	土器	瓦質還元	火入れ	□-高6.7底-	不明	近世	55	45	気泡暗灰白黄色土底脚付き
1683	西側	D123	土器	土師質	小皿	□9.8高2.0底2.9	不明	中世	89	66	胎土気泡 橙黄色 底無調整 軟質
1684	西側	D123	土器	瓦質還元	火入れ	□-高-底-	不明	近世	89	66	気泡白灰暗灰土底脚外研磨
1685	西側	M054, D114	土器	瓦質還元	火鉢か	□26.0高-底-	不明	近世	69	52	気泡白黄廃棄後2次焼成軟質
1686	西側	D114	土器	瓦質還元	火鉢	□-高-底12.8	不明	近世	55	45	白色鉱物粒暗灰色土型成形か軟質
1687	西側	D114	土器	瓦質還元	焙烙	□38.0高5.3底34.6	不明	近世	56	45	胎土気泡 灰黄色 土底
1688	西側	N016	土器	瓦質還元	火鉢	□24.4高8.6底19.4	不明	近世	67	52	胎土白色鉱物粒 灰色
1689	西側	D114	土器	瓦質還元	埴	□-高-底-	不明	近世	56	45	赤色鉱物粒黄灰白土底爆8弁花押印
1690	西側	D114	土器	瓦質還元	埴	□35.2高10.8底20.0	不明	近世	57	45	胎土白色鉱物粒 暗灰色
1691	西側	D114	土器	瓦質還元	埴	□34.0高10.7底17.0	不明	近世	57	45	胎土気泡 暗灰、白色 偽耳
1692	西側	D114	土器	瓦質還元	埴	□34.6高10.0底20.0	不明	近世	57	45	気泡暗灰内薄斑有機物外煤土底
1693	西側	D114	土器	瓦質酸化	焙烙	□36.4高5.2底34.0	不明	近世	56	45	胎土気泡 暗灰色 砂底
1694	西側	D114	土器	瓦質還元	埴	□33.2高10.3底19.0	不明	近世	57	45	胎土気泡 灰橙色 外土底
1695	西側	D183	土器	瓦質還元	埴	□32.4高11.3底16.4	不明	近世	81	61	気泡内炭化有機物外煤偽耳土底
1696	西側	M054	土器	瓦質還元	火入れ	□(18.8)高-底-	不明	近世	69	52	口研磨外押印磨消砂粒暗灰黄灰
1697	西側	X001	陶器	無軸還元	コネ鉢	□-高-底-	不明	中世	25		白色鉱物粒 灰・茶灰色
1698	西側	M054	土器	土師質	小皿	□10.6高2.1底6.0	不明	中世	69	52	気泡 黄灰色
1699	西側	M054	土器	土師質	灯明具か	□6.4高1.5底4.2	不明	近世か	69	52	赤色鉱物粒 橙色
1700	西側	M054	土器	瓦質還元	埴鉢	□(22.0)高-底-	不明	近世	69	52	気泡 暗灰・白黄色
1701	西側	M054	土器	瓦質酸化	有孔円盤	径3.9厚0.6	不明	近世	69	52	焙烙転用 気泡 黄灰色
1703	西側	X001	土器	土師器	坏か	---	不明	古墳時代か	25	24	沈線刻画 黒斑 気泡 橙灰色
1704	西側	D168, D123	土器	瓦質酸化	火鉢か	底-24.0	不明	近世	94	70	赤色鉱物粒 橙黄色
1705	西側	D091	土器	土師質	小皿	□10.0高2.1底6.6	不明	中世	49	38	底周縁調整 気泡 白灰色
1706	西側	D124	土器	瓦質酸化	焜炉	径(12.6)厚1.2	不明	近世	80	61	気泡 白黄色
1707	西側	D171	土器	土師質	小皿	□8.4高1.6底5.4	不明	中世	96	70	底左回転無調整気泡白橙色軟質
1708	西側	D114	陶器	灰釉か	瓶類	底7.8	不明	近世か	54		内僅かに軸周り痕気泡白灰色軟質
1709	西側	D107	土器	瓦質還元	瓦灯	---	不明	近世	83	64	外研磨 赤色鉱物粒 灰橙色
1710	西側	D124	土器	瓦質酸化	焜炉	---	不明	近世	80	61	鉄線痕 赤色鉱物粒 橙色
1711	西側	D171	土器	土師質	小皿	底7.0	不明	中世	96	70	底調整 気泡 褐灰色 軟質
1712	西側	D124	土器	土師質	火鉢か	---	不明	近世か	80	61	雷文押印 微砂粒 黄灰色 軟質
1713	西側	D172	土器	瓦質還元	火鉢か	---	不明	近世	101	74	内底スス付着 砂粒 暗灰色
1714	西側	D123, M050	土器	瓦質還元	埴	□25.4高10.9底23.0	不明	近世	89	66	内研磨 土底 気泡 暗灰色
1715	西側	M050	土器	瓦質還元	焙烙	□38.0高5.0底35.0	不明	近世	23	23	胎土気泡 暗灰、白灰色 土底
1716	西側	M052	土器	瓦質還元	火入れか	□-高-底16.0	不明	近世	77	57	胎土気泡、砂粒 白黄色 土底
1717	西側	M050	陶器	須恵質無軸	コネ鉢	□-高-底16.0	不明	中世	23		胎土砂礫 灰色
1718	西側	(L-022G)	陶器	須恵質還元	瓶か	□-高-底-	不明	古代	222	161	胎土砂粒 白灰色
1719	西側	M051	土器	土師質	小皿	□-高-底3.8	不明	中世か	77	57	底部不明墨書赤鉱粒橙左回転調整
1720	西側	X001	土器	瓦質還元	焜炉か	□-高-底-	不明	近世	25	24	胎土気泡 灰白色 口唇摩耗
1721	西側	M065	陶器	須恵質無軸	コネ鉢	□-高-底-	不明	中世	23		胎土気泡 灰白色

2 遺物一覽表

番号	地区	遺構	種類	釉焼成	器形	法量	産地	時代	本文	写真	備考
1722	西側	D123, M050	陶器	無釉酸化	摺鉢	□高-底-	信楽か	近世	89	66	石英粒黄橙△摺目D081同質片
1723	西側	(S-027G)	土器	瓦質焼し	塀	□37.0高-底-	不明	中世	224	162	胎土赤色鉾物粒 橙灰色
1724	西側	(Q-044G)	土器	瓦質還元	鉢形塀	□34.4高12.2底18.0	不明	近世	222	161	胎土砂粒 暗灰白灰色 土底
1725	西側	J015 周辺, (U-008G)	土器	瓦質還元	焙烙	□高-底-	不明	近世	31	28	胎土気泡 暗灰白灰色 土底
1726	西側	J015 周辺, (V-007G)	土器	瓦質還元	焙烙	□高-底-	不明	近世	31	28	胎土気泡 暗灰白灰色 土底
1727	西側	(N-041G)	土器	瓦質還元	火鉢脚	□高-底-	不明	近世	224	162	胎土砂粒 暗灰白灰色
1728	西側	(O-026G)	土器	瓦質焼し	摺鉢	□高-底10.0	不明	中世	224	162	気泡黄灰摺目粗幅広砂底
1729	西側	(Q-036G)	土器	瓦質還元	鉢形塀	□34.8高10.7底15.0	不明	近世	222	161	外煤下付着物砂粒暗灰橙灰色土底
1730	西側	D186	土器	瓦質酸化	火鉢か	□22.4高17.0底15.4	不明	近世	75	56	気泡白黄色土底表面斜離軟質
1731	西側	D186, D114	土器	瓦質酸化	焙烙	□30.4高-底 (24.0)	不明	近世	74	56	胎土気泡橙灰色暗灰色外研磨土底
1732	西側	D186, D114	土器	瓦質酸化	火鉢	□30.2高18.0底21.3	不明	近世	74	56	気泡白橙外連華押印焼後2次焼土底
1733	西側	D183	土器	瓦質還元	焙烙	□38.0高5.4底34.0	不明	近世	81	61	胎土気泡 黄灰色 土底
1734	西側	D105	土器	瓦質酸化	焙烙	□29.0高5.1底-	不明	近世	91	67	胎土赤色鉾物粒 紫灰色 土底
1735	西側	D183	土器	瓦質焼し	焙烙	□38.0高5.8底34.8	不明	近世	81	61	胎土赤色鉾物粒白黄色土底型跡
1736	西側	D107, D186	土器	瓦質焼し	塀か	□43.0高-底-	不明	近世	83	64	胎土気泡 灰褐色 外研磨
1737	西側	D186	土器	瓦質酸化	瓦灯	□16.2高2.8底16.0	不明	近世	75	56	胎土赤色鉾物 灰褐色 土底
1738	西側	X001	土器	化粧掛け	釜	□18.4高-底-	三河高浜	近代	25	24	石英粒橙錆上内赤土かけ軟質
1739	西側	D114	土器	瓦質酸化	焙烙	□35.8高6.0底32.4	不明	近世	56	45	気泡黄灰細粒毛ミ底菊花伏押印
1740	西側	J015 周辺, (W-009G)	土器	瓦質	焜炉か	厚0.8	不明	近代か	31	28	胎土赤色鉾物粒 橙色 軟質
1741	西側	D114	土器	瓦質酸化	焙烙	□37.9高5.9底33.6	不明	近世	56	45	胎土気泡 黄灰色 土底
1742	中央	(M-052G)	土器	瓦質還元	釜輪か	□35.0高-底-	不明	近世	222	161	砂粒暗灰白灰口縁上端平摩耗
1743	中央	D039	土器	須恵器	甕	□高-底-	不明	中世	123	87	胎土砂粒 灰黄色 平行叩き目
1744	中央	(U-052G)	土器	土師質	小皿	□7.2高1.4底5.4	不明	中世か	224	162	胎土砂粒橙底部撫て調整軟質
1745	西側	X021	土器	土師質	小皿	□8.4高1.7底7.0	不明	中世	105	75	赤色鉾物粒橙底回転調整軟質
1746	中央	D039	陶器	無釉還元	コネ鉢	□22.0高-底-	不明	中世	123	87	胎土砂粒 灰色 硬質
1747	中央	X012 No.3	陶器	自然釉還元	甕	□高-底-	渥美	中世 12C	118	84	砂粒灰色柳目叩き目内自然釉
1748	西側	X021中層	土器	瓦質焼し	焙烙	□36.4高-底-	不明	近世	105	75	胎土気泡 白色, 暗灰色
1749	中央	X012 No.7	陶器	自然釉還元	甕	□高-底-	渥美	中世 12C	118	84	白色鉾物粒柳目叩き目硬質
1750	中央	X012 No.12	陶器	無釉還元	甕	□高-底-	渥美か	中世 12C	118	84	胎土白色鉾物 灰色 硬質
1751	中央	X012上層	土器	瓦質酸化	行平か	□高-底-	不明	近世	118	84	胎土微砂粒 橙色
1752	中央	X012 No.13	陶器	須恵質無釉	壺か	□高-底-	不明	中世	118	84	胎土気泡 灰色
1753	西側	X021中層	土器	土師質	小皿	□高-底3.0	不明	中世か	105	75	胎土気泡 橙色 底部無調整 軟質
1754	中央	X012 No.3	陶器	須恵質	壺か	□高-底-	不明	中世	118	84	胎土砂粒 灰色 自然釉 硬質
1755	不明	(出土位置不明)	陶器	須恵質無釉	コネ鉢	□高-底-	不明	中世	226	163	白色鉾物粒灰色無量寿寺北西表土
1756	中央	M016上層	土器	瓦質焼し	焙烙	□36.6高-底-	不明	近世	163	117	胎土砂粒 白灰色 土丸底
1757	中央	M016上層	土器	瓦質焼し	火入れ	□20.0高10.6底13.0	不明	近世	163	117	胎土砂粒 橙色 口縁研磨
1758	中央	M016中層	陶器	須恵器	甕	□高-底-	不明	古代	163	117	胎土白色鉾物粒 暗灰色
1759	中央	M017下層	陶器	須恵質無釉	瓶	□高-底9.2	不明	中世	164	117	胎土砂粒 橙灰色
1760	中央	M016上層	陶器	須恵質無釉	コネ鉢	□高-底-	不明	中世	163	117	胎土砂粒 灰色
1761	中央	M017下層	陶器	須恵質無釉	コネ鉢	□高-底-	不明	中世	164	117	胎土気泡 灰黄色 硬質
1762	東側	M018上層, (N-091G)	土器	土師質	壺	□高-底-	不明	中世か	187	133	胎土砂粒 黄灰色
1763	中央	M017中層	土器	土師質	皿	□高-底-	不明	中世	164	117	気泡砂粒橙左回転成形底無調整
1764	中央	X011西下層, (G-059G)	土器	瓦質	火鉢	□23.2高16.0底14.6	不明	近代か	145	102	胎土砂粒灰色口縁高台研磨軟質
1765	中央	X011中層, (I-058G)	土器	瓦質還元	焜炉	□15.2高-底17.8	不明	近世	144	102	胎土砂粒 暗灰色 軟質
1766	中央	X011西上層, (G-057G)	土器	瓦質酸化	焜炉	□32.4高-底-	不明	近世	144	102	胎土気泡, 砂粒 橙, 灰色
1767	中央	X011西上層, (G-057G)	土器	土師質	焙烙か	□高-底-	不明	近世	143	103	気泡橙灰色器歯状補修孔5穴軟質
1768	中央	X011上層, (H-063G)	土器	瓦質酸化	火鉢把手か	□高-底-	不明	近世	145	103	胎土砂粒 赤灰色
1769	中央	X011底, (I-066G)	土器	土師質	小皿	□9.8高2.2底6.0	不明	中世か	144	103	胎土気泡 黄白色 軟質
1770	中央	X011底, (I-066G)	土器	瓦質酸化	内耳塀	□高-底-	不明	中世	143	102	胎土砂粒 紫灰色 軟質
1771	中央	X011下層, (H-065G)	土器	瓦質還元	瓦灯	□高-底-	不明	近世	144	102	胎土気泡 暗灰黄灰色
1772	中央	X011北東底	土器	瓦質還元	灯明皿	□7.0高2.0底4.5	不明	中世か	144	103	気泡灰色左回転成形底無調整
1773	中央	X011底, (M-060G)	土器	瓦質還元	灯鉢脚	□高-底-	不明	近世	144	102	胎土気泡 暗灰白灰色
1774	中央	X011下層, (K-062G)	土器	瓦質焼し	釜台か	□高-底-	不明	近世	144	102	胎土砂粒 暗灰色
1775	中央	X011北下層, (H-066G)	土器	瓦質酸化	不明	□高-底-	不明	近世	144	102	赤色鉾物粒暗灰黄橙色切りこみ
1776	中央	M032	土器	土師質	小皿	□9.0高2.0底5.0	不明	中世か	155	108	胎土砂粒 橙色 左回転成形か
1777	中央	M032, (J-073G)	土器	瓦質酸化	塀	□高-底-	不明	中世	155	108	胎土砂粒 紫灰色
1778	中央	D023 No.1, 2	土器	瓦質酸化	塀	□30.4高15.8底21.0	不明	中世	158	112	砂粒黄褐土底焼後2次焼成か2耳
1779	中央	X011下層	土器	瓦質還元	火鉢	□26.8	不明	近世	145	102	口縁面取り 気泡 暗灰, 白黄色
1780	中央	X011下層	土器	須恵質	コネ鉢	---	不明	中世	143	103	気泡 灰黄色 軟質
1781	中央	X011下層	土器	瓦質焼し	火鉢脚部	---	不明	中世か	145	102	砂粒 黄灰色 軟質
1782	中央	X011下層, (H/I-060/061G)	土器	瓦質還元	火鉢脚部	---	不明	中世	144	102	気泡 オリーブ灰色 軟質
1783	中央	X011下層	土器	瓦質還元	火鉢脚部	---	不明	中世	144	102	全体摩耗気泡暗灰灰色軟質
1784	中央	X011下層	土器	瓦質酸化	焜炉	厚1.5	不明	近世	144	103	上灰痕 土底 気泡 白黄色
1785	中央	X011下層, (F-062G)	他	瓦質酸化	焜炉	□(33.0)	不明	近世	146	103	焼後2次焼成転用か2個体か軟質
1786	中央	X011中島東, (I-058G)	土器	瓦質還元	焙烙	□(34.0)高5.5底(30.0)	不明	近世	143	102	土底焼後2次焼成気泡暗灰白黄軟質
1787	中央	X011中島西埋土	土器	須恵質	火鉢	---	不明	中世	145	102	焼成前穿孔 気泡 オリーブ灰色
1788	中央	X011中島中層	土器	瓦質還元	火鉢	□(30.4)	不明	近世	145	102	口縁面取り研磨砂粒暗灰白黄色
1789	中央	X011橋W-7, (K-061G)	陶器	須恵器無釉	甕	---	不明	古代	144	103	叩き目 砂粒 灰紫色 硬質
1790	中央	X011底, (I-060G)	土器	瓦質酸化	焙烙か	□(27.6)	不明	近世	143	103	土丸底 赤色鉾物粒 黄灰色 軟質
1791	中央	X011中島埋土, (H-066/057G)	土器	瓦質酸化	鉢か	---	不明	近世	143	103	口縁刻焼前穿孔微砂粒黄灰軟質
1792	中央	X011底, (G/H-062G)	土器	瓦質酸化	端反小皿	□10.2高2.2底4.0	不明	中世	144	103	底無調整 微砂粒 黄白色
1793	中央	X011中島中層, (I-057G)	土器	土師器	高坏	---	不明	古墳時代	144	103	砂粒 橙茶色
1794	中央	X011西上層, (G-057G)	他	瓦質酸化	焜炉	□27.6高28.4底28.0	不明	近代	146	103	胎土赤色鉾物粒 黄橙色 軟質
1795	中央	X011西上層	土器	土師質	焙烙	□36.0高3.1底35.4	不明	近代	145	103	胎土気泡 橙色 土底 補修孔2
1796	中央	X011西上層, (G-057G)	土器	土師質	焙烙	□35.4高3.0底36.0	不明	近代	145	103	胎土気泡 橙色 土底 補修孔1
1797	中央	X011西試掘, (G-057G)	土器	瓦質焼し	鉢	□38.4高12.0底18.0	上州小泉か	近世	143	102	砂底 微砂粒 茶灰色
1798	中央	X011下層	土器	瓦質	火入れ	□13.2高5.8底10.0	不明	近世	145	102	砂底口縁研磨微砂粒灰黄灰色
1799	中央	X011底, (H/J-055G)	土器	瓦質酸化	小形塀	□16.6高5.3底12.6	不明	近世	145	103	外煤内有機物気泡焼白黄色脚付き
1800	西側	D172	土器	瓦質還元	焙烙	□高-底-	不明	近世	101	74	砂粒 暗灰 灰白色
1801	中央	X011西端底, (J-056G)	土器	瓦質還元	塀	□高-底-	不明	近世	143	102	口縁内面研磨微砂粒暗灰白色砂質
1802	中央	X011西端底下層	土器	瓦質還元	塀	□高-底-	不明	近世	143	102	口縁内面研磨微砂粒暗灰白黄色
1803	中央	X011底	土器	須恵器	コネ鉢	□高-底-	不明	中世	143	103	口縁煤 砂粒 灰色 硬質
1804	中央	X011底	土器	須恵器	塀	□高-底-	不明	中世	143	103	砂粒 灰色 硬質
1805	中央	X011南西埋土	土器	瓦質還元	塀	□高-底-	不明	近世	143	102	口縁内研磨焼後孔白黄色鉾物粒暗灰
1806	中央	X011下層	土器	瓦質焼し	小形塀	□高-底-	不明	近世	144	102	軟質土底気泡暗灰白灰色脚付き
1807	中央	X011底, (J-055/056G)	土器	瓦質酸化	小皿	□7.8高1.7底5.2	不明	中世	144	103	底調整 微砂粒 黄灰色 軟質
1808	中央	D015, (H-067/068G)	土器	土師器	小鉢	□19.4高5.8底11.2	不明	中世	158	111	底右回転無調整 微砂粒 橙灰色

IV 資料

番号	地区	遺構	種類	釉焼成	器形	法量	産地	時代	本文	写真	備考
1809	中央	D027	土器	瓦質焼し	壺	□38.0高17.3底25.4	不明	中世	159	113	土底 砂粒 灰青色
1810	中央	D027	土器	瓦質酸化	摺鉢	□34.6高12.1底11.3	不明	中世	159	113	摺目左裡内外煤焼用か砂灰橙色
1811	中央	D004中層	土器	土師器	小皿	□-高-底7.0	不明	中世	119	84	左回転無調整後2次焼か砂礫橙灰
1812	中央	D022, (H-072G)	土器	土師器	皿	□14.2高3.1底8.3	不明	中世	158	112	底左回転無調整 砂礫 橙黄色
1813	中央	D027	土器	土師器	小皿	□10.4高2.2底7.0	不明	中世	159	113	底左回転無調整内外煤砂粒橙灰
1814	中央	D021	土器	土師器	小皿	□8.0高1.6底6.4	不明	中世	158	112	底左回転無調整濃い煤赤色鉛物粒
1815	中央	X011東試掘表土, (G-062G)	陶器	須恵質無釉	コネ鉢	□-高-底10.0	不明	中世	142		底カキ目調整 微砂粒 灰青色
1816	中央	(H-067G)	土器	土師器	小皿	□12.0高3.2底6.7	不明	中世	224	162	底左回転無調整 砂粒 灰黄色 軟質
1817	中央	D025	土器	瓦質酸化	小皿	□-高-底7.3	不明	中世	159	112	底左回転無調整赤色鉛物橙灰軟質
1818	中央	D021, (G-071G)	土器	瓦質酸化	輪状	□-高-底-	不明	中世	158	112	上面研磨 微砂粒 黄灰色 軟質
1819	中央	D004, (S-062G)	土器	瓦質還元	コネ鉢か	□-高-底15.2	不明	中世	119	84	内面割離多い 石英粒 灰白色 軟質
1820	中央	D029上層	土器	瓦質酸化	小皿	□7.9高1.4底5.5	不明	中世	128	108	底左回転無調整気泡黒灰色黒斑
1821	中央	D026	土器	瓦質還元	小皿	□7.9高1.5底5.0	不明	中世	159	113	左回転無調整内外煤両口砂粒灰黄軟質
1822	中央	D027, (H-070/071G)	土器	瓦質酸化	小皿	□7.9高1.5底5.0	不明	中世	159	113	底摩耗 微砂粒 橙黄色 軟質
1823	中央	D024	土器	瓦質還元	壺	□-高-底-	不明	中世	158	112	微砂粒 灰黄色 硬質
1824	中央	D018	土器	瓦質	火鉢	□48.2高10.5底34.0	不明	中世	158	111	外花紋押印口縁磨土底砂礫暗灰色
1825	中央	D018	土器	瓦質焼し	壺	□31.1高-底-	不明	中世	158	111	赤色鉛物粒 暗橙黄色
1826	中央	X011中島, (I-056G)	土器	瓦質焼し	小皿	□9.4高2.1底6.0	不明	中世	144	102	胎土気泡白灰色底左回転無調整
1827	東側	M001	土器	土師器	小皿	□7.4高1.9底4.0	不明	中世	180	128	胎土微砂粒橙黄色底左回転無調整
1828	東側	M001	土器	土師質	円筒状	□-高-底-	不明	古代か	180	128	胎土砂礫 橙黄色 せい弱
1829	東側	M001	土器	瓦質焼し	壺	□-高-底-	不明	中世	180	128	胎土金色鉛物粒茶橙黄色補修孔
1830	東側	M001	土器	瓦質酸化	円盤状	□-高-底-	不明	中世か	180	128	胎土金色鉛物粒 橙灰色 上下煤
1831	東側	M001	土器	瓦質酸化	レンガか	□-高-底-	不明	近代	181	128	胎土砂礫 橙黄色
1832	東側	M001	土器	瓦質還元	壺か	□-高-底-	不明	中世	180	128	胎土砂粒オリープ灰色外耳型内煤
1833	中央	X011橋W-8G, (K-061G)	土器	瓦質還元	播鉢か	□-高-底-	不明	中世	143	103	胎土微砂粒 褐灰色 底板痕 軟質
1834	中央	D021	土器	瓦質焼し	壺か	□-高-底-	不明	中世	158	112	胎土砂礫 褐灰色 把手付き
1835	東側	M001	土器	瓦質酸化	皿	□-高-底7.0	不明	中世	180	128	底左回転無調整 胎土砂粒 橙灰色
1836	東側	M001	土器	土師器	壺	□-高-底5.6	不明	古代	180	128	砂底 胎土黒色鉛物粒 灰黄色
1837	東側	M003	土器	瓦質還元	碗	□-高-底6.6	不明	古代	183	129	胎土砂礫 白黄色 軟質
1838	東側	M003	土器	須恵器	碗	□-高-底-	不明	古代	183	129	黒斑 胎土気泡 灰白色 軟質
1839	東側	M001下層	土器	黒色土器	小坏	□10.0高3.5底5.0	不明	古代	180	128	右回転無調整非磨黒鉛物粒灰白
1840	東側	M003	土器	須恵器	坏	□-高-底6.0	不明	古代	183	129	底左回転無調整胎土砂礫灰白軟質
1841	東側	M018, (S-096/097G)	土器	土師器	壺	□-高-底-	不明	古代	187	133	砂底 胎土黒色鉛物粒 黄灰色
1842	東側	M001	土器	須恵質	小皿	□-高-底6.6	不明	古代か	180	128	底左回転無調整線刻か微砂粒灰黄
1843	東側	M004	土器	土師器	羽釜	□-高-底-	不明	古代	180	128	胎土砂礫 橙灰色 軟質
1844	東側	M001, (U-097G)	土器	土師質	壺か	□-高-底-	不明	古代か	180	128	胎土黒色鉛物粒 灰褐色
1845	東側	M018, (S-092/096G)	土器	土師器	小形壺	□14.0高-底-	不明	古代	187	133	胎土黒色鉛物粒 暗灰色
1846	東側	M001	土器	土師器	小皿	□11.6高2.4底3.5	不明	中世	180	128	底無調整赤色鉛物粒橙黄色軟質
1847	東側	M001下層	土器	土師器	碗	□-高-底7.0	不明	古代か	180	128	高台内無調整 胎土砂粒 暗灰色
1848	東側	M001上層	土器	土師器	小皿か	□-高-底7.0	不明	中世	180	128	底左回転無調整胎土砂粒茶橙黄色軟質
1849	東側	M001	土器	土師器	高坏	□-高-底-	不明	古墳時代	181	128	摩耗胎土赤色鉛物粒橙灰色軟質
1850	東側	M001	土器	土師器	小皿	□-高-底-	不明	中世	180	128	底左回転無調整 胎土気泡 橙黄色
1851	東側	M007	土器	土師器	小坏	□-高-底6.0	不明	古代	183	129	底静止糸切無調整気泡黄軟質
1852	東側	M018上層, (S-101G)	土器	土師器	高足碗	□15.3高6.5底8.4	不明	古代	187	133	底無調整焼後2次焼成気泡黄灰
1853	東側	(R-098G)	土器	瓦質	練鉢おこし	□-高-底-	不明	近代	225	162	胎土気泡 黄橙黄色 硬質
1854	東側	(S-098G)	土器	瓦質酸化	大壺	□-高-底25.0	不明	近代	225	162	赤色鉛物粒橙黄色内外有機物付着
1855	東側	(R-098G)	土器	土師質	円筒状	□-高-底-	不明	近代か	225	162	胎土気泡 橙灰色 軟質
1856	東側	(T-100G)	陶器	上絵	不明	□-高-底-	不明	近代	225	16-62	
1857	東側	(S-101G/102G)	土器	瓦質還元	焜炉	□28.2高-底-	不明	近代か	225	162	胎土気泡 暗灰黄灰色
1858	東側	(出土位置不明)	土器	土師器	坏	□11.2高5.2底5.5	不明	古代	225	162, 165	墨書風構字砂粒裡内煤左回転無調整
1859	西側	J013 (V-010HG) ビット	土器	瓦質酸化	壺か	□-高-底(10.0)	不明	近世か	31	28	胎土砂粒 淡オリープ色
1860	中央	J005	土器	瓦質焼し	壺か	□15.0高-底-	不明	中世	121	85	胎土微砂粒 橙灰色
1862	中央	J005	土器	瓦質酸化	火鉢か	□-高-底-	不明	近世か	121	85	胎土赤色鉛物粒 橙黄色 口縁面とり
1863	東側	N002	土器	土師器	飯把手か	□-高-底-	不明	古代	174	120	胎土気泡 灰褐色
1864	西側	D046, D049	土器	瓦質酸化	瓦灯	□-高-底-	不明	近世	44	35	胎土微砂粒 橙灰色
1865	東側	M004	土器	瓦質還元	火鉢脚	□-高-底-	不明	中世	180	15-59	胎土砂礫 灰黄色 軟質
1866	西側	N203, (O-017G)	陶器	二彩緑透明釉	瓶	□16.0高-底-	畿内	古代 8C	22	4-12/13/145-16	白化粘土薄塗り微砂粒暗灰
1867	東側	(W-106G)	陶器	緑釉	皿	□-高-底-	猿投	古代9C後10C初里壺90	25	4-13/15, 16-62	胎土緻密 灰黄色
1868	東側	(V-106G)	陶器	緑釉	皿	□-高-底-	猿投	古代9C10C初里壺90	225	4-13/15, 16-62	胎土緻密 灰黄色
1869	東側	J157 No.11	陶器	緑釉硬陶	碗	□-高-底-	美濃	古代9C中里壺14	199	4-13/15	胎土気泡 灰黄色
1870	西側	N203	陶器	陶器	皿	□14.0高3.0底7.2	美濃	古代9C後10C初光ヶ丘1	22	4-13/14.5-16, 165	底不明墨書三日月高台玉緑緻密灰白
1871	西側	N203	陶器	灰釉	皿	□15.0高3.1底7.5	美濃	古代 10C中 大塚2	22	4-13/14.5-16	三日月高台緻密オリープ灰漬掛け
1872	東側	J159 No.26	陶器	灰釉	碗	□-高-底7.5	猿投か	古代 10C中 折戸53	203	4-13/15	三日月高台気泡灰白漬掛け
1873	東側	J159 No.13, 14	陶器	灰釉	皿	□13.6高2.6底6.7	美濃	古代 10C中 丸石2	203	4-13/15	三日月高台緻密灰漬掛け
1874	西側	D124	陶器	灰釉	碗	□16.1高5.0底7.2	美濃	古代 10C中 大塚2	80	4-13/14	三日月高台玉緑緻密灰オリープ漬掛け
1875	西側	J107	陶器	灰釉	長頸瓶	□-高-底-	猿投	古代	64	4-13/14	焼後2次焼成 胎土気泡灰褐色
1876	東側	J159	陶器	灰釉	碗	□-高-底7.4	猿投	古代9C10C中黒壺90	203	4-13/15	三日月高台気泡灰褐色刷毛掛け
1877	東側	J152 No.9, (R/S-106G)	陶器	灰釉	長頸瓶	□-高-底-	猿投	古代	200	4-13/15	外面施釉 胎土気泡 暗灰色
1878	西側	J106	陶器	灰釉	碗	□16.2高5.6底8.0	美濃	古代 10C中 大塚2	63	4-13/14	三日月高台玉緑気泡灰白
1879	東側	J102 No.21	陶器	灰釉	壺	□18.6高-底-	美濃	古代	199	4-13/15, 15-57	胎土緻密 灰白色 内面のみ
1880	西側	J107	陶器	灰釉	瓶	□-高-底-	猿投	古代	64	4-13/14	胎土気泡 灰褐色 外施釉
1881	中央	M021	陶器	灰釉	瓶	□-高-底-	美濃	古代	164	4-13/15, 15-56	胎土緻密 灰白色 外施釉
1882	西側	J104	陶器	灰釉	皿	□-高-底7.0	猿投	古代9C後10C初里壺90	63	4-13/14	胎土気泡 灰黄色 刷毛掛け
1883	東側	M018	陶器	灰釉	壺	□-高-底-	美濃	古代 山茶碗期か	187	4-13/15, 15-59	胎土緻密 灰白色 釉面わずか
1884	中央	(L-051G)	陶器	須恵質	壺	□-高-底-	不明	古代	224	4-13 16-62	自然釉波状文砂粒灰褐色硬質
1885	西側	J106	陶器	灰釉	碗	□-高-底-	美濃	古代9C後10C初光ヶ丘2	63	4-13/14	玉緑胎土緻密灰白色刷毛掛けか
1886	西側	J106	陶器	灰釉	碗か	□-高-底8.4	猿投	古代9C後10C初里壺90	63	4-13/14	三日月高台微砂粒灰褐色刷毛掛けか
1887	西側	J106	陶器	灰釉還元	瓶	□-高-底-	猿投	古代	63	4-13/14	胎土気泡 灰褐色
1888	東側	M202	陶器	灰釉	碗	□-高-底-	猿投	古代9C10C初里壺90	191	4-13/15, 15-58	玉緑胎土微砂粒灰白色刷毛掛けか
1889	東側	M201	陶器	灰釉	碗	□-高-底7.8	美濃	古代9C10C初光ヶ丘3	191	4-13/15, 15-58	刷毛掛けか
1890	東側	J159 No.15	陶器	灰釉	碗	□13.2高-底-	猿投	古代 10C中 折戸53	203	4-13/15	玉緑焼後2次焼成微砂粒黄灰色
1891	東側	M018	土製品	酸化	丸玉	径1.7厚0.8孔径0.2	不明	古代	187	133	半球形 胎土気泡 灰白色
1892	東側	(V/W-106/107G)	土製品	酸化	土鉢	長3.1幅1.2孔径0.4	不明	古代	226	163	胎土砂粒 灰黄色
1893	西側	X001	土製品	酸化	泥人形	長-幅-厚1.1	不明	近世	25	24	裏平坦 摩耗 胎土微砂粒 橙黄色
1894	中央	X011(U-061G)	土製品	酸化	泥人形	長-幅3.0厚2.8	不明	近世	142		狐か中空焼後2次焼成微砂粒橙黄色
1895	東側	M012	土製品	酸化	泥人形	長-幅2.9厚0.9	不明	近世	183	130	大黒天 裏平坦 胎土微砂粒 橙黄色
1896	西側	M044	土製品	酸化	泥人形	長-幅-厚1.3	不明	近世	29	26	仏像か中空胎土赤色鉛物粒黄橙黄色

2 遺物一覧表

番号	地区	遺構	種類	釉焼成	器形	法量	産地	時代	本文	写真	備考
1897	西側	M050	土製品	酸化	紡錘車	径3.4厚0.7孔径0.4	不明	古代か	23	23	胎土微砂粒 白黄色
1898	西側	M044, (T-011/012G)	土製品	酸化	泥人形	長・幅・厚1.2	不明	近世	29	26	動物か裏指頭痕胎土微砂粒橙褐色
1899	西側	N036	土製品	酸化	泥人形	長・幅・厚1.5	不明	近世	27	26	仏像 中空 胎土微砂粒 黄褐色
1900	中央	X011中下層, (J-059G)	陶器	無釉焼締	播鉢	□(30.0)高-底-	備前	近世	142	13-50	摺目左 白色鈹物粒 橙褐色
1901	中央	X011西下層	土器	瓦質還元	火鉢	□(20.0)高-底-	不明	近世	145	102	へら描雷文 気泡 暗灰色
1902	中央	X011中層	土器	瓦質焼し	火入れか	□(11.1)高-底-	不明	近世	145	102	口縁研磨 気泡 灰濁色
1903	中央	X011底	土器	瓦質酸化	焜炉	□29.0高-底-	不明	近世	144	102	胎土赤色鈹物粒 暗灰白黄色
1905	中央	X011橋, (K-061G)	土器	瓦質軟質	火鉢	□高-底-	不明	中世	144	102	菊花印施後2次焼微砂粒暗灰黄灰
1906	中央	X011橋	土器	瓦質還元	火鉢脚部	□高-底-	不明	中世	144	102	胎土砂粒暗灰黄灰色2片軟質
1907	中央	X011橋	土器	瓦質	火鉢か	□高-底-	不明	中世	143	102	胎土微砂粒 暗灰 白灰色
1908	中央	X011橋, (K-061G)	土器	瓦質還元	摺鉢か	□高-底12.0	不明	中世	145	102	胎土気泡 砂粒 淡茶灰色
1909	中央	X011橋	土器	瓦質焼し	火鉢把手か	□高-底-	不明	中世	145	102	胎土気泡 砂粒 淡茶灰色
1910	中央	X011橋, (K-061G)	土器	須恵質	火鉢か	□高-底-	不明	中世	145	102	巴文押印口縁研磨胎土砂粒灰色
1911	西側	M042(T-007G)	磁器	染付	皿	□高-底-	肥前	近世 17C中	29	2-6/7 6-20	
1912	東側	M202	土器	須恵質	縁か	□高-底-	不明	古墳時代	191	136	胎土微砂粒 暗灰色
1913	西側	M059	土製品	還元硬質	不明	□高-底-	不明	不明	77	5-17 57	廃棄後鉄粉附着 胎土砂粒 灰色
1914	東側	M101	陶器	灰釉	高足碗	□高-底8.6	美濃	古代10C末11C初虎渓山	191	4-13/15	下内外無胎土微気泡白灰色
1915	西側	M050	陶器	灰釉	皿	□高-底7.0	猿投	古代9C後10C初黒鹿90	23	4-13/14, 5-17	刷毛塗底三角高台微気泡灰白
1916	東側	M151 P-13	陶器	灰釉	碗	□高-底7.2	美濃	古代10C末11C初虎渓山	187	4-13/15	内外漬掛け三角高台緻密灰白
1917	東側	(W/X-107G)	陶器	灰釉	碗	□高-底6.6	猿投	古代10C中折戸53	225	4-13/15	内外漬掛け三角高台微砂粒灰色
1918	西側	N036, (T-006G)	陶器	灰釉	皿	□高-底8.0	猿投	古代9C後10C初黒鹿90	27	4-13/14	胎土微砂粒 オリーブ灰
1919	東側	M001	陶器	自然釉焼締	コネ鉢	□35.2高13.5底13.0	常滑	中世	180		胎土石英粒 暗灰色
1920	中央	X012 No.4	陶器	自然釉焼締	甕	□高-底-	常滑	中世	118		胎土石英粒 灰白黄色
1921	西側	M048	陶器	自然釉焼締	鉢	□高-底-	不明	中世	24		山茶碗系か黒色鈹物粒オリーブ灰
1922	東側	M001	陶器	焼締	甕	□高-底-	渥美か	中世	180		胎土緻密 灰白色
1923	西側	X001 (K-028G)	陶器	自然釉焼締	甕	□高-底-	不明	中世	25		胎土微砂粒 灰色
1924	東側	M001	陶器	焼締	甕	□高-底-	渥美	中世 12C	180		櫛状叩き目胎土緻密オリーブ灰
1925	中央	(M-052G)	磁器	白磁	碗	□高-底-	中国	中世 13/14C中	224	2-4/5	口禿げ 灰白色
1926	東側	M001	磁器	白磁	碗	□高-底-	中国	中世 13/14C中	180	2-4/5	口禿げ 灰白色
1927	中央	X011下層	磁器	染付	皿	□高-底-	肥前	近世 18C	140	14-54	竹文 胎土緻密 灰白色
1928	中央	D021	陶器	黒釉	壺	□高-底-	瀬戸美濃	近世16/17C	158	15-56	茶壺か緻密オリーブ灰色釉むら
1929	東側	(U/V-107/108G)	陶器	灰釉銀化	瓶	□高-底-	猿投	古代	225	4-13/15	硬質胎土緻密 灰茶色
1930	東側	(W-106G)	土製品	酸化	土錘	長6.0幅2.3孔0.7	不明	古代	226		胎土気泡 白黄色
2001	西側	J107床下	土器	土師器	コ字甕	□20.4高-底-	不明	古代	64	50	胎土砂粒 橙褐色
2002	西側	J107床下	土器	須恵器	壺	□高-底12.8	不明	古代	64	50	砂底胎土赤色鈹物粒灰橙褐色軟質
2003	西側	J109カマド内	土器	土師器	釜	□19.2高-底-	不明	古代	65	51	胎土砂粒 黄茶色
2004	西側	N203, (N-018G)	土器	土師器	坏	□10.8高3.6底5.0	不明	古代	22	23	底右回転無調整砂礫白黄色
2005	西側	J108カマド内	陶器	須恵器	壺	□高-底-	不明	古代	65	51	叩き成形 胎土砂礫 灰色
2006	西側	J104カマド	土器	土師器	コ字甕	□高-底-	不明	古代	63	49	内面有機物附着 胎土砂粒 橙褐色
2007	西側	J104攪乱	土器	須恵器焼し	碗	□14.2高4.6底6.2	不明	古代	63	49	一部黒色化胎土気泡灰黄色軟質
2008	西側	J107	土器	土師器	坏	□13.4高3.2底4.0	不明	古代	64	50	胎土砂粒 橙褐色
2009	西側	J108	土器	土師器	碗	□高-底6.0	不明	古代	65	51	胎土微砂粒灰オリーブ色軟質
2010	西側	J109	土器	土師器	S字甕	□15.0高-底-	不明	古墳時代	65	51	胎土砂粒 黄灰色
2011	西側	J107	陶器	須恵器	瓶類	□高-底-	不明	古代	64	50	高台内無調整 胎土石英粒 灰色
2012	西側	D103	土器	土師器	高足碗	□14.0高6.0底8.0	不明	古代	42	32	歪大高台内粗調整赤色鈹物粒黄橙
2013	西側	D056	土器	須恵器	碗	□14.0高6.1底5.0	不明	古代	44	35	歪黒斑高台内粗調整廃棄後油附着
2014	西側	D103	土器	須恵器	坏	□13.0高3.5底4.5	不明	古代	42	32	右回転粗調整点状煤粉附着砂粒黄橙
2015	西側	D045	土器	土師器焼し	高足碗	□高-底7.0	不明	古代	44	35	内面黒色処理 胎土砂粒 橙灰色
2016	西側	D041	土器	土師器	小皿	□8.8高1.7底4.7	不明	中世	41	32	底左回転無調整赤色鈹物粒黄灰
2017	西側	D056	土器	須恵器	壺	□高-底-	不明	古代か	44	35	廃棄後2次焼成 胎土砂粒 灰色
2018	西側	D081	土製品	酸化	フイゴ羽口	長・幅・厚-	不明	古代か	51	43	胎土砂粒 暗灰白黄色
2020	西側	N203	土器	土師器	坏	□12.0高3.3底6.2	不明	古代	22	23	煤漬く 附着手づくね砂粒暗黄色
2021	西側	N203	土器	土師器	坏	□13.2高4.1底5.6	不明	古代	22	23	土底 胎土砂礫 灰黄色 軟質
2022	西側	N203	土器	土師器	坏	□12.0高3.6底(7.0)	不明	古代	22	23	手づくね口縁歪濃煤砂粒灰黄
2023	西側	N203, (M/N-016G)	土器	須恵器系	端反坏	□13.0高4.6底4.8	不明	古代	22	23	右回転無黒斑口縁歪気泡 灰
2024	西側	N203	土器	土師器系	高足碗	□15.0高5.3底7.2	不明	古代	22	23	高台内無調整胎土砂礫灰橙褐色軟質
2025	西側	N203	土器	黒色土器	端反碗	□13.8高5.5底-6.6	不明	古代	22	23	非研磨 胎土砂粒 暗灰色
2026	西側	(Q-012G)	土器	土師器	高坏	□高-底-	不明	古墳時代	221	161	胎土赤色鈹物粒 灰褐色
2027	西側	D078	土器	土師器	坏	□12.4高3.8底5.8	不明	古代	47	36	底左回転無調整砂礫灰橙軟質
2028	西側	J016/J046	土器	土師器系	羽釜	□21.0高-底-	不明	古代	35	29	黒斑 胎土砂礫 灰黄色
2029	西側	(X-019G)	土製品	酸化	フイゴ羽口	□高-底-	不明	古代	221	161	胎土砂粒 暗灰白黄色
2030	西側	N036, (T-006G)	土器	土師質	坏	□14.0高3.8底5.8	不明	古代	27	26	外墨書不明底粗い調整気泡黄白
2031	西側	N203表土	土器	土師器	小皿	□9.6高2.1底6.0	不明	中世か	22	23	底無調整 胎土気泡 橙灰色 軟質
2032	西側	N203, (N-017G)	土器	土師質	小坏	□11.0高4.0底5.2	不明	古代	22	23	底右回転無調整黒色鈹物粒 白灰色
2033	西側	M048, (Q-020G)	土器	土師器	碗か	□高-底-	不明	古代	24	24	外墨書不明胎土気泡橙灰色軟質
2034	西側	N203, (O-017G)	土器	土師器	坏	□高-底4.8	不明	古代	22	23	見込墨書不明気泡灰黄色軟質
2035	西側	M050	土器	黒色土器	坏	□12.4高3.8底6.2	不明	古代	23	23	煤 胎土砂礫 暗灰色
2036	西側	J106	土器	土師器	碗	□高-底5.8	不明	古代	63	50	胎土砂礫 橙灰色 軟質
2037	西側	M048	土器	土師器	小皿	□高-底3.0	不明	中世か	24	24	底左回転無調整焼成後穿孔気泡橙
2038	西側	J112	土器	須恵器	碗	□13.6高5.2底7.4	不明	古代	109	79	高台右回転無焼後2次焼砂礫灰軟質
2039	西側	J112	土器	土師器	碗	□13.8高5.5底7.2	不明	古代	109	79	高台無調整黒斑焼後2次焼砂礫黄白
2040	西側	J112	土器	須恵器	坏	□12.4高3.6底6.6	不明	古代	109	79	右回転無調整内外煤砂粒灰色軟質
2041	西側	J112	土器	土師器	坏	□14.4高5.1底5.9	不明	古代	109	79	底削り調整黒斑内外煤気泡黄橙
2042	西側	J112 No.7,23,26,28	土器	須恵器	碗	□16.4高6.8底8.0	不明	古代	109	79	外墨書○印胎土気泡白黄色軟質
2043	西側	J112	土器	土師器	小形甕	□11.6高-底-	不明	古代	109	79	胎土微砂粒 黄白色
2044	西側	J112	土製品	酸化	フイゴ羽口	最大7.8全長-孔2.1	不明	古代	109	79	胎土気泡 黄灰色
2045	西側	J112	土製品	酸化	フイゴ羽口	最大径7.5全長-孔 2.3	不明	古代	109	79	鉄ガラス附着 胎土砂粒 黄白色
2046	西側	J112	土製品	酸化	フイゴ羽口	最大径8.0全長12.5孔2.5	不明	古代	109	79	鉄ガラス附着 胎土砂礫 黄褐色
2047	西側	J112	土製品	酸化	フイゴ羽口	最大径7.1全長7.0 孔1.8	不明	古代	109	79	鉄ガラス附着 胎土気泡 黄褐色
2048	西側	J112	土製品	酸化	フイゴ羽口	最大径6.7全長7.5 孔2.2	不明	古代	109	79	鉄ガラス附着
2049	西側	J112	土器	土師器	甕	□17.0高-底-	不明	古代	109	79	黒斑 胎土砂粒 黄褐色
2050	西側	J112	土器	土師器	甕	□18.0高-底-	不明	古代	109	79	内外煤 胎土砂粒 橙灰色
2051	西側	J111	土器	土師器	坏	□10.8高3.8底4.8	不明	古代	110	79	砂底 胎土砂礫 白黄色 軟質
2052	西側	J111カマド	土器	土師器	高足碗	□高-底7.8	不明	古代	110	79	高台無調整焼後2次焼砂粒橙灰
2054	西側	J112	土器	須恵器	碗	□14.9高5.8底4.2	不明	古代	109	79	内外甞書川砂粒オリーブ灰軟質
2055	西側	J111カマド	土器	土師器	甕	□18.0高-底-	不明	古代	110	79	廃棄後2次焼成赤色鈹物粒橙褐色
2056	西側	D171, (N-041G)	土器	土師器	坏	□高-底6.8	不明	古代	97	70	底右回転無調整胎土微砂粒橙褐色

IV 資料

番号	地区	遺構	種類	釉焼成	器形	法量	産地	時代	本文	写真	備考
2057	西側	D171	土器	土師器	甕	□14.8高-底	不明	古墳時代	97	70	胎土砂粒気泡白黄色
2058	西側	(L-026G)	土器	土師器	坏	□12.8高4.1底6.4	不明	古代	224	162	165 不明墨書砂粒気泡黄橙右回転無整
2059	西側	(出土位置不明)	陶器	須恵器	坏	□-高-底7.0	不明	古代	224	162	底削り調整胎土砂粒気泡灰色
2060	西側	D114	土器	土師器	高坏	□-高-底-	不明	古墳時代	57	45	胎土砂粒 暗灰黄褐色
2061	西側	D114	陶器	須恵器	甕	□6.8高-底-	不明	古墳時代	57	45	胎土微砂粒 暗灰色 自然釉
2062	西側	D171	土器	土師器	手づくねか	□-高-底-	不明	古墳時代	97	70	胎土微砂粒 黄褐色
2063	西側	D114	土器	土師器	器台	□-高-底-	不明	古墳時代	57	45	胎土砂粒 暗灰色
2064	西側	D186	土器	土師器	台付甕	□-高-底-	不明	古墳時代	75	56	コバメ調整 砂粒 黄褐色
2065	西側	X001	土器	土師器	台付甕	□-高-底-	不明	古墳時代	25	24	コバメ微砂粒 黄灰色
2066	西側	X001	土器	土師質	半球状	□-高-底-	不明	古代か	25	24	片側削離面 胎土砂粒 橙灰色
2067	西側	D303	土器	須恵質	碗	□14.6高4.9底5.8	不明	古代	101	74	歪み大 黒斑胎土気泡灰黄色軟質
2068	東側	M103	土器	土師器	壺	□14.6高-底-	不明	古墳時代	192	137	胎土微砂粒 黄灰色
2069	西側	M057	土製品	還元	フイゴ羽口	最大径7.1全長-孔(2.8)	不明	古代	24	24	胎土砂粒 暗灰色
2070	西側	M064	土器	土師器	羽釜	□10.4高-底-	不明	古代	23	23	胎土砂粒 橙色
2071	東側	J101	陶器	須恵器	甕	□-高-底-	不明	古代	198	140	外叩き目胎土砂粒暗灰色硬質
2072	中央	D032, (S-056G)	土器	須恵質	碗	□15.0高6.2底7.0	不明	古代	123	86	胎土砂粒気泡 暗灰色 軟質
2073	東側	J101	土器	土師器	高足碗	□12.2高5.9底5.8	不明	古代	198	140	胎土砂粒気泡 黄褐色
2074	東側	N201, (V-091/092G)	土器	土師器	高足碗	□11.2高5.9底6.6	不明	古代	178	125	廃棄後2次焼成砂粒気泡黄褐色
2075	東側	N201, (V-090/091G)	土器	土師器	坏	□12.2高3.6底6.8	不明	古代	178	125	底左回転無調整砂粒気泡黄褐色
2076	東側	N201	土器	土師器	坏	□12.0高3.8底5.6	不明	古代	178	125	底右回転無調整砂粒気泡黄褐色
2077	東側	N201, (V-090/091G)	土器	土師器	坏	□10.6高3.7底5.1	不明	古代	178	125	底右回転無調整砂粒気泡黄褐色
2078	東側	N201, D005	土器	土師器	坏	□12.2高4.5底6.0	不明	古代	178	125	内煤 底削り調整 気泡黄灰色
2079	東側	N202, (V-087/088G)	土器	須恵器	坏	□12.4高3.6底5.2	不明	古代	178	125	底右回転無調整砂粒気泡灰白色軟質
2080	東側	N202, (V-090/091G)	土器	土師器	坏	□11.2高3.4底5.8	不明	古代	178	125	底左回転無調整砂粒気泡黄褐色
2081	東側	D007	土器	土師器	高足碗	□12.5高5.7底7.6	不明	古代	178	126	胎土砂粒気泡黄灰色軟質燻し
2083	東側	M018	土器	土師器	皿	□11.8高2.9底5.6	不明	古代	187	133	胎土砂粒気泡 橙色
2084	東側	(V-087G)	土器	須恵器	坏	□12.8高-底-	不明	古代	225	162	底調整 胎土微砂粒 灰白色
2085	東側	(V-089G)	土器	土師器	坏	□11.8高4.0底6.4	不明	古代	225	162	165 墨書崩削砂粒黄灰左回転無調整
2086	東側	J102	土器	土師器	甕	□-高-底6.2	不明	古代	199	142	砂底 胎土砂粒 黄灰色
2087	東側	J102カマド内	土器	土師器	甕	□20.0高-底-	不明	古代	199	142	内コバメ調整胎土砂粒黄灰色
2088	東側	J102	土器	土師器	高足碗	□-高-底7.0	不明	古代	199	142	胎土金色鉱物粒 橙灰色
2089	東側	J102	土器	須恵器	坏	□-高-底6.0	不明	古代	199	142	底無調整 胎土微砂粒 灰色
2090	東側	J103	土器	土師器	高足碗	□-高-底8.6	不明	古代	198	140	廃棄後2次焼成胎土砂粒多黄灰色
2091	東側	J103	土器	土師器	坏	□14.4高3.8底7.4	不明	古代	198	140	底軽く調整砂粒黄白色軟質
2092	東側	D010	土器	須恵器	碗	□14.2高-底-	不明	古代	197	140	耳形に歪み外墨書不明気泡灰色
2093	東側	M018	土器	土師器	高足碗	□11.5高5.2底6.8	不明	古代	187	133	底外煤付着砂粒黄灰色軟質
2094	東側	M018	土器	土師器	高足碗	□-高-底9.1	不明	古代	187	133	胎土砂粒 白黄色 軟質
2095	東側	M018	土器	黒色土器	坏	□11.4高-底-	不明	古代	187	133	無研磨底左回転無調整砂粒暗灰
2096	東側	X022	土器	土師器	小皿	□9.4高1.8底4.9	不明	中世	211	150	歪み底右回転無調整赤色鉱物粒黄橙
2097	東側	X022	土器	土師器	小皿	□8.9高1.8底5.6	不明	中世	211	150	歪み底上がり底右回転無調整軟質
2098	東側	X022	土器	土師器	高台付小皿	□8.3高-底-	不明	中世	211	150	見込盛上がり廃後鉄分砂粒橙灰
2099	東側	X022	土器	土師器	小皿	□8.8高1.7底5.1	不明	中世	211	150	歪み左回転無調整廃後2次焼胎土白軟質
2100	東側	X022	土器	土師器	小皿	□8.9高1.7底5.6	不明	中世	211	150	見込盛上がり右回転無調整軟質
2101	東側	X022	土器	土師器	小皿	□9.0高2.0底6.0	不明	中世	211	150	見込盛上がり右回転無調整外軟質煤
2102	東側	X022	土器	土師器	小皿	□8.0高1.6底4.2	不明	中世	211	150	左回転無調整廃後2次焼気泡白黄
2103	東側	M202	土器	須恵器	碗	□15.0高-底-	不明	古代	191	136	廃棄後2次焼成 気泡 灰白色 軟質
2104	東側	M202掘方	土器	土師器	碗	□13.0高4.6底5.8	不明	古代	191	136	鉄分付着 胎土砂粒 橙灰色軟質
2105	東側	M202 B軽石直下	土器	須恵器	碗	□-高-底6.8	不明	古代	191	136	165 見込刻書佩? 気泡白灰色軟質
2106	東側	M202	土器	土師器	模倣坏	□13.0高-底-	不明	古墳時代	191	136	水流摩耗 胎土砂粒 橙色
2107	東側	M202	陶器	須恵器	坏	□13.5高-底6.5	不明	古代	191	136	底右回転無調整2回切る砂礫灰色
2108	東側	M202掘方	土器	土師器	小皿	□8.7高2.3底4.2	不明	中世か	191	136	底調整粗面砂礫黄灰色軟質
2109	東側	M202掘方	土器	土師器	坏	□12.3高4.3底5.2	不明	古代	191	136	底削り調整廃後2次焼黒鉱物粒
2110	東側	M202掘方	土器	須恵器	坏	□-高-底7.0	不明	古代	191	136	底右回転無調整切難し失敗痕気泡
2111	東側	M202	土器	須恵器	碗	□14.0高5.8底7.4	不明	古代	191	136	高台内無調整白色鉱物粒灰軟質
2112	東側	M201	土器	土師器	コ字甕	□18.8高-底-	不明	古代	191	136	胎土微砂粒 黄灰色
2113	東側	M201	土器	土師器	台付甕	□-高-底8.7	不明	古代	191	136	胎土微砂粒 黄褐色
2115	東側	(出土位置不明)	土器	土師器	坏	□13.0高3.5底-	不明	古代	225	162	体部無調整 胎土微砂粒 橙褐色
2116	東側	M201西試掘	土器	黒色土器	坏	□-高-底5.3	不明	古代	191	136	外上内黒色処理 外不明墨書
2117	東側	M201掘方	土器	土師器	坏	□13.0高-底-	不明	古代	191	136	水流摩耗鉄分付着砂粒黄灰
2118	東側	M202掘方	土器	土師器	高足碗	□-高-底8.6	不明	古代	191	136	見込左回転無調整廃後2次焼鉄分
2119	東側	N204表土	土器	土師器	釜	□-高-底-	不明	古代	175	123	胎土砂粒 橙灰色
2120	東側	(出土位置不明)	土器	土師器	高足碗か	□-高-底10.6	不明	古代	225	162	胎土砂粒 黄灰色
2121	東側	D353	土器	土師器	甕	□11.6高-底-	不明	古代	219		体部無調整 胎土微砂粒 橙灰色
2122	東側	(W-106G)	土器	土師器	甕	□-高-底-	不明	古墳時代	226	163	コバメ調整 胎土砂粒 灰褐色
2123	東側	(X-108G)	土器	土師器	台付甕か	□-高-底-	不明	古代	225	162	接合部無調整 胎土砂粒 白黄色
2124	東側	D252	土器	土師器	坏	□10.3高3.1底5.8	不明	古代	215	157	底左回転無調整内外煤砂礫黄白
2125	東側	D252	土器	土師器	甕	□21.4高-底-	不明	古代	215	157	胎土砂粒 黄褐色 硬質
2126	東側	D252	土器	須恵器	甕台部か	□-高5.3底11.4	不明	古代	215	157	接合部左回転糸切痕気泡灰橙
2127	東側	D252	土器	須恵器系	羽釜	□-高-底-	不明	古代	215	157	胎土砂粒 灰色
2128	東側	D250	土器	土師器	坏	□12.0高3.0底5.0	不明	古代	215	157	右回転無調整外草色有機物砂礫
2129	東側	D241	土器	土師器	甕	□20.0高-底-	不明	古代	215	156	手づくね砂礫黄茶色硬質
2130	東側	D236	陶器	須恵器	高坏	□-高-底-	不明	古代	213		胎土砂粒 灰色 自然釉
2131	東側	M101	土器	須恵器	碗	□14.6高6.7底7.0	不明	古代	191	136	左回転無調整水流摩耗鉄分
2132	東側	M101	陶器	須恵器	甕	□-高-底-	不明	古代	191	136	縄目し後掘描画微砂粒灰茶硬質
2133	東側	M101	土器	土師器	小形丸底壺	□-高-底-	不明	古墳時代	191	136	水流摩耗 胎土砂粒 橙褐色
2134	東側	M101	土器	土師器	壺	□16.0高-底-	不明	古墳時代	191	136	水流摩耗 胎土赤色鉱物粒 橙褐色
2135	東側	M101	土器	土師器	高坏	□-高-底-	不明	古墳時代	191	136	水流摩耗 胎土砂粒 黄褐色
2136	東側	M101	土製品	埴輪	タガか	□-高-底-	不明	古墳時代	191	136	断面台形 胎土砂粒 橙褐色
2137	東側	M101	土製品	埴輪	円筒か	□-高-底-	不明	古墳時代	191	136	水流摩耗鉄分付着胎土砂粒黄橙
2138	東側	M101	土器	須恵器	甕	□-高-底-	不明	古墳時代	191	136	水流摩耗 胎土砂粒 灰色
2139	東側	M101	土器	土師器	甕	□-高-底-	不明	古墳時代	191	136	内外コバメ調整2次焼成微砂粒橙
2140	東側	M103	土器	土師器	模倣坏	□-高-底-	不明	古墳時代	192	136	水流摩耗2次焼成気泡黄橙
2141	東側	M103	土器	土師器	模倣坏	□12.2高5.7底-	不明	古墳時代	192	136	水流摩耗2次焼成気泡橙軟質
2142	東側	M103	土器	土師器	小形丸底壺	□8.0高8.9底2.2	不明	古墳時代	192	136	水流摩耗内暗灰有機物砂粒橙灰色
2143	東側	M103	土器	土師器	碗	□11.6高5.2底-	不明	古墳時代	192	136	水流摩耗底凹み砂粒白橙褐色
2144	東側	M103	土器	土師器燻し	端折碗	□16.1高-底-	不明	古墳時代	192	136	水流摩耗赤色鉱物粒灰橙
2145	東側	M103	土器	土師器	長甕	□23.0高-底-	不明	古墳時代	192	137	水流摩耗鉄分付着砂粒白橙

2 遺物一覧表

番号	地区	遺構	種類	軸焼成	器形	法量	産地	時代	本文	写真	備考
2146	東側	M103	土器	土師器	壺	□20.0高-底-	不明	古墳時代	192	137	水流摩耗鉄分付着黒色鈹物粒白黄
2147	東側	M103	土器	土師器	小形丸底甕	□9.9高-底-	不明	古墳時代	192	137	水流摩耗 胎土砂粒 黄白色
2148	東側	M103	土器	土師器	小形壺	□-高-底-	不明	古墳時代	192	137	水流摩耗 胎土砂粒 白黄色 軟質
2149	東側	M103	土器	土師器	壺	□-高-底-	不明	古墳時代	192	137	水流摩耗 胎土砂粒 橙黄色
2150	東側	M103	土器	土師器	高坏	□-高-底-	不明	古墳時代	192	137	コバメ水流摩耗赤色鈹物粒黄橙
2151	東側	M103	土器	土師器	高坏	□-高-底-	不明	古墳時代	192	137	水流摩耗 胎土砂粒 橙黄色
2152	東側	M103	土器	土師器	器台か	□-高-底-	不明	古墳時代	192	137	コバメ調整 胎土砂粒 黄白色
2153	東側	M151	土器	土師器	小坏	□10.5高3.7底4.3	不明	古代	187	133	165 外墨書不明 胎土砂粒黄灰色
2154	東側	M151	土器	土師器	小形高足碗	□10.4高4.7底6.4	不明	古代	187	133	高台内砂底 胎土砂粒 橙黄色
2155	東側	M151	土器	須恵質	小坏	□9.8高3.0底5.0	不明	古代	187	133	内無調整底右回転無調整気泡白灰色
2156	東側	M151	土器	土師器	小坏	□10.4高3.2底6.8	不明	古代	187	133	底右回転無調整気泡砂粒白黄
2157	東側	M151	土器	土師器	甕	□21.0高-底-	不明	古代	187	133	廃棄後2次焼成 胎土砂粒 黄白
2158	東側	M144	土器	土師器	羽釜	□20.0高-底-	不明	古代	192	137	廃棄後2次焼成鉄分付着気泡黄白色
2159	東側	M136	土製品	酸化	フイコ羽口	□-高-底-	不明	古代	187	133	胎土砂礫 黄灰色
2160	東側	M125	土器	土師器	小形壺	□8.9高-底-	不明	古代	187	133	胎土砂粒 灰白色 軟質癒し
2161	東側	M125	土器	土師器	端反坏	□11.3高-底-	不明	古代	187	133	底右回転無調整気泡白橙軟質
2162	東側	X005	土器	土師器	小皿	□8.2高1.4底5.0	不明	古代	192	137	底左回転無調整赤色鈹物粒白橙
2163	東側	M018	陶器	須恵器	坏	□12.0高3.2底6.0	不明	古代	187	133	底右回転無調整石英粒暗灰
2164	東側	X006	土器	土師器	高坏	□-高-底-	不明	古墳時代	192	137	コバメ調整 胎土砂粒 黄橙黄色
2165	東側	X005	土器	土師器	坏	□11.6高3.3底6.0	不明	古代	192	137	底左回転無調整赤砂粒黄橙
2166	東側	J153	土器	土師器	甕	□-高-底8.0	不明	古代	201	143	土底鉄分付着赤色鈹物粒橙灰
2167	東側	J153	土器	土師器	甕	□12.8高4.9底6.4	不明	古代	201	143	砂底胎土赤色鈹物粒橙灰
2168	東側	J153	土器	土師質癒し	羽釜	□20.0高-底-	不明	古代	201	143	胎土砂礫 黄橙黄色
2169	東側	J153	土器	土師器	甕	□20.0高-底-	不明	古代	201	143	赤色鈹物粒橙灰2166と同一個体か
2170	東側	J153	土器	土師器	甕	□21.0高-底-	不明	古代	201	143	胎土砂礫 橙黄色
2171	東側	J153	土器	土師器	甕	□-高-底-	不明	古代	201	143	
2172	東側	J153	土器	須恵器	端反碗	□12.8高4.9底6.6	不明	古代	201	143	高台内無調整砂粒白黄軟質
2173	東側	J153	土器	土師器	坏	□11.0高3.5底6.2	不明	古代	201	143	底左回転無調整胎土砂粒多黄白
2174	東側	J153	土器	土師器	高足碗	□14.0高-底-	不明	古代	201	143	廃棄後2次焼成砂礫黄白色軟質
2175	東側	J153	土器	土師器	高足碗	□12.8高4.9底6.6	不明	古代	201	143	粗製手づくわ内灰痕砂粒橙灰
2176	東側	J153	土器	土師器	碗	□12.4高5.2底6.0	不明	古代	201	143	高台内無調整黒斑砂礫灰橙
2177	東側	J153	土器	土師器	高足碗	□15.0高6.5底10.4	不明	古代	201	143	高台内右回転無調整砂粒多橙軟質
2178	東側	J153	土器	黒色土器	碗	□12.2高4.2底5.4	不明	古代	201	143	非研磨高台内無調整大砂礫茶灰
2179	東側	J153	土器	土師器	高足碗	□15.0高-底-	不明	古代	201	143	廃棄後2次焼成石英粒多黄白
2180	東側	J153	土器	土師器	羽釜	□-高-底-	不明	古代	201	143	胎土砂粒 橙赤色
2181	東側	J153	土器	土師器	羽釜	□21.0高-底-	不明	古代	200	143	歪み大 胎土砂礫 黄橙黄色
2182	東側	J151	土器	須恵器	瓶類か	□-高-底5.6	不明	古代	208	148	胎土気泡 灰白色 軟質
2183	東側	J151	土器	土師器	コ字甕	□22.4高-底-	不明	古代	208	148	胎土気泡 黄橙黄色 軟質
2184	東側	J151	土器	土師器	坏	□13.0高3.8底6.2	不明	古代	208	148	底無調整摩耗気泡砂粒灰白
2185	東側	J152	土器	土師器	高足皿か	□-高-底7.5	不明	古代	200	142	高台内左回転無調整気泡白黄
2186	東側	J152	土器	土師質	釜か	□-高-底11.3	不明	古代	200	142	胎土砂礫 暗灰色
2187	東側	J153	土器	土師質	小皿	□9.3高2.3底5.0	不明	古代	200	142	底右回転無調整 胎土気泡 橙黄色
2188	東側	J153	土器	土師器	小皿	□9.4高2.3底5.2	不明	古代	200	142	底右回転粗調整煤付着砂粒橙
2189	東側	J153	土器	土師器	皿	□16.6高-底6.3	不明	古代	200	142	底無調整廃棄後2次焼成気泡橙
2190	東側	J153	土器	土師質癒し	羽釜	□-高-底-	不明	古代	200	142	口縁内傾 胎土砂礫 暗橙黄色
2191	東側	J154	土器	須恵質	碗	□15.6高6.0底7.7	不明	古代	207	147	165 歪み不明内墨書 右回転無整
2192	東側	J155	土器	土師質	羽釜	□20.3高-底-	不明	古代	209	149	廃棄後2次焼成砂礫多黄灰
2193	東側	J155	土器	土師器	甕	□-高-底-	不明	古代	209	149	廃棄後2次焼成砂粒黄灰
2194	東側	J155	土器	土師器	甕	□18.8高-底-	不明	古代	209	149	廃後2次焼口縁へラ記号砂粒黄橙
2195	東側	J155	土器	土師器	甕	□21.1高-底-	不明	古代	209	149	廃棄後2次焼成砂粒黄橙
2196	東側	J154	陶器	須恵器硬質	甕	□-高-底-	不明	古代	207	147	自然軸平行叩き目白色鈹物粒灰白
2197	東側	J155	土器	土師器	甕	□20.8高-底-	不明	古代	209	149	廃棄後2次焼成砂礫黄白軟質
2198	東側	J155	土器	土師器	台付甕	□-高-底10.0	不明	古代	209	149	胎土砂礫 黄灰色
2199	東側	J155	土器	土師器	小皿	□11.6高3.2底6.2	不明	古代	209	149	底左回転無調整砂礫黄白軟質
2200	東側	J155	土器	土師器	高足碗	□14.0高5.5底7.6	不明	古代	209	149	黒斑 胎土砂礫 白灰色 軟質
2201	東側	J156	土器	土師器	台付甕	□11.8高-底-	不明	古代	207	148	廃後2次焼下端至黒鈹物粒灰黄軟質
2202	東側	J156	土器	土師器	高足碗	□13.0高6.6底8.2	不明	古代	207	148	口歪高台内右回転粗調整後2次焼
2203	東側	J156	土器	土師器	鉢	□-高-底-	不明	古代	207	148	廃棄後2次焼成砂粒黄白
2204	東側	J156	陶器	須恵器	壺	□-高-底-	不明	古代	207	148	外上位3沈線白色鈹物粒暗橙灰
2205	東側	J156	土器	土師器	高足碗	□14.8高5.7底7.2	不明	古代	207	148	右回転無調整後2次焼砂粒白灰
2206	東側	J157	土器	土師器	甕	□18.4高-底-	不明	古代	199	142	廃棄後2次焼成砂粒黄灰
2207	東側	J157カマド	土器	土師器	コ字甕	□21.0高-底-	不明	古代	199	142	胎土砂粒 橙黄色
2208	東側	J157	土器	須恵器	坏	□10.8高4.7底5.0	不明	古代	199	142	右回転無調整後2次焼気泡灰白
2209	東側	J151	土器	須恵器	坏	□11.7高4.0底6.2	不明	古代	208	148	底右回転無調整砂粒灰白色
2210	東側	J158	土器	土師器	耳坏	□10.0高4.0底5.0	不明	古代	204	146	焼成前穿孔砂底黒斑砂粒黄灰
2211	東側	J158	土器	須恵器	羽釜	□19.6高-底-	不明	古代	204	146	胎土砂礫 黄灰色
2212	東側	J153	土器	土師器癒し	碗	□-高-底6.0	不明	古代	201	146	内外斑状黒色処理砂礫黄灰
2213	東側	J158, M125	土器	須恵器	甕	□-高-底-	不明	古代	204	146	胎土気泡 白灰色 軟質
2214	東側	J159, D252	土器	須恵質	羽釜	□20.1高-底-	不明	古代	203	145	使用痕少ない砂粒灰橙軟質
2215	東側	J159	土器	土師器癒し	甕	□19.2高-底-	不明	古代	203	145	胎土砂粒 暗灰黄白色
2216	東側	J159	土器	土師器	甕	□20.0高-底-	不明	古代	203	145	成形粗い内糸痕砂礫硬質
2217	東側	J159	土器	土師器	坏	□12.0高4.5底6.0	不明	古代	203	145	底左回転無調整黒斑砂礫白黄軟質
2218	東側	J159	土器	土師器	坏	□11.8高3.4底6.2	不明	古代	203	145	底左回転無調整砂礫橙灰軟質
2219	東側	J159	土器	土師器	高足碗	□12.0高5.0底7.4	不明	古代	203	145	高台内無調整砂粒多黄灰軟質
2220	東側	J159	土器	須恵質	碗	□12.8高5.2底7.0	不明	古代	203	145	粗成形高台内無調整黒斑胎砂礫
2221	東側	J159 P-17	土器	土師器癒し	皿	□14.0高4.3底6.5	不明	古代	203	145	165 外墨書胎砂礫多暗灰白黄色内外煤
2222	東側	J159	土器	黒色土器	高足碗	□13.9高6.4底6.8	不明	古代	203	145	内黒色研磨歪み大胎砂礫黄白色
2223	東側	J159	土器	土師器	坏	□11.2高4.0底4.4	不明	古代	203	145	底右回転無調整 胎土砂粒 暗黄白色
2224	東側	J153	土器	土師器癒し	碗	□12.0高4.3底6.0	不明	古代	201	146	粗成形歪み大胎砂粒黄灰色
2225	東側	J160	土器	土師器	コ字甕	□-高-底5.3	不明	古代	205	147	使用痕見えず 胎砂粒 黄橙黄色
2226	東側	J160	土器	土師器	コ字甕	□21.4高-底-	不明	古代	205	147	胎砂粒 黄橙黄色
2227	東側	J160	土器	土師器	コ字甕	□11.0高-底-	不明	古代	205	147	歪み 胎砂粒 黄橙黄色
2228	東側	J160	土器	土師器	稜花坏	□12.0高-底-	不明	古代	205	146	底部凹凸 外煤付着 胎砂粒黄橙黄色
2229	東側	J160	土器	土師器	坏	□13.0高-底-	不明	古代	205	146	胎砂粒 橙黄色
2230	東側	J160	土器	土師器	坏	□13.0高-底-	不明	古代	205	146	歪み 胎砂粒 黄橙黄色
2231	東側	J160	土器	土師器	坏	□13.4高-底-	不明	古代	205	146	
2232	東側	J160	陶器	須恵器	坏	□14.4高3.3底8.8	不明	古代	205	146	底周縁調整 胎微砂粒 灰白色

IV 資料

番号	地区	遺構	種類	軸焼成材質	器形	法量	産地	時代	本文	写真	備考
2233	東側	J160, (S-106G)	陶器	灰釉	長頸瓶	口-高-底-	猿投	古代	205	4-13/15	釉銀化 胎微密 茶灰色
2234	東側	J160	土器	土師器	坏	口13.0高3.8底-	不明	古代	205	146	黒斑 胎砂粒 黄褐色
2235	東側	J160	土器	土師器	台付小皿	口9.3高3.2底6.3	不明	古代	205	146	煤鉄分付着 胎砂礫 黄灰色
2236	東側	J160	陶器	須恵器	坏	口-高-底-	不明	古代	205	146	底右回転無調整胎石英粒暗灰色
2237	東側	J160	土器	土師器	坏	口13.3高-底-	不明	古代	205	146	胎砂粒 黄褐色
2238	東側	J160	土器	土師器	台付甕	口-高-底-	不明	古代	205	147	胎白色鈳物粒 橙色
2239	東側	J161	土器	土師器	小皿	口8.8高1.9底5.2	不明	古代	205	146	底右回転無調整胎砂礫黄灰色
2240	東側	J161	土器	土師器	高足小碗	口-高-底-	不明	古代	205	146	廃棄後2次焼成 胎砂礫 黄灰色
2241	東側	J161	土器	土師器	高足皿	口-高-底6.3	不明	古代	205	146	胎砂粒 白灰色
2242	東側	J161	土器	土師器	高足碗	口-高-底-	不明	古代	205	146	胎砂礫 黄灰色
2243	東側	J161掘方	土器	土師器	碗	口-高-底6.5	不明	古代	205	146	廃棄後2次焼成胎砂礫橙灰色
2244	東側	M144 J156	土製品	埴輪	円筒	口28.0高-底-	不明	古墳時代	192	137	突帯三角形 胎砂礫 橙灰色
2245	東側	(出土位置不明)	土製品	埴輪	形象	口-高-底-	不明	古墳時代	226	163	突帯台形 胎砂礫 橙灰色
2246	西側	J109	土製品	埴輪	円筒	口-高-底-	不明	古墳時代	65	51	突帯台形 胎砂礫多い 橙白色
2247	東側	M202掘方	土製品	埴輪	円筒	口-高-底-	不明	古墳時代	191	136	胎砂粒 橙灰色
2248	中央	M016	土製品	埴輪	円筒	口-高-底-	不明	古墳時代	163	117	突帯台形透孔胎赤色鈳物粒橙灰色
2249	東側	N204	土製品	埴輪	円筒	口-高-底-	不明	古墳時代	175	123	突帯三角形 胎砂粒 橙色
2250	西側	J109カマド	土製品	埴輪	円筒	口-高-底-	不明	古墳時代	65	51	透孔 胎砂粒 赤褐色
2251	西側	J109	土製品	埴輪	円筒	口-高-底-	不明	古墳時代	65	51	突帯台形 胎砂粒多 橙色
2252	東側	(U-108G)	土製品	埴輪	形象か	口-高-底-	不明	古墳時代	226	163	小突帯 胎砂粒 黄褐色
2253	東側	(U-111G)	土製品	埴輪	円筒	口-高-底-	不明	古墳時代	226	163	突帯三角形 透孔 胎砂粒橙褐色
2254	中央	D025	土製品	瓦還元	丸瓦	厚2.5	不明	中世	159	113	内模骨痕 胎白色鈳物粒 灰褐色
2255	中央	D025	土製品	瓦酸化燻し	丸瓦	厚3.0	不明	中世	159	113	内布目痕 胎赤色鈳物粒 赤灰色
2256	中央	D025	土製品	瓦還元	丸瓦	厚3.0	不明	中世	159	113	内布目外模骨痕胎赤鈳物粒灰紫色
2257	中央	D025	土製品	瓦還元	丸瓦	厚2.5	不明	中世	159	113	内布目痕 胎白色鈳物粒 灰褐色
2258	中央	D025	土製品	瓦還元	丸瓦	厚3.0	不明	中世	159	113	内布目痕 胎白色鈳物粒 灰赤色
2259	中央	X011下層	土製品	瓦酸化	平瓦	厚1.4	不明	中世	146	103	上布目痕下格子目胎微砂粒赤灰色
2260	中央	X011底, (I-063G)	土製品	瓦還元燻し	丸瓦	厚2.6	不明	中世	146	104	内布目痕 胎白色鈳物粒灰紫色
2261	中央	X011下層	土製品	瓦還元燻し	丸瓦	厚2.5	不明	中世	146	103	内布目痕 胎白色鈳物粒 灰褐色
2262	中央	X011底	土製品	瓦酸化	軒丸瓦	厚3.0	不明	中世	146	104	内布目外模骨痕胎白鈳物粒灰橙褐色
2263	中央	X011下層, (J-060G)	土製品	瓦還元燻し	平瓦	厚2.8	不明	中世	146	104	胎砂礫 灰オリープ色
2264	中央	D018	土製品	瓦還元燻し	丸瓦	厚-	不明	中世	158	111	胎白色鈳物粒 灰茶色
2265	中央	X011底, (H-063G)	土製品	瓦還元	棧軒瓦	厚1.7	不明	近世	146	103	連珠三巴文 胎微砂粒 灰褐色
2266	中央	X011中層, (I-062G)	土製品	瓦還元燻し	棧軒瓦	厚1.9	不明	近世	146	104	胎気泡 灰褐色
2267	中央	X011橋E-6	土製品	瓦酸化	丸瓦	厚2.3	不明	中世	146	104	内布目痕胎赤色鈳物粒茶灰色
2268	中央	X011橋E-6	土製品	瓦酸化燻し	軒丸瓦	厚-	不明	中世	146	103	巴文か 胎白色鈳物粒 灰褐色
2269	中央	X011中島東, (J-058G)	土製品	瓦還元燻し	棧棟瓦	厚1.5	不明	近世	146	104	胎気泡 灰褐色
2270	西側	D186	土製品	瓦還元硬質	丸瓦	厚2.1	不明	中世	75	56	内布目痕 胎白色鈳物粒 灰黄色
2271	中央	X011橋E-4	土製品	瓦還元	平瓦	厚2.6	不明	中世	146	104	胎白色鈳物粒 灰白色
2272	西側	N016	土製品	瓦還元燻し	棧軒瓦	厚-	不明	近世	67	52	連珠三巴文 胎微砂粒 灰褐色
2273	中央	M016	土製品	瓦酸化燻し	平瓦	厚み2.8	不明	中世	163	117	胎白色鈳物粒 灰黄色
2274	東側	M018, (V-091G)	土製品	瓦酸化	丸瓦	厚1.4	不明	中世	187	133	内布目痕 胎砂粒 橙灰色
2275	中央	M022, (H-074G)	土製品	瓦還元燻し	丸瓦	厚-	不明	中世	164	117	胎白色鈳物粒 茶灰色
2276	西側	(U-089G)	土器	縄文				縄文	232	164	
2277	東側	(V-090G)	土器	縄文				縄文	232	164	
2278	西側	D056	土器	縄文				縄文	232	164	
2279	東側	(V-090G)	土器	縄文				縄文	232	164	
2280	東側	M018	土器	縄文				縄文	232	164	
2281	東側	D006	土器	縄文				縄文	232	164	
2283	東側	(出土位置不明)	土器	縄文				縄文	232	164	
2284	西側	(Q-031G)	土器	縄文				縄文	232	164	
2285	西側	D041	土器	縄文				縄文	232	164	
2286	東側	M018	土器	縄文				縄文	232	164	
2287	東側	D006	土器	縄文				縄文	232	164	
2288	東側	J103 N002	土器	縄文				縄文	232	164	
2289	東側	(L-106G)	土器	縄文				縄文	232	164	
2290	西側	J112	土器	縄文				縄文	232	164	
2291	東側	M125	土器	縄文				縄文	232	164	
2293	西側	(V-008G)	土器	縄文				縄文	232	164	
2294	東側	J103	土器	縄文				縄文	232	164	
2295	東側	J103	土器	縄文				縄文	232	164	
2296	東側	J161 P-9	土器	土師器	羽釜	口-高-底-	古代	205	146		未焼成胎砂粒 気泡多い 削り調整
2297	東側	J152 P-49,66	土器	土師器	甕	口22.4高-底-	古代	200	142		焼成不良 砂粒 気泡多い 片面平坦
3001	中央	X011	木器	スギ	杭形塔婆小	長91.1幅5.5厚4.5	不明	近世	131	96	
3002	中央	X011	木器	スギ	杭	長44.0幅3.2厚2.7	不明	近世	134	97	
3003	中央	X011	木器	スギ	杭形塔婆	長53.1幅4.5厚2.4	不明	近世	131	96	両面墨書痕
3004	中央	X011	木器	スギ	杭形塔婆	長72.4幅4.1厚4.2	不明	近世	131	96	片面墨書痕
3005	中央	X011	木器	スギ	杭形塔婆	長141.8幅4.5厚2.5	不明	近世	131	96	完存 片面墨書
3006	中央	X011	木器	スギ	杭形塔婆	長149.6幅3.8厚2.8	不明	近世	131	96	完存 片面墨書
3007	中央	X011	木器	スギ	杭形塔婆小	長136.5幅4.0厚3.0	不明	近世	131	96	角材状
3008	中央	X011	木器	スギ	杭形塔婆小	長141.4幅4.6厚2.4	不明	近世	131	96	角材状
3009	中央	X011	木器	スギ	杭形塔婆	長141.3幅4.0厚3.0	不明	近世	131	96	角材状 片面墨書
3010	中央	X011	木器	スギ	杭形塔婆小	長120.0幅4.7厚4.8	不明	近世	131	96	先端欠
3011	中央	X011	木器	スギ	杭形塔婆	長57.4幅3.5厚2.8	不明	近世	131	96	中央部のみ 墨書痕
3012	中央	X011	木器	スギ	杭形塔婆	長71.0幅3.4厚1.0	不明	近世	131	96	板状 片面墨書
3013	中央	X011	木器	スギ	杭形塔婆	長57.2幅5.0厚2.5	不明	近世	131	96	角材状 片面墨書痕
3014	中央	X011	木器	スギ	杭形塔婆	長44.3幅4.2厚3.5	不明	近世	131	96	片面 延享3(1746)年銘墨書
3015	東側	D001, (S-092G)	木器	スギ	板材	長46.3幅6.7厚0.7	不明	近世	197	140	
3016	東側	D001, (S-092G)	木器	スギ	板材	長28.5幅4.0厚0.8	不明	近世	197	140	
3017	東側	D001, (S-092G)	木器	スギ	板材	長33.5幅5.0厚1.7	不明	近世	197	140	
3018	東側	D001, (S-092G)	木器	スギ	板材	長30.0幅3.9厚0.6	不明	近世	197	140	
3019	東側	D001	木器	スギ	板材	長93.4幅14.0厚2.4	不明	近世	197	140	釘残存
3020	東側	D001, (S-092G)	木器	スギ	板材	長44.5幅4.0厚1.0	不明	近世	197	140	
3021	東側	D001, (S-092G)	木器	スギ	板材	長43.0幅4.4厚0.8	不明	近世	197	140	
3022	東側	D001, (S-092G)	木器	スギ	板材	長31.0幅3.6厚0.6	不明	近世	197	140	
3023	東側	D001, (S-092G)	木器	スギ	板材	長43.0幅4.3厚1.0	不明	近世	197	140	
3024	東側	D001, (S-092G)	木器	スギ	板材	長46.0幅5.8厚1.0	不明	近世	197	140	

2 遺物一覧表

番号	地区	遺構	種類	材質	器形	法量	産地	時代	本文	写真	備考
3025	東側	D001, (S-092G)	木器	スギ	板材	長44.0幅6.9厚0.8	不明	近世	197	140	
3026	東側	D001, (S-092G)	木器	スギ	板材	長46.2幅2.8厚1.0	不明	近世	197	140	
3027	東側	D001, (S-092G)	木器	スギ	板材	長44.3幅4.1厚1.1	不明	近世	197	140	
3028	東側	D001, (S-092G)	木器	スギ	板材	長20.7幅3.1厚0.8	不明	近世	197	140	
3029	東側	D001, (S-092G)	木器	スギ	板材	長15.5幅3.3厚0.7	不明	近世	197	140	
3030	東側	D001, (S-092G)	木器	スギ	板材	長23.5幅2.6厚0.8	不明	近世	197	140	写真は基部のみ
3031	東側	N007, (H-078G)	木器	スギ	板材	長18.5幅4.4厚1.3	不明	近世	170	121	
3032	中央	X011	木器	スギ	杭	長53.1幅3.2厚1.7	不明	近世	134	97	
3033	中央	X011	木器	スギ	板材	長9.5幅3.5厚0.7	不明	近世	137	100	
3034	中央	X011	木器	モミ属	板塔婆か	長35.8幅15.5厚2.2	不明	近世	137	100	未製品 墨書線痕
3035	中央	X011	木器	アカマツ	ヒシヤク底	長11.0幅(6.0)厚0.8	不明	近世	136	99	
3036	中央	X011	木器	アカマツ	杭	長24.0幅2.7厚2.9	不明	近世	134	97	
3037	中央	X011	木器	スギ	板材	長16.6幅6.4厚0.2	不明	近世	137	100	
3038	中央	X011	木器	タケ亜科	不明	長15.8幅3.3厚1.0	不明	近世	136	99	半裁竹管 線刻書
3039	中央	X011	木器	アカマツ	木端材	長13.0幅5.0厚2.5	不明	近世	137	100	ホゾあり
3040	中央	X011	木器	スギ	ヒシヤク底	長6.4幅6.2厚0.4	不明	近世	136	99	
3041	中央	X011	木器	スギ	桶側	長14.5幅6.8厚0.8	不明	近世	136	99	
3042	中央	X011	木器	スギ	棒材	長17.5幅3.5厚0.8	不明	近世	136	99	内側ホゾ
3043	中央	X011	木器	モミ属	ヒシヤク底	長9.9幅(5.1)厚0.5	不明	近世	136	99	
3044	中央	X011	木器	スギ	桶底	長18.1幅(9.8)厚0.9	不明	近世	136	99	
3045	中央	X011	木器	モミ属	板材	長11.3幅9.2厚1.4	不明	近世	137	100	方形板 円孔あり 孔径約4.8
3046	中央	X011	木器	スギ	桶側	長13.0幅3.2厚0.8	不明	近世	136	99	
3047	中央	X011	木器	スギ	方形板	長6.8幅4.2厚0.7	不明	近世	137	100	両側にホゾ
3048	中央	X011	木器	ヒノキ属	木端材	長16.0幅5.2厚4.2	不明	近世	136	99	
3049	中央	X011	木器	スギ	方形板	長13.3幅5.5厚0.7	不明	近世	137	100	釘穴
3050	中央	X011	木器	アカマツ	杭	長22.0幅3.3厚3.2	不明	近世	134	97	
3051	中央	X011, (H-057/058G)	木器	アカマツ	杭	長31.4幅3.0厚3.0	不明	近世	134	97	
3052	中央	X011中島, (H-057/058G)	木器	ハリギリ	杭	長19.8幅3.7厚3.0	不明	近世	134	97	
3053	東側	N016	不明	タケ亜科	半裁竹	長31.3幅4.5厚0.5	不明	近世	67	52	
3054	中央	X011橋, (K-062G)	木器	クリ	板材小片	長8.0幅2.4厚1.1	不明	近世	137	100	
3055	中央	X011	木器	モミ属	祭礼札	長32.3幅16.5厚0.6	不明	近代	130	95	金字人名
3056	中央	X011	木器	モミ属	祭礼札	長33.0幅13.3厚0.8	不明	近代	130	95	金字人名
3057	中央	X011	木器	クスノキ科	杭	長15.1幅1.9厚2.4	不明	近世	135	98	
3058	中央	X011	木器	アカマツ	杭	長22.5幅3.2厚3.3	不明	近世	135	98	
3059	中央	X011	木器	アカマツ	杭	長35.7幅3.6厚3.8	不明	近世	135	98	
3060	中央	X011	木器	アカマツ	杭	長35.7幅3.3厚3.2	不明	近世	134	97	
3061	中央	X011	木器	クスノキ科	杭	長19.5幅2.3厚2.5	不明	近世	135	98	
3062	中央	X011	木器	アカマツ	杭	長31.0幅2.6厚3.0	不明	近世	135	98	
3063	中央	X011	木器	アカマツ	杭	長25.4幅5.0厚3.5	不明	近世	135	98	
3064	中央	X011	木器	アカマツ	杭	長24.7幅4.0厚3.1	不明	近世	135	98	
3065	中央	X011	木器	コナラ節	杭	長21.0幅3.5厚3.2	不明	近世	134	97	
3066	中央	X011	木器	アカマツ	杭	長22.5幅3.4厚4.0	不明	近世	134	97	
3067	中央	X011	木器	サワフタギ	杭	長31.7幅4.0厚3.7	不明	近世	134	97	
3068	中央	X011	木器	コナラ節	杭	長29.5幅3.0厚2.4	不明	近世	135	98	
3069	中央	X011	木器	トネリコ属	杭	長28.5幅2.5厚2.5	不明	近世	135	98	
3070	中央	X011	木器	ヒノキ属	杭	長53.6幅5.2厚4.8	不明	近世	134	96	
3071	中央	X011	木器	アカマツ	杭	長37.5幅2.6厚1.8	不明	近世	135	98	
3072	中央	X011	木器	トネリコ属	杭	長56.3幅3.8厚2.8	不明	近世	134	96	
3073	中央	X011	木器	スギ	杭	長61.9幅5.0厚4.8	不明	近世	134	96	
3074	中央	X011	木器	スギ	杭	長58.8幅4.2厚4.0	不明	近世	134	96	
3075	中央	X011	木器	スギ	杭	長56.3幅4.4厚4.2	不明	近世	134	96	
3076	中央	X011	木器	スギ	杭	長62.7幅5.3厚5.1	不明	近世	134	96	
3077	中央	X011	木器	スギ	杭	長58.4幅4.6厚4.0	不明	近世	135	98	
3078	中央	X011	木器	スギ	祭礼札	長36.2幅7.8厚0.6	不明	近世	130	95	人名墨書
3079	中央	X011底	木器	モミ属	ヒシヤク底	長11.9幅10.5厚1.0	不明	近世	136	99	
3080	中央	X011底	木器	スギ	ヒシヤク底	長8.7幅8.9厚1.0	不明	近世	136	99	「伊」?字刻印
3081	中央	X011底	木器	ヒノキ属	板材	長20.2幅7.9厚0.6	不明	近世	137	100	ハート形透かし
3082	中央	X011底, (J-055G)	木器	モミ属	下駄	長(11.8)幅10.2厚2.3(歯)	不明	近世	136	99	一本作り
3083	中央	X011中層, (H-062G)	木器	スギ(本体)	下駄	長21.4幅9.4厚2.6	不明	近世	136	99	歯(ブナ属)さしこみ作り
3084	中央	X011中島下層	木器	スギ	下駄	長22.7幅9.2厚4.0	不明	近世	136	99	一本作り
3085	中央	X011	木器	コナラ節	鎌先	長35.0幅13.0厚2.0	不明	近世	136	99	ホゾあり
3086	中央	X011	木器	ユズリハ	下駄	長16.2幅4.5厚2.7	不明	近世	136	99	一本作り
3087	中央	X011	漆器	ブナ属	椀	□-高-底 (5.7)	不明	近世	135	98	内赤漆 外黒漆
3088	中央	X011	漆器	ブナ属	椀	□-高-底 (6.0)	不明	近世	135	98	内赤漆 外黒漆
3089	中央	X011, (J-059G)	漆器	ブナ属	椀	□-高-底4.7	不明	近世	135	98	内赤漆 外黒漆
3090	中央	X011中島北西底	漆器	ブナ属	椀	□-高-底 (4.9)	不明	近世	135	98	内外赤漆
3091	中央	X011中島, (I-059G)	漆器	モクレン属	椀	□-高-底-	不明	近世	135	98	内外赤漆 高台なし
3092	中央	X011底, (I-059G)	漆器	モクレン属	椀	□-高-底-	不明	近世	135	98	内外赤漆 高台なし
3093	中央	X011, (J-060G)	漆器	ブナ属	椀	□-高-底 (4.6)	不明	近世	135	98	内外黒漆
3094	中央	X011, (J-060G)	漆器	トチノキ	椀	□-高-底 (6.0)	不明	近世	135	98	内赤漆 外黒漆
3095	中央	X011, (J-060G)	漆器	ブナ属	椀	□-高-底-	不明	近世	135	98	内外赤漆
3096	中央	X011	漆器	ブナ属	椀	□-高-底 (4.8)	不明	近世	135	98	内外黒漆 高台内「周」金泥書
3097	中央	X011, (H-062G)	漆器	トチノキ	椀	□-高-底-	不明	近世	135	98	内外赤漆 高台内金泥書痕
3098	中央	X011	漆器	ブナ属	椀	□-高-底 (5.0)	不明	近世	135	98	内外黒漆
3099	中央	X011底, (H-057G)	漆器	ブナ属	椀	□-高-底 (7.2)	不明	近世	135	98	内赤漆 外黒漆 高台内金泥書痕
3100	中央	X011底, (I-055G)	漆器	ブナ属	椀	□-高-底 (4.6)	不明	近世	135	98	内外黒漆
3101	中央	X011, (H-057G)	漆器	ブナ属	椀	□-高-底 (7.0)	不明	近世	135	98	内面赤漆 外面黒漆
3102	中央	X011中島, (I-058G)	漆器	ブナ属	椀	□-高-底 (8.2)	不明	近世	135	98	
3103	中央	X011底, (J-055G)	漆器	ブナ属	椀	□-高-底 (4.2)	不明	近世	135	98	内外赤漆
3104	中央	X011下層, (G-069G)	漆器	ブナ属	椀	□-高-底 (5.6)	不明	近世	135	98	内外赤漆
3105	中央	X011中島, (I-057G)	漆器	ブナ属	椀	□-高-底 (5.4)	不明	近世	135	98	内外赤漆 高台なしか
3106	中央	X011	木器	スギ	桶底	長30.0幅7.5厚2.4	不明	近世	136	99	
3107	中央	X011底, (L-068G)	木器	イヌシデ節	杭	長20.7幅3.4厚3.4	不明	近世	135	98	
3108	中央	X011	木器	ヒノキ属	板材	長30.0幅21.3厚1.2	不明	近世	137	100	
3109	中央	X011	木器	アカマツ	杭	長29.0幅3.2厚3.4	不明	近世	135	98	
3110	中央	X011	木器	スギ	杭	長62.4幅5.3厚5.2	不明	近世	135	98	
3111	中央	X011	木器	スギ	棒材	長23.5幅2.7厚2.0	不明	近世	136	99	

IV 資料

番号	地区	遺構	種類	材質	器形	法量	産地	時代	本文	写真	備考
3112	中央	X011	木器	スギ	板材	長46.2幅14.2厚1.2	不明	近世	139	101	
3113	中央	X011	木器	スギ	建具	長101.2幅14.0厚2.0	不明	近世	138	101	敷居状ホゾ溝あり
3114	中央	X011	木器	スギ	板材	長69.0幅18.0厚4.4	不明	近世	139	101	ホゾ穴あり
3115	中央	X011	木器	スギ	杭形塔婆	長85.3幅3.4厚2.4	不明	近世	131	96	片面墨書(梵字)
3116	中央	X011	漆器	ブナ属	椀	口-高-底-	不明	近世			非掲載 小片 非実測
3117	中央	X011	漆器	ブナ属	椀	口-高-底-	不明	近世			非掲載 小片 非実測
3118	中央	X011	漆器	ブナ属	椀	口-高-底-	不明	近世			非掲載 小片 非実測
3119	中央	X011	漆器	カバノキ属	椀	口-高-底-	不明	近世			非掲載 小片 非実測
3120	中央	X011	漆器	ブナ属	椀	口-高-底-	不明	近世			非掲載 小片 非実測
3121	中央	X011	漆器	ブナ属	椀	口-高-底-	不明	近世			非掲載 小片 非実測
3122	中央	X011	漆器	ブナ属	椀	口-高-底-	不明	近世			非掲載 小片 非実測
3123	中央	X011	漆器	ブナ属	椀	口-高-底-	不明	近世			非掲載 小片 非実測
3124	中央	X011	木器	スギ	栓	長4.9幅4.9厚2.7	不明	近世	136	99	
3125	中央	X011下層、(H-057G)	木器	スギ	木札	長9.4幅4.7厚1.0	不明	近世	136	99	小孔あり 孔径0.6
3126	中央	X011下層、(H-057G)	木器	ヒノキ属	象形木鼻	長18.3幅10.6厚4.9	不明	近世	130	95	
3127	中央	X011	木器	ウツギ属	漆塗り棒	長14.5幅2.0厚1.9	不明	近世	135	98	漆上部のみ残る
3128	中央	X011	木器	スギ	板材	長40.0幅19.7厚1.6	不明	近世	139	101	片面墨書痕か
3129	中央	X011	木器	スギ	桶底	長19.3幅11.3厚1.7	不明	近世	136	99	
3130	中央	X011	皮		巾着か	長5.5幅6.6厚1.5	不明	近世	136	99	
3131	中央	X011	木器	スギ	板材	長35.5幅3.6厚0.7	不明	近世	139	101	
3132	中央	X011中島	木器	アカマツ	杭	長31.0幅2.8厚2.8	不明	近世	133	97	
3133	中央	X011中島	木器	アカマツ	杭	長34.3幅3.5厚3.0	不明	近世	133	97	
3134	中央	X011中島	木器	トネリコ属	杭	長40.1幅3.6厚3.5	不明	近世	133	97	
3135	中央	X011中島	木器	スギ	杭	長34.5幅3.6厚3.3	不明	近世	134	97	
3136	中央	X011中島	木器	モクレン属	杭形塔婆か	長39.7幅2.1厚1.4	不明	近世	131	96	片面平坦
3137	中央	X011中島	木器	サクラ属	杭	長26.8幅5.0厚4.3	不明	近世	133	97	
3138	中央	X011中島	木器	スギ	杭	長57.6幅4.4厚3.4	不明	近世	134	97	
3139	中央	X011中島	木器	コナラ節	杭	長23.5幅4.5厚3.4	不明	近世	133	97	
3140	中央	X011中島	木器	スギ	杭	長59.2幅5.3厚5.0	不明	近世	133	97	
3141	中央	X011中島	木器	クリ	杭	長58.8幅4.4厚4.4	不明	近世	133	97	
3142	中央	X011中島	木器	コナラ節	杭	長55.6幅3.1厚2.6	不明	近世	133	97	
3143	中央	X011中島	木器	クリ	杭	長62.0幅8.1厚5.6	不明	近世	133	97	
3144	中央	X011中島	木器	クリ	杭	長29.0幅2.4厚2.0	不明	近世	134	97	写真は基部のみ
3145	中央	X011中島	木器	スギ	杭	長28.5幅3.7厚3.4	不明	近世	133	97	
3146	中央	X011中島	木器	クリ	杭	長46.0幅4.2厚3.6	不明	近世	134	96	
3147	中央	X011中島	木器	カバノキ属	杭	長27.6幅4.0厚3.6	不明	近世	133	97	
3148	中央	X011中島	木器	クリ	杭	長50.2幅4.6厚2.6	不明	近世	134	96	
3149	中央	X011中島	木器	スギ	杭	長50.5幅3.0厚2.7	不明	近世	133	97	
3150	中央	X011中島	木器	クリ	杭	長30.0幅3.7厚3.1	不明	近世	134	97	
3151	中央	X011中島	木器	マツ属	杭	長48.8幅3.0厚2.5	不明	近世	134	96	単縦管束亜属
3152	中央	X011中島	木器	アカガシ亜属	杭	長58.8幅3.8厚4.2	不明	近世	134	96	
3153	中央	X011中島	木器	コナラ節	杭	長55.4幅3.8厚4.0	不明	近世	133	97	
3154	中央	X011中島	木器	スギ	杭	長56.2幅3.7厚3.6	不明	近世	133	97	
3155	中央	X011中島	木器	クリ	杭	長56.4幅3.2厚3.2	不明	近世	134	97	
3156	中央	X011中島	木器	クリ	杭	長53.2幅4.0厚3.2	不明	近世	134	96	
3157	中央	X011中島	木器	クリ	杭	長60.8幅5.8厚4.4	不明	近世	134	97	
3158	中央	X011	木器	ヒノキ属	方形板	長14.7幅10.7厚1.2	不明	近世	137	100	
3159	中央	X011	木器	モクレン属	棒材	長14.6幅3.4厚2.3	不明	近世	136	99	
3160	中央	X011	木器	アカマツ	板材	長15.5幅6.0厚1.9	不明	近世	137	100	
3161	中央	X011	木器	スギ	桶底	長7.9幅7.5厚2.1	不明	近世	136	99	
3162	中央	X011	木器	クリ	クサビか	長12.2幅2.5厚2.2	不明	近世	136	99	
3163	中央	X011	木器	ヒノキ属	板材	長17.0幅4.3厚0.7	不明	近世	137	100	
3164	中央	X011	木器	ヒノキ属	方形板	長12.0幅8.5厚1.0	不明	近世	137	100	
3165	中央	X011	木器	スギ	方形板	長12.2幅7.6厚0.4	不明	近世	137	100	
3166	中央	X011	木器	スギ	板材	長24.3幅3.8厚0.7	不明	近世	137	100	
3167	中央	X011	木器	モミ属	杭	長29.5幅1.9厚1.2	不明	近世	137	100	
3168	中央	X011	木器	スギ	板材	長35.3幅10.5厚2.8	不明	近世	139	101	
3169	中央	X011	木器	スギ	木端材	長11.0幅8.0厚5.8	不明	近世	136	99	
3170	中央	X011	木器	モミ属	板材	長43.0幅3.9厚0.9	不明	近世	139	101	
3171	中央	X011	木器	ヒノキ属	角材	長30.0幅3.8厚3.1	不明	近世	137	100	
3172	中央	X011	木器	モミ属	角材	長60.6幅2.6厚1.4	不明	近世	139	101	
3173	中央	X011	木器	アカマツ	角材	長50.6幅10.0厚6.0	不明	近世	138	101	裏面にホゾ状?の溝
3174	中央	X011	木器	スギ	桶底	長51.5幅9.1厚1.9	不明	近世	136	99	
3175	中央	X011	木器	スギ	板材	長51.3幅12.1厚1.8	不明	近世	139	101	
3176	中央	X011	木器	スギ	板材	長34.2幅14.4厚1.2	不明	近世	139	101	
3177	中央	X011	木器	スギ	板材	長41.0幅5.8厚1.0	不明	近世	139	101	
3178	中央	X011	木器	コナラ節	鋏先	長12.0幅11.0厚2.8	不明	近世	136	99	ホゾあり
3179	中央	X011	木器	スギ	板材	長35.5幅3.5厚1.5	不明	近世	139	101	
3180	中央	X011	木器	サクラ属	板材	長16.4幅12.1厚2.0	不明	近世	136	99	ホゾ穴あり
3181	中央	X011	木器	スギ	板材	長29.8幅16.0厚2.0	不明	近世	139	101	
3182	中央	X011	木器	スギ	栓	長6.4幅6.8厚7.0	不明	近世	136	99	
3183	中央	X011中島	木器	コナラ節	杭	長40.2幅5.0厚4.4	不明	近世	133	97	
3184	中央	X011中島	木器	サワフタギ	杭	長38.1幅4.0厚3.6	不明	近世	133	97	
3185	中央	X011中島	木器	サクラ属	杭	長17.6幅4.2厚4.3	不明	近世	133	97	
3186	中央	X011中島	木器	サクラ属	杭	長20.6幅4.9厚4.7	不明	近世	133	97	
3187	中央	X011中島	木器	アカマツ	杭	長45.0幅3.3厚2.9	不明	近世	133	97	
3188	中央	X011中島	木器	スギ	杭	長60.8幅1.8厚1.9	不明	近世	133	97	
3189	中央	X011中島	木器	スギ	杭	長32.9幅2.0厚1.8	不明	近世	133	97	
3190	中央	X011中島	木器	アカガシ亜属	杭	長14.4幅4.5厚3.8	不明	近世	134	97	
3191	中央	X011中島	木器	コナラ節	杭	長23.5幅3.5厚3.7	不明	近世	133	97	
3192	中央	X011中島	木器	スギ	杭	長54.0幅3.1厚2.7	不明	近世	133	97	
3193	中央	X011中島	木器	コナラ節	杭	長40.0幅5.0厚5.3	不明	近世	133	97	
3194	中央	X011中島	木器	コナラ節	杭	長54.4幅3.6厚3.4	不明	近世	133	97	
3195	中央	X011中島	木器	スギ	杭	長54.2幅4.0厚3.4	不明	近世	133	97	
3196	中央	X011中島	木器	スギ	杭	長50.9幅4.2厚3.9	不明	近世	133	97	
3197	西側	D114	木器	サクラ属	杭	長14.0幅3.3厚3.1	不明	近世	58	46	
3198	西側	D114	木器	クリ	杭	長13.7幅3.8厚3.5	不明	近世	58	46	

2 遺物一覧表

番号	地区	遺構	種類	材質	器形	法量	産地	時代	本文	写真	備考
3199	西側	D114	木器	サクラ属	杭	長17.0幅4.3厚4.7	不明	近世	58	46	
3200	西側	D114	木器	サクラ属	杭	長11.0幅4.2厚4.2	不明	近世	58	46	
3201	西側	D114	木器	アカマツ	杭	長45.4幅3.0厚2.9	不明	近世	58	46	
3202	西側	D114	木器	スギ	杭	長41.1幅4.0厚3.5	不明	近世	58	46	
3203	西側	D114	木器	コナラ節	杭	長12.5幅3.6厚3.4	不明	近世	58	46	
3204	西側	D076	木器	マツ属	板材	長9.6幅9.9厚0.6	不明	近世	47	36	単維管束亜属 釘穴あり
3205	西側	D114	木器	スギ	杭	長63.0幅4.0厚3.4	不明	近世	58	46	
3206	西側	D114	木器	アカマツ	杭	長18.2幅3.2厚3.2	不明	近世	58	46	
3207	西側	D114	木器	クリ	杭	長54.0幅2.6厚2.5	不明	近世	58	46	
3208	西側	D114	木器	ハリギリ	杭	長21.0幅3.5厚3.2	不明	近世	58	46	
3209	西側	D114	木器	スギ	建具材	長61.4幅9.6厚1.7	不明	近世	58	46	ホゾ溝あり
3210	西側	D114	木器	サクラ属	杭	長33.4幅3.3厚5.8	不明	近世	58	46	
3211	西側	D076	木器	スギ	板材	長7.5幅5.2厚0.3	不明	近世	47	36	
3212	西側	D114	木器	スギ	方形板	長14.4幅14.9厚0.6	不明	近世	58	46	
3213	西側	D076	木器	クリ	建具材	長29.0幅7.8厚6.9	不明	近世	47	36	ホゾあり
3214	西側	D076	木器	スギ	桶側	長23.8幅6.5厚0.8	不明	近世	47	36	
3215	西側	D076	木器	マツ属	板材	長21.5幅15.6	不明	近世	47	36	単維管束亜属 釘穴あり
3216	西側	D076	木器	スギ	桶側	長24.0幅3.9厚0.9	不明	近世	47	36	
3217	西側	D076	木器	スギ	桶材	長24.0幅7.0厚0.7	不明	近世	47	36	
3218	西側	D076	木器	スギ	桶側	長24.0幅4.4厚0.7	不明	近世	47	36	
3219	中央	X011	木器	スギ	建具	長258.0幅6.6厚5.6	不明	近世	138	101	ホゾ間39.2~41.6径4.4~5.2×2.4
3220	中央	X011	木器	スギ	建具	長177.0幅14.2厚3.8	不明	近世	138	101	ホゾ穴ホゾ溝あり
3221	中央	X011中島	木器	スギ	建具	長91.4幅13.6厚2.6	不明	近世	138	101	ホゾ溝あり
3222	中央	X011	木器	アカマツ	板材	長44.5幅17.0厚1.2	不明	近世	139	101	
3223	中央	X011	木器	スギ	板材	長36.7幅4.6厚0.9	不明	近世	139	101	
3224	中央	X011	木器	スギ	板材	長19.7幅5.9厚0.4	不明	近世	137	100	
3225	中央	X011	木器	モミ属	板材	長21.8幅6.5厚0.8	不明	近世	137	100	
3226	中央	X011	木器	アカマツ	板材	長41.5幅11.0厚0.8	不明	近世	139	101	
3227	中央	X011	木器	スギ	杭形塔婆	長47.4幅4.1厚0.6	不明	近世	131	96	頂部山形
3228	中央	X011	木器	マツ属	板材	長26.7幅4.7厚0.7	不明	近世	137	100	単維管束亜属
3229	中央	X011	木器	スギ	板材	長17.7幅3.5厚1.5	不明	近世	137	100	
3230	中央	X011	木器	アカマツ	板材	長12.3幅12.8厚2.5	不明	近世	136	99	ホゾ穴あり
3231	中央	X011	木器	カエデ属	板材	長20.0幅3.0厚1.2	不明	近世	137	100	
3232	中央	X011	木器	アカマツ	板材	長22.5幅15.2厚1.0	不明	近世	137	100	
3233	中央	X011	木器	アカマツ	板材	長9.0幅5.0厚0.6	不明	近世	137	100	
3234	中央	X011	木器	スギ	方形板	長13.0幅7.3厚0.6	不明	近世	137	100	
3235	中央	X011	木器	スギ	木端	長12.7幅6.0厚1.8	不明	近世	137	100	
3236	中央	X011	木器	コナラ節	鍼先	長19.0幅7.7~3.0厚1.2	不明	近世	136	99	
3237	中央	X011	木器	スギ	板材	長19.5幅3.6厚0.8	不明	近世	137	100	
3238	中央	X011	木器	スギ	板材	長28.0幅5.7厚0.8	不明	近世	137	100	
3239	中央	X011	木器	マツ属	板材	長16.2幅8.6厚0.4	不明	近世	137	100	単維管束亜属
3240	中央	X011	木器	ヒノキ属	板材	長7.9幅3.0厚0.5	不明	近世	137	100	釘穴
3241	中央	X011	木器	ヒノキ属	木端	長12.5幅6.0厚1.0	不明	近世	137	100	孔あり
3242	中央	X011	木器	スギ	桶側か	長32.2幅10.6厚1.3	不明	近世	139	101	
3243	中央	X011	木器	マツ属	桶側か	長9.3幅2.4厚0.5	不明	近世	137	100	単維管束亜属
3244	中央	X011	木器	マツ属	桶側か	長8.6幅2.8厚0.5	不明	近世	137	100	単維管束亜属
3245	中央	X011	木器	スギ	建具	長57.0幅13.0厚3.8	不明	近世	138	101	ホゾ溝あり
3246	中央	X011	木器	ヒノキ属	板材	長16.3幅1.8厚0.4	不明	近世	137	100	穴あり
3247	中央	X011	木器	アカマツ	木端	長41.6幅9.6厚1.0	不明	近世	139	101	
3248	中央	X011	木器	マツ属	板材	長6.0幅6.0厚0.5	不明	近世	137	100	単維管束亜属
3249	西側	D082	木器	スギ	木端	長7.8幅2.8厚1.2	不明	近世	51	43	ホゾ穴あり
3250	西側	D082	木器	木	桶底	長18.5幅19.0厚1.8	不明	近世	51	43	
3251	西側	D123	木器	トチノキ	角柱状護符	長2.3幅1.7厚1.6	不明	近世	89	165	蘇民将来墨書
3252	西側	D123	木器	トチノキ	角柱状護符	長2.7幅1.7厚1.8	不明	近世	89	165	蘇民将来墨書
3253	西側	D123	木器	トチノキ	角柱状護符	長2.3幅1.2厚1.2	不明	近世	89	165	蘇民将来墨書
3254	中央	X011中島	木器	アカマツ	杭	長65.6幅4.0厚3.6	不明	近世	134	96	
3255	西側	D082	木器	スギ	木端	長9.0幅3.0厚1.2	不明	近世	51	43	ホゾ穴あり
3256	中央	X011	木器	スギ	杭	長63.3幅4.2厚4.0	不明	近世	135	98	
3257	中央	X011	木器	スギ	杭	長66.6幅3.2厚3.0	不明	近世	135	98	
3258	中央	X011	木器	スギ	建具材	長79.4幅3.8厚3.7	不明	近世	138	101	ホゾあり
3259	中央	X011	木器	スギ	角材	長99.9幅5.0厚2.4	不明	近世	138	101	
3260	中央	X011中島	木器	スギ	桶底	長67.4幅9.0厚2.8	不明	近世	136	99	
3261	中央	X011中島	木器	サクラ属	板材	長88.0幅19.8厚2.2	不明	近世	139	101	ホゾ穴あり
3262	中央	X011中島	木器	スギ	板材	長88.0幅11.0厚0.6	不明	近世	139	101	
3263	中央	X011	木器	スギ	建具材	長78.2幅3.2厚3.2	不明	近世	138	101	ホゾあり
3264	中央	X011中島	木器	スギ	杭	長84.2幅4.4厚4.4	不明	近世	133	97	
3265	中央	X011	木器	コナラ節	杭	長64.5幅4.6厚5.2	不明	近世	135	98	
3266	中央	X011	木器	クリ	角材	長99.0幅9.2厚8.8	不明	近世	138	101	
3267	中央	X011	木器	アカマツ	杭	長69.6幅3.2厚3.1	不明	近世	135	98	
3268	西側	D172	木器	クリ	木端	長15.0幅6.3厚3.4	不明	近世	101	74	
3269	西側	D172	木器	スギ	角材	長43.0幅8.8厚4.3	不明	近世	101	74	
3270	西側	D172	木器	スギ	建具材	長77.8幅8.4厚9.0	不明	近世	101	74	ホゾ穴あり
3271	西側	D183	木器	モモ	細棒	長14.6幅1.9厚2.0	不明	近世	81	61	木釘残る
3272	西側	D172	木器	スギ	木端	長9.2幅2.9厚2.8	不明	近世	101	74	
3273	西側	D172	木器	スギ	桶底	長25.1幅10.2厚1.8	不明	近世	101	74	
3274	西側	D186	木器	スギ	建具材	長36.0幅8.3厚3.2	不明	近世	75	56	ホゾ穴あり
3275	西側	D186	木器	スギ	建具材	長50.0幅4.4厚1.9	不明	近世	75	56	ホゾ穴あり
3276	西側	D186	木器	スギ	脚付まな板	長40.0幅20.0厚2.5脚4.7	不明	近世	75	56	
3277	西側	D186	木器	スギ	板材	長16.7幅5.4厚1.0	不明	近世	75	56	
3278	西側	D186	木器	クリ	杭か	長32.5幅1.4厚1.2	不明	近世	75	56	
3279	西側	D186	木器	ヤブツバキ	細棒	長10.8幅2.1厚1.7	不明	近世	75	56	
3280	西側	D186	木器	スギ	角材	長30.2幅4.0厚2.6	不明	近世	75	56	
3281	西側	D186	木器	スギ	板材	長30.4幅6.0厚1.4	不明	近世	75	56	
3282	西側	D186	木器	モミ属	板材	長8.1幅6.8厚1.0	不明	近世	75	56	
3283	西側	D186	木器	クリ	板材	長27.5幅3.3厚1.0	不明	近世	75	56	
3284	西側	D186	木器	スギ	木端	長5.2幅2.4厚2.2	不明	近世	75	56	
3285	西側	D186	木器	モモ	杵か	長52.2幅8.9厚7.9	不明	近世	75	56	

IV 資料

番号	地区	遺構	種類	材質	器形	法量	産地	時代	本文	写真	備考
3286	西側	D186	木器	スギ	桶側	長6.7幅5.2厚1.0	不明	近世	75	56	
3287	西側	D123	木器	スギ	桶側	長9.8幅2.8厚1.0	不明	近世	89	66	
3288	西側	D123	木器	ブナ属	椀	口-高-底9	不明	近世	89	66	赤漆
3289	西側	D190	木器	トチノキ	椀	口-高-底(4.1)	不明	近世	70	53	高台内
3290	西側	D076	木器	イボタノキ属	板材	長15.9幅2.0厚1.2	不明	近世	47	36	ホゾ穴あり
3291	中央	X011	木器	スギ	建具	長166.0幅4.0厚6.4	不明	近世	138	101	ホゾあり
3292	西側	D123	木器	スギ	板材	長20.9幅6.8厚1.1	不明	近世	89	66	
3293	西側	D123	木器	ヒノキ属	板材	長19.7幅6.7厚1.0	不明	近世	89	66	
3295	西側	D123	木器	ブナ属	椀(漆)	口-高-底-	不明	近世			非掲載
3296	西側	D186	木器	イヌシデ属	椀(漆)	口-高-底-	不明	近世			非掲載
3297	中央	X011	漆器	ブナ属	椀	口-高-底-	不明	近世			非掲載
3298	西側	X021	木器	カバノキ	板材	長-幅-厚-	不明	近世			非掲載
3299	西側	D114	木器	トチノキ	流木か	長-幅-厚-	不明	近世			非掲載
3300	西側	D186	木器	イヌシデ属	椀	口-高-底-	不明	近世	75	56	黒漆書「喜」字 赤漆
3301	西側	D054	木器	ブナ属	椀(漆)	口-高-底-	不明	近世			非掲載
3302	中央(出土位置不明)		木器	スギ	不明(漆)	長-幅-厚-	不明	近世			非掲載
3303	西側	D194	木器	不明	板材	長-幅-厚-	不明	近世			非掲載
3304	西側(出土位置不明)		木器	不明	不明(漆)	長-幅-厚-	不明	近世			非掲載
3305	西側	D190	木器	スギ	曲物	長-幅-厚-	不明	近世			非掲載
3306	中央	D025	木器	ケンゴナシ属	雑木	長-幅-厚-	不明	近世			非掲載
3307	西側	D100	木器	トウヒ属	板材	長-幅-厚-	不明	近世			非掲載
4001	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	石塔台座	長26.7幅36.4厚12.3	不明	近世	150	106	楕円形 14.8Kg
4002	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	五輪塔空風輪	長27.0幅17.0厚17.4	不明	近世	149	105	8.2Kg
4003	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	石鉢	長25.0幅37.1厚24.0	不明	近世	151	107	22.1kg
4004	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	宝篋印塔屋蓋	長23.4幅18.4厚14.8	不明	近世	150	107	7.9Kg
4005	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	石鉢	長21.0幅18.4厚6.4	不明	近世	151	107	3.8Kg
4006	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	長15.0幅23.0厚13.6	不明	近世	151	107	4.5kg
4007	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	五輪塔火輪	長26.0幅27.0厚14.8	不明	近世	149	105	11.7kg
4008	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	五輪塔火輪	長16.4幅26.8厚15.6	不明	近世	149	105	8.1Kg
4009	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	五輪塔空風輪	長29.8幅16.4厚18.0	不明	近世	149	105	6.8Kg
4010	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	宝篋印塔相輪	長15.2幅15.2厚15.4	不明	近世	150	107	宝珠部蓮華座2.3Kg
4011	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	五輪塔水輪	長26.4幅27.2厚15.4	不明	近世	149	105	15.0Kg
4012	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	長17.2幅23.0厚13.2	不明	近世	149	105	12.5Kg
4013	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	方形石塔台座	長22.0幅24.2厚15.6	不明	近世	150	106	10.6Kg
4014	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	長22.2幅25.0厚19.2	不明	近世	149	105	17.8Kg
4015	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	五輪塔水輪	長33.0幅33.厚20.2	不明	近世	149	105	27.4kg
4016	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	長22.4幅19.0厚16.6	不明	近世	149	105	10.4Kg
4017	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	長19.4幅18.4厚15.4	不明	近世	149	105	9.3kg 「久保新」銘
4018	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	宝篋印塔相輪	長15.2幅15.4厚10.4	不明	近世	150	107	2.9kg 宝珠部
4019	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	石白か	長14.8幅27.8厚13.0	不明	近世	151	107	6.3Kg 摩耗
4020	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	長24.0幅29.6厚15.6	不明	近世	149	105	17.4Kg
4021	中央	X011下層	石造物	流紋岩質凝灰岩	不明直方体	長16.4幅29.0厚12.6	不明	近世	150	106	5.3Kg 軟質
4022	中央	X011下層	石造物	凝灰質砂岩	石白下玉	長15.8幅17.2厚11.6	不明	近世	151	107	3.2Kg 摩耗
4023	中央	X011下層	石造物	流紋岩質凝灰岩	石塔未製品	長42.0幅21.0厚15.0	不明	近世	151	106	17.6kg
4024	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	長27.1幅26.7厚21.4	不明	近世	149	105	29.7kg 「まつ穴」銘
4025	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	庚申塔	長43.2幅29.0厚18.0	不明	近世	148	107	28.3kg 「小廻惣右衛門」銘
4026	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	長23.2幅28.8厚16.0	不明	近世	149	105	6.9Kg
4027	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	五輪塔水輪	長26.0幅26.0厚17.0	不明	近世	149	105	12.3Kg
4028	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	五輪塔水輪	長20.2幅25.4厚15.0	不明	近世	149	105	8.7Kg
4029	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	石塔未製品	長30.6幅21.6厚20.6	不明	近世	151	106	15.4kg
4030	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	五輪塔空風輪	長31.0幅18.2厚17.0	不明	近世	149	105	11.8kg
4031	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	長11.2幅12.2厚9.6	不明	近世	151	107	1.7kg
4032	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	石宮屋蓋部	長9.2幅18.4厚5.8	不明	近世	148	106	1.8kg 寛永銘石宮の一部か
4033	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	石塔台座	長28.0幅31.8厚11.4	不明	近世	150	105	14.7Kg 自然形
4034	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	長20.8幅21.2厚14.0	不明	近世	149	105	8.8Kg
4035	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	五輪塔空風輪	長27.2幅20.6厚20.6	不明	近世	149	105	12.0Kg
4036	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	石塔台座	長32.0幅32.8厚14.8	不明	近世	150	106	16.3kg 銘? 自然形
4037	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	石鉢	長28.2幅28.4厚18.8	不明	近世	149	107	18.3kg 五輪塔水輪転用
4038	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	五輪塔空風輪	長27.8幅15.4厚15.2	不明	近世	149	105	5.7Kg
4039	中央	D021	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	長24.0幅24.0厚16.0	不明	近世	158	112	18.4Kg
4040	中央	D016	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	長23.6幅24.0厚16.4	不明	中世	158	111	18.7Kg
4041	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	宝篋印塔塔身	長16.0幅16.2厚16.0	不明	近世	150	106	27.4kg 画像4面
4042	中央	D021	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	長24.6幅26.6厚16.8	不明	中世	158	112	18.9Kg
4043	中央	D021	石造物	粗粒安山岩	五輪塔火輪	長23.2幅26.0厚15.8	不明	中世	158	112	11.9Kg
4044	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	石塔台座	長25.0幅厚9.6	不明	近世	150	106	10.2Kg 方形 片側蓮華狀張出し
4045	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	墓石標塔	長38.2幅20.6厚15.2	不明	近世	148	106	21.2kg 三面加工丸型「安政」銘
4046	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	庚申塔	長42.0幅30.0厚21.0	不明	近世	148	107	34.8kg 「松井七兵衛」銘
4047	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	石幢か	長37.4幅41.0厚20.0	不明	近世	150	106	40.2kg 六角形
4048	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	墓標塔基礎	長32.4幅33.2厚18.0	不明	近世	150	106	24.1kg 方形
4049	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	長26.8幅35.8厚34.2	不明	近世	149	106	53.6kg
4050	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	墓塔基礎	長32.2幅37.2厚20.0	不明	近世	150	106	30.3kg 自然形
4051	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	墓標塔基礎	長31.8幅32.0厚18.2	不明	近世	150	106	31.5kg 方形
4052	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	石塔基礎	長24.4幅37.0厚16.0	不明	近世	150	106	22.7kg 自然形
4053	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	磨石	長20.5幅16.0厚13.2	不明	近世	151	107	8.1kg 自然石の可能性もある
4054	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	庚申塔	長49.0幅26.8厚8.4	不明	近世	148	106	18.0kg 篆書体銘
4055	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	石塔基礎	長24.0幅28.8厚13.8	不明	近世	150	106	7.4kg 円形
4056	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	庚申塔	長59.5幅24.0厚13.8	不明	近世	148	106	32.6kg 「鈴木」銘 行書体銘
4057	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	石塔基礎	長42.5幅43.5厚19.5	不明	近世	150	106	47.1kg
4058	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	宝篋印塔屋蓋	長28.5幅28.8厚12.4	不明	近世	150	107	18.0kg
4059	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	長12.7幅15.5厚8.6	不明	近世	151	107	1.2Kg 摩耗
4060	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	長22.0幅28.5厚22.0	不明	近世	149	105	20.6kg
4061	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	五輪塔水輪	長25.5幅25.2厚13.9	不明	近世	149	105	12.3Kg
4062	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	庚申塔	長68.0幅17.2厚15.0	不明	近世	148	106	33.3kg 「岡田 吉」行書体銘
4063	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	石鉢	長17.0幅22.0厚16.5	不明	近世	149	107	5.4Kg
4064	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	長11.5幅24.0厚13.5	不明	近世	151	107	6.2kg 摩耗
4065	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	長15.0幅29.5厚11.0	不明	近世	151	107	5.5kg 摩耗
4066	中央	X011下層	石造物	角閃石安山岩	五輪塔水輪	長23.5幅23.5厚15.1	榛名山	近世	149	105	10.0kg 不明銘

2 遺物一覽表

番号	地区	遺構	種類	材質	器形	法量	産地	時代	本文	写真	備考
4067	西側	D082	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	長12.2幅14.5厚9.6	不明	近世	51	43	1.6kg 摩耗
4068	西側	D114	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	長18.2幅28.5厚8.3	不明	近世	58	46	5.4kg 摩耗
4069	西側	D114	石造物	粗粒安山岩	有孔石鉢	長15.6幅26.0厚13.0	不明	近世	58	46	4.0kg
4070	西側	D114	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	長13.0幅12.5厚9.0	不明	近世	58	46	2.3kg
4071	西側	D114	石造物	粗粒安山岩	石塔基礎	長25.2幅29.4厚11.4	不明	近世	58	46	14.7kg
4072	西側	D114	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	長37.0幅36.0厚12.0	不明	近世	58	46	23.6kg
4073	西側	D123	石造物	角閃石安山岩	石塔か	長35.0幅23.0厚15.0	榛名山	近世	90	66	11.8kg
4074	西側	D123	石造物	粗粒安山岩	石塔基礎	長34.5幅33.0厚12.0	不明	近世	90	66	20.1kg 3片 4094接合
4075	西側	D123	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	長12.0幅19.0厚9.7	不明	近世	90	66	2.5kg
4077	西側	D123	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	長15.0幅29.0厚8.0	不明	近世	90	66	4.2kg 摩耗
4078	西側	D114	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	長23.8幅24.6厚19.2	不明	近世	58	46	18.9kg
4079	西側	D114	石造物	粗粒安山岩	五輪塔水輪	長20.8幅27.0厚17.0	不明	近世	58	46	12.9kg
4080	西側	D114	石造物	粗粒安山岩	五輪塔火輪	長32.3幅32.0厚21.2	不明	近世	58	46	27.7kg
4081	西側	D114	石造物	粗粒安山岩	石鉢	長10.5幅22.0厚12.2	不明	近世	58	46	1.9kg
4082	西側	D114	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	長21.8幅34.8厚14.0	不明	近世	58	46	12.3kg 摩耗
4083	西側	D114	石造物	粗粒安山岩	石鉢	長9.2幅20.0厚16.2	不明	近世	58	46	3.4kg
4084	西側	D114	石造物	粗粒安山岩	五輪塔火輪	長25.7幅25.0厚16.7	不明	近世	58	46	11.0kg
4085	西側	D114	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	長19.2幅27.0厚10.6	不明	近世	58	46	5.3kg 摩耗
4086	西側	D114	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	長22.0幅27.0厚28.0	不明	近世	58	46	25.6kg
4087	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	石塔基礎	長26.5幅26.0厚13.0	不明	近世	150	106	9.7kg 方形
4088	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	六角塔基礎	長27.0幅25.5厚10.0	不明	近世	150	106	10.0kg
4089	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	庚申塔	長40.0幅28.6厚19.5	不明	近世	148	106	28.0kg 「田所」銘 楷書体銘
4090	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	五輪塔火輪	長25.4幅24.6厚15.2	不明	近世	149	105	11.8kg
4091	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	五輪塔空風輪	長24.0幅17.2厚17.2	不明	近世	149	105	8.6kg
4092	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	長16.0幅32.0厚12.0	不明	近世	151	107	7.6kg
4093	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	庚申塔	長47.5幅34.5厚9.0	不明	近世	148	106	24.2kg
4095	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	長17.2幅18.0厚10.8	不明	近世	151	107	3.4kg 摩耗
4096	中央	X011下層	石造物	流紋岩質凝灰岩	五輪塔地輪	長36.0幅37.0厚25.0	不明	近世	149	106	31.0kg
4097	中央	X011底	石造物	流紋岩質凝灰岩	有孔直方体	長42.2幅41.8厚14.0	不明	近世	150	107	14.9kg
4098	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	五輪塔空風輪	長17.2幅17.8厚17.5	不明	近世	149	105	3.5kg
4099	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	長13.0幅15.0厚11.8	不明	近世	151	107	1.2kg 未製品
4100	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	五輪塔空風輪	長30.4幅18.0厚18.0	不明	近世	149	105	8.1kg
4101	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	五輪塔空風輪	長30.0幅17.2厚17.2	不明	近世	149	105	8.9kg
4102	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	五輪塔空風輪	長27.7幅16.4厚14.3	不明	近世	149	105	6.9kg
4103	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	宝篋印塔相輪	長26.0幅11.7厚12.0	不明	近世	150	105	3.6kg
4105	中央	X011下層	石造物	流紋岩質凝灰岩	直方体	長13.8幅18.5厚12.4	不明	近世	150	107	2.6kg 軟質
4106	中央	X011下層	石造物	流紋岩質凝灰岩	直方体	長22.2幅25.3厚11.0	不明	近世	150	107	6.7kg
4107	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	長14.5幅22.5厚10.7	不明	近世	151	107	3.8kg 摩耗
4108	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	長16.2幅15.0厚6.7	不明	近世	151	107	1.6kg
4109	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	仏像頭部	長20.0幅15.0厚16.8	不明	近世	148	105	5.9kg
4110	中央	X011下層	石造物	粗粒安山岩	仏像頭部	長10.8幅8.4厚10.2	不明	近世	148	105	0.9kg
4111	西側	D076	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	長34.5幅35.0厚8.7	不明	近世	46	36	17.8kg
4112	西側	D076	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	長31.5幅31.4厚14.0	不明	近世	46	36	14.9kg
4113	西側	D076	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	長14.7幅20.0厚11.3	不明	近世	46	36	17.2kg
4114	西側	D076	石造物	粗粒安山岩	五輪塔水輪	長28.0幅30.0厚19.5	不明	近世	46	36	28.0kg
4115	西側	D076	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	長38.5幅37.5厚10.0	不明	近世	46	36	20.4kg 有孔
4116	西側	D076	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	長15.5幅34.0厚8.8	不明	近世	46	36	6.6kg
4117	西側	D076	石造物	粗粒安山岩	石塔基礎	長12.0幅19.6厚17.3	不明	近世	46	36	4.5kg
4118	西側	D076	石造物	角閃石安山岩	五輪塔火輪	長21.7幅22.0厚10.8	不明	近世	46	36	4.4kg
4119	西側	D076	石造物	粗粒安山岩	五輪塔水輪	長16.3幅26.5厚18.8	不明	近世	46	36	11.4kg
4120	西側	D076	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	長35.5幅34.8厚6.5	不明	近世	46	36	17.7kg
4121	西側	D076	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	長13.8幅17.0厚6.0	不明	近世	46	36	2.3kg 摩耗
4122	西側	D076	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	長15.5幅21.2厚10.0	不明	近世	46	36	3.4kg 摩耗
4123	西側	D076	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	長14.5幅25.5厚7.3	不明	近世	46	36	3.6kg 摩耗
4124	西側	D076	石造物	二ヶ岳軽石	石鉢	長15.5幅39.0厚15.5	榛名山	近世	46	36	3.3kg
4125	西側	D076	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	長12.5幅17.0厚10.0	不明	近世	46	36	1.8kg
4126	西側	D076	石造物	粗粒安山岩	石鉢	長14.2幅18.0厚9.5	不明	近世	46	36	2.6kg
4127	西側	D100	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪か	長16.8幅20.0厚16.4	不明	近世	42	32	6.9kg
4128	西側	D100	石造物	粗粒安山岩	五輪塔水輪	長14.0幅23.7厚14.0	不明	近世	42	32	10.0kg
4129	西側	D100	石造物	粗粒安山岩	石塔基礎	長23.5幅35.0厚15.5	不明	近世	42	32	17.5kg 直方体
4130	西側	D100	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	長13.8幅22.5厚15.3	不明	近世	42	32	5.7kg 摩耗
4131	西側	D100	石造物	粗粒安山岩	石塔基礎	長15.0幅17.0厚16.8	不明	近世	42	32	3.0kg 直方体
4132	西側	D100	石造物	粗粒安山岩	多孔石か	長15.4幅13.5厚9.5	不明	近世	42	32	2.0kg
4133	西側	D100	石造物	粗粒安山岩	石塔基礎	長20.5幅22.0厚9.2	不明	近世	42	32	5.1kg 直方体
4134	西側	D100	石造物	粗粒安山岩	石塔基礎か	長13.0幅16.0厚9.2	不明	近世	42	32	2.1kg
4135	西側	D100	石造物	角閃石安山岩	五輪塔水輪か	長17.5幅20.0厚13.0	榛名山	近世	42	32	4.9kg
4139	西側	D100	石造物	粗粒安山岩	庚申塔片か	長20.0幅21.5厚7.0	不明	近世	42	32	3.9kg 自然石か 焼成痕
4141	西側	D114下層	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	長21.5幅28.5厚13.0	不明	近世	58	46	8.2kg 摩耗
4142	西側	D114下層	石造物	粗粒安山岩	凹石	長11.5幅9.0厚3.5	不明	近世	58	46	0.5kg
4143	西側	D114下層	石造物	粗粒安山岩	凹石	長8.3幅14.0厚5.8	不明	近世	58	46	0.8kg
4144	西側	D114	石造物	粗粒安山岩	宝篋印塔基礎か	長8.0幅8.2厚3.5	不明	近世	58	46	0.4kg 小片
4145	東側	(S-098G)	石造物	粗粒安山岩	茶白下玉	長14.5幅17.5厚11.7	不明	近世	225	162	2.0kg 摩耗
4146	西側	D160	石造物	粗粒安山岩	石鉢	長8.0幅13.8厚6.8	不明	近世	62	49	0.8kg 底墨
4147	西側	D076	石造物	粗粒安山岩	五輪塔火輪	長8.5幅19.0厚7.5	不明	近世	46	36	0.9kg 軽石
4148	西側	M050	石造物	粗粒安山岩	五輪塔水輪	長27.3幅28.0厚18.8	不明	近世	23	23	17.5kg
4149	西側	D172	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	長11.7幅22.2厚9.3	不明	近世	101	74	1.8kg 小片
4150	西側	D172	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	長17.8幅28.5厚6.0	不明	近世	101	74	4.7kg
4151	西側	D183上層	石造物	粗粒安山岩	石塔基礎	長26.5幅35.3厚12.3	不明	近世	81	61	18.9kg 片面華華状張出し
4152	西側	D183中層	石造物	流紋岩質凝灰岩	直方体笠状	長9.4幅14.8厚12.0	不明	近世	81	61	1.5kg 軟質
4153	西側	D183中層	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	長20.3幅11.9厚10.2	不明	近世	81	61	3.1kg 摩耗
4154	西側	D183中層	石造物	粗粒安山岩	茶白上玉か	長12.8幅9.0厚8.8	不明	近世	81	61	1.2kg
4155	西側	X020中層	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	長14.3幅15.0厚10.6	不明	近世	105	76	2.9kg
4156	西側	J027	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	長18.3幅22.6厚9.0	不明	近世	37	29	5.2kg 柱穴内礎石に転用
4157	西側	(L-036G)	石製品	砂岩	砥石	長5.0幅6.0厚2.9	不明	近世	223	161	164kg直方体二面使用裏面未調整
4158	西側	(L-036G)	石造物	礫粒安山岩	石白上玉	長16.0幅16.0厚10.3	不明	近世	223	161	2.8kg 摩耗
4159	西側	M050中層	石造物	礫粒安山岩	茶白上玉か	長9.8幅10.2厚12.0	不明	近世	23	23	1.9kg 摩耗
4160	西側	M050中層	石造物	礫粒安山岩	石白下玉	長15.5幅25.8厚13.0	不明	近世	23	23	6.6kg

IV 資料

番号	地区	遺構	種類	材質	器形	法量	産地	時代	本文	写真	備考
4161	西側	M054中層	石造物	礎粒安山岩	石塔基礎	長18.3幅19.2厚9.5	不明	近世	69	52	3.7kg 2片 直方体
4163	西側	D135	石造物	礎粒安山岩	五輪塔火輪	長22.5幅23.0厚11.5	不明	近世	81	61	6.4kg 2片
4164	西側	(J-027G)	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	長15.3幅27.5厚9.8	不明	近世	223	161	4.0kg 摩耗
4165	西側	D181	石造物	粗粒安山岩	凹石	長11.0幅10.5厚4.0	不明	近世	99	72	0.6kg
4166	西側	D181	石造物	牛伏砂岩	石白下玉	長17.0幅13.0厚6.0	不明	近世	99	72	2.3kg 摩耗
4167	西側	D194	石造物	粗粒安山岩	五輪塔火輪	長16.0幅22.0厚8.5	不明	近世	84	64	3.8kg
4168	西側	D194	石造物	粗粒安山岩	石鉢	長13.3幅16.4厚5.0	不明	近世	84	64	1.2kg
4169	西側	D194	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	長6.1幅14.0厚10.1	不明	近世	84	64	1.0kg
4170	西側	D194	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	長17.4幅27.5厚6.8	不明	近世	84	64	3.6kg
4171	西側	D192	石造物	粗粒安山岩	五輪塔水輪	長29.0幅30.6厚24.0	不明	近世	72	53	30.0kg
4172	西側	D186	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	長32.3幅32.0厚9.5	不明	近世	75	56	19.2kg 把手孔2
4173	西側	D186	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	長37.5幅37.0厚12.5	不明	近世	75	56	28.1kg
4174	西側	D186	石造物	粗粒安山岩	石鉢か	長6.5幅13.0厚6.5	不明	近世	75	56	1.2kg 小片
4175	西側	D186	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	長15.6幅26.6厚8.2	不明	近世	75	56	3.4kg 摩耗
4176	西側	D186	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	長17.8幅28.4厚9.4	不明	近世	75	56	4.7kg 摩耗
4177	西側	D186	石造物	粗粒安山岩	石塔基礎	長18.8幅30.5厚12.6	不明	近世	75	56	11.7kg 直方体
4178	西側	D194	石造物	粗粒安山岩	石鉢	長24.0幅30.8厚20.0	不明	近世	84	64	13.7kg 有孔
4179	西側	D194	石造物	粗粒安山岩	茶白下玉か	長5.0幅15.3厚7.2	不明	近世	84	64	0.6kg 4182と接合 摩耗
4180	西側	D194	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	長6.5幅8.0厚7.0	不明	近世	84	64	0.2kg 小片
4181	西側	D194	石造物	粗粒安山岩	茶白下玉か	長4.6幅8.6厚5.5	不明	近世	84	64	0.2kg 摩耗 小片
4183	西側	D194	石造物	粗粒安山岩	石鉢	長10.3幅8.5厚10.3	不明	近世	84	64	0.5kg 側面に孔
4184	西側	D194	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	長19.0幅26.0厚20.2	不明	近世	84	64	11.4kg
4185	西側	D186	石製品	頁岩	硯	長(12.5)幅6.6厚1.9	不明	近世	74	56	246g長方形 粗い穿孔 緑灰色
4186	西側	D041	石製品	頁岩	小形硯	長9.1幅4.5厚2.0	不明	近世	42	32	153g長方形 裏面調整粗壁切緑灰
4187	西側	M050	石製品	頁岩	硯	長(7.5)幅7.1厚1.5	不明	近世	23	23	154g台形 陸橋円形 暗青色
4188	西側	D107、N016	石製品	頁岩	硯	長14.5幅5.8厚2.3	不明	近世	83	64	358g長方形 4190と接合 暗灰色
4189	西側	D114	石製品	頁岩	硯	長(10.0)幅5.8厚-	不明	近世	59	46	141g長方形 緑灰色
4191	西側	D087、D090	石製品	頁岩	硯	長(6.8)幅6.2厚-	不明	近世	49	38	74g長方形 海への傾斜に凹み 緑灰色
4192	西側	D041	石製品	頁岩	砥石	長15.6幅5.2厚2.9	不明	近世	42	32	165g直方体側平裏幅広タガネ灰緑
4193	西側	D114	石製品	頁岩	硯	長-幅-厚-	不明	近世	59	46	37g長方形刻離面に細ノミ痕黄灰
4194	西側	M052	石製品	頁岩	硯	長-幅5.2厚-	不明	近世	77	57	46g長方形 裏面粗い調整 紫灰色
4195	西側	M065	石製品	頁岩	小形硯か	長-幅-厚-	不明	近世	23	23	6g長方形 黄灰色
4196	西側	D194	石製品	頁岩	硯	長-幅-厚-	不明	近世	84	64	7g長方形 黄灰色
4197	西側	D106	石製品	頁岩	硯	長-幅-厚-	不明	近世	83	64	10g長方形磨後2次焼成紫灰色
4198	西側	D168	石製品	頁岩	硯	長-幅-厚-	不明	近世	94	70	5g長方形か
4199	西側	N033 W列	石製品	頁岩	石板	長-幅-厚0.2	不明	近代	27	26	7g長方形 暗灰色
4200	中央	D029	石製品	頁岩	硯	長-幅-厚-	不明	中世	128	108	22g長方形 軟質 灰白色
4201	中央	M016上層	石製品	粗粒安山岩	砥石	長(7.7)幅4.6厚1.8	不明	近世	163	117	90g小楕円形 灰白色
4202	西側	D123、M050	石製品	粗粒安山岩	砥石か	長7.7幅7.1厚2.1	不明	近世	90	66	105g円盤状 灰黄色
4203	不明	(出土位置不明)	石製品	二ッ岳軽石	粒か	長5.0幅5.2厚1.8	不明	近世か	226	163	41g有孔円盤状 灰白色
4204	西側	N036	石製品	頁岩	硯	長-幅-厚-	不明	近世	27	26	4g長方形か 軟質
4205	西側	N036 5列	石製品	珪質準片岩	自然石	長-幅-厚-	不明	近世			7g非実測 緑白色
4206	西側	D041	石製品	砥沢石	砥石	長(13.7)幅3.2厚1.7	砥沢	近世	42	32	117g短冊形一使用 磨歯タガネ灰緑
4207	西側	M048上層	石製品	砥沢石	砥石	長(9.5)幅3.2厚2.6	砥沢	近世	24	24	145g山形一使用 平タガネ灰緑
4208	西側	J016ピット	石製品	砥沢石	砥石	長9.8幅3.2厚4.7	砥沢	近世	35	29	184g山形二使用 平タガネか緑灰
4209	西側	D041	石製品	砥沢石	砥石	長11.5幅3.2厚3.5	砥沢	近世	42	32	136g角錐形二使用 細ノミ黄灰
4210	西側	D082	石製品	砥沢石	砥石	長(8.0)幅3.2厚3.2	砥沢	近世	51	43	115g山形二使用 細ノミ緑灰
4211	西側	M044	石製品	砥沢石	砥石	長(9.5)幅2.7厚2.9	砥沢	近世	29	26	112g直方体二使用 細ノミ緑灰
4212	西側	N203	石製品	砥沢石	砥石	長(8.0)幅3.6厚2.8	砥沢	近世	22	23	108g直方体一使用 細ノミ緑灰
4213	西側	D041	石製品	砥沢石	砥石	長(10.0)幅2.7厚2.8	砥沢	近世	42	32	101g谷形二使用 磨歯タガネ灰緑
4214	西側	D081	石製品	砂岩	砥石	長(7.6)幅3.1厚2.9	不明	近世	51	43	109g直方体四使用 灰緑
4215	西側	J020、(T-013G)	石製品	砥沢石	砥石	長8.0幅4.1厚1.7	砥沢	近世	35	29	94g小短冊形四使用 磨歯タガネ灰緑
4216	西側	M044	石製品	砥沢石	砥石	長(7.0)幅3.0厚2.0	砥沢	近世	29	26	60g短冊形二使用 細ノミ緑灰
4217	西側	J016、J019	石製品	砥沢石	砥石	長(7.0)幅2.6厚1.5	砥沢	近世	35	29	43g短冊形一使用 磨歯タガネ灰緑
4218	西側	N203	石製品	砥沢石	砥石	長(5.9)幅2.8厚2.6	砥沢	近世	22	23	67g小形直方体一使用 細ノミ緑灰
4219	西側	D082、M045	石製品	砥沢石	砥石	長(11.0)幅2.8厚1.6	砥沢	近世	51	43	84g短冊形二使用 磨歯タガネ灰緑
4220	西側	D060	石製品	砥沢石	砥石	長(8.0)幅2.8厚1.3	砥沢	近世	44	35	47g短冊形三使用 磨歯タガネ灰緑
4221	西側	D041	石製品	砥沢石	砥石	長(8.2)幅2.8厚1.7	砥沢	近世	42	32	61g短冊形一使用 磨歯タガネ灰緑
4222	西側	D076	石製品	流紋岩	砥石	長7.2幅2.8厚1.8	不明	近世	46	36	65g小形短冊形 四使用 白灰
4223	西側	M048上層	石製品	砂岩	砥石	長(6.0)幅3.0厚1.8	不明	近世	24	24	47g短冊形 三使用 粗砥 灰白色
4224	西側	D041	石製品	砥沢石	砥石	長-幅3.3厚2.3	砥沢	近世	42	32	69g小形直方体一使用 磨歯タガネ
4226	西側	(V-011G)	石製品	流紋岩	砥石	長-幅3.2厚2.4	砥沢	近世	221	161	65g直方体一使用 磨歯タガネ
4227	西側	M048	石製品	砥沢石	砥石	長-幅2.8厚2.4	砥沢	近世	24	24	55g直方体 四使用 灰緑
4228	西側	N036 (T-006G)	石製品	流紋岩	砥石	長-幅-厚-	不明	近世	27	26	24g直方体 二以上使用 白黒斑
4229	西側	D082	石製品	砥沢石	砥石	長-幅3.5厚2.5	砥沢	近世	51	43	56g山形一使用 平タガネ黄灰
4230	西側	N036	石製品	砥沢石	砥石	長(6.2)幅3.7厚3.3	砥沢	近世	27	26	116g直方体 二使用 細ノミ灰黄
4231	西側	J017、J019	石製品	砥沢石	砥石	長(6.8)幅3.0厚2.3	砥沢	近世	35	29	71g直方体一使用 磨歯タガネ灰白
4232	西側	J016、(U-012G)	石製品	砥沢石	砥石	長(6.6)幅2.8厚2.0	砥沢	近世	35	29	47g直方体一使用 平タガネ灰緑
4233	西側	(出土位置不明)	石製品	砥沢石	砥石	長-幅2.3厚1.6	砥沢	近世か	221	161	37g谷形 四使用 灰緑
4234	西側	N036 6列	石製品	砂岩	砥石	長-幅3.3厚1.5	不明	近世	27	26	26g短冊形 四使用 黄灰
4235	西側	N203	石製品	砥沢石	砥石	長-幅2.3厚0.8	砥沢	近世	22	23	11g短冊形 四使用 灰緑
4236	東側	(W-109G)	石製品	二ッ岳軽石	砥石か	長5.9幅6.0厚3.1	不明	近世	225	162	70g円盤形一使用 白灰
4237	西側	D171	石製品	砥沢石	砥石	長18.0幅3.2厚2.2	砥沢	近世	97	70	199g直方体一使用 磨歯
4238	西側	D171	石製品	砥沢石	砥石	長18.5幅3.2厚2.0	砥沢	近世	97	70	222g直方体一使用 磨歯
4239	西側	(O-022G)	石製品	砥沢石	砥石	長12.8幅3.0厚1.9	砥沢	近世	223	161	139g直方体 四使用
4240	西側	D114	石製品	砥沢石	砥石	長11.9幅2.8厚2.0	砥沢	近世	59	47	100g直方体一使用 磨歯 細ノミ
4241	西側	D114	石製品	砥沢石	砥石	長10.4幅3.1厚2.6	砥沢	近世	59	47	148g直方体一使用 磨歯
4242	西側	D107	石製品	ホルンフェルス	砥石	長10.0幅2.8厚2.0	不明	近代か	83	64	113g直方体一使用 回転鋸
4243	西側	D123、M050	石製品	砥沢石	砥石	長12.7幅2.8厚1.6	砥沢	近世	90	66	92g短冊形一使用 磨歯
4244	西側	D123、M050	石製品	砥沢石	砥石	長12.5幅2.8厚2.1	砥沢	近世	90	66	98g山形一使用 磨歯
4245	西側	D171	石製品	砥沢石	砥石	長10.2幅4.3厚3.0	砥沢	近世	97	70	250g直方体 二使用 磨歯
4246	西側	D114	石製品	砥沢石	砥石	長11.7幅3.2厚3.3	砥沢	近世	59	47	173g山形一使用 磨歯
4247	西側	D123	石製品	砥沢石	砥石	長11.7幅2.9厚2.3	砥沢	近世	90	66	146g直方体一使用 磨歯
4248	西側	D123、M050	石製品	砥沢石	砥石	長10.3幅3.1厚2.6	砥沢	近世	90	66	117g山形一使用 細ノミ
4249	西側	D123、M050	石製品	砥沢石	砥石	長12.0幅3.2厚2.7	砥沢	近世	90	66	127g山形一使用 磨歯
4250	西側	D114	石製品	砥沢石	砥石	長10.4幅3.1厚3.0	砥沢	近世	59	47	115g山形一使用 磨歯
4251	西側	(出土位置不明)	石製品	砥沢石	砥石	長11.3幅2.7厚2.2	砥沢	近世	223	161	100g山形 二使用 細ノミ

2 遺物一覧表

番号	地区	遺構	種類	材質	器形	法量	産地	時代	本文	写真	備考
4252	西側	(出土位置不明)	石製品	砥沢石	砥石	長11.2幅2.7厚2.0	砥沢	近世	223	161	105g直方体 一使用 櫛歯
4253	西側	D171	石製品	砥沢石	砥石	長10.1幅2.2厚2.8	砥沢	近世	97	70	107g船形 一使用 櫛歯 再加工作
4254	西側	D114	石製品	砥沢石	砥石	長12.4幅2.7厚2.6	砥沢	近世	59	47	82g山形 一使用 細ノミ
4255	西側	(S-029G)	石製品	砥沢石	砥石	長10.2幅3.3厚2.0	砥沢	近世	223	161	91g谷形 四使用
4256	西側	J027, (V-031G)	石製品	砥沢石	砥石	長9.7幅2.8厚1.8	砥沢	近世	37	29	91g直方体 一使用 細ノミ
4257	西側	D171	石製品	砥沢石	砥石	長8.5幅2.7厚2.5	砥沢	近世	97	70	100g直方体 一使用 櫛歯
4258	西側	D114	石製品	砥沢石	砥石	長9.5幅3.0厚3.2	砥沢	近世	59	47	121g山形 一使用 細ノミ
4259	西側	(出土位置不明)	石製品	砥沢石	砥石	長8.2幅2.7厚2.2	砥沢	近世	223	161	80g山形 一使用 櫛歯
4260	西側	D171	石製品	砥沢石	砥石	長8.9幅2.7厚2.6	砥沢	近世	97	70	114g直方体 二使用 櫛歯
4261	西側	D183	石製品	砥沢石	砥石	長10.3幅2.6厚2.4	砥沢	近世	81	61	73g山形 一使用 櫛歯
4262	西側	D114	石製品	砥沢石	砥石	長7.7幅3.2厚2.3	砥沢	近世	59	46	80g山形 一使用 細ノミ
4263	西側	(Q-044G)	石製品	砥沢石	砥石	長9.0幅4.2厚1.4	砥沢	近世	223	161	71g小短冊形 全使用
4264	西側	N016	石製品	砥沢石	砥石	長8.7幅2.3厚1.5	砥沢	近世	67	52	58g舟形 全使用 櫛歯
4265	西側	D171	石製品	砥沢石	砥石	長7.7幅2.7厚1.8	砥沢	近世	97	70	73g直方体 一使用 櫛歯
4266	西側	(S-027G)	石製品	砥沢石	砥石	長6.5幅3.0厚3.0	砥沢	近世	223	161	121g直方体 一使用 細ノミか
4267	西側	D123	石製品	砥沢石	砥石	長7.9幅2.5厚2.2	砥沢	近世	90	66	80g直方体 一使用 櫛歯
4268	西側	D124	石製品	変質デサイト	砥石	長7.0幅2.3厚1.7	不明	近世か	80	61	43g山形 三使用 平タガネか
4269	西側	D123, M050	石製品	砥沢石	砥石	長9.7幅2.6厚1.6	砥沢	近世	90	66	69g直方体 一使用 櫛歯
4270	西側	(V-025G)	石製品	砥沢石	砥石	長7.0幅3.0厚2.5	砥沢	近世	221	161	83g山形 一使用 櫛歯
4271	西側	D114	石製品	砥沢石	砥石	長6.9幅2.5厚2.4	砥沢	近世	59	47	78g山形 一使用 平タガネか
4272	西側	D123	石製品	流紋岩	砥石	長7.2幅4.5厚2.4	不明	近世	90	66	132g短冊形 全使用 櫛歯
4273	西側	M054	石製品	流紋岩	砥石	長(6.8)幅4.3厚2.3	不明	近世	69	52	116g短冊形 全使用 「大」字線刻
4274	西側	D114	石製品	砂岩	砥石	長7.9幅2.9厚2.0	不明	近世	59	47	60g小短冊形 全使用
4275	西側	(Q-044G)	石製品	砥沢石	砥石	長7.5幅2.5厚1.1	砥沢	近世	223	161	28g小舟形 全使用
4276	西側	(Q-044G)	石製品	砥沢石	砥石	長7.3幅2.3厚1.5	砥沢	近世	223	161	37g小舟形 全使用
4277	西側	M057	石製品	砥沢石	砥石	長(8.4)幅2.6厚1.9	砥沢	近世	24	24	72g山形 一使用 櫛歯
4278	西側	D184	石製品	砥沢石	砥石	長-幅2.8厚2.8	砥沢	近世	81	61	83g山形 全使用 櫛歯か
4279	西側	D123, M050	石製品	砥沢石	砥石	長(7.0)幅3.1厚1.9	砥沢	近世	90	66	57g短冊形 二使用 細ノミ
4280	西側	(M-026G)	石製品	砥沢石	砥石	長(6.4)幅2.7厚1.5	砥沢	近世	223	161	40g山形 三使用 櫛歯
4281	西側	(Q-044G)	石製品	砂岩	砥石	長5.0幅4.5厚1.7	不明	近世	223	161	49g方形 全使用
4282	西側	D114	石製品	砥沢石	砥石	長-幅4.2厚3.0	砥沢	近世	59	47	118g山形 一使用 平タガネ
4283	西側	J027ピット内	石製品	砥沢石	砥石	長(7.8)幅3.4厚3.7	砥沢	近世	37	29	103g山形 二使用 平タガネ
4284	西側	(Q-026G)	石製品	粗粒安山岩	砥石	長-幅-厚3.9	不明	近世	223	161	201g不定形 全使用 石塔片転用
4285	西側	D114	石製品	砂岩	砥石	長8.0幅7.1厚2.7	不明	近世	59	47	136g直方体状 全使用
4286	西側	D123, M050	石製品	粗粒安山岩	砥石	長9.3幅5.4厚4.0	不明	近世	90	66	295g直方体 全使用 一凹み
4287	西側	D123, M050	石製品	粗粒安山岩	砥石	長-幅3.9厚3.0	不明	近世	90	66	125g直方体 全使用 裏刻み
4288	西側	(S-035G)	石製品	砥沢石	砥石	長-幅4.4厚3.3	砥沢	近世	223	161	160g山形 全使用 側面刻み
4289	西側	D171	石製品	砥沢石	砥石	長-幅2.5厚2.0	砥沢	近世	97	70	53g直方体 三使用 櫛歯
4290	西側	D171	石製品	砥沢石	砥石	長-幅2.5厚2.0	砥沢	近世	97	70	53g直方体 一使用 櫛歯
4291	西側	N016	石製品	砥沢石	砥石	長-幅3.3厚-	砥沢	近世	67	52	54g直方体状か 一使用 櫛歯
4292	西側	M052	石製品	砥沢石	砥石	長-幅3.7厚1.5	砥沢	近世	77	57	45g短冊形 三使用 細ノミ
4293	西側	N037周辺	石製品	砥沢石	砥石	長-幅3.0厚1.4	砥沢	近世	103	74	37g短冊形 一使用 櫛歯
4294	西側	D123, M050	石製品	砥沢石	砥石	長-幅3.1厚2.1	砥沢	近世	90	66	47g直方体 三使用 櫛歯
4295	西側	(M-026G)	石製品	砥沢石	砥石	長(6.4)幅2.6厚1.8	砥沢	近世	223	161	49g直方体 一使用 櫛歯
4296	西側	D106	石製品	軽石	砥石か	長5.6幅5.1厚1.4	不明	近世	83	64	20g方形状 上下面えぐり
4297	西側	M050	石製品	砥沢石	砥石	長(6.3)幅2.9厚2.5	砥沢	近世	23	23	76g直方体 三使用 櫛歯
4298	西側	D194	石製品	流紋岩	砥石	長-幅3.5厚3.9	不明	近世	84	64	100g直方体 一使用 櫛歯
4299	西側	D114	石製品	流紋岩	砥石	長-幅3.0厚2.8	不明	近世	59	47	67g直方体 二使用 櫛歯か
4300	西側	D123, M050	石製品	砥沢石	砥石	長6.2幅2.8厚1.8	砥沢	近世	90	66	50g短冊形 二使用 櫛歯
4301	西側	D114	石製品	砥沢石	砥石	長-幅2.9厚2.2	砥沢	近世	59	47	46g山形 二使用 細ノミ
4302	西側	D171	石製品	砥沢石	砥石	長(6.0)幅2.7厚1.5	砥沢	近世	97	70	35g短冊形 一使用 櫛歯
4303	西側	(Q-044G)	石製品	流紋岩	砥石	長(5.2)幅3.5厚1.8	不明	近世か	223	161	56g短冊形 三使用 櫛歯か
4304	西側	D114	石製品	砥沢石	砥石	長-幅2.9厚1.5	砥沢	近世	59	46	30g短冊形 三使用 櫛歯か
4305	西側	N016	石製品	砥沢石	砥石	長-幅3.0厚1.6	砥沢	近世	67	52	26g短冊形 一使用 櫛歯
4306	西側	D194	石製品	砥沢石	砥石	長(4.7)幅3.6厚1.8	砥沢	近世	84	64	52g短冊形 一使用 櫛歯
4307	西側	D114	石製品	砥沢石	砥石	長-幅2.5厚1.6	砥沢	近世	59	46	21g短冊形 一使用 櫛歯
4308	西側	D190	石製品	流紋岩	砥石	長-幅-厚-	不明	近世	70	53	18g直方体 一以上使用 細ノミ
4309	西側	(L-026G)	石製品	砥沢石	砥石	長(4.2)幅2.6厚1.5	不明	近世	223	161	24g短冊形 一使用 櫛歯
4310	西側	J027, (U-031G)	石製品	砥沢石	砥石	長-幅2.6厚1.4	砥沢	近世	37	29	16g短冊形 一使用 平タガネか
4311	西側	D194	石製品	流紋岩	砥石	長-幅-厚-	不明	近世	84	64	17g直方体 一使用 加工不明
4312	西側	M052	石製品	流紋岩	砥石	長-幅3.3厚1.5	不明	近世	77	57	27g短冊形 一使用 櫛歯
4313	中央	X012埋土	石製品	砥沢石	砥石	長-幅2.3厚2.4	砥沢	中世か	118	84	58g直方体 四使用 鉄分付着
4314	西側	M040	石製品	砥沢石	砥石	長-幅3.5厚2.8	砥沢	中世	23	23	76g直方体 四使用 鉄分付着
4315	西側	D301	石製品	砥沢石	砥石	長-幅2.1厚2.6	砥沢	近世	106	76	52g山形 四使用
4316	西側	N037周辺	石製品	砥沢石	砥石	長-幅4.2厚2.2	砥沢	近世	103	74	66g短冊形 四使用 鉄分付着
4317	西側	N037周辺	石製品	砂岩	砥石	長-幅3.2厚1.9	不明	近世	103	74	42g短冊形 四使用 粗砥
4318	中央	D039	石製品	砥沢石	砥石	長-幅2.8厚1.8	砥沢	近世か	123	87	26g短冊形 四使用
4319	中央	M022	石製品	砥沢石	砥石	長-幅2.9厚2.5	砥沢	中世	164	117	62g山形 四使用
4320	中央	M017下層	石製品	流紋岩	砥石	長-幅2.8厚-	不明	中世	164	117	21g山形 三以上使用
4321	中央	M016上層	石製品	粗粒安山岩	砥石	長10.0幅6.7厚1.8	不明	近世	163	117	105g小判形
4322	中央	X011底	石製品	流紋岩	砥石	長(8.8)幅3.8厚3.9	不明	近代か	151	107	240g直方体 二使用 鋸
4323	中央	X011底	石製品	砥沢石	砥石	長(11.0)幅3.3厚3.6	砥沢	近世	151	107	214g直方体 一使用 櫛歯タガネ
4324	中央	X011橋W-7	石製品	変質安山岩	砥石	長11.2幅3.2厚3.2	不明	近世	151	107	148g山形 二使用 細ノミ
4325	中央	M032	石製品	砥沢石	砥石	長(9.5)幅4.2厚3.6	砥沢	中世	155	108	167g角錐形 四使用
4326	中央	X011底	石製品	砥沢石	砥石	長8.4幅2.4厚2.9	砥沢	近世	151	107	93g山形 一使用 細ノミ
4327	中央	X011底	石製品	砥沢石	砥石	長(8.8)幅2.5厚2.4	砥沢	近世	151	107	91g小直方体 二使用 櫛歯タガネ
4328	中央	X011中島南西	石製品	流紋岩	砥石	長-幅3.6厚3.5	不明	近世	151	107	101g直方体 二使用
4329	中央	X011中下層	石製品	砥沢石	砥石	長(7.5)幅2.8厚1.3	砥沢	近世か	151	107	52g短冊形 五使用 櫛歯タガネ
4330	中央	X011中島	石製品	砥沢石	砥石	長(6.2)幅2.6厚3.1	砥沢	近世	151	107	87g直方体 一使用 細ノミ
4331	中央	D024	石製品	砥沢石	砥石	長11.0幅4.0厚4.5	砥沢	中世	158	112	199g山形 五使用 裏面無調整
4332	中央	X011底	石製品	砥沢石	砥石	長(6.8)幅4.9厚4.2	砥沢	近世	151	107	182g直方体 三使用 裏面無調整
4333	中央	X011中島	石製品	変質安山岩	砥石	長(8.3)幅2.5厚2.1	不明	近世	151	107	73g小直方体 一使用 鋸
4334	中央	X011底中島下	石製品	砥沢石	砥石	長6.0幅2.7厚3.1	不明	近世	151	107	77g小直方体 一使用 櫛歯タガネ
4335	中央	X011下層	石製品	流紋岩	砥石	長-幅2.8厚3.8	不明	近世	151	107	69g直方体 一使用 平タガネか
4336	中央	X011下層	石製品	砥沢石	砥石	長(5.4)幅2.6厚1.5	砥沢	近世	151	107	39g小形短冊形 一使用 櫛歯タガネ
4337	中央	X011中層	石製品	砥沢石	砥石	長-幅3.0厚1.8	砥沢	近世	151	107	19g小短冊形 一使用
4338	中央	X011下層	石製品	砥沢石	砥石	長(4.5)幅3.2厚1.8	砥沢	近世	151	107	38g小直方体 一使用 櫛歯タガネ

IV 資料

番号	地区	遺構	種類	材質	器形	法量	産地	時代	本文	写真	備考
4339	中央	X011底	石製品	砥沢石	砥石	長・幅3.9厚1.4	砥沢	近世	151	107	34g短冊形 三使用 細ノミ
4340	中央	X011底	石製品	砥沢石	砥石	長・幅2.3厚2.0	砥沢	近世	151	107	25g小形直方体 一使用 細ノミ
4341	中央	N010	石製品	砥沢石	砥石	長・幅・厚1.3	砥沢	近世	124	87	14g短冊形 二使用
4342	中央	M032	石製品	砥沢石	砥石	長・幅3.3厚1.5	砥沢	中世か	155	108	20g短冊形 三使用
4343	中央	X011上層	石製品	砥沢石	砥石	長・幅2.1厚1.9	砥沢	近世	151	107	19g小形直方体 一使用
4344	中央	X011底	石製品	頁岩	砥石か	長・幅・厚0.6	不明	近代か	151	107	13g石板状 線刻
4345	東側	N007	石製品	頁岩	砥石	長4.0幅2.9厚0.9	不明	近世	170	121	14g舟形 二使用
4346	東側	N003	石製品	流紋岩	砥石	長・幅2.5厚-	不明	近世	170	121	10g舟形 三使用
4347	中央	D027	石造物	緑色片岩	板碑	長23.0幅15.2厚1.7	不明	中世	159	113	1.1kg種子キリーク蓮座
4348	中央	D021 No.1	石造物	緑色片岩	板碑	長(31.0)幅26.4厚2.6	不明	中世	158	112	4.3kg種子キリーク 二条線
4349	中央	D025	石造物	緑色片岩	板碑	長51.0幅22.0厚3.2	不明	中世	159	112	3.2kg種子不明 両面刻離多い
4350	中央	D025	石造物	粗粒安山岩	茶臼上玉	長・幅・厚10.5	不明	中世	159	112	2.9kg擂目摩耗
4351	中央	D025	石造物	粗粒安山岩	石臼上玉	長・幅・厚12.0	不明	中世	159	112	2.0kg擂目摩耗
4352	中央	D025	石造物	粗粒安山岩	茶臼上玉	長・幅10.7厚19.0	不明	中世	159	112	2.3kg把手孔菱形座
4353	中央	D025	石造物	粗粒安山岩	石臼上玉	長・幅・厚8.6	不明	中世	159	112	2.7kg擂目右廻り横に把手孔
4354	中央	D025	石造物	粗粒安山岩	片口石鉢	長・幅・厚2.7	不明	中世	159	112	0.4kg内面摩耗
4355	中央	D025	石造物	粗粒安山岩	石臼	長・幅・厚8.0	不明	中世	159	112	0.5kg上玉把手張出上平滑有孔
4356	中央	D025	石造物	粗粒安山岩	石鉢	長・幅・厚18.0	不明	中世	159	112	1.7kg内面摩耗
4357	中央	D015	石造物	粗粒安山岩	茶石上玉	長・幅・厚10.6	不明	中世	158	111	2.0kg擂目右廻 横に把手孔
4358	中央	D018、(H-069G)	石造物	粗粒安山岩	片口石鉢	長・幅・厚8.0	不明	中世	158	111	0.8kg内面摩耗被焼痕
4359	西側	D076	石造物	牛伏砂岩	石臼下玉	長14.8幅19.2厚6.2	牛伏山	近世	46	36	2.1kg擂目摩耗
4360	西側	D171	石製品	粗粒安山岩	方形石鉢	長8.7幅3.8	不明	近世	97	70	0.5kg脚付き
4361	中央	D018	石造物	粗粒安山岩	宝篋印塔	長8.0幅11.7厚6.0	不明	中世	158	111	0.8kg粗輪か
4362	西側	J112	石製品	角閃石安山岩	カマド石	長23.3幅19.5厚11.5	榛名山	近世か	109	79	4.0kg舟形 焼成痕
4363	西側	J112 No.82	石製品	角閃石安山岩	カマド石	長27.2幅17.5厚12.0	榛名山	古代	109	79	5.9kg直方体 面取り加工 焼成痕
4364	西側	J112 No.72	石製品	角閃石安山岩	カマド石	長26.0幅22.0厚12.4	榛名山	古代	109	79	6.8kg直方体面取り 焼成痕
4365	中央	D025	流紋岩質凝灰岩	方形石	長25.0幅19.5厚14.2	不明	中世	159	112	4.7kg直方体五焼成痕刻離多	
4366	中央	D025	流紋岩質凝灰岩	鋤型か	長18.4幅13.3厚6.1	不明	中世	159	112	1.2kg中空部平滑 軟質	
4367	東側	J160	未固結凝灰岩	竈石	長21.7幅18.3厚15.1	不明	古代	205	147	4.7kg直方体 三面焼成	
4368	西側	D114	石製品	砥沢石	砥石	長7.8幅2.8厚1.8	砥沢	近世	59	47	63g直方体一使用 櫛歯
4369	西側	D171	石製品	砥沢石	砥石	長・幅2.2厚4.6	砥沢	近世	97	70	92g直方体一使用 櫛歯
4370	西側	M050	石製品	砥沢石	砥石	長・幅2.7厚1.5	砥沢	近世	23	23	45g直方体一使用 櫛歯
4371	西側	N016	石製品	砥沢石	砥石	長・幅2.9厚1.3	砥沢	近世	67	52	31g谷形一使用 櫛歯
4372	西側	D123	石製品	砥沢石	砥石	長・幅2.3厚1.4	砥沢	近世	90	66	30g直方体二使用 櫛歯
4373	西側	(R-036G)	石製品	流紋岩	砥石	長(4.3)幅2.9厚3.0	不明	近世	223	161	64g直方体二使用か 櫛歯
4374	西側	M063	石製品	砥沢石	砥石	長・幅2.6厚1.8	砥沢	近世	31	26	46g直方体一使用 細ノミ
4375	西側	M057	石製品	砥沢石	砥石	長・幅2.9厚1.5	砥沢	近世	24	24	39g短冊形一使用 櫛歯
4376	西側	D124	石製品	流紋岩	砥石	長・幅3.6厚1.5	不明	近世か	80	61	51g短冊形 全使用
4377	不明	(出土位置不明)	石造物	粗粒安山岩	石臼上玉	長・幅・厚15.5	不明	近世	226	163	2.2kg
4378	東側	(J-080G)	石器		剃片	長7.7幅5.1厚1.8	不明	縄文	231	164	45g使用痕あり
4379	西側	(T-009G)	石器		剃片	長7.9幅5.3厚1.3	不明	縄文	231	164	55g使用痕あり
4380	東側	M001、M002	石器		剃片	長5.8幅5.6厚1.2	不明	縄文	231	164	40g加工痕あり
4381	東側	M125	石器		剃片	長2.8幅8.6厚0.9	不明	縄文	231	164	21g加工痕あり
4382	東側	(V/W-106/107G)	石器		石鏃	長2.9幅1.9厚0.5	不明	縄文	228	163	2g
4383	西側	(U-008G)	石器		石鏃	長4.8幅2.5厚0.4	不明	縄文	228	163	3g
4384	西側	(R-039G)	石器		石鏃	長2.0幅1.7厚0.3	不明	縄文	228	163	1g
4385	東側	M125	石器		石鏃	長2.6幅1.5厚0.4	不明	縄文	228	163	1g
4386	西側	(X-014G)	石器		石鏃	長2.3幅1.5厚0.5	不明	縄文	228	163	1g
4387	東側	N104	石器		石鏃	長2.1幅1.5厚0.4	不明	縄文	228	163	1g
4388	西側	D091	石器		打製石斧	長6.5幅6.7厚1.4	不明	縄文	228	163	86g
4389	東側	M013	石器		打製石斧	長14.0幅8.5厚2.9	不明	縄文	228	163	270g
4390	西側	(P-031G)	石器	黒曜石	石鏃	長4.7幅3.1厚0.5	不明	縄文	228	163	1g
4391	西側	(出土位置不明)	石器		打製石斧	長10.0幅6.5厚1.5	不明	縄文	228	163	108g
4392	東側	(R-080G)	石器		打製石斧	長11.0幅4.8厚1.7	不明	縄文	228	163	98g
4393	東側	N104	石器		打製石斧	長9.1幅4.8厚1.2	不明	縄文	228	163	72g
4394	中央	(O-050G)	石器		打製石斧	長7.9幅5.7厚1.5	不明	縄文	228	163	60g
4395	中央	M022	石器		打製石斧	長10.3幅5.4厚1.3	不明	縄文	228	163	87g
4396	西側	(L-035G)	石器		打製石斧	長11.4幅5.0厚2.4	不明	縄文	228	163	122g
4397	中央	(R-047G)	石器		スクレイパー類	長18.0幅8.7厚4.2	不明	縄文	229	163	738g
4398	東側	M018	石器		スクレイパー	長6.8幅7.2厚1.9	不明	縄文	229	163	158g
4399	東側	(T-070G)	石器		スクレイパー	長7.8幅5.3厚2.1	不明	縄文	229	163	108g
4400	西側	X003	石器		スクレイパー	長6.6幅9.0厚2.0	不明	縄文	229	163	176g
4401	東側	M202	石器		スクレイパー	長5.7幅5.8厚1.5	不明	縄文	229	163	59g
4402	西側	D195	石器		スクレイパー	長8.3幅10.5厚5.4	不明	縄文	229	163	449g
4403	東側	M202	石器		三角錐型	永13.5幅7.5厚5.0	不明	縄文	231	164	719g
4404	西側	(M-041G)	石器		スクレイパー	長14.8幅9.4厚3.6	不明	縄文	229	163	621g
4405	東側	(石-078G)	石器		石核	長8.2幅9.7厚5.5	不明	縄文	229	163	543g
4406	不明	(出土位置不明)	石器		石核	長13.6幅12.7厚7.6	不明	縄文	229	164	1.492g
4407	東側	J153	石器		磨石	長11.8幅10.8厚3.6	不明	縄文	231	164	691g
4408	不明	(出土位置不明)	石器		磨石	長11.5幅8.7厚3.3	不明	縄文	231	164	507g
4409	東側	N101	石器		磨石	長10.8幅6.0厚3.1	不明	縄文			非掲載
4410	東側	J153	石器		磨石	長14.0幅11.6厚3.6	不明	縄文	231	164	941g
4411	東側	J160	石器		磨石	長14.8幅11.9厚5.3	不明	縄文	231	164	1.450g
4412	東側	N007	石製品	変質武岩	半円形板状	長・幅2.2厚0.4	不明	近世	170	121	0.2g即面上面に研磨痕 軽量
4413	西側	(L-035G)	石製品	砥沢石	有孔分胴状	直径3.9孔0.7	不明	近世か	223	161	77g重りか
4414	東側	M001	石製品	葉蠟石	石筆	長・幅0.6厚0.7	不明	近代	181	128	0.4g下端部
4415	中央	X011底	石造物	緑色片岩	板碑	長55.9幅15.0厚2.7	不明	中世	148	107	4.3kg種子キリーク蓮座
4417	中央	X011	石造物	粗粒安山岩	墨書石片	長6.7幅6.5厚2.1	不明	近世	148	107	100g「庚」字墨書 石塔片か
5001A	東側	M001	銅銭	有孔銭	熙寧通寶	径2.3孔徑0.65	不明	中世	181	128	篆体 1068年初鑄
5001B	東側	M001	銅銭	有孔銭	咸平元寶	径2.3孔徑0.6	不明	中世	181	128	999年初鑄
5002	東側	M001	銅銭	有孔銭	元祐通寶	径2.3孔徑0.7	不明	中世	181	128	篆体 1093年初鑄
5003	中央	M016	銅銭	有孔銭	寛永通寶	径2.2孔徑0.65	不明	近世	163	117	新寛永
5004A	中央	M016	銅銭	有孔銭	寛永通寶	径2.2孔徑0.6	不明	近世	163	117	
5004B	中央	M016	銅銭	有孔銭	不明	孔徑0.55	不明	近世	164	117	
5005A	中央	M016	銅銭	有孔銭	不明	径2.3孔徑0.6	不明	近世	163	117	
5005B	中央	M016	鉄銭	有孔銭	不明	径2.3孔徑0.7	不明	近世	164	117	2枚溶着
5006	中央	M016	鉄銭	有孔銭	元豊通寶	径2.4孔徑0.65	不明	中世	163	117	草体 1078年初鑄

2 遺物一覧表

番号	地区	遺構	種類	材質	器形	法量	産地	時代	本文	写真	備考
5007A	中央	M016	銅銭	有孔銭	寛永通寶	径2.3孔徑0.6	不明	近世	163	117	新寛永
5007B	中央	M016	銅銭	有孔銭	寛永通寶	径2.15孔徑0.7	不明	近世	163	117	新寛永
5007C	中央	M016	銅銭	有孔銭	寛永通寶	径2.3孔徑0.6	不明	近世	163	117	新寛永
5007D	中央	M016	鉄銭	有孔銭	不明	径-孔徑0.65	不明	近世	164	117	2枚溶着
5008A	中央	M016	銅銭	有孔銭	寛永通寶	径2.3孔徑0.65	不明	近世	163	117	新寛永
5008B	中央	M016	銅銭	有孔銭	不明	径2.25孔徑0.65	不明	近世	163	117	新寛永
5008C	中央	M016	鉄銭	有孔銭	不明	径2.8孔徑0.75	不明	近世	164	117	2枚溶着
5009	中央	M016	鉄銭	有孔銭	不明	径2.3孔徑0.7	不明	近世	164	117	
5010A	中央	M016上層	銅銭	有孔銭	寛永通寶	径2.4孔徑0.55	不明	近世	163	117	新寛永
5010B	中央	M016上層	銅銭	有孔銭	寛永通寶	径2.4孔徑-	不明	近世	163	117	新寛永
5010C	中央	M016上層	鉄銭2枚	有孔銭	不明	径2.8孔徑0.6	不明	近世	164	117	不明
5010D	中央	M016上層	鉄銅銭	有孔銭	寛永通寶	径2.3孔徑0.6	不明	近世	164	117	新寛永
5010E	中央	M016上層	銅銭2枚	有孔銭	寛永通寶	径2.3孔徑0.6	不明	近世	164	117	新寛永
5011	中央	M016中層	鉄銭3枚	有孔銭	不明	径2.4孔徑0.6	不明	近世	164	117	
5012	中央	M017	銅銭	有孔銭	不明	径2.3孔徑0.7	不明	中世か	164	117	宋銭か 摩耗
5013	中央	M017東側	銅銭	有孔銭	不明	径-孔徑-	不明	中世か	164	117	摩耗
5014	西側	M050	銅		煙管雁首	長(5.9)幅0.8厚-	不明	近世	23	23	肩なし
5015	西側	M044	銅		煙管吸い口	長(4.3)幅1.0厚-	不明	近世	29	26	肩あり
5016	西側	M048	銅		翼状	長(2.8)幅1.0厚0.1	不明	近代か	24	24	陽刻 格子目に 大 字
5017A	西側	J107	鉄		刀子か	長(3.7)幅2.4厚0.45	不明	古代	64	50	
5017B	西側	J107	鉄		鎌か	長(4.5)幅0.4厚-	不明	古代か	64	50	
5018	西側	J016	銅		煙管吸い口	長(4.2)幅1.2厚-	不明	近世	35	29	肩状膨らみ 錆多い
5019	東側	N002	アルミ銭	無孔銭	一銭	径1.6	不明	近代	174	120	昭和十七年
5020A	西側	N016	銅銭	有孔銭	不明	径2.4孔徑0.6	不明	近世	67	52	
5020B	西側	N016	鉄銭	有孔銭	不明	径2.3孔徑0.6	不明	近世か	67	52	
5021	西側	N016	銅銭	有孔銭	寛永通寶	径2.25孔徑0.65	不明	近世	67	52	
5022	西側	N036	銅		短管	長(3.0)幅1.0厚-	不明	近代か	27	26	新寛永 片側ややつぶれる
5023	西側	D041	銅		煙管雁首	長(8.1)幅0.8厚-	不明	近代	42	32	肩なし ウラ残
5024	西側	D043, D044	銅銭	有孔銭	寛永通寶	径-孔徑0.6	不明	近代	39	30	新寛永
5026	西側	D046/D049	鉛		唐草形状 飾り金具	長(7.5)幅0.7厚-	不明	近代か	44	35	しっくり状白色着色物
5027	西側	D060	銅		煙管雁首	長-幅1.9厚-	不明	近代	44	35	火皿部のみ
5028	西側	D074	銅		煙管吸い口か	長(3.3)幅1.0厚0.9	不明	近代	49	38	溶接部割れる ウラ残
5029	中央	X011底	銅		飾り板	長14.7幅3.4厚0.5	不明	近代	147	104	魚子文上に唐草文 釘穴4カ所
5030A	西側	D124	鉄	鑄造品	坩堝か	長10.7幅13.5厚0.4	不明	近代	80	61	内面腐食多い
5030B	西側	D124	鉄		環状板	長9.0幅1.5厚0.4	不明	近代	80	61	平面やや楕円形
5030C	西側	D124	鉄		環状板	長4.1幅0.5厚0.1	不明	近代	80	61	平面長円形 薄い
5030D	西側	D124	鉄		小鎌	長-幅1.7厚-	不明	近代	80	61	柄部端に返り
5030E	西側	D124	鉄		火箸か	長(15.7)幅0.7厚-	不明	近代	80	61	角棒状 2片
5031A	西側	(L-026G)	鉄		農具	長5.0幅14.6厚0.6	不明	近代か	223	162	厚い鉄板を鋭角に曲げて刃部形成
5031B	西側	(L-026G)	鉄		五徳	長(12.3)幅20.8厚0.9	不明	近代か	223	162	330g鎌状の3本の突起を環状配列
5032	西側	(M-030G)	鉄		鋏	長(22.5)幅15.6厚0.5	不明	近代	223	162	柄部は角状に2本長く延びる
5033A	東側	M001	鉄		鋤類	長(9.2)幅2.0厚0.5	不明	近代	181	128	歯4本 鍛造
5033B	東側	M001	鉄		鎌手角棒	長(4.7)幅0.8厚0.7	不明	近代	181	128	鎌手先端返り
5034	東側	M018	鉄		鎌	長7.2幅3.0厚0.4	不明	中世か	187	133	雁又形
5035	西側	M051	鉄		小環状	長2.5幅2.5厚-	不明	近代か	77	57	
5036	西側	M042	鉄		包丁	長4.0幅0.8厚0.7	不明	近代か	29	26	出刃形
5037	西側	M044	鉄		刃物	長(22.6)幅-厚-	不明	近代か	29	26	木柄一部残 峰やや厚い
5038	西側	M052	鉄		農具か	長-幅-厚-	不明	近代	77	57	厚鉄板を曲げて刃部形成
5039	西側	X001	鉄		刀子か	長4.2幅1.3厚0.3	不明	近代か	25	24	柄部付近
5040	西側	M054	鉄		角短釘	長5.5幅0.6厚-	不明	近代か	69	52	
5041A	西側	X001	鉄		容器底	長10.0幅10.1厚0.7	不明	近代か	25	24	短い脚部 2カ所以上 厚い
5041B	西側	X001	鉄		吊り具か	長20.0幅0.4厚0.5	不明	近代か	25	24	細い湾曲した鉄丸棒
5041C	西側	X001	鉄		角短棒	長6.7幅0.4厚-	不明	近代か	25	24	
5042	東側	J103	鉄		角釘	長5.3幅0.8厚0.8	不明	近代か	198	140	カスガイか
5043	西側	J112	鉄		斧	長9.0幅3.2厚1.6	不明	古代	109	79	90g鍛造 袋状ソケット
5044	西側	J112	鉄		棒状	長15.2幅1.6厚0.6	不明	古代か	109	79	断面長方形やや湾曲
5045	東側	J152	鉄		鎌	長(10.3)幅2.2厚-	不明	古代か	200	142	雁又形 柄部と刃部境に段
5046	西側	J016	鉄		刀子か	長8.0幅1.6厚-	不明	近代か	35	29	峰やや厚い
5047A	東側	N004	鉄		火打金	長7.2幅1.3厚-	不明	近代	170	121	
5047B	東側	N004	鉄		円筒付板	長5.2幅2.5孔徑0.6	不明	近代か	170	121	用途不明
5048A	東側	N007	鉄		五徳	推径18.0高4.7厚0.7	不明	近代か	170	121	網状の環状鉄に足
5048B	東側	N007	鉄		五徳か	長(11.6)幅2.2厚-	不明	近代	170	121	鎌手形鉄棒途中で分岐あり
5049	東側	N023	鉄		馬蹄	長12.5幅13.0厚0.9	不明	近代か	172	121	300g釘穴片側5個
5050	西側	N036	鉄		飾り具か	長(20.5)幅2.5厚0.2	不明	近代	27	26	薄板 凸形に曲げられる
5051A	東側	D009	鉄		農具	長4.3幅5.1厚0.3	不明	近代	176	124	厚板を鋭角に曲げて刃部形成
5051B	東側	D009	鉄		刀子か	長5.4幅0.9厚-	不明	近代か	176	124	柄部か
5052A	西側	D041	鉄		刀子	長(19.5)幅1.6厚-	不明	近代か	42	32	柄部も鉄
5052B	西側	D041	鉄		引手	長5.8幅0.8厚0.5	不明	近代か	42	32	断面長方形
5052C	西側	D041	鉄		環状細管	長3.2幅0.4厚-	不明	近代か	42	32	断面長方形に近い
5053	西側	D054	鉄		鋤類か	長(7.7)幅-厚-	不明	近代か	42	32	3本L字形鉄板を直交方向鋸止め
5054	西側	D060	鉄		刀子	長-幅-厚-	不明	近代か	44	35	柄部幅狭い
5055	西側	D085, D086	鉄		飾り具か	長4.9幅3.2厚-	不明	近代	49	38	薄板U字形に曲げ透孔両端装着孔
5056	西側	D107	鉄		刀子	長(9.4)幅1.4厚-	不明	近代か	83	64	刃部短 柄部鋒部は刃部の延長
5057A	西側	D114	鉄		刀子	長(5.6)幅1.1厚-	不明	近代	59	46	刃部短
5057B	西側	D114	鉄		三角形鉄板	長-幅2.1厚0.3	不明	近代	59	46	やや厚い
5057C	西側	D114	鉄		円形鉄板	長-幅3.0厚0.3	不明	近代	59	46	上面繊維状痕
5058	西側	D076	鉄		農具か	長4.5幅4.0厚0.4	不明	近代か	46	36	厚鉄板を鋭角にまげて刃部形成
5059	西側	D078	鉄		長方形板	長(8.0)幅2.5厚0.2	不明	近代か	47	36	波打って曲げられる
5060	西側	D190	鉄		角釘	長(9.0)幅0.5厚0.3	不明	近代か	70	53	頂部長方形
5061	西側	D194	鉄		鎌	長-幅-厚-	不明	近代	84	64	柄部大きく外反
5062A	東側	D243	鉄		鈴	直径3.0厚0.1	不明	近代	215	156	内面半球の溶着痕 銅錆も付着
5062B	東側	D243	鉄		有孔銭	径2.8孔0.75	不明	近代	215	156	
5062C	東側	D243	鉄		刃物	長(4.8)幅1.5厚-	不明	近代	215	156	片側長方形端部
5063A	中央	X011下層	鉄		容器か	長-幅-厚-	不明	近代	147	104	薄板 口縁部は折曲げ体部に鋸孔
5063B	中央	X011上層	鉄		脚付鍋か	長-幅-厚-	不明	近代	147	104	内面有機物付着
5064	中央	X011新中ノ島	鉄		環状	長3.2幅0.8厚0.4	不明	近代	147	104	断面長方形
5065	中央	X011	鉄		角釘	長(10.7)幅0.8厚0.4	不明	近代	147	104	頂部楕円形

IV 資料

番号	地区	遺構	種類	材質	器形	法量	産地	時代	本文	写真	備考
5066	中央	X011	鉄か		円筒状	長-幅1.6厚0.2	不明	近代か	147	104	表面粗く軽い
5067	西側	(M-037G)	鉄		農具	長5.3幅5.0厚0.6	不明	近代	223	161	厚板を鋭角二曲げて刃部形成
5068	西側	N037周辺	鉄		小鎌	長-幅2.2厚-	不明	近世	103	74	柄部直線状
5069	東側	(U-073G)	鉄		ピックル	長11.0幅2.1径2.2	不明	近代	225	162	柄部円筒状
5070	西側	X021	鉄		鎌	刃長(14.0)幅2.6厚-	不明	近代	105	75	木柄部錆化
5071	西側	X001	鉄		鍋吊り手か	長(30.0)厚0.8×0.7	不明	近世か	25	24	断面長方形緩く曲がる
5072	中央	X013 No.3	鉄		角釘	長-幅0.4厚0.4	不明	近世か	119	84	先端部
5075	西側	J104	鉄		小片	長(2.1)幅(1.4)厚0.1	不明	古代か	63	49	端部内反
5073	中央	X011上層	鉄		帯金具類	長12.0幅2.2厚0.3	不明	近世か	147	104	孔径0.3 厚手鉄板直交曲折
5074A	西側	D123	鉄		刃物	長(8.4)幅4.2厚0.5	不明	近世	90	66	
5074B	西側	D123	鉄		環状	径2.8厚0.6	不明	近世	90	66	断面長方形
5076	西側	J105	鉄		細棒状	長-幅-厚-	不明	古代か	64	51	錆多い
5077	西側	(出土位置不明)	鉄		農具か	長(10.7)幅4.9厚0.2	不明	近代か	221	161	中手鉄板を鋭角に曲げて刃部形成
5079	東側	J159	鉄		鎌か	長-幅0.6厚-	不明	古代か	203	145	細管状 錆多い
5080	東側	J159	鉄		短冊状	長9.7幅3.2厚-	不明	古代か	203	145	100g錆多い
5081	西側	D135	銅		煙管雁首火皿	径1.8	不明	近世か	81	61	補強帯なし
5082	西側	D168	銅銭	有孔銭	寛永通寶	径2.25孔0.65	不明	近世	94	70	新寛永
5083	西側	D194	銅		煙管	長6.7径1.2	不明	近世	84	64	吸い口肩有り一部ラウ残
5084	中央	X011中島橋	銅銭	有孔銭	寛永通寶	径2.2孔0.75	不明	近世	147	104	新寛永
5085	中央	X011中島底	銅銭	有孔銭	寛永通寶	径2.5孔0.6	不明	近世	147	104	1668年初鑄 背「文」字
5086	中央	X011底	銅銭	有孔銭	寛永通寶	径2.45孔0.6	不明	近世	147	104	1668年初鑄 新寛永背「文」字
5087A	中央	X011底	銅銭	有孔銭	寛永通寶	径2.2孔0.65	不明	近世	147	104	新寛永
5087B	中央	X011底	銅銭	有孔銭	寛永通寶	径2.2孔0.7	不明	近世	147	104	新寛永
5088	中央	X011底	銅銭	有孔銭	寛永通寶	径2.35孔0.6	不明	近世	147	104	1626年初鑄 古寛永
5089	中央	X011西側底	銅銭	有孔銭	寛永通寶	径2.4孔0.6	不明	近世	147	104	1626年初鑄 古寛永 摩耗
5090	西側	D107	銅銭	有孔銭	寛永通寶	径2.3孔0.65	不明	近世	83	64	新寛永
5091	西側	(L-035G)	銅銭	有孔銭	寛永通寶	径2.8孔0.65	不明	近世	223	161	1768年初鑄 新寛永 波背
5092	西側	(N-026G)	銅		煙管雁首	長5.3径0.95	不明	近世か	223	161	肩つき 火皿部なし
5093	西側	J025	銅		煙管雁首	長6.0径0.95	不明	近世か	77	57	肩なし 火皿部なし 湾曲小さい
5094	西側	(S-040G)	銅銭	有孔銭	寛永通寶	径2.3孔0.65	不明	近世	223	161	新寛永
5095	西側	J016	銅銭	有孔銭	寛永通寶	径2.35孔-	不明	近世	35	29	
5096	西側	J014周辺	銅		煙管	長(4.2)径0.9	不明	近世	31	28	吸い口肩なし 光沢
5097A	東側	(V-069G)	銅銭	有孔銭	元祐通寶	径2.4孔0.6	不明	中世	225	162	1093年初鑄 篆体
5097B	東側	(V-069G)	銅銭	有孔銭	元豊通寶	径2.4孔0.6	不明	中世	225	162	1078年初鑄 草体
5098	東側	(V-070G)	銅銭	有孔銭	天聖元寶	径2.4孔0.65	不明	中世	225	162	1023年初鑄
5099	西側	X021中層	銅銭	有孔銭	寛永通寶	径2.25孔0.6	不明	近世	105	76	新寛永
5100A	西側	X021下層	銅銭	有孔銭	寛永通寶	径2.4孔0.6	不明	近世	105	76	1626年初鑄 古寛永
5100B	西側	X021下層	銅銭	有孔銭	寛永通寶	径2.25孔0.65	不明	近世	105	76	新寛永
5100C	西側	X021下層	銅銭	有孔銭	寛永通寶	径2.25孔0.7	不明	近世	105	76	
5100D	西側	X021下層	銅銭	有孔銭	寛永通寶	径2.15孔0.7	不明	近世	105	76	
5100E	西側	X021下層	銅銭	有孔銭	寛永通寶	径2.8孔0.65	不明	近世	105	76	1768年初鑄 新寛永 波背
5100F	西側	X021下層	銅銭	有孔銭	寛永通寶	径2.4孔0.6	不明	近世	105	76	1626年初鑄 古寛永
5101A	西側	X021北西隅底	銅銭	有孔銭	寛永通寶	径2.45孔0.6	不明	近世	105	76	新寛永
5101B	西側	X021北西隅底	銅銭	有孔銭	寛永通寶	径2.25孔0.65	不明	近世	105	76	1626年初鑄 古寛永
5102	中央	X011東側橋底	銅		栓	径2.4高1.0厚0.1	不明	近代か	147	104	口縁に刻み 内側ラセン
5103	中央	(G-065G)	銅		煙管	長4.8幅1.6	不明	近世	223	161	吸い口 肩なしつぶれ
5104	中央	(N-049G)	銅		小容器か	長-幅-厚-	不明	近世か	223	161	唐草文陽刻
5106	中央	(V-090G)	銅		二連管	長(6.8)幅0.75	不明	近代か	225	162	内径0.3 の円管2個が連なる
5107	中央	X011底	銅		煙管雁首	火皿径1.75首部径1.1	不明	近世	147	104	上面継ぎ目湾曲なし火皿碗形
5108	中央	X011中島	銅		煙管 吸口	長5.7肩径1.2吸口径0.35	不明	近世	147	104	肩状膨み吸口部やや曲がる
5109A	西側	D069	鉄		吊り手	長-幅0.4厚-	不明	近代か	49	38	断面方形
5109B	西側	D069	鉄		吊り手	長-幅0.45厚-	不明	近代か	49	38	断面方形
5109C	西側	D069	鉄		吊り手	長-幅0.4厚-	不明	近代か	49	38	断面方形
5109D	西側	D069	鉄		U字状細棒	長-幅0.3厚-	不明	近代か	49	38	断面方形
5109E	西側	D069	鉄		角釘	長(6.3)幅-厚-	不明	近代か	49	38	断面方形
5110	中央	X011東側底	鉛		鉄砲玉	径1.3×1.35	不明	近世	147	104	12g片側黒灰色質付着
5111	東側	N005	鉄滓か			長-幅-厚-	不明		170	121	表面斑状に付着物
5112	西側	M048	鉄器		不明	長-幅-厚-	不明		24	24	刃物がしっくいに溶着
6001	中央	X011中島	ガラス	透明	薬瓶	口-高6.0底1.5	不明	近代	147	16-64	アルミ蓋溶着
6002	西側	D057	ガラス	透明	薬瓶	口0.9高4.6底2.0	不明	近代	44	16-64	
6003	西側	D046/D049	ガラス	白色地に緑筋	おはじき	径2.0×1.7厚3.0	不明	近代	44	16-64	上面押印手形
6004	中央	X011中島	ガラス	青緑色	おはじき	径1.2×1.3厚0.5	不明	近代	147	16-64	片側刻み 上面押印
6005	東側	N004	ガラス	青色	おはじき	径(4.8)厚0.9	不明	近代	170	16-64	上面半円縁内に桜花押印
6006	東側	M012	ガラス	オリーブ色	おはじき	径(4.7)厚0.8	不明	近代	183,184	16-64	上面半円縁内に方形押印
6007	中央	X011東側上層	ガラス	群青色	薬瓶	口1.9高3.8底2.5	不明	近代	147	16-64	継ぎ目なし
6008	中央	X011下層	ガラス	透明	薬瓶か	口1.7高12.7底2.2	不明	近代	147	16-64	口横につく上側は把手状
6009	西側	D124	骨		馬歯	横幅4.7縦幅3.1厚0.9	不明	近世か	80	16-65	上下端欠硬い内部砂
6010	東側	M001, M004	ガラス	青色	小王	径0.3孔径0.1厚0.2	不明	古墳か	181	16-63	

3. 遺物 検索表

番号	種類	釉/焼成/材質	器形	頁	写真	番号	種類	釉/焼成/材質	器形	頁	写真
103	磁器	青磁	碗	118	2	1194	磁器	染付	碗	140	14
104	磁器	青磁	碗	118	2	1195	磁器	染付	碗	140	2
105	磁器	青磁	碗	105	2	1196	磁器	染付	碗	140	14
106	磁器	青磁	碗	118	2	1214	磁器	染付	碗	183	15
107	磁器	青磁	碗	118	2	1113	磁器	染付	碗	53	9
108	磁器	青磁	碗	118	2	1128	磁器	染付	碗	67	10
109	磁器	青磁	碗	118	2	1073	磁器	染付	碗?	221	16
110	磁器	青磁	碗	164	2	1184	磁器	色絵	碗	140	14
111	磁器	青磁	碗	105	2	1192	磁器	色絵	碗	140	14
112	磁器	青磁	碗	118	2	1102	磁器	色絵	碗	23	23
113	磁器	青磁	碗	118	2	1256	磁器	色絵	碗	41	7
114	磁器	青磁	碗	164	2	1199	磁器	袖下彩	碗	140	14
115	磁器	青磁	碗	180	2	1925	磁器	白磁	碗	224	2
116	磁器	青磁	碗	180	2	1926	磁器	白磁	碗	180	2
117	磁器	青磁	碗	118	2	1016	磁器	白磁	碗?	180	2
118	磁器	青磁	碗	118	2	1021	磁器	白磁	碗	164	2
119	磁器	青磁	碗	118	2	1147	磁器	染付	碗蓋	83	8
120	磁器	青磁	碗	118	2	1211	磁器	染付	碗蓋	163	13
121	磁器	青磁	碗	118	2	1203	磁器	染付	碗蓋	105	12
122	磁器	青磁	碗	118	2	1206	磁器	染付	碗蓋	163	13
123	磁器	青磁	碗	118	2	1060	磁器	染付	碗蓋	49	8
124	磁器	青磁	碗	118	2	1268	陶器	陶胎	碗	29	6
125	磁器	青磁	碗	118	2	1269	陶器	陶胎	碗	221	16
126	磁器	青磁	碗	118	2	1270	陶器	陶胎	碗	41	7
127	磁器	青磁	碗	118	2	1271	陶器	陶胎	碗	46	7
128	磁器	青磁	碗	118	2	1272	陶器	陶胎	碗	221	16
129	磁器	青磁	碗	118	2	1273	陶器	陶胎	碗	41	7
130	磁器	青磁	碗	118	2	1274	陶器	陶胎	碗	29	6
131	磁器	青磁	碗	118	2	1275	陶器	陶胎	碗	41	7
132	磁器	青磁	碗	118	2	1276	陶器	陶胎	碗	41	7
133	磁器	青磁	碗	118	2	1277	陶器	陶胎	碗	41	7
134	磁器	青磁	碗	118	2	1278	陶器	陶胎	碗	41	7
135	磁器	青磁	碗	118	2	1279	陶器	陶胎	碗	41	7
136	磁器	青磁	碗	118	2	1280	陶器	陶胎	碗	41	7
137	磁器	青磁	碗	118	2	1281	陶器	陶胎	碗	51	8
138	磁器	青磁	碗	118	2	1317	陶器	陶胎	碗	84	10
139	磁器	青磁	碗	118	2	1461	陶器	陶胎	碗	87	11
140	磁器	青磁	碗	118	2	1462	陶器	陶胎	碗	87	11
141	磁器	青磁	碗	118	2	1463	陶器	陶胎	碗	53	9
142	磁器	青磁	碗	118	2	1471	陶器	陶胎	碗	87	11
143	磁器	青磁	碗	118	2	1546	陶器	陶胎	碗	163	13
144	磁器	青磁	碗	118	2	1628	陶器	陶胎	碗	221	16
145	磁器	青磁	碗	118	2	1314	陶器	灰軸	兵器手碗	53	9
146	磁器	青磁	碗	164	2	1324	陶器	長石軸	尾呂碗	222	16
147	磁器	青磁	碗	105	2	1340	陶器	掛分け	尾呂碗	95	12
148	磁器	青磁	碗	180	2	1341	陶器	掛分け	尾呂碗	95	12
149	磁器	青磁	碗	155	2	1342	陶器	掛分け	尾呂碗	87	11
150	磁器	青磁	碗	164	2	1343	陶器	掛分け	尾呂碗	95	12
151	磁器	青磁	碗	180	2	1345	陶器	掛分け	尾呂碗	53	9
152	磁器	青磁	碗	164	2	1346	陶器	掛分け	尾呂碗	53	9
153	磁器	青磁	碗	118	2	1347	陶器	掛分け	尾呂碗	95	12
154	磁器	青磁	碗	225	2	1348	陶器	掛分け	尾呂碗	87	11
155	磁器	青磁	碗	140	2	1351	陶器	掛分け	尾呂碗	87	11
156	磁器	青磁	碗	29	6	1352	陶器	掛分け	尾呂碗	95	12
157	磁器	青磁	碗	27	2	1354	陶器	掛分け	尾呂碗	95	12
158	磁器	青磁	碗	83	2	1355	陶器	掛分け	尾呂碗	53	9
159	磁器	青磁	碗	27	2	1362	陶器	掛分け	尾呂碗	24	5
160	磁器	青磁	碗	170	2	1250	陶器	輪軸	尾呂碗	87	11
161	磁器	青磁	碗	224	2	1344	陶器	輪軸	尾呂碗	87	11
162	磁器	青磁	碗	225	2	1356	陶器	輪軸	尾呂碗	99	10
163	磁器	青磁	碗	174	2	1549	陶器	輪軸	尾呂碗	140	14
164	磁器	青磁	碗	27	6	1332	陶器	掛分け	腰辨碗	53	9
165	磁器	青磁	碗	22	2	1333	陶器	掛分け	腰辨碗	83	8
166	磁器	青磁	碗	174	2	1334	陶器	掛分け	腰辨碗	53	9
167	磁器	青磁	碗	140	2	1336	陶器	掛分け	腰辨碗	53	9
168	磁器	青磁	碗	51	8	1337	陶器	掛分け	腰辨碗	74	10
169	磁器	青磁	碗	221	16	1338	陶器	掛分け	腰辨碗	73	8
170	磁器	青磁	碗	221	16	1339	陶器	掛分け	腰辨碗	222	16
171	磁器	青磁	碗	41	7	1357	陶器	掛分け	腰辨碗	53	9
172	磁器	青磁	碗	51	8	1358	陶器	掛分け	腰辨碗	46	7
173	磁器	青磁	碗	69	6	1360	陶器	掛分け	腰辨碗	53	9
174	磁器	青磁	碗	87	11	1361	陶器	掛分け	腰辨碗	53	9
175	磁器	青磁	碗	53	9	1543	陶器	掛分け	腰辨碗	163	13
176	磁器	青磁	碗	24	5	1551	陶器	掛分け	腰辨碗	140	13
177	磁器	青磁	碗	25	5	1255	陶器	灰軸	京焼風碗	41	7
178	磁器	青磁	碗	74	10	1258	陶器	灰軸	京焼風碗	44	7
179	磁器	青磁	碗	95	12	1312	陶器	灰軸	京焼風碗	74	10
180	磁器	青磁	碗	74	10	1310	陶器	灰軸	京焼風碗	95	12
181	磁器	青磁	碗	69	6	1311	陶器	灰軸	京焼風碗	53	9
182	磁器	青磁	碗	69	6	1313	陶器	灰軸	京焼風碗	95	12
183	磁器	青磁	碗	222	16	1315	陶器	灰軸	京焼風碗	87	2
184	磁器	青磁	碗	67	10	1327	陶器	灰軸	京焼風碗	222	16
185	磁器	青磁	碗	140	13	1331	陶器	灰軸	京焼風碗	221	16
186	磁器	青磁	碗	67	10	1316	陶器	灰軸	京焼風碗	22	5
187	磁器	青磁	碗	74	10	1324	陶器	二彩	碗	83	8
188	磁器	青磁	碗	69	6	1325	陶器	二彩	碗	91	8
189	磁器	青磁	碗	87	11	1251	陶器	二彩	碗	41	7
190	磁器	青磁	碗	83	8	1576	陶器	二彩	碗	140	14
191	磁器	青磁	碗	87	2	1558	陶器	二彩	碗	140	13
192	磁器	青磁	碗	53	9	1261	陶器	二彩	碗	35	6
193	磁器	青磁	碗	222	16	1262	陶器	二彩	碗	41	7
194	磁器	青磁	碗	25	5	1263	陶器	二彩	碗	51	8
195	磁器	青磁	碗	87	11	1265	陶器	二彩	碗	221	16
196	磁器	青磁	碗	87	11	1266	陶器	二彩	碗	27	6
197	磁器	青磁	碗	53	9	1326	陶器	二彩鉄絵	碗	92	10
198	磁器	青磁	碗	221	16	1326	陶器	掛分け	碗	42	8
199	磁器	青磁	碗	140	14	1245	陶器	掛分け	碗	41	7
200	磁器	青磁	碗	140	13	1350	陶器	掛分け	碗	222	16
201	磁器	青磁	碗	140	13	1253	陶器	掛分け	碗	41	7
202	磁器	青磁	碗	140	13	1260	陶器	掛分け	碗	41	7
203	磁器	青磁	碗	140	14	1320	陶器	掛分け	碗	53	9
204	磁器	青磁	碗	140	14	1349	陶器	掛分け	碗	53	9
205	磁器	青磁	碗	140	14	1328	陶器	上絵	碗	74	10
206	磁器	青磁	碗	140	14	1330	陶器	上絵	碗	53	9
207	磁器	青磁	碗	140	13	1335	陶器	灰軸	碗	95	12
208	磁器	青磁	碗	140	14	1004	陶器	灰軸	碗	54	9

IV 資料

番号	種類	釉/焼成/材質	器形	頁	写真
1037	陶器	灰釉	碗	170	15
1053	陶器	灰釉	碗	225	16
1257	陶器	灰釉	碗	41	7
1259	陶器	灰釉	碗	22	5
1539	陶器	灰釉	碗	222	16
1318	陶器	灰釉	碗	83	8
1872	陶器	灰釉	碗	203	4
1874	陶器	灰釉	碗	80	4
1876	陶器	灰釉	碗	203	4
1878	陶器	灰釉	碗	63	4
1885	陶器	灰釉	碗	63	4
1888	陶器	灰釉	碗	191	4
1889	陶器	灰釉	碗	191	4
1890	陶器	灰釉	碗	203	4
1916	陶器	灰釉	碗	187	4
1917	陶器	灰釉	碗	225	4
1914	陶器	灰釉	碗	191	4
1051	陶器	灰釉	碗	27	6
1886	陶器	灰釉	碗	63	4
1254	陶器	灰釉鉄絵	碗	41	7
1613	陶器	灰釉鉄絵	碗	197	15
1562	陶器	灰釉鉄絵	碗	140	13
1353	陶器	鉛釉	碗	95	12
1401	陶器	錆釉	碗	53	9
1574	陶器	長石釉	碗	140	2
1329	陶器	藁灰釉	碗	94	10
1323	陶器	緑釉	碗	221	16
1869	陶器	呂須釉	碗	199	4
1252	陶器	黒釉	天目碗	49	8
1363	陶器	黒釉	天目碗	221	16
1364	陶器	黒釉	天目碗	53	9
1538	陶器	黒釉	天目碗	119	13
1249	陶器	柿釉	天目碗	29	6
1366	陶器	うのふ釉	天目碗	60	8
1365	陶器	黒釉	ゲンゴツ碗	83	8
1267	陶器	灰釉鉄絵	柳茶碗	29	6
1837	土器	瓦貫	碗	183	129
1838	土器	須恵器	碗	183	129
2007	土器	須恵器	碗	63	49
2013	土器	須恵器	碗	44	35
2038	土器	須恵器	碗	109	79
2042	土器	須恵器	碗	109	79
2054	土器	須恵器	碗	109	79
2103	土器	須恵器	碗	191	136
2105	土器	須恵器	碗	191	136
2111	土器	須恵器	碗	191	136
2092	土器	須恵器	碗	191	136
2191	土器	須恵器	碗	197	140
2067	土器	須恵器	碗	207	147
2072	土器	須恵器	碗	101	74
2220	土器	須恵器	碗	123	86
2178	土器	須恵器	碗	203	145
2009	土器	黒色土器	碗	201	143
1847	土器	土師器	碗	65	51
2036	土器	土師器	碗	180	128
2039	土器	土師器	碗	63	50
2104	土器	土師器	碗	109	79
2143	土器	土師器	碗	191	136
2175	土器	土師器	碗	192	136
2176	土器	土師器	碗	201	143
2212	土器	土師器	碗	201	143
2224	土器	土師器	碗	201	146
2243	土器	土師器	碗	201	146
2033	土器	土師器	碗	205	146
2222	土器	土師器	碗	24	24
1852	土器	黒色土器	高足碗	203	145
2012	土器	土師器	高足碗	187	133
2015	土器	土師器	高足碗	42	32
2024	土器	土師器	高足碗	44	35
2052	土器	土師器	高足碗	22	23
2073	土器	土師器	高足碗	110	79
2074	土器	土師器	高足碗	198	140
2081	土器	土師器	高足碗	178	125
2088	土器	土師器	高足碗	178	126
2090	土器	土師器	高足碗	199	142
2093	土器	土師器	高足碗	198	140
2094	土器	土師器	高足碗	187	133
2118	土器	土師器	高足碗	187	133
2174	土器	土師器	高足碗	191	136
2177	土器	土師器	高足碗	201	143
2179	土器	土師器	高足碗	201	143
2200	土器	土師器	高足碗	201	143
2202	土器	土師器	高足碗	209	149
2205	土器	土師器	高足碗	207	148
2219	土器	土師器	高足碗	207	148
2242	土器	土師器	高足碗	203	145
2120	土器	土師器	高足碗	205	146
2144	土器	土師器	高足碗	225	162
2025	土器	黒色土器	高足碗	192	136
2240	土器	土師器	高足碗	22	23
2154	土器	土師器	高足碗	205	146
2172	土器	須恵器	高足碗	187	133
1209	磁器	染付	湯呑碗	201	143
1069	磁器	染付	湯呑碗	163	13
1071	磁器	染付	湯呑碗	46	7
1092	磁器	染付	湯呑碗	27	6
1093	磁器	染付	湯呑碗	69	6
1097	磁器	染付	湯呑碗	84	10
1109	磁器	染付	湯呑碗	53	9
1124	磁器	染付	湯呑碗	69	6
1132	磁器	染付	湯呑碗	103	10
1134	磁器	染付	湯呑碗	53	9
1164	磁器	染付	湯呑碗	101	10
1182	磁器	染付	湯呑碗	67	10
1207	磁器	染付	湯呑碗	164	15
1210	磁器	染付	湯呑碗	163	13
1189	磁器	染付	湯呑碗	163	13

番号	種類	釉/焼成/材質	器形	頁	写真
1125	磁器	染付	湯呑碗	84	10
1204	磁器	染付	湯呑碗	222	16
1208	磁器	染付	湯呑碗	163	13
1212	磁器	染付	湯呑碗	163	13
1099	磁器	青磁染付	湯呑碗	74	10
1129	磁器	青磁染付	湯呑碗	87	11
1130	磁器	青磁染付	湯呑碗	83	8
1319	陶器	錆釉	湯呑碗	69	6
1556	陶器	灰釉	湯呑碗	140	13
1611	陶器	象嵌二彩	湯呑碗	170	15
2004	土器	土師器	坏	22	23
2008	土器	土師器	坏	64	50
2014	土器	土師器	坏	42	32
2020	土器	土師器	坏	22	23
2021	土器	土師器	坏	22	23
2022	土器	土師器	坏	22	23
2027	土器	土師器	坏	47	36
2034	土器	土師器	坏	22	23
2041	土器	土師器	坏	109	79
2051	土器	土師器	坏	110	79
2056	土器	土師器	坏	97	70
2075	土器	土師器	坏	178	125
2076	土器	土師器	坏	178	125
2077	土器	土師器	坏	178	125
2078	土器	土師器	坏	178	125
2080	土器	土師器	坏	178	125
2085	土器	土師器	坏	225	162
2091	土器	土師器	坏	198	140
2109	土器	土師器	坏	191	136
2115	土器	土師器	坏	225	162
2117	土器	土師器	坏	191	136
2121	土器	土師器	坏	219	136
2124	土器	土師器	坏	215	157
2128	土器	土師器	坏	215	157
2165	土器	土師器	坏	192	137
2173	土器	土師器	坏	201	143
2184	土器	土師器	坏	208	148
2217	土器	土師器	坏	203	145
2218	土器	土師器	坏	203	145
2223	土器	土師器	坏	203	145
2229	土器	土師器	坏	205	146
2230	土器	土師器	坏	205	146
2231	土器	土師器	坏	205	146
2234	土器	土師器	坏	205	146
2237	土器	土師器	坏	205	146
1703	土器	土師器	坏?	25	24
2106	土器	土師器	模倣坏	191	136
2140	土器	土師器	模倣坏	192	136
2141	土器	土師器	模倣坏	192	136
2030	土器	土師器	坏	27	26
2058	土器	土師器	坏	224	162
2023	土器	須恵器	端反坏	22	23
2161	土器	土師器	端反坏	187	133
2228	土器	土師器	棧花坏	205	146
1096	磁器	染付	小杯	53	9
1140	磁器	染付	小杯	222	16
1145	磁器	染付	小杯?	222	16
1137	磁器	染付	小杯	49	8
1165	磁器	白磁	小杯	67	2
1321	陶器	灰釉	小杯	83	8
1839	土器	黒色土器	小杯	180	128
2155	土器	須恵器	小杯	187	133
1851	土器	土師器	小杯	183	129
2153	土器	土師器	小杯	187	133
2156	土器	土師器	小杯	187	133
2032	土器	土師器	小杯	22	23
1135	磁器	金彩白磁	盃	222	16
1191	磁器	色絵金彩	盃	140	13
1188	磁器	染付	盃	140	14
1197	磁器	染付	盃	140	13
1190	磁器	染付	盃	140	13
1464	磁器	青磁色絵	端反盃	140	13
1061	磁器	染付	猪口	46	7
1071	磁器	染付	猪口	42	8
1116	磁器	染付	猪口	80	8
1120	磁器	染付	猪口	95	12
1122	磁器	染付	猪口	87	11
1467	磁器	染付	猪口	69	6
1469	磁器	染付	猪口	87	11
1470	磁器	染付	猪口	87	11
1465	陶器	陶胎染付	猪口	95	12
1466	陶器	陶胎染付	猪口	95	12
1468	陶器	陶胎染付	猪口	95	12
1248	陶器	灰釉	猪口	47	7
1359	陶器	柿釉	猪口	44	7
1237	陶器	鉄釉	猪口	87	11
1098	磁器	白磁	蕎麦猪口	74	7
1114	磁器	染付	蕎麦猪口	83	8
1290	陶器	灰釉	蕎麦洗?	41	7
1084	磁器	白磁	大皿	87	11
1011	磁器	白磁	皿	118	2
1035	磁器	白磁	皿	224	16
1013	磁器	青磁	皿	95	2
1010	磁器	青磁	皿	141	2
1064	磁器	染付	皿	22	5
1065	磁器	染付	皿	24	2
1066	磁器	染付	皿	221	16
1078	磁器	染付	皿	84	10
1079	磁器	染付	皿	84	10
1082	磁器	染付	皿	53	9
1083	磁器	染付	皿	222	2
1085	磁器	染付	皿	222	16
1088	磁器	染付	皿	69	6
1090	磁器	染付	皿	53	9
1131	磁器	染付	皿	53	9
1185	磁器	染付	皿	140	13
1186	磁器	染付	皿	140	14

3 遺物検索表

番号	種類	軸/焼成/材質	器形	頁	写真
1187	磁器	染付	皿	140	14
1205	磁器	染付	皿	222	16
1216	磁器	染付	皿	170	15
1911	磁器	染付	皿	29	2
1927	磁器	染付	皿	140	14
1001	磁器	染付	輪花皿	22	2
1086	磁器	染付	輪花皿	25	5
1213	磁器	染付	輪花皿	172	15
1022	陶器	灰釉	皿	95	12
1288	陶器	灰釉	皿	44	7
1294	陶器	灰釉	皿	49	7
1448	陶器	灰釉	皿	88	11
1459	陶器	灰釉	皿	222	16
1534	陶器	灰釉	皿	24	5
1870	陶器	灰釉	皿	22	4
1871	陶器	灰釉	皿	22	4
1873	陶器	灰釉	皿	203	4
1882	陶器	灰釉	皿	63	4
1915	陶器	灰釉	皿	23	4
1918	陶器	灰釉	皿	27	4
1444	陶器	灰釉摺絵	皿	69	6
1412	陶器	灰釉摺絵	皿	54	9
1560	陶器	灰釉	腰折皿	140	14
1536	陶器	山皿	224	16	
1292	陶器	鉄釉	皿	51	8
1535	陶器	鉄釉	皿?	222	16
1308	陶器	二彩	皿	103	10
1235	陶器	二彩	皿	35	6
1565	陶器	青緑釉	皿	140	14
1451	陶器	青緑釉	皿	53	9
1607	陶器	鉛釉	皿	170	15
1867	陶器	緑釉	皿	225	4
1868	陶器	緑釉	皿	225	4
1291	陶器	志野釉鉄絵	皿	24	5
1423	陶器	志野釉鉄絵	皿	31	5
1424	陶器	志野釉鉄絵	皿	31	5
1425	陶器	志野釉鉄絵	皿	69	6
1435	陶器	灰釉鉄絵	皿	54	9
1438	陶器	灰釉鉄絵	皿	54	9
1575	陶器	呉須絵	京焼原皿	164	15
1418	陶器	錆釉	端反皿	87	11
1422	陶器	灰釉	端反皿	54	9
1436	陶器	灰釉	端反皿	37	6
1286	陶器	鉛釉	菊皿	33	6
1443	陶器	鉛釉	菊皿	54	9
1299	陶器	志野釉	菊皿	27	6
1566	陶器	志野釉	菊皿	140	14
1426	陶器	二彩織部釉	菊皿	54	9
1427	陶器	二彩織部釉	菊皿	87	11
1428	陶器	二彩鉛釉	菊皿	87	11
1430	陶器	灰釉	菊皿	22	5
1561	陶器	灰釉	菊皿	140	13
1616	陶器	灰釉	菊皿	170	15
1413	陶器	灰釉摺絵	型打皿	54	9
1414	陶器	灰釉	型打皿	54	9
1615	陶器	灰釉	型打皿	170	15
1431	陶器	灰釉	輪禿皿	87	11
1432	陶器	志野釉	輪禿皿	60	8
1450	陶器	灰釉	ひだ皿	54	9
1763	土器	土師質	皿	164	117
1812	土器	土師器	皿	158	112
2221	土器	土師器	皿	203	145
2083	土器	土師器	皿	187	133
2189	土器	土師器	皿	200	142
1835	土器	瓦質	皿	180	128
2241	土器	土師器	高足皿?	205	146
2185	土器	土師器	高足皿?	200	142
1077	磁器	白磁	小皿	95	12
1091	磁器	白磁	小皿	87	11
1136	磁器	白磁	小皿	95	12
1081	磁器	染付	小皿	221	16
1089	磁器	染付	小皿	95	12
1215	磁器	染付	小皿	183	15
1300	陶器	灰釉	小皿	41	7
1302	陶器	灰釉	小皿	41	7
1282	陶器	灰釉	小皿	41	7
1297	陶器	灰釉	小皿	44	7
1442	陶器	灰釉	小皿	87	11
1419	陶器	灰釉	小皿	54	9
1420	陶器	灰釉	小皿	87	11
1421	陶器	灰釉	小皿	83	8
1429	陶器	灰釉	小皿	37	2
1433	陶器	灰釉	小皿	95	12
1537	陶器	灰釉	小皿	222	16
1540	陶器	灰釉	小皿	222	16
1409	陶器	灰釉摺絵	小皿	74	10
1410	陶器	灰釉摺絵	小皿	84	10
1411	陶器	灰釉鉄絵	小皿	57	11
1036	陶器	鉛釉	小皿	77	5
1295	陶器	志野釉	小皿	221	221
1298	陶器	志野織部釉	小皿	42	7
1415	陶器	志野釉	小皿	31	5
1416	陶器	青緑釉	小皿	53	9
1417	陶器	青緑釉	小皿	84	10
1434	陶器	志野釉	小皿	54	9
1437	陶器	長石釉	小皿	92	10
1439	陶器	錆釉	小皿	101	10
1440	陶器	錆釉	小皿	25	5
1441	陶器	鉛釉	小皿	222	16
1445	陶器	鉛釉	小皿	23	5
1577	陶器	無釉	小皿	141	14
1792	土器	瓦質	端反小皿	144	103
1807	土器	瓦質	小皿	144	103
1817	土器	瓦質	小皿	112	108
1820	土器	瓦質	小皿	128	108
1821	土器	瓦質	小皿	159	113
1822	土器	瓦質	小皿	159	113
1826	土器	瓦質	小皿	144	102

番号	種類	軸/焼成/材質	器形	頁	写真
1842	土器	須恵質	小皿	180	128
1827	土器	土師器	小皿	180	128
1811	土器	土師器	小皿	119	84
1813	土器	土師器	小皿	159	113
1814	土器	土師器	小皿	158	112
1816	土器	土師器	小皿	224	162
1641	土器	土師器	小皿	29	26
1846	土器	土師器	小皿	180	128
1850	土器	土師器	小皿	180	128
2016	土器	土師器	小皿	41	32
2031	土器	土師器	小皿	22	23
2037	土器	土師器	小皿	24	24
2096	土器	土師器	小皿	211	150
2097	土器	土師器	小皿	211	150
2099	土器	土師器	小皿	211	150
2100	土器	土師器	小皿	211	150
2101	土器	土師器	小皿	211	150
2102	土器	土師器	小皿	211	150
2108	土器	土師器	小皿	191	136
2162	土器	土師器	小皿	192	137
2188	土器	土師器	小皿	200	142
2199	土器	土師器	小皿	209	149
2239	土器	土師器	小皿	205	146
1848	土器	土師器	小皿?	180	128
2187	土器	土師質	小皿	200	142
1683	土器	土師質	小皿	89	66
1696	土器	土師質	小皿	69	52
1705	土器	土師質	小皿	49	38
1707	土器	土師質	小皿	96	70
1711	土器	土師質	小皿	96	70
1719	土器	土師質	小皿	77	57
1744	土器	土師質	小皿	224	162
1745	土器	土師質	小皿	105	75
1753	土器	土師質	小皿	105	75
1769	土器	土師質	小皿	144	103
1776	土器	土師質	小皿	155	108
2235	土器	土師器	小皿	205	146
2098	土器	土師器	小皿	211	150
2210	土器	土師器	小皿	204	146
1008	磁器	白磁	鉢	118	2
1023	磁器	青磁	鉢	163	2
1025	磁器	青磁	鉢	172	2
1056	磁器	染付	鉢	29	6
1217	磁器	染付	鉢	226	16
1218	陶器	二彩	鉢	221	16
1447	陶器	二彩	鉢	69	6
1449	陶器	二彩	鉢	95	12
1453	陶器	二彩	鉢	101	13
1597	陶器	二彩	鉢	141	13
1455	陶器	二彩鉄絵	鉢	54	9
1027	陶器	灰釉	鉢	24	5
1231	陶器	灰釉鉄絵	鉢	49	8
1446	陶器	黄瀬戸釉	鉢	88	11
1458	陶器	黄瀬戸釉	鉢	60	8
1454	陶器	長石釉	鉢	83	8
1609	陶器	長石釉	鉢	180	15
1603	陶器	鉄釉	鉢	141	14
1921	陶器	自然釉	鉢	24	2
1532	陶器	自然釉	鉢	105	12
1547	陶器	自然釉	鉢	164	15
1635	土器	瓦質	鉢	29	26
1797	土器	瓦質	鉢	143	102
1791	土器	瓦質	鉢	143	103
2203	土器	土師器	鉢	207	148
1557	陶器	灰釉	小鉢	141	13
1808	土器	土師器	小鉢	158	111
1232	陶器	灰釉鉄絵	蓋原鉢	37	6
1234	陶器	灰釉鉄絵	蓋原鉢	42	7
1452	陶器	二彩	蓋原鉢	88	11
1456	陶器	二彩鉄絵	蓋原鉢	54	9
1457	陶器	長石釉	蓋原鉢	23	5
1595	陶器	二彩	蓋原鉢	141	13
1598	陶器	二彩	蓋原鉢	141	14
2130	陶器	自然釉	高坏	213	103
1793	土器	土師器	高坏	144	103
1849	土器	土師器	高坏	181	128
2026	土器	土師器	高坏	221	161
2060	土器	土師器	高坏	57	45
2135	土器	土師器	高坏	191	136
2150	土器	土師器	高坏	192	137
2151	土器	土師器	高坏	192	137
2164	土器	土師器	高坏	192	137
2063	土器	土師器	高坏	57	45
2152	土器	土師器	器台	192	137
1157	磁器	白磁	蓋	69	6
1583	陶器	自然釉	蓋	142	14
1592	陶器	自然釉	蓋	142	14
1752	陶器	無釉	蓋?	118	84
1754	陶器	自然釉	蓋?	118	84
1859	土器	瓦質	蓋?	31	28
1762	土器	土師質	蓋	187	133
1912	土器	須恵器	ハソウカ	191	136
2133	土器	土師器	小形丸底蓋	191	136
2142	土器	土師器	小形丸底蓋	192	136
2147	土器	土師器	小形丸底蓋	192	137
2148	土器	土師器	小形蓋	192	137
2160	土器	土師器	小形蓋	187	133

貯蔵器

1034	磁器	青磁	瓶	224	16
1148	磁器	青磁	瓶	54	9
1029	磁器	青磁	瓶類	164	13
1059	磁器	染付	瓶	27	6
1062	磁器	染付	瓶	35	6
1063	磁器	染付	瓶	49	2
1067	磁器	染付	瓶	221	2
1075	磁器	染付	瓶	41	7
1150	磁器	染付	瓶	84	2

IV 資料

番号	種類	軸/焼成/材質	器形	頁	写真
1152	磁器	染付	瓶	54	9
1154	磁器	染付	瓶	69	2
1158	磁器	染付	瓶	87	2
1163	磁器	染付	瓶	67	10
1166	磁器	染付	瓶	222	16
1087	磁器	白磁	瓶	25	5
1160	磁器	白磁	瓶	222	16
1169	磁器	白磁	瓶	67	10
1170	磁器	白磁	瓶	67	10
1224	陶器	鉛釉	瓶	24	5
1296	陶器	黒天目	瓶	24	5
1371	陶器	黒軸	瓶	69	6
1373	陶器	黒軸	瓶	88	11
1379	陶器	灰軸	瓶	25	5
1548	陶器	灰軸	瓶	163	13
1880	陶器	灰軸	瓶	64	4
1881	陶器	灰軸	瓶	164	4
1887	陶器	灰軸	瓶	63	4
1929	陶器	灰軸	瓶	225	4
1708	陶器	灰軸?	瓶類	54	
1572	陶器	二彩	瓶	140	14
1866	陶器	二彩	瓶	22	4
1567	陶器	古瀬戸	瓶子	141	14
1571	陶器	練上げ	瓶類	164	15
1759	陶器	須恵質	瓶	164	117
1718	陶器	須恵質	瓶?	222	161
2011	陶器	須恵器	瓶類?	64	50
1636	土器	瓦質	瓶?	24	24
2182	土器	須恵器	瓶類?	208	148
1563	陶器	灰軸	瓶蓋	141	14
1497	陶器	柿軸	瓶蓋	88	11
1875	陶器	灰軸	長須瓶	64	4
1877	陶器	灰軸	長須瓶	200	4
2233	陶器	灰軸	長須瓶	205	4
1303	陶器	灰軸	小瓶	22	5
1306	陶器	灰軸	小瓶	23	5
1578	土器	塗彩	小瓶類	142	14
1156	磁器	染付	德利	95	2
1161	磁器	染付	德利	222	16
1167	磁器	白磁	德利	87	11
1228	陶器	鉛釉	德利	24	5
1404	陶器	鉛釉	德利	22	5
1405	陶器	鉛釉	德利	25	5
1406	陶器	鉛釉	德利	87	11
1382	陶器	鉛釉	德利	74	10
1610	陶器	鉛釉	德利?	170	15
1229	陶器	柿軸	德利	41	7
1391	陶器	柿軸	德利	60	8
1367	陶器	柿軸	德利	96	12
1386	陶器	柿軸	德利	54	9
1387	陶器	柿軸	德利	222	16
1230	陶器	鉄軸	德利	46	7
1370	陶器	錆軸	德利	84	10
1376	陶器	錆軸	德利	54	9
1614	陶器	錆軸	德利	170	15
1384	陶器	錆軸	德利	96	12
1385	陶器	錆軸	德利	74	10
1243	陶器	黒軸	德利?	24	5
1388	陶器	灰軸	德利	54	9
1389	陶器	灰軸	德利	91	8
1242	陶器	青緑釉	德利	44	7
1606	陶器	白化粧	德利	170	15
1374	陶器	掛分け	德利	42	7
1378	陶器	掛分け	尾呂德利	95	12
1380	陶器	掛分け	尾呂德利	87	11
1395	陶器	掛分け	尾呂德利	54	9
1399	陶器	掛分け	尾呂德利	54	9
1573	陶器	掛分け	尾呂德利	141	14
1202	陶器	須恵	尾呂德利	141	13
1172	磁器	染付	段重	141	14
1048	磁器	染付	蓋	163	13
1264	陶器	錆軸	蓋	96	12
1080	磁器	白磁	蓋付小鉢	87	11
1162	磁器	染付	蓋物	222	16
1495	陶器	鉛釉	小物蓋	222	16
1293	陶器	鉛釉	落とし蓋	31	6
1047	磁器	青磁	蓋	44	2
1928	陶器	黒軸	蓋	158	15
1879	陶器	灰軸	蓋	199	4
1883	陶器	灰軸	蓋	187	4
1884	陶器	自然軸	蓋	227	4
2204	陶器	須恵器	蓋	207	148
2005	陶器	須恵器	蓋	65	51
2002	土器	須恵器	蓋	64	50
2017	土器	須恵器	蓋	44	35
2068	土器	土師器	蓋	192	137
2134	土器	土師器	蓋	191	136
2146	土器	土師器	蓋	192	137
2149	土器	土師器	蓋	192	137
1527	陶器	自然軸	四耳壺	192	16
1372	陶器	柿軸	四耳壺?	88	11
1394	陶器	黒軸	四耳壺?	69	6
1523	陶器	自然軸	大甕	96	12
1525	陶器	自然軸	大甕	23	5
1524	陶器	無軸	大甕	224	16
1854	土器	瓦質	大甕?	225	162
1519	陶器	自然軸	大甕?	23	5
1520	陶器	自然軸	大甕?	25	5
1521	陶器	自然軸	大甕?	23	5
1522	陶器	錆軸	大甕?	55	9
1600	陶器	二彩	甕	141	14
1601	陶器	二彩	甕	141	13
1602	陶器	錆軸	甕	142	14
1624	陶器	錆軸	甕	180	15
1612	陶器	自然軸	甕	180	15
1621	陶器	自然軸	甕	174	15
1623	陶器	自然軸	甕	115	5
1529	陶器	自然軸	甕		

番号	種類	軸/焼成/材質	器形	頁	写真
1533	陶器	自然軸	甕	224	16
1581	陶器	自然軸	甕	142	14
1582	陶器	自然軸	甕	142	14
1747	陶器	自然軸	甕	118	84
1749	陶器	自然軸	甕	118	84
1920	陶器	自然軸	甕	118	
1923	陶器	自然軸	甕	25	
1924	陶器	焼締	甕	180	
1922	陶器	焼締	甕	180	
1309	陶器	焼締	甕	44	7
1750	陶器	無軸	甕	118	84
1587	陶器	無軸	甕	164	15
1220	陶器	鉄軸	半甕	24	5
1369	陶器	鉄軸	半甕	54	9
1375	陶器	柿軸	半甕	88	11
1383	陶器	柿軸	半甕	84	10
1758	陶器	須恵器	甕	163	117
1789	陶器	須恵器	甕	144	103
2071	陶器	須恵器	甕	198	140
2132	陶器	須恵器	甕	191	136
2196	陶器	須恵器	甕	207	147
調理器					
	木器	モモ	杵?	75	56
	木器	スギ	胸吊り	75	56
	金属器	鉄	な板	25	24
	陶器	鉛釉	行平塼蓋	172	15
	陶器	錆軸	行平塼	221	16
	瓦質	粗粒	行平塼?	118	84
	石造物	粗粒	片口鉢	159	112
	石造物	粗粒	片口鉢	158	111
	陶器	鉛釉	片口鉢	27	6
	陶器	灰軸	片口鉢	41	7
	陶器	灰軸	片口鉢	24	5
	陶器	灰軸	片口鉢	29	6
	陶器	灰軸	片口鉢	222	16
	陶器	灰軸	片口鉢	141	14
	陶器	二彩	片口鉢?	83	8
	陶器	二彩	片口鉢	42	7
	陶器	二彩	片口鉢	24	5
	陶器	二彩	片口鉢	51	8
	陶器	二彩	片口鉢	96	12
	陶器	二彩	片口鉢	95	12
	陶器	二彩	片口鉢	95	12
	陶器	二彩	片口鉢	141	14
	陶器	鉛釉	片口鉢	35	6
	陶器	鉛釉	片口鉢	54	9
	陶器	自然軸	コネ鉢	105	12
	陶器	自然軸	コネ鉢	99	10
	陶器	自然軸	コネ鉢	180	15
	陶器	自然軸	コネ鉢	164	15
	陶器	無軸	コネ鉢	180	
	陶器	無軸	コネ鉢	119	13
	陶器	無軸	コネ鉢	224	14
	陶器	無軸	コネ鉢	142	14
	陶器	無軸	コネ鉢	180	15
	陶器	無軸	コネ鉢	180	15
	陶器	無軸	コネ鉢	24	
	陶器	無軸	コネ鉢	22	
	陶器	無軸	コネ鉢	25	
	陶器	無軸	コネ鉢	23	
	陶器	無軸	コネ鉢	123	87
	陶器	無軸	コネ鉢	142	142
	陶器	無軸	コネ鉢?	180	15
	陶器	須恵質	コネ鉢	23	
	陶器	須恵質	コネ鉢	226	163
	陶器	須恵質	コネ鉢	163	
	陶器	須恵質	コネ鉢	164	117
	土器	須恵質	コネ鉢	143	103
	土器	須恵質	コネ鉢	143	103
	土器	瓦質	コネ鉢	164	15
	土器	瓦質	コネ鉢	143	14
	土器	瓦質	コネ鉢?	119	84
	陶器	錆軸	コネ鉢	88	11
	陶器	錆軸	コネ鉢	88	11
	陶器	錆軸	コネ鉢	88	11
	陶器	錆軸	コネ鉢	88	11
	陶器	錆軸	コネ鉢	84	10
	陶器	錆軸	コネ鉢	74	10
	陶器	錆軸	コネ鉢	55	8
	陶器	錆軸	コネ鉢	96	12
	陶器	錆軸	コネ鉢	88	11
	陶器	錆軸	コネ鉢	105	12
	陶器	錆軸	コネ鉢	55	8
	陶器	錆軸	コネ鉢	221	16
	陶器	錆軸	コネ鉢	55	8
	陶器	錆軸	コネ鉢	142	14
	陶器	錆軸	コネ鉢	89	11
	陶器	自然軸	コネ鉢	96	12
	陶器	自然軸	コネ鉢	101	10
	陶器	自然軸	コネ鉢	164	15
	陶器	無軸	コネ鉢	143	14
	陶器	無軸	コネ鉢	142	14
	陶器	無軸	コネ鉢	143	14
	陶器	無軸	コネ鉢	142	13
	陶器	無軸?	コネ鉢	89	11
	陶器	無軸?	コネ鉢	89	2
	陶器	無軸	コネ鉢	89	66
	陶器	無軸	コネ鉢	142	13
	土器	瓦質	コネ鉢?	143	103
	土器	瓦質	コネ鉢	224	162
	土器	瓦質	コネ鉢	159	113
	土器	瓦質	コネ鉢?	143	102
	陶器	錆軸	煙硝槽	222	16
	石造物	粗粒	石臼	159	112
	石造物	粗粒	石臼?	151	107
	石造物	粗粒	石臼下玉	151	107
	石造物	粗粒	石臼下玉	151	107

3 遺物検索表

番号	種類	釉/焼成/材質	器形	頁	写真
4068	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	58	46
4070	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	58	46
4072	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	58	46
4075	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	90	66
4077	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	90	66
4082	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	58	46
4092	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	151	107
4095	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	151	107
4107	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	151	107
4108	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	151	107
4115	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	46	36
4116	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	46	36
4121	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	46	36
4122	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	46	36
4123	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	46	36
4130	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	42	32
4155	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	105	76
4160	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	23	23
4164	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	223	161
4173	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	75	56
4180	石造物	粗粒安山岩	石白下玉	84	64
4359	石造物	牛伏砂岩	石白下玉	46	36
4166	石造物	牛伏砂岩	石白下玉	99	72
4022	石造物	凝灰岩質砂岩	石白下玉	151	107
4006	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	151	107
4059	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	151	107
4064	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	151	107
4067	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	51	43
4085	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	58	46
4099	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	151	107
4111	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	46	36
4112	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	46	36
4113	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	46	36
4120	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	46	36
4125	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	46	36
4141	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	58	46
4149	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	101	74
4150	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	101	74
4153	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	81	61
4156	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	37	29
4158	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	223	161
4169	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	84	64
4170	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	84	64
4172	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	75	56
4175	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	75	56
4176	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	75	56
4351	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	159	112
4353	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	159	112
4377	石造物	粗粒安山岩	石白上玉	226	163
4145	石造物	粗粒安山岩	茶白下玉	225	162
4350	石造物	粗粒安山岩	茶白下玉	159	112
4179	石造物	粗粒安山岩	茶白下玉	84	64
4181	石造物	粗粒安山岩	茶白下玉	84	64
4352	石造物	粗粒安山岩	茶白上玉	159	112
4154	石造物	粗粒安山岩	茶白上玉	81	61
4159	石造物	粗粒安山岩	茶白上玉	23	23
4357	石造物	粗粒安山岩	茶白上玉	158	111
1542	陶器	藁灰釉	土瓶	163	13
1554	陶器	長石釉	土瓶	141	14
1555	陶器	灰釉鉄絵	土瓶蓋	141	14
1604	陶器	鉄軸	土壺蓋	225	16
1649	土器	瓦質	塙	46	36
1664	土器	瓦質	塙	97	70
1667	土器	瓦質	塙	57	45
1678	土器	瓦質	塙	57	46
1689	土器	瓦質	塙	56	45
1690	土器	瓦質	塙	57	45
1691	土器	瓦質	塙	57	45
1692	土器	瓦質	塙	57	45
1694	土器	瓦質	塙	57	45
1695	土器	瓦質	塙	81	61
1714	土器	瓦質	塙	89	66
1777	土器	瓦質	塙	155	108
1778	土器	瓦質	塙	158	112
1801	土器	瓦質	塙	143	102
1802	土器	瓦質	塙	143	102
1805	土器	瓦質	塙	143	102
1809	土器	瓦質	塙	159	113
1823	土器	瓦質	塙	158	112
1825	土器	瓦質	塙	158	111
1829	土器	瓦質	塙	180	128
1723	土器	瓦質	塙	224	162
1770	土器	瓦質	塙	143	102
1736	土器	瓦質	塙?	83	64
1832	土器	瓦質	塙?	180	128
1804	土器	須恵器	塙	143	103
1700	土器	瓦質	鉢形塙	69	52
1724	土器	瓦質	鉢形塙	222	161
1729	土器	瓦質	鉢形塙	222	161
1834	土器	瓦質	把手付塙	158	112
1605	陶器	鉄軸	把手付塙	225	16
5063B	金属器	鉢	脚付鉢	147	104
1799	土器	瓦質	脚付小形塙	145	103
1806	土器	瓦質	脚付小形塙	144	102
1738	土器	化粧掛	釜	25	24
2003	土器	土師器	釜	65	51
2116	土器	土師器	釜	175	123
2186	土器	土師器	釜?	200	142
1774	土器	瓦質	釜台?	144	102
1742	土器	瓦質	釜台?	222	161
1818	土器	瓦質	釜台?	158	112
2061	陶器	須恵器	瓶	57	45
2138	土器	須恵器	瓶	191	136
1863	土器	土師器	瓶把手?	174	120
1509	土器	瓦質	焜炉	89	45
1634	土器	瓦質	焜炉	24	24
1639	土器	瓦質	焜炉	24	24
1640	土器	瓦質	焜炉	24	24

番号	種類	釉/焼成/材質	器形	頁	写真
1642	土器	瓦質	焜炉	29	26
1706	土器	瓦質	焜炉	80	61
1710	土器	瓦質	焜炉	80	61
1731	土器	瓦質	焜炉	74	56
1765	土器	瓦質	焜炉	144	102
1766	土器	瓦質	焜炉	144	102
1784	土器	瓦質	焜炉	144	103
1785	土器	瓦質	焜炉	146	103
1794	土器	瓦質	焜炉	146	103
1857	土器	瓦質	焜炉	225	162
1903	土器	瓦質	焜炉	144	102
1630	土器	瓦質	焜炉??	24	24
1720	土器	瓦質	焜炉??	25	24
1740	土器	瓦質	焜炉??	31	28
5030A	金属器	鉄	焜炉	80	61
1853	土器	鉄	練炭おこし	225	162
5031B	金属器	鉄	五徳	223	162
5048A	金属器	鉄	五徳	170	121
5048B	金属器	鉄	五徳?	170	121
1637	土器	瓦質	焙烙	24	24
1644	土器	瓦質	焙烙	41	32
1646	土器	瓦質	焙烙	47	36
1650	土器	瓦質	焙烙	41	32
1653	土器	瓦質	焙烙	22	23
1654	土器	瓦質	焙烙	22	23
1656	土器	瓦質	焙烙	37	29
1657	土器	瓦質	焙烙	96	70
1658	土器	瓦質	焙烙	96	70
1665	土器	瓦質	焙烙	96	70
1666	土器	瓦質	焙烙	96	70
1668	土器	瓦質	焙烙	56	45
1670	土器	瓦質	焙烙	56	45
1671	土器	瓦質	焙烙	56	45
1672	土器	瓦質	焙烙	56	45
1673	土器	瓦質	焙烙	89	66
1674	土器	瓦質	焙烙	56	45
1675	土器	瓦質	焙烙	56	45
1677	土器	瓦質	焙烙	56	45
1687	土器	瓦質	焙烙	56	45
1693	土器	瓦質	焙烙	56	45
1715	土器	瓦質	焙烙	23	23
1725	土器	瓦質	焙烙	31	28
1726	土器	瓦質	焙烙	31	28
1733	土器	瓦質	焙烙	81	61
1734	土器	瓦質	焙烙	91	67
1735	土器	瓦質	焙烙	81	61
1739	土器	瓦質	焙烙	56	45
1741	土器	瓦質	焙烙	56	45
1748	土器	瓦質	焙烙	105	75
1756	土器	瓦質	焙烙	163	117
1786	土器	瓦質	焙烙	143	102
1800	土器	瓦質	焙烙	101	74
1660	土器	瓦質	焙烙??	96	70
1790	土器	瓦質	焙烙??	143	103
1767	土器	瓦質	焙烙??	143	103
1795	土器	瓦質	焙烙??	145	103
1796	土器	瓦質	焙烙??	145	103
1223	陶器	灰釉	練鉢	41	7
1400	陶器	輪軸	練鉢	80	8
1743	土器	須恵器	須恵器	123	87
2213	土器	須恵器	須恵器	204	146
1936	土器	土師器	須恵器	180	128
1841	土器	土師器	須恵器	187	133
2049	土器	土師器	須恵器	109	79
2050	土器	土師器	須恵器	109	79
2055	土器	土師器	須恵器	110	79
2057	土器	土師器	須恵器	97	70
2086	土器	土師器	須恵器	199	142
2087	土器	土師器	須恵器	199	142
2122	土器	土師器	須恵器	226	163
2125	土器	土師器	須恵器	215	157
2129	土器	土師器	須恵器	215	156
2139	土器	土師器	須恵器	191	136
2157	土器	土師器	須恵器	187	133
2166	土器	土師器	須恵器	201	143
2167	土器	土師器	須恵器	201	143
2169	土器	土師器	須恵器	201	143
2170	土器	土師器	須恵器	201	143
2171	土器	土師器	須恵器	201	143
2183	土器	土師器	須恵器	208	148
2193	土器	土師器	須恵器	209	149
2194	土器	土師器	須恵器	209	149
2195	土器	土師器	須恵器	209	149
2197	土器	土師器	須恵器	209	149
2206	土器	土師器	須恵器	199	142
2215	土器	土師器	須恵器	203	145
2216	土器	土師器	須恵器	203	145
2297	土器	土師器	須恵器	200	142
1844	土器	土師器	須恵器?	180	128
2145	土器	土師器	長須恵器	192	137
2001	土器	土師器	コ字須恵器	64	50
2006	土器	土師器	コ字須恵器	63	49
2112	土器	土師器	コ字須恵器	191	136
2207	土器	土師器	コ字須恵器	199	142
2225	土器	土師器	コ字須恵器	205	147
2226	土器	土師器	コ字須恵器	205	147
2227	土器	土師器	コ字須恵器	205	147
2064	土器	土師器	台付須恵器	75	56
2065	土器	土師器	台付須恵器	25	24
2113	土器	土師器	台付須恵器	191	136
2198	土器	土師器	台付須恵器	209	149
2201	土器	土師器	台付須恵器	207	148
2238	土器	土師器	台付須恵器	205	147
2123	土器	土師器	台付須恵器?	225	162
1845	土器	土師器	小形須恵器	187	133
2043	土器	土師器	小形須恵器	109	79
2127	土器	須恵器	羽釜	215	157
2211	土器	須恵器	羽釜	204	146

IV 資料

番号	種類	釉/焼成/材質	器形	頁	写真
2214	土器	須恵器	羽釜	203	145
1843	土器	土師器	羽釜	180	128
2028	土器	土師器	羽釜	35	29
2070	土器	土師器	羽釜	23	23
2158	土器	土師器	羽釜	192	137
2180	土器	土師器	羽釜	201	143
2181	土器	土師器	羽釜	200	143
2296	土器	土師器	羽釜	205	146
2190	土器	土師質	羽釜	200	142
2192	土器	土師質	羽釜	209	149
2168	土器	土師質	羽釜	201	143
1860	土器	瓦質	甕?	121	85
2126	土器	須恵器	甕台部?	215	157
2010	土器	土師器	S字甕	65	

火処

5047A	金属器	鉄	火打金	170	121
1046	磁器	青磁	香炉	224	2
1283	陶器	灰釉	香炉	41	7
1304	陶器	灰釉	香炉	49	8
1305	陶器	灰釉	香炉	41	7
1487	陶器	灰釉	香炉	92	10
1475	陶器	灰釉	香炉	96	12
1473	陶器	灰釉	香炉	55	9
1486	陶器	灰釉	香炉?	80	8
1474	陶器	灰釉	香炉	55	9
1476	陶器	灰釉	香炉	89	11
1485	陶器	灰釉	香炉	55	9
1472	陶器	灰釉	香炉	89	11
1493	陶器	灰釉	香炉	89	11
1569	陶器	灰釉	香炉	141	14
1489	陶器	灰釉	香炉?	221	16
1608	陶器	灰釉	香炉	170	15
1490	陶器	灰釉	香炉	96	12
1368	陶器	灰釉	香炉?	55	9
1171	磁器	青磁	火入れ	55	9
1198	磁器	青磁	火入れ	141	13
1392	陶器	灰釉	火入れ	74	10
1478	陶器	灰釉	火入れ	96	12
1494	陶器	灰釉	火入れ	74	10
1659	土器	瓦質	火入れ	96	70
1663	土器	瓦質	火入れ	96	70
1682	土器	瓦質	火入れ	55	45
1684	土器	瓦質	火入れ	89	66
1696	土器	瓦質	火入れ	69	52
1757	土器	瓦質	火入れ	163	117
1798	土器	瓦質	火入れ	145	102
1716	土器	瓦質	火入れ?	77	57
1902	土器	瓦質	火入れ?	145	102
1480	陶器	灰釉	小形火入れ	69	6
1651	土器	瓦質	小形火入れ	41	32
5030E	金属器	鉄	火箸?	80	61
1662	土器	瓦質	火鉢	96	70
1676	土器	瓦質	火鉢	57	45
1681	土器	瓦質	火鉢	89	66
1686	土器	瓦質	火鉢	55	45
1688	土器	瓦質	火鉢	67	52
1732	土器	瓦質	火鉢	74	56
1764	土器	瓦質	火鉢	145	102
1779	土器	瓦質	火鉢	145	102
1788	土器	瓦質	火鉢	145	102
1901	土器	瓦質	火鉢	145	102
1905	土器	瓦質	火鉢	145	102
1824	土器	瓦質	火鉢	158	111
1638	土器	瓦質	火鉢?	29	26
1685	土器	瓦質	火鉢?	69	52
1704	土器	瓦質	火鉢?	94	70
1713	土器	瓦質	火鉢?	101	74
1730	土器	瓦質	火鉢?	75	56
1862	土器	瓦質	火鉢?	121	85
1907	土器	瓦質	火鉢?	144	102
1727	土器	瓦質	火鉢脚部	145	162
1773	土器	瓦質	火鉢脚部	144	102
1781	土器	瓦質	火鉢脚部	145	102
1782	土器	瓦質	火鉢脚部	144	102
1783	土器	瓦質	火鉢脚部	144	102
1906	土器	瓦質	火鉢脚部	144	102
1865	土器	瓦質	火鉢脚部?	180	15
1768	土器	瓦質	火鉢把手?	145	103
1909	土器	瓦質	火鉢把手?	145	102
1712	土器	土師質	火鉢?	80	61
1787	土器	土師質	火鉢?	145	102
1910	土器	土師質	火鉢?	145	102
1652	土器	須恵器	小形火鉢?	51	43

灯火器

1648	土器	瓦質	瓦灯	51	43
1709	土器	瓦質	瓦灯	83	64
1737	土器	瓦質	瓦灯	75	56
1771	土器	瓦質	瓦灯	144	102
1864	土器	瓦質	瓦灯	44	35
1643	土器	瓦質	瓦灯?	29	26
1679	土器	瓦質	手持灯器	55	45
1680	土器	瓦質	手持灯器	89	66
1201	磁器	白磁	灯志押え	142	14
1149	磁器	白磁	灯志押え	80	8
1699	土器	土師質	灯明具?	69	52
1284	陶器	銅釉	灯明皿	41	7
1285	陶器	銅釉	灯明皿	46	7
1289	陶器	黒釉	灯明皿	44	7
1772	土器	瓦質	灯明皿	144	103
1492	陶器	灰釉	根米型灯明皿	74	10
1233	陶器	灰釉	乗場	24	5
1481	陶器	黒釉	乗場	69	6
1484	磁器	青磁	乗場	80	8
1559	陶器	乗場	乗場	142	14
1168	磁器	油壺?	油壺?	83	8
1225	陶器	柿軸	油徳利	51	8

番号	種類	釉/焼成/材質	器形	頁	写真
1545	陶器	黒釉	油瓶	163	13
1477	陶器	灰釉	油瓶?	69	6

文具・化粧品・花器類

1396	陶器	灰釉	鬘水入れ	67	10
1420	陶器	灰釉	鬘水入れ	22	5
1568	陶器	灰釉	鬘水入れ	142	14
1570	陶器	灰釉	鬘水入れ	142	14
5083	金属器	銅	煙管	84	64
5096	金属器	銅	煙管	31	28
5103	金属器	銅	煙管	223	161
5014	金属器	銅	煙管首	23	23
5023	金属器	銅	煙管首	42	32
5027	金属器	銅	煙管首	44	35
5092	金属器	銅	煙管首	223	161
5093	金属器	銅	煙管首	77	57
5107	金属器	銅	煙管首	147	104
5081	金属器	銅	煙管首	81	61
5015	金属器	銅	煙管吸口	29	26
5018	金属器	銅	煙管吸口	35	29
5028	金属器	銅	煙管吸口	49	38
5108	金属器	銅	煙管吸口	147	104
3082	木器	モミ	下駄	136	99
3083	木器	スギ	下駄	136	99
3084	木器	スギ	下駄	136	99
3086	木器	スズリハ	下駄	136	99
3130	皮製品		巾着?	136	99
5073	金属器	鉄	帯金具類	147	104
6001	ガラス器	透明	薬瓶	147	16
6002	ガラス器	透明	薬瓶	44	16
6007	ガラス器	群青色	薬瓶	147	16
6008	ガラス器	透明	薬瓶?	147	16
6010	ガラス器	青色	小玉	181	16
1891	土製品	土師質	小玉	187	133
4185	石製品	頁岩	硯	74	56
4187	石製品	頁岩	硯	23	23
4188	石製品	頁岩	硯	83	64
4189	石製品	頁岩	硯	59	46
4191	石製品	頁岩	硯	49	38
4193	石製品	頁岩	硯	59	46
4194	石製品	頁岩	硯	77	
4196	石製品	頁岩	硯	84	64
4197	石製品	頁岩	硯	83	64
4198	石製品	頁岩	硯	94	70
4200	石製品	頁岩	硯	128	108
4204	石製品	頁岩	硯	27	26
4186	石製品	頁岩	小形硯	42	32
4195	石製品	頁岩	小形硯?	23	23
1151	磁器	染付	水滴	74	10
1307	陶器	灰釉	水滴	29	6
4199	石製品	頁岩	石板	27	26
4414	石製品	業類石	石筆	181	128
1287	陶器	灰釉	花瓶	31	6
1488	陶器	灰釉	鳥餌入れ	69	6
1222	陶器	呉須釉	植木鉢	221	16
1579	陶器	青緑釉	植木鉢	222	16
1482	陶器	鑄釉	植木鉢	55	9
1398	陶器	二彩	水注	84	10
1483	陶器	灰釉	水注	95	12
1622	陶器	灰釉	水注	180	15
1072	磁器	白磁	ミニチュア	44	7
1200	磁器	白磁	ミニチュア	142	13
1301	磁器	色絵	ミニチュア	27	6
6003	ガラス器	白色地	おはじき	44	16
6004	ガラス器	青緑色	おはじき	147	16
6005	ガラス器	青色	おはじき	170	16
6006	ガラス器	オリーブ色	おはじき	183	16

祭祀具

4109	石造物	粗粒安山岩	仏像頭部	148	105
4110	石造物	粗粒安山岩	仏像頭部	148	105
1238	陶器	鉄釉	仏花瓶	24	5
1550	陶器	鉄釉	仏花瓶	142	14
1564	陶器	鉄釉	仏花瓶	142	14
1496	陶器	灰釉	仏飯器	54	9
5062A	金属器	鉄	鉢	215	156
4007	石造物	粗粒安山岩	五輪塔火輪	149	105
4008	石造物	粗粒安山岩	五輪塔火輪	149	105
4043	石造物	粗粒安山岩	五輪塔火輪	158	112
4080	石造物	粗粒安山岩	五輪塔火輪	58	46
4084	石造物	粗粒安山岩	五輪塔火輪	58	46
4090	石造物	粗粒安山岩	五輪塔火輪	149	105
4147	石造物	粗粒安山岩	五輪塔火輪	46	36
4163	石造物	粗粒安山岩	五輪塔火輪	81	61
4167	石造物	粗粒安山岩	五輪塔火輪	84	64
4104	石造物	粗粒安山岩	五輪塔火輪	158	112
4118	石造物	角閃石安山岩	五輪塔火輪	46	36
4092	石造物	粗粒安山岩	五輪塔空風輪	149	105
4009	石造物	粗粒安山岩	五輪塔空風輪	149	105
4030	石造物	粗粒安山岩	五輪塔空風輪	149	105
4035	石造物	粗粒安山岩	五輪塔空風輪	149	105
4038	石造物	粗粒安山岩	五輪塔空風輪	149	105
4091	石造物	粗粒安山岩	五輪塔空風輪	149	105
4098	石造物	粗粒安山岩	五輪塔空風輪	149	105
4100	石造物	粗粒安山岩	五輪塔空風輪	149	105
4101	石造物	粗粒安山岩	五輪塔空風輪	149	105
4102	石造物	粗粒安山岩	五輪塔空風輪	149	105
4011	石造物	粗粒安山岩	五輪塔水輪	149	105
4015	石造物	粗粒安山岩	五輪塔水輪	149	105
4027	石造物	粗粒安山岩	五輪塔水輪	149	105
4028	石造物	粗粒安山岩	五輪塔水輪	149	105
4061	石造物	粗粒安山岩	五輪塔水輪	149	105
4079	石造物	粗粒安山岩	五輪塔水輪	58	46
4114	石造物	粗粒安山岩	五輪塔水輪	46	36
4119	石造物	粗粒安山岩	五輪塔水輪	46	36
4128	石造物	粗粒安山岩	五輪塔水輪	32	32
4148	石造物	粗粒安山岩	五輪塔水輪	23	23
4171	石造物	粗粒安山岩	五輪塔水輪	72	53

3 遺物検索表

番号	種類	釉/焼成/材質	器形	頁	写真
4066	石造物	角閃石安山岩	五輪塔水輪	149	105
4135	石造物	角閃石安山岩	五輪塔水輪	42	32
4012	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	149	105
4014	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	149	105
4016	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	149	105
4017	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	149	105
4020	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	149	105
4024	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	149	105
4026	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	149	105
4034	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	149	105
4039	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	158	112
4040	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	158	111
4042	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	158	112
4049	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	149	106
4060	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	149	105
4078	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	58	46
4086	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	58	46
4184	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	84	64
4127	石造物	粗粒安山岩	五輪塔地輪	42	32
4096	石造物	流紋岩	五輪塔地輪	149	106
4010	石造物	粗粒安山岩	宝篋印塔相輪	150	107
4103	石造物	粗粒安山岩	宝篋印塔相輪	150	105
4004	石造物	粗粒安山岩	宝篋印塔屋蓋	150	107
4058	石造物	粗粒安山岩	宝篋印塔屋蓋	150	107
4041	石造物	粗粒安山岩	宝篋印塔塔身	150	106
4144	石造物	粗粒安山岩	宝篋印塔基礎	58	46
4361	石造物	粗粒安山岩	宝篋印塔	158	111
4018	石造物	粗粒安山岩	宝篋印塔?	150	107
4025	石造物	粗粒安山岩	庚申塔	148	107
4046	石造物	粗粒安山岩	庚申塔	148	107
4054	石造物	粗粒安山岩	庚申塔	148	106
4056	石造物	粗粒安山岩	庚申塔	148	106
4062	石造物	粗粒安山岩	庚申塔	148	106
4089	石造物	粗粒安山岩	庚申塔	148	106
4093	石造物	粗粒安山岩	庚申塔	148	106
4139	石造物	粗粒安山岩	庚申塔片?	42	32
4047	石造物	粗粒安山岩	墨書石片	148	107
4045	石造物	粗粒安山岩	墓標塔	148	106
4048	石造物	粗粒安山岩	墓標塔基礎	150	106
4051	石造物	粗粒安山岩	墓標塔基礎	150	106
4013	石造物	粗粒安山岩	方形石塔台部	150	106
4032	石造物	粗粒安山岩	石宮屋蓋部	148	106
4073	石造物	角閃石安山岩	石宮?	90	66
4050	石造物	粗粒安山岩	石塔基礎	150	106
4052	石造物	粗粒安山岩	石塔基礎	150	106
4055	石造物	粗粒安山岩	石塔基礎	150	106
4057	石造物	粗粒安山岩	石塔基礎	150	106
4071	石造物	粗粒安山岩	石塔基礎	58	46
4074	石造物	粗粒安山岩	石塔基礎	181	66
4087	石造物	粗粒安山岩	石塔基礎	150	106
4117	石造物	粗粒安山岩	石塔基礎	46	36
4129	石造物	粗粒安山岩	石塔基礎	42	32
4131	石造物	粗粒安山岩	石塔基礎	42	32
4133	石造物	粗粒安山岩	石塔基礎	42	32
4151	石造物	粗粒安山岩	石塔基礎	81	61
4161	石造物	粗粒安山岩	石塔基礎	69	52
4177	石造物	粗粒安山岩	石塔基礎	75	56
4001	石造物	粗粒安山岩	石塔基礎	150	106
4033	石造物	粗粒安山岩	石塔基礎	150	105
4036	石造物	粗粒安山岩	石塔基礎	150	106
4044	石造物	粗粒安山岩	石塔基礎	150	106
4134	石造物	粗粒安山岩	石塔基礎?	42	32
4023	石造物	流紋岩	石塔未製品	151	106
4029	石造物	粗粒安山岩	石塔未製品	151	106
4047	石造物	粗粒安山岩	石種?	150	106
4088	石造物	粗粒安山岩	六角塔基礎	150	106
3003	木器	スギ	杭型塔婆	131	96
3004	木器	スギ	杭型塔婆	131	96
3005	木器	スギ	杭型塔婆	131	96
3006	木器	スギ	杭型塔婆	131	96
3009	木器	スギ	杭型塔婆	131	96
3011	木器	スギ	杭型塔婆	131	96
3012	木器	スギ	杭型塔婆	131	96
3013	木器	スギ	杭型塔婆	131	96
3014	木器	スギ	杭型塔婆	131	96
3115	木器	スギ	杭型塔婆	131	96
3227	木器	スギ	杭型塔婆	131	96
3001	木器	スギ	杭型塔婆?	131	96
3007	木器	スギ	杭型塔婆?	131	96
3008	木器	スギ	杭型塔婆?	131	96
3010	木器	スギ	杭型塔婆?	131	96
3136	木器	モクレン属	杭型塔婆?	131	96
3034	木器	モミ属	板塔婆?	137	100
4347	石造物	緑色片岩	板碑	159	113
4348	石造物	緑色片岩	板碑	158	112
4349	石造物	緑色片岩	板碑	159	112
4415	石造物	緑色片岩	板碑	148	107
3055	木器	祭礼札	祭礼札	130	95
3056	木器	モミ属	祭礼札	130	95
3078	木器	スギ	祭礼札	130	95
3251	木器	トチノキ	角柱状護符	89	165
3252	木器	トチノキ	角柱状護符	89	165
3253	木器	トチノキ	角柱状護符	89	165
6009	骨	馬歯		80	16
3126	木器	ヒノキ属	象形木鼻	130	95
1893	土製品	不明	不明	25	24
1894	土製品	泥人形	狐面	142	130
1895	土製品	泥人形	大黒天	183	130
1898	土製品	泥人形	動物?	29	26
1899	土製品	泥人形	仏像?	29	26
1896	土製品	泥人形	仏像?	29	26
1155	磁器	色絵	犬人形	223	16
3127	木器	ウツギ属	漆塗り棒	135	98
2062	土器	土師器	手づくね?	97	70
2244	土製品	埴輪	円筒	192	137
2246	土製品	埴輪	円筒	65	51
2247	土製品	埴輪	円筒	191	136
2248	土製品	埴輪	円筒	163	117

番号	種類	釉/焼成/材質	器形	頁	写真
2249	土製品	埴輪	円筒	175	123
2250	土製品	埴輪	円筒	65	51
2251	土製品	埴輪	円筒	65	51
2253	土製品	埴輪	円筒	226	163
2137	土製品	埴輪	円筒?	191	136
2245	土製品	埴輪	形象?	226	163
2252	土製品	埴輪	形象?	226	163
2136	土製品	埴輪	タガ?	191	136
取水具					
1669	土器	瓦貫	水鉢?	55	45
4360	石造物	粗粒安山岩	方形石鉢	97	70
4003	石造物	粗粒安山岩	石鉢	151	107
4005	石造物	粗粒安山岩	石鉢	151	107
4037	石造物	粗粒安山岩	石鉢	149	107
4063	石造物	粗粒安山岩	石鉢	149	107
4081	石造物	粗粒安山岩	石鉢	58	46
4083	石造物	粗粒安山岩	石鉢	58	46
4126	石造物	粗粒安山岩	石鉢	46	36
4146	石造物	粗粒安山岩	石鉢	62	49
4168	石造物	粗粒安山岩	石鉢	84	64
4178	石造物	粗粒安山岩	石鉢	84	64
4183	石造物	粗粒安山岩	石鉢	84	64
4356	石造物	粗粒安山岩	石鉢?	159	112
4174	石造物	粗粒安山岩	石鉢?	75	56
4124	石造物	二ツ岳軽石	石鉢	46	36
4069	石造物	粗粒安山岩	有孔石鉢	58	46
3035	木器	アカマツ	ヒシヤク底	136	99
3040	木器	スギ	ヒシヤク底	136	99
3079	木器	モミ属	ヒシヤク底	136	99
3080	木器	スギ	ヒシヤク底	136	99
3043	木器	モミ属	ヒシヤク底	136	99
3305	木器	スギ	曲物	非掲載	非掲載
3217	木器	スギ	桶材	47	36
3041	木器	スギ	桶側	136	99
3046	木器	スギ	桶側	136	99
3214	木器	スギ	桶側	47	36
3216	木器	スギ	桶側	47	36
3218	木器	スギ	桶側	47	36
3286	木器	スギ	桶側	75	56
3287	木器	スギ	桶側	89	66
3242	木器	スギ	桶側?	139	101
3243	木器	スギ	桶側?	137	100
3244	木器	スギ	桶側?	137	100
3044	木器	スギ	桶底	136	99
3106	木器	スギ	桶底	136	99
3129	木器	スギ	桶底	136	99
3161	木器	スギ	桶底	136	99
3174	木器	スギ	桶底	136	99
3250	木器	スギ	桶底	51	43
3260	木器	スギ	桶底	136	99
3173	木器	スギ	桶底	101	74
3124	木器	スギ	桶底	136	99
3182	木器	スギ	桶底	136	99
5102	金属器	銅	栓	147	104
1661	土器	瓦貫	栓?	96	70
4203	石製品	二ツ岳軽石?	栓?	226	163
銭貨					
5001B	銅銭	有孔銭	咸平元宝	181	128
5098	銅銭	有孔銭	大聖元宝	225	162
5001A	銅銭	有孔銭	熙寧元宝	181	128
5006	銅銭	有孔銭	元豊通宝	163	117
5097B	銅銭	有孔銭	元豊通宝	225	225
5002	銅銭	有孔銭	元祐通宝	181	128
5097A	銅銭	有孔銭	元祐通宝	225	162
5003	銅銭	有孔銭	寛永通宝	163	117
5004A	銅銭	有孔銭	寛永通宝	163	117
5007A	銅銭	有孔銭	寛永通宝	163	117
5007B	銅銭	有孔銭	寛永通宝	163	117
5007C	銅銭	有孔銭	寛永通宝	163	117
5008A	銅銭	有孔銭	寛永通宝	163	117
5010A	銅銭	有孔銭	寛永通宝	163	117
5010B	銅銭	有孔銭	寛永通宝	67	52
5021	銅銭	有孔銭	寛永通宝	39	30
5024	銅銭	有孔銭	寛永通宝	94	70
5082	銅銭	有孔銭	寛永通宝	147	104
5084	銅銭	有孔銭	寛永通宝	147	104
5085	銅銭	有孔銭	寛永通宝	147	104
5086	銅銭	有孔銭	寛永通宝	147	104
5087A	銅銭	有孔銭	寛永通宝	147	104
5087B	銅銭	有孔銭	寛永通宝	147	104
5088	銅銭	有孔銭	寛永通宝	147	104
5089	銅銭	有孔銭	寛永通宝	83	64
5090	銅銭	有孔銭	寛永通宝	223	161
5091	銅銭	有孔銭	寛永通宝	223	161
5094	銅銭	有孔銭	寛永通宝	35	29
5095	銅銭	有孔銭	寛永通宝	105	76
5099	銅銭	有孔銭	寛永通宝	105	76
5100A	銅銭	有孔銭	寛永通宝	105	76
5100B	銅銭	有孔銭	寛永通宝	105	76
5100C	銅銭	有孔銭	寛永通宝	105	76
5100D	銅銭	有孔銭	寛永通宝	105	76
5100E	銅銭	有孔銭	寛永通宝	105	76
5100F	銅銭	有孔銭	寛永通宝	105	76
5101A	銅銭	有孔銭	寛永通宝	105	76
5101B	銅銭	有孔銭	寛永通宝	163	117
5010D	鉄銅銭	有孔銭	寛永通宝	163	117
5010E	鉄銅銭	有孔銭	寛永通宝	163	117
5004B	銅銭	不明	不明	163	117
5005A	銅銭	不明	不明	163	117
5008B	銅銭	不明	不明	163	117
5012	銅銭	不明	不明	163	117
5013	銅銭	不明	不明	164	117
5020A	銅銭	不明	不明	164	117
5005B	鉄銭	不明	不明	164	117
5007D	鉄銭	不明	不明	164	117
5008C	鉄銭	不明	不明	164	117

IV 資料

番号	種類	釉/焼成/材質	器形	頁	写真
5009	鉄銭	有孔銭	不明	164	117
5010C	鉄銭	有孔銭	不明	164	117
5011	鉄銭	有孔銭	不明	164	117
5020B	鉄銭	有孔銭	不明	67	52
5062B	鉄銭	有孔銭	不明	215	156
5019	アルミ銭	無孔銭	一銭	174	120
農工具・武器					
5032	金属器	鉄	鍬	223	162
3085	木器	コナラ節	鍬	136	99
3178	木器	コナラ節	鍬	136	99
3236	木器	コナラ節	鍬	136	99
5061	金属器	鉄	鍬	84	64
5070	金属器	鉄	鍬	105	75
5030D	金属器	鉄	小鎌	80	61
5068	金属器	鉄	小鎌	103	74
5033A	金属器	鉄	鋤頭	181	128
5053	金属器	鉄	鋤頭?	42	32
5031A	金属器	鉄	農具	223	162
5051A	金属器	鉄	農具	176	124
5067	金属器	鉄	農具	223	161
5038	金属器	鉄	農具?	77	57
5058	金属器	鉄	農具?	46	36
5077	金属器	鉄	農具?	221	161
5049	金属器	鉄	馬蹄	172	121
5043	金属器	鉄	馬蹄	109	79
3162	木器	サビカ	クサビ	136	99
5069	金属器	鉄	クサビ	225	162
5041B	金属器	鉄	吊り具?	25	24
5109A	金属器	鉄	吊り具	49	38
5109B	金属器	鉄	吊り具	49	38
5109C	金属器	鉄	吊り具	49	38
2018	土製品	土師質	フイゴ羽口	51	43
2044	土製品	土師質	フイゴ羽口	109	79
2045	土製品	土師質	フイゴ羽口	109	79
2046	土製品	土師質	フイゴ羽口	109	79
2047	土製品	土師質	フイゴ羽口	109	79
2048	土製品	土師質	フイゴ羽口	109	79
2069	土製品	土師質	フイゴ羽口	24	24
2159	土製品	土師質	フイゴ羽口	187	133
2029	土製品	瓦質	フイゴ羽口	221	161
4366	石製品	流紋岩	鑄型?	159	112
4362	石製品	角閃石安山岩	甕石	109	79
4363	石製品	角閃石安山岩	甕石	109	79
4364	石製品	角閃石安山岩	甕石	109	79
4367	石製品	未固結凝灰岩	甕石	205	147
5111	金属	鉄	鉄洋車	170	121
1897	土製品	土師質	粉砕車	23	23
1892	土製品	土師質	土鏝	226	163
1930	土製品	土師質	土鏝	226	163
5110	金属器	鉄	鉄地玉	147	104
5034	金属器	鉄	鍬	187	133
5045	金属器	鉄	鍬	200	142
5017B	金属器	鉄	鍬	64	50
5079	金属器	鉄	鍬	203	145
5052A	金属器	鉄	刀子	42	32
5054	金属器	鉄	刀子	44	35
5056	金属器	鉄	刀子	64	46
5057A	金属器	鉄	刀子	59	46
5017A	金属器	鉄	刀子	64	50
5039	金属器	鉄	刀子	25	24
5046	金属器	鉄	刀子	35	29
5051B	金属器	鉄	刀子	176	124
5036	金属器	鉄	包丁	29	26
5037	金属器	鉄	刃物	29	26
5062C	金属器	鉄	刃物	215	156
5074A	金属器	鉄	刃物	90	66
4206	石製品	砥沢石	砥石	42	32
4207	石製品	砥沢石	砥石	24	24
4208	石製品	砥沢石	砥石	35	29
4209	石製品	砥沢石	砥石	42	32
4210	石製品	砥沢石	砥石	51	43
4211	石製品	砥沢石	砥石	29	26
4212	石製品	砥沢石	砥石	22	23
4213	石製品	砥沢石	砥石	42	32
4215	石製品	砥沢石	砥石	35	29
4216	石製品	砥沢石	砥石	29	26
4217	石製品	砥沢石	砥石	35	29
4218	石製品	砥沢石	砥石	22	23
4219	石製品	砥沢石	砥石	51	43
4220	石製品	砥沢石	砥石	44	35
4221	石製品	砥沢石	砥石	42	32
4224	石製品	砥沢石	砥石	51	43
4227	石製品	砥沢石	砥石	42	32
4229	石製品	砥沢石	砥石	24	24
4230	石製品	砥沢石	砥石	27	26
4231	石製品	砥沢石	砥石	35	29
4232	石製品	砥沢石	砥石	35	29
4233	石製品	砥沢石	砥石	221	161
4235	石製品	砥沢石	砥石	22	23
4237	石製品	砥沢石	砥石	97	70
4238	石製品	砥沢石	砥石	97	70
4239	石製品	砥沢石	砥石	223	161
4240	石製品	砥沢石	砥石	59	47
4241	石製品	砥沢石	砥石	59	47
4243	石製品	砥沢石	砥石	90	66
4244	石製品	砥沢石	砥石	90	66
4245	石製品	砥沢石	砥石	97	70
4246	石製品	砥沢石	砥石	59	47
4247	石製品	砥沢石	砥石	90	66
4248	石製品	砥沢石	砥石	90	66
4249	石製品	砥沢石	砥石	90	66
4250	石製品	砥沢石	砥石	59	47
4251	石製品	砥沢石	砥石	161	117
4252	石製品	砥沢石	砥石	223	161
4253	石製品	砥沢石	砥石	97	70
4254	石製品	砥沢石	砥石	59	47
4255	石製品	砥沢石	砥石	223	161

番号	種類	釉/焼成/材質	器形	頁	写真
4256	石製品	砥沢石	砥石	37	29
4257	石製品	砥沢石	砥石	97	70
4258	石製品	砥沢石	砥石	59	47
4259	石製品	砥沢石	砥石	223	161
4260	石製品	砥沢石	砥石	97	70
4261	石製品	砥沢石	砥石	81	61
4262	石製品	砥沢石	砥石	59	46
4263	石製品	砥沢石	砥石	223	161
4264	石製品	砥沢石	砥石	67	52
4265	石製品	砥沢石	砥石	97	70
4266	石製品	砥沢石	砥石	223	161
4267	石製品	砥沢石	砥石	90	66
4269	石製品	砥沢石	砥石	90	66
4270	石製品	砥沢石	砥石	221	161
4271	石製品	砥沢石	砥石	59	47
4275	石製品	砥沢石	砥石	223	161
4276	石製品	砥沢石	砥石	223	161
4277	石製品	砥沢石	砥石	24	24
4278	石製品	砥沢石	砥石	81	61
4279	石製品	砥沢石	砥石	90	66
4280	石製品	砥沢石	砥石	223	161
4282	石製品	砥沢石	砥石	59	47
4283	石製品	砥沢石	砥石	37	29
4288	石製品	砥沢石	砥石	223	161
4289	石製品	砥沢石	砥石	97	70
4290	石製品	砥沢石	砥石	97	70
4291	石製品	砥沢石	砥石	67	52
4292	石製品	砥沢石	砥石	77	57
4293	石製品	砥沢石	砥石	103	74
4294	石製品	砥沢石	砥石	90	66
4295	石製品	砥沢石	砥石	223	161
4297	石製品	砥沢石	砥石	23	23
4300	石製品	砥沢石	砥石	90	66
4301	石製品	砥沢石	砥石	59	47
4302	石製品	砥沢石	砥石	97	70
4304	石製品	砥沢石	砥石	59	46
4305	石製品	砥沢石	砥石	67	52
4306	石製品	砥沢石	砥石	84	64
4307	石製品	砥沢石	砥石	59	46
4309	石製品	砥沢石	砥石	223	161
4310	石製品	砥沢石	砥石	37	29
4313	石製品	砥沢石	砥石	118	84
4314	石製品	砥沢石	砥石	23	23
4315	石製品	砥沢石	砥石	106	76
4316	石製品	砥沢石	砥石	103	74
4318	石製品	砥沢石	砥石	123	87
4319	石製品	砥沢石	砥石	164	117
4323	石製品	砥沢石	砥石	151	107
4325	石製品	砥沢石	砥石	155	108
4326	石製品	砥沢石	砥石	151	107
4327	石製品	砥沢石	砥石	151	107
4329	石製品	砥沢石	砥石	151	107
4330	石製品	砥沢石	砥石	151	107
4331	石製品	砥沢石	砥石	158	112
4332	石製品	砥沢石	砥石	151	107
4334	石製品	砥沢石	砥石	151	107
4336	石製品	砥沢石	砥石	151	107
4337	石製品	砥沢石	砥石	151	107
4338	石製品	砥沢石	砥石	151	107
4339	石製品	砥沢石	砥石	151	107
4340	石製品	砥沢石	砥石	151	107
4341	石製品	砥沢石	砥石	128	87
4342	石製品	砥沢石	砥石	155	108
4343	石製品	砥沢石	砥石	151	107
4368	石製品	砥沢石	砥石	59	47
4369	石製品	砥沢石	砥石	97	70
4370	石製品	砥沢石	砥石	23	23
4371	石製品	砥沢石	砥石	67	52
4372	石製品	砥沢石	砥石	90	66
4374	石製品	砥沢石	砥石	31	26
4375	石製品	砥沢石	砥石	24	24
4157	石製品	砂岩	砥石	223	161
4214	石製品	砂岩	砥石	51	43
4223	石製品	砂岩	砥石	24	24
4234	石製品	砂岩	砥石	27	26
4274	石製品	砂岩	砥石	59	47
4281	石製品	砂岩	砥石	223	161
4285	石製品	砂岩	砥石	59	47
4317	石製品	砂岩	砥石	103	74
4222	石製品	流紋岩	砥石	46	36
4226	石製品	流紋岩	砥石	221	161
4228	石製品	流紋岩	砥石	27	26
4272	石製品	流紋岩	砥石	90	66
4273	石製品	流紋岩	砥石	69	52
4298	石製品	流紋岩	砥石	84	64
4299	石製品	流紋岩	砥石	59	47
4303	石製品	流紋岩	砥石	223	161
4308	石製品	流紋岩	砥石	70	53
4311	石製品	流紋岩	砥石	84	64
4312	石製品	流紋岩	砥石	77	57
4320	石製品	流紋岩	砥石	164	117
4322	石製品	流紋岩	砥石	151	107
4328	石製品	流紋岩	砥石	151	107
4335	石製品	流紋岩	砥石	151	107
4346	石製品	流紋岩	砥石	170	121
4373	石製品	流紋岩	砥石	223	161
4376	石製品	流紋岩	砥石	80	61
4192	石製品	頁岩	砥石	42	32
4345	石製品	頁岩	砥石	170	121
4344	石製品	頁岩	砥石?	151	107
4201	石製品	粗粒安山岩	砥石	163	117
4284	石製品	粗粒安山岩	砥石	223	161
4286	石製品	粗粒安山岩	砥石	90	66
4287	石製品	粗粒安山岩	砥石	90	66
4321	石製品	粗粒安山岩	砥石	163	117
4302	石製品	粗粒安山岩	砥石?	90	66
4324	石製品	変質安山岩	砥石	151	107
4333	石製品	変質安山岩	砥石	151	107

番号	種類	釉/焼成/材質	器形	頁	写真
4242	石製品	ホルンフェルス	砥石	83	64
4268	石製品	変質アサイト	砥石	80	61
4236	石製品	二ッ岳軽石	砥石?	225	162
4296	石製品	軽石	砥石?	83	64
4413	石製品	砥沢石	有孔分銅状	223	161
建具材					
2254	土製品	瓦	丸瓦	159	113
2255	土製品	瓦	丸瓦	159	113
2256	土製品	瓦	丸瓦	159	113
2257	土製品	瓦	丸瓦	159	113
2258	土製品	瓦	丸瓦	159	113
2260	土製品	瓦	丸瓦	146	104
2261	土製品	瓦	丸瓦	146	103
2264	土製品	瓦	丸瓦	158	111
2267	土製品	瓦	丸瓦	146	104
2270	土製品	瓦	丸瓦	75	56
2274	土製品	瓦	丸瓦	187	133
2275	土製品	瓦	丸瓦	164	117
2262	土製品	瓦	軒丸瓦	146	104
2268	土製品	瓦	軒丸瓦	146	103
2259	土製品	瓦	平瓦	146	103
2263	土製品	瓦	平瓦	146	104
2271	土製品	瓦	平瓦	146	104
2273	土製品	瓦	平瓦	163	117
2266	土製品	瓦	棧瓦	146	104
2265	土製品	瓦	棧軒瓦	146	103
2272	土製品	瓦	棧軒瓦	67	52
2269	土製品	瓦	棧棟瓦	146	104
3113	木製品	ススキギ	建具材	138	101
3219	木製品	ススキギ	建具材	138	101
3220	木製品	ススキギ	建具材	138	101
3221	木製品	ススキギ	建具材	138	101
3245	木製品	ススキギ	建具材	138	101
3291	木製品	ススキギ	建具材	138	101
3209	木製品	ススキギ	建具材	58	46
3258	木製品	ススキギ	建具材	138	101
3263	木製品	ススキギ	建具材	138	101
3270	木製品	ススキギ	建具材	101	74
3274	木製品	ススキギ	建具材	75	56
3275	木製品	ススキギ	建具材	75	56
3213	木製品	ススキギ	建具材	47	36
5026	金属器	鉛鉄	唐草形飾り具	44	35
5050	金属器	鉄	飾り具?	27	26
5055	金属器	鉄	飾り具?	49	38
5029	金属器	鉄	飾り板	147	104
5052B	金属器	鉄	引手	42	32
3171	木製品	ヒノキ属	角材	137	100
3172	木製品	ヒノキ属	角材	139	101
3173	木製品	ヒノキ属	角材	138	101
3259	木製品	ススキギ	角材	138	101
3269	木製品	ススキギ	角材	101	74
3280	木製品	ススキギ	角材	75	56
3266	木製品	ススキギ	角材	138	101
5040	金属器	鉄	角釘	69	52
4042	金属器	鉄	角釘	198	140
5060	金属器	鉄	角釘	70	53
5065	金属器	鉄	角釘	147	104
5072	金属器	鉄	角釘	119	84
5109E	金属器	鉄	角釘	49	38
1831	土器	瓦	煉瓦?	181	128
造園部材					
3152	木製品	アカガシ亜属	杭	134	96
3190	木製品	アカガシ亜属	杭	134	97
3036	木製品	アカマツ	杭	134	97
3050	木製品	アカマツ	杭	134	97
3051	木製品	アカマツ	杭	134	97
3058	木製品	アカマツ	杭	135	98
3059	木製品	アカマツ	杭	135	98
3060	木製品	アカマツ	杭	134	97
3063	木製品	アカマツ	杭	135	98
3062	木製品	アカマツ	杭	135	98
3064	木製品	アカマツ	杭	135	98
6066	木製品	アカマツ	杭	134	97
6071	木製品	アカマツ	杭	135	98
3109	木製品	アカマツ	杭	135	98
3132	木製品	アカマツ	杭	133	97
3133	木製品	アカマツ	杭	133	97
3187	木製品	アカマツ	杭	133	97
3201	木製品	アカマツ	杭	58	46
3206	木製品	アカマツ	杭	58	46
3254	木製品	アカマツ	杭	134	96
3267	木製品	アカマツ	杭	135	98
3107	木製品	イシシヤ節	杭	135	98
3147	木製品	カバノキ属	杭	133	97
3057	木製品	クスノキ科	杭	135	98
3061	木製品	クスノキ科	杭	135	98
3141	木製品	クリ	杭	133	97
3143	木製品	クリ	杭	133	97
3144	木製品	クリ	杭	134	97
3146	木製品	クリ	杭	134	96
3148	木製品	クリ	杭	134	96
3150	木製品	クリ	杭	134	97
3155	木製品	クリ	杭	134	97
3156	木製品	クリ	杭	134	96
3157	木製品	クリ	杭	134	97
3198	木製品	クリ	杭	58	46
3207	木製品	クリ	杭	58	46
3278	木製品	クリ	杭?	75	56
3065	木製品	コナラ節	杭	134	97
3068	木製品	コナラ節	杭	135	98
3139	木製品	コナラ節	杭	133	97
3142	木製品	コナラ節	杭	133	97
3183	木製品	コナラ節	杭	133	97
3191	木製品	コナラ節	杭	133	97
3193	木製品	コナラ節	杭	133	97
3194	木製品	コナラ節	杭	133	97

番号	種類	釉/焼成/材質	器形	頁	写真
3153	木製品	コナラ節	杭	133	97
3265	木製品	コナラ節	杭	135	98
3203	木製品	コナラ節	杭	58	46
3067	木製品	サワフタギ	杭	134	97
3184	木製品	ササクワタギ	杭	133	97
3137	木製品	ササクワタギ属	杭	133	97
3185	木製品	ササクワタギ属	杭	133	97
3186	木製品	ササクワタギ属	杭	133	97
3197	木製品	ササクワタギ属	杭	58	46
3199	木製品	ササクワタギ属	杭	58	46
3200	木製品	ササクワタギ属	杭	58	46
3210	木製品	ササクワタギ属	杭	58	46
3002	木製品	ススキ	杭	134	97
3032	木製品	ススキ	杭	134	97
3073	木製品	ススキ	杭	134	96
3074	木製品	ススキ	杭	134	96
3075	木製品	ススキ	杭	134	96
3076	木製品	ススキ	杭	134	96
3077	木製品	ススキ	杭	135	98
3110	木製品	ススキ	杭	135	98
3135	木製品	ススキ	杭	134	97
3138	木製品	ススキ	杭	134	97
3140	木製品	ススキ	杭	133	97
3145	木製品	ススキ	杭	133	97
3149	木製品	ススキ	杭	133	97
3154	木製品	ススキ	杭	133	97
3188	木製品	ススキ	杭	133	97
3189	木製品	ススキ	杭	133	97
3195	木製品	ススキ	杭	133	97
3196	木製品	ススキ	杭	133	97
3202	木製品	ススキ	杭	58	46
3256	木製品	ススキ	杭	135	98
3257	木製品	ススキ	杭	135	98
3264	木製品	ススキ	杭	133	97
3205	木製品	ススキ	杭	58	46
3069	木製品	ススキ	杭	135	98
3072	木製品	ススキ	杭	134	96
3134	木製品	ススキ	杭	133	97
3208	木製品	ススキ	杭	58	46
3070	木製品	ススキ	杭	134	96
3151	木製品	ススキ	杭	134	96
3167	木製品	ススキ	杭	137	100
縄文遺物					
2276	土器	縄文	土器	232	164
2277	土器	縄文	土器	232	164
2278	土器	縄文	土器	232	164
2279	土器	縄文	土器	232	164
2280	土器	縄文	土器	232	164
2281	土器	縄文	土器	232	164
2283	土器	縄文	土器	232	164
2284	土器	縄文	土器	232	164
2285	土器	縄文	土器	232	164
2286	土器	縄文	土器	232	164
2287	土器	縄文	土器	232	164
2288	土器	縄文	土器	232	164
2289	土器	縄文	土器	232	164
2290	土器	縄文	土器	232	164
2291	土器	縄文	土器	232	164
2293	土器	縄文	土器	232	164
2294	土器	縄文	土器	232	164
2295	土器	縄文	土器	232	164
4298	石器	黒曜石	スクレイパー	229	163
4399	石器	黒曜石	スクレイパー	229	163
4400	石器	黒曜石	スクレイパー	229	163
4401	石器	黒曜石	スクレイパー	229	163
4402	石器	黒曜石	スクレイパー	229	163
4404	石器	黒曜石	スクレイパー	229	163
4397	石器	黒曜石	スクレイパー	229	163
4403	石器	黒曜石	三角鏢型	231	164
4405	石器	黒曜石	石核	229	163
4406	石器	黒曜石	石核	229	164
4382	石器	黒曜石	石鏢	228	163
4383	石器	黒曜石	石鏢	228	163
4384	石器	黒曜石	石鏢	228	163
4385	石器	黒曜石	石鏢	228	163
4386	石器	黒曜石	石鏢	228	163
4387	石器	黒曜石	石鏢	228	163
4390	石器	黒曜石	石鏢	228	163
4378	石器	黒曜石	剥片	231	164
4379	石器	黒曜石	剥片	231	164
4380	石器	黒曜石	剥片	231	164
4381	石器	黒曜石	剥片	231	164
4407	石器	黒曜石	磨石	231	164
4408	石器	黒曜石	磨石	231	164
4409	石器	黒曜石	磨石	231	164
4410	石器	黒曜石	磨石	231	164
4411	石器	黒曜石	磨石	231	164
4132	石器	粗粒安山岩	多孔石?	42	32
4388	石器	粗粒安山岩	打製石斧	228	163
4389	石器	粗粒安山岩	打製石斧	228	163
4391	石器	粗粒安山岩	打製石斧	228	163
4392	石器	粗粒安山岩	打製石斧	228	163
4393	石器	粗粒安山岩	打製石斧	228	163
4394	石器	粗粒安山岩	打製石斧	228	163
4395	石器	粗粒安山岩	打製石斧	228	163
4396	石器	粗粒安山岩	打製石斧	228	163
不明					
1830	土器	瓦質	円盤状	180	128
1828	土器	土師質	円筒状	180	128
1855	土器	土師質	円筒状	225	162
5057C	金属器	鉄	円形板	59	46
5066	金属器	鉄?	円筒状	147	104
5047B	金属器	鉄	円筒付板	170	121
5057B	金属器	鉄	三角形板	59	46
5064	金属器	鉄	環状	147	104
5074B	金属器	鉄	環状	90	66

IV 資料

番号	種類	軸/焼成/材質	器形	頁	写真
5052C	金属器	鉄	環状細管	42	32
5030B	金属器	鉄	環状板	80	61
5030C	金属器	鉄	環状板	80	61
3271	木器	モモ	細棒	81	61
3279	木器	ヤブツバキ	細棒	75	56
3042	木器	スギ	棒材	136	99
3111	木器	スギ	棒材	136	99
3159	木器	モクレン属	棒材	136	99
5044	金属器	鉄	棒状	109	79
5076	金属器	鉄	細棒状	64	51
5033B	金属器	鉄	廻手角棒	181	128
5109D	金属器	鉄	U字状細棒	49	38
5041C	金属器	鉄	角短棒	25	24
5063A	金属器	鉄	容器?	147	104
5041A	金属器	鉄	容器底	25	24
5104	金属器	銅	小容器?	223	161
1239	陶器	胎	脚部	37	6
1526	土器	瓦質	脚部	221	16
4142	石製品	粗粒安山岩	くぼみ石	58	46
4143	石製品	粗粒安山岩	くぼみ石	58	46
4365	石製品	粗粒安山岩	くぼみ石	59	72
4053	石製品	粗粒安山岩	磨石	151	107
5106	金属器	銅	二連管	225	162
5022	金属器	鋼	短管	27	26
5080	金属器	鉄	短管状	203	145
5059	金属器	鉄	長方形板	47	36
4105	石造物	流紋岩	直方体	150	107
4106	石造物	流紋岩	直方体	150	107
4152	石造物	流紋岩	直方体笠状	81	61
4365	石造物	流紋岩	直方体	159	112
4021	石造物	流紋岩	直方体	150	106
4097	石造物	流紋岩	有孔直方体	150	107
4412	石製品	安山岩	半円形板状	170	121
2966	土製品	土師質	半球状	25	24
3053	木製品	タケ重科	半盤	67	52
1701	土器	瓦質	有孔円盤	69	52
5016	金属製品	銅	圓状	24	24
5035	金属製品	鉄	小環状	77	57
3019	木製品	ヒノキ属	大形板材	197	140
3160	木製品	アカマツ	板材	137	100
3230	木製品	アカマツ	板材	136	99
3222	木製品	アカマツ	板材	139	101
3226	木製品	アカマツ	板材	139	101
3232	木製品	アカマツ	板材	137	100
3233	木製品	アカマツ	板材	137	100
3290	木製品	イボタノキ属	板材	137	100
3231	木製品	カエデ属	板材	47	36
3298	木製品	カバノキ属	板材	137	100
3283	木製品	クリ	板材	非掲載	非掲載
3054	木製品	クリ	板材小片	75	56
3261	木製品	サクラ属	板材	137	100
3016	木製品	スギ	板材	139	101
3017	木製品	スギ	板材	137	100
3018	木製品	スギ	板材	197	140
3020	木製品	スギ	板材	197	140
3021	木製品	スギ	板材	197	140
3022	木製品	スギ	板材	197	140
3023	木製品	スギ	板材	197	140
3024	木製品	スギ	板材	197	140
3025	木製品	スギ	板材	197	140
3026	木製品	スギ	板材	197	140
3027	木製品	スギ	板材	197	140
3028	木製品	スギ	板材	197	140
3029	木製品	スギ	板材	197	140
3030	木製品	スギ	板材	197	140
3031	木製品	スギ	板材	170	121
3033	木製品	スギ	板材	137	100
3037	木製品	スギ	板材	137	100
3112	木製品	スギ	板材	139	101
3114	木製品	スギ	板材	139	101
3128	木製品	スギ	板材	139	101
3131	木製品	スギ	板材	139	101
3166	木製品	スギ	板材	137	100
3168	木製品	スギ	板材	139	101
3175	木製品	スギ	板材	139	101
3176	木製品	スギ	板材	139	101
3177	木製品	スギ	板材	139	101
3179	木製品	スギ	板材	139	101
3181	木製品	スギ	板材	139	101
3211	木製品	スギ	板材	47	36
3223	木製品	スギ	板材	139	101
3224	木製品	スギ	板材	137	100
3229	木製品	スギ	板材	137	100
3237	木製品	スギ	板材	137	100
3238	木製品	スギ	板材	137	100
3262	木製品	スギ	板材	139	101
3277	木製品	スギ	板材	75	56
3281	木製品	スギ	板材	75	56
3292	木製品	スギ	板材	89	66
3307	木製品	トウヒ属	板材	非掲載	非掲載
3240	木製品	ヒノキ属	板材	137	100
3246	木製品	ヒノキ属	板材	137	100
3081	木製品	ヒノキ属	板材	137	100
3108	木製品	ヒノキ属	板材	137	100
3163	木製品	ヒノキ属	板材	137	100
3293	木製品	ヒノキ属	板材	89	66
3248	木製品	マツ属	板材	137	100
3204	木製品	マツ属	板材	47	36
3215	木製品	マツ属	板材	47	36
3228	木製品	マツ属	板材	137	100
3239	木製品	マツ属	板材	137	100
3282	木製品	モミ属	板材	75	56
3045	木製品	モミ属	板材	137	100
3170	木製品	モミ属	板材	139	101
3225	木製品	モミ属	板材	137	100
3303	木製品	不明	板材	非掲載	非掲載
3047	木製品	スギ	方形板	137	100
3049	木製品	スギ	方形板	137	100

番号	種類	軸/焼成/材質	器形	頁	写真
3165	木製品	スギ	方形板	137	100
3212	木製品	スギ	方形板	58	46
3234	木製品	スギ	方形板	137	100
3158	木製品	スギ	方形板	137	100
3164	木製品	スギ	方形板	137	100
3125	木製品	スギ	木札	136	99
3247	木製品	スギ	木籾	139	101
3039	木製品	アカマツ	木籾	137	100
3268	木製品	アカマツ	木籾	101	74
3249	木製品	スギ	木籾	137	100
3255	木製品	スギ	木籾	51	43
3272	木製品	スギ	木籾	101	74
3284	木製品	スギ	木籾	75	56
3169	木製品	スギ	木籾	136	99
3241	木製品	スギ	木籾	137	100
3048	木製品	スギ	木籾	136	99
1856	陶器	上絵	木籾	225	16
1632	土器	瓦質	不明	164	117
1775	土器	瓦質	不明	144	102
1913	土器	須恵質	不明	77	77
3038	土製品	タケ重科	不明	136	99
3302	木製品	スギ	不明	非掲載	非掲載
3304	木製品	不明	不明	非掲載	非掲載
5075	金属製品	鉄	小片	63	49
5112	金属製品	鉄	不明	24	24
3306	木製品	ケンボナシ属	雑木	非掲載	非掲載
3299	木製品	トナノキ	雑木?	非掲載	非掲載
4205	木石	珪質単片岩	自然石	非掲載	非掲載

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発掘調査報告書第164集

二之宮宮東遺跡

〈本文編〉

一般国道17号(上武道路)改築工事に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成6年3月25日 印刷

平成6年3月28日 発行

編集・発行／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2

電話 (0279) 52-2511(代表)

印刷／株式会社 前橋印刷所